

令和6（2024）年度

栃木県政世論調査

調査報告書

令和6（2024）年11月

栃木県

目 次

I	調査の概要	1
II	サンプル・デザイン	3
III	調査回答者のプロフィール	7
IV	調査結果の詳細	11
1	暮らしの変化について	
(1)	暮らしの変化	11
(2)	暮らしが悪くなった理由	14
(3)	暮らしの満足度	19
(4)	今後の暮らしの状況	23
(5)	今後の暮らしで力を入れる点	26
2	県政への要望について	
(1)	県政への要望	33
3	日常生活について	
(1)	文化・芸術活動について	42
(2)	スポーツ活動について	48
(3)	住んでいる地域について	52
(4)	社会貢献活動について	55
4	地域のつながりについて	
(1)	ご近所との関係	61
(2)	家族・親族以外で相談できるところ	66
5	防災対策について	
(1)	避難情報（5段階の警戒レベル）の認知度	73
(2)	災害に対する備え	76
6	栃木県への愛着と誇りについて	
(1)	栃木県に対する愛着	83
(2)	栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの	86
7	男女平等意識について	
(1)	社会全体の中での男女の地位の平等感	94
(2)	固定的な性別役割分担意識	98
(3)	働く場での男女の地位の平等感	101

目次

8 生涯学習について	
(1) 最近1年間に行った生涯学習の種類	104
(2) 生涯学習を行った理由	112
9 消費生活に関する意識について	
(1) 消費行動を行う際に配慮していること	119
(2) 高齢者の悪質商法被害への有効な対策	124
10 県民の人権意識について	
(1) 基本的な人権の尊重	130
(2) 関心のある人権課題	134
11 ケアラーについて	
(1) ケアラーという言葉の認知度	141
(2) ケアラー当事者になる可能性	145
12 食に関する意識と実践について	
(1) 産地や生産者を意識して食品等を選ぶか	148
(2) 農業体験をした経験	151
13 食の安全・安心について	
(1) 食品の安全性に対する不安	154
(2) 食品の安全性について不安に思うもの	157
14 食品ロスの削減について	
(1) 食品ロスの認知度	163
(2) 取り組んでいる食品ロスを発生させない取組	166
15 公共交通について	
(1) 公共交通の利用状況	173
(2) 公共交通に関する満足度	178
(3) 公共交通に不満を感じる事	181
16 とちぎの元気な森づくり県民税について	
(1) 重要だと思ふ森林の持つ働き	188
(2) 県民税事業の取組の重要性	194
17 犯罪と治安対策について	
(1) 県内の治安状況の変化	200
(2) 不安を感じる犯罪	203
(3) 交通事故抑止対策	211

目 次

V 調査票 220

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

2 調査項目

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| (1) 暮らしの変化について* | (8) 生涯学習について |
| (2) 県政への要望について* | (9) 消費生活に関する意識について |
| (3) 日常生活について* | (10) 県民の人権意識について |
| ア 文化・芸術活動について | (11) ケアラーについて |
| イ スポーツ活動について | (12) 食に関する意識と実践について |
| ウ 住んでいる地域について | (13) 食の安全・安心について |
| エ 社会貢献活動について | (14) 食品ロスの削減について |
| (4) 地域のつながりについて | (15) 公共交通について※ |
| (5) 防災対策について | (16) とちぎの元気な森づくり県民税について |
| (6) 栃木県への愛着と誇りにについて | (17) 犯罪と治安対策について |
| (7) 男女平等意識について | (※印は時系列調査、※印は新規調査) |

3 調査設計

- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 調査地域 | 栃木県全域 |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 2,000 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収又はインターネット回収の選択式） |
| (6) 調査時期 | 令和6（2024）年6月19日～7月16日 |

4 調査機関

株式会社東京商工リサーチ 宇都宮支店

5 回収結果

回収数 1,271件 (うち郵送回収数848件、インターネット回収数423件)

回収率 63.6% (うち郵送回収率42.4%、インターネット回収率21.2%)

6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100.0%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100.0%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。特に、男性18～19歳の回答者は6人、女性18～19歳の回答者は7人と少ないため、グラフの見かけ上、他の性/年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、グラフの説明においては一律にふれていない。また、性別を「回答しない」の回答者が25人と少ないため、図表化していない。
- (7) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2\sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \left(\begin{array}{l} b = \text{標本誤差} \quad N = \text{母集団数} \\ P = \text{回答比率} \quad n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \end{array} \right)$$

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

基数 (n) \ 回答比率 (P)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,271 人	±2.38%	±3.17%	±3.64%	±3.89%	±3.97%
1,000	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
700	±3.21%	±4.28%	±4.90%	±5.24%	±5.35%
400	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
200	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

<注/この表の見方>

例えば、「ある設問の回答者数が1,271人あり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.89%以内(56.11%～63.89%)である」とみることができる。

Ⅱ サンプル・デザイン

II サンプル・デザイン

母集団：栃木県内の市町に居住する満18歳以上の男女

標本数：2,000

地点数：市部 118地点

町部 17地点

計 135地点

抽出法：層化二段無作為抽出法

[層化]

1. 県内を市町単位に、次の3地域に分類した。

地域名	該当市町名
県北地域	那須 {大田原市、那須塩原市、那須町} 日光 {日光市} 塩谷 {矢板市、さくら市、塩谷町、高根沢町} 南那須 {那須烏山市、那珂川町}
県央地域	宇都宮 {宇都宮市、上三川町、壬生町} 鹿沼 {鹿沼市} 芳賀 {真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町}
県南地域	小山 {小山市、下野市、野木町} 栃木 {栃木市} 両毛 {足利市、佐野市}

2. 各地域内においては、さらに市町規模によって「宇都宮市」「宇都宮市以外の市」「町」に分類し、層化した。

(注) ここでいう市とは、令和6(2024)年4月1日現在市制施行の地域である。

[標本数の配分]

各地域・市町規模の層における18歳以上の人口数(令和5(2023)年10月1日現在)により、2,000の標本数を比例配分した。

[抽出]

1. 平成27（2015）年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査地点として使用した。
2. 調査地点の抽出数については、1調査地点あたりの標本数が14から16になるように、各層に割り当てられた標本数により算出し、調査地点数を決定した。
3. 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$
を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
4. 抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、令和6（2024）年4月1日現在における「市区町村コード一覧」に従った。
5. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地・字等を指定）の住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
6. 以上の結果、各地域・市町別（層別）の標本数・調査地点数は次のとおりである。

市町 地域	宇都宮市	宇都宮市以外の市	町	計
県北		303,562	66,194	369,756
		379	88	467
		(25)	(6)	(31)
県央	421,982	143,305	107,683	672,970
	527	178	133	838
	(36)	(12)	(9)	(57)
県南		534,633	21,066	555,699
		667	28	695
		(45)	(2)	(47)
計	421,982	981,500	194,943	1,598,425
	527	1,224	249	2,000
	(36)	(82)	(17)	(135)

(注) 上段：令和5（2023）年10月1日現在の母集団数

中段：対象数

下段：（ ）内は地点数

調査地点一覧

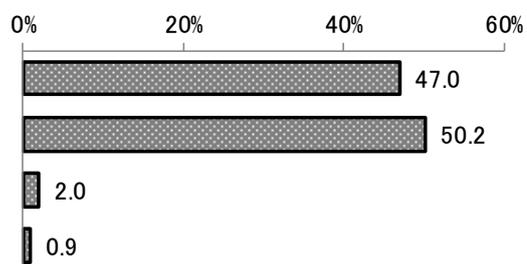
地域	対象地点名	標本数(人)	地域	対象地点名	標本数(人)	地域	対象地点名	標本数(人)
県北 (那須)	大田原市元町1丁目	15	県央 (宇都宮)	宇都宮市日の出2丁目	15	県南 (小山)	小山市城山町2丁目	15
	大田原市紫塚1丁目	15		宇都宮市平松町	15		小山市駅東通り3丁目	15
	大田原市中田原	15		宇都宮市西川田本町4丁目	15		小山市大字神鳥谷	15
	大田原市薄葉	15		宇都宮市雀宮町	15		小山市三峯2丁目	15
	大田原市寒井	15		宇都宮市宮原3丁目	15		小山市城東2丁目	15
	那須塩原市弥生町	15		宇都宮市御幸本町	15		小山市大字犬塚	15
	那須塩原市東栄2丁目	15		宇都宮市駒生町	15		小山市大字雨ヶ谷新田	15
	那須塩原市埼玉	15		宇都宮市陽南3丁目	15		小山市大字間々田	15
	那須塩原市西朝日町	15		宇都宮市宝木町2丁目	15		小山市大字網戸	15
	那須塩原市下永田7丁目	15		宇都宮市南町	15		小山市大字喜沢	15
	那須塩原市二区町	15		宇都宮市宮本町	15		小山市東城南2丁目	15
	那須塩原市西三島7丁目	15		宇都宮市上籠谷町	15		小山市美しが丘3丁目	15
	那須郡那須町寺子乙	14		宇都宮市竹下町	15		下野市祇園1丁目	15
	那須郡那須町富岡	14		宇都宮市台新田1丁目	15		下野市緑3丁目	15
県北 (日光)	日光市久次良町	16	宇都宮市若松原1丁目	15	下野市石橋	15		
	日光市鬼怒川温泉大原	16	宇都宮市岩皆町	15	下野市小金井	15		
	日光市今市	16	宇都宮市陽東2丁目	15	下都賀郡野木町大字南赤塚	14		
	日光市土沢	16	宇都宮市豊郷台3丁目	15	下都賀郡野木町大字丸林	14		
	日光市木和田島	16	宇都宮市下小倉町	15	県南 (栃木)	栃木市日ノ出町	15	
県北 (塩谷)	矢板市扇町2丁目	16	宇都宮市下岡本町	15		栃木市沼和田町	15	
	矢板市乙畑	16	宇都宮市下田原町	15		栃木市片柳町4丁目	15	
	さくら市氏家	15	宇都宮市ゆいの杜3丁目	15		栃木市菌部町2丁目	15	
	さくら市早乙女	15	河内郡上三川	16		栃木市樋ノ口町	15	
	さくら市狭間田	15	河内郡ゆきが丘	16		栃木市川原田町	15	
	塩谷郡塩谷町船生	14	下都賀壬生町表町	14		栃木市大平町富田	15	
	塩谷郡高根沢町宝積寺	15	下都賀壬生町あけぼの町	14		栃木市藤岡町藤岡	15	
	塩谷郡高根沢町石末	15	下都賀壬生町国谷	14		栃木市都賀町合戦場	15	
県北 (南那須)	那須烏山市神長	14	県央 (鹿沼)	鹿沼市御成橋町2丁目		14	栃木市西方町金崎	15
	那須烏山市大金	14		鹿沼市鳥居跡町	14	栃木市岩舟町和泉	15	
	那須郡那珂川町小川	16		鹿沼市貝島町	14	足利市通5丁目	15	
県央 (宇都宮)	宇都宮市泉が丘2丁目	15		鹿沼市口栗野	14	足利市家富町	15	
	宇都宮市一条4丁目	15		鹿沼市玉田町	14	足利市大橋町1丁目	15	
	宇都宮市今泉町	15		鹿沼市栄町3丁目	14	足利市川崎町	15	
	宇都宮市上大曾町	15		鹿沼市縦山町	14	足利市八幡町	15	
	宇都宮市菊水町	15		県央 (芳賀)	真岡市荒町3丁目	16	足利市五十部町	15
	宇都宮市桜2丁目	15			真岡市台町	16	足利市榑崎町	15
	宇都宮市宿郷3丁目	15			真岡市上高間木1丁目	16	足利市寺岡町	15
	宇都宮市大寛2丁目	15	真岡市小林		16	足利市福居町	15	
	宇都宮市天神2丁目	15	真岡市久下田		16	足利市葉鹿町	15	
	宇都宮市戸祭町	15	芳賀郡益子町塙		16	佐野市久保町	15	
	宇都宮市戸祭町	15	芳賀郡茂木町茂木		14	佐野市大橋町	15	
	宇都宮市中一の沢町	15	芳賀郡市貝町田野辺		14	佐野市赤坂町	15	
	宇都宮市錦1丁目	15	芳賀郡芳賀町祖母井南		15	佐野市越名町	15	
	宇都宮市西原町	15				佐野市赤見町	15	
	宇都宮市東町	15			佐野市田沼町	15		
					佐野市中町	15		
					佐野市関川町	15		

Ⅲ 調査回答者のプロフィール

Ⅲ 調査回答者のプロフィール

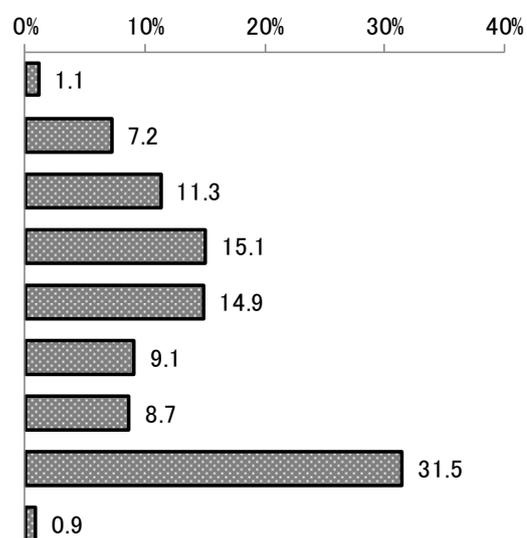
(F1) 性別

	件数	構成比
1 男性	597	47.0 %
2 女性	638	50.2
3 回答しない	25	2.0
(無回答)	11	0.9
全 体	1,271	



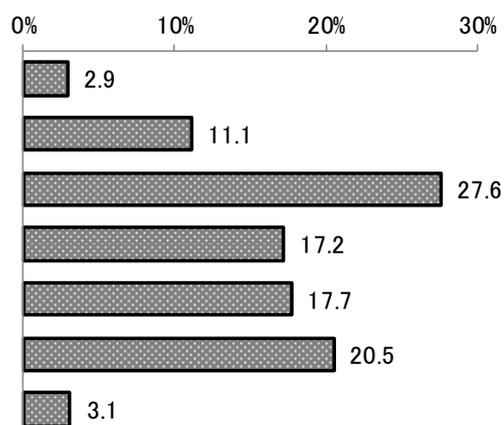
(F2) 年齢

	件数	構成比
1 18歳～19歳	14	1.1 %
2 20歳～29歳	92	7.2
3 30歳～39歳	144	11.3
4 40歳～49歳	192	15.1
5 50歳～59歳	190	14.9
6 60歳～64歳	116	9.1
7 65歳～69歳	111	8.7
8 70歳以上	401	31.5
(無回答)	11	0.9
全 体	1,271	



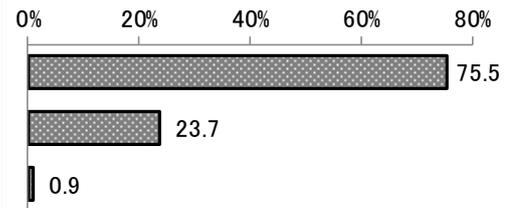
(F3) 本人の職業

	件数	構成比
1 農林漁業	37	2.9 %
2 商工サービス業・自由業	141	11.1
3 管理職・事務職・専門技術職	351	27.6
4 労務職	218	17.2
5 家事	225	17.7
6 その他の無職・学生	260	20.5
(無回答)	39	3.1
全 体	1,271	



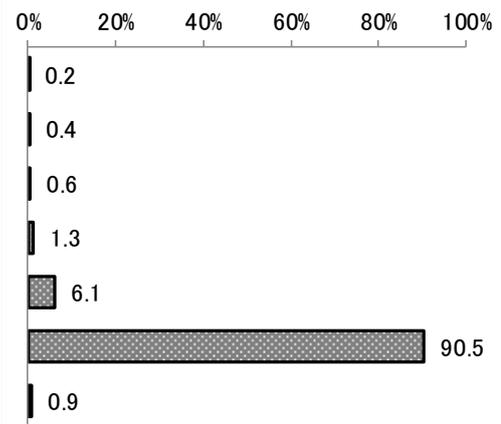
(F4) 出生地

	件数	構成比
1 県内	959	75.5 %
2 県外	301	23.7
(無回答)	11	0.9
全 体	1,271	



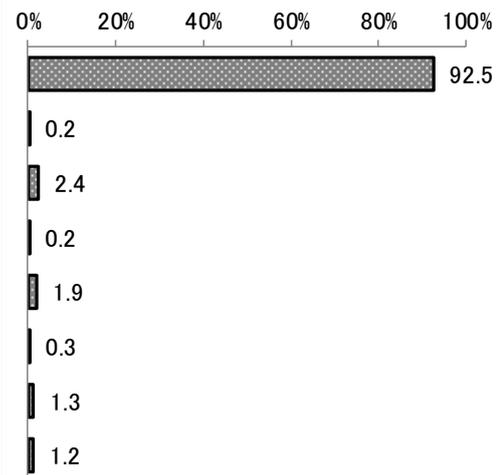
(F5) 栃木県居住年数

	件数	構成比
1 1年未満	2	0.2 %
2 1年～2年	5	0.4
3 3年～4年	8	0.6
4 5年～9年	17	1.3
5 10年～19年	78	6.1
6 20年以上	1,150	90.5
(無回答)	11	0.9
全 体	1,271	



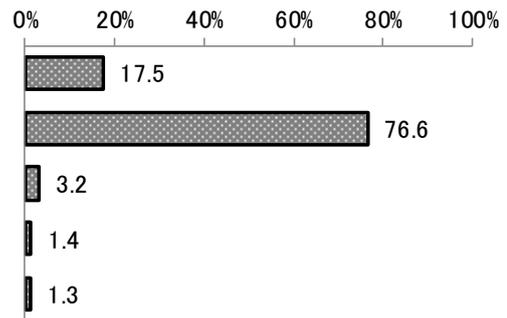
(F6) 住居形態

	件数	構成比
1 持家の一戸建	1,176	92.5 %
2 持家の集合住宅（分譲マンションなど）	3	0.2
3 借家の一戸建	31	2.4
4 公社・公営の賃貸住宅	2	0.2
5 民間の賃貸アパート・マンション	24	1.9
6 社宅・官舎	4	0.3
7 その他	16	1.3
(無回答)	15	1.2
全 体	1,271	



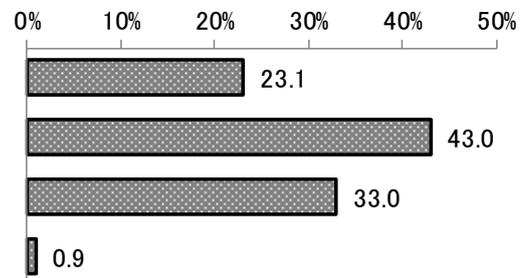
(F7) 居住環境

	件数	構成比
1 農山村	222	17.5 %
2 住宅地	973	76.6
3 商店街	41	3.2
4 その他	18	1.4
(無回答)	17	1.3
全 体	1,271	



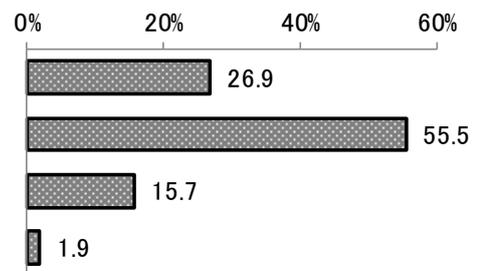
(F8) 居住地域／地域別

	件数	構成比
1 県北地域	293	23.1 %
2 県央地域	547	43.0
3 県南地域	420	33.0
(無回答)	11	0.9
全 体	1,271	



(F9) 居住地域／市町別

	件数	構成比
1 宇都宮市	342	26.9 %
2 宇都宮市以外の市	706	55.5
3 町	199	15.7
(無回答)	24	1.9
全 体	1,271	



IV 調査結果の詳細

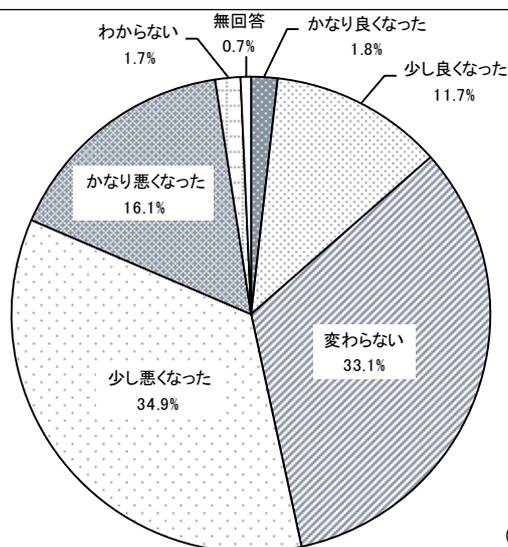
IV 調査結果の詳細

1 暮らしの変化について

(1) 暮らしの変化

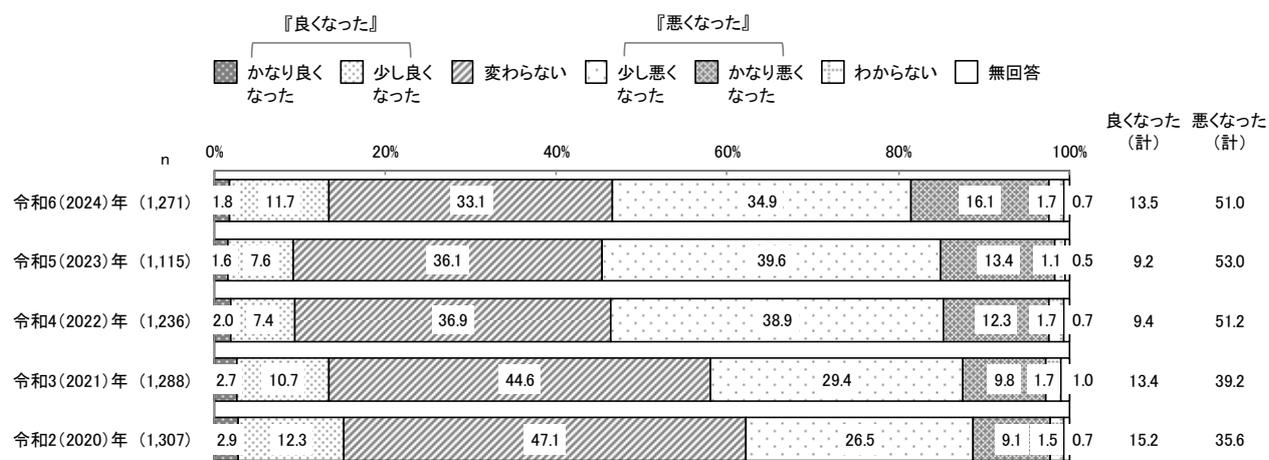
問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 かなり良くなった	1.8%	4 少し悪くなった	34.9%
2 少し良くなった	11.7%	5 かなり悪くなった	16.1%
3 変わらない	33.1%	6 わからない	1.7%
		(無回答)	0.7%



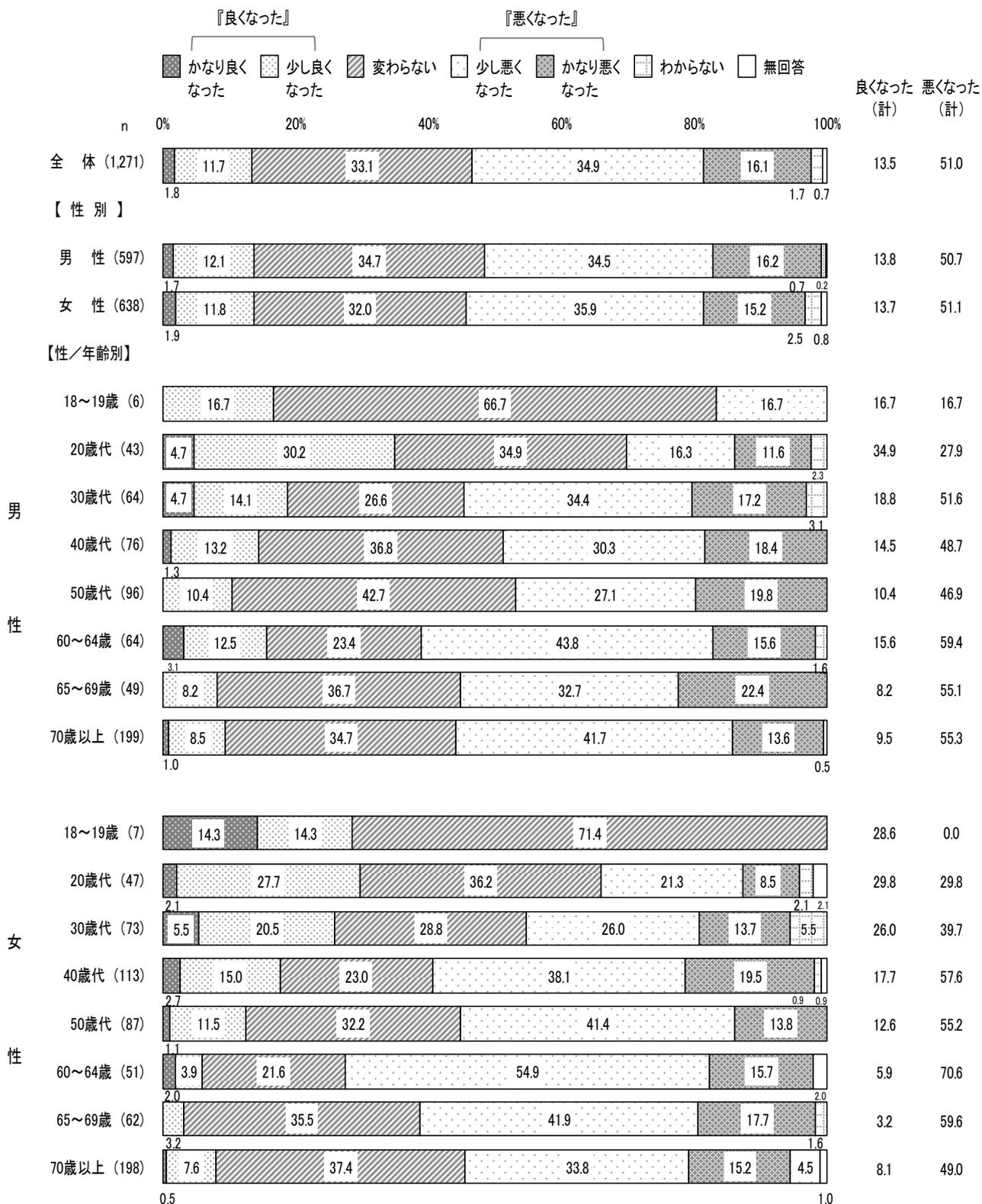
(n=1,271)

全体で見ると、「かなり良くなった」(1.8%)と「少し良くなった」(11.7%)の2つを合わせた『良くなった』(13.5%)が1割台前半となっている。一方、「少し悪くなった」(34.9%)と「かなり悪くなった」(16.1%)の2つを合わせた『悪くなった』(51.0%)が約5割となっている。また、「変わらない」(33.1%)が3割台前半となっている。



過去の調査結果と比較すると、『良くなった』が前回(令和5(2023)年)から4.3ポイント増加している。一方、『悪くなった』が前回(令和5(2023)年)から2.0ポイント減少している。

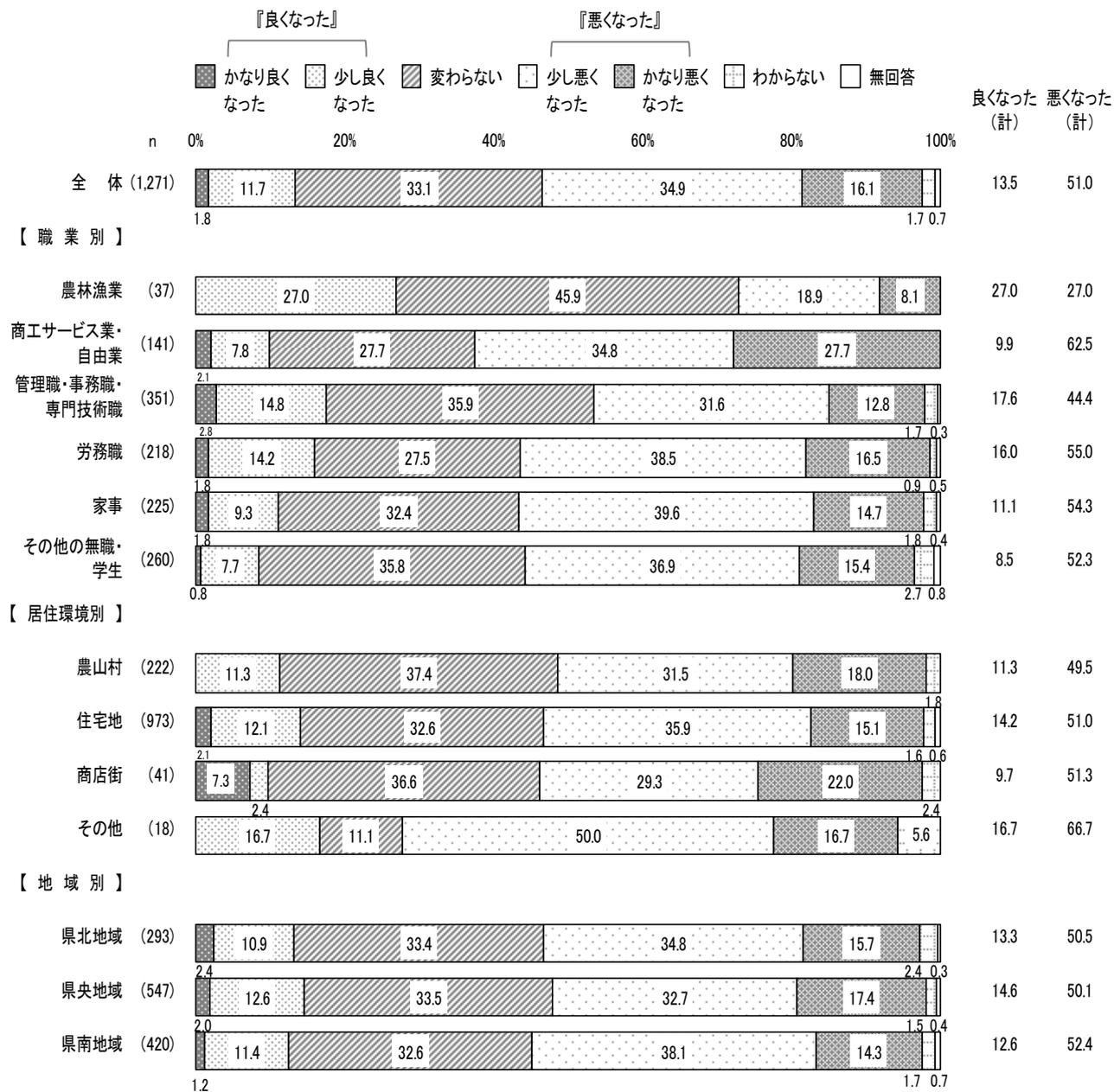
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『良くなった』では〈男性20歳代〉34.9%が最も高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性60~64歳〉70.6%が最も高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、『良くなった』では〈農林漁業〉27.0%が最も高く、〈その他の無職・学生〉8.5%が最も低くなっている。一方、『悪くなった』では〈商工サービス業・自由業〉62.5%が最も高く、〈農山村〉49.5%が最も低くなっている。

居住環境別で見ると、『良くなった』では〈その他〉16.7%が最も高く、〈商店街〉9.7%が最も低くなっている。一方、『悪くなった』では〈その他〉66.7%が最も高く、〈農山村〉49.5%が最も低くなっている。

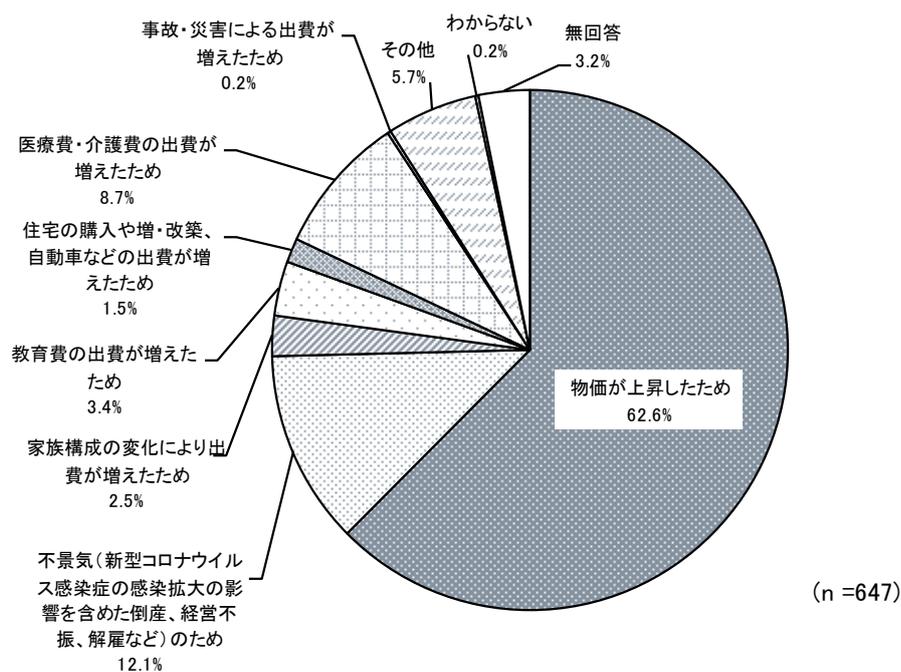
地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

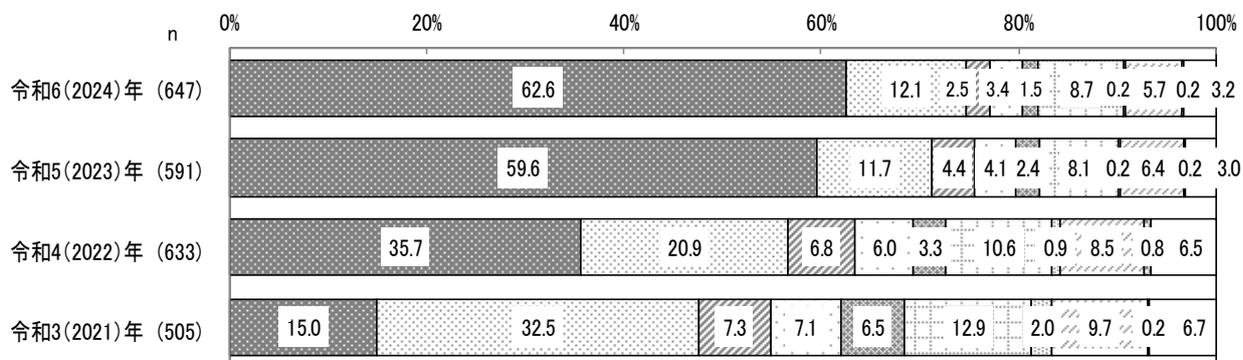
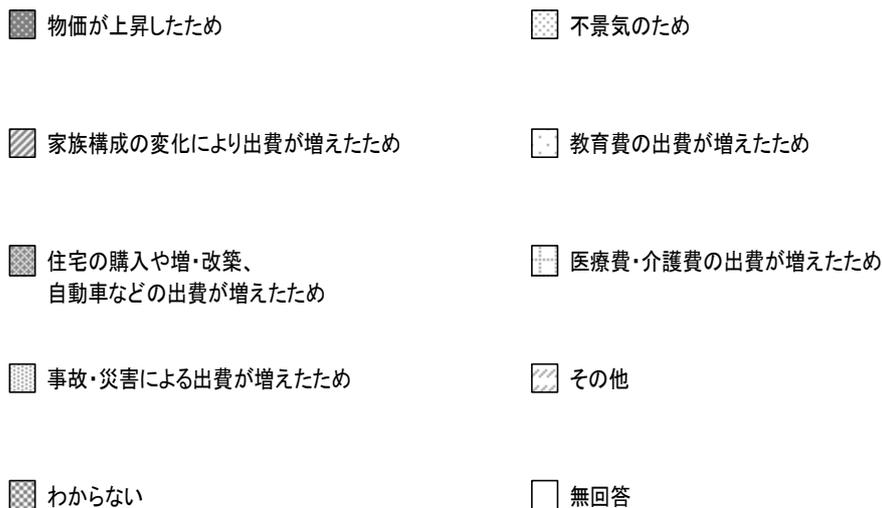
問2 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=647]

1 物価が上昇したため	62.6%
2 不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため	12.1
3 家族構成の変化により出費が増えたため	2.5
4 教育費の出費が増えたため	3.4
5 住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため	1.5
6 医療費・介護費の出費が増えたため	8.7
7 事故・災害による出費が増えたため	0.2
8 その他	5.7
9 わからない (無回答)	0.2 3.2



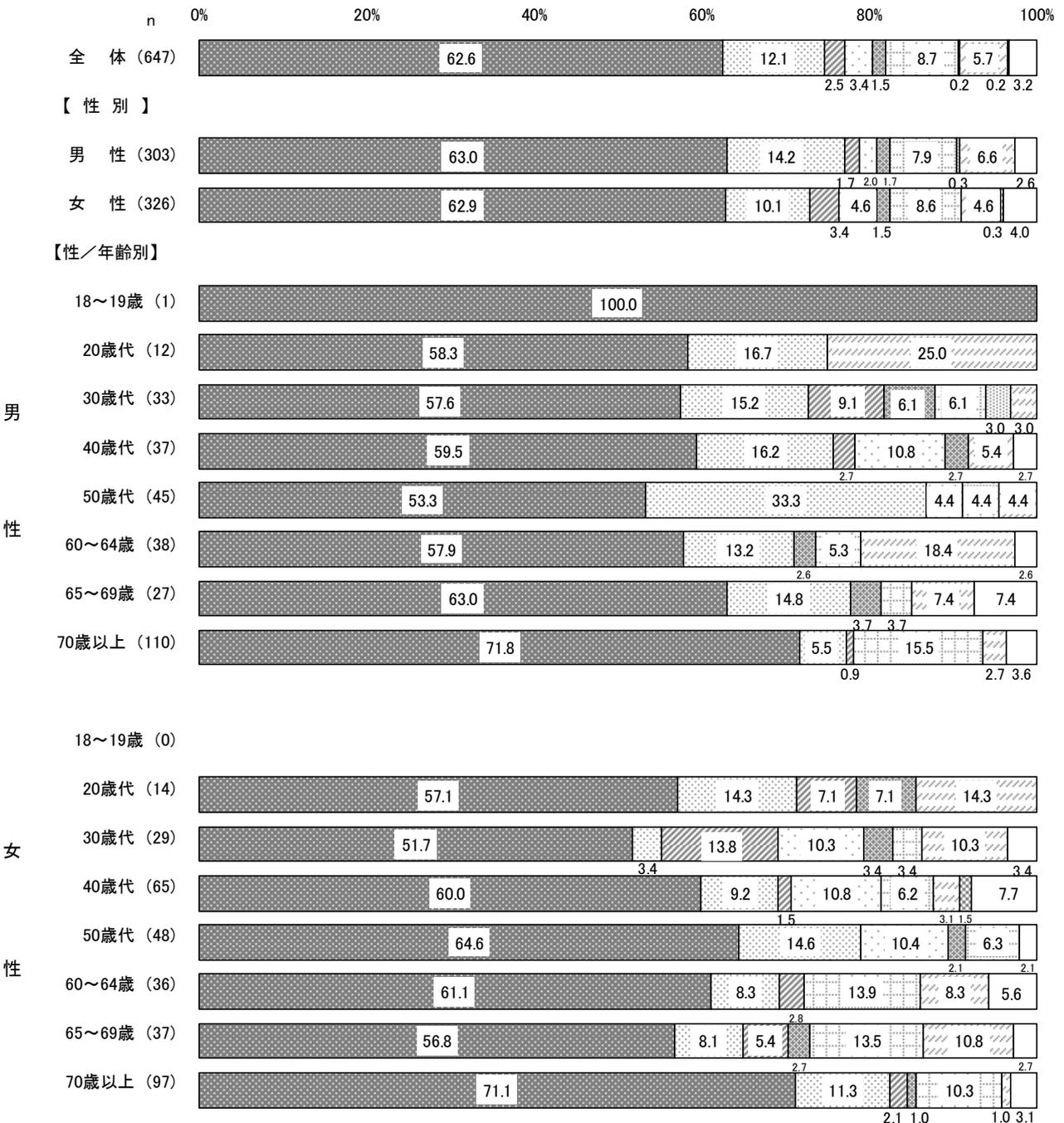
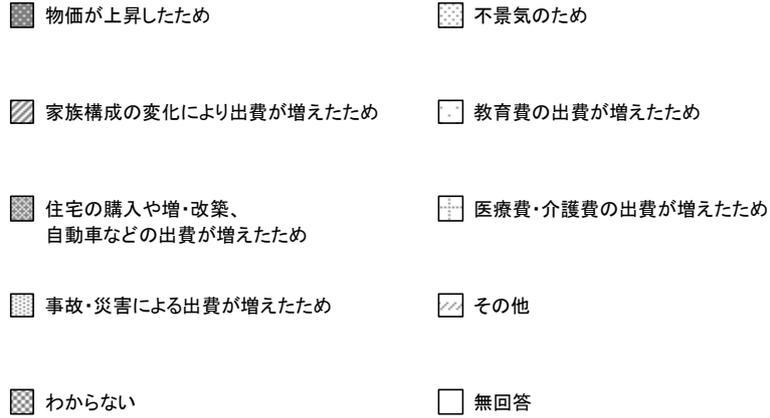
全体で見ると、「物価が上昇したため」(62.6%)が6割台前半で最も高く、次いで「不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため(以下『不景気のため』という。)」(12.1%)、「医療費・介護費の出費が増えたため」(8.7%)の順となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」では前回（令和5（2023）年）から3.0ポイント増加している。『不景気のため』と「医療費・介護費の出費が増えたため」は同程度となっている。

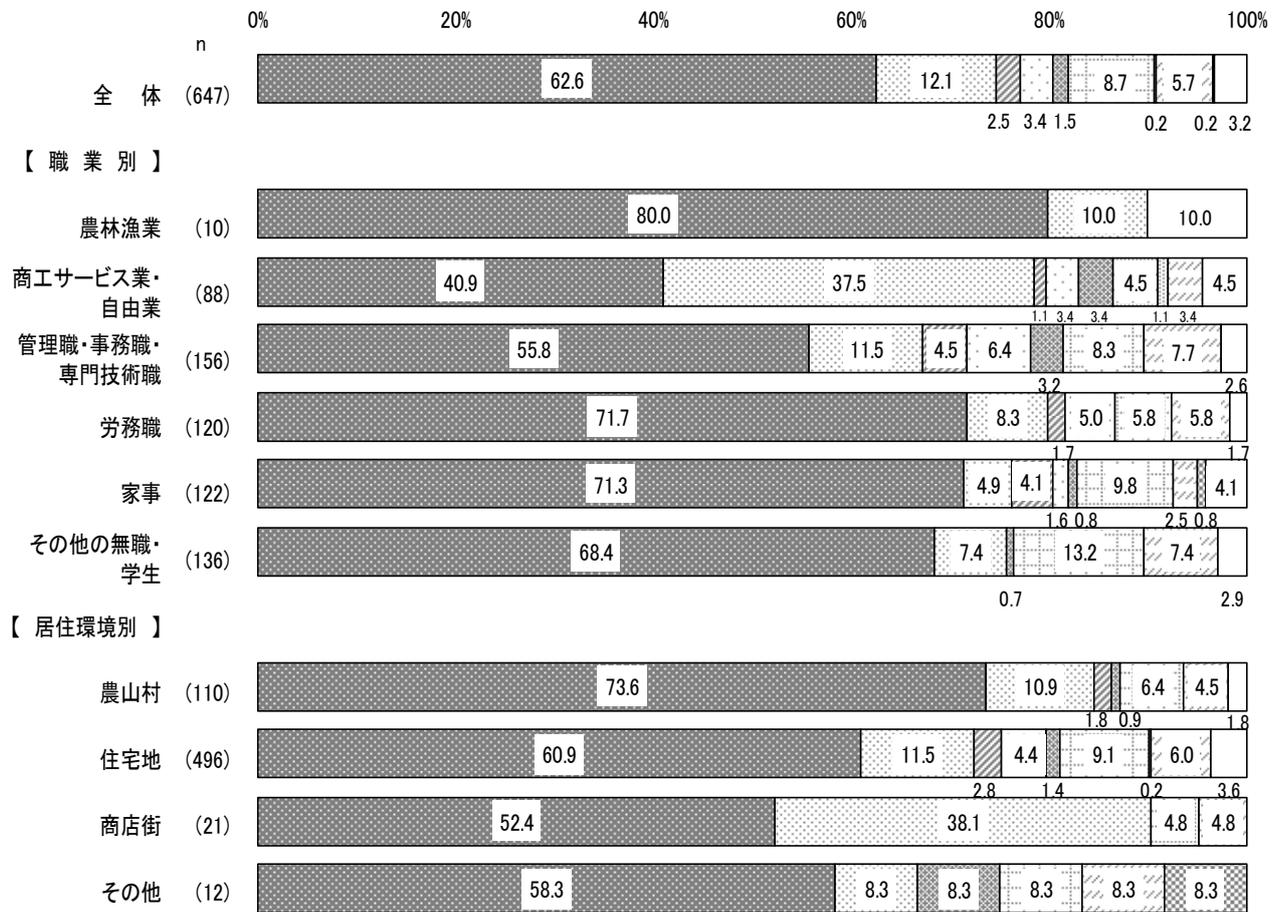
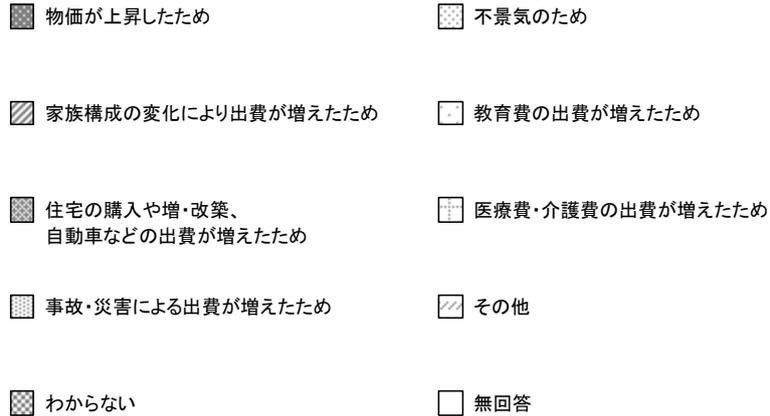
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『不景気のため』では〈男性〉14.2%が、〈女性〉10.1%より4.1ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

性／年齢別で見ると、「物価が上昇したため」では〈男性70歳以上〉と〈女性70歳以上〉がともに7割強と高くなっている。また、「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性70歳以上〉と〈女性60歳以上〉がいずれも1割を超えており、若年層に比べて高くなっている。

[職業別・居住環境別]



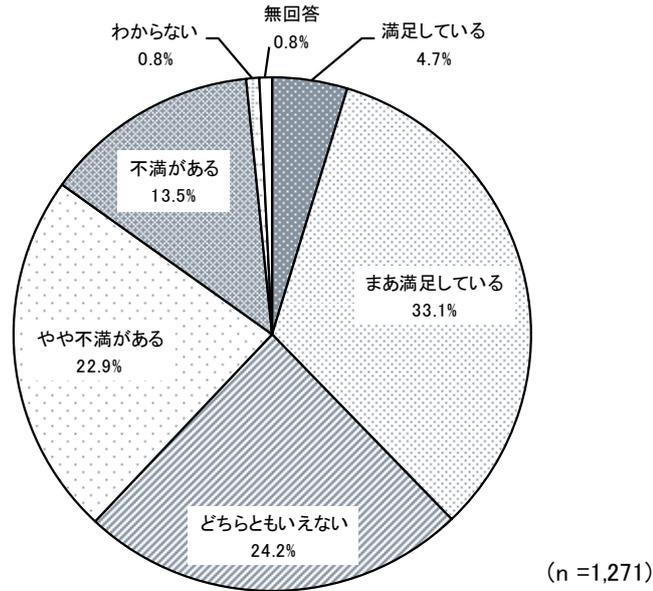
職業別で見ると、「物価が上昇したため」では〈農林漁業〉80.0%が最も高く、〈商工サービス業・自由業〉40.9%が最も低くなっている。『不景気のため』では〈商工サービス業・自由業〉37.5%が最も高く、〈家事〉4.9%が最も低くなっている。

居住環境別で見ると、「物価が上昇したため」では〈農山村〉73.6%が最も高く、〈商店街〉52.4%が最も低くなっている。『不景気のため』では〈商店街〉38.1%が最も高く、〈その他〉8.3%が最も低くなっている。

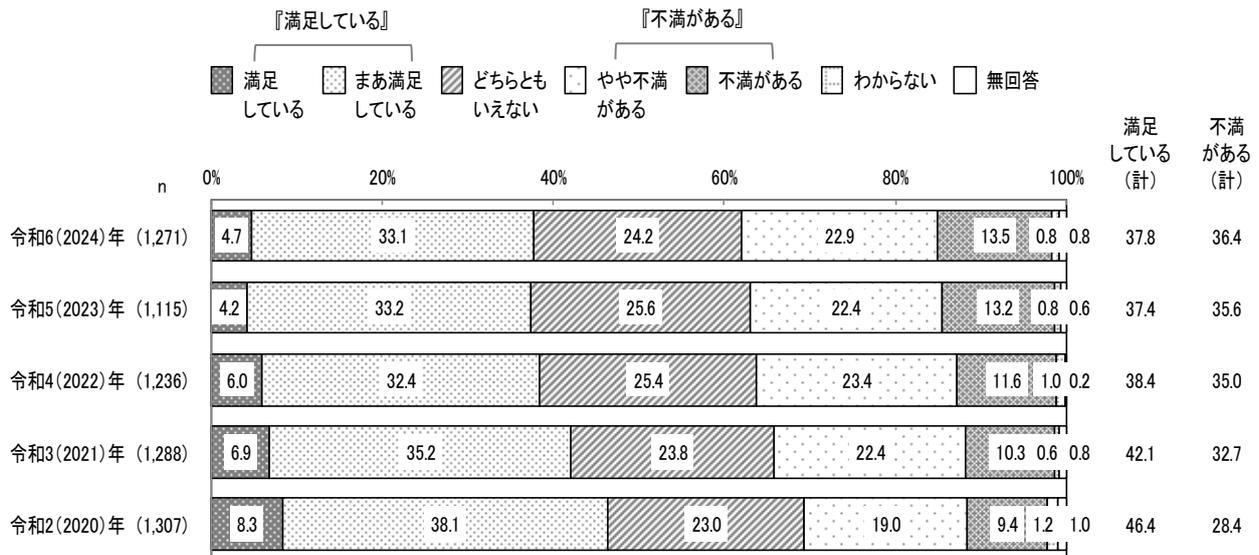
(3) 暮らしの満足度

問3 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 満足している	4.7%	4 やや不満がある	22.9%
2 まあ満足している	33.1	5 不満がある	13.5
3 どちらともいえない	24.2	6 わからない	0.8
		(無回答)	0.8

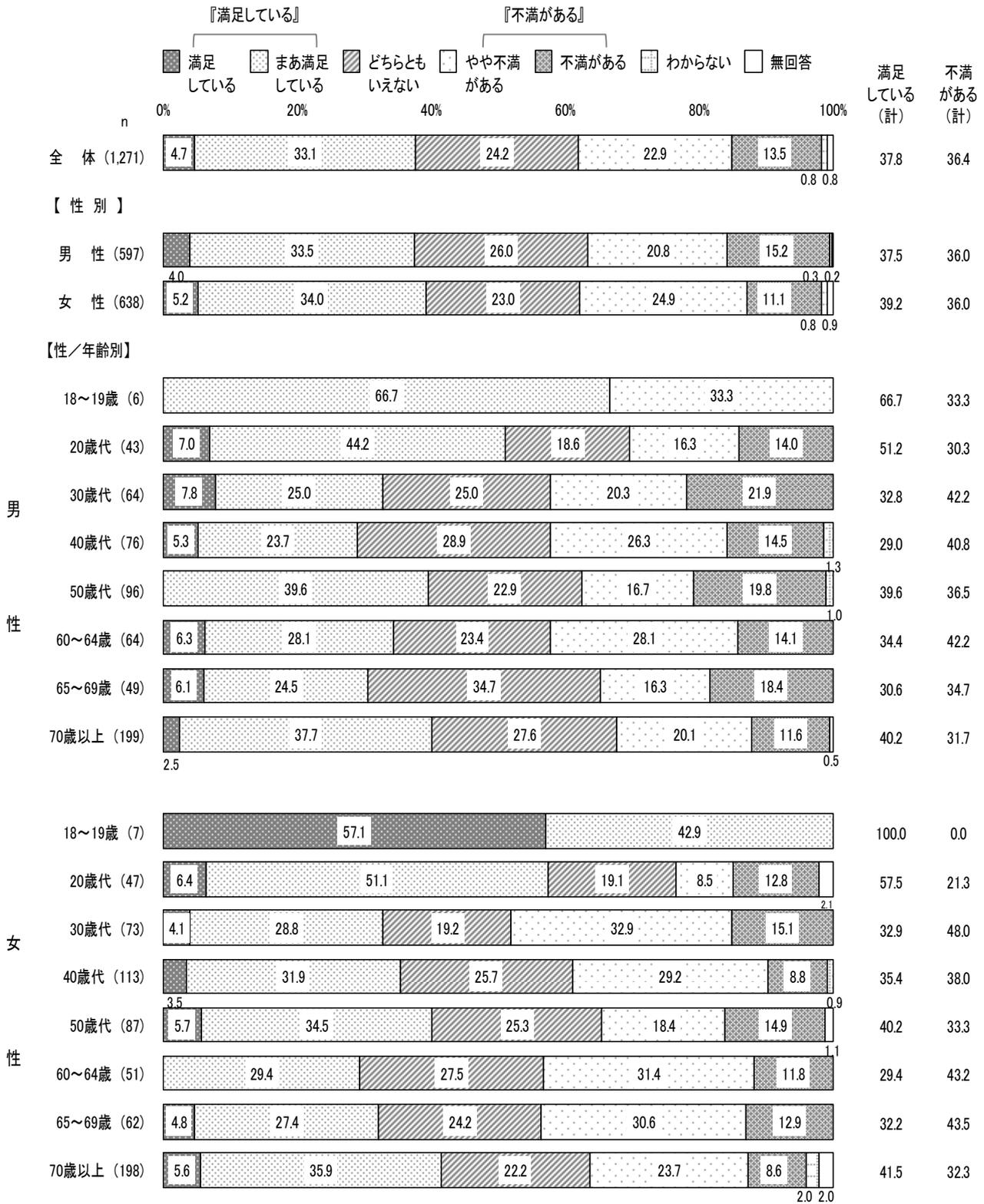


全体でみると、「満足している」(4.7%)と「まあ満足している」(33.1%)の2つを合わせた『満足している』(37.8%)が3割台後半となっている。一方、「やや不満がある」(22.9%)と「不満がある」(13.5%)の2つを合わせた『不満がある』(36.4%)も3割台後半となり、『満足している』と同程度となっている。また、「どちらともいえない」(24.2%)が2割半ばとなっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和5(2023)年)と大きな傾向の違いはみられない。

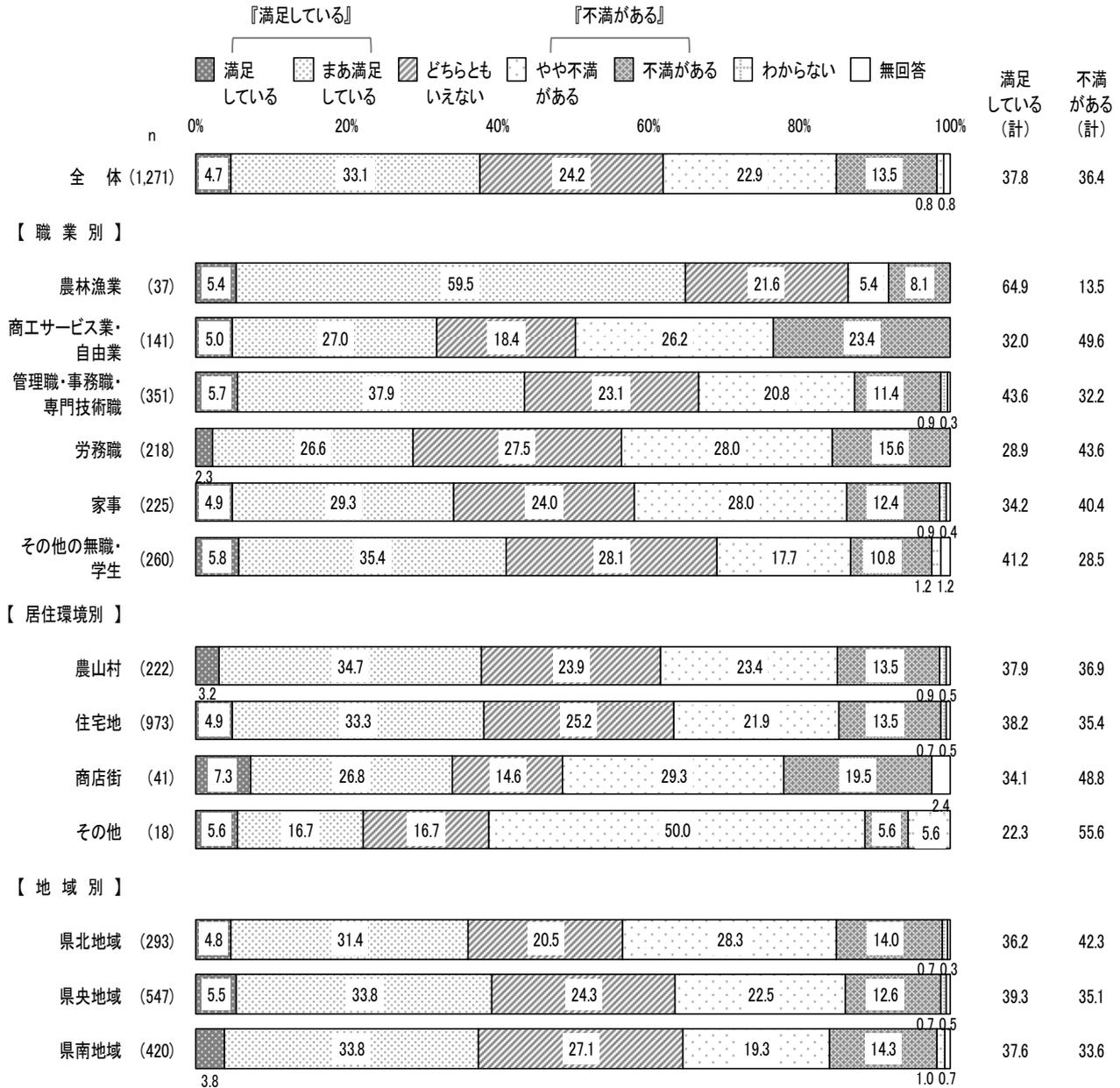
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『満足している』では〈女性〉39.2%が、〈男性〉37.5%より1.7ポイント高くなっている。一方、『不満がある』では男女ともに36.0%と同率となっている。

性／年齢別で見ると、『満足している』では〈女性20歳代〉57.5%が高くなっている。一方、『不満がある』では〈女性30歳代〉48.0%が最も高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別】

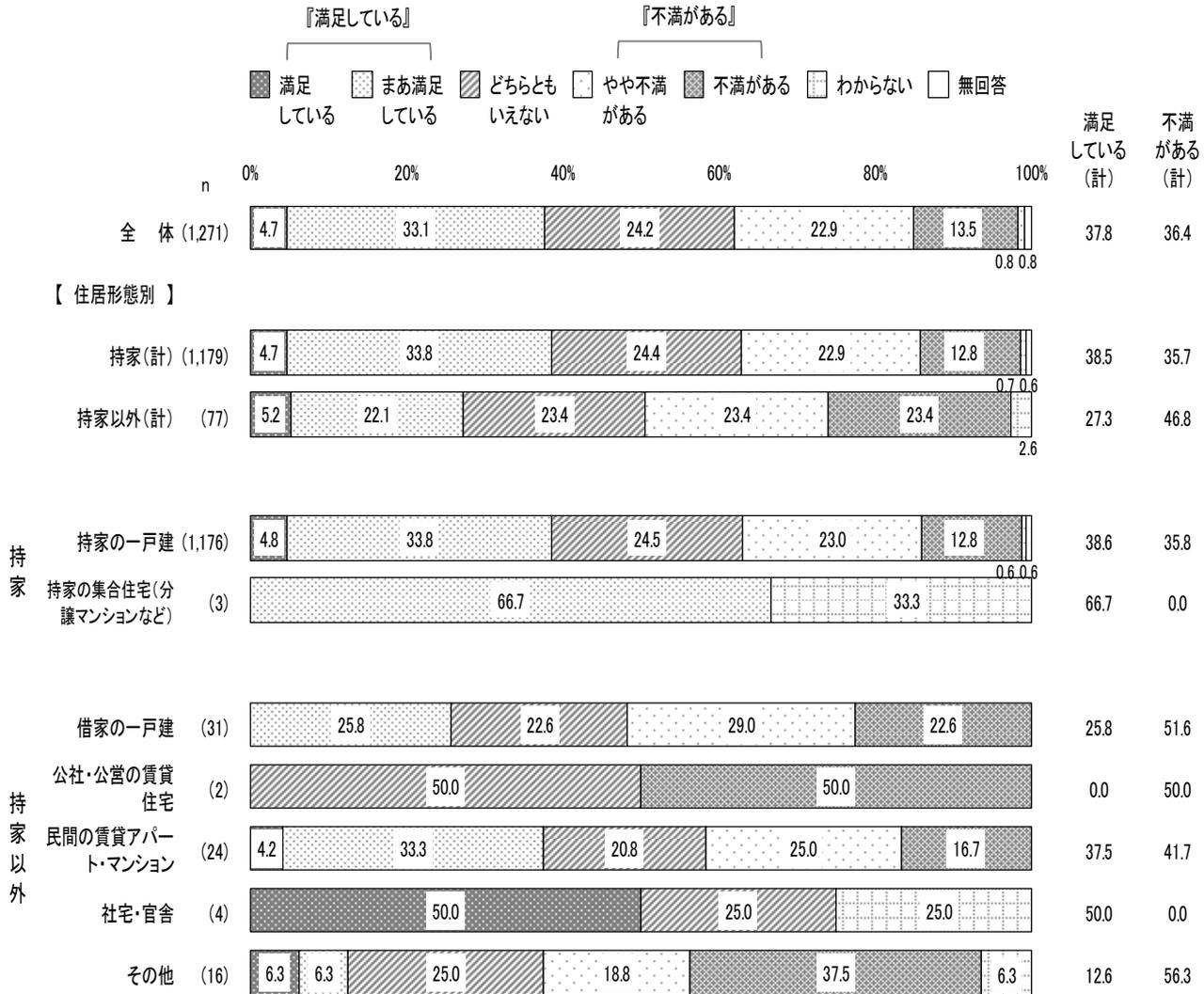


職業別でみると、『満足している』では〈農林漁業〉64.9%が最も高く、〈労務職〉28.9%が最も低くなっている。一方、『不満がある』では〈商工サービス業・自由業〉49.6%が最も高く、〈農林漁業〉13.5%が最も低くなっている。

居住環境別でみると、『満足している』では〈住宅地〉38.2%が最も高く、〈その他〉22.3%が最も低くなっている。一方、『不満がある』では〈その他〉55.6%が最も高く、〈住宅地〉35.4%が最も低くなっている。

地域別でみると、『満足している』ではすべての分類で3割台となっている。一方、『不満がある』では〈県北地域〉42.3%が最も高く、〈県南地域〉33.6%が最も低くなっている。

[住居形態別]

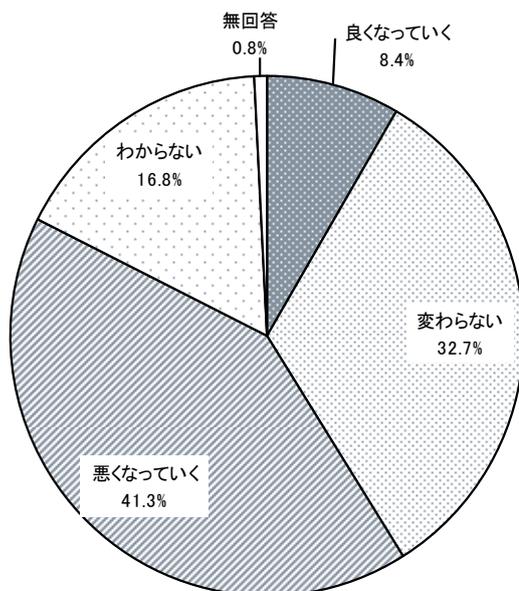


住居形態別でみると、『満足している』では〈持家 (計)〉38.5%が、〈持家以外 (計)〉27.3%より11.2ポイント高くなっている。一方、『不満がある』では〈持家以外 (計)〉46.8%が、〈持家 (計)〉35.7%より11.1ポイント高くなっている。

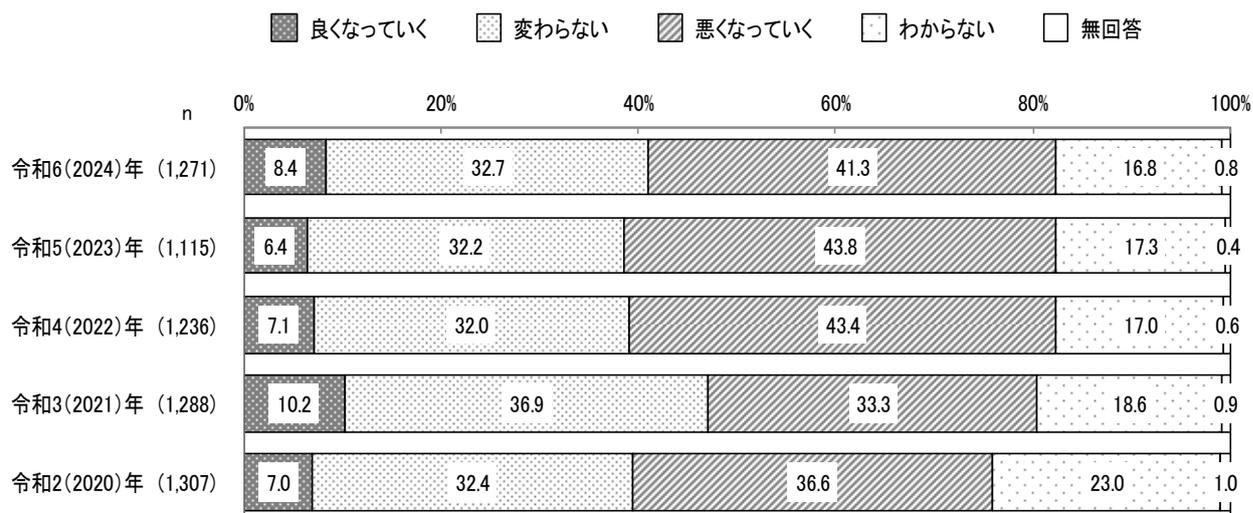
(4) 今後の暮らしの状況

問4 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 良くなっていく	8.4%	3 悪くなっていく	41.3%
2 変わらない	32.7%	4 わからない	16.8%
		(無回答)	0.8%



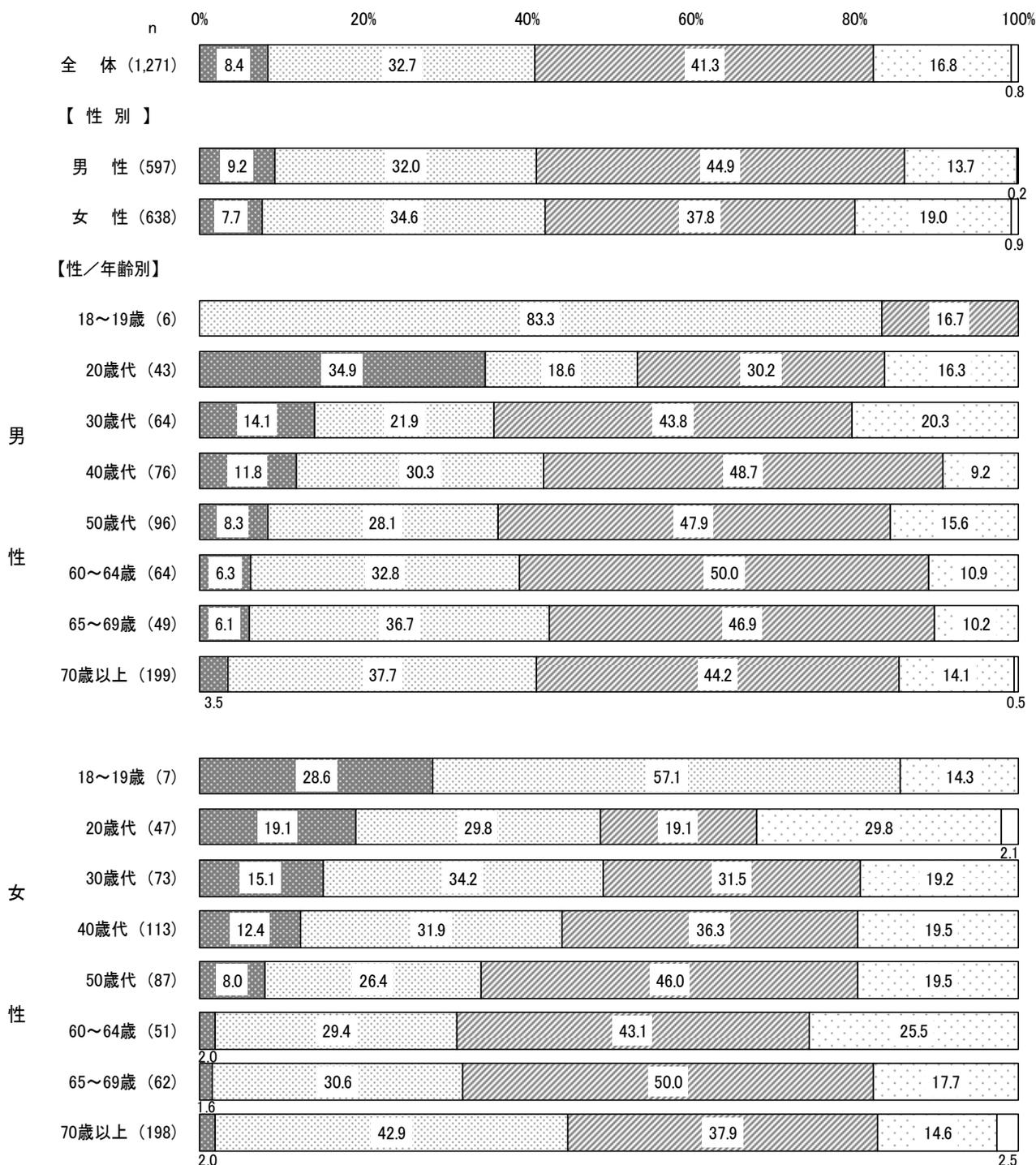
全体で見ると、「悪くなっていく」(41.3%)が4割強と最も高く、次いで「変わらない」(32.7%)、「わからない」(16.8%)、「良くなっていく」(8.4%)の順となっている。



過去の調査結果と比較すると、「良くなっていく」が前回(令和5(2023)年)から2.0ポイント増加している。一方、「悪くなっていく」が前回(令和5(2023)年)から2.5ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

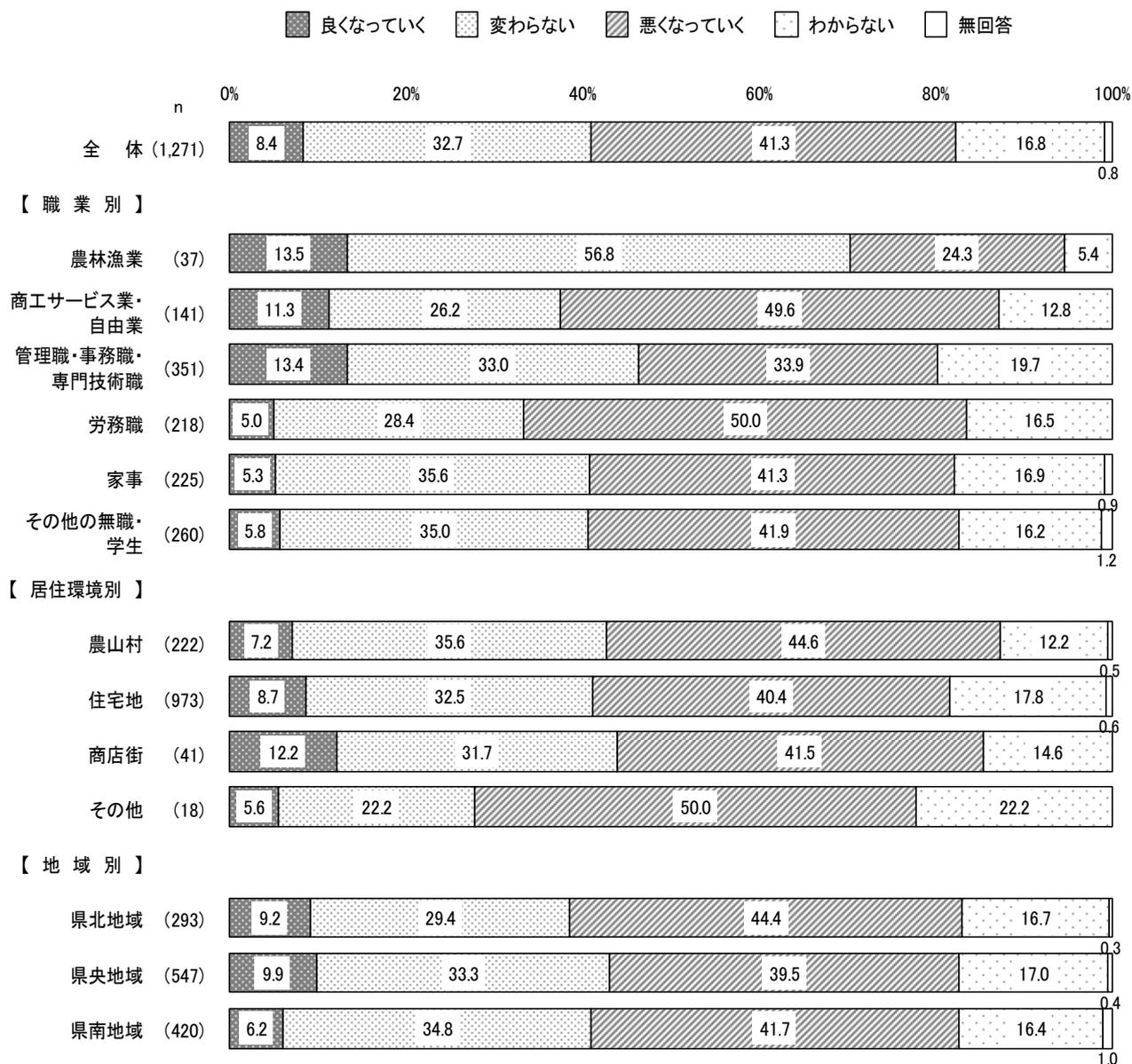
■ 良くなっていく □ 変わらない ▨ 悪くなっていく □ わからない □ 無回答



性別でみると、「良くなっていく」では〈男性〉9.2%が、〈女性〉7.7%より1.5ポイント高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性〉44.9%が、〈女性〉37.8%より7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「良くなっていく」では〈男性20歳代〉34.9%が最も高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性60～64歳〉と〈女性65～69歳〉がともに50.0%と最も高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、「良くなっていく」では〈農林漁業〉と〈管理職・事務職・専門技術職〉がともに約13%と高く、〈労務職〉〈家事〉〈その他の学生・無職〉がいずれも約5%と低くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈労務職〉50.0%が最も高く、〈農林漁業〉24.3%が最も低くなっている。

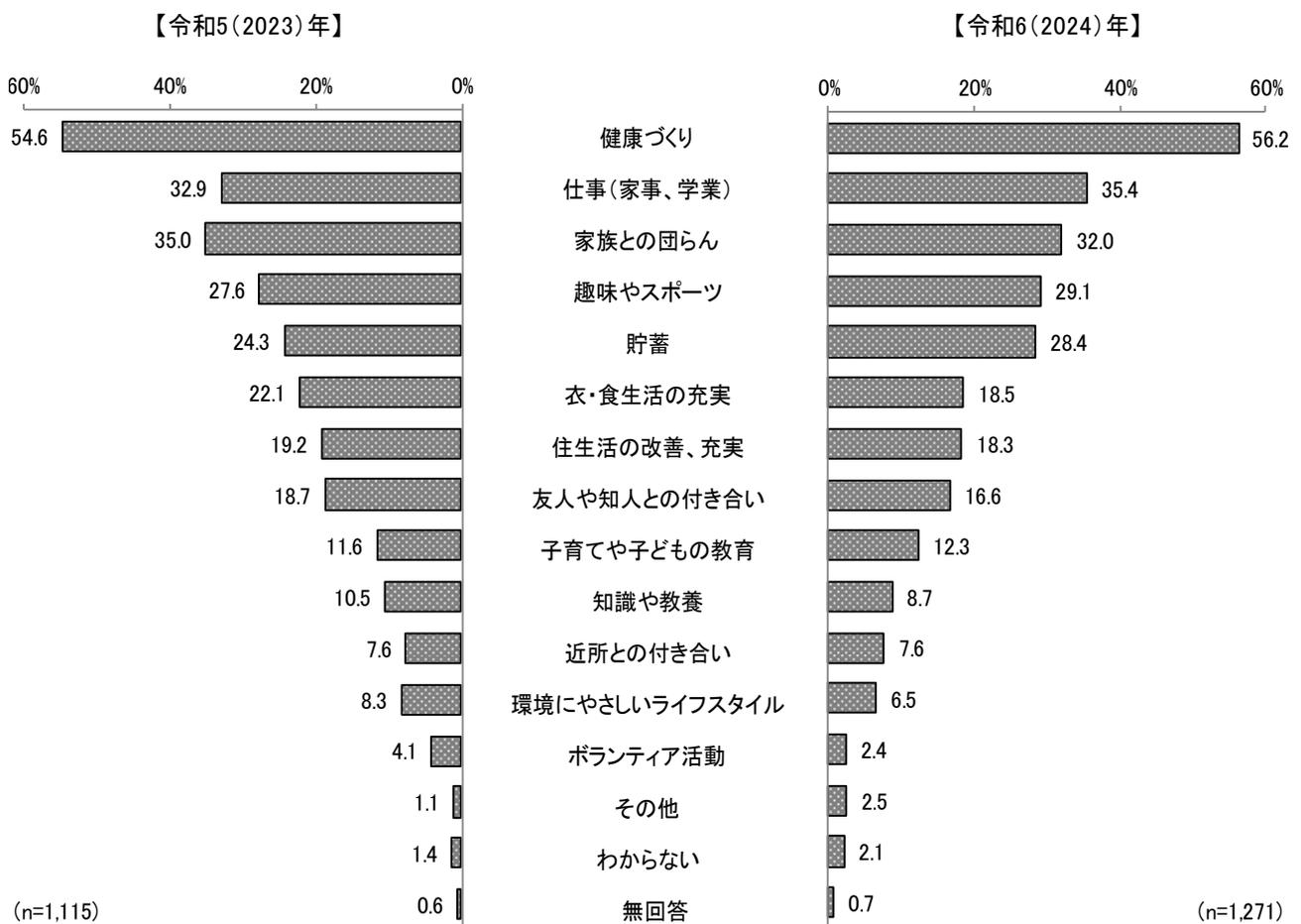
居住環境別で見ると、「良くなっていく」では〈商店街〉12.2%が最も高く、〈その他〉5.6%が最も低くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈その他〉50.0%が最も高く、〈住宅地〉40.4%が最も低くなっている。

地域別で見ると、「良くなっていく」ではすべての分類で1割以下となっている。一方、「悪くなっていく」では〈県北地域〉44.4%が最も高く、〈県央地域〉39.5%が最も低くなっている。

(5) 今後の暮らしで力を入れる点

問5 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,271]

1 仕事(家事、学業)	35.4%	9 家族との団らん	32.0%
2 知識や教養	8.7	10 近所との付き合い	7.6
3 貯蓄	28.4	11 友人や知人との付き合い	16.6
4 趣味やスポーツ	29.1	12 子育てや子どもの教育	12.3
5 ボランティア活動	2.4	13 健康づくり	56.2
6 衣・食生活の充実	18.5	14 その他	2.5
7 住生活の改善、充実	18.3	15 わからない	2.1
8 環境にやさしいライフスタイル	6.5	(無回答)	0.7

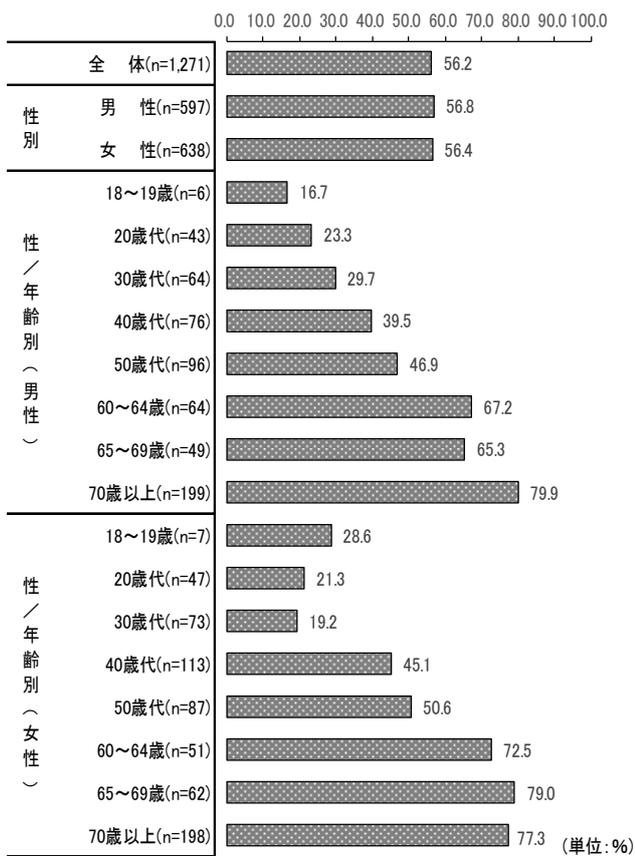


全体で見ると、「健康づくり」(56.2%)が5割台後半と最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(35.4%)、「家族との団らん」(32.0%)、「趣味やスポーツ」(29.1%)の順となっている。

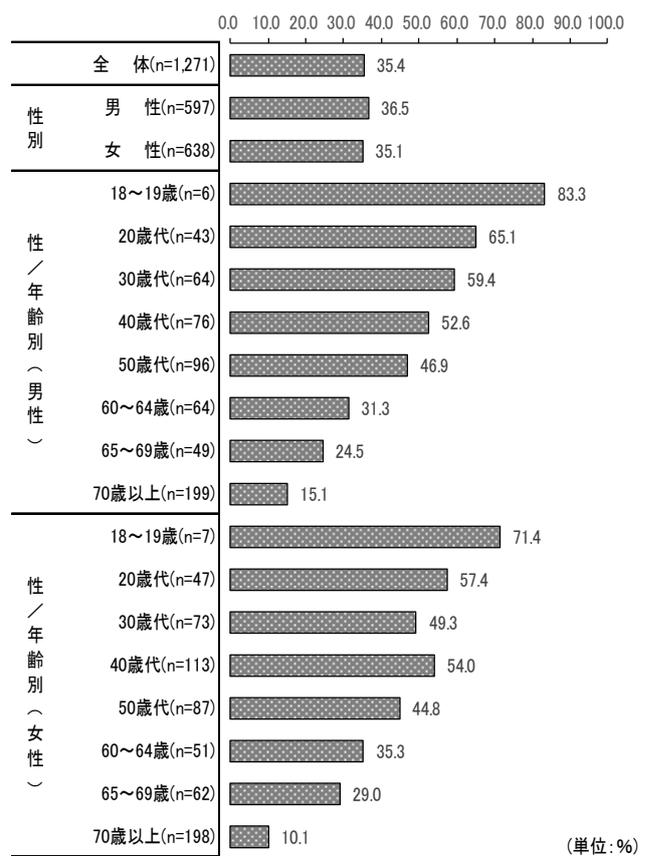
前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられないが、「仕事(家事、学業)」が2.5ポイント増加している。一方、「家族との団らん」が3.0ポイント減少している。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

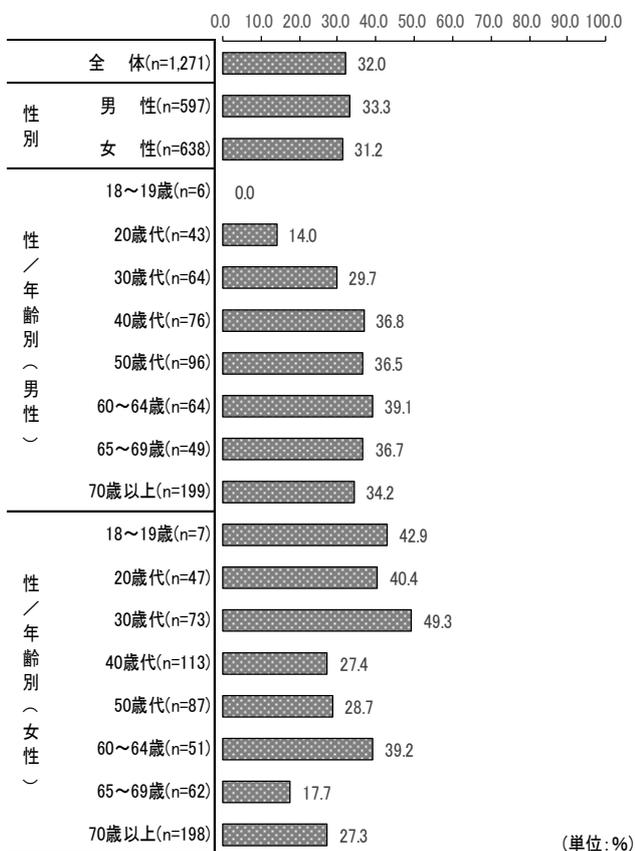
健康づくり



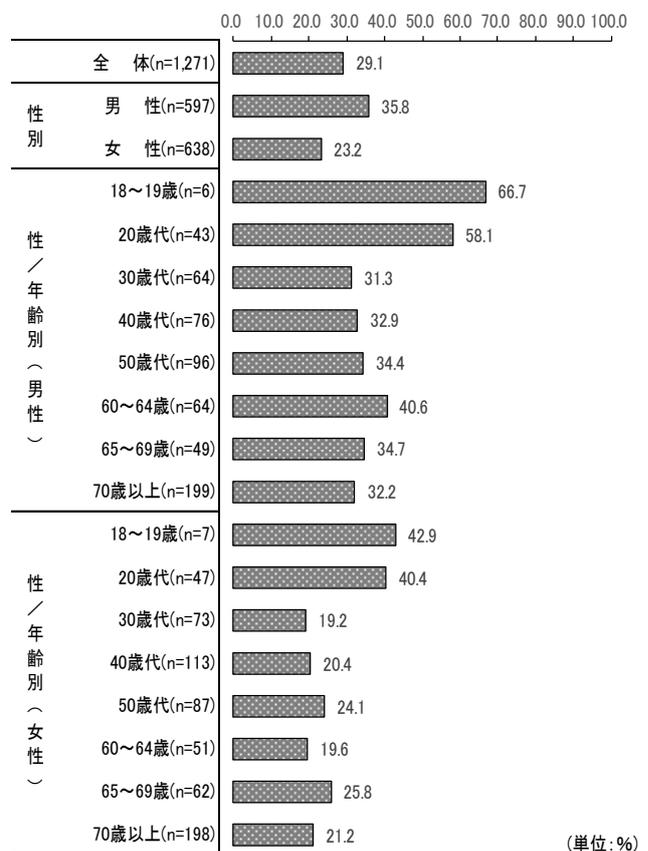
仕事(家事、学業)



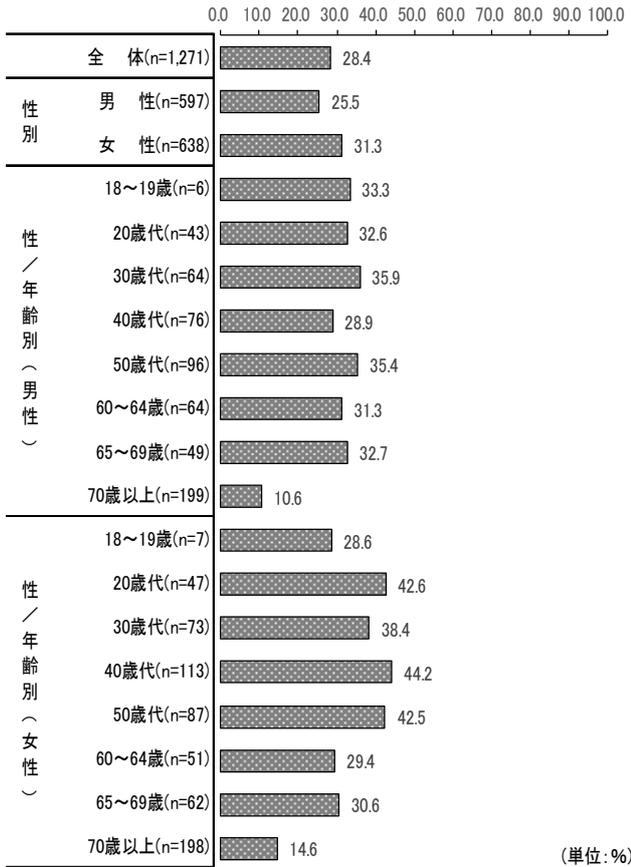
家族との団らん



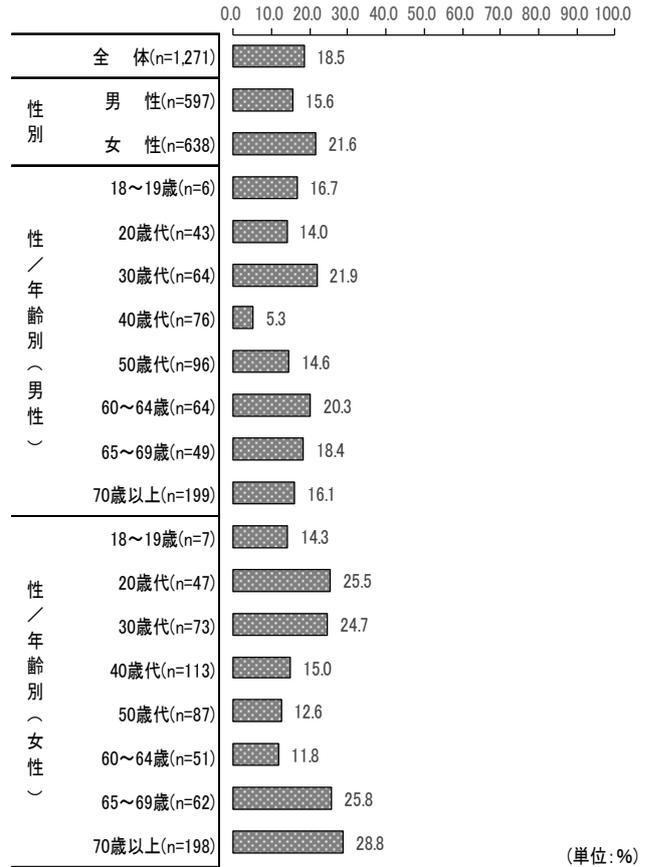
趣味やスポーツ



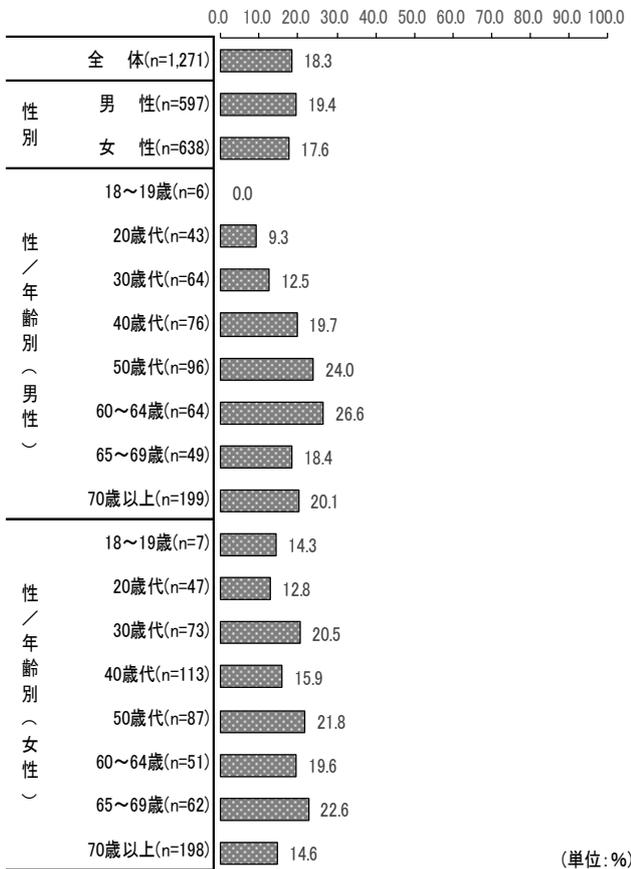
貯蓄



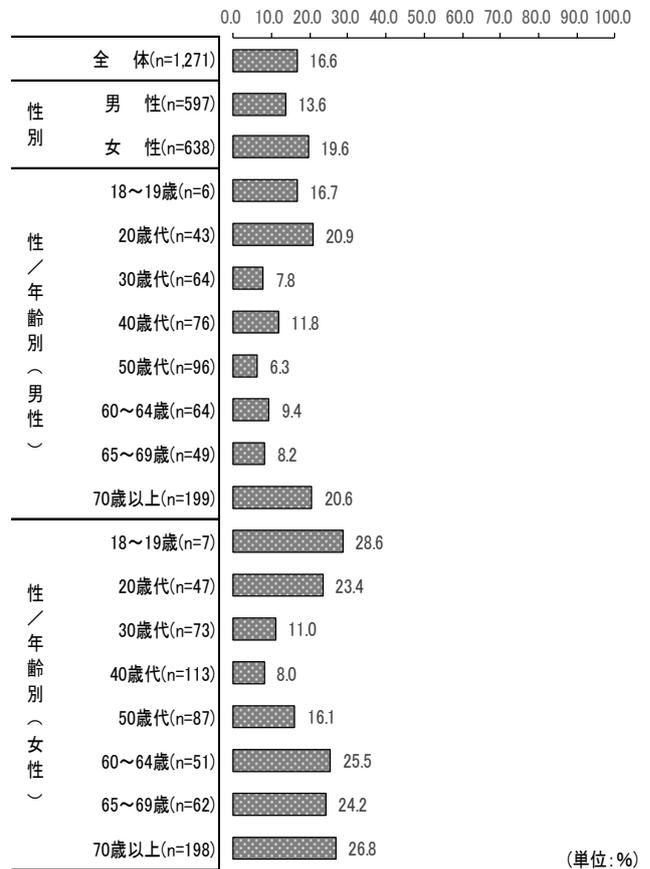
衣・食生活の充実



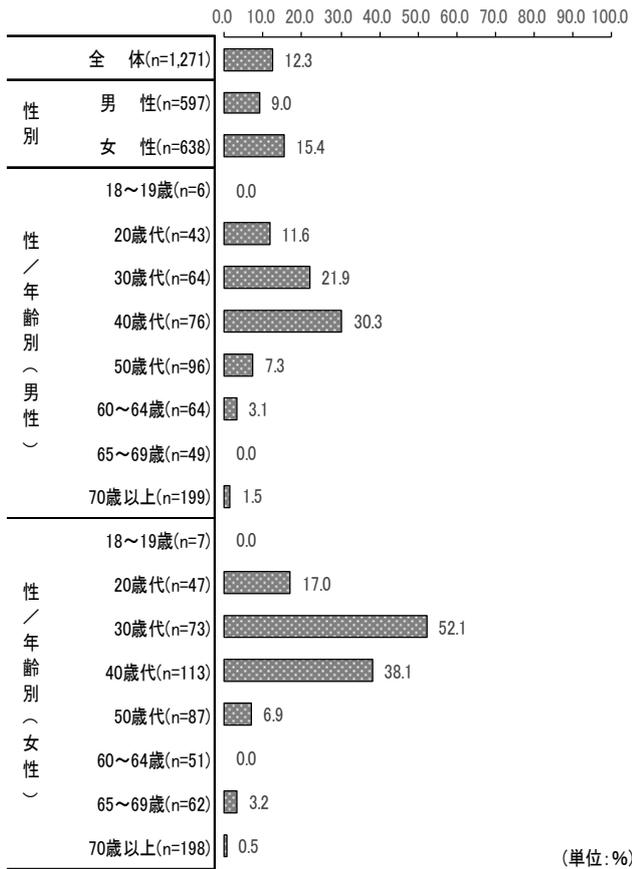
住生活の改善、充実



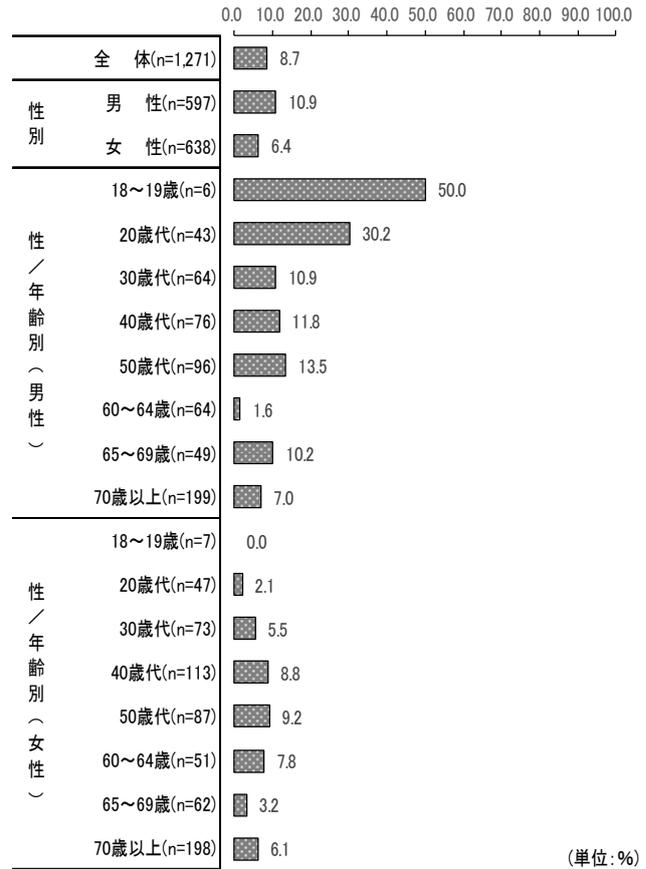
友人や知人との付き合い



子育てや子どもの教育



知識や教養

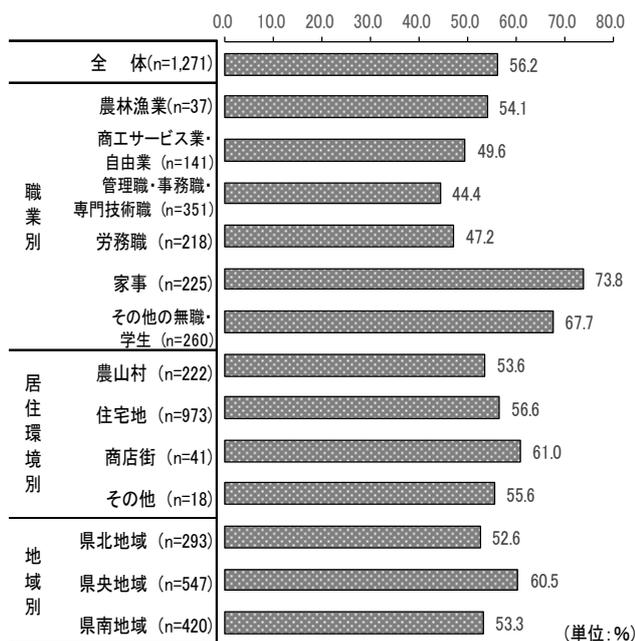


性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉35.8%が、〈女性〉23.2%より12.6ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

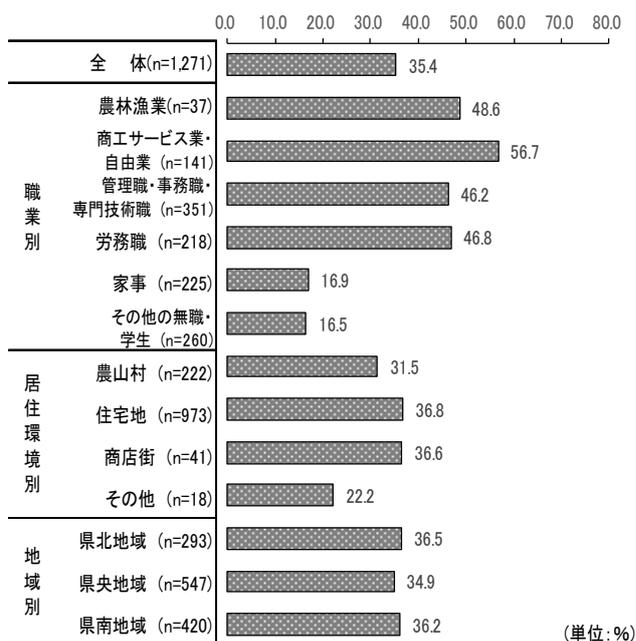
性/年齢別で見ると、「健康づくり」では〈男性70歳以上〉79.9%が最も高く、〈女性30歳代〉19.2%が低くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉65.1%が高く、〈女性70歳以上〉10.1%が最も低くなっている。「家族との団らん」では〈女性30歳代〉49.3%が最も高く、〈男性20歳代〉14.0%が低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別] (上位10項目)

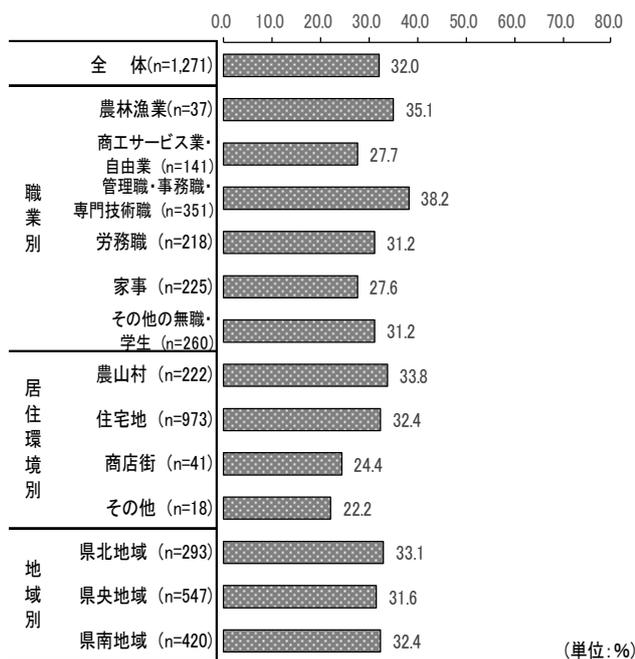
健康づくり



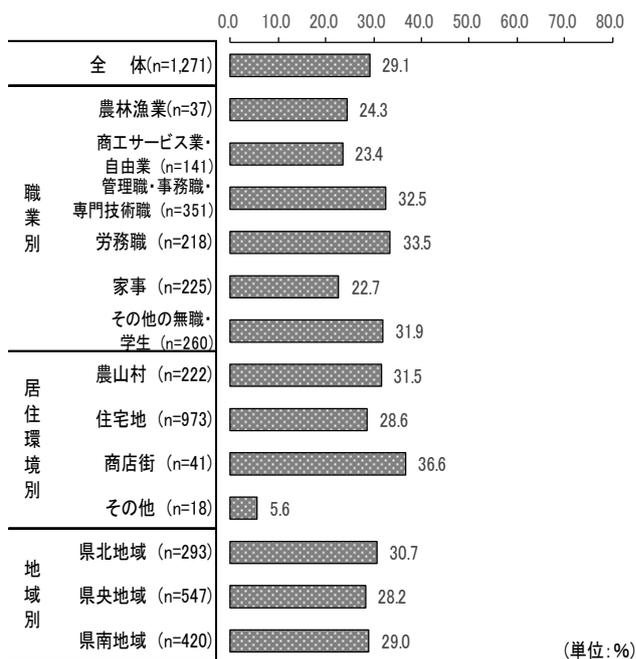
仕事(家事、学業)



家族との団らん

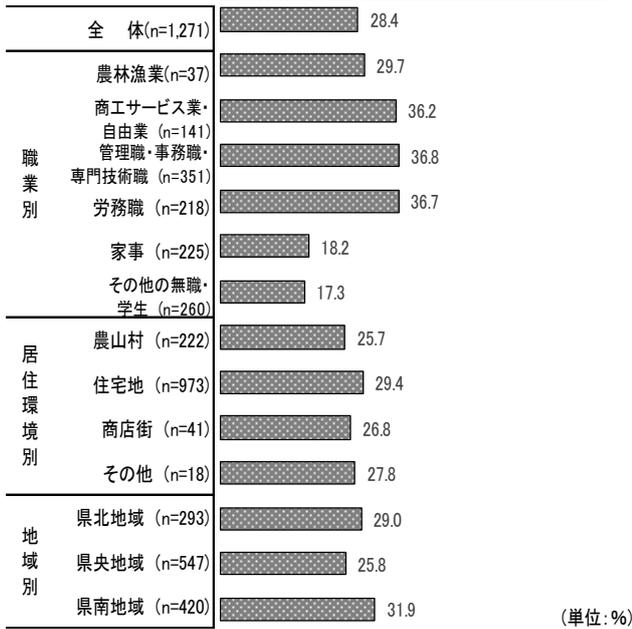


趣味やスポーツ



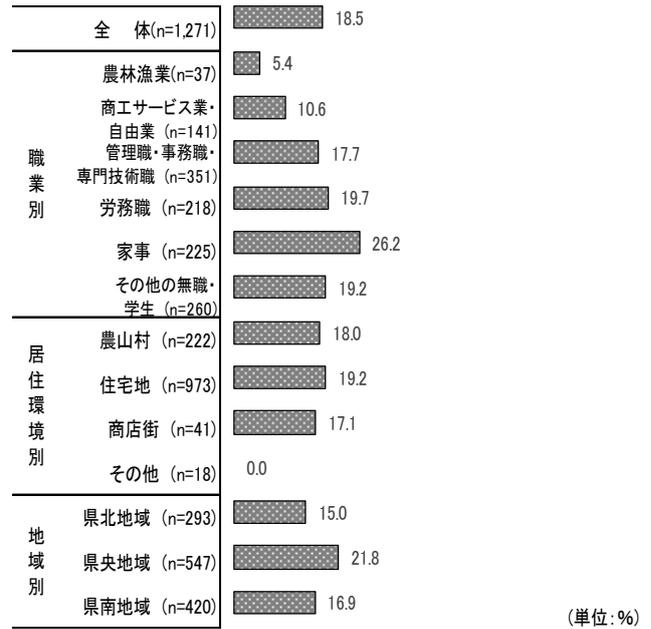
貯蓄

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0



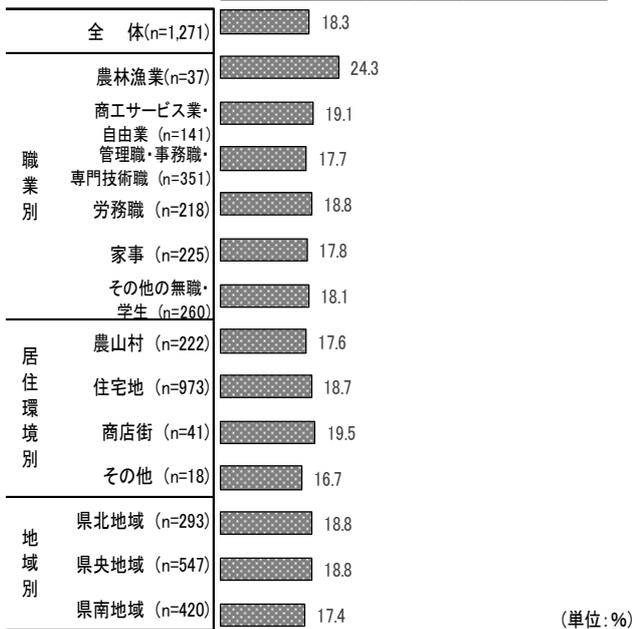
衣・食生活の充実

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0



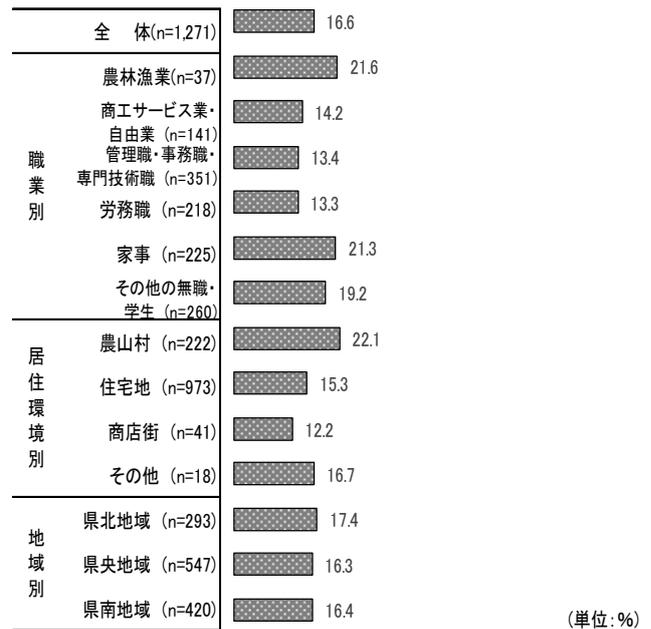
住生活の改善、充実

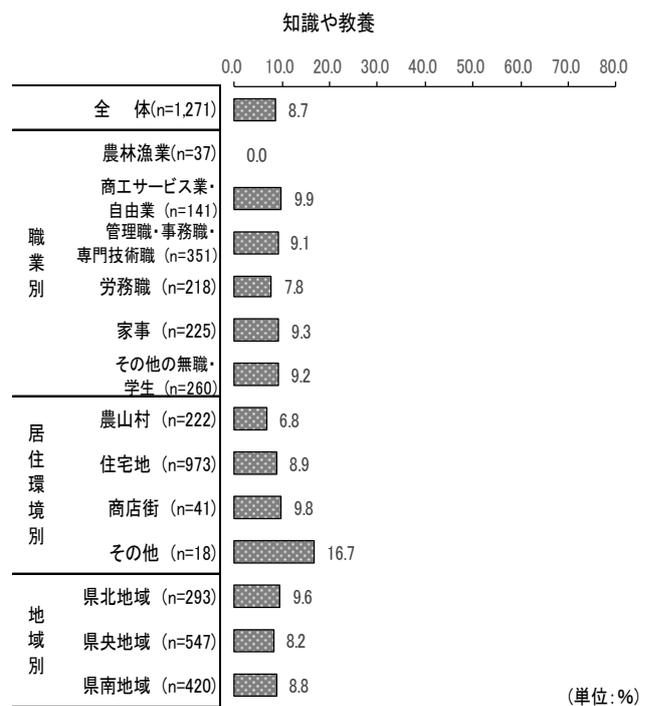
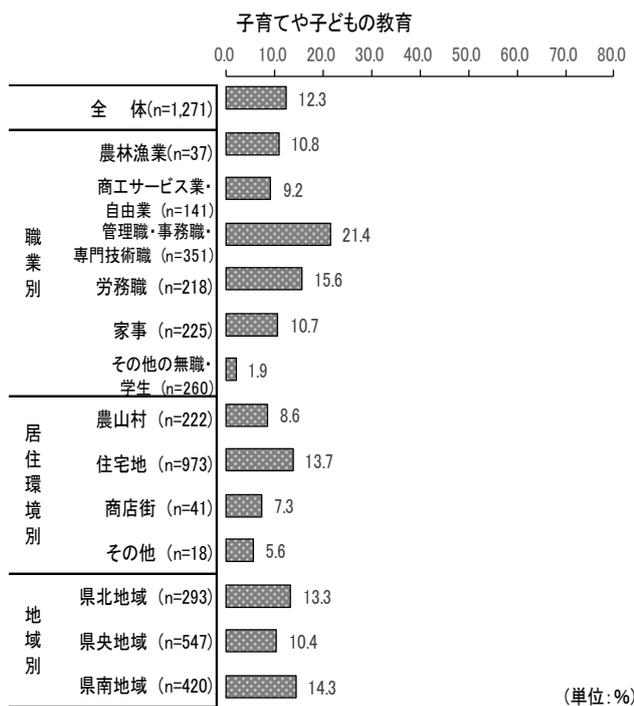
0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0



友人や知人との付き合い

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0





職業別でみると、「健康づくり」では〈家事〉73.8%が最も高く、〈管理職・事務職・専門技術職〉44.4%が最も低くなっている。「仕事（家事、学業）」では〈商工サービス業・自由業〉56.7%が最も高く、〈その他の無職・学生〉16.5%が最も低くなっている。

居住環境別でみると、「健康づくり」では〈商店街〉61.0%が最も高く、その他の分類ではいずれも5割台となっている。「仕事（家事、学業）」では〈その他〉22.2%を除く分類では、いずれも3割台となっている。

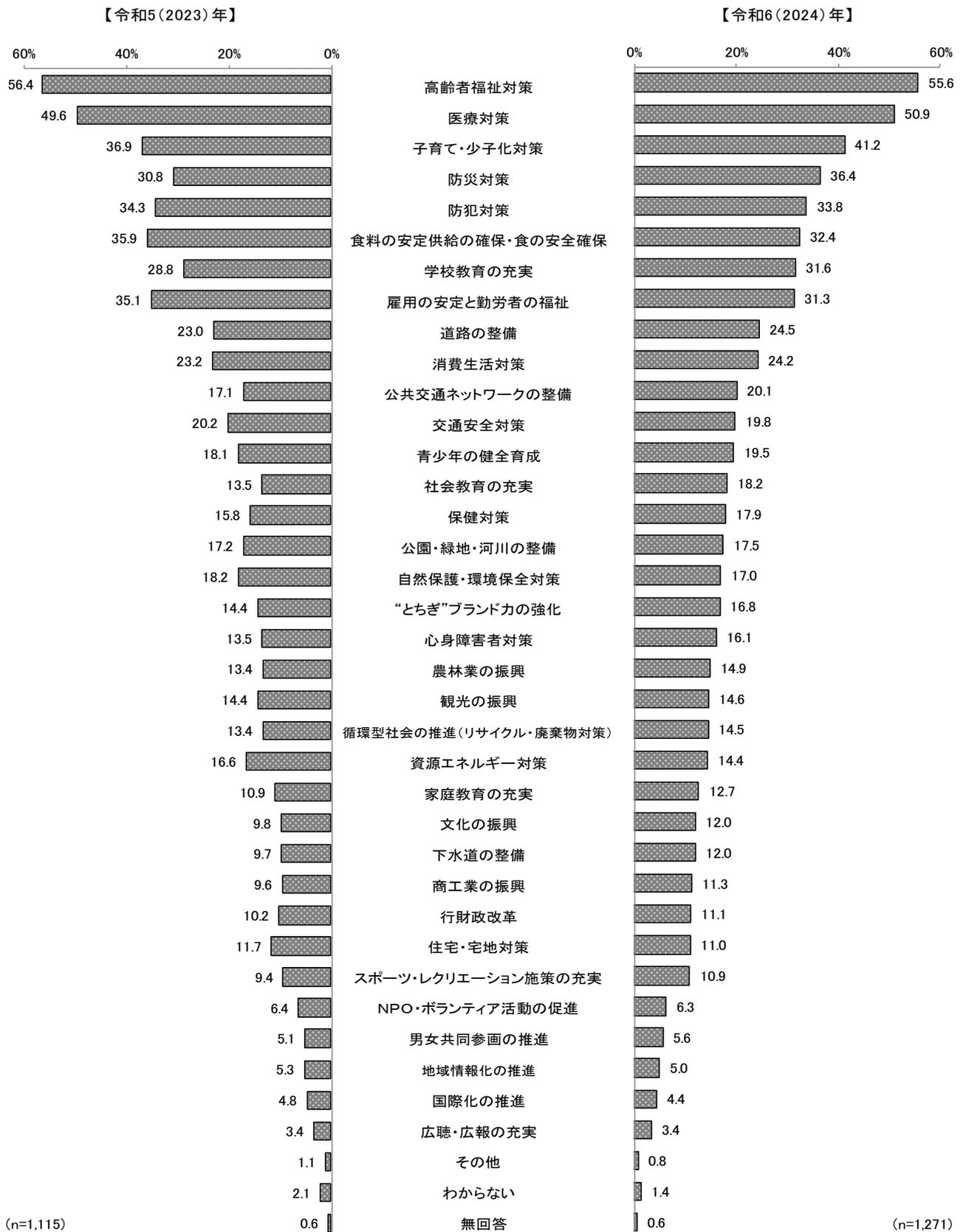
地域別でみると、「健康づくり」では〈県央地域〉60.5%が最も高く、〈県北地域〉と〈県南地域〉ではともに5割台となっている。「仕事（家事、学業）」では、すべての分類で3割台となっている。

2 県政への要望について

(1) 県政への要望

問6 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気な“とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,271]

1	学校教育の充実	31.6%
2	青少年の健全育成	19.5
3	家庭教育の充実	12.7
4	社会教育の充実	18.2
5	文化の振興	12.0
6	スポーツ・レクリエーション施策の充実	10.9
7	NPO・ボランティア活動の促進	6.3
8	広聴・広報の充実	3.4
9	国際化の推進	4.4
10	子育て・少子化対策	41.2
11	高齢者福祉対策	55.6
12	心身障害者対策	16.1
13	医療対策	50.9
14	保健対策	17.9
15	男女共同参画の推進	5.6
16	農林業の振興	14.9
17	食料の安定供給の確保・食の安全確保	32.4
18	商工業の振興	11.3
19	観光の振興	14.6
20	雇用の安定と勤労者の福祉	31.3
21	住宅・宅地対策	11.0
22	資源エネルギー対策	14.4
23	下水道の整備	12.0
24	公園・緑地・河川の整備	17.5
25	公共交通ネットワークの整備	20.1
26	道路の整備	24.5
27	地域情報化の推進	5.0
28	防災対策	36.4
29	防犯対策	33.8
30	交通安全対策	19.8
31	消費生活対策	24.2
32	自然保護・環境保全対策	17.0
33	循環型社会の推進（リサイクル・廃棄物対策）	14.5
34	行財政改革	11.1
35	“とちぎ”ブランド力の強化	16.8
36	その他	0.8
37	わからない	1.4
	(無回答)	0.6

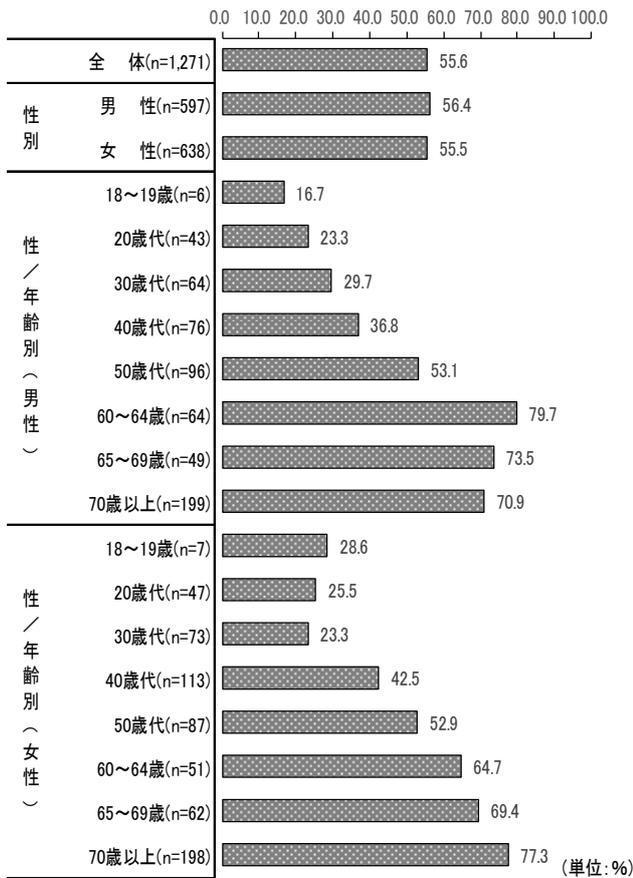


全体でみると、「高齢者福祉対策」(55.6%)が5割半ばと最も高く、次いで「医療対策」(50.9%)、「子育て・少子化対策」(41.2%)、「防災対策」(36.4%)、「防犯対策」(33.8%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(32.4%)の順となっている。

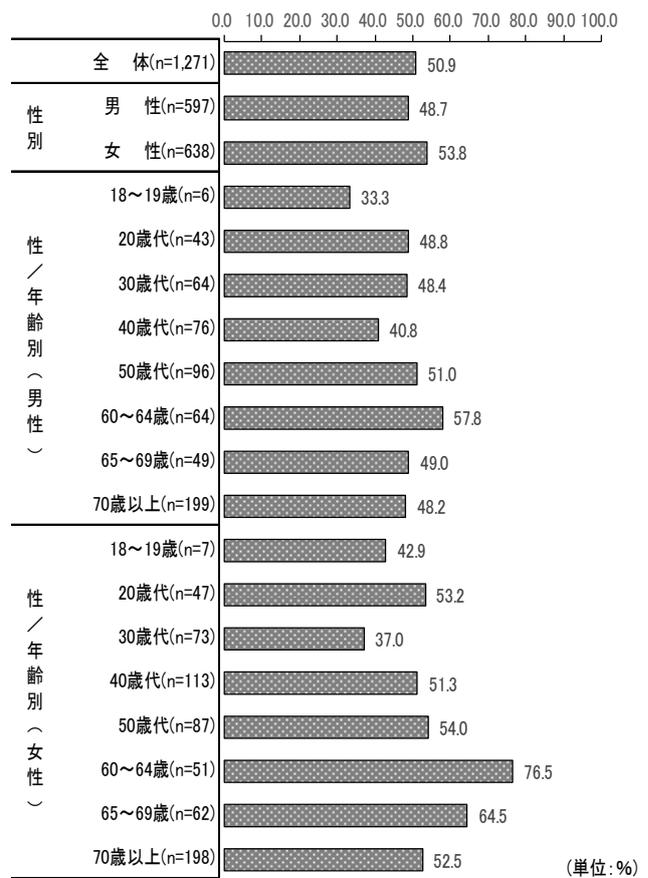
前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「防災対策」では5.6ポイント、「子育て・少子化対策」では4.3ポイントそれぞれ増加している。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

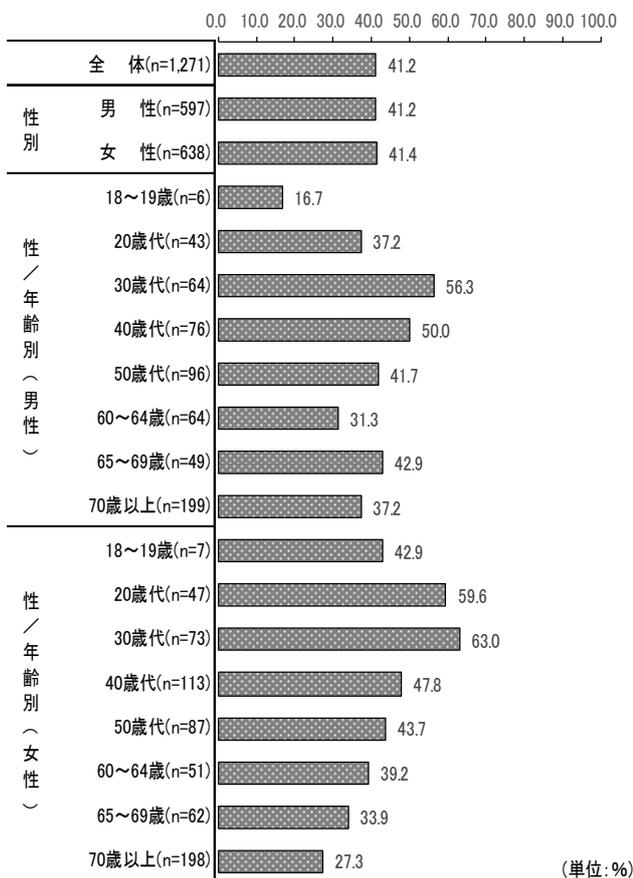
高齢者福祉対策



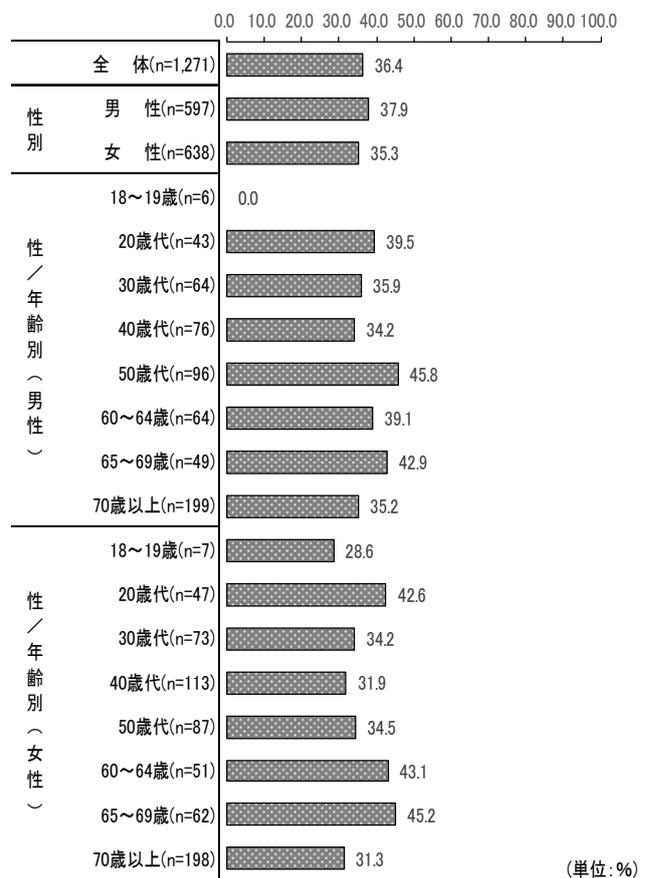
医療対策



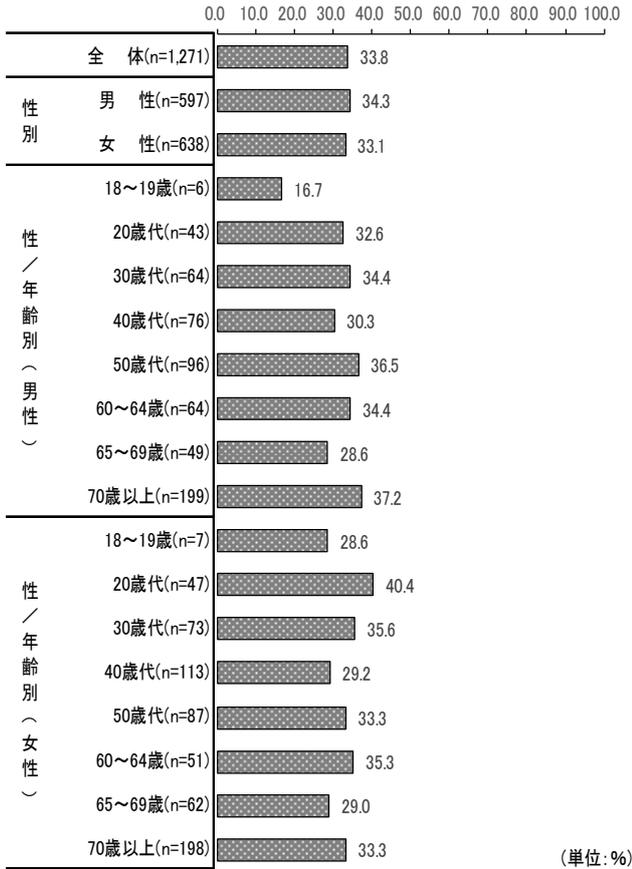
子育て・少子化対策



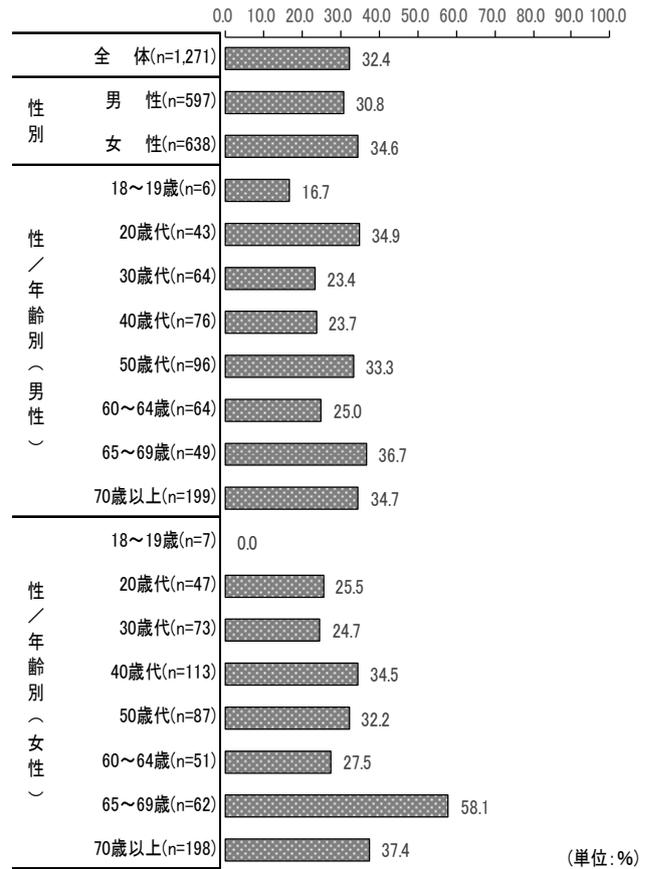
防災対策



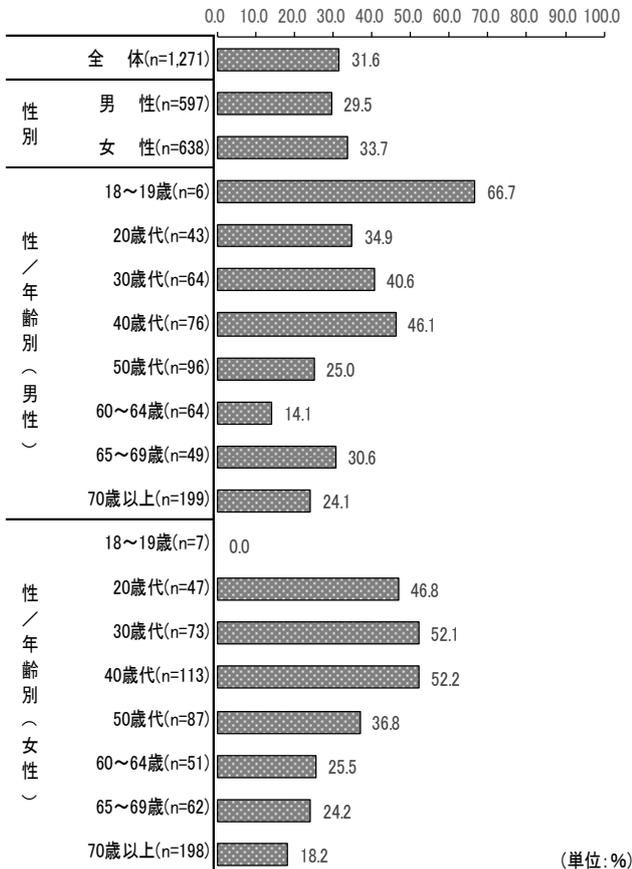
防犯対策



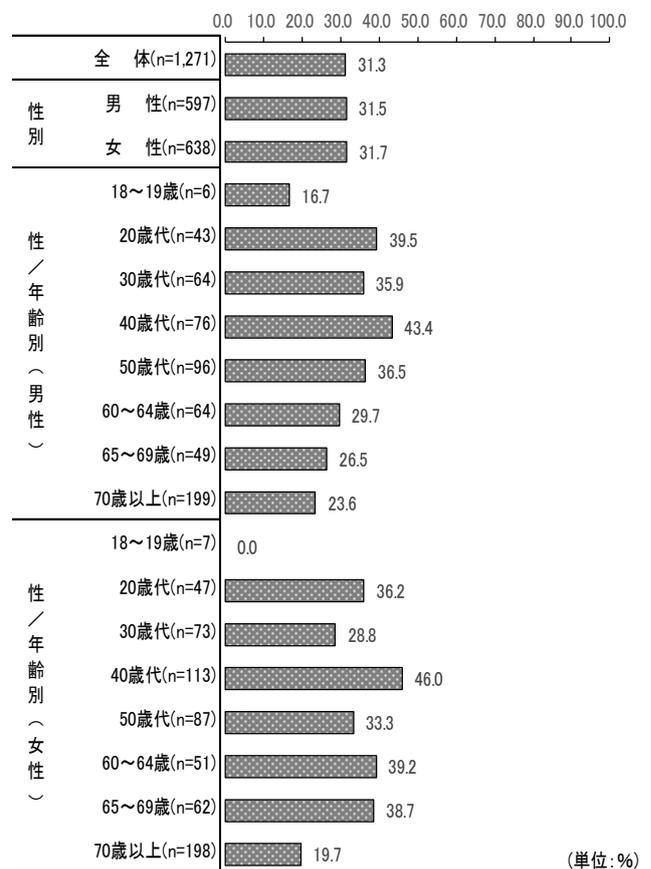
食料の安定供給の確保・食の安全確保

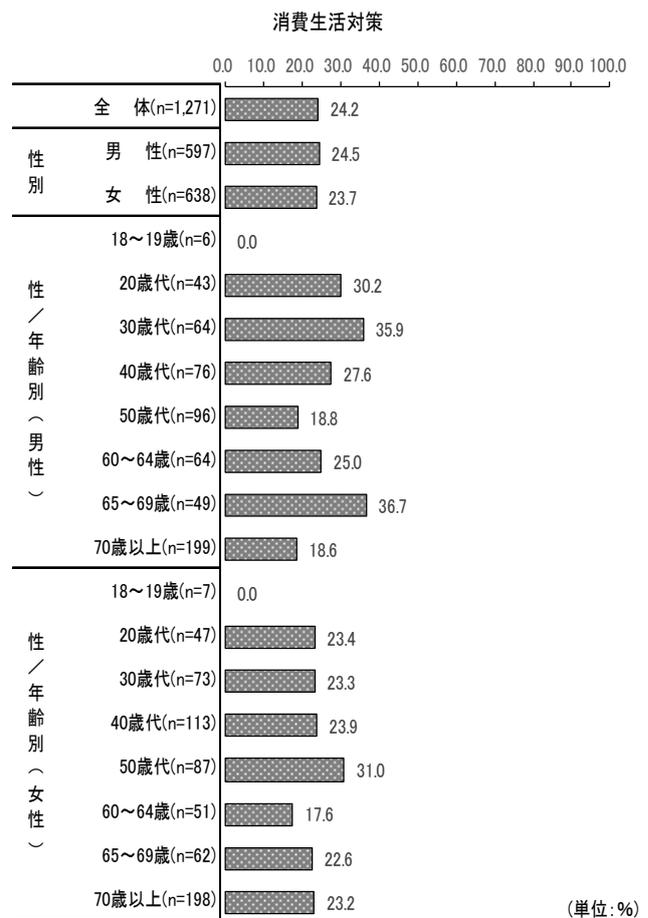
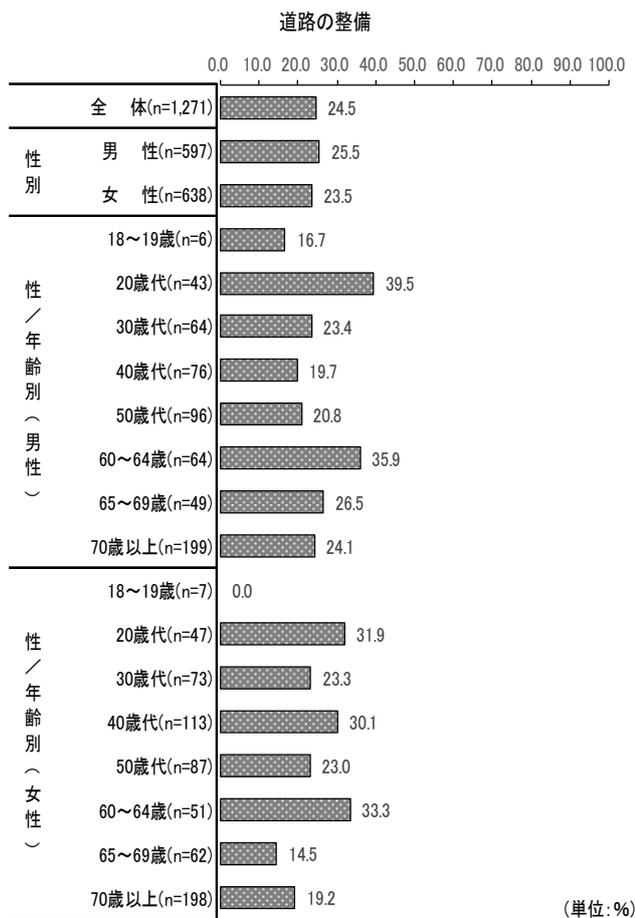


学校教育の充実



雇用の安定と勤労者の福祉



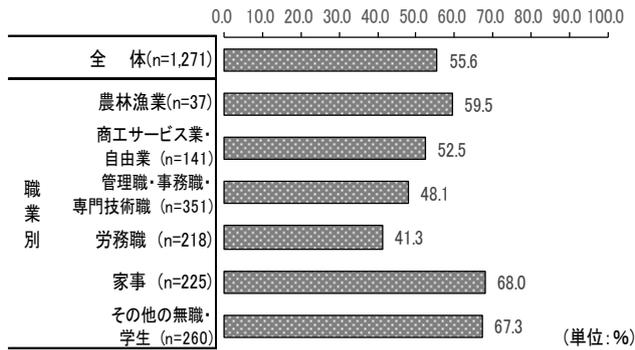


性別で見ると、「医療対策」では〈女性〉53.8%が、〈男性〉48.7%より5.1ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。「学校教育の充実」では〈女性〉33.7%が、〈男性〉29.5%より4.2ポイント高くなっている。

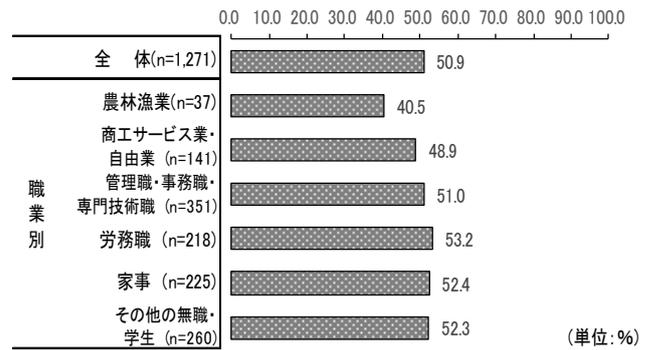
性別／年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈男性60～64歳〉79.7%が最も高く、〈男性20歳代〉と〈女性30歳代〉がともに23.3%で低くなっている。「医療対策」では〈女性60～64歳〉76.5%が最も高く、〈女性30歳代〉37.0%が最も低くなっている。「子育て・少子化対策」では〈女性30歳代〉63.0%が最も高く、〈女性70歳以上〉27.3%が低くなっている。

[職業別] (上位10項目)

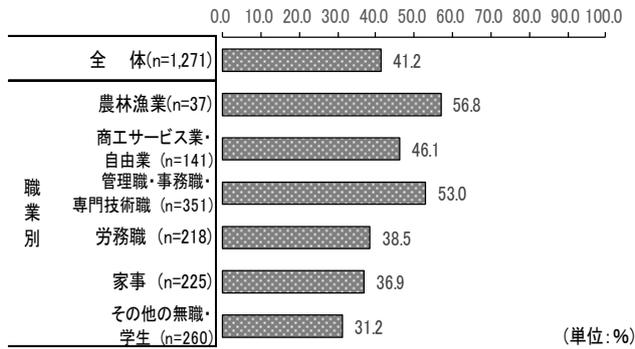
高齢者福祉対策



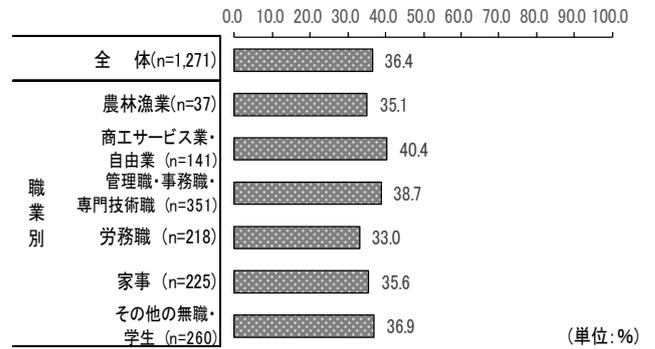
医療対策



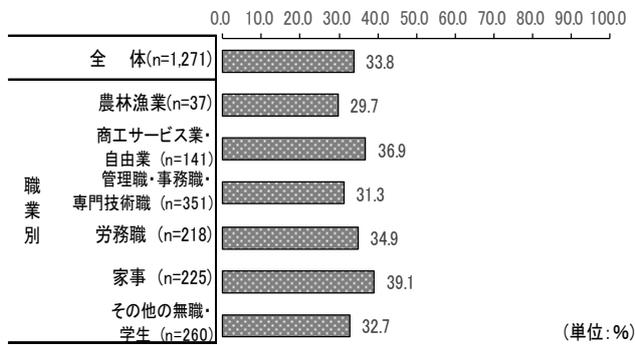
子育て・少子化対策



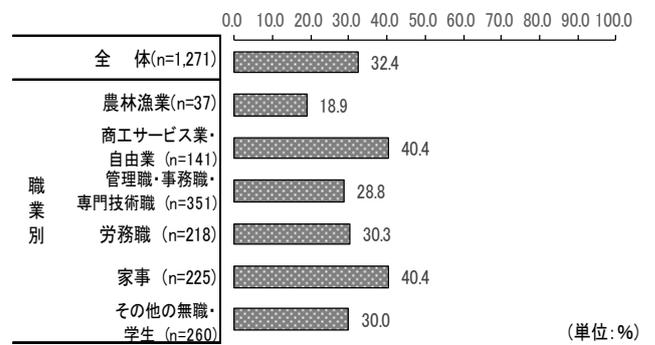
防災対策



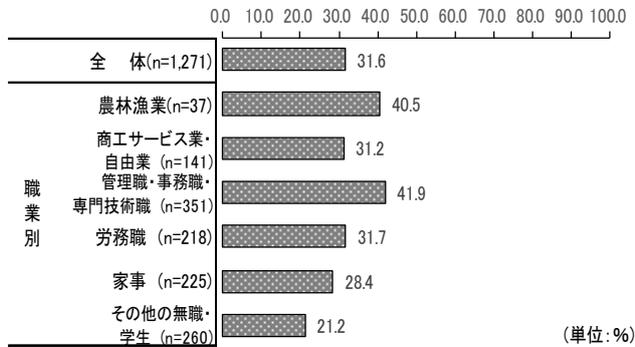
防犯対策



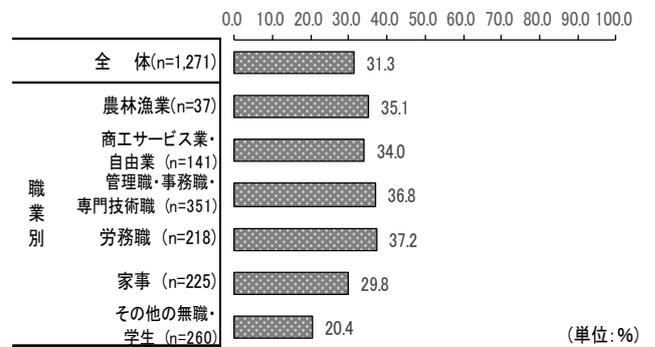
食料の安定供給の確保・食の安全確保

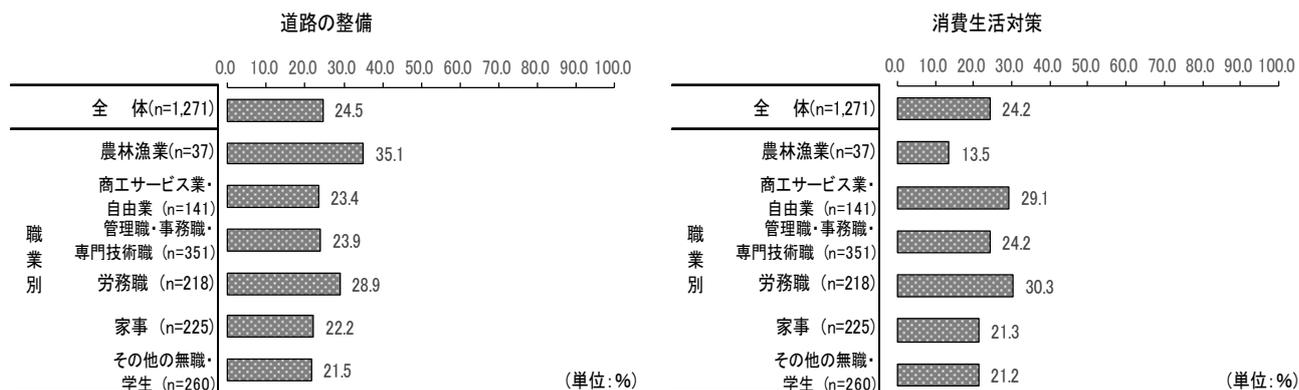


学校教育の充実



雇用の安定と勤労者の福祉





職業別でみると、「高齢者福祉対策」では〈家事〉68.0%が最も高く、〈労務職〉41.3%が最も低くなっている。「医療対策」では〈労務職〉53.2%が最も高く、〈農林漁業〉40.5%が最も低くなっている。「子育て・少子化対策」では〈農林漁業〉56.8%が最も高く、〈その他の無職・学生〉31.2%が最も低くなっている。

[過去の調査結果一年齢別]

(上位5項目)

年齢	年	順位				
		1位	2位	3位	4位	5位
全体	令和6(2024)年 (n=1,271)	高齢者福祉対策 55.6%	医療対策 50.9%	子育て・少子化対策 41.2%	防災対策 36.4%	防犯対策 33.8%
	令和5(2023)年 (n=1,115)	高齢者福祉対策 56.4%	医療対策 49.6%	子育て・少子化対策 36.9%	食料の安定供給の確保 ・食の安全確保 35.9%	雇用の安定と勤労者 の福祉 35.1%
	令和4(2022)年 (n=1,236)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 47.2%	雇用の安定と勤労者 の福祉 35.6%	子育て・少子化対策 35.4%	防災対策 33.7%
	令和3(2021)年 (n=1,288)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 51.9%	防災対策 38.5%	雇用の安定と勤労者 の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 35.2%
	令和2(2020)年 (n=1,307)	高齢者福祉対策/医療対策 53.3%		防災対策 40.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 31.9%
20 〜 39 歳	令和6(2024)年 (n=236)	子育て・少子化対策 55.5%	医療対策 46.6%	学校教育の充実 44.9%	防災対策 37.7%	防犯対策 36.0%
	令和5(2023)年 (n=188)	子育て・少子化対策 59.0%	雇用の安定と勤労者 の福祉 46.3%	学校教育の充実 44.1%	医療対策 43.1%	防犯対策 33.5%
	令和4(2022)年 (n=213)	子育て・少子化対策 52.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 43.7%	医療対策 41.8%	学校教育の充実 40.4%	防災対策 37.6%
	令和3(2021)年 (n=288)	子育て・少子化対策 58.7%	学校教育の充実 44.8%	医療対策 42.4%	雇用の安定と勤労者 の福祉 41.0%	防災対策 37.5%
	令和2(2020)年 (n=218)	子育て・少子化対策 52.3%	医療対策 46.8%	学校教育の充実 46.3%	雇用の安定と勤労者 の福祉 41.3%	防災対策 37.2%
40 〜 59 歳	令和6(2024)年 (n=382)	医療対策 49.2%	子育て・少子化対策/高齢者福祉対策 46.1%		学校教育の充実 40.3%	雇用の安定と勤労者 の福祉 40.1%
	令和5(2023)年 (n=329)	医療対策 55.0%	高齢者福祉対策 51.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 45.0%	子育て・少子化対策 38.6%	防犯対策 34.7%
	令和4(2022)年 (n=379)	医療対策 53.6%	高齢者福祉対策 50.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 46.2%	子育て・少子化対策 39.6%	学校教育の充実/ 防災対策 34.8%
	令和3(2021)年 (n=398)	医療対策 54.5%	高齢者福祉対策 48.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 42.2%	防災対策 38.7%	子育て・少子化対策 33.2%
	令和2(2020)年 (n=449)	医療対策 55.0%	高齢者福祉対策 49.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 46.3%	防災対策 43.4%	学校教育の充実 34.7%
60 〜 69 歳	令和6(2024)年 (n=227)	高齢者福祉対策 72.2%	医療対策 62.1%	防災対策 42.3%	食料の安定供給の確保 ・食の安全確保 37.4%	子育て・少子化対策 36.6%
	令和5(2023)年 (n=221)	高齢者福祉対策 67.4%	医療対策 51.6%	食料の安定供給の確保 ・食の安全確保 38.0%	防犯対策 37.6%	防災対策 35.7%
	令和4(2022)年 (n=228)	高齢者福祉対策 61.4%	医療対策 46.9%	防災対策 32.0%	雇用の安定と勤労者 の福祉 31.6%	子育て・少子化対策 30.7%
	令和3(2021)年 (n=247)	高齢者福祉対策 67.6%	医療対策 59.5%	防災対策 41.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 36.0%	防犯対策 30.8%
	令和2(2020)年 (n=271)	高齢者福祉対策 62.7%	医療対策 55.4%	防災対策 43.2%	雇用の安定と勤労者 の福祉 30.3%	防犯対策 26.9%
70 歳 以上	令和6(2024)年 (n=401)	高齢者福祉対策 73.8%	医療対策 49.9%	食料の安定供給の確保 ・食の安全確保 35.9%	防犯対策 35.2%	防災対策 32.9%
	令和5(2023)年 (n=355)	高齢者福祉対策 73.8%	医療対策 47.6%	食料の安定供給の確保 ・食の安全確保 41.4%	防犯対策 31.8%	防災対策 27.9%
	令和4(2022)年 (n=379)	高齢者福祉対策 67.5%	医療対策 44.1%	食料の安定供給の確保 ・食の安全確保 37.2%	防災対策 33.0%	防犯対策 26.9%
	令和3(2021)年 (n=312)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 51.0%	防災対策 37.8%	食料の安定供給の確保 ・食の安全確保 30.8%	防犯対策 28.2%
	令和2(2020)年 (n=315)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 54.3%	防災対策 34.6%	防犯対策 28.6%	食料の安定供給の確保 ・食の安全確保 26.0%

上位5項目について、全体及び4区分した年齢層別に過去4年の調査結果と比較すると、全体では、令和2(2020)年以降「高齢者福祉対策」と「医療対策」が同率も含め上位2位となっている。また、「子育て・少子化対策」は前回(令和5(2023)年)の調査結果に引き続き3位となっている。なお、前回(令和5(2023)年)は7位であった「防災対策」、6位であった「防犯対策」は、今回調査ではそれぞれ4位、5位となっている。

20～39歳では、「子育て・少子化対策」が令和2(2020)年以降1位となっている。令和2(2020)年以降、上位5項目に「雇用の安定と勤労者の福祉」が含まれていたが、今回調査では上位5項目から外れている。

40～59歳では、令和2(2020)年以降「医療対策」が1位、「高齢者福祉対策」が同率も含め2位となっている。「子育て・少子化対策」は令和3(2021)年は5位、令和4(2022)年、令和5(2023)年は4位、今回調査では2位となっている。

60～69歳では、令和2(2020)年以降、「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。令和4(2022)年まで3位であった「防災対策」が前回(令和5(2023)年)は5位に下がったものの、今回調査では再び3位となっている。

70歳以上では、令和2(2020)年以降、「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。また、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が、令和4(2022)年以降3位となっている。

3 日常生活について

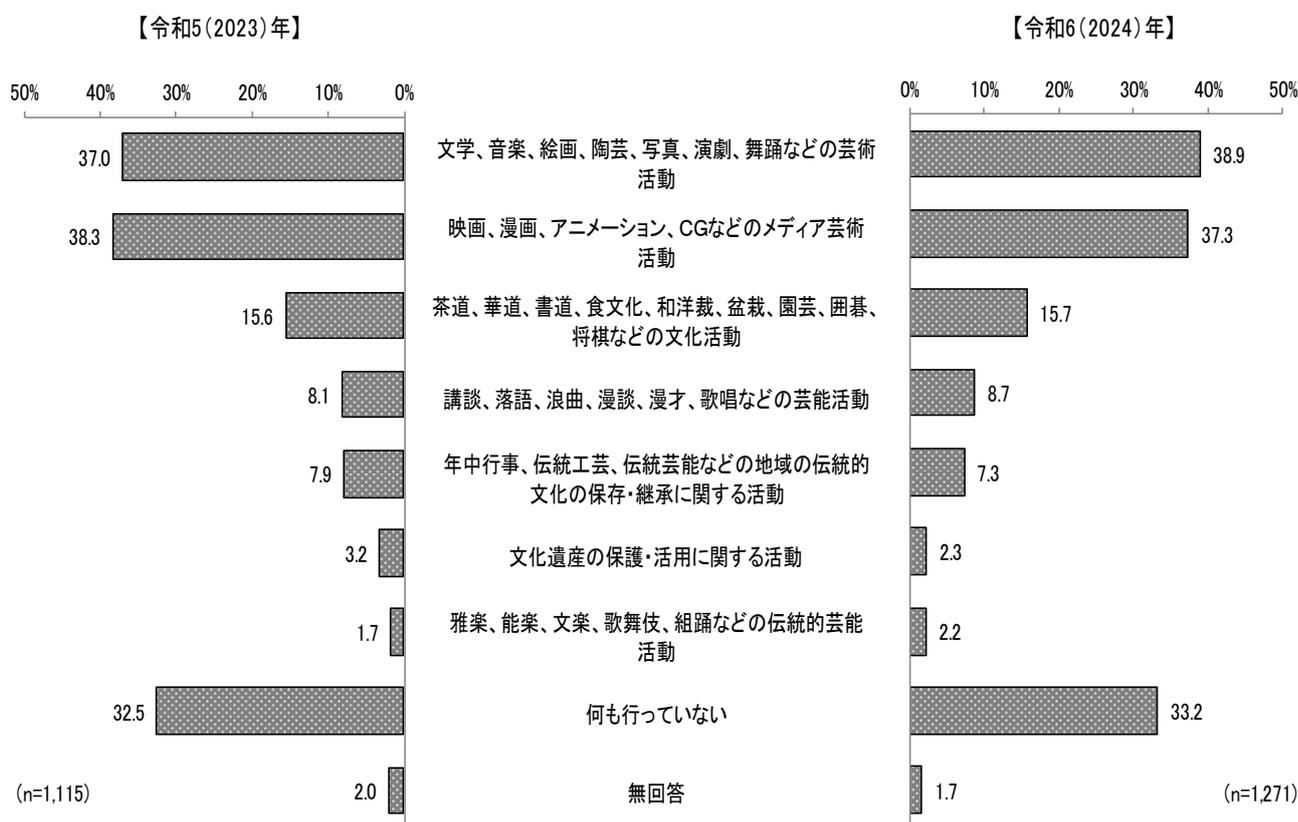
(1) 文化・芸術活動について

問7 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,271]

1	文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動	38.9%
2	映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動	37.3
3	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動	2.2
4	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動	8.7
5	茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動	15.7
6	年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化的の保存・継承に関する活動	7.3
7	文化遺産の保護・活用に関する活動	2.3
8	何も行っていない	33.2
	(無回答)	1.7

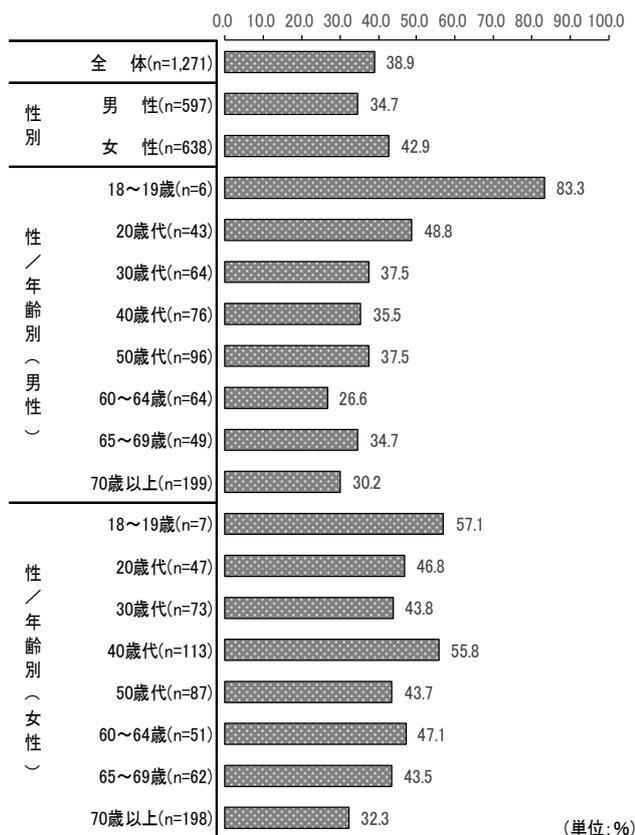


全体でみると、「文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（38.9%）が4割弱で最も高く、次いで「映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動（以下『メディア芸術活動』という。）」（37.3%）の順となっている。一方、「何も行っていない」（33.2%）が3割台前半となっている。

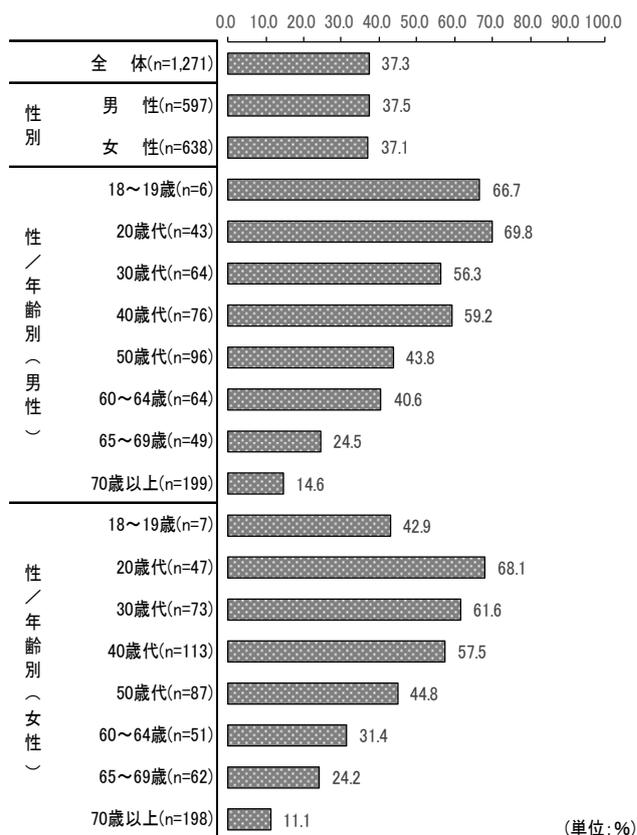
前回（令和5（2023）年）の調査結果と比較すると、『芸術活動』では1.9ポイント増加している。また、「何も行っていない」は同程度となっている。

[性別・性／年齢別]

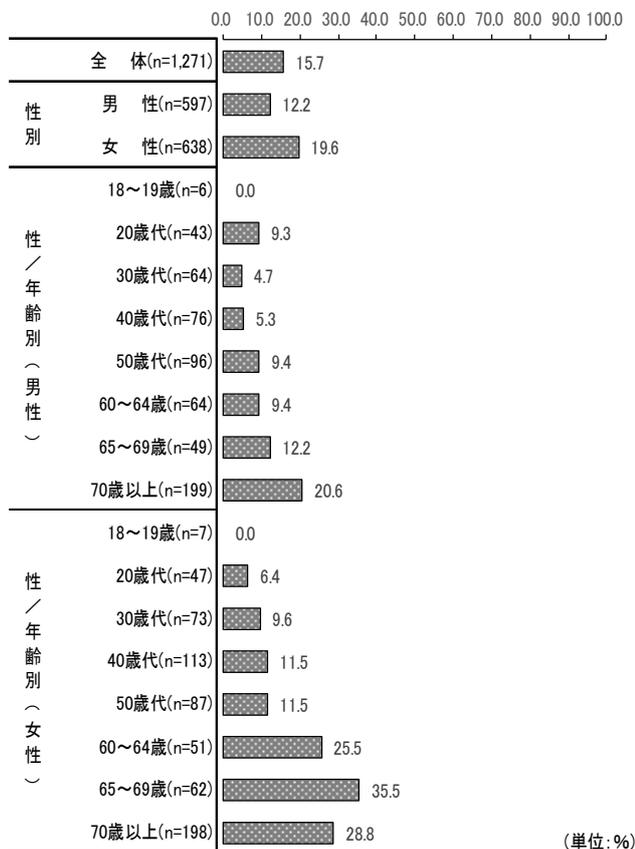
文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動



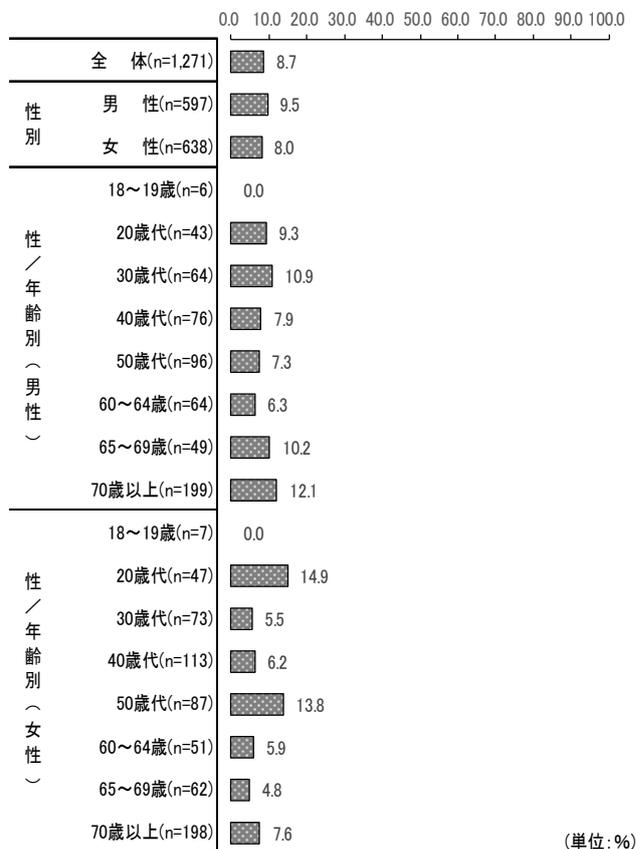
映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動



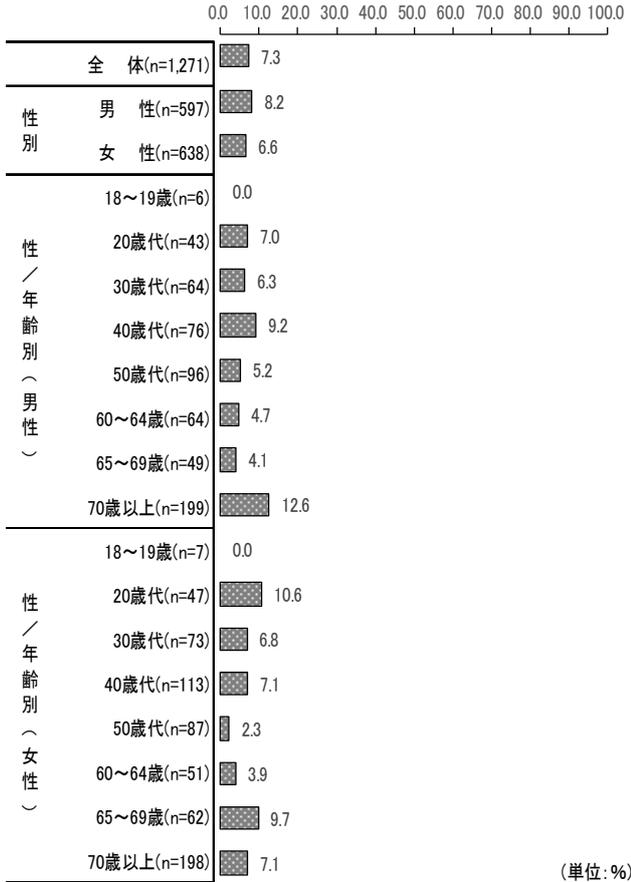
茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動



講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動



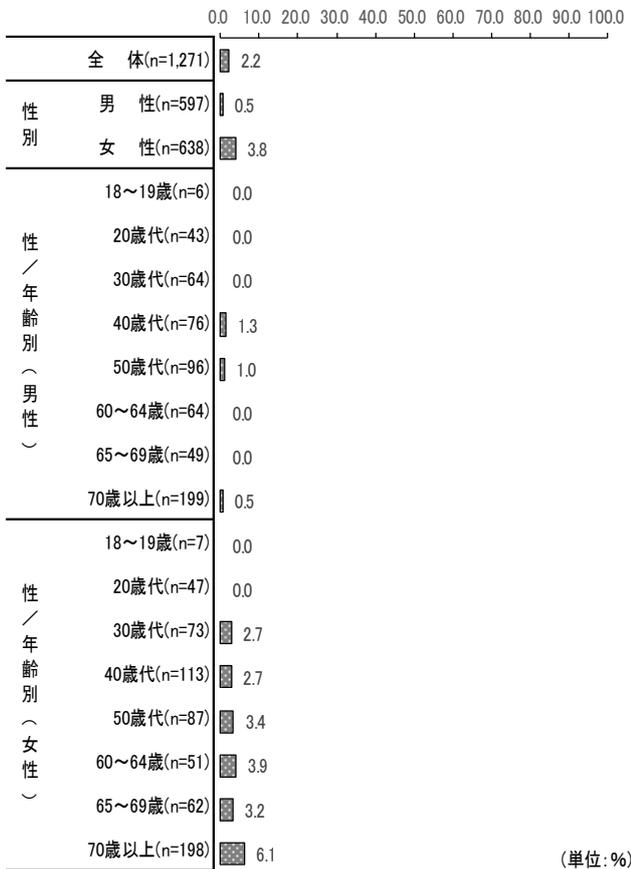
年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動



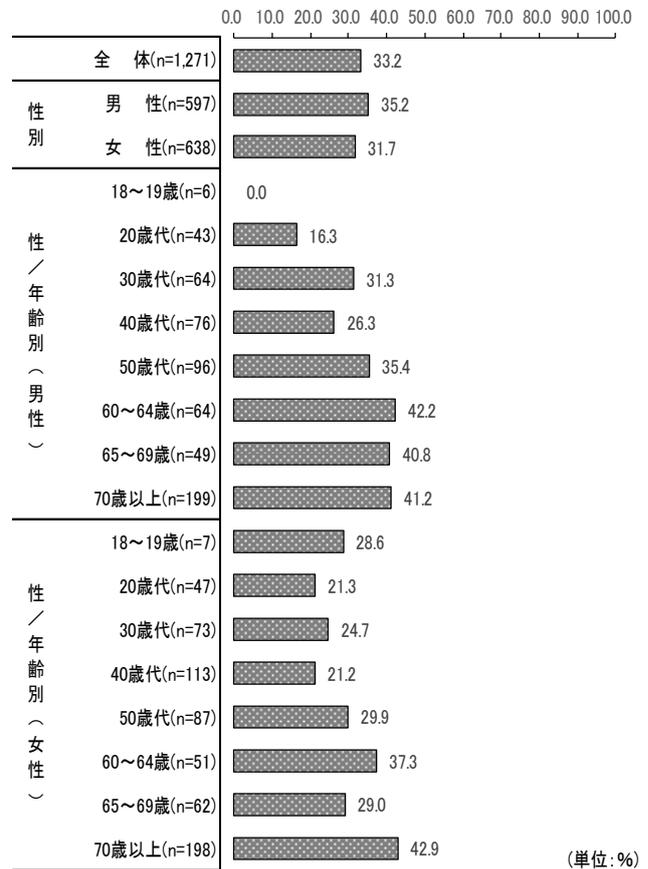
文化遺産の保護・活用に関する活動



雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動



何も行っていない

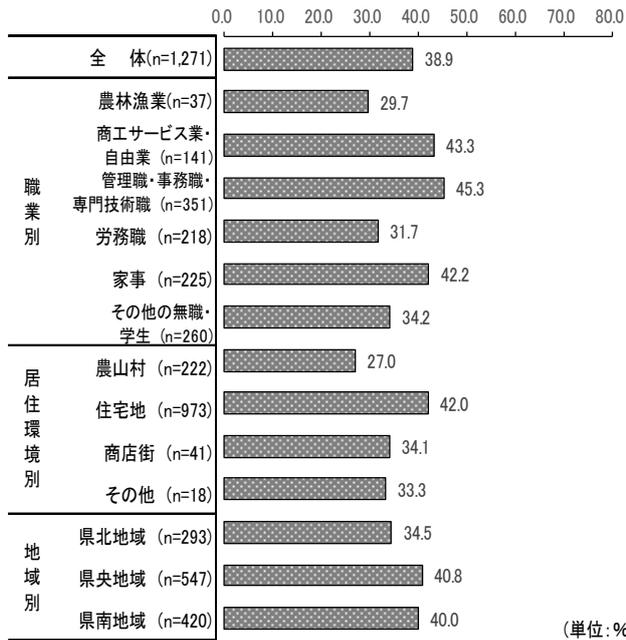


性別でみると、『芸術活動』では〈女性〉42.9%が、〈男性〉34.7%より8.2ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。「茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」では〈女性〉19.6%が、〈男性〉12.2%より7.4ポイント高くなっている。

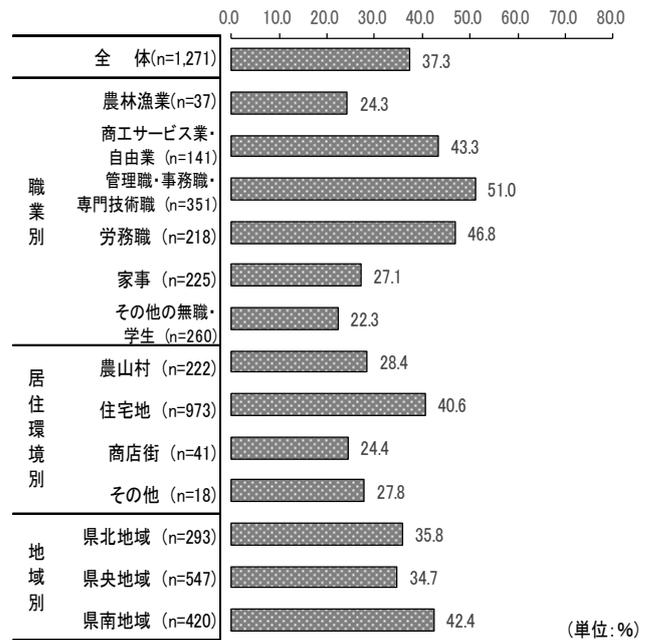
性／年齢別でみると、『芸術活動』では〈女性40歳代〉55.8%が高く、〈男性60～64歳〉26.6%が最も低くなっている。『メディア芸術活動』では〈男性20歳代〉69.8%が最も高く、〈女性70歳以上〉11.1%が最も低くなっている。『文化活動』では〈女性65～69歳〉35.5%が最も高く、〈男性30歳代〉4.7%が低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]

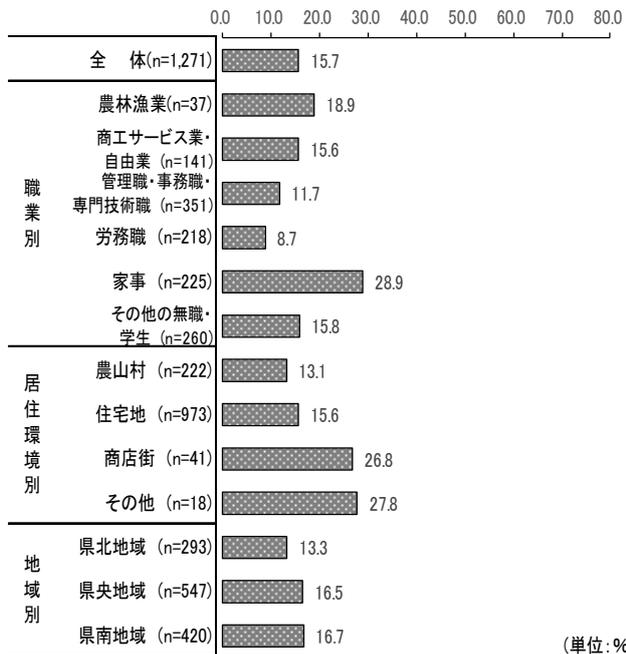
文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動



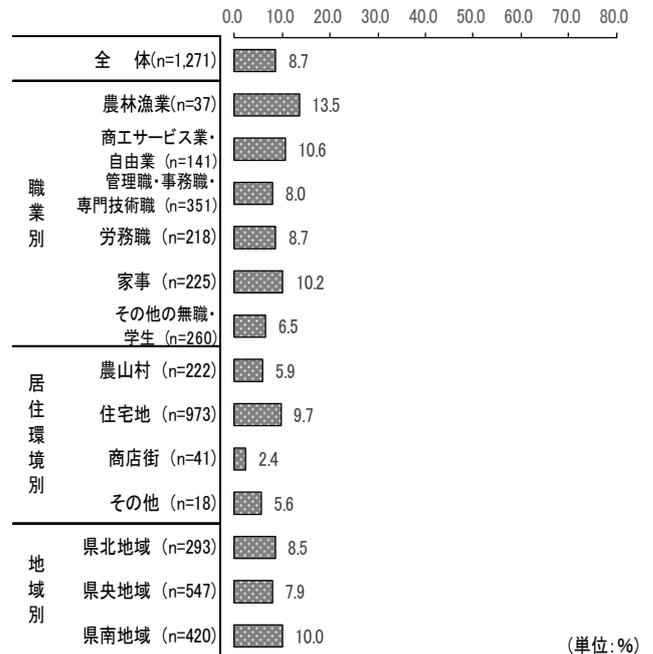
映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動



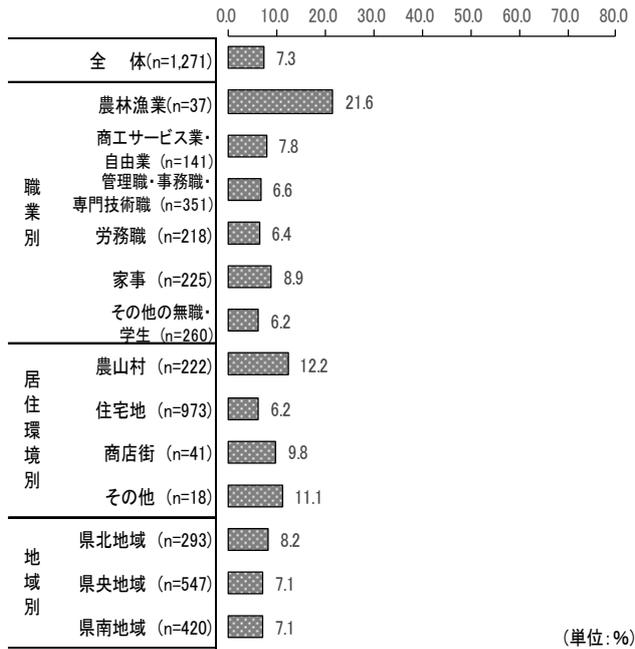
茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動



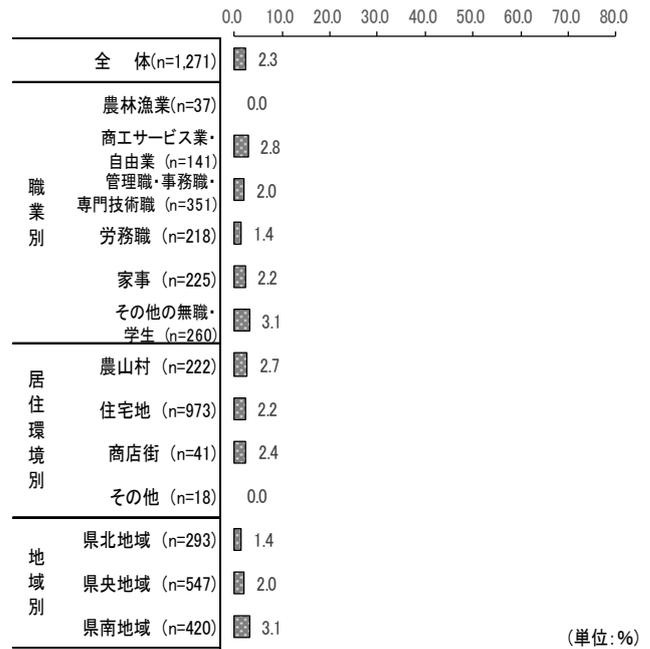
講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動



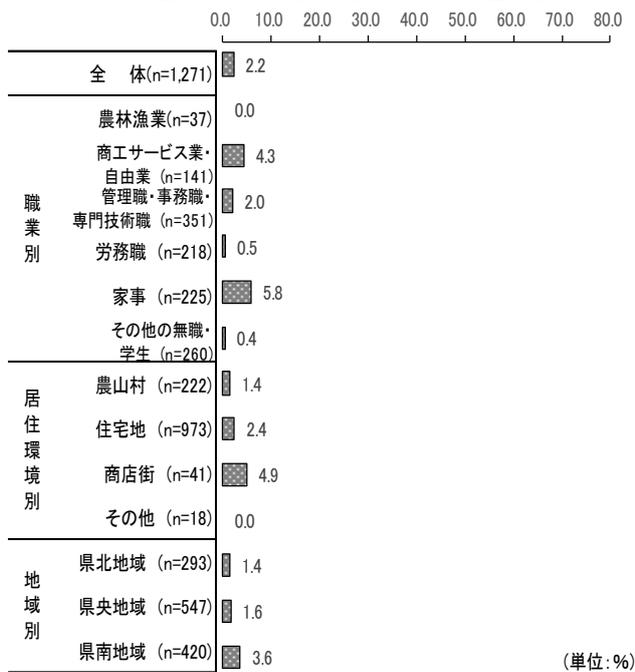
年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動



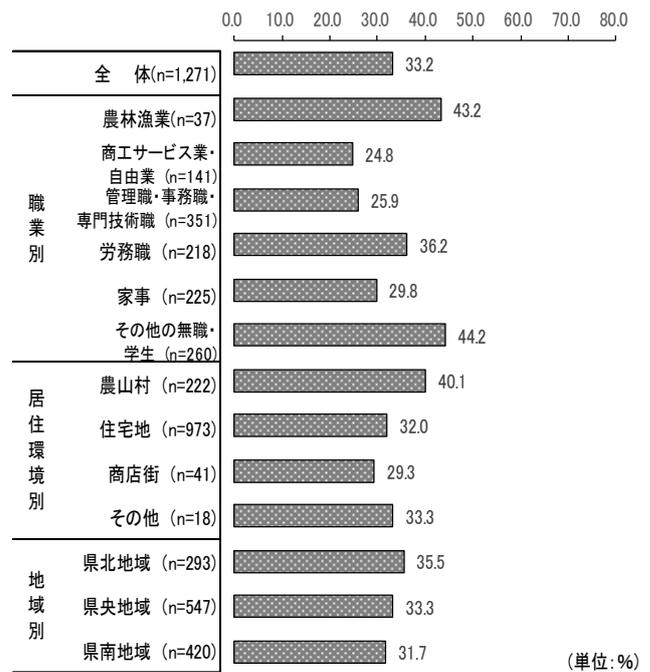
文化遺産の保護・活用に関する活動



雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動



何も行っていない



職業別でみると、『芸術活動』では〈管理職・事務職・専門技術職〉45.3%が最も高く、〈農林漁業〉29.7%が最も低くなっている。『メディア芸術活動』では〈管理職・事務職・専門技術職〉51.0%が最も高く、〈その他の無職・学生〉22.3%が最も低くなっている。『文化活動』では〈家事〉28.9%が最も高く、〈労務職〉8.7%が最も低くなっている。

居住環境別でみると、『芸術活動』では〈住宅地〉42.0%が最も高く、〈農山村〉27.0%が最も低くなっている。『メディア芸術活動』では〈住宅地〉40.6%が最も高く、〈商店街〉24.4%が最も低くなっている。

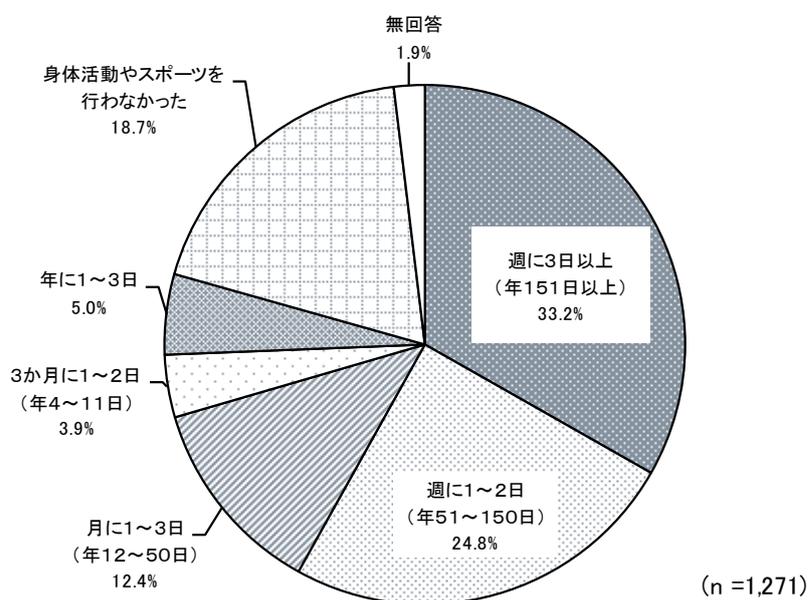
地域別でみると、『芸術活動』では〈県央地域〉と〈県南地域〉がともに約4割、〈県北地域〉が34.5%となっている。

(2) スポーツ活動について

問8 あなたは、この1年間にどの程度身体活動やスポーツ(※)を行いましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

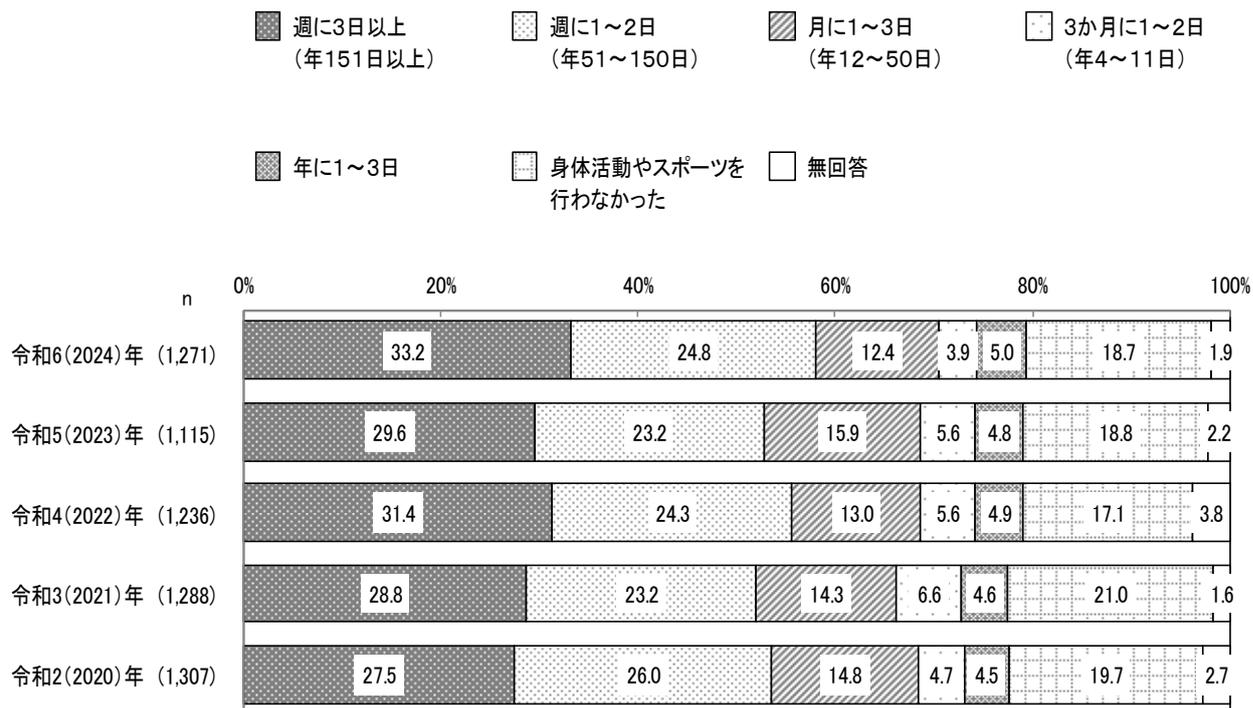
※ ここでは「身体活動やスポーツ」を、「散歩や階段昇降など、健康・体力や美容の保持増進のための活動」や「家事・育児・通勤・通学など日常生活の中で意識的に身体を動かすこと」まで幅広く捉えることとします。

1 週に3日以上 (年151日以上)	33.2%	4 3か月に1~2日 (年4~11日)	3.9%
2 週に1~2日 (年51~150日)	24.8%	5 年に1~3日	5.0%
3 月に1~3日 (年12~50日)	12.4%	6 身体活動やスポーツを行わなかった	18.7%
		(無回答)	1.9%



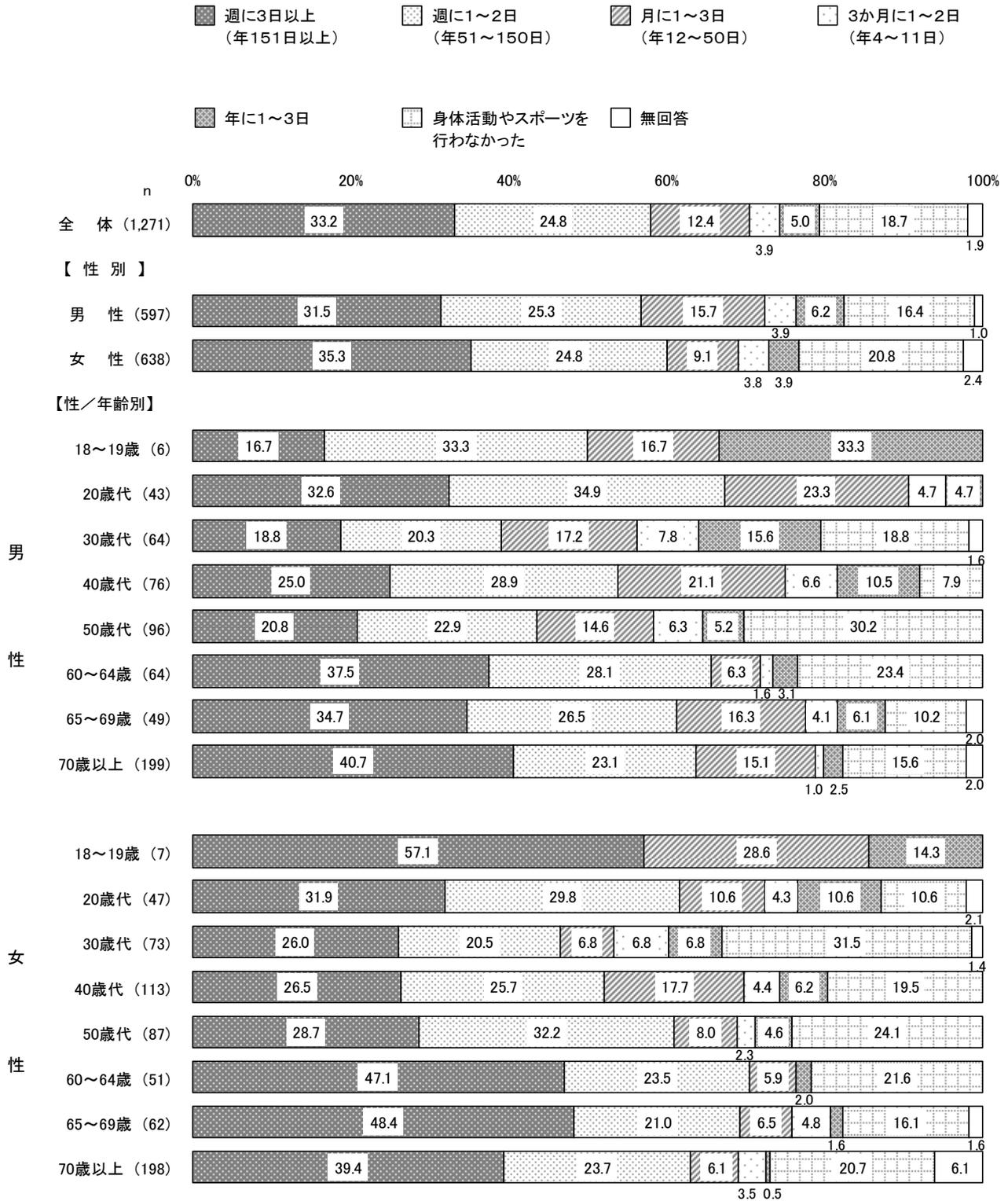
全体で見ると、「週に3日以上(年151日以上)」(33.2%)が3割台前半で最も高く、次いで「週に1~2日(年51~150日)」(24.8%)、「月に1~3日(年12~50日)」(12.4%)の順となっている。一方、「身体活動やスポーツを行わなかった」(18.7%)が2割弱となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、「週に3日以上 (年151日以上)」が前回 (令和5(2023)年) から3.6ポイント増加している。一方、「月に1~3日 (年12~50日)」が前回 (令和5(2023)年) から3.5ポイント減少している。

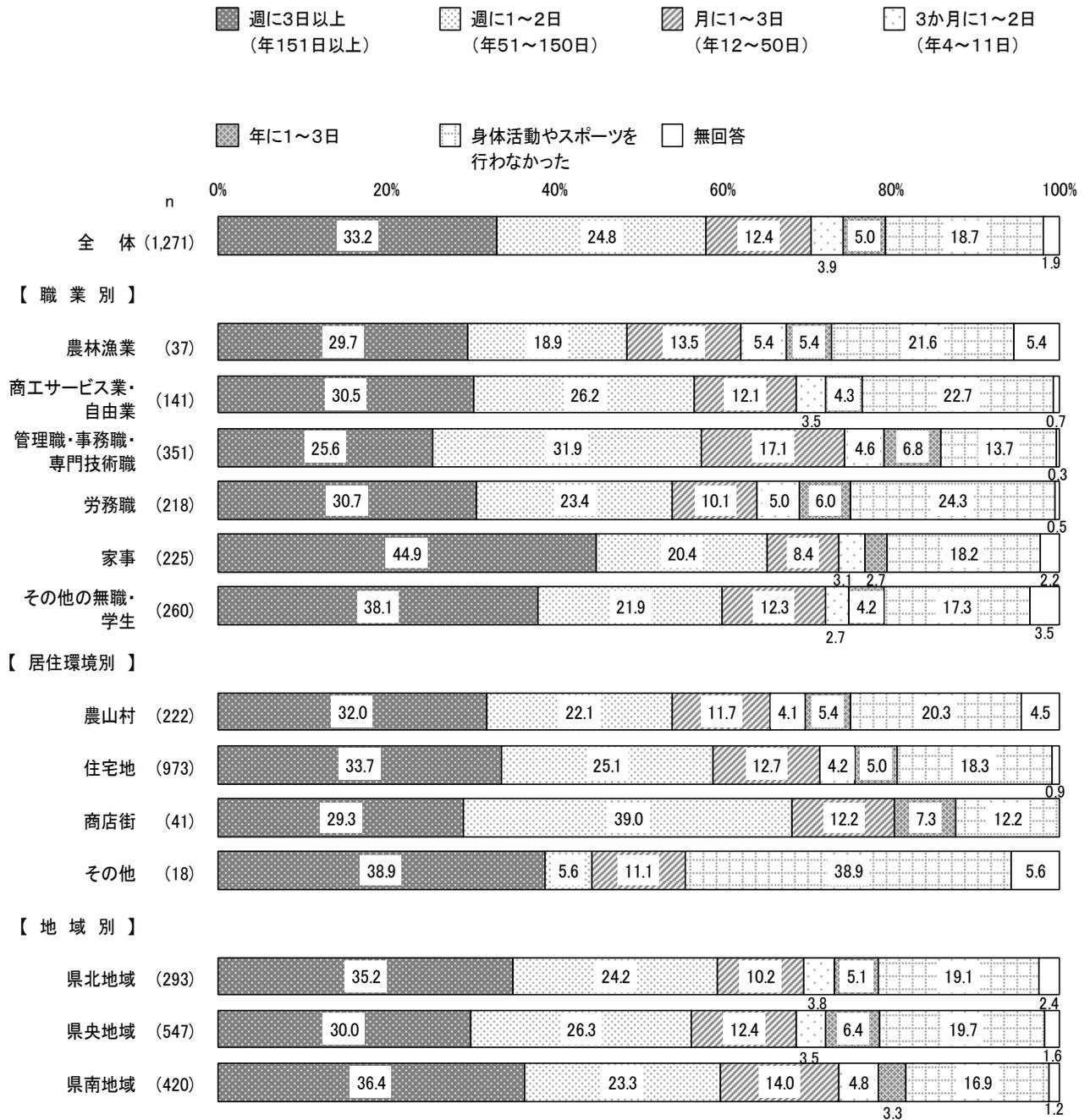
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「週3日以上 (年151日以上)」では〈女性〉35.3%が、〈男性〉31.5%より3.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「週3日以上 (年151日以上)」では〈女性65~69歳〉48.4%が高く、〈男性30歳代〉18.8%が低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈家事〉44.9%が最も高く、〈管理職・事務職・専門技術職〉25.6%が最も低くなっている。

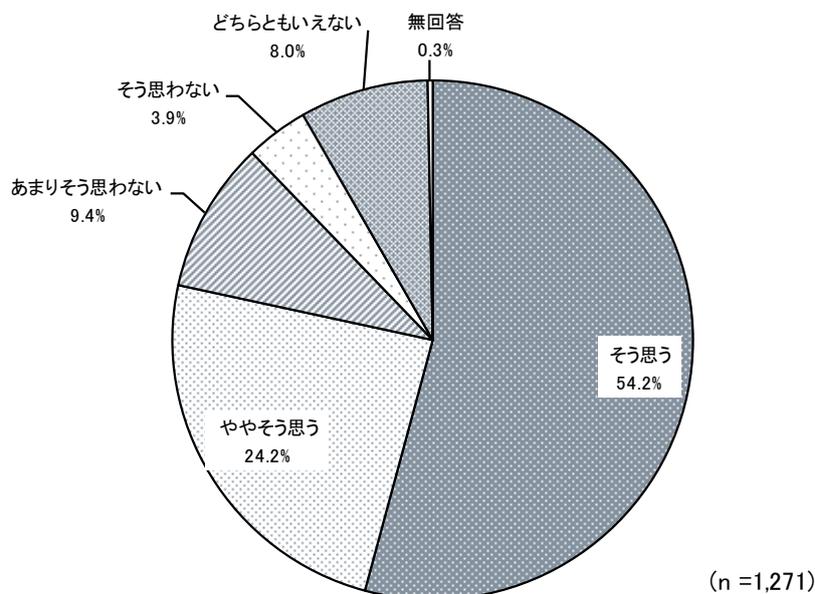
居住環境別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈その他〉38.9%が最も高く、〈商店街〉29.3%が最も低くなっている。

地域別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」では、すべての分類で3割台となっている。

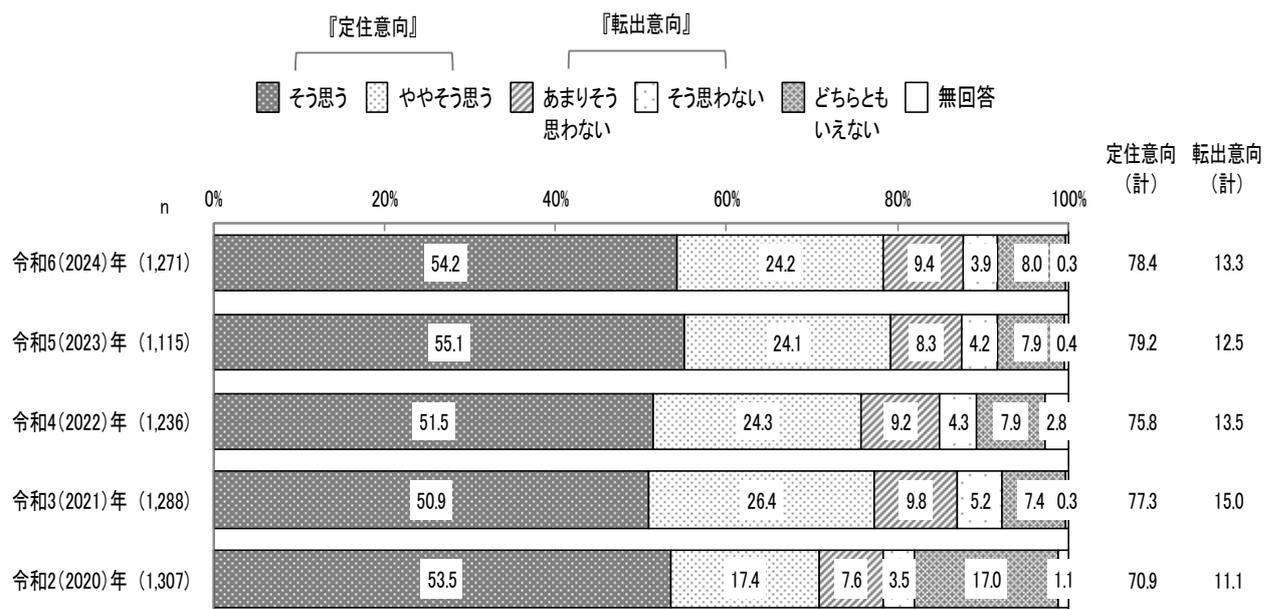
(3) 住んでいる地域について

問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1	そう思う	54.2%	4	そう思わない	3.9%
2	ややそう思う	24.2	5	どちらともいえない	8.0
3	あまりそう思わない	9.4		(無回答)	0.3

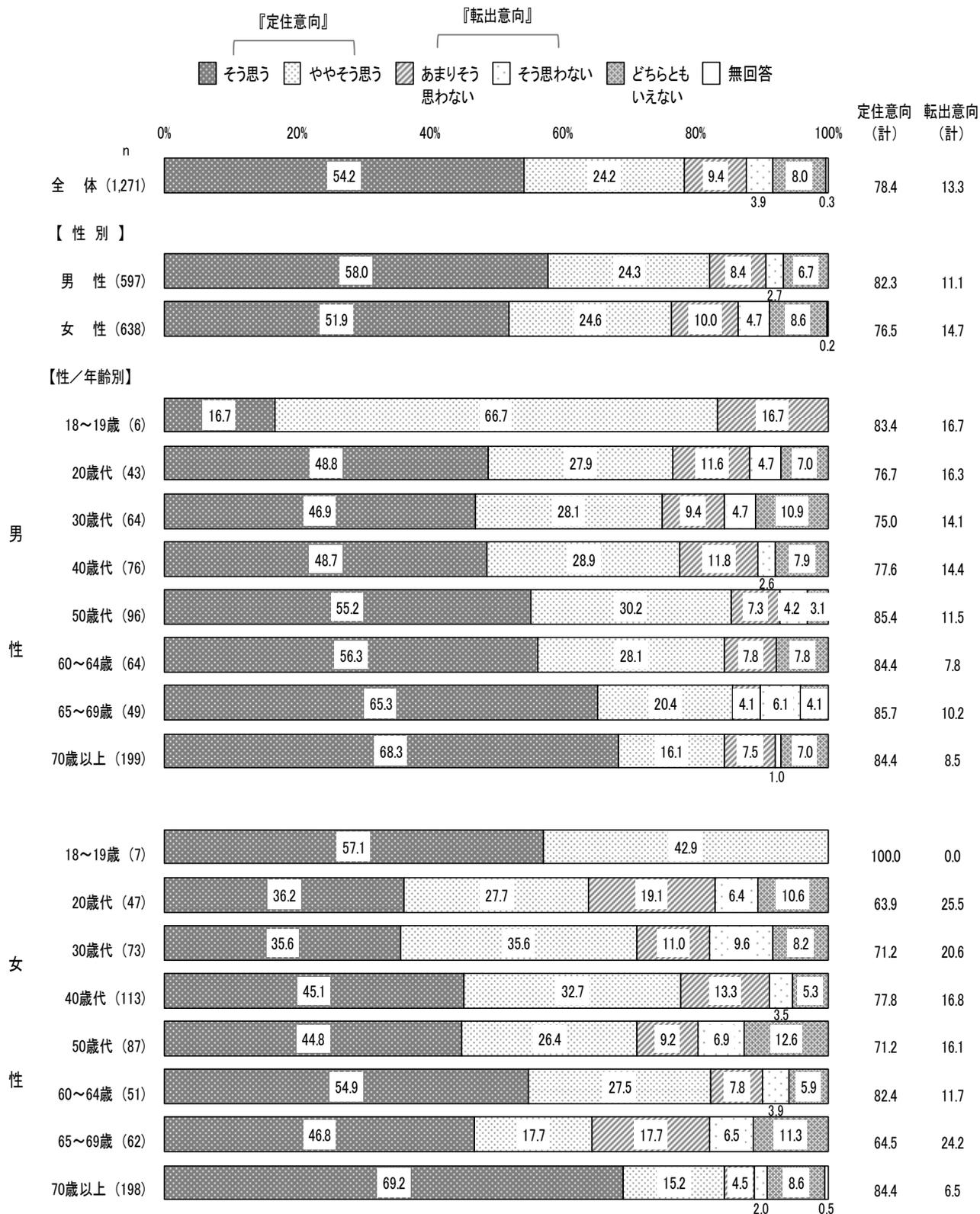


全体で見ると、「そう思う」(54.2%)と「ややそう思う」(24.2%)の2つを合わせた『定住意向』(78.4%)が8割弱となっている。一方、「あまりそう思わない」(9.4%)と「そう思わない」(3.9%)の2つを合わせた『転出意向』(13.3%)が1割台前半となっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和5(2023)年)と大きな傾向の違いはみられない。

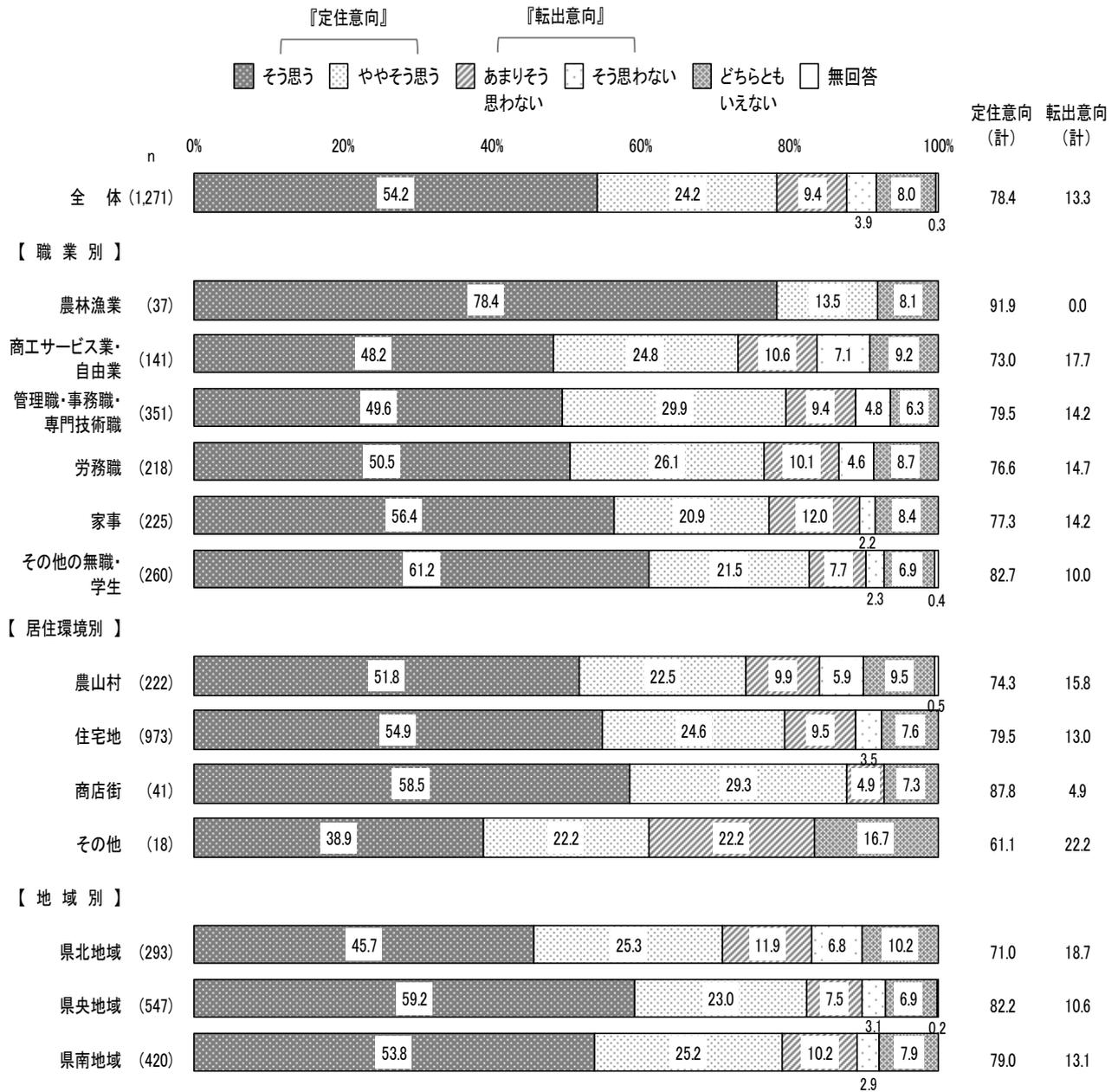
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『定住意向』では〈男性〉82.3%が、〈女性〉76.5%より5.8ポイント高くなっている。一方、『転出意向』では〈女性〉14.7%が、〈男性〉11.1%より3.6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『定住意向』では〈男性65~69歳〉85.7%が高くなっている。一方、『転出意向』では〈女性20歳代〉25.5%が最も高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『定住意向』は〈農林漁業〉91.9%が最も高くなっている。一方、『転出意向』では〈商工サービス業・自由業〉17.7%が最も高くなっている。

居住環境別でみると、『定住意向』では〈商店街〉87.8%が最も高くなっている。一方、『転出意向』では〈その他〉22.2%が最も高くなっている。

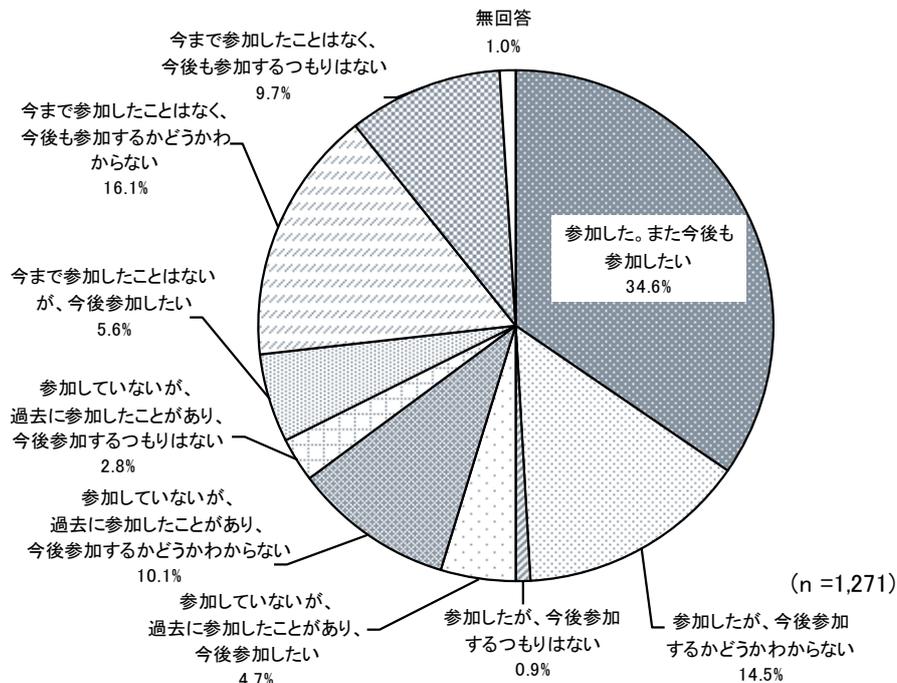
地域別でみると、『定住意向』では〈県央地域〉82.2%が最も高くなっている。一方、『転出意向』では〈県北地域〉18.7%が最も高くなっている。

(4) 社会貢献活動について

問10 あなたは、この1年間に社会貢献活動(※)に参加しましたか。また、今後参加したいと思いませんか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO(非営利活動団体)活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。

1	参加した。また今後も参加したい	34.6%
2	参加したが、今後参加するかどうか分からない	14.5
3	参加したが、今後参加するつもりはない	0.9
4	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい	4.7
5	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうか分からない	10.1
6	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない	2.8
7	今まで参加したことはないが、今後参加したい	5.6
8	今まで参加したことはないが、今後も参加するかどうか分からない	16.1
9	今まで参加したことはないが、今後参加するつもりはない	9.7
	(無回答)	1.0

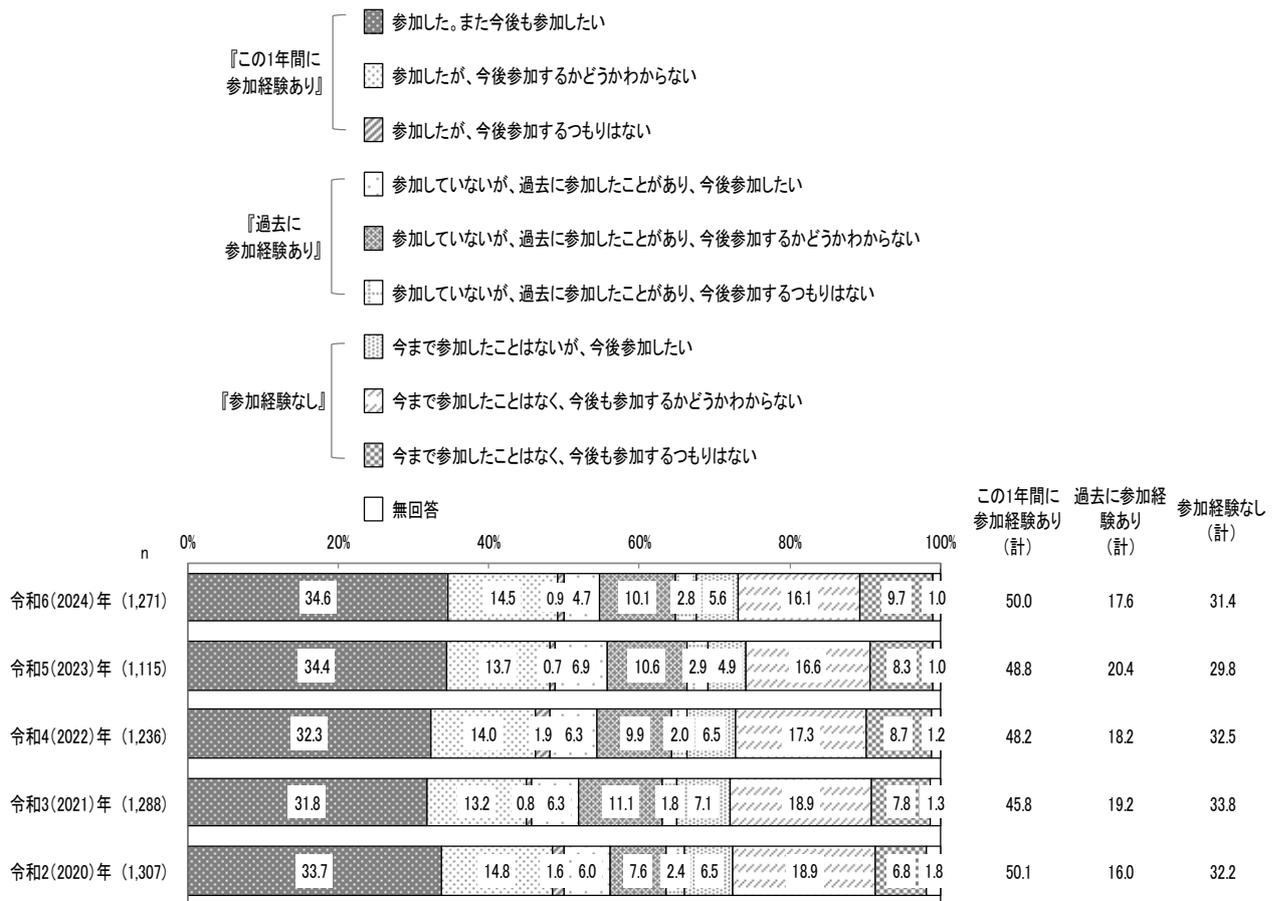


全体でみると、「参加した。また今後も参加したい」(34.6%)と「参加したが、今後参加するかどうか分からない」(14.5%)、「参加したが、今後参加するつもりはない」(0.9%)の3つを合わせた『この1年間に参加経験あり』(50.0%)が5割となっている。

「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい」(4.7%)と「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうか分からない」(10.1%)、「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない」(2.8%)の3つを合わせた『過去に参加経験あり』(17.6%)が1割台後半となっている。

「今まで参加したことはないが、今後参加したい」(5.6%)と「今まで参加したことはないが、今後も参加するかどうか分からない」(16.1%)、「今まで参加したことはないが、今後参加するつもりはない」(9.7%)の3つを合わせた『参加経験なし』(31.4%)が3割強となっている。

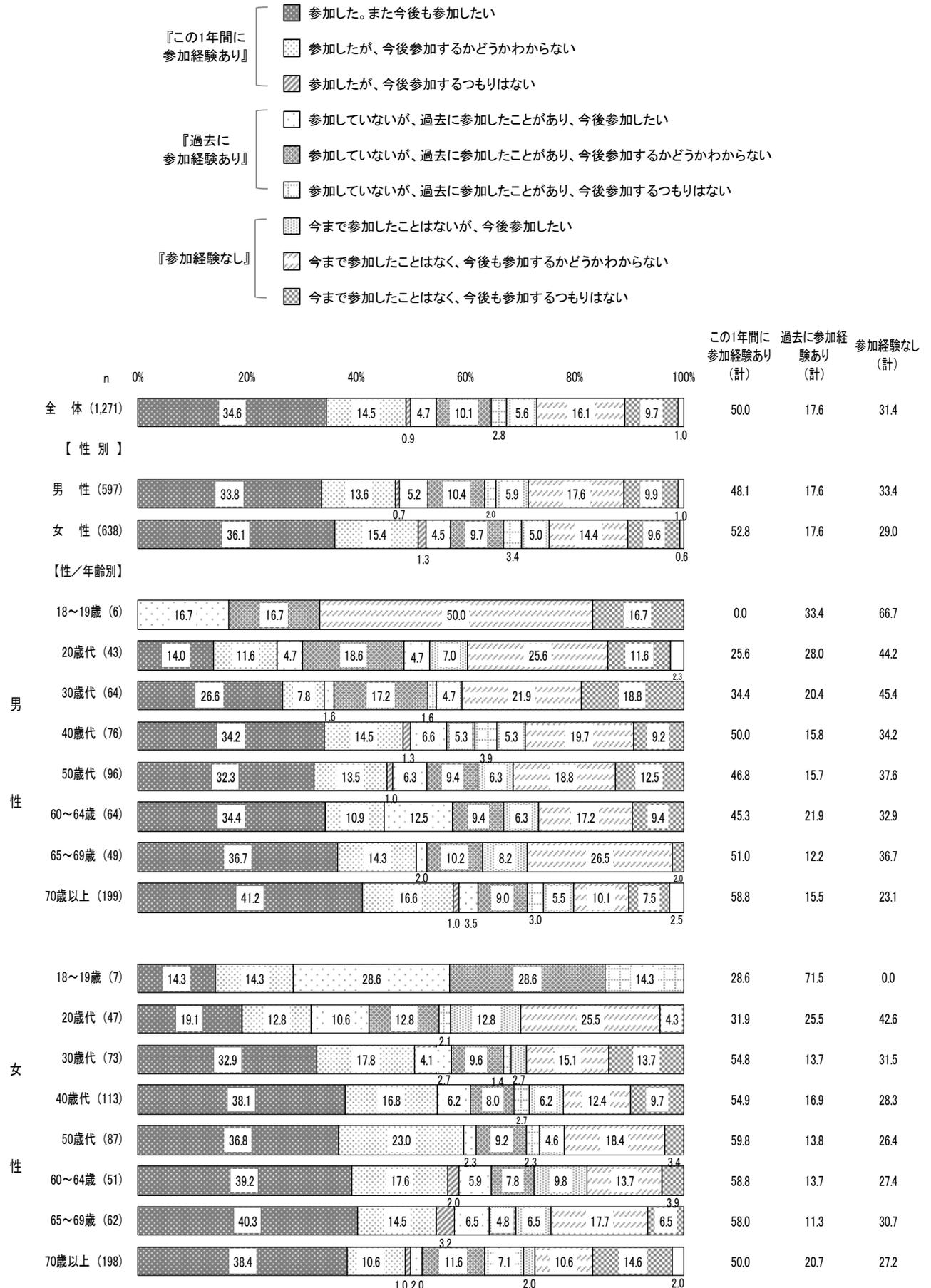
[過去の調査結果]



(※) 「参加した。また今後も参加したい」は、令和2(2020)年までは「参加し、今後も参加したい」としていた。

過去の調査結果と比較すると、『過去に参加経験あり』では前回(令和5(2023)年)から2.8ポイント減少している。

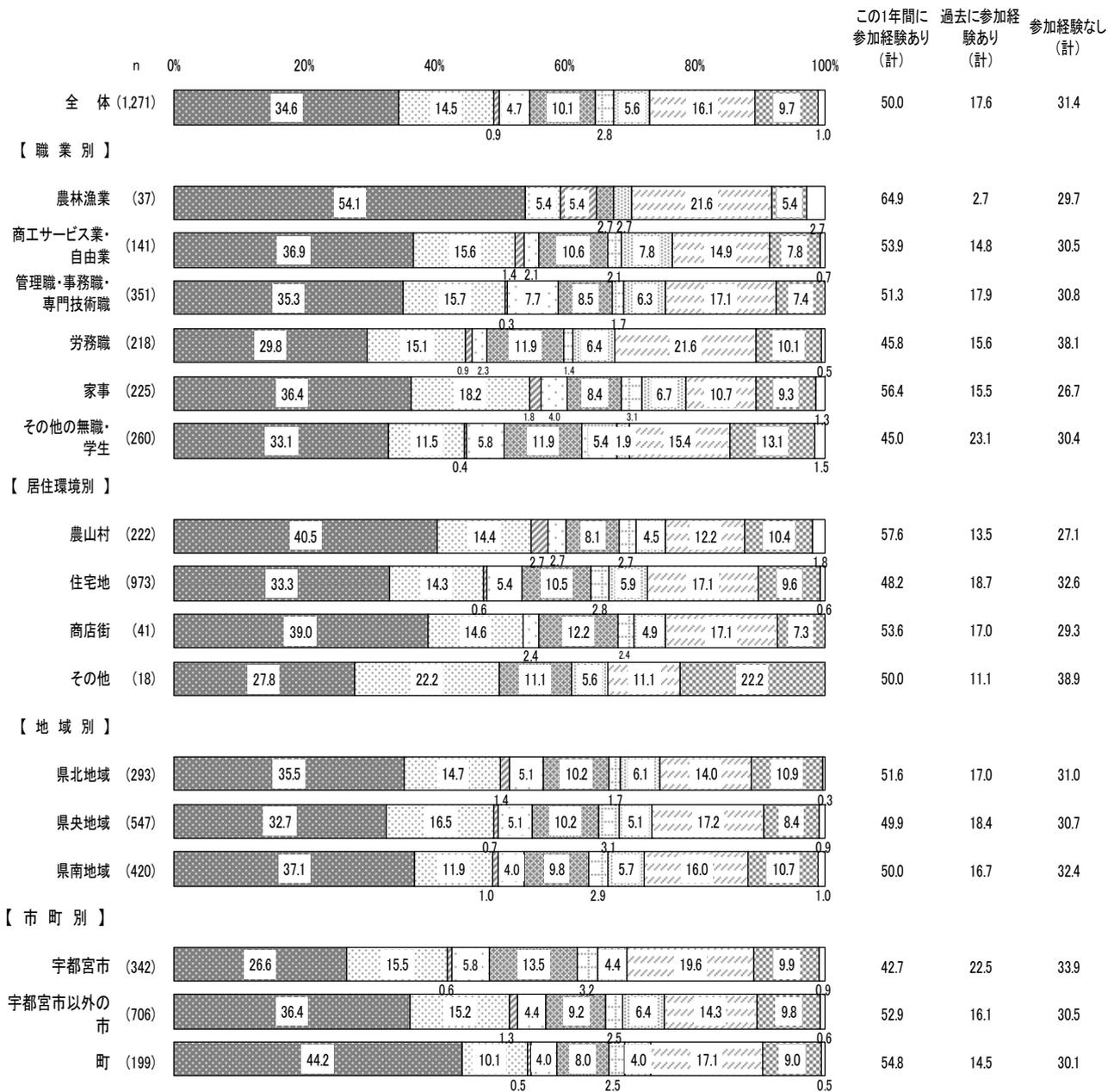
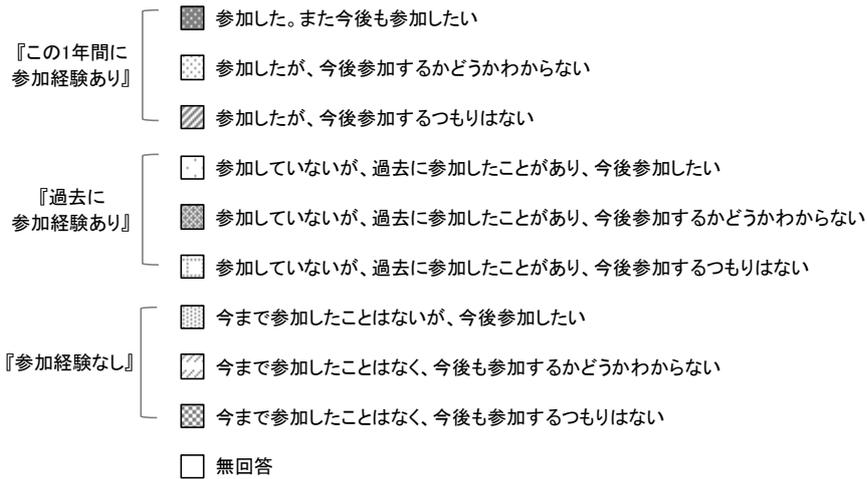
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈女性〉52.8%が、〈男性〉48.1%より4.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈女性50歳代〉59.8%が最も高く、〈男性20歳代〉25.6%が低くなっている。『参加経験なし』では〈男性30歳代〉45.4%が高く、〈男性70歳以上〉23.1%が低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈農林漁業〉64.9%が最も高く、〈その他の無職・学生〉45.0%が最も低くなっている。

居住環境別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈農山村〉57.6%が最も高く、〈住宅地〉48.2%が最も低くなっている。

地域別でみると、『この1年間に参加経験あり』では、すべての分類で約5割となっている。

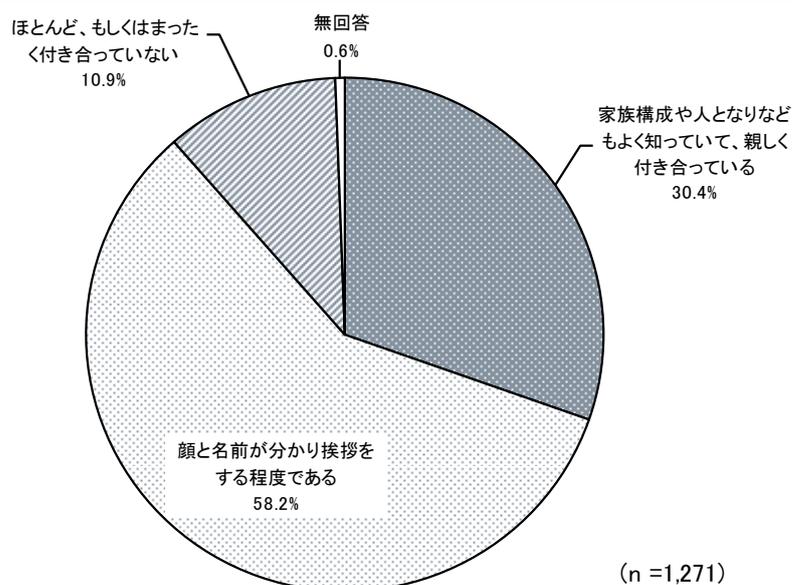
市町別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈町〉54.8%が最も高く、〈宇都宮市〉42.7%が最も低くなっている。

4 地域のつながりについて

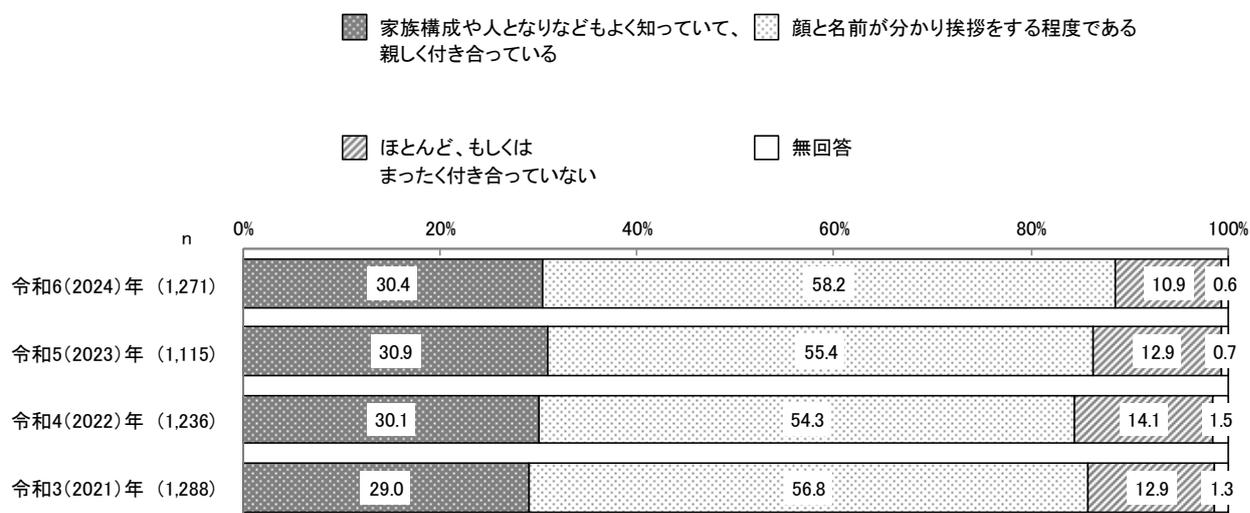
(1) ご近所との関係

問11 あなたは現在、ご近所（両隣など）の方とどのような関係ですか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている	30.4%
2 顔と名前が分かり挨拶をする程度である	58.2%
3 ほとんど、もしくはまったく付き合っていない	10.9%
(無回答)	0.6%



全体でみると、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」（58.2%）が6割弱で最も高く、次いで「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」（30.4%）、「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」（10.9%）の順となっている。



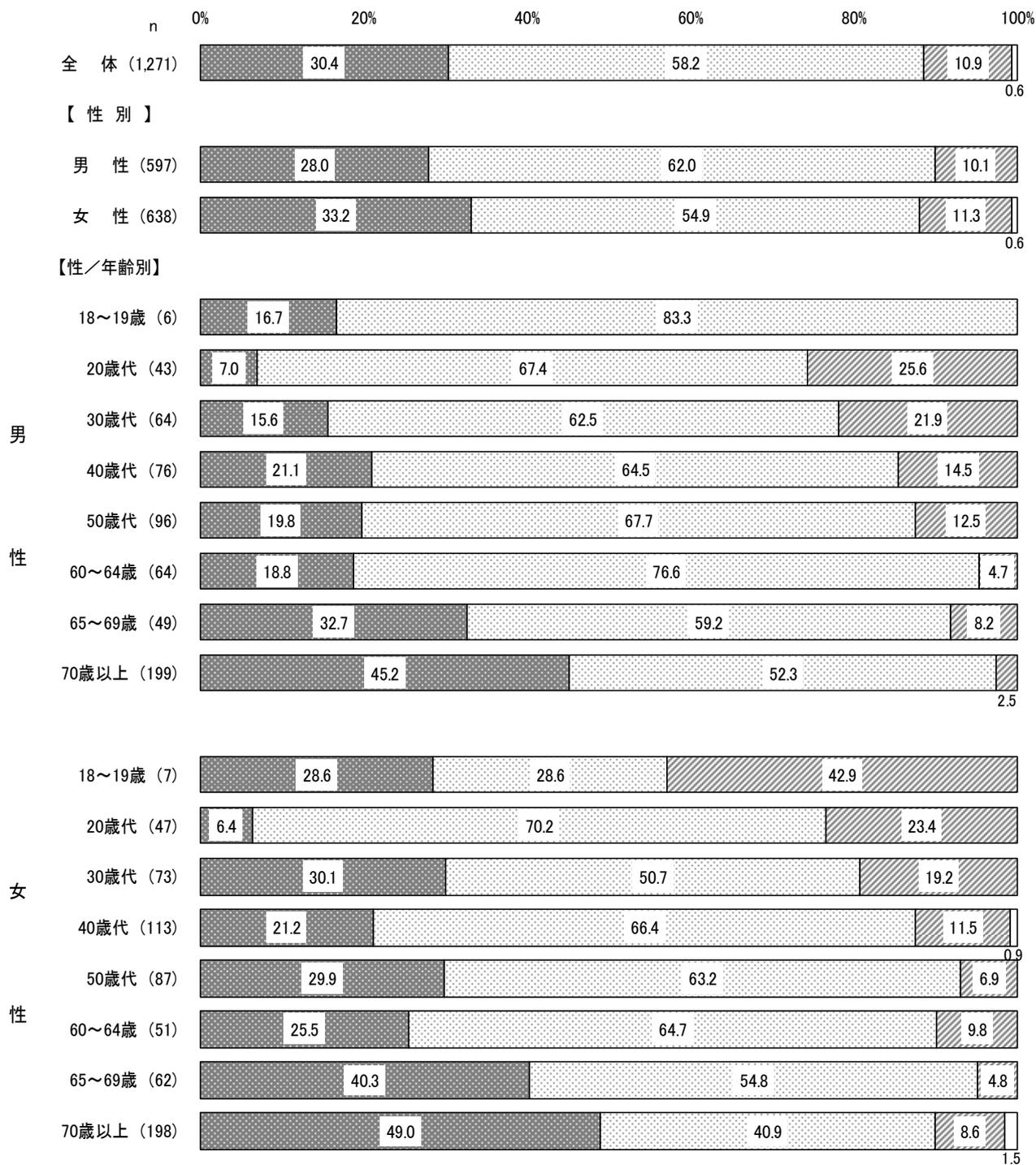
過去の調査結果と比較すると、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では前回（令和5(2023)年）から2.8ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

■ 家族構成や人となりなどもよく知っていて、顔と名前が分かり挨拶をする程度である
親しく付き合っている

▨ ほとんど、もしくはまったく付き合っていない

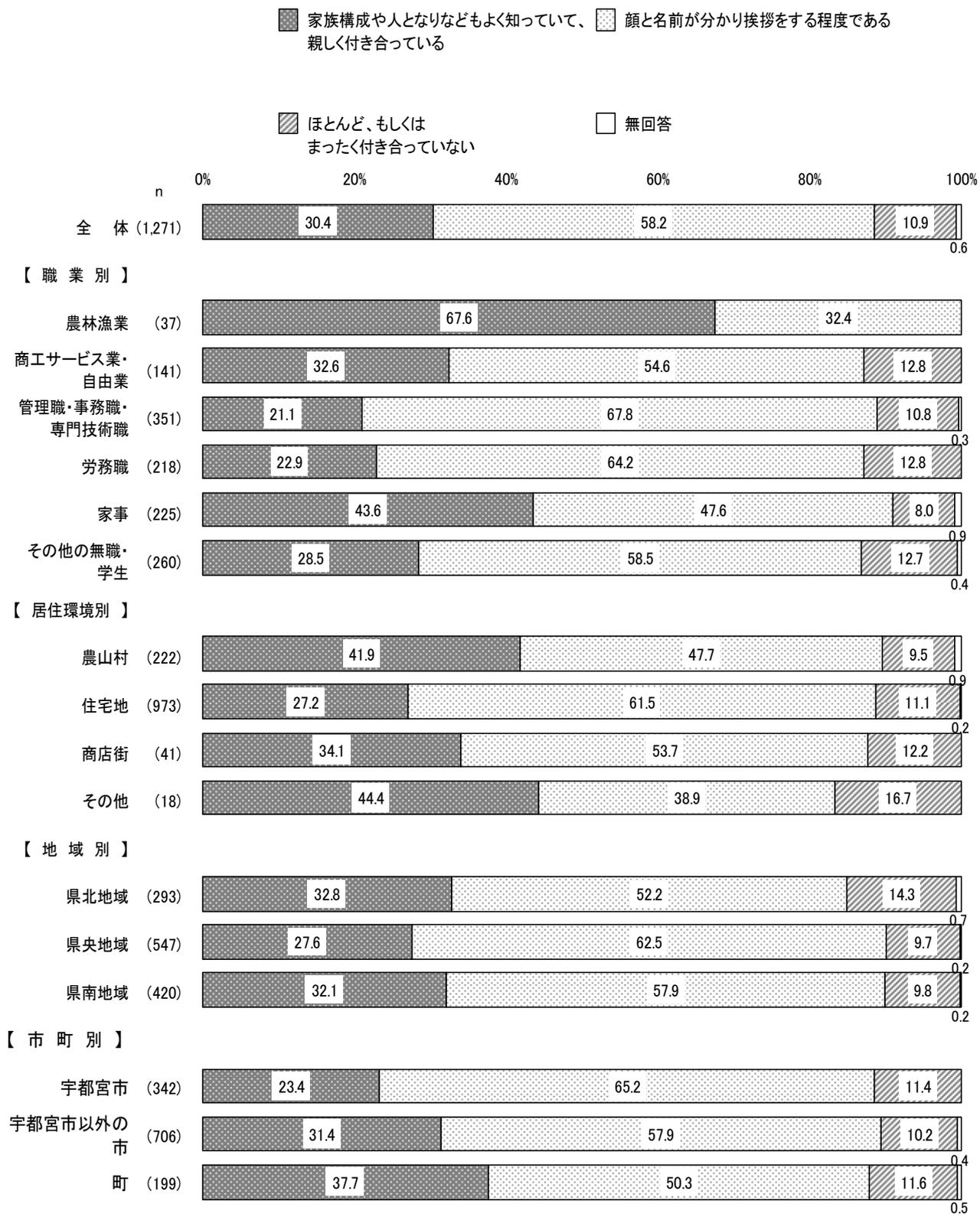
□ 無回答



性別でみると、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性〉62.0%が、〈女性〉54.9%より7.1ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性〉33.2%が、〈男性〉28.0%より5.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性70歳以上〉49.0%が最も高く、〈女性20歳代〉6.4%が最も低くなっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性60～64歳〉76.6%が高く、〈女性70歳以上〉40.9%が低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈農林漁業〉67.6%が最も高く、〈管理職・事務職・専門技術職〉21.1%が最も低くなっている。

居住環境別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈その他〉44.4%が最も高く、〈住宅地〉27.2%が最も低くなっている。

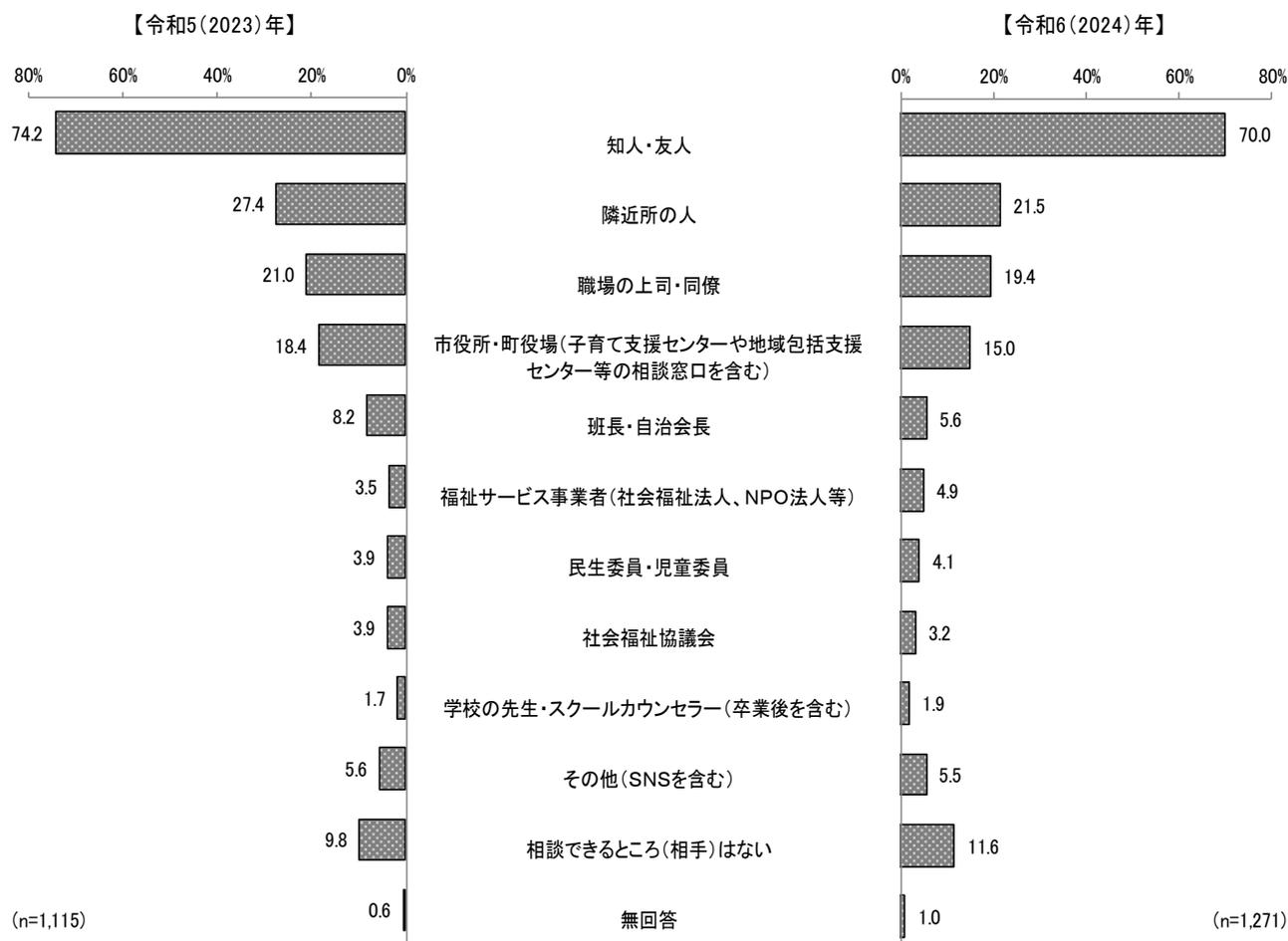
地域別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈県北地域〉32.8%、〈県南地域〉32.1%がともに3割台前半、〈県央地域〉27.6%が2割台後半となっている。

市町別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈町〉37.7%が最も高く、〈宇都宮市〉23.4%が最も低くなっている。

(2) 家族・親族以外で相談できるところ

問12 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,271]

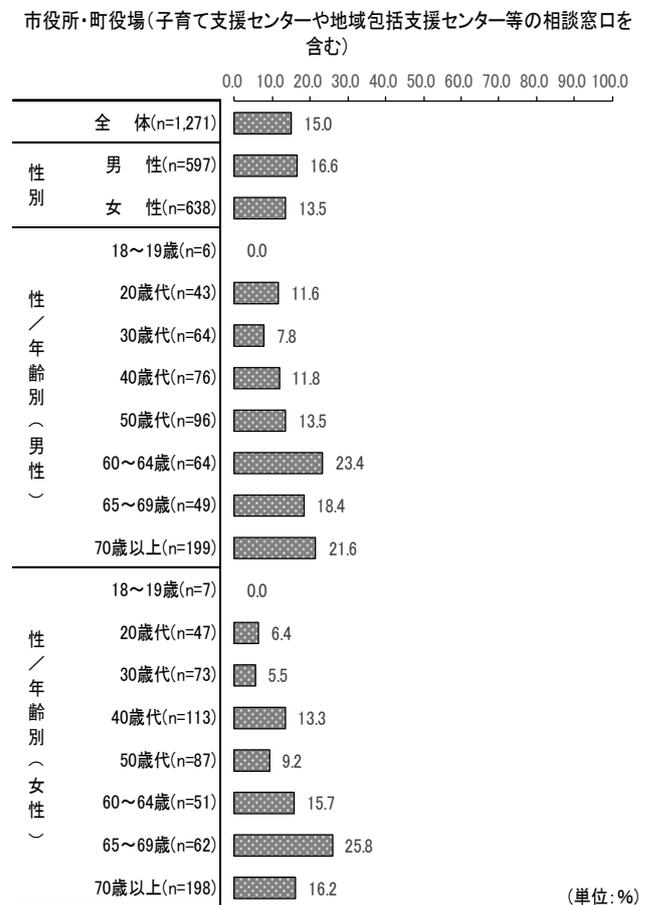
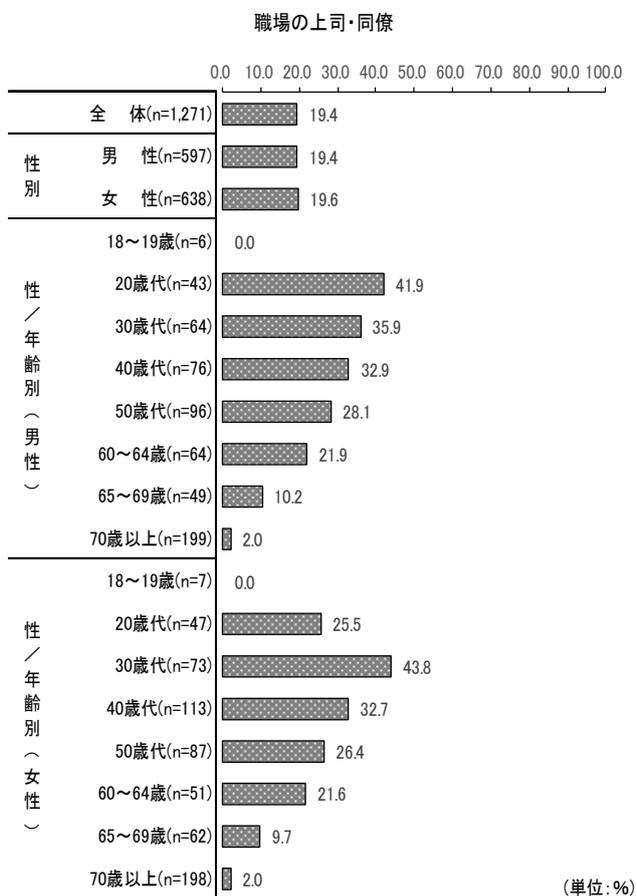
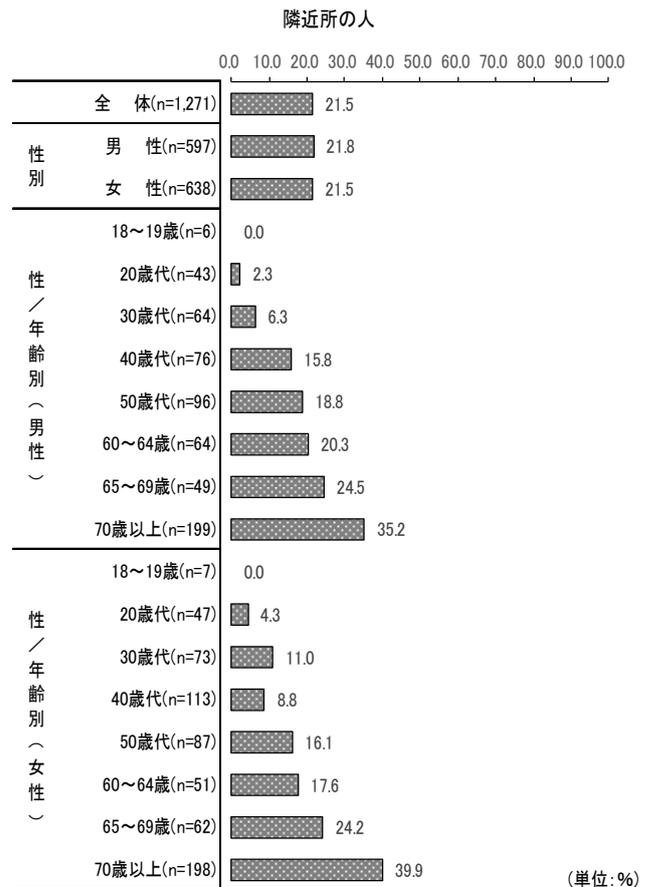
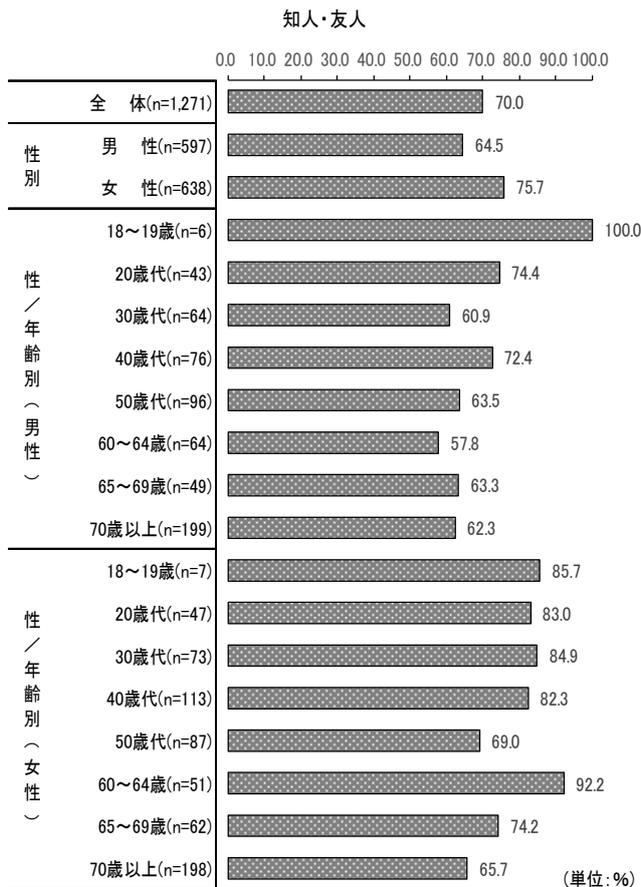
1 知人・友人	70.0%	7 福祉サービス事業者	
2 隣近所の人	21.5	(社会福祉法人、NPO法人等)	4.9%
3 民生委員・児童委員	4.1	8 学校の先生・スクールカウンセラー	
4 班長・自治会長	5.6	(卒業後を含む)	1.9
5 社会福祉協議会	3.2	9 職場の上司・同僚	19.4
6 市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）	15.0	10 その他（SNSを含む）	5.5
		11 相談できるところ（相手）はない	11.6
		(無回答)	1.0



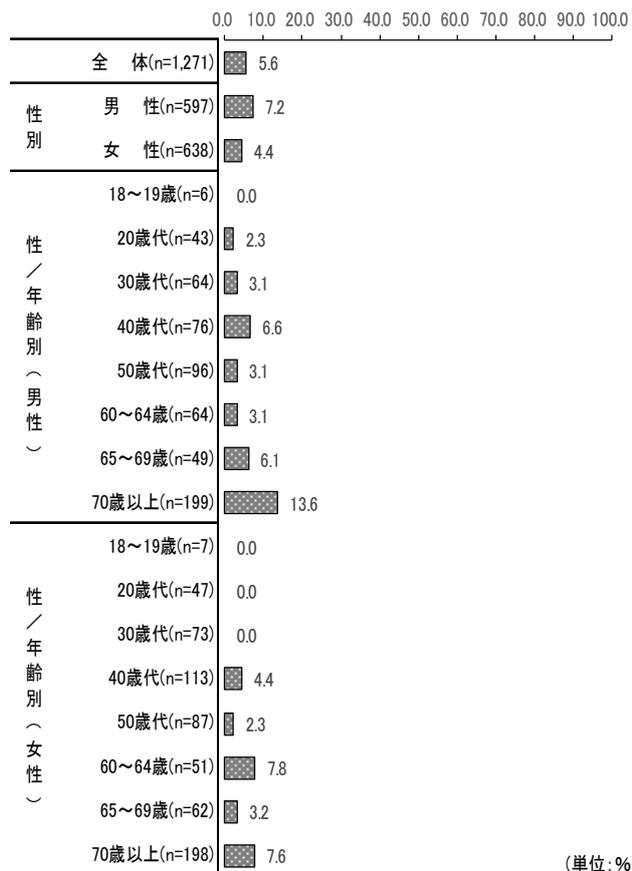
全体で見ると、「知人・友人」(70.0%)が7割で最も高く、次いで、「隣近所の人」(21.5%)、「職場の上司・同僚」(19.4%)、「市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）」(15.0%)の順となっている。

前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「知人・友人」では4.2ポイント、「隣近所の人」では5.9ポイントそれぞれ減少している。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)



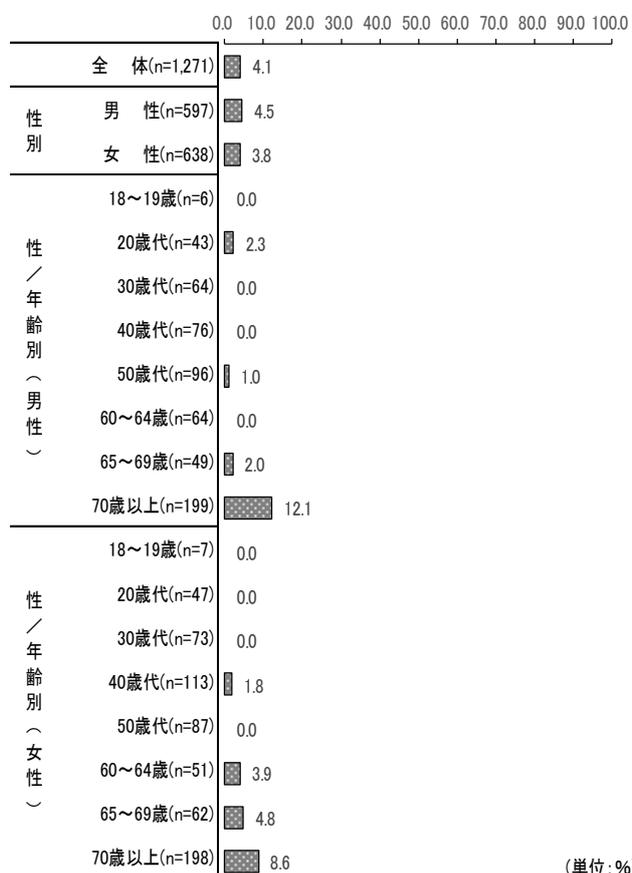
班長・自治会長



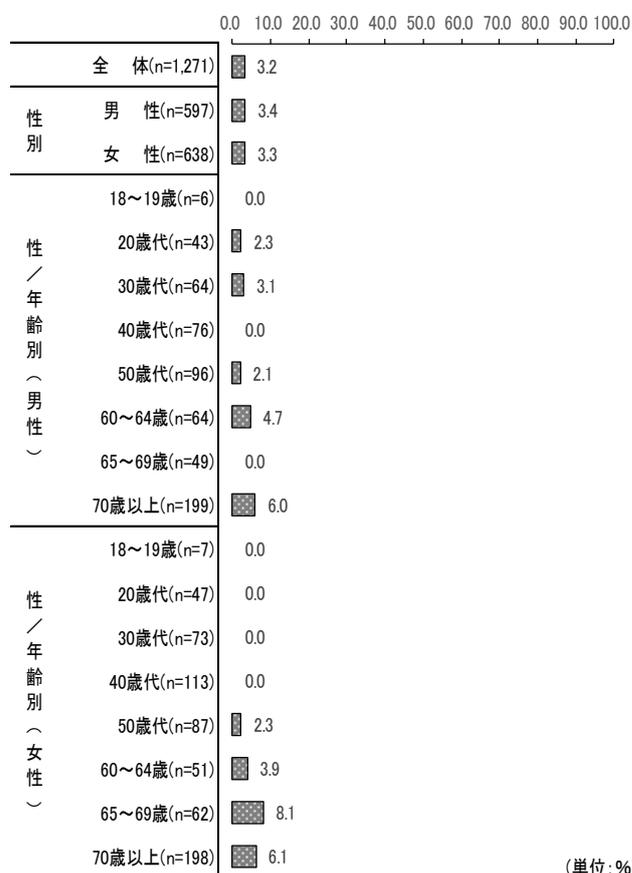
福祉サービス事業者 (社会福祉法人、NPO法人等)



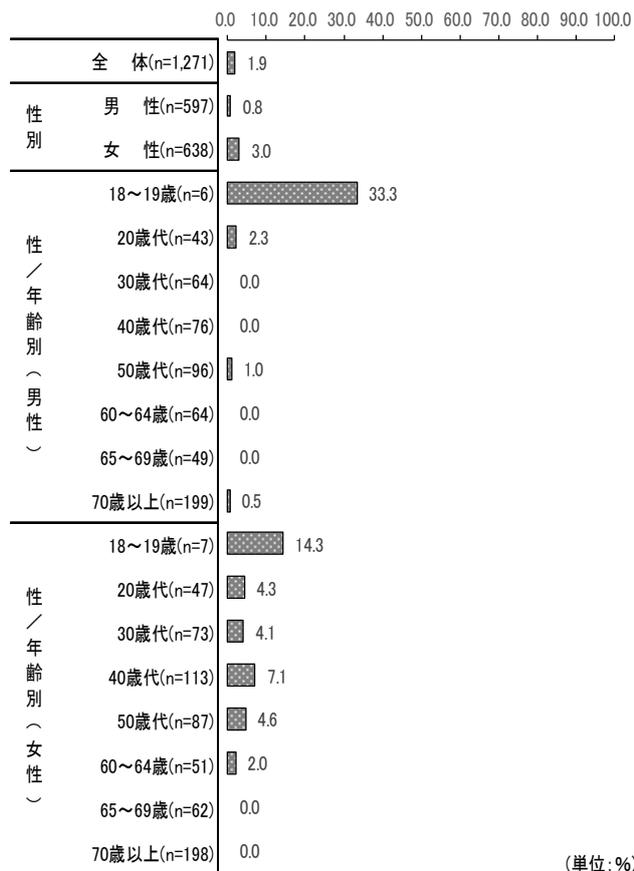
民生委員・児童委員



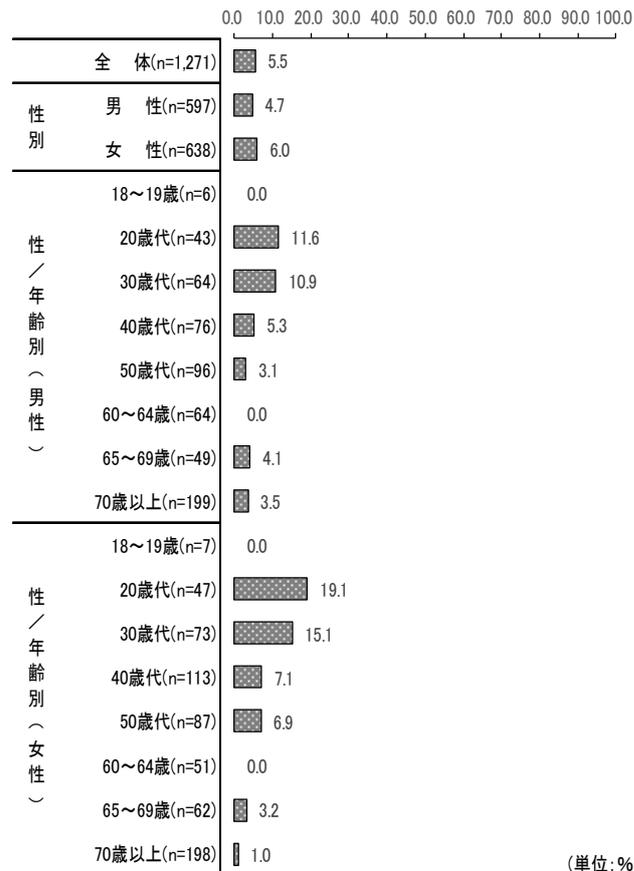
社会福祉協議会



学校の先生・スクールカウンセラー(卒業後を含む)



その他(SNSを含む)

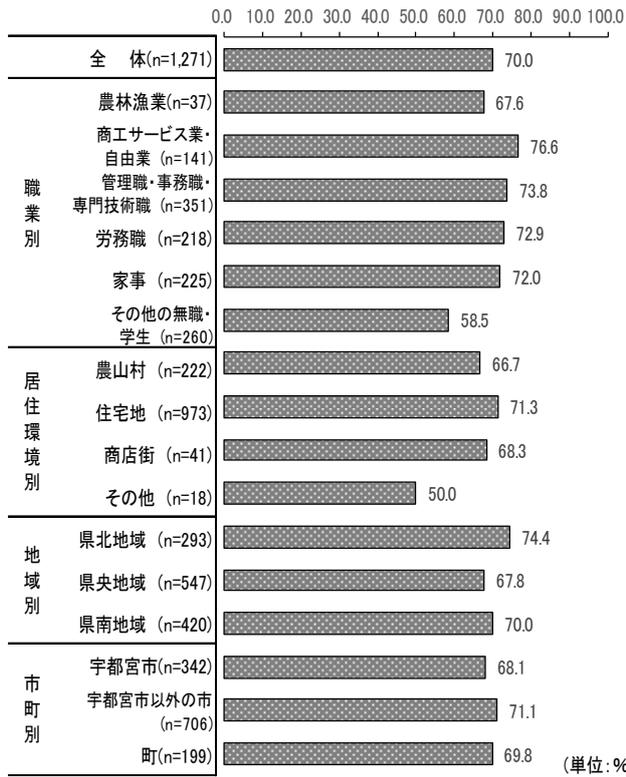


性別でみると、「知人・友人」では〈女性〉75.7%が、〈男性〉64.5%より11.2ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

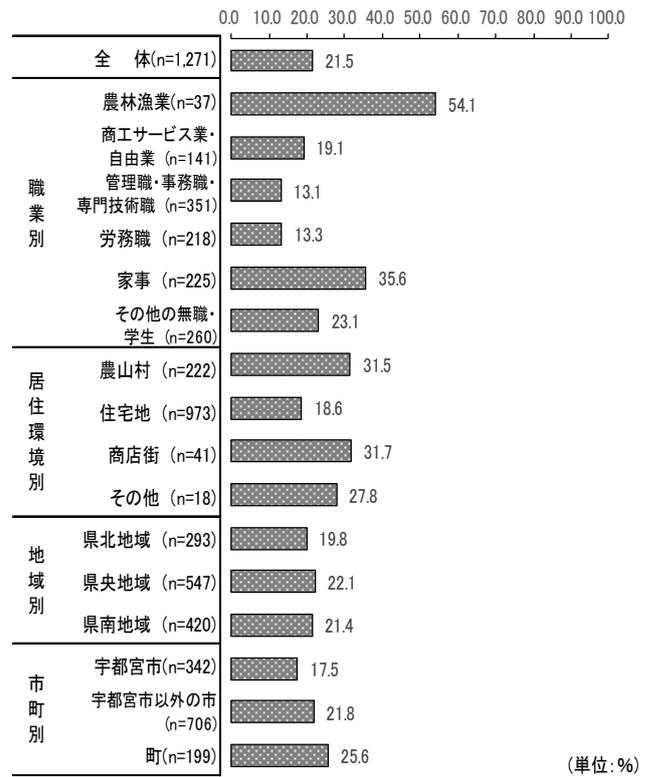
性/年齢別でみると、「知人・友人」では〈女性60~64歳〉92.2%が最も高く、〈男性60~64歳〉57.8%が最も低くなっている。「隣近所の人」では〈女性70歳以上〉39.9%が最も高く、〈男性20歳代〉2.3%が低くなっている。「職場の上司・同僚」では〈女性30歳代〉43.8%が最も高く、男女ともに70歳以上が2.0%と低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別] (上位10項目)

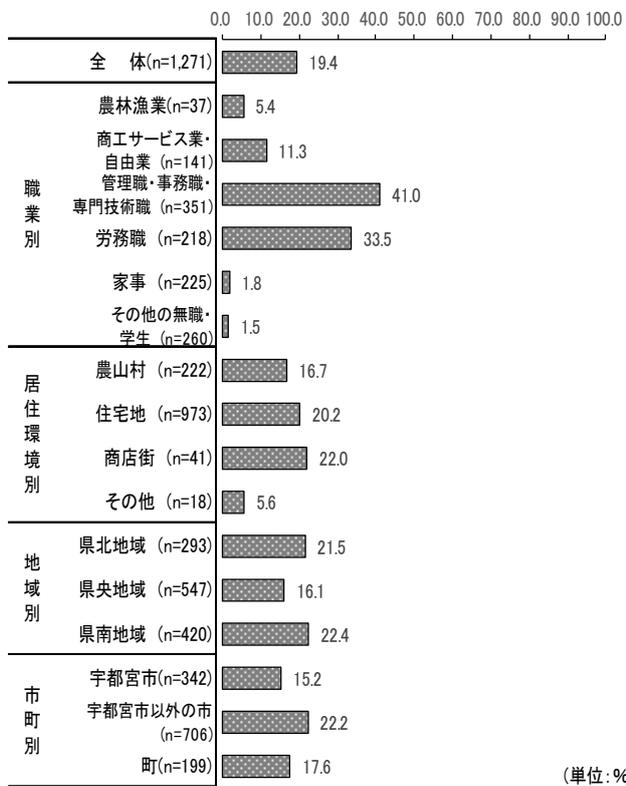
知人・友人



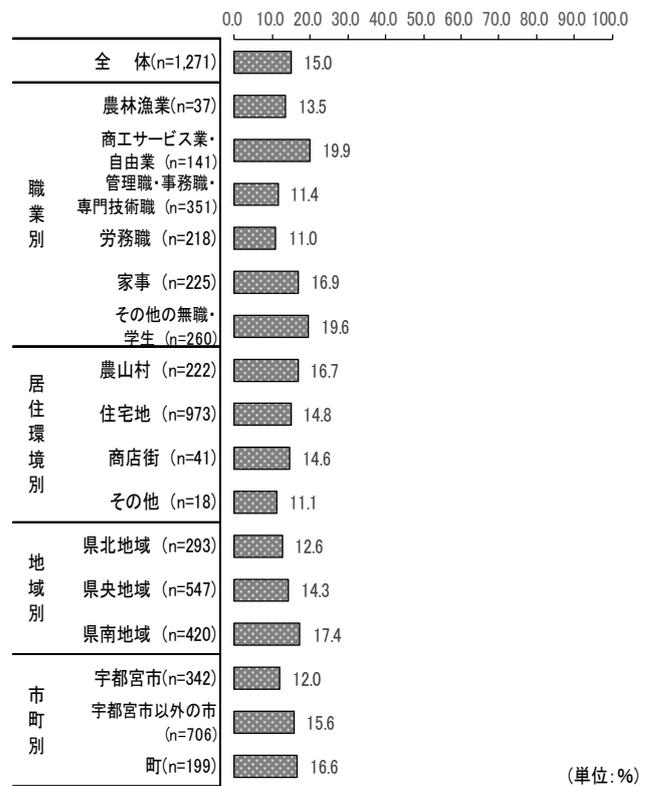
隣近所の人



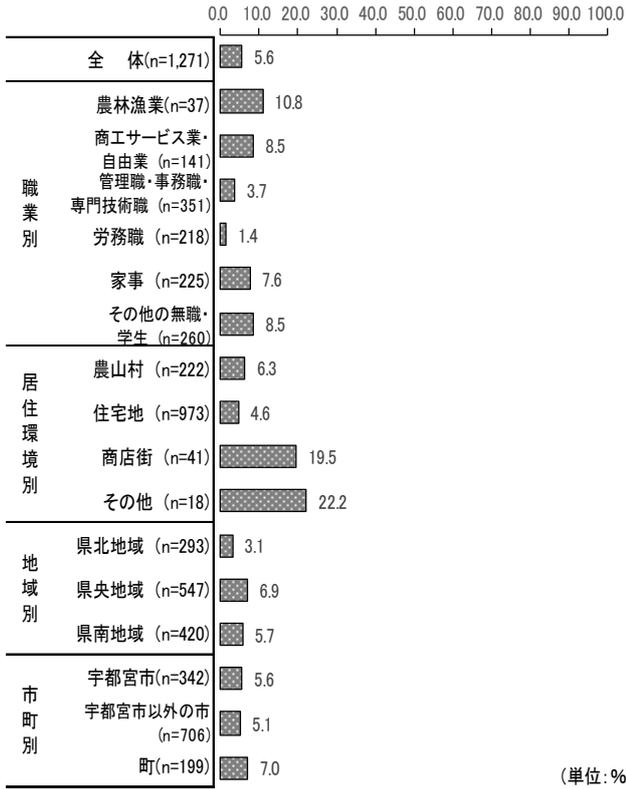
職場の上司・同僚



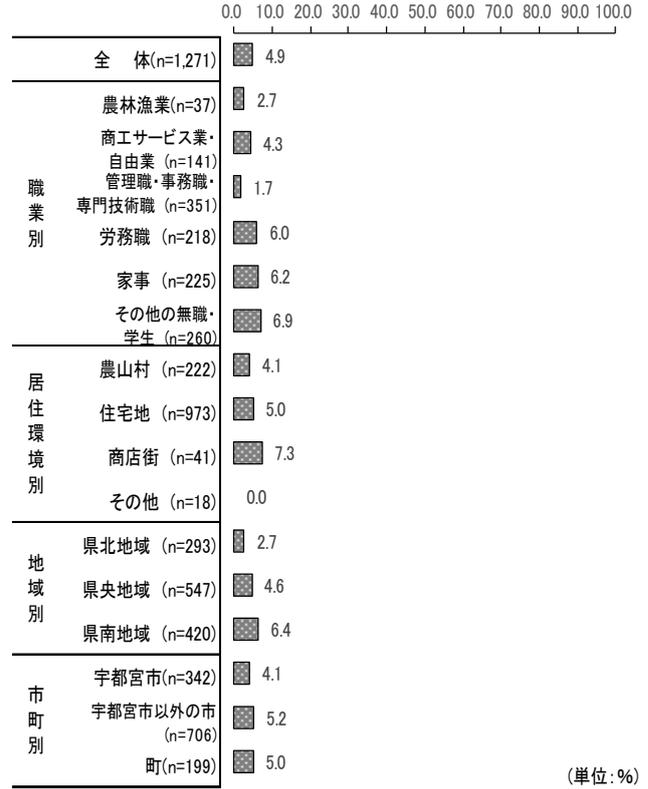
市役所・町役場(子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む)



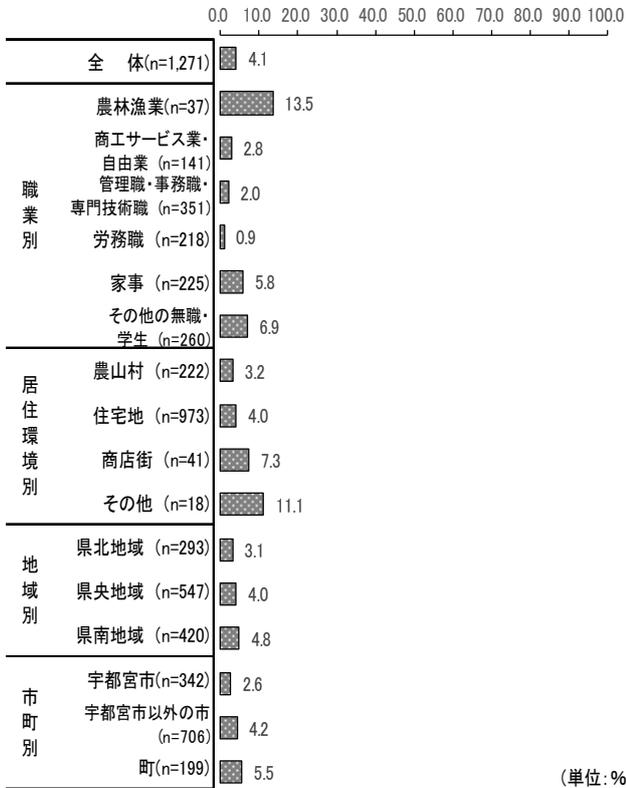
班長・自治会長



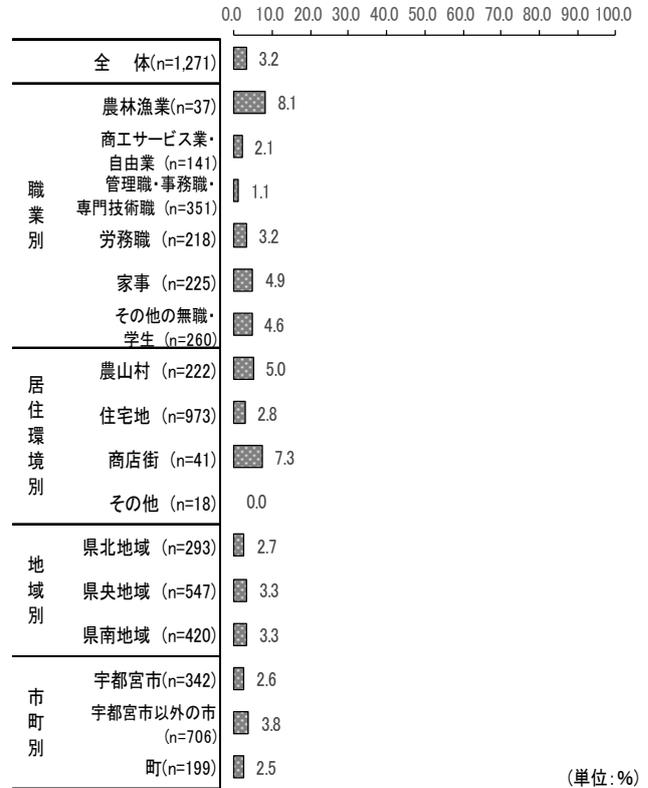
福祉サービス事業者(社会福祉法人、NPO法人等)

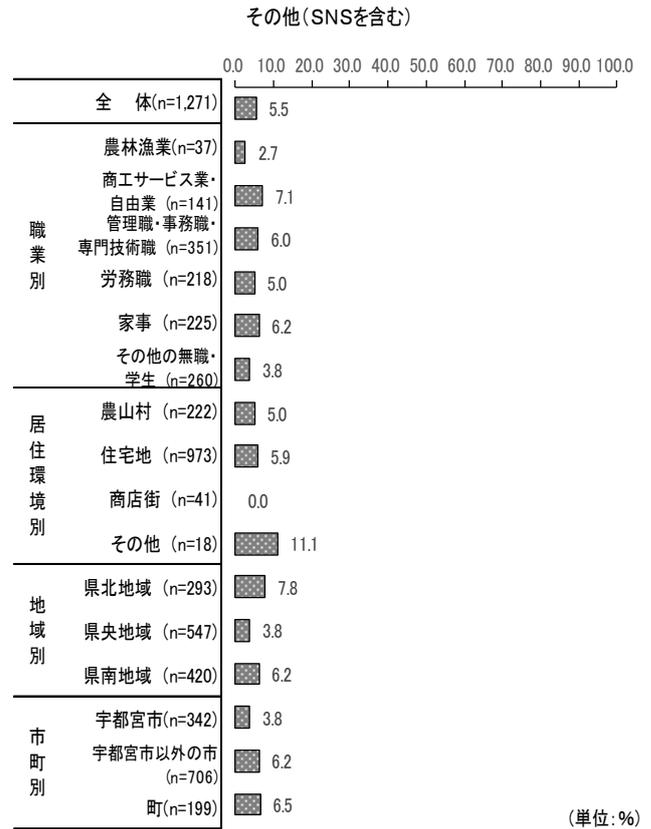
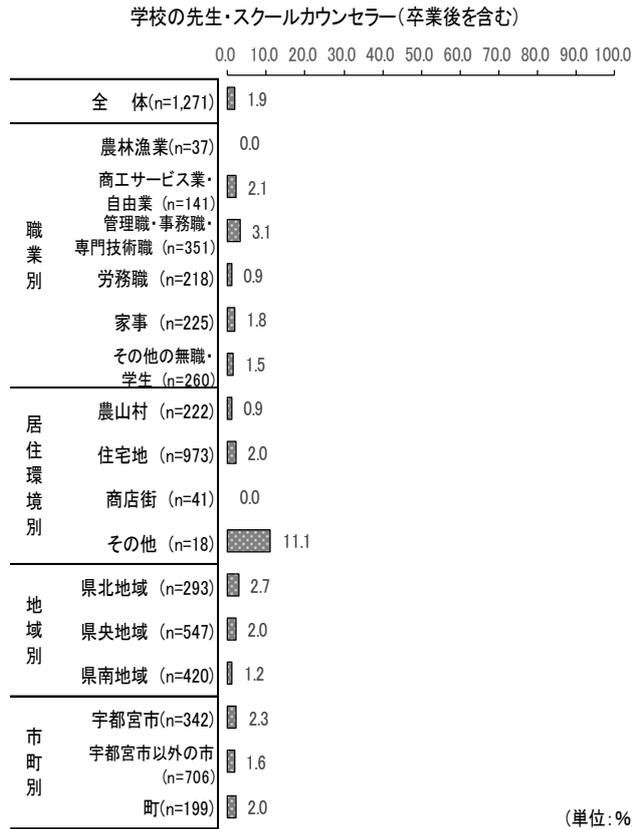


民生委員・児童委員



社会福祉協議会





職業別でみると、「知人・友人」では〈商工サービス業・自由業〉76.6%が最も高く、〈その他の無職・学生〉58.5%が最も低くなっている。「隣近所の人」では〈農林漁業〉54.1%が最も高く、〈管理職・事務職・専門技術職〉と〈労務職〉がともに約13%で低くなっている。

居住環境別でみると、「知人・友人」では〈住宅地〉71.3%が最も高く、〈その他〉50.0%が最も低くなっている。「隣近所の人」では〈農山村〉と〈商店街〉がともに約31%で高く、〈住宅地〉18.6%が最も低くなっている。

地域別でみると、「知人・友人」では〈県北地域〉74.4%が最も高く、〈県央地域〉67.8%が最も低くなっている。「隣近所の人」では、すべての分類で2割前後となっている。

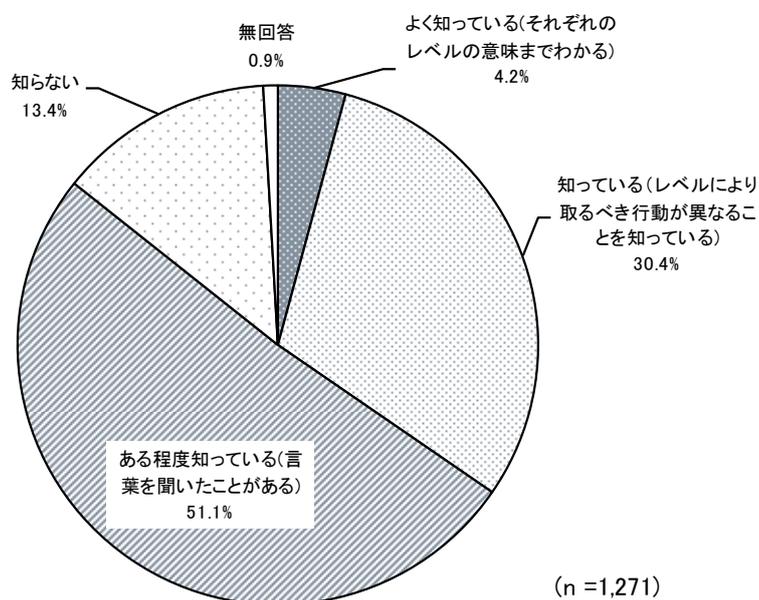
市町別でみると、「知人・友人」ではすべての分類で7割前後となっている。「隣近所の人」では〈町〉25.6%が最も高く、「宇都宮市」17.5%が最も低くなっている。

5 防災対策について

(1) 避難情報（5段階の警戒レベル）の認知度

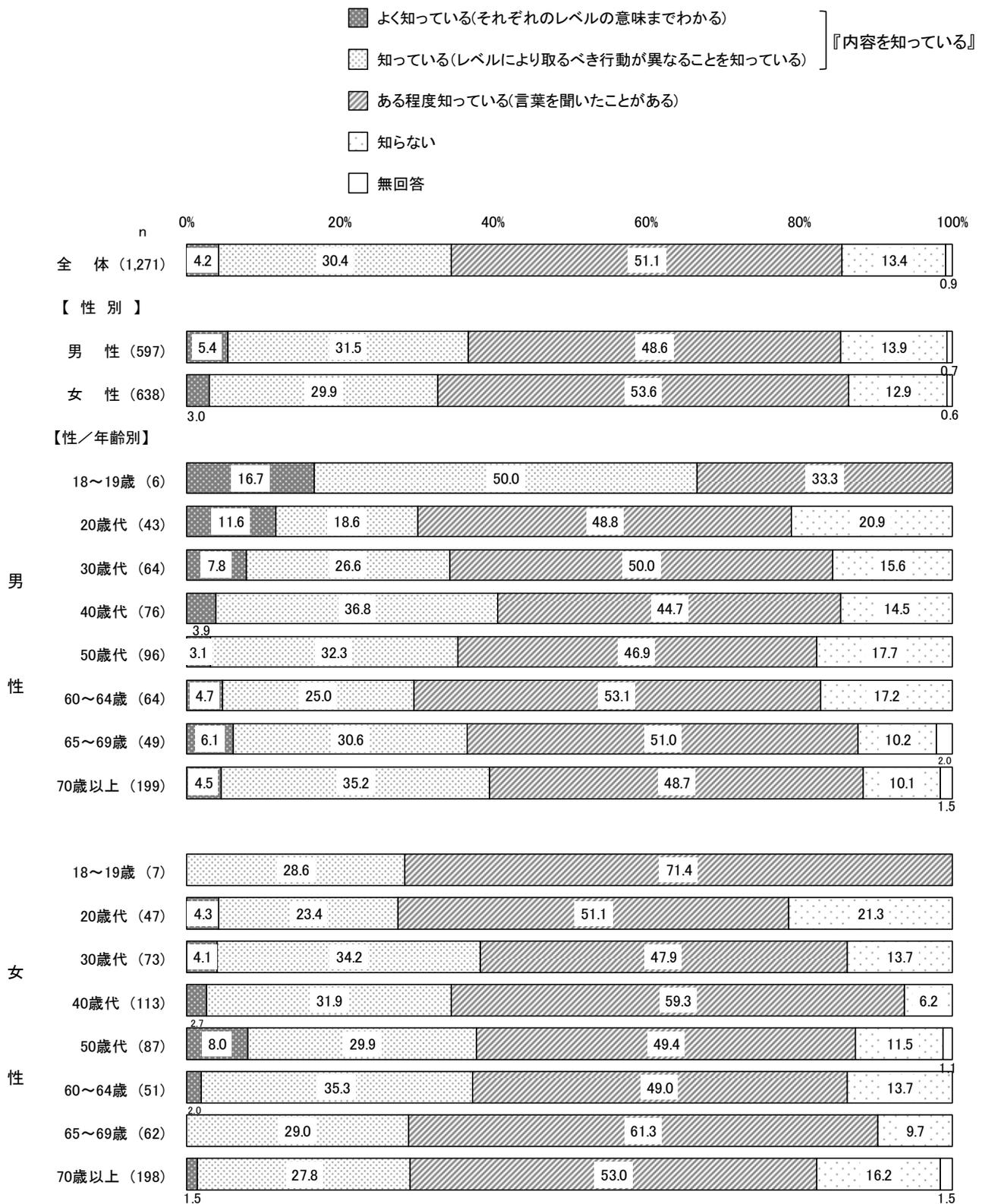
問13 あなたは、水害や土砂災害において避難するタイミングの目安となる「5段階の警戒レベル（高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保など）」を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 よく知っている(それぞれのレベルの意味までわかる)	4.2%
2 知っている(レベルにより取るべき行動が異なることを知っている)	30.4
3 ある程度知っている(言葉を聞いたことがある)	51.1
4 知らない	13.4
(無回答)	0.9



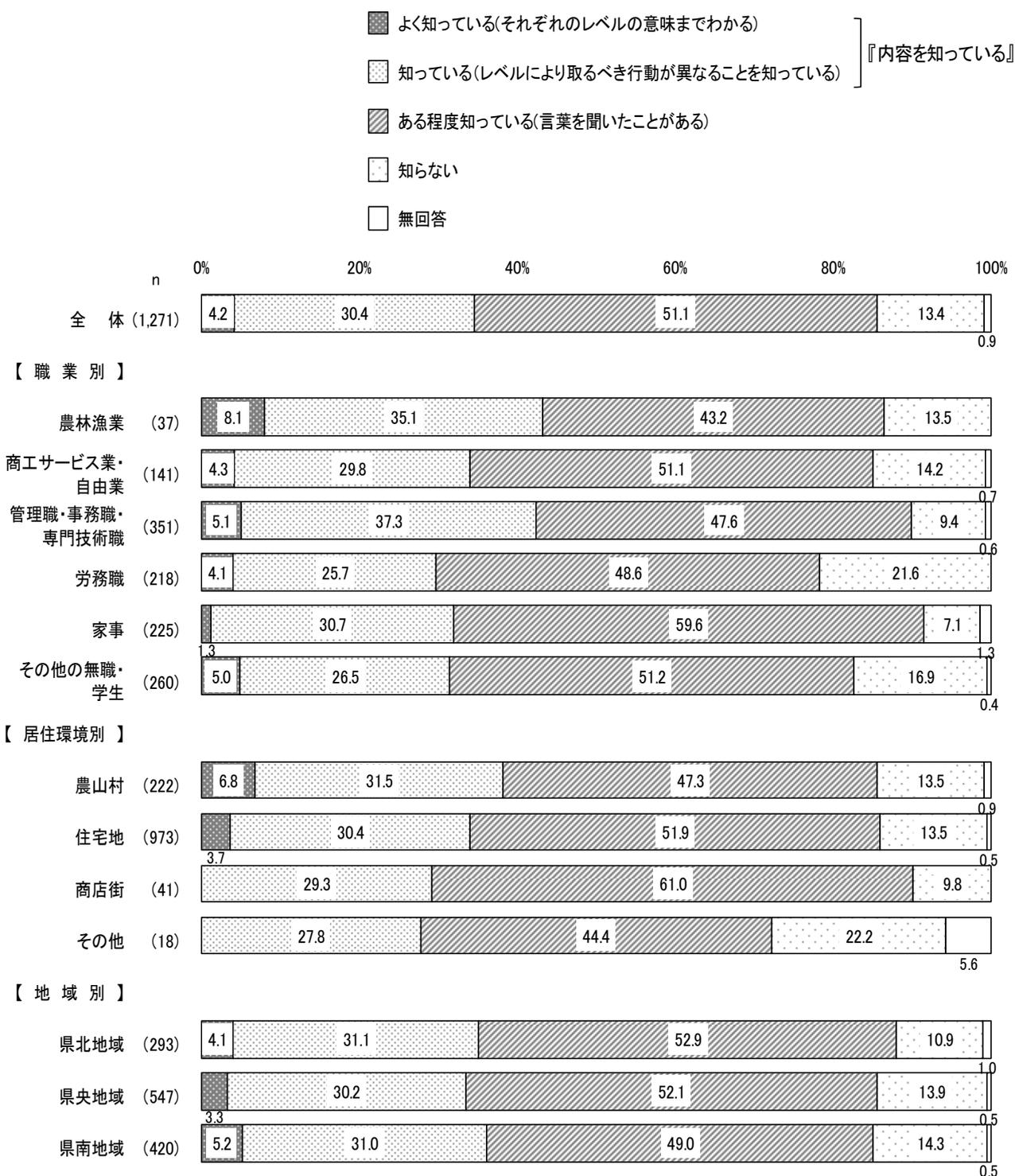
全体で見ると、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（51.1%）が5割強、よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（4.2%）と「知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（30.4%）の2つを合わせた『内容を知っている』（34.6%）が3割半ば、「知らない」（13.4%）が1割台前半となっている。

[性別・性／年齢別]



性別でみると、『内容を知っている』では、〈男性〉36.9%が、〈女性〉32.9%より4.0ポイント高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、『内容を知っている』では、〈農林漁業〉43.2%が最も高く、〈労務職〉29.8%が最も低くなっている。

居住環境別で見ると、『内容を知っている』では、〈農山村〉38.3%が最も高く、〈その他〉27.8%が最も低くなっている。

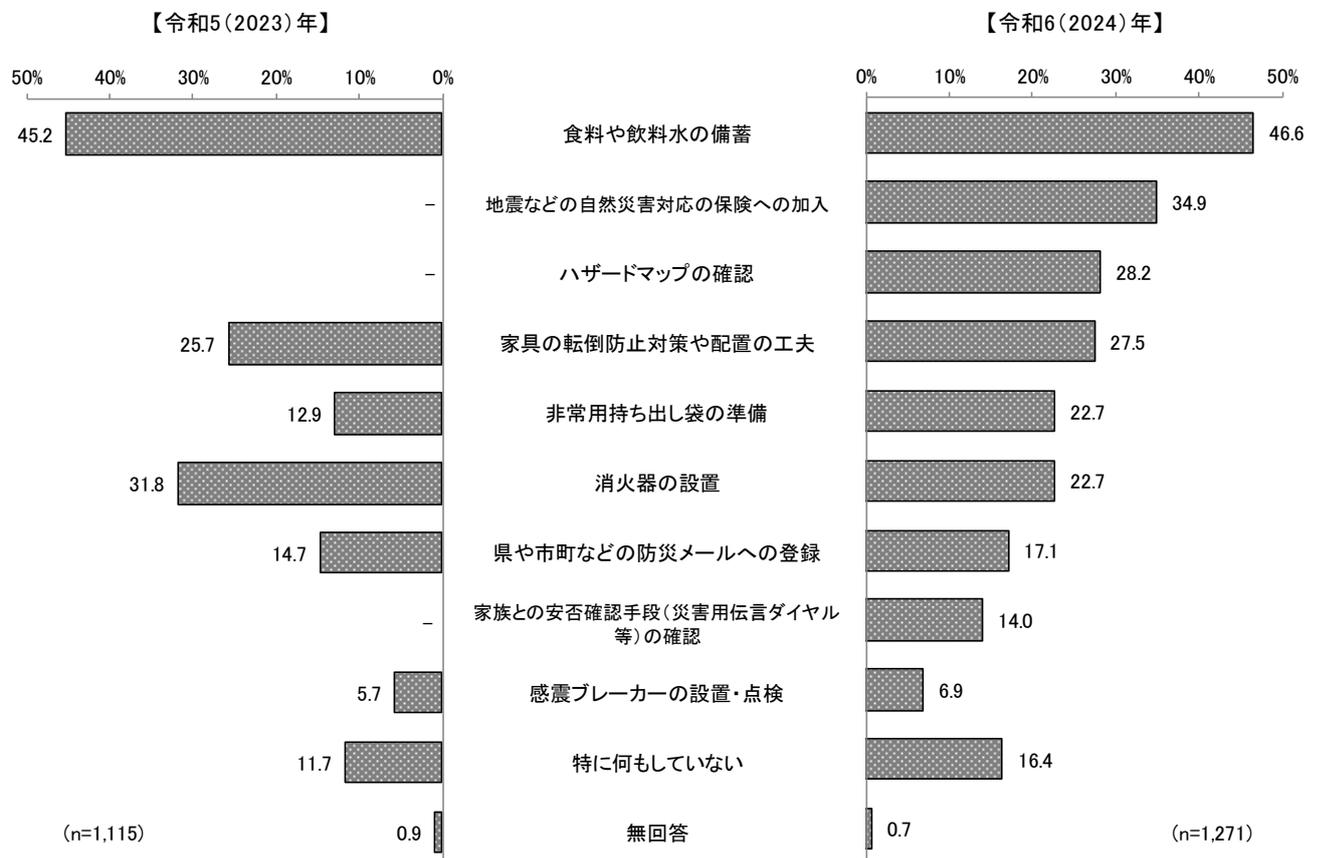
地域別で見ると、『内容を知っている』は、すべての分類で3割台であり、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 災害に対する備え

問14 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,271]

1	家具の転倒防止対策や配置の工夫	27.5%	8	地震などの自然災害対応の保険への加入	34.9%
2	ハザードマップの確認	28.2			
3	非常用持ち出し袋の準備	22.7	9	家族との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル等)の確認	14.0
4	食料や飲料水の備蓄	46.6	10	特に何もしていない	16.4
5	消火器の設置	22.7		(無回答)	0.7
6	感震ブレーカー(※)の設置・点検	6.9			
7	県や市町などの防災メールへの登録	17.1			

※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。



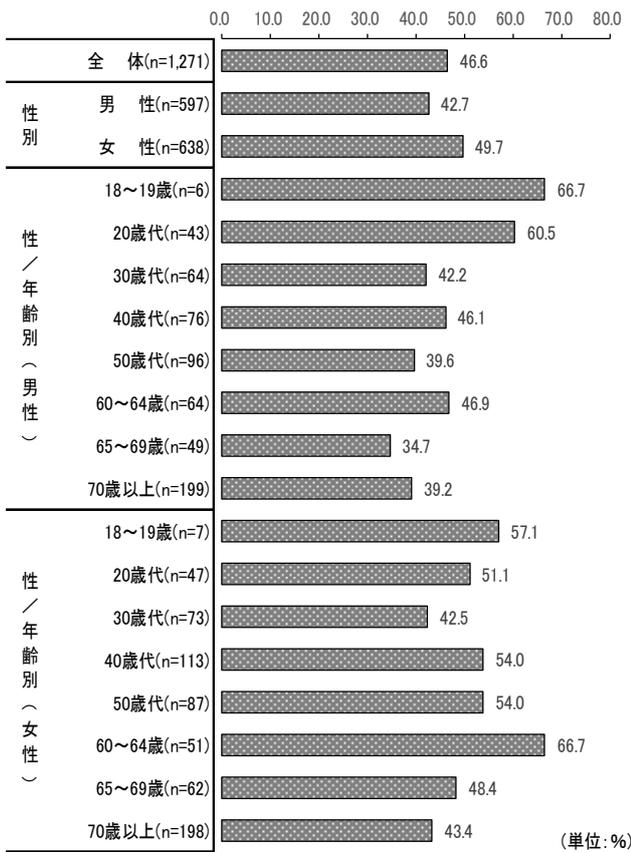
注) 「地震などの自然災害対応の保険への加入」「ハザードマップの確認」「家族との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル等)の確認」は、令和6(2024)年の新設。

全体で見ると、「食料や飲料水の備蓄」(46.6%)が4割台後半、「地震などの自然災害対応の保険への加入」(34.9%)が3割半ば、「ハザードマップの確認」(28.2%)が3割弱となっている。

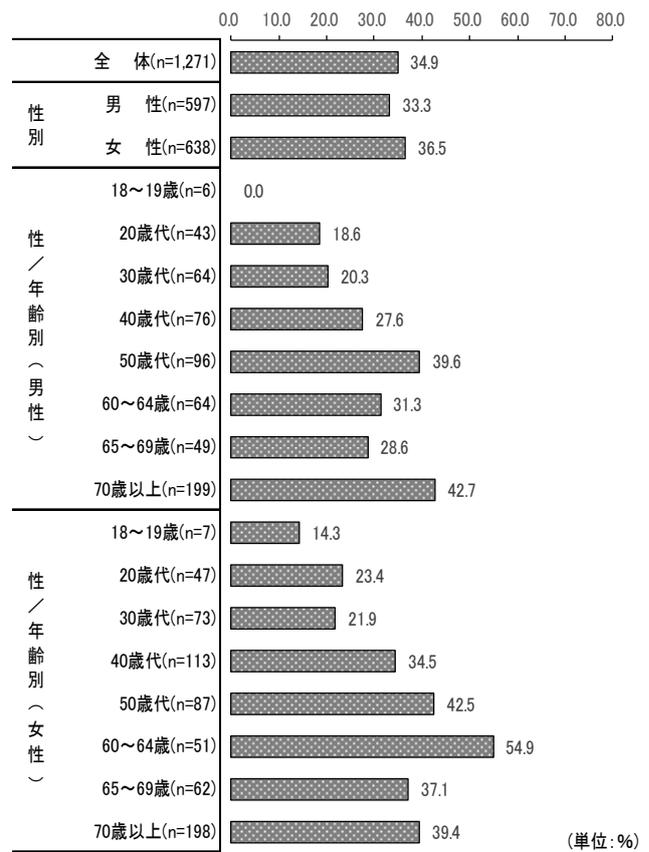
前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「非常用持ち出し袋の準備」では9.8ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

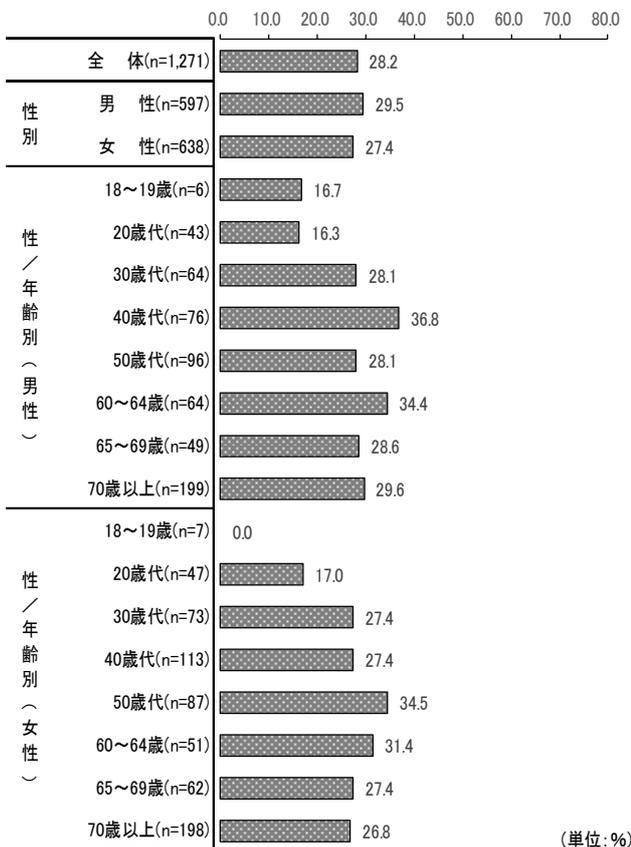
食料や飲料水の備蓄



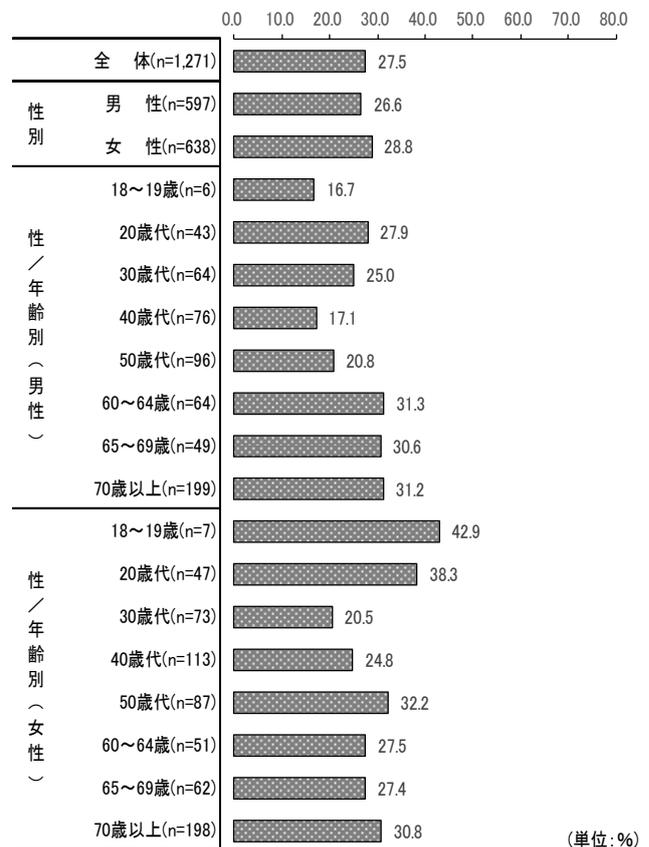
地震などの自然災害対応の保険への加入



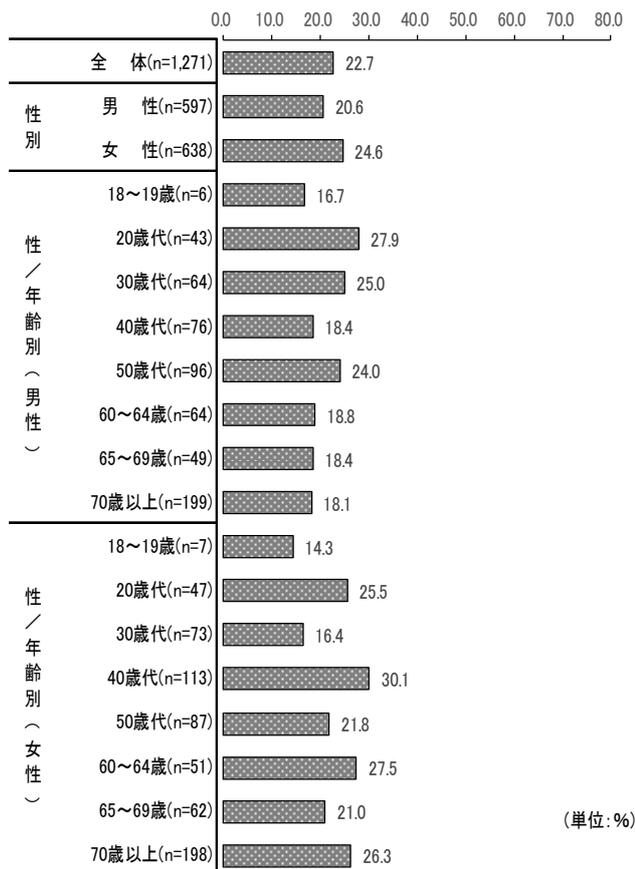
ハザードマップの確認



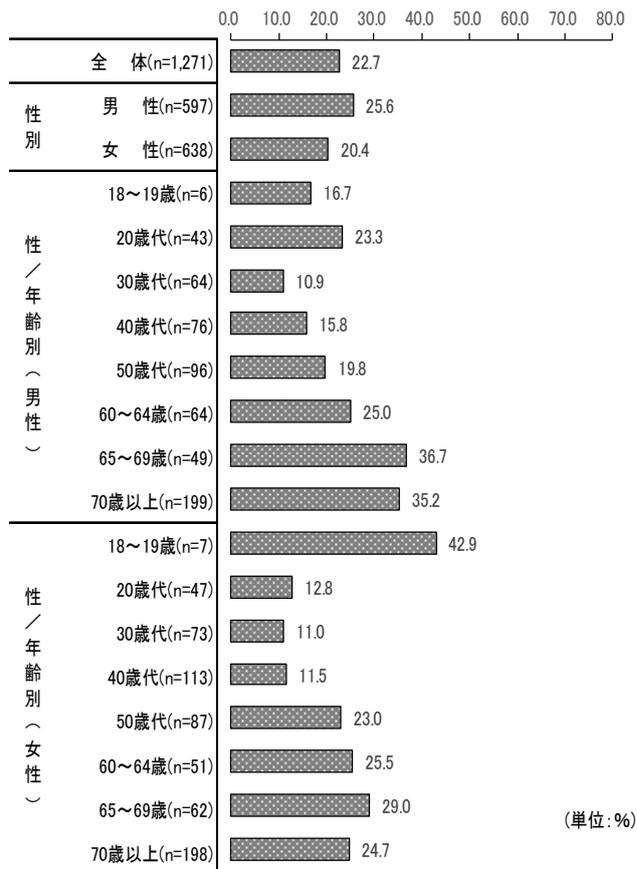
家具の転倒防止対策や配置の工夫



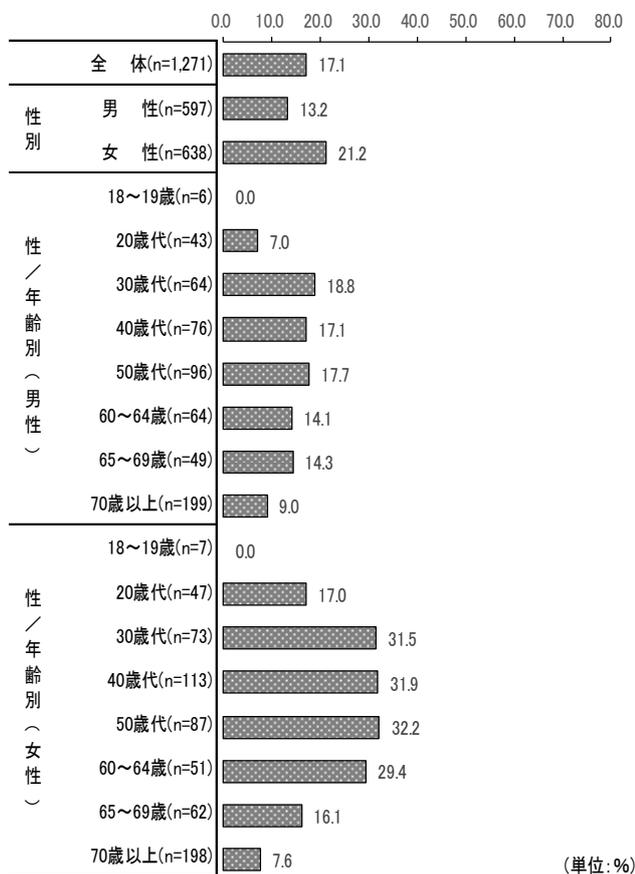
非常用持ち出し袋の準備



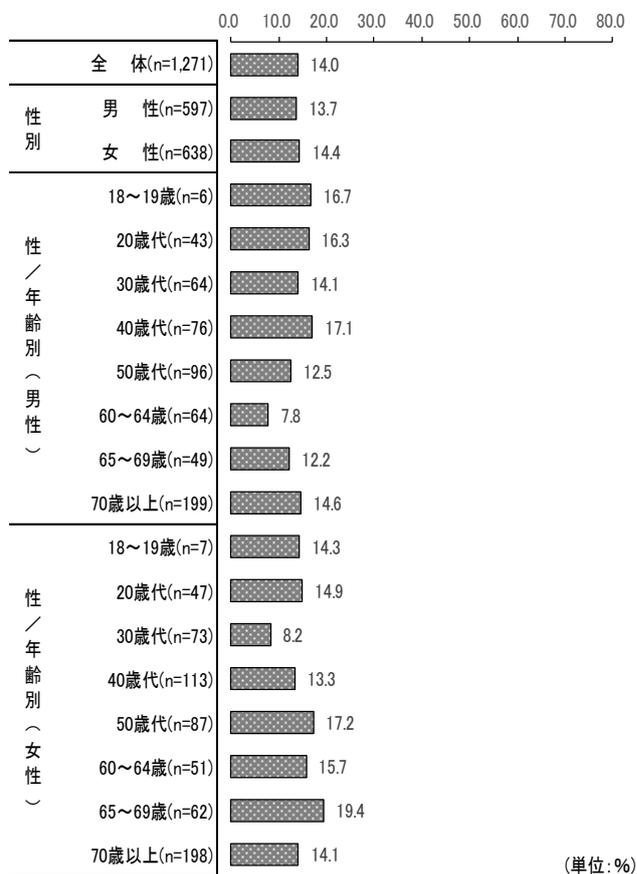
消火器の設置



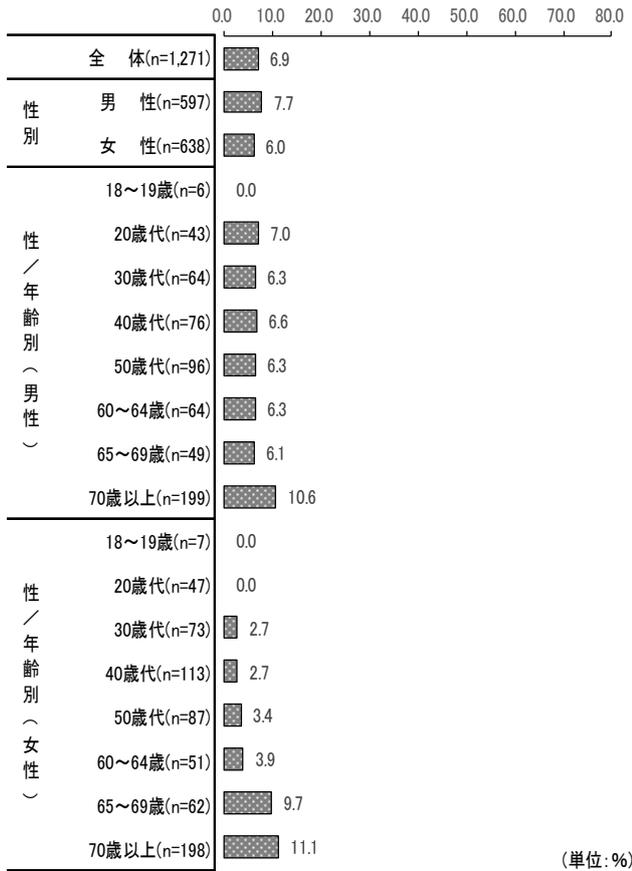
県や市町などの防災メールへの登録



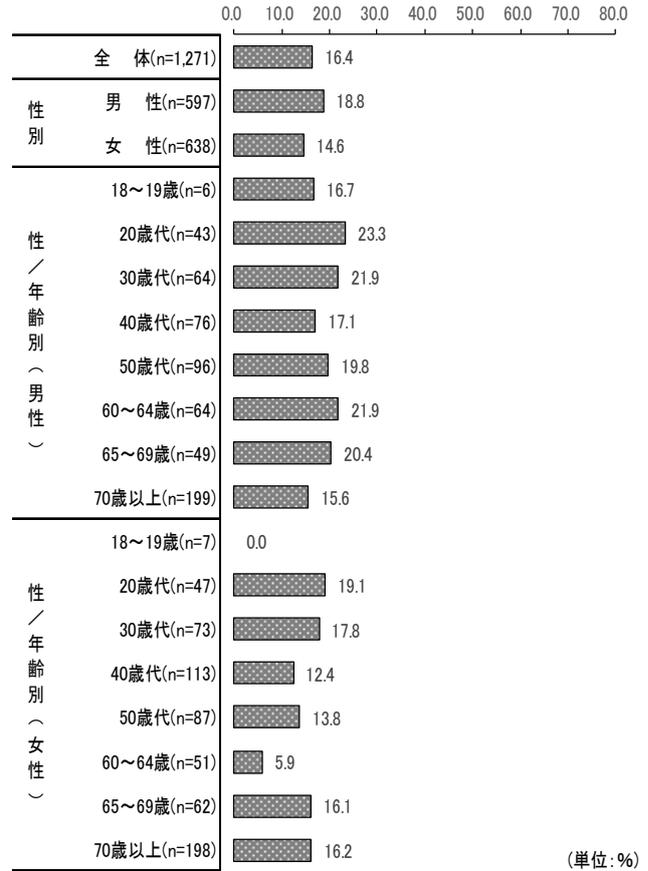
家族との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル等)の確認



感震ブレーカーの設置・点検



特に何もしていない

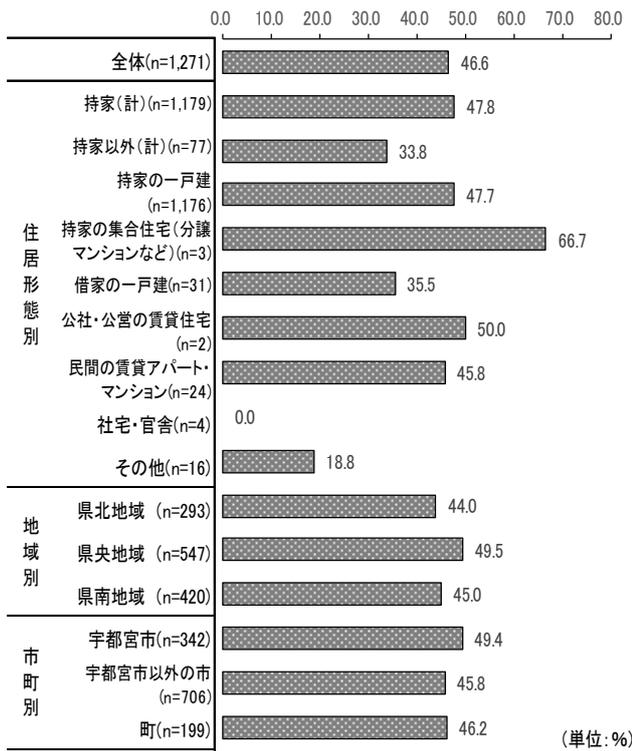


性別で見ると、「県や市町などの防災メールへの登録」では〈女性〉21.2%が、〈男性〉13.2%より8.0ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。また、「食料や飲料水の備蓄」では〈女性〉49.7%が、〈男性〉42.7%より7.0ポイント高くなっている。

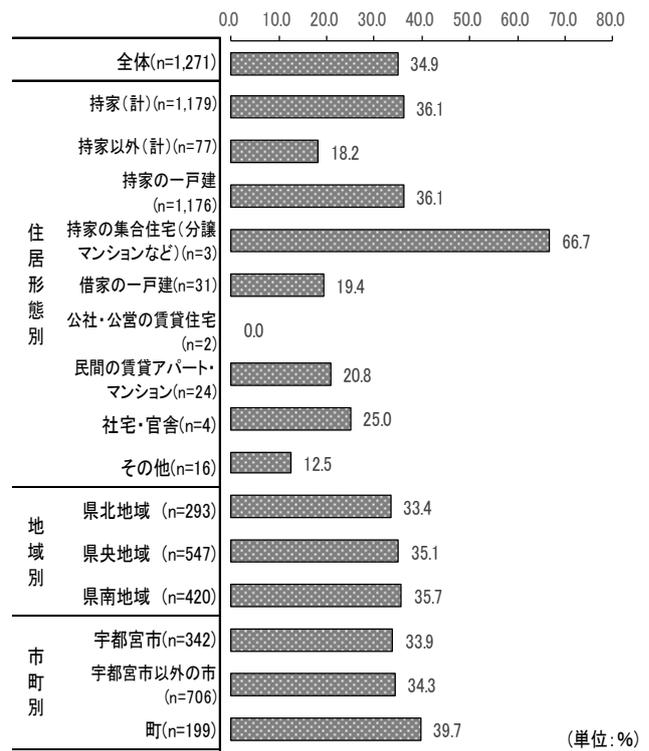
性/年齢別で見ると、「食料や飲料水の備蓄」では〈女性 60~64歳〉66.7%が最も高く、〈男性 65~69歳〉34.7%が最も低くなっている。「県や市町などの防災メールへの登録」では70歳以上を除く年代で、男性より女性の割合が高くなっている。また、30歳以上では年代が上がるにつれて概ね減少傾向で、男女ともに70歳以上では1割に満たない。

[住居形態別・地域別・市町別]

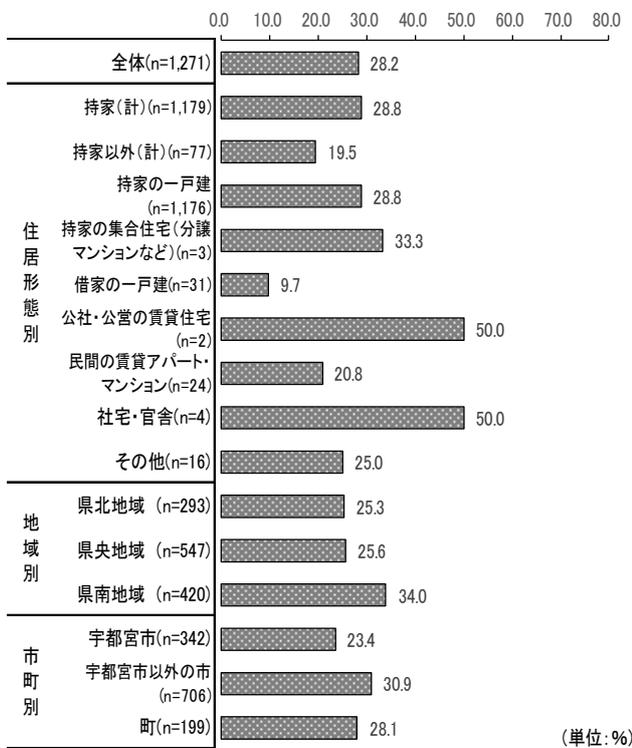
食料や飲料水の備蓄



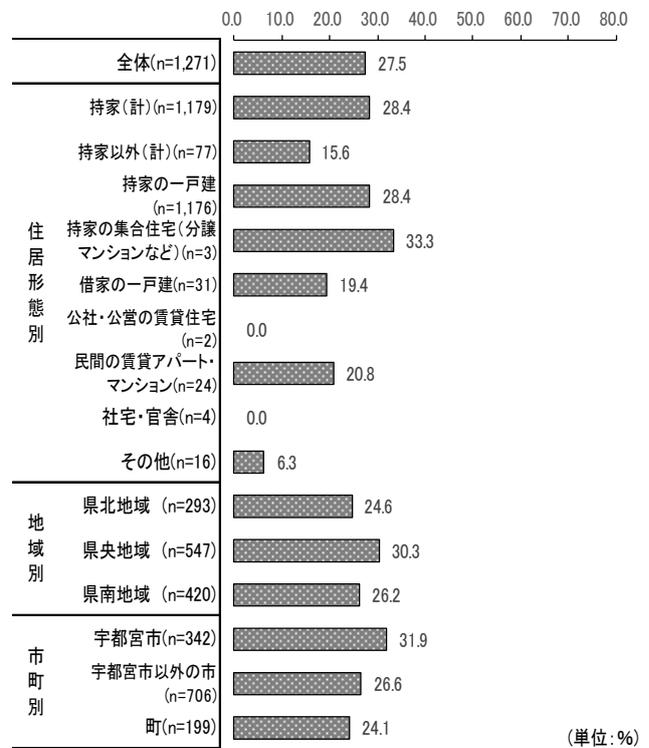
地震などの自然災害対応の保険への加入



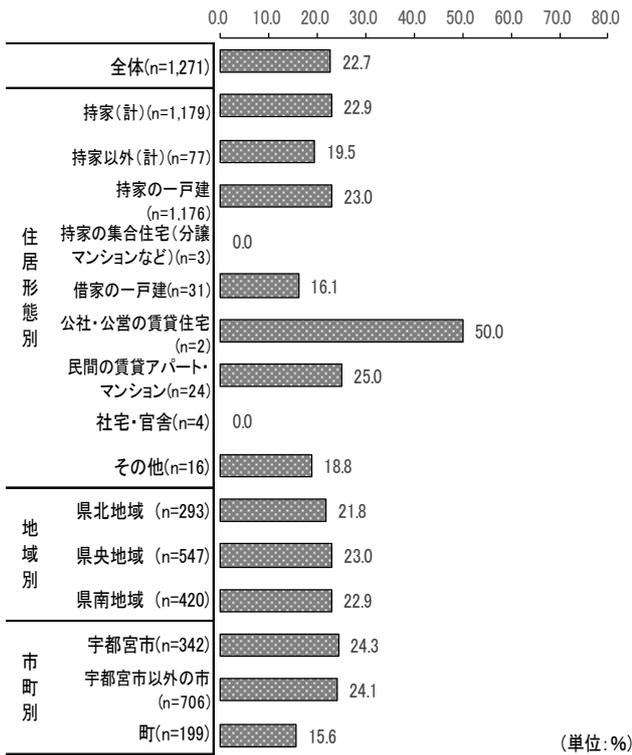
ハザードマップの確認



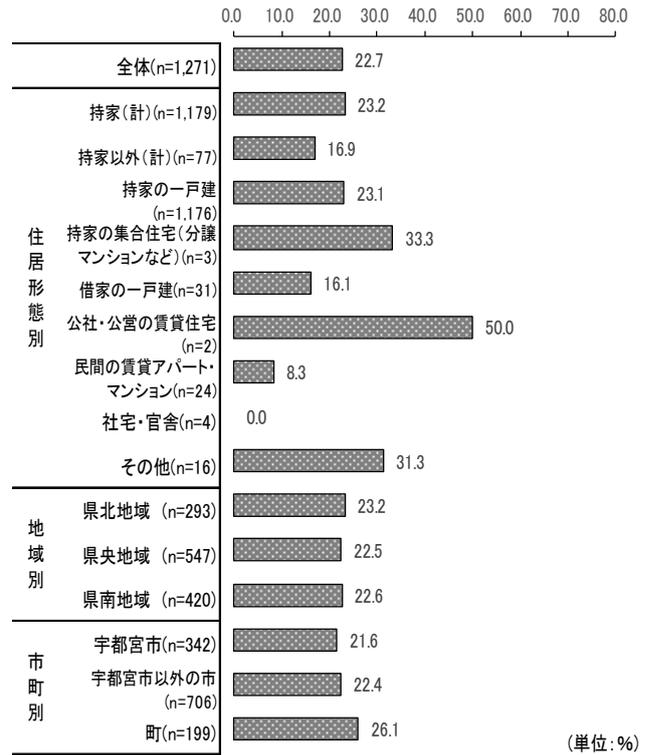
家具の転倒防止対策や配置の工夫



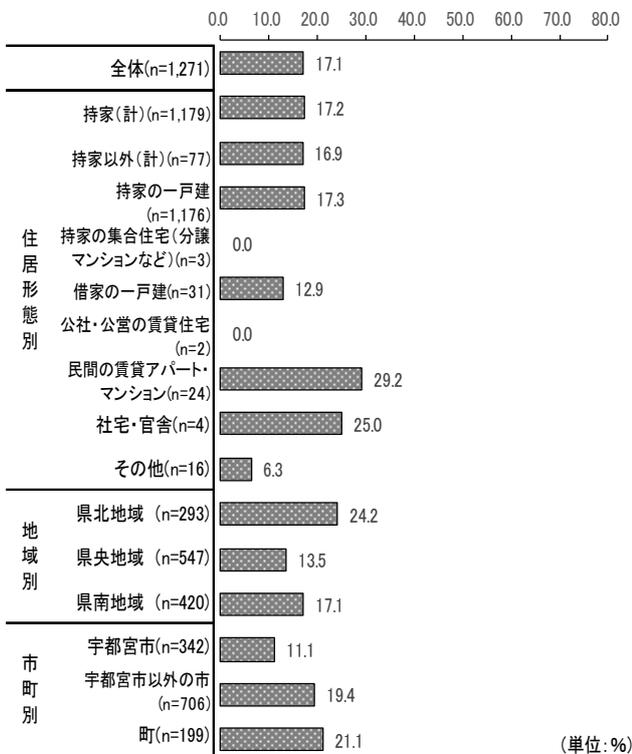
非常用持ち出し袋の準備



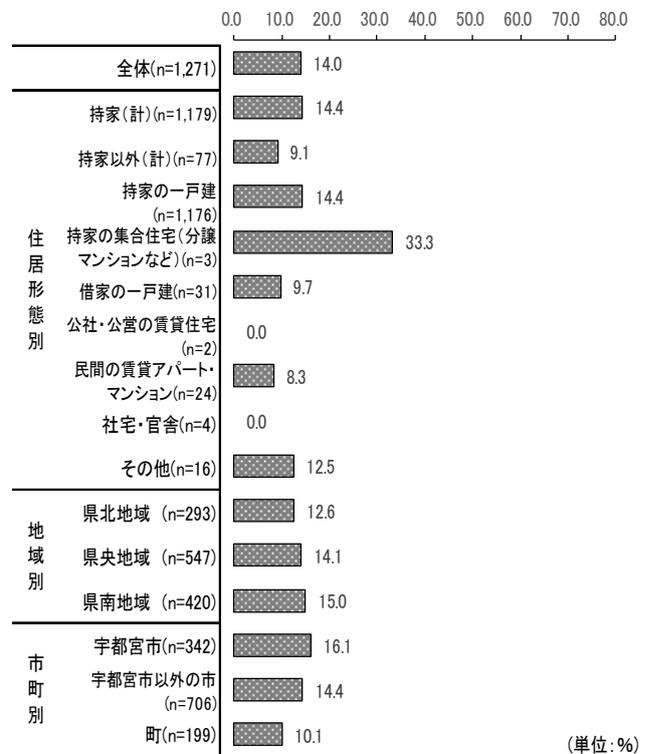
消火器の設置



県や市町などの防災メールへの登録



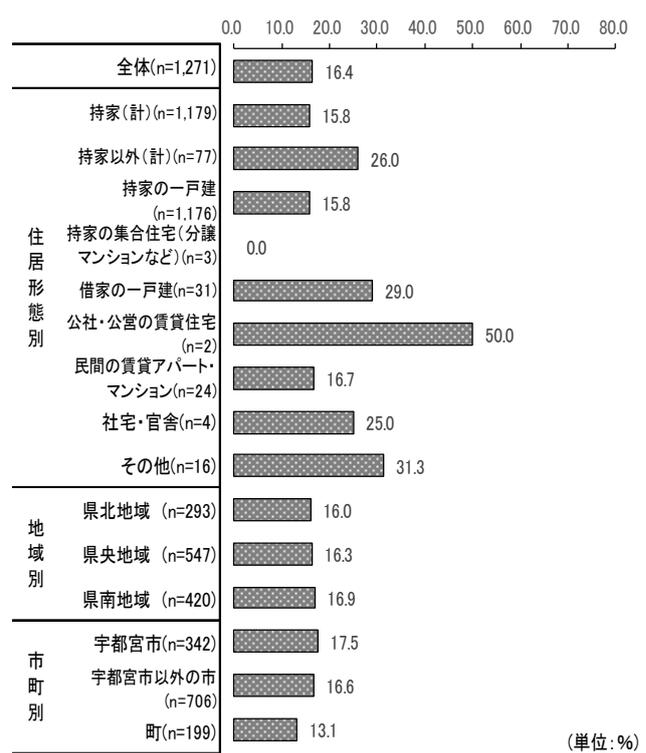
家族との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル等)の確認



感震ブレーカーの設置・点検



特に何もしていない



住居形態別でみると、「食料や飲料水の備蓄」では〈持家(計)〉47.8%が、〈持家以外(計)〉33.8%より14.0ポイント高くなっている。「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈持家(計)〉36.1%が、〈持家以外(計)〉18.2%より17.9ポイント高くなっている。

地域別でみると、「ハザードマップの確認」では〈県南地域〉34.0%が3割を超えて高く、〈県北地域〉と〈県央地域〉はともに2割半ばとなっている。「県や市町などの防災メールへの登録」では〈県北地域〉24.2%が最も高く、〈県央地域〉13.5%が最も低くなっている。

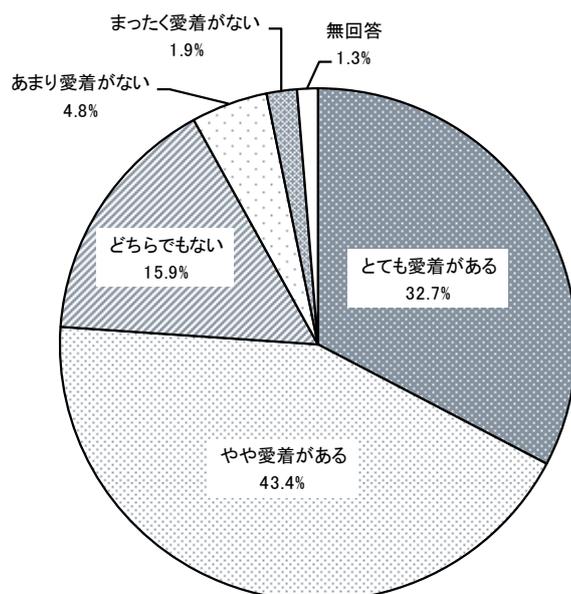
市町別でみると、「ハザードマップの確認」では〈宇都宮市以外の市〉30.9%が最も高く、〈宇都宮市〉23.4%が最も低くなっている。「家具の転倒防止対策や配置に工夫」では〈宇都宮市〉31.9%が最も高く、〈町〉24.1%が最も低くなっている。

6 栃木県への愛着と誇りについて

(1) 栃木県に対する愛着

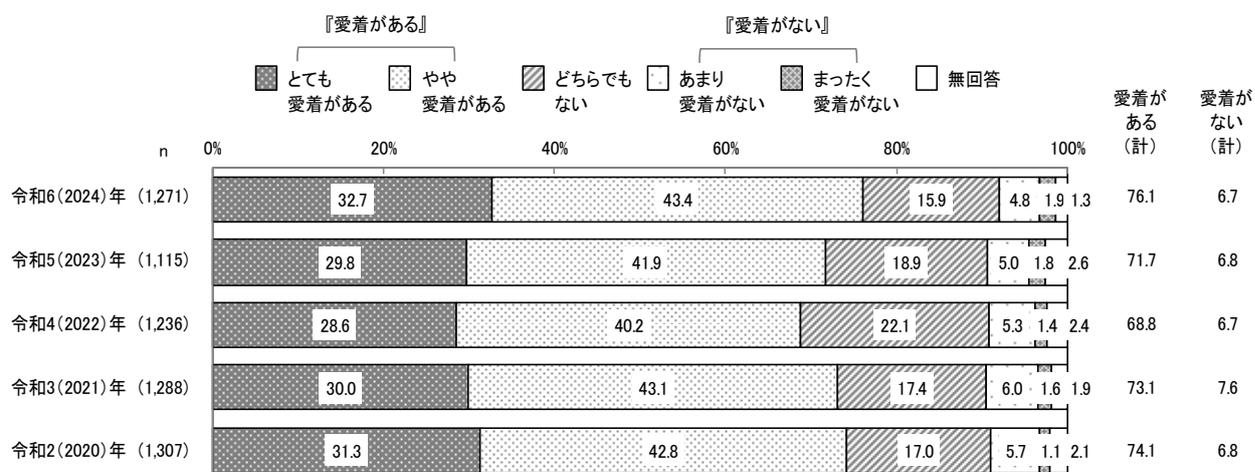
問15 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1	とても愛着がある	32.7%	4	あまり愛着がない	4.8%
2	やや愛着がある	43.4	5	まったく愛着がない	1.9
3	どちらでもない	15.9		(無回答)	1.3



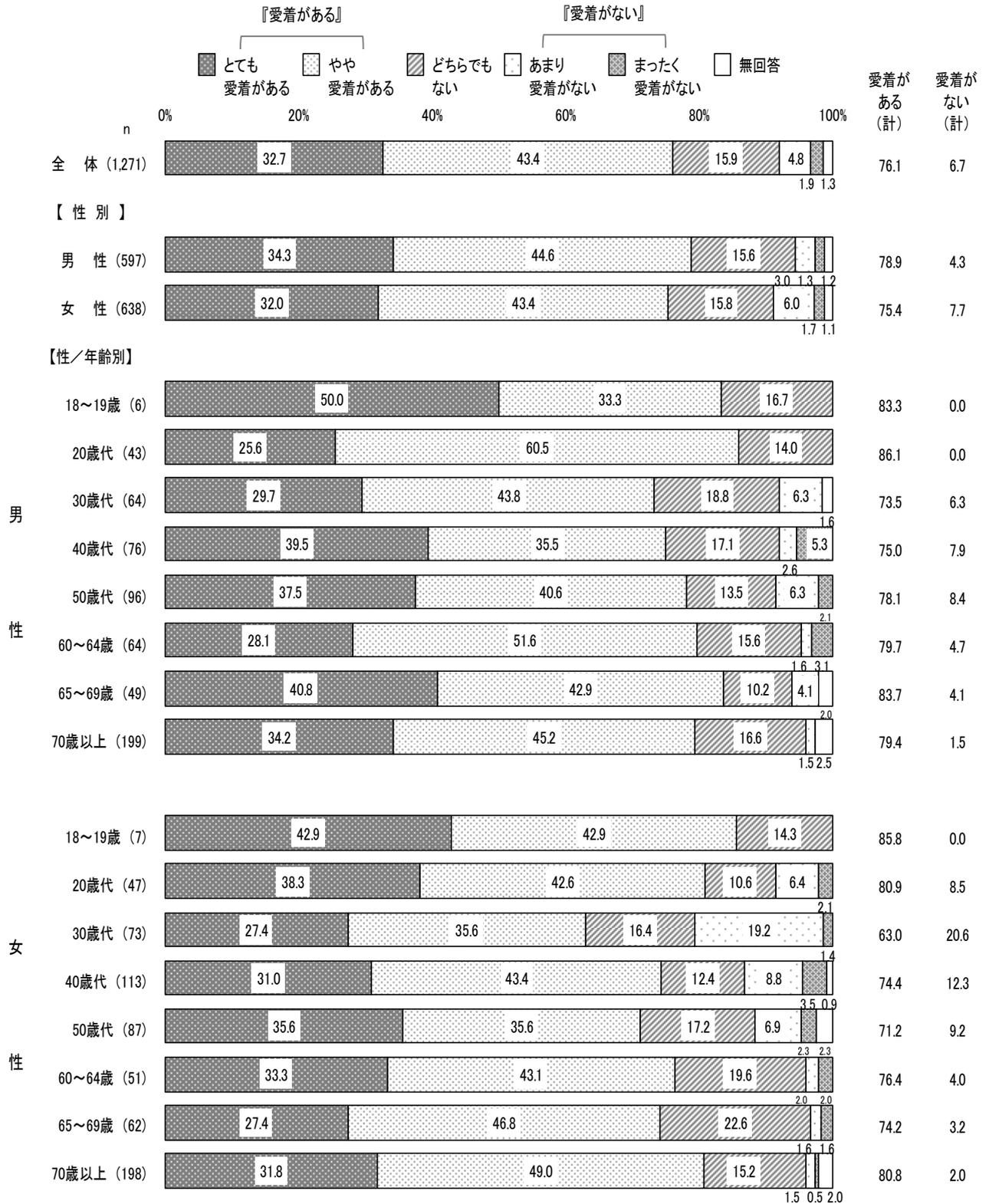
(n=1,271)

全体でみると、「とても愛着がある」(32.7%)と「やや愛着がある」(43.4%)の2つを合わせた『愛着がある』(76.1%)が7割台後半となっている。一方、「あまり愛着がない」(4.8%)と「まったく愛着がない」(1.9%)の2つを合わせた『愛着がない』(6.7%)が1割未満となっている。また、「どちらでもない」(15.9%)が1割半ばとなっている。



過去の調査結果と比較すると、『愛着がある』では前回(令和5(2023)年)から4.4ポイント増加している。

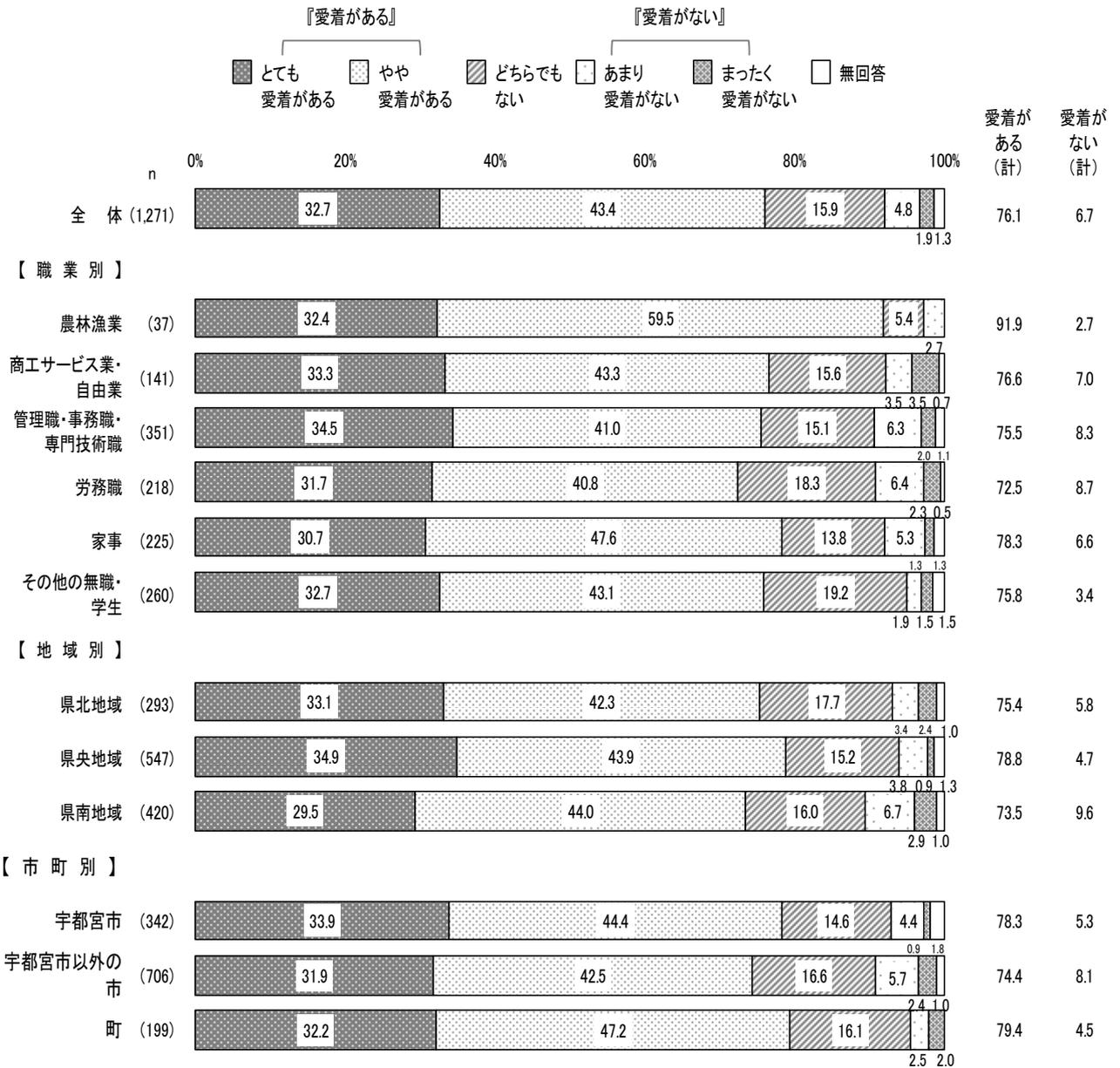
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『愛着がある』では〈男性〉78.9%が、〈女性〉75.4%より3.5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『愛着がある』では〈男性20歳代〉86.1%が最も高く、〈女性30歳代〉63.0%が最も低くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『愛着がある』では〈農林漁業〉91.9%が最も高く、〈労務職〉72.5%が最も低くなっている。

地域別でみると、『愛着がある』では、すべての分類で7割台であり、特に〈県央地域〉78.8%が高くなっている。

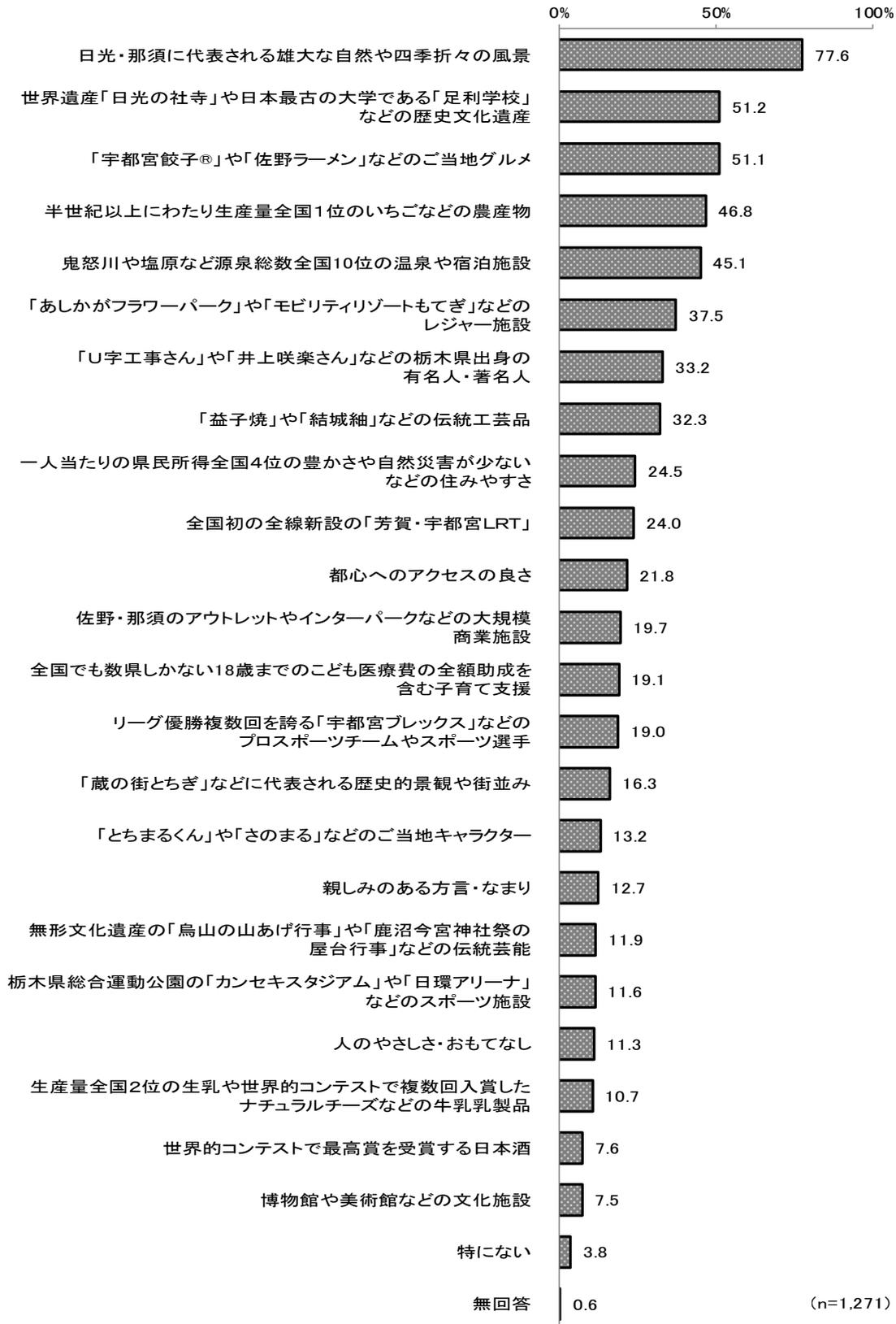
市町別でみると、『愛着がある』ではすべての分類で7割台であり、特に〈町〉79.4%が高くなっている。

(2) 栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの

問16 あなたが「栃木県」の魅力あるものとして自慢できるもの、オススメするものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,271]

1	日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景	77.6%
2	鬼怒川や塩原など源泉総数全国10位の温泉や宿泊施設	45.1
3	「あしかがフラワーパーク」や「モビリティリゾートもてぎ」などのレジャー施設	37.5
4	栃木県総合運動公園の「カンセキスタジアム」や「日環アリーナ」などのスポーツ施設	11.6
5	佐野・那須のアウトレットやインターパークなどの大規模商業施設	19.7
6	博物館や美術館などの文化施設	7.5
7	無形文化遺産の「烏山の山あげ行事」や「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」などの伝統芸能	11.9
8	「蔵の街とちぎ」などに代表される歴史的景観や街並み	16.3
9	世界遺産「日光の社寺」や日本最古の大学である「足利学校」などの歴史文化遺産	51.2
10	「益子焼」や「結城紬」などの伝統工芸品	32.3
11	半世紀以上にわたり生産量全国1位のいちごなどの農産物	46.8
12	生産量全国2位の生乳や世界的コンテストで複数回入賞したナチュラルチーズなどの牛乳乳製品	10.7
13	「宇都宮餃子®」や「佐野ラーメン」などのご当地グルメ	51.1
14	世界的コンテストで最高賞を受賞する日本酒	7.6
15	人のやさしさ・おもてなし	11.3
16	親しみのある方言・なまり	12.7
17	一人当たりの県民所得全国4位の豊かさや自然災害が少ないなどの住みやすさ	24.5
18	全国でも数県しかない18歳までのこども医療費の全額助成を含む子育て支援	19.1
19	全国初の全線新設の「芳賀・宇都宮LRT」	24.0
20	都心へのアクセスの良さ	21.8
21	「とちまるくん」や「さのまる」などのご当地キャラクター	13.2
22	リーグ優勝複数回を誇る「宇都宮ブレックス」などのプロスポーツチームやスポーツ選手	19.0
23	「U字工事さん」や「井上咲楽さん」などの栃木県出身の有名人・著名人	33.2
24	特にない (無回答)	3.8 0.6

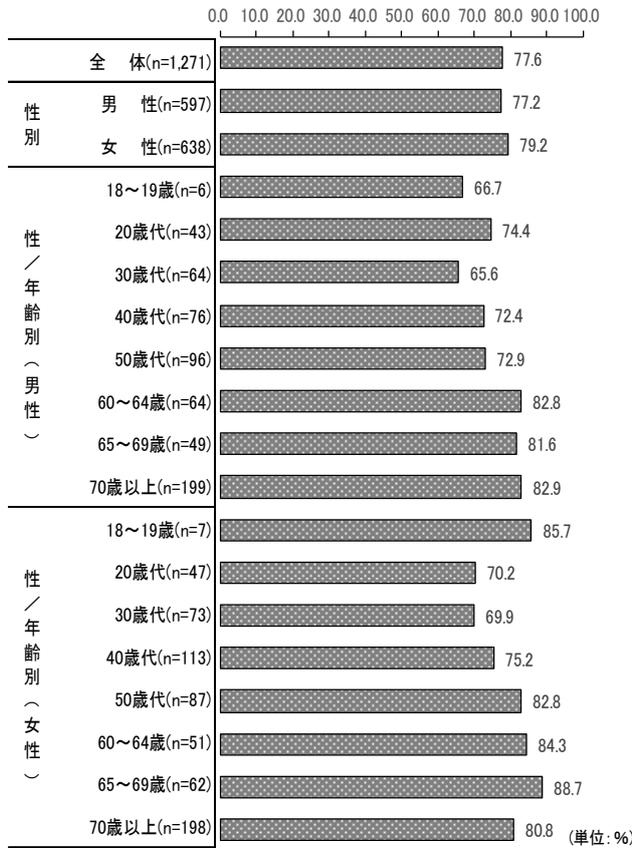
【令和6(2024)年】



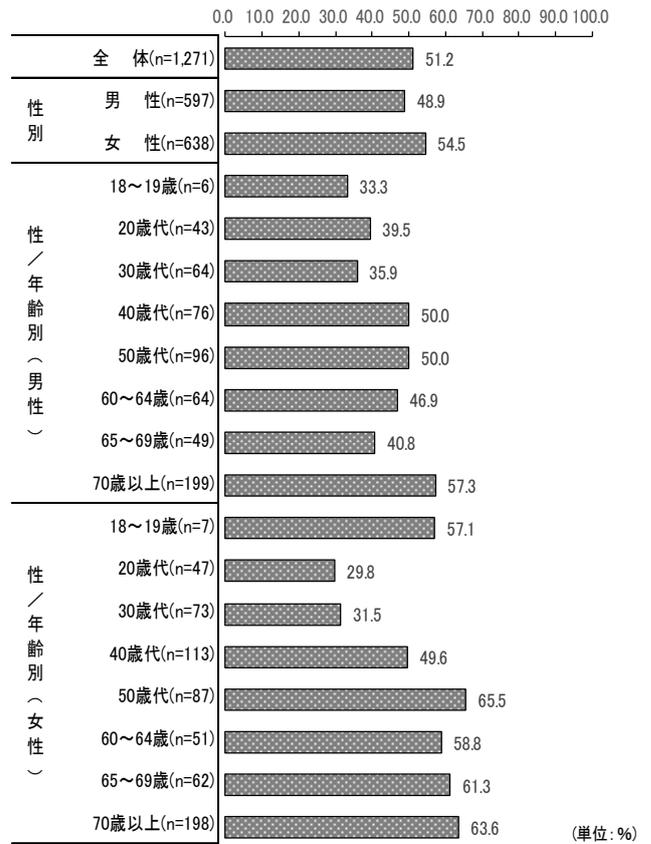
全体でみると、「日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景」(77.6%)が7割台後半で最も高く、次いで「世界遺産『日光の社寺』や日本最古の大学である『足利学校』などの歴史文化遺産」(51.2%)、「『宇都宮餃子®』や『佐野ラーメン』などのご当地グルメ」(51.1%)、「半世紀以上にわたり生産量全国1位のいちごなどの農産物」(46.8%)の順となっている。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

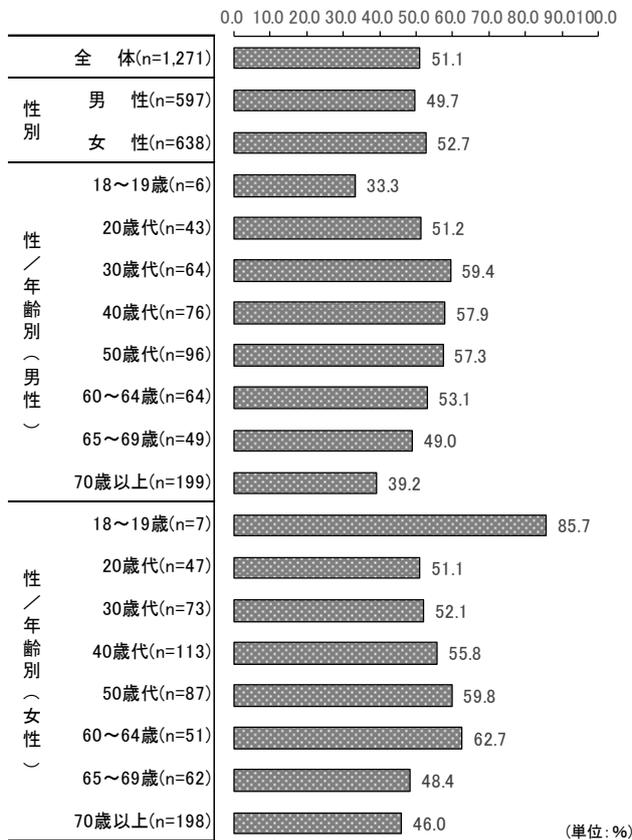
日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景



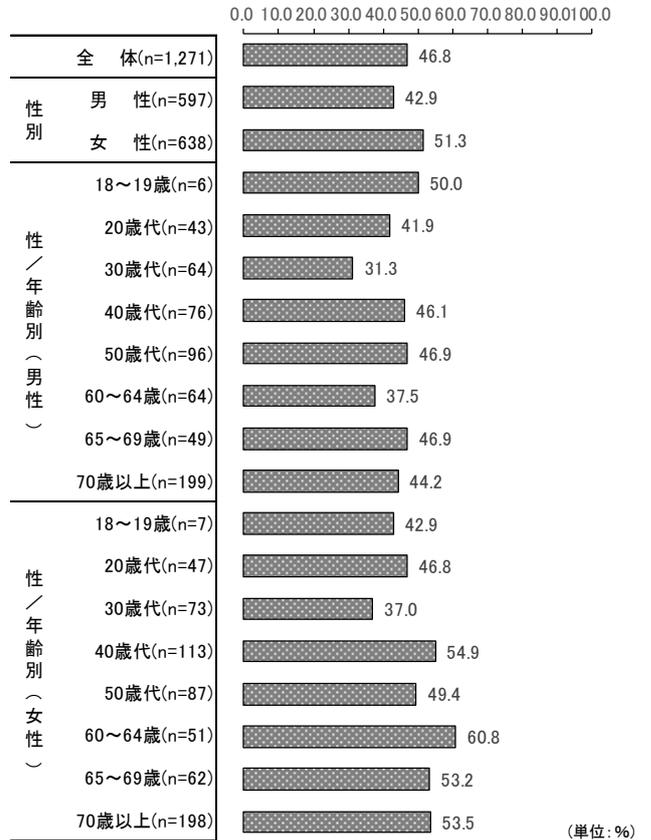
世界遺産「日光の社寺」や日本最古の大学である「足利学校」などの歴史文化遺産



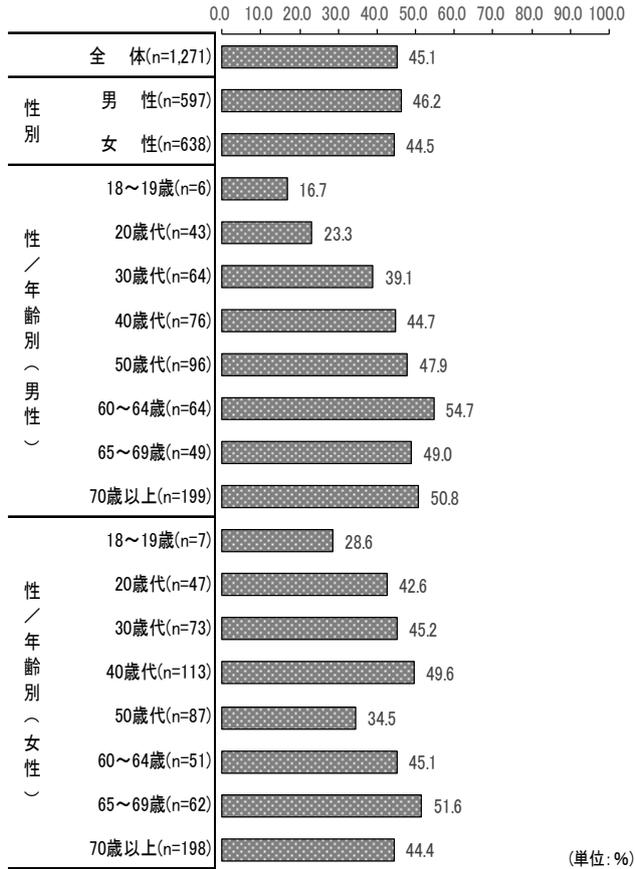
「宇都宮餃子®」や「佐野ラーメン」などのご当地グルメ



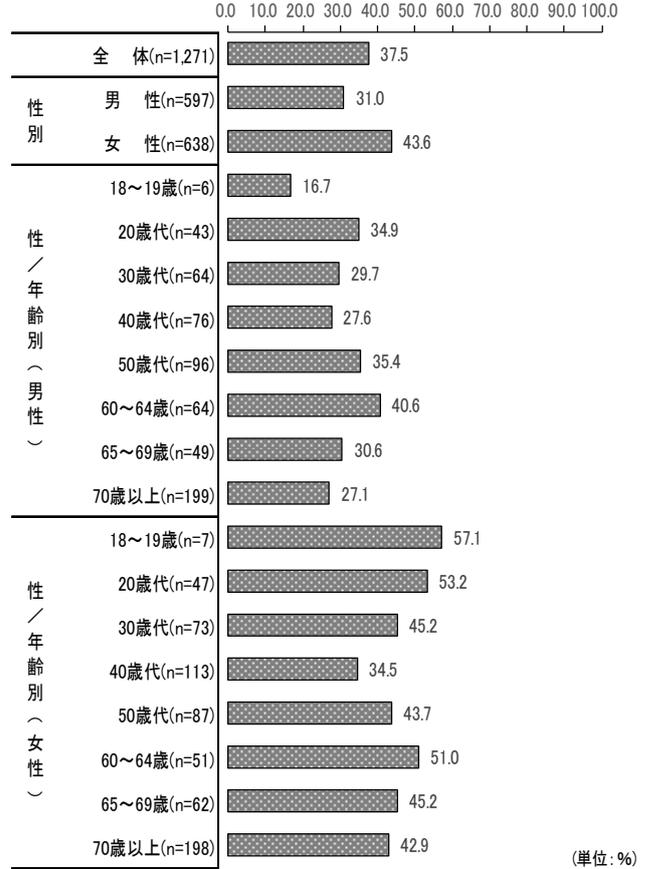
半世紀以上にわたり生産量全国1位のいちごなどの農産物



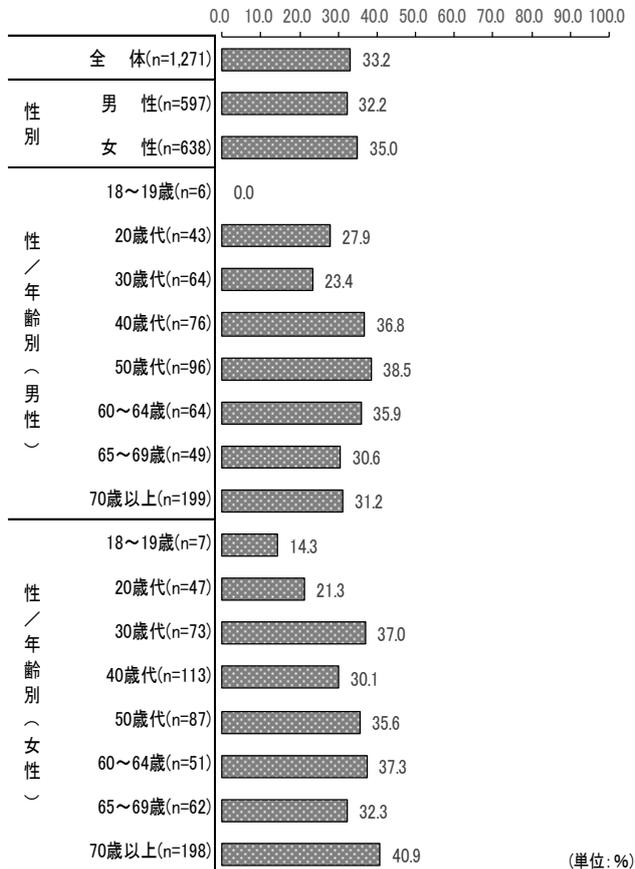
鬼怒川や塩原など源泉総数全国10位の温泉や宿泊施設



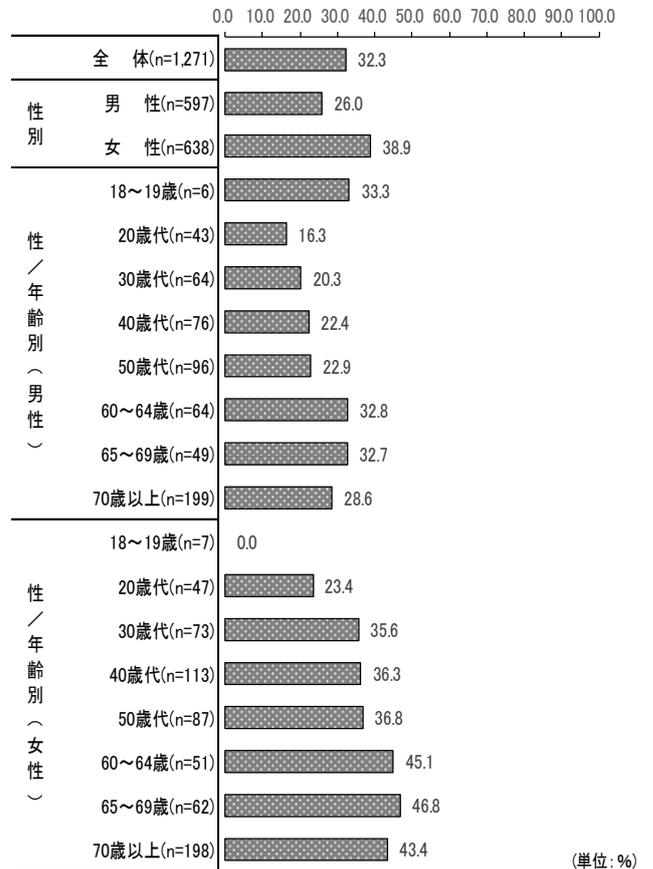
「あしががフラワーパーク」や「モビリティリゾートもてぎ」などのレジャー施設



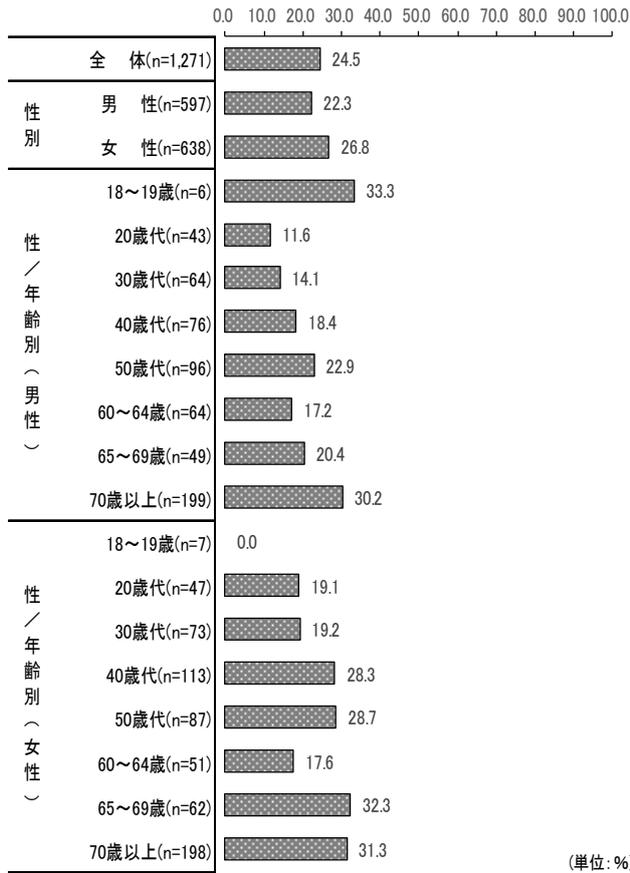
「U字工事さん」や「井上咲楽さん」などの栃木県出身の有名人・著名人



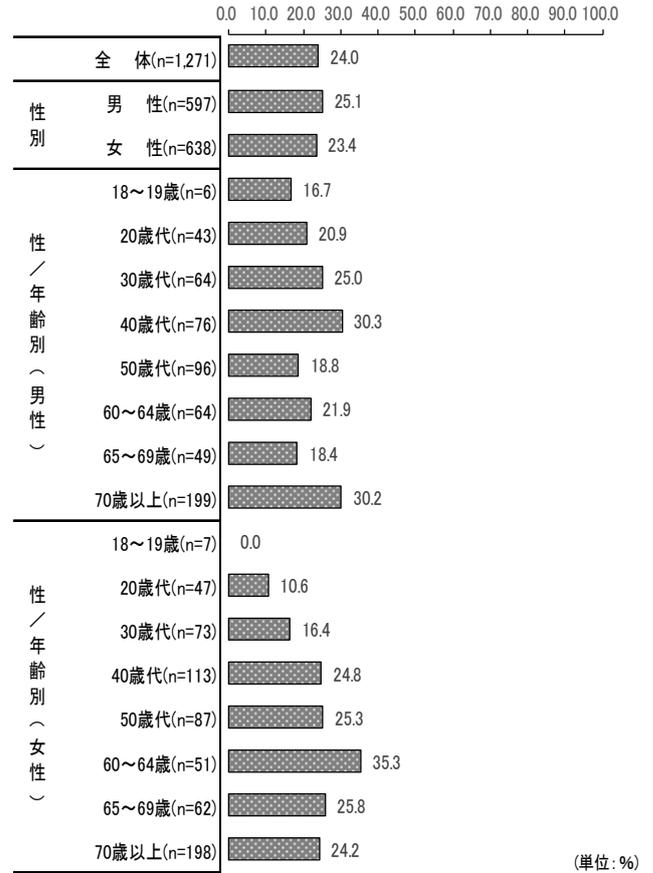
「益子焼」や「結城紬」などの伝統工芸品



一人当たりの県民所得全国4位の豊かさや自然災害が少ないなどの住みやすさ



全国初の全線新設の「芳賀・宇都宮LRT」

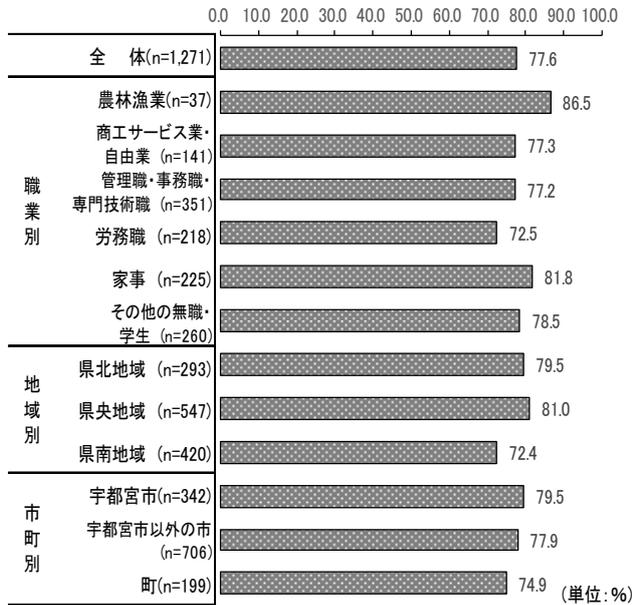


性別で見ると、「『益子焼』や『結城紬』などの伝統工芸品」では〈女性〉38.9%が、〈男性〉26.0%より12.9ポイント高くなっている。「『あしかがフラワーパーク』や『モビリティリゾートもてぎ』などのレジャー施設」では〈女性〉43.6%が、〈男性〉31.0%より12.6ポイント高くなっている。

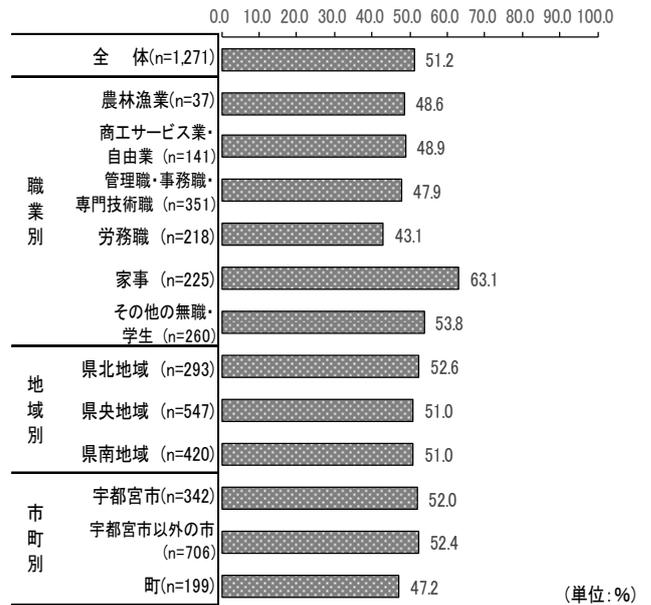
性/年齢別で見ると、「日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景」では〈女性65~69歳〉88.7%が最も高く、〈男性30歳代〉65.6%が最も低くなっている。「世界遺産『日光の社寺』や日本最古の大学である『足利学校』などの歴史文化遺産」では〈女性50歳代〉65.5%が最も高く、〈女性20歳代〉29.8%が最も低くなっている。

[職業別・地域別・市町別] (上位10項目)

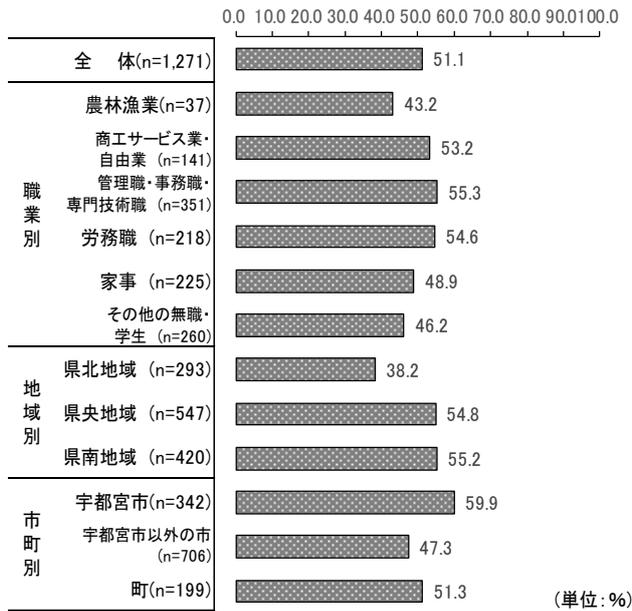
日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景



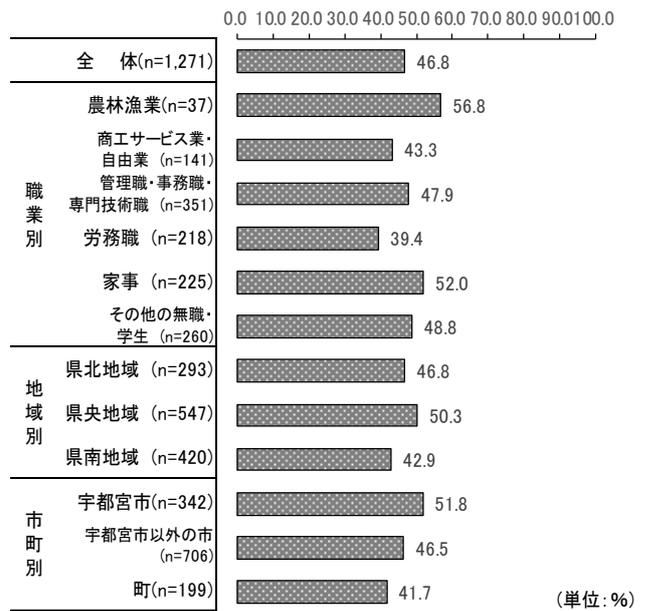
世界遺産「日光の社寺」や日本最古の大学である「足利学校」などの歴史文化遺産



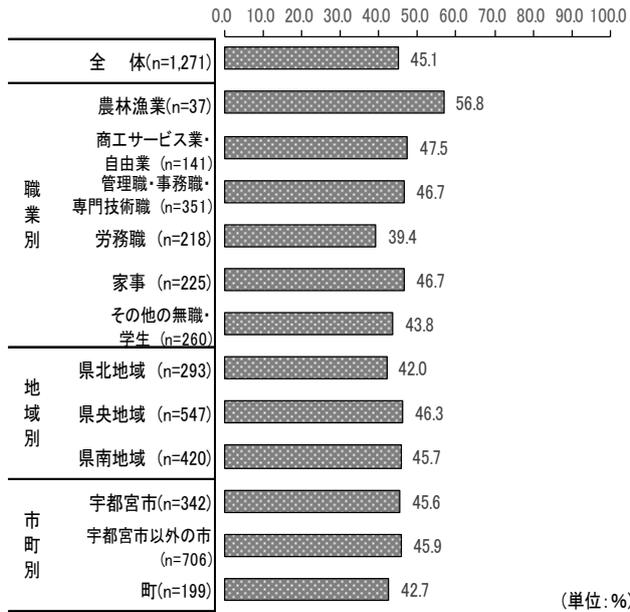
「宇都宮餃子®」や「佐野ラーメン」などのご当地グルメ



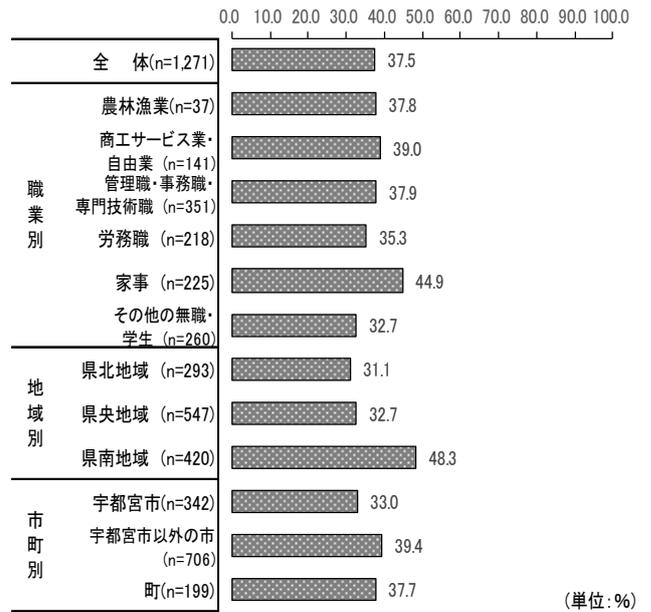
半世紀以上にわたり生産量全国1位のいちごなどの農産物



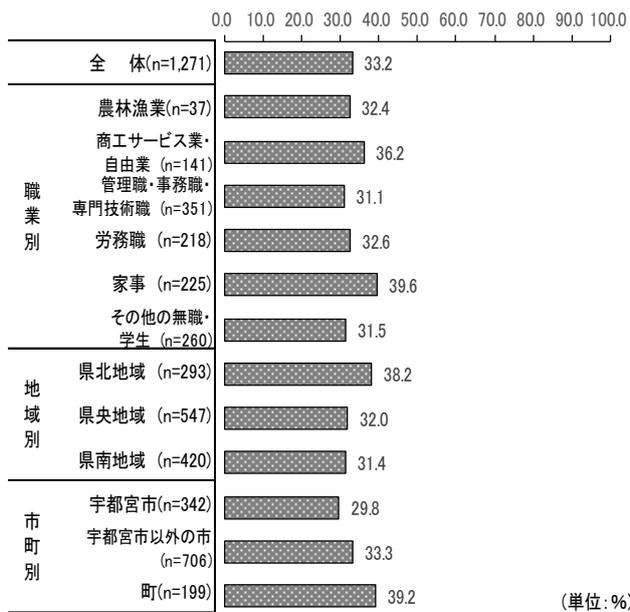
鬼怒川や塩原など源泉総数全国10位の温泉や宿泊施設



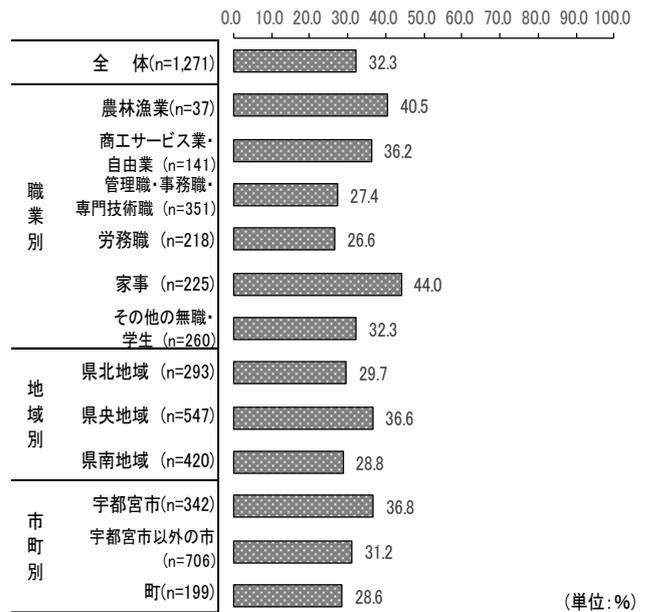
「あしががフラワーパーク」や「モビリティリゾートもてぎ」などのレジャー施設



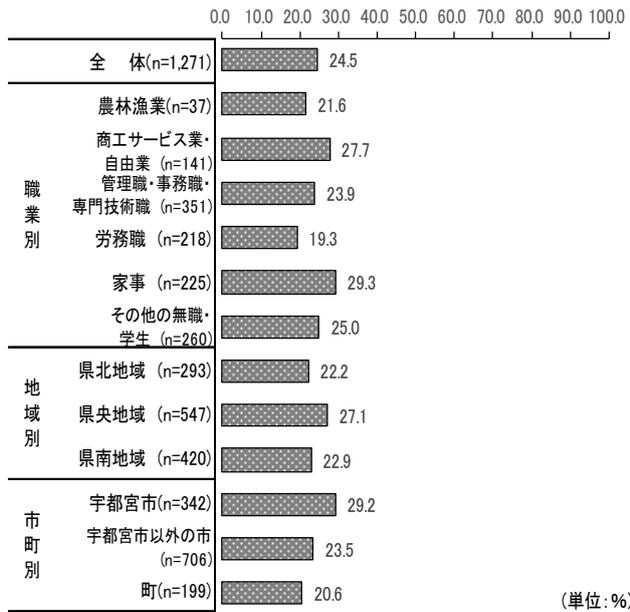
「U工事さん」や「井上咲楽さん」などの栃木県出身の有名人・著名人



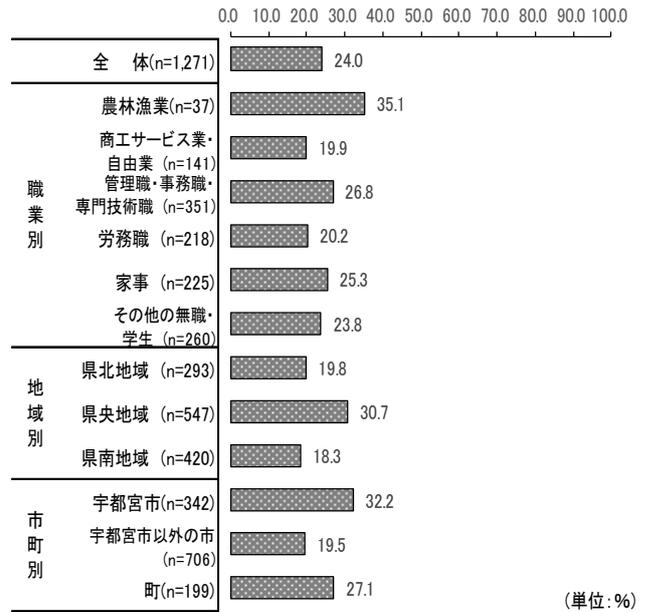
「益子焼」や「結城紬」などの伝統工芸品



一人当たりの県民所得全国4位の豊かさや自然災害が少ないなどの住みやすさ



全国初の全線新設の「芳賀・宇都宮LRT」



職業別でみると、「日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景」では〈農林漁業〉と〈家事〉がともに8割台と高く、その他の分類では7割台となっている。「世界遺産『日光の社寺』や日本最古の大学である『足利学校』などの歴史文化遺産」では〈家事〉63.1%が最も高く、〈労務職〉43.1%が最も低くなっている。

地域別でみると、「『宇都宮餃子®』や『佐野ラーメン』などのご当地グルメ」では〈県央地域〉と〈県南地域〉がともに5割半ばと高いものの、〈県北地域〉は4割弱となっている。

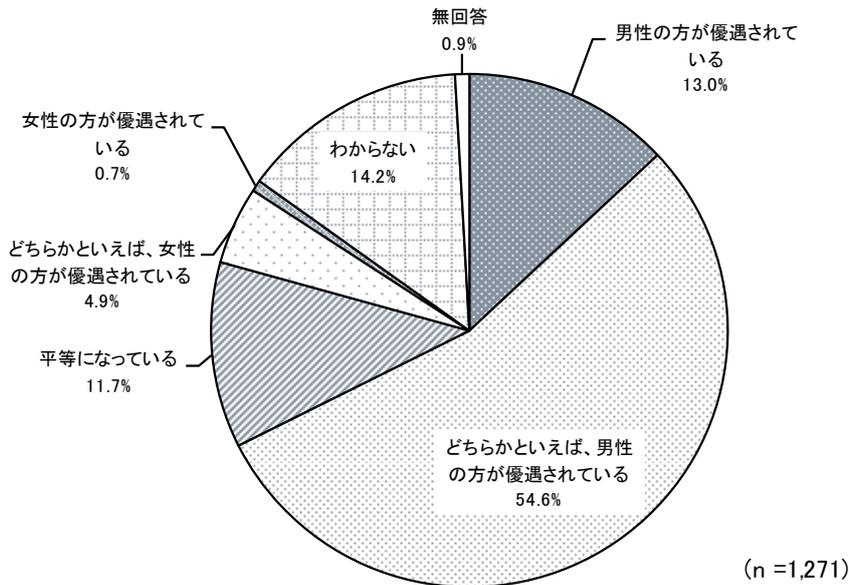
市町別でみると、「『宇都宮餃子®』や『佐野ラーメン』などのご当地グルメ」では〈宇都宮市〉59.9%が最も高く、〈宇都宮市以外の市〉46.5%が最も低くなっている。「『U字工事さん』や『井上咲楽さん』などの栃木県出身の有名人・著名人」では〈町〉39.2%が最も高く、〈宇都宮市〉29.8%が最も低くなっている。

7 男女平等意識について

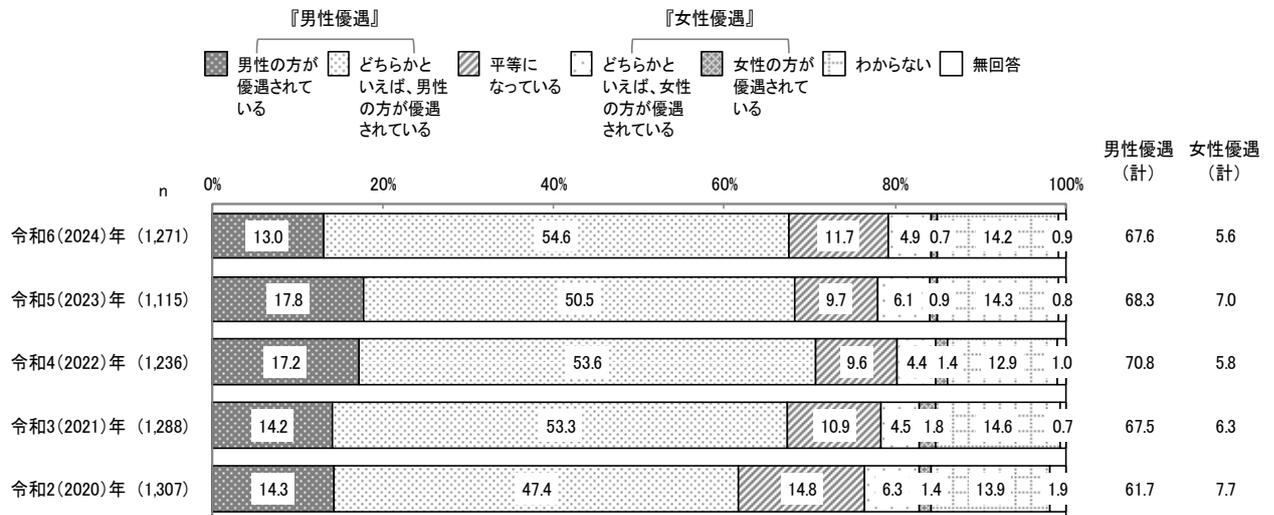
(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感

問17 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 男性の方が優遇されている	13.0%	5 女性の方が優遇されている	0.7%
2 どちらかといえば、男性の方が優遇されている	54.6	6 わからない	14.2
3 平等になっている	11.7	(無回答)	0.9
4 どちらかといえば、女性の方が優遇されている	4.9		

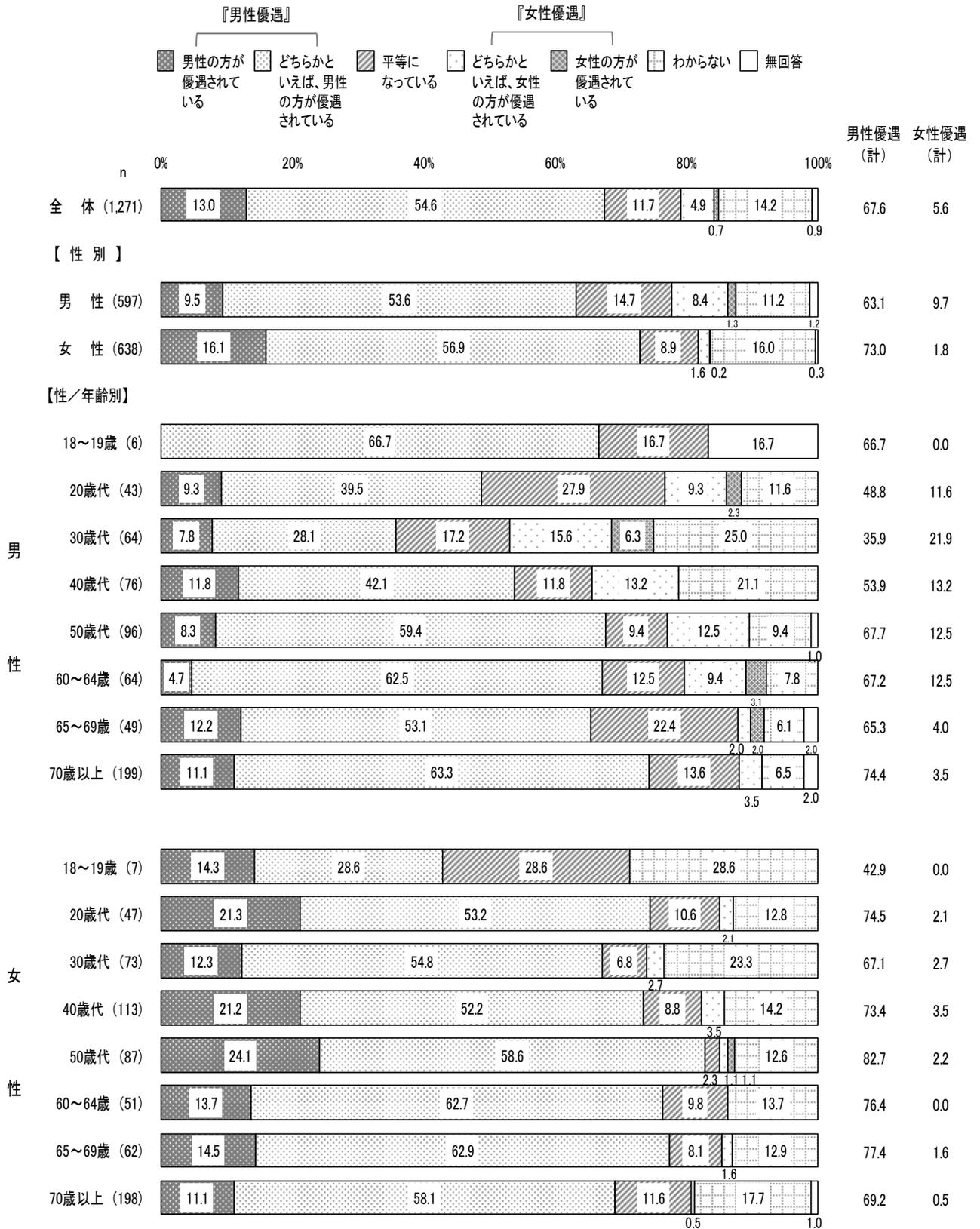


全体でみると、「男性の方が優遇されている」(13.0%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(54.6%)の2つを合わせた『男性優遇』(67.6%)が6割台後半となっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(4.9%)と「女性の方が優遇されている」(0.7%)の2つを合わせた『女性優遇』(5.6%)が1割未満となっている。また、「平等になっている」(11.7%)が1割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和5(2023)年)と大きな傾向の違いはみられない。

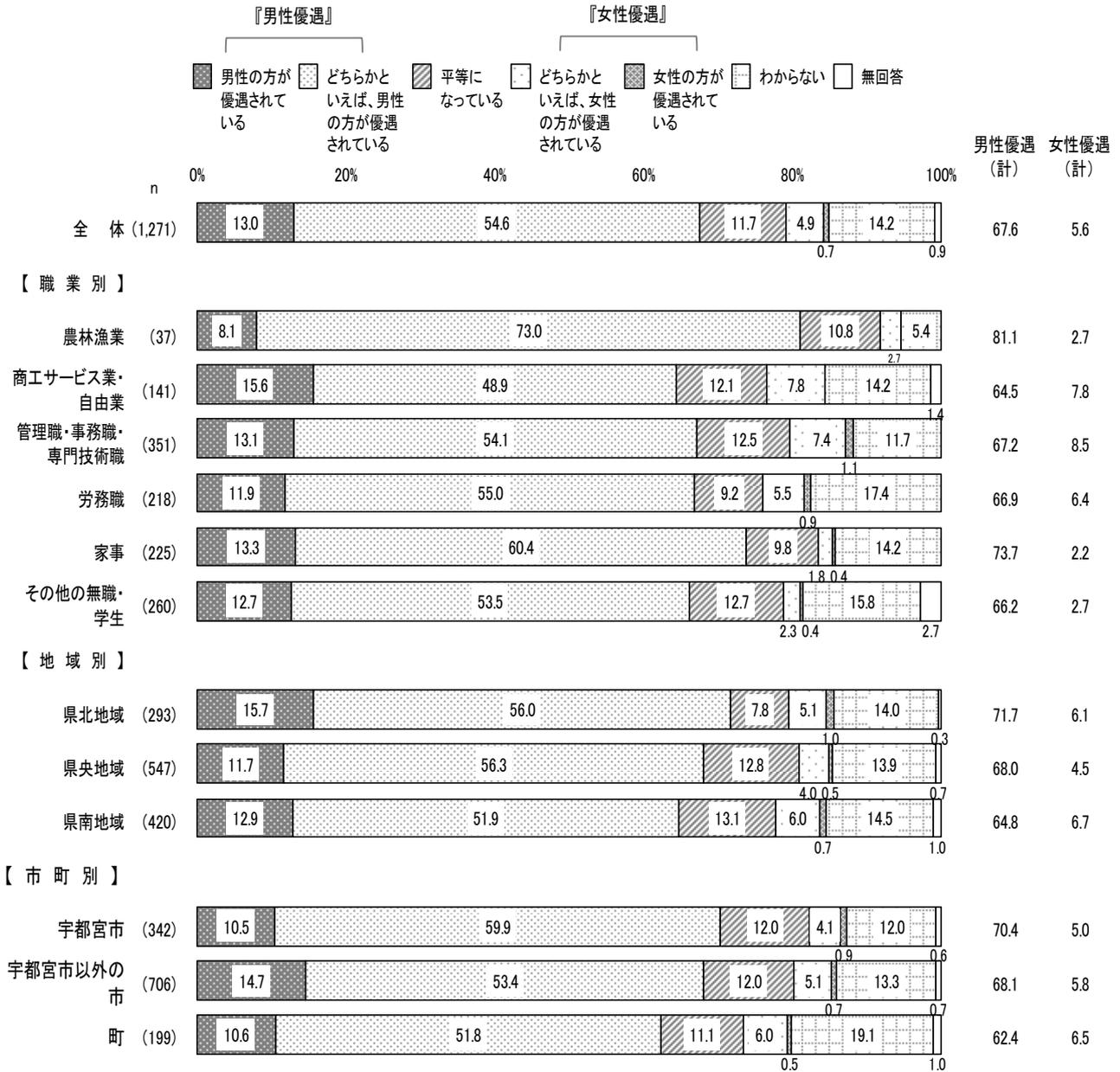
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『男性優遇』では〈女性〉73.0%が、〈男性〉63.1%より9.9ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉9.7%が、〈女性〉1.8%より7.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性優遇』では〈女性50歳代〉82.7%が最も高く、〈男性30歳代〉35.9%が最も低くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性30歳代〉21.9%が最も高く、〈女性60～64歳〉0.0%が最も低くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、『男性優遇』では〈農林漁業〉81.1%が最も高く、〈商工サービス業・自由業〉64.5%が最も低くなっている。一方、『女性優遇』では〈管理職・事務職・専門技術職〉8.5%が最も高く、〈家事〉2.2%が最も低くなっている。

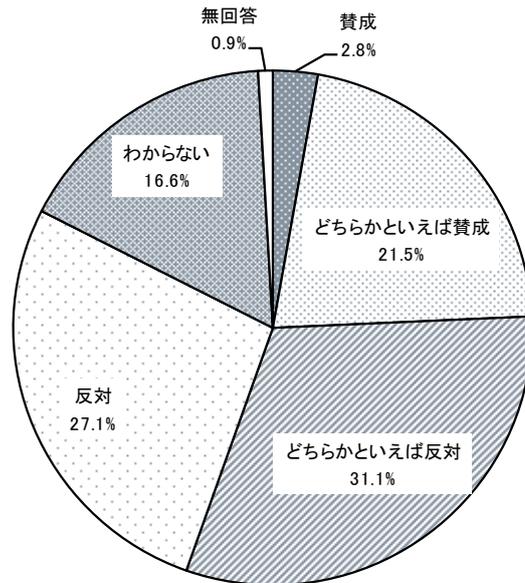
地域別で見ると、『男性優遇』では〈県北地域〉71.7%が最も高く、〈県南地域〉64.8%が最も低くなっている。一方、『女性優遇』ではすべての分類で1割以下となっている。

市町別で見ると、『男性優遇』では〈宇都宮市〉70.4%が最も高く、〈町〉62.4%が最も低くなっている。一方、『女性優遇』ではすべての分類で1割以下となっている。

(2) 固定的な性別役割分担意識

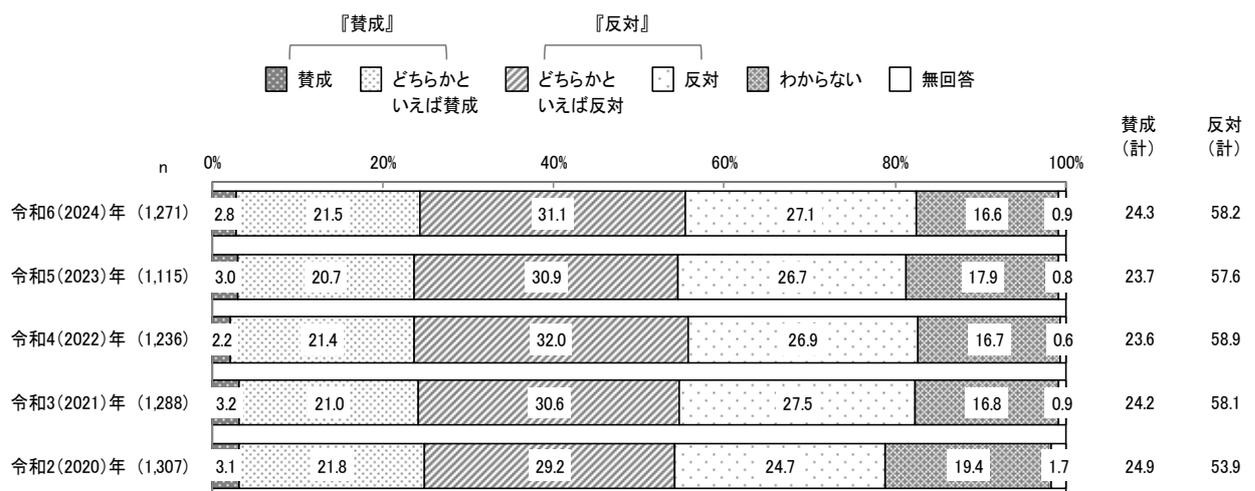
問18 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 賛成	2.8%	4 反対	27.1%
2 どちらかといえば賛成	21.5	5 わからない	16.6
3 どちらかといえば反対	31.1	(無回答)	0.9



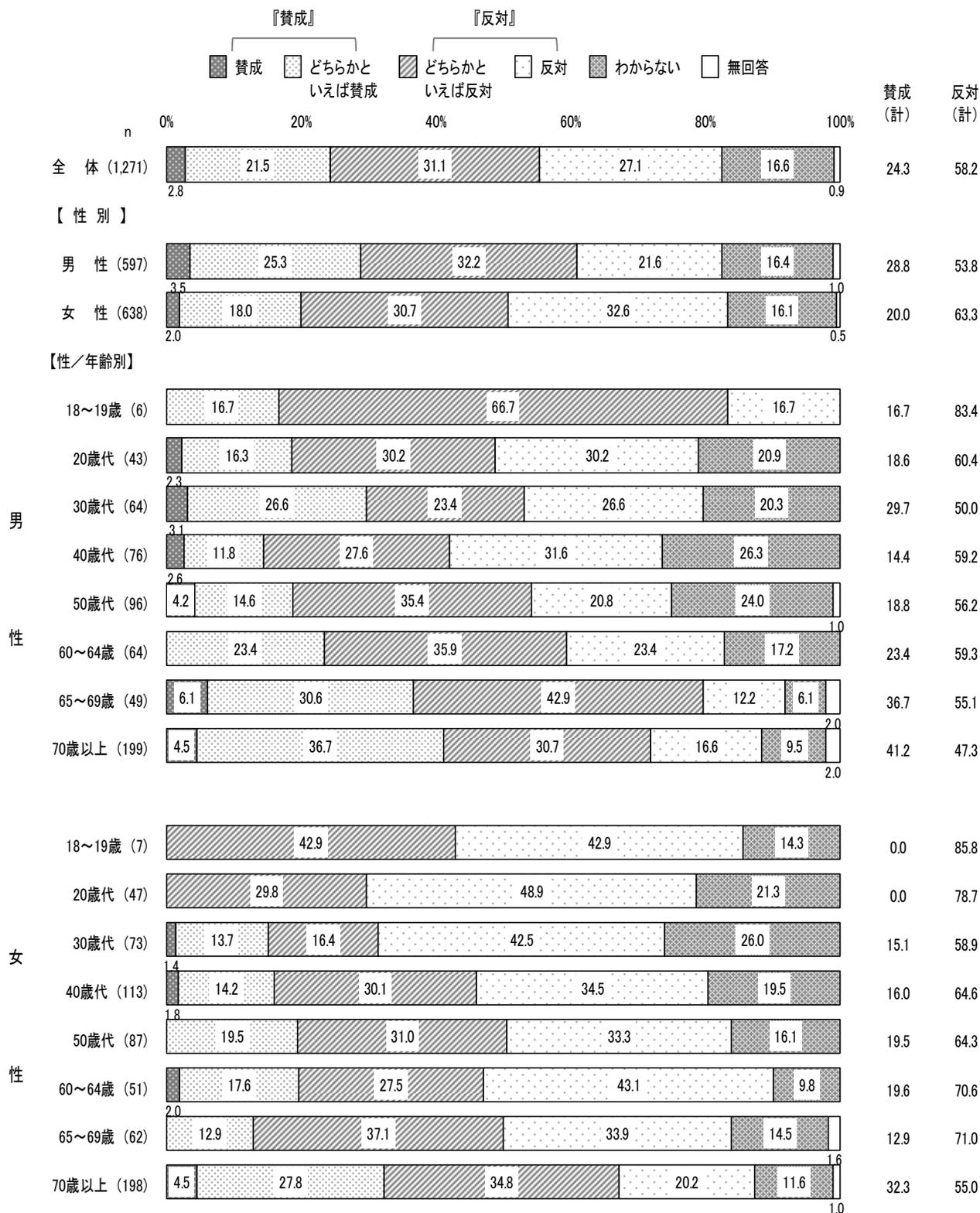
(n=1,271)

全体で見ると、「賛成」(2.8%)と「どちらかといえば賛成」(21.5%)の2つを合わせた『賛成』(24.3%)が2割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば反対」(31.1%)と「反対」(27.1%)の2つを合わせた『反対』(58.2%)が6割弱となっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和5(2023)年)と大きな傾向の違いはみられない。

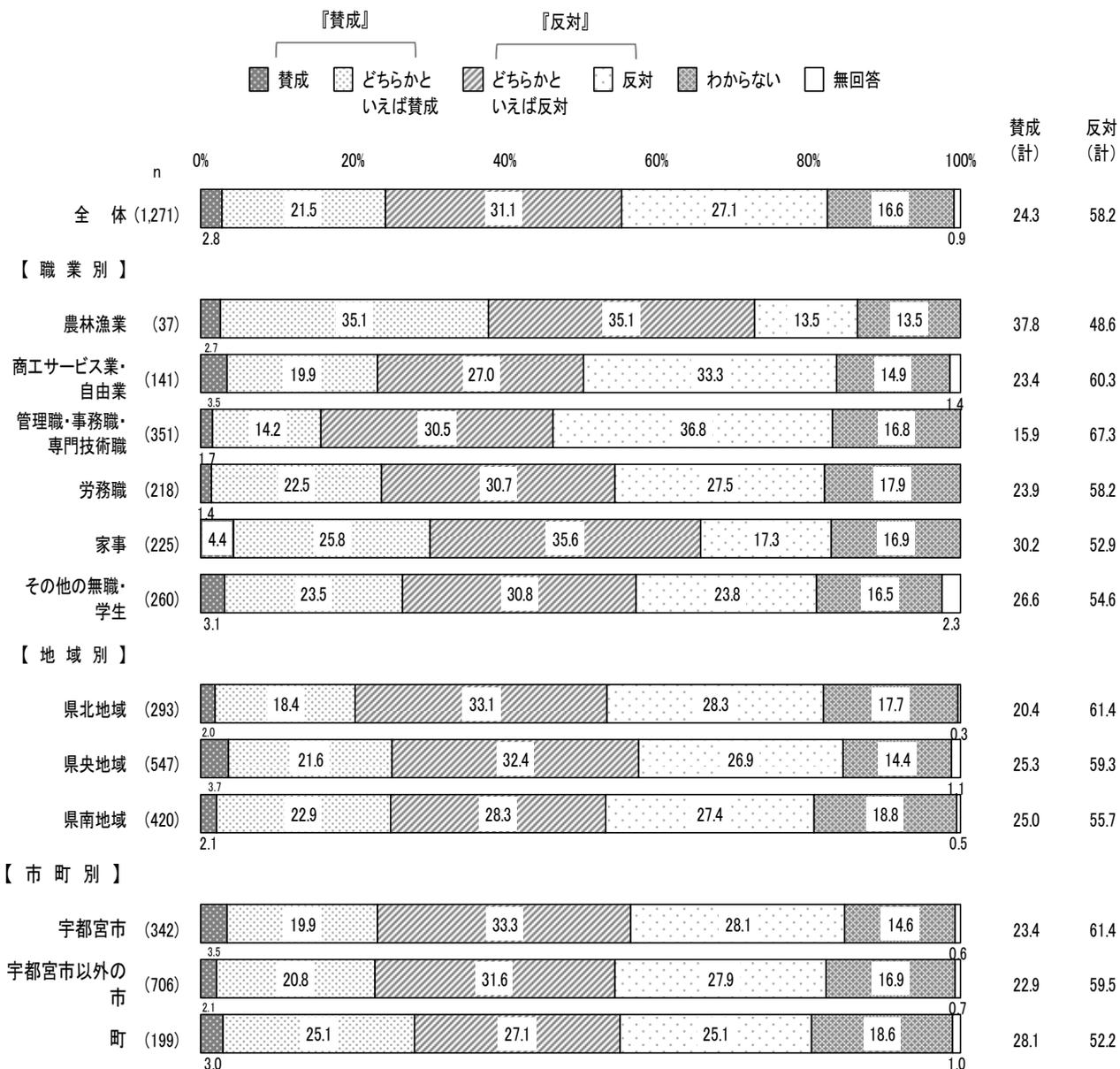
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『賛成』では〈男性〉28.8%が、〈女性〉20.0%より8.8ポイント高くなっている。一方、『反対』では〈女性〉63.3%が、〈男性〉53.8%より9.5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『賛成』では〈男性70歳以上〉41.2%が最も高く、〈女性20歳代〉0.0%が最も低くなっている。一方、『反対』では〈女性20歳代〉78.7%が高く、〈男性70歳以上〉47.3%が最も低くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、『賛成』では〈農林漁業〉37.8%が最も高く、〈管理職・事務職・専門技術職〉15.9%が最も低くなっている。一方、『反対』では〈管理職・事務職・専門技術職〉67.3%が最も高く、〈農林漁業〉48.6%が最も低くなっている。

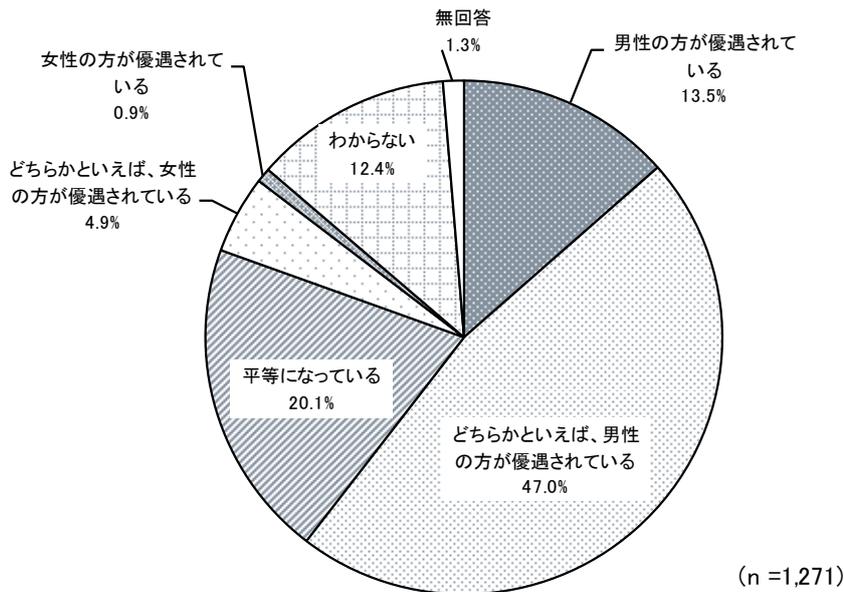
地域別で見ると、『賛成』ではすべての分類で2割台となっている。一方、『反対』では〈県北地域〉と〈県央地域〉がともに6割前後、〈県南地域〉が55.7%となっている。

市町別で見ると、『賛成』ではすべての分類で2割台となっている。一方、『反対』では〈宇都宮市〉61.4%が最も高く、〈町〉52.2%が最も低くなっている。

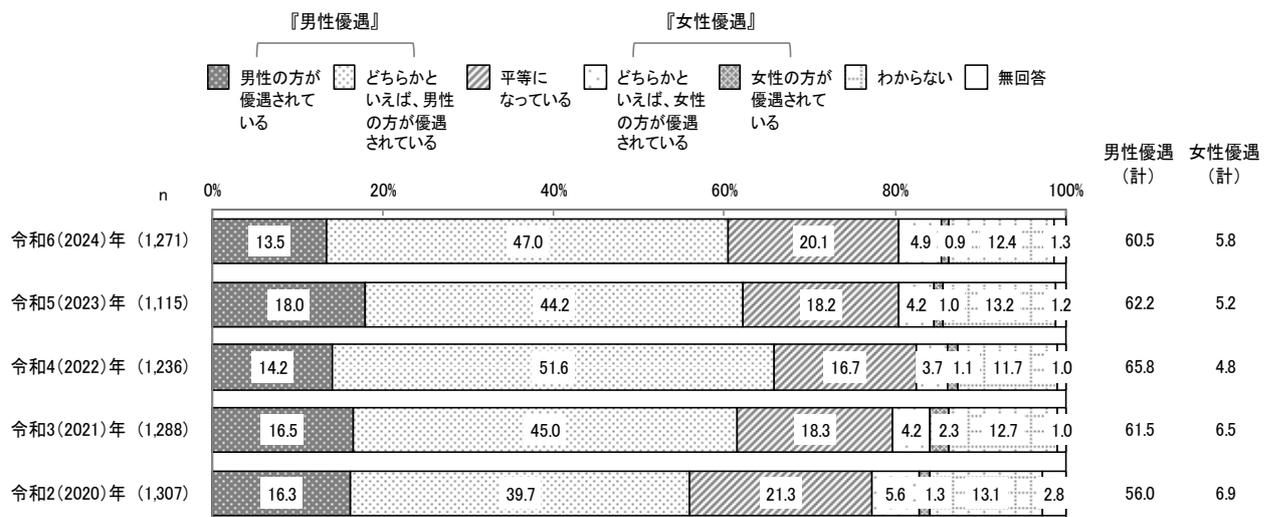
(3) 働く場での男女の地位の平等感

問19 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。(現在働いていない方も、イメージでお答えください。)
[n=1,271]

1	男性の方が優遇されている	13.5%	5	女性の方が優遇されている	0.9%
2	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	47.0	6	わからない	12.4
3	平等になっている	20.1		(無回答)	1.3
4	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	4.9			

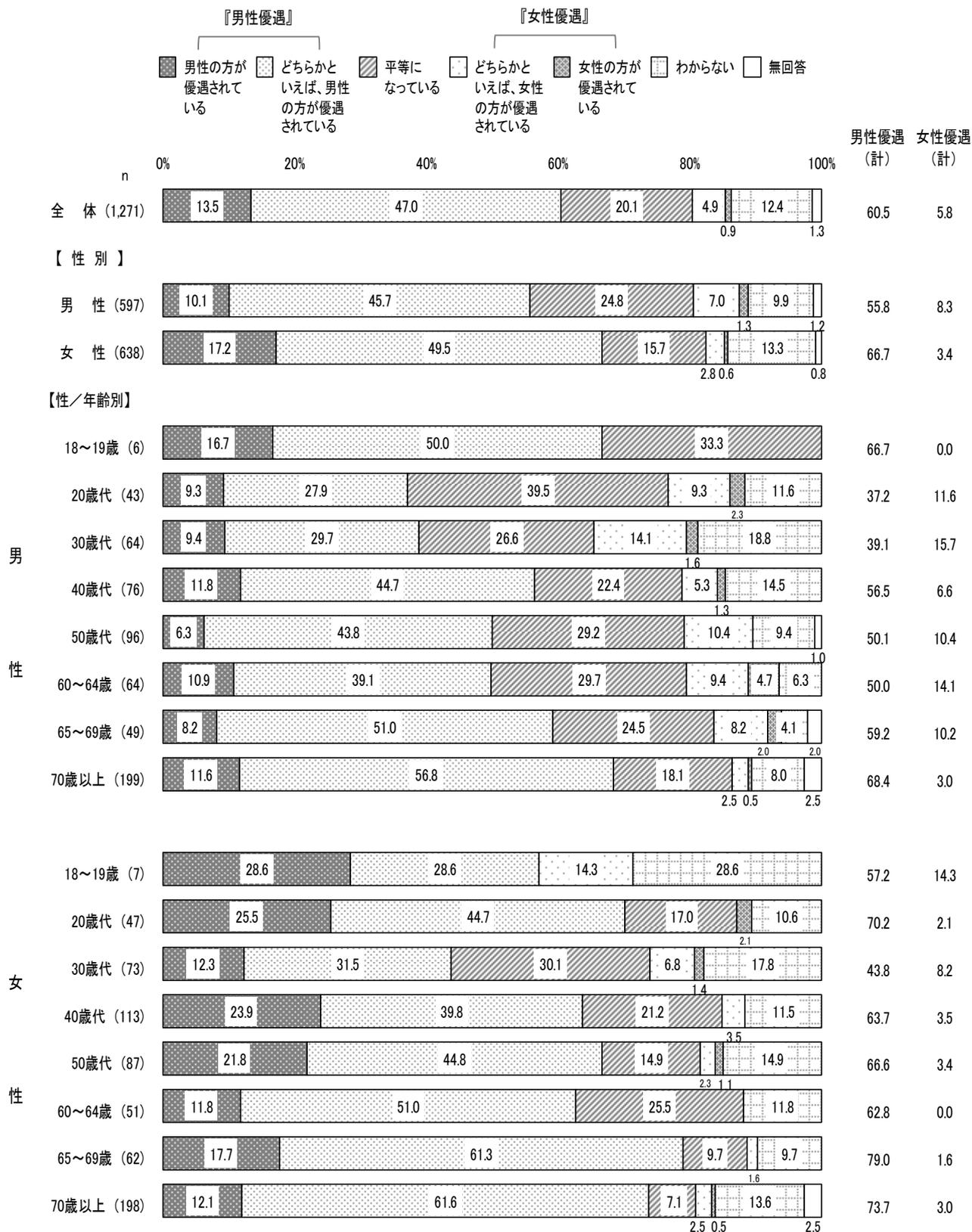


全体でみると、「男性の方が優遇されている」(13.5%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(47.0%)の2つを合わせた『男性優遇』(60.5%)が約6割となっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(4.9%)と「女性の方が優遇されている」(0.9%)の2つを合わせた『女性優遇』(5.8%)が1割未満となっている。「平等になっている」(20.1%)は約2割となっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和5(2023)年)と大きな傾向の違いはみられない。

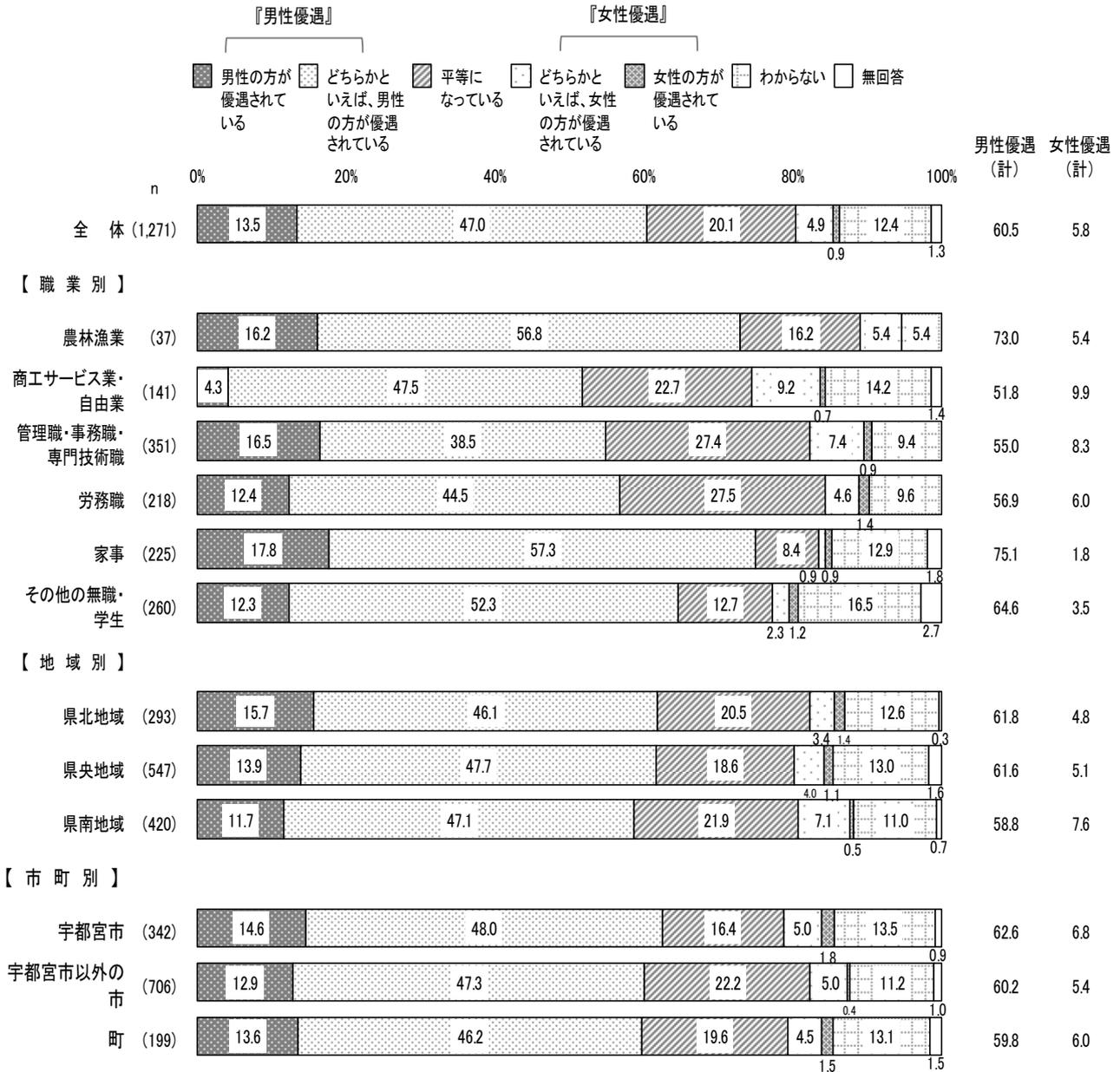
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉66.7%が、〈男性〉55.8%より10.9ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉8.3%が、〈女性〉3.4%より4.9ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性65～69歳〉79.0%が最も高く、〈男性20歳代〉37.2%が最も低くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性30歳代〉15.7%が最も高くなっている。

〔職業別・地域別・市町別〕



職業別で見ると、『男性優遇』では〈家事〉75.1%が最も高く、〈商工サービス業・自由業〉51.8%が最も低くなっている。一方、『女性優遇』では〈商工サービス業・自由業〉9.9%が最も高く、〈家事〉1.8%が最も低くなっている。

地域別で見ると、『男性優遇』では〈県北地域〉と〈県央地域〉がともに6割強、〈県南地域〉が58.8%となっている。一方、『女性優遇』ではすべての分類で1割以下となっている。

市町別で見ると、『男性優遇』では〈宇都宮市〉が62.6%、〈宇都宮市以外の市〉と〈町〉がともに6割前後となっている。一方、『女性優遇』ではすべての分類で1割以下となっている。

8 生涯学習について

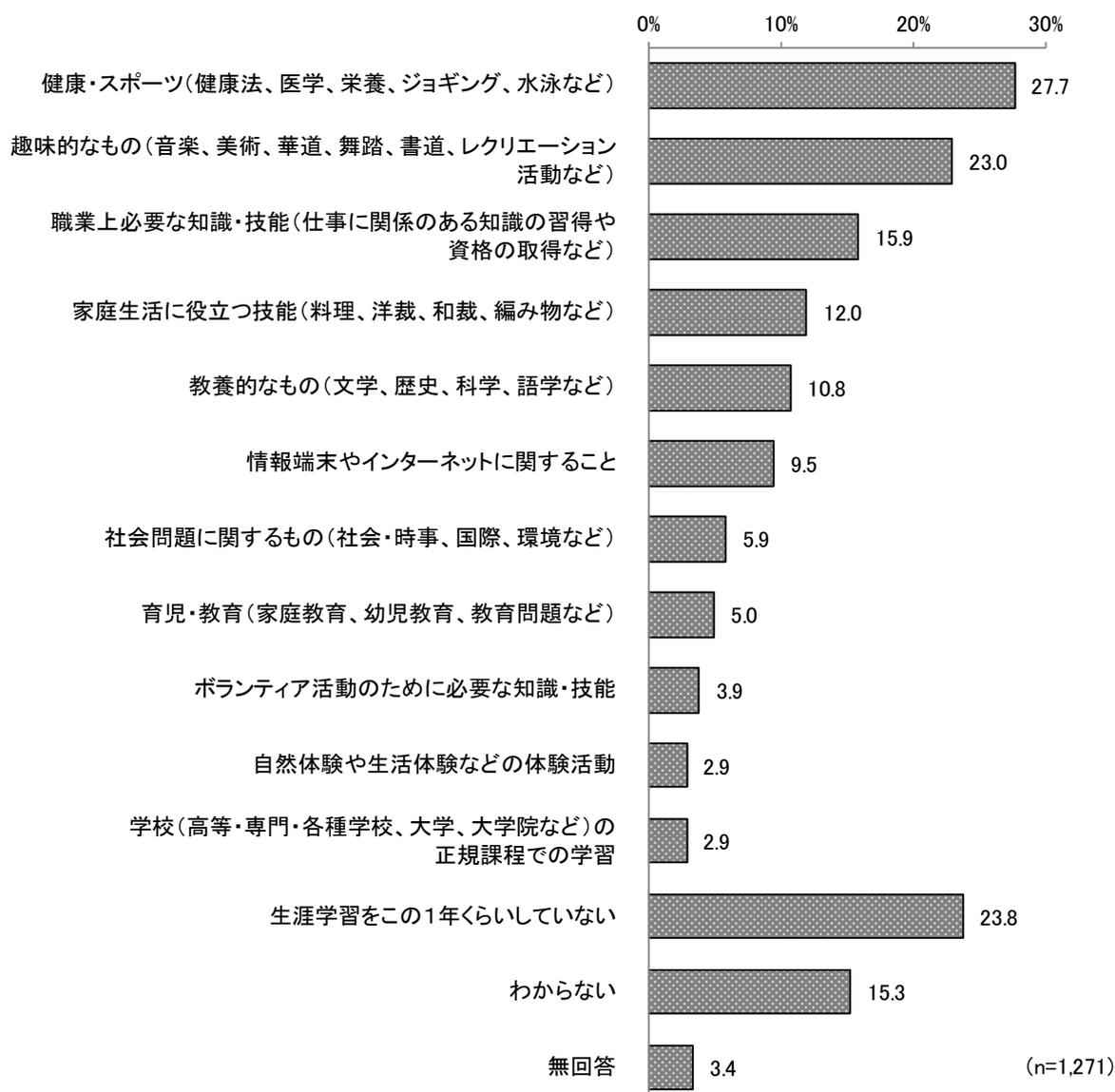
(1) 最近1年間に行った生涯学習の種類

問20 あなたは、この1年くらいの中に、生涯学習（※）をしたことがありますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,271]

※ 生涯学習とは、人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校での学習や公民館などにおける講座等の学習はもとより、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などの様々な学習活動のことをいいます。

1	趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）	23.0%
2	教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）	10.8
3	社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）	5.9
4	健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）	27.7
5	家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）	12.0
6	育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）	5.0
7	職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）	15.9
8	情報端末やインターネットに関すること（パソコンやタブレット、スマートフォンなどの端末に関することやホームページの作り方、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の使い方に関する事など）	9.5
9	ボランティア活動のために必要な知識・技能	3.9
10	自然体験や生活体験などの体験活動	2.9
11	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習	2.9
12	生涯学習をこの1年くらいしていない	23.8
13	わからない	15.3
	（無回答）	3.4

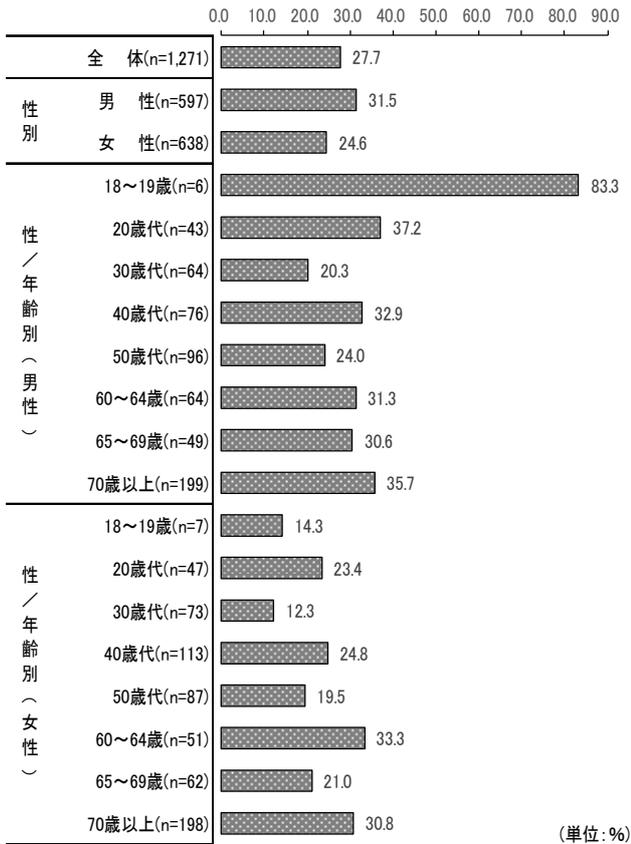
【令和6(2024)年】



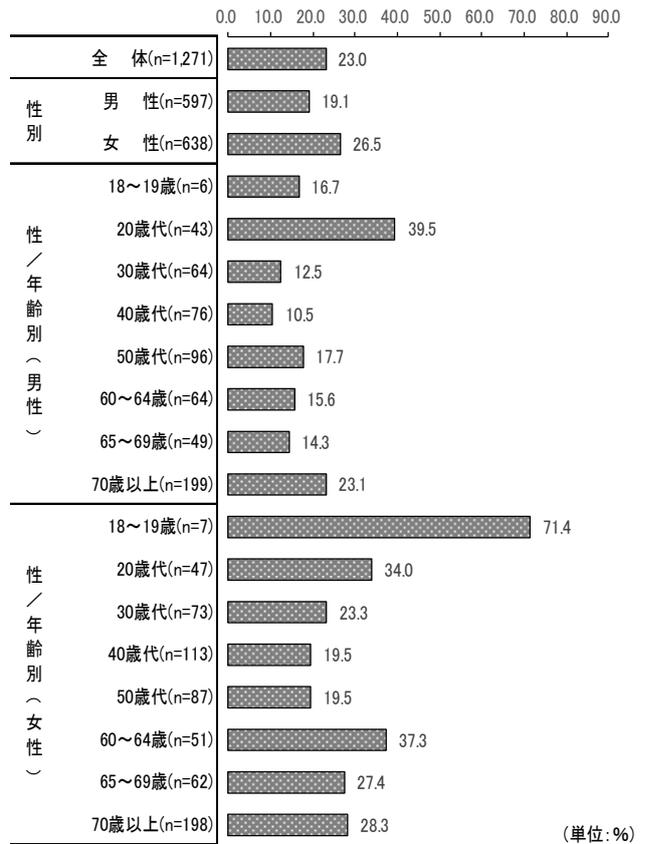
全体で見ると、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」（27.7%）が2割台後半で最も高く、次いで「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）」（23.0%）、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」（15.9%）、「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）」（12.0%）の順となっている。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

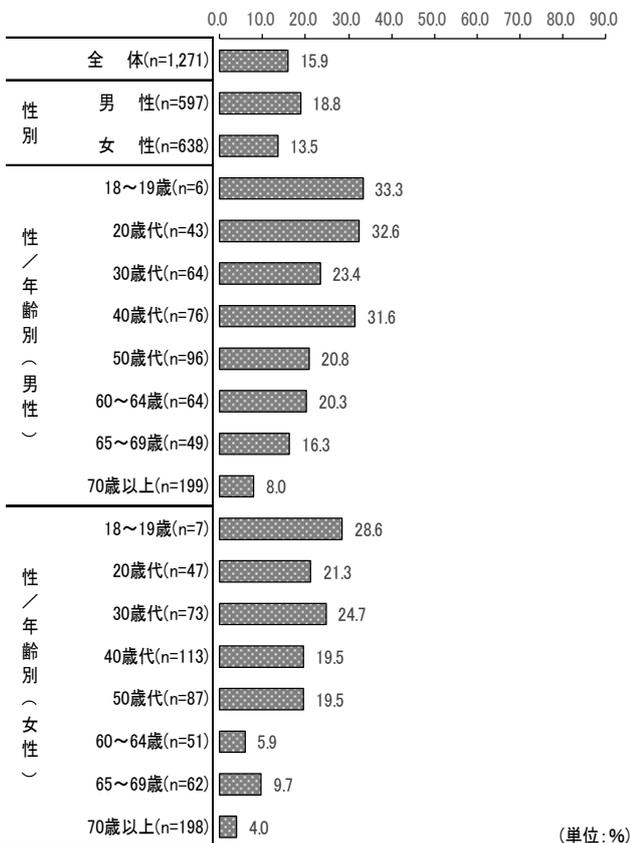
健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)



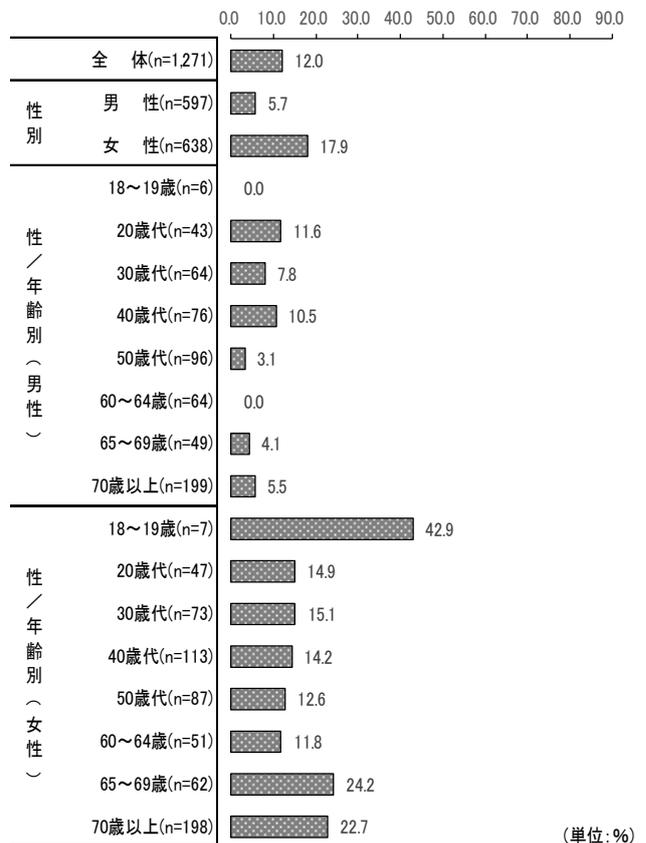
趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など)



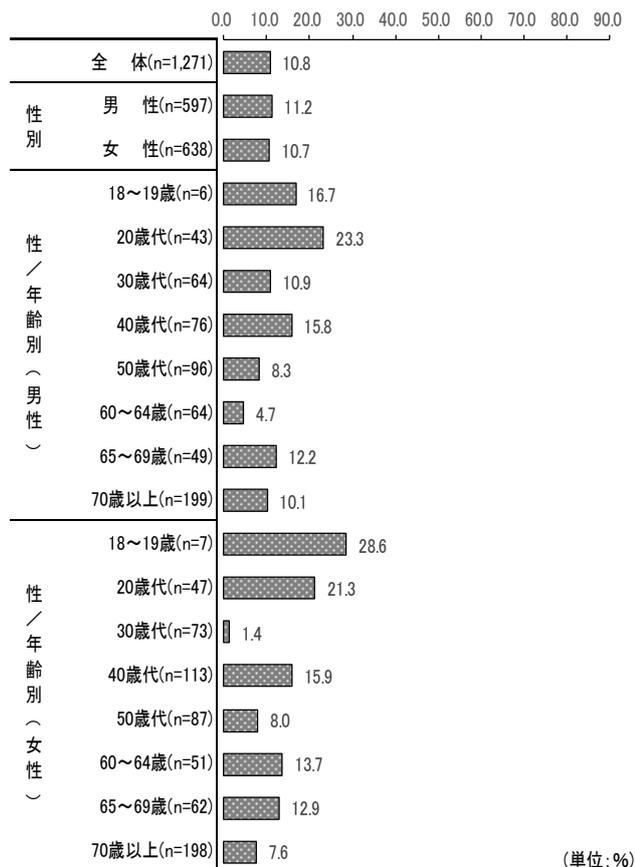
職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)



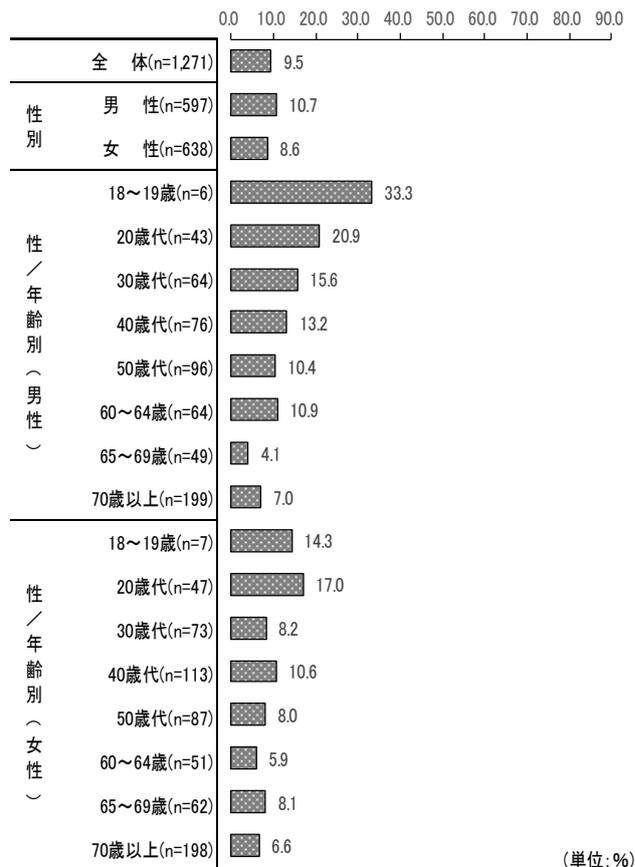
家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)



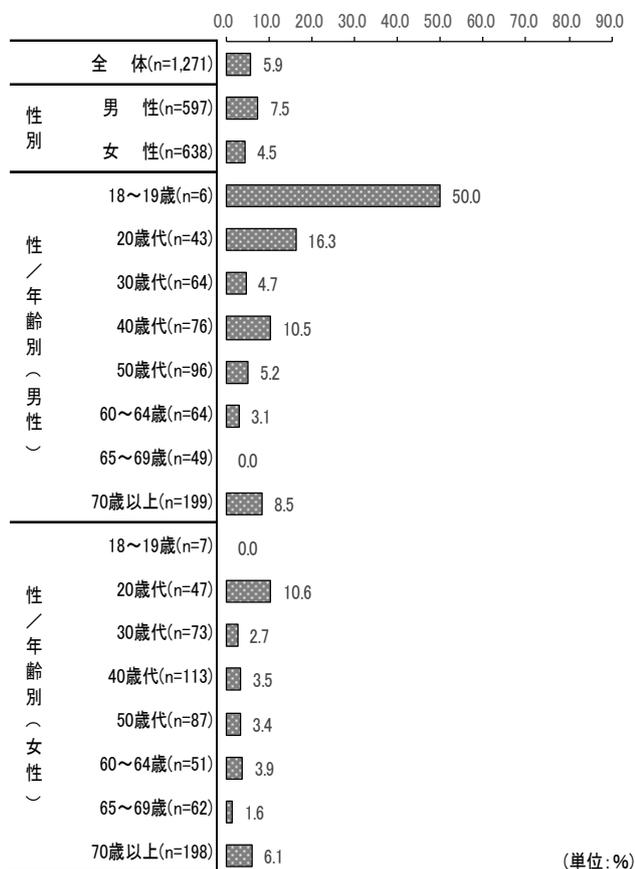
教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)



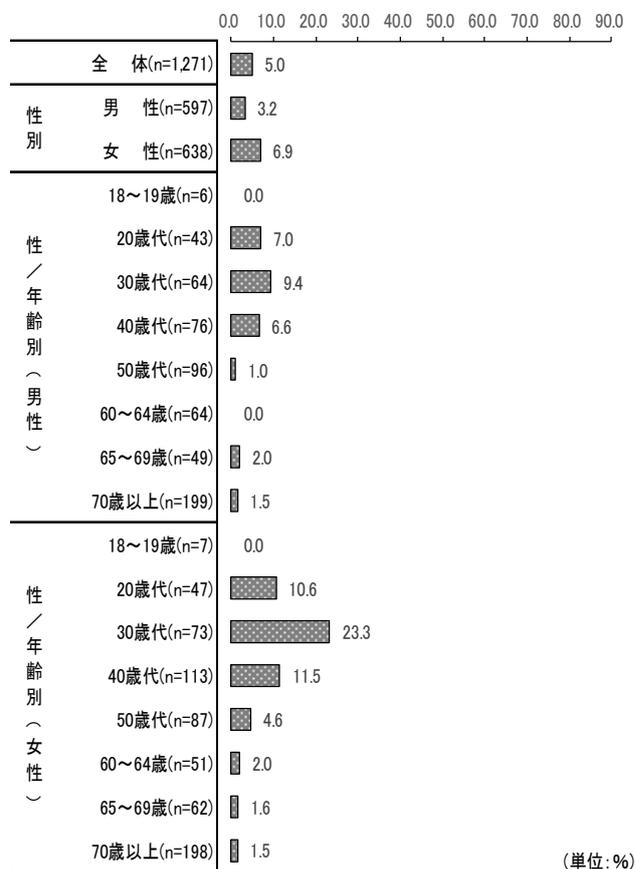
情報端末やインターネットに関すること



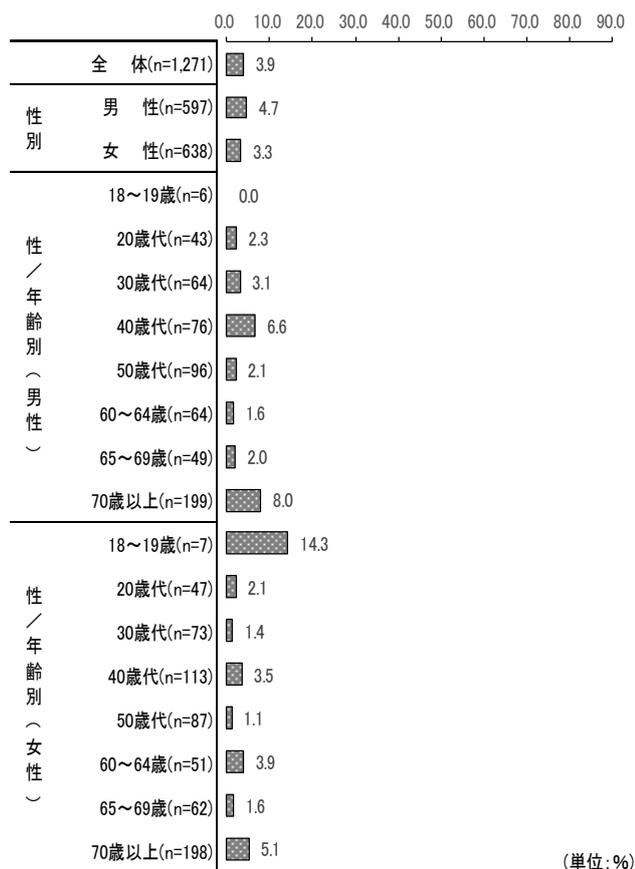
社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)



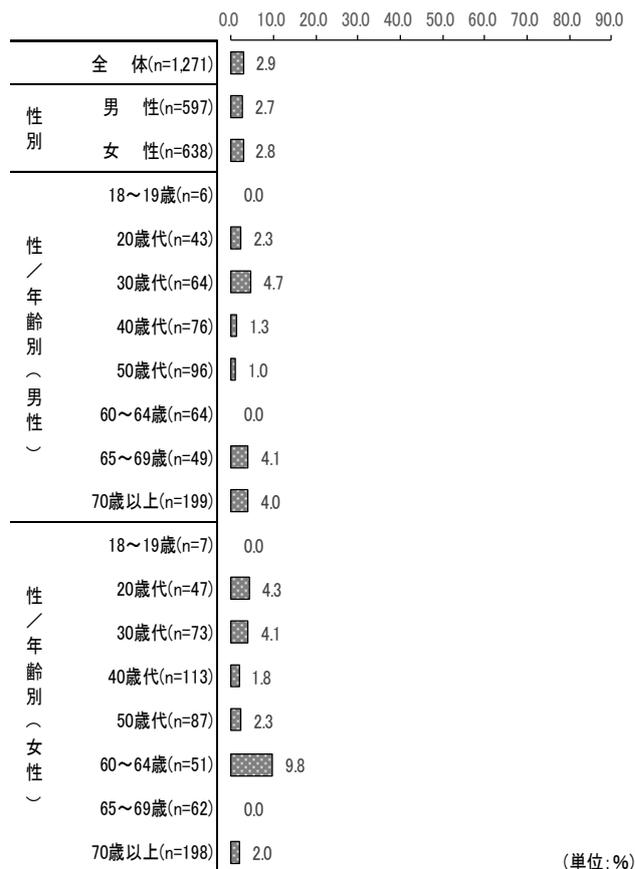
育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)



ボランティア活動のために必要な知識・技能



自然体験や生活体験などの体験活動

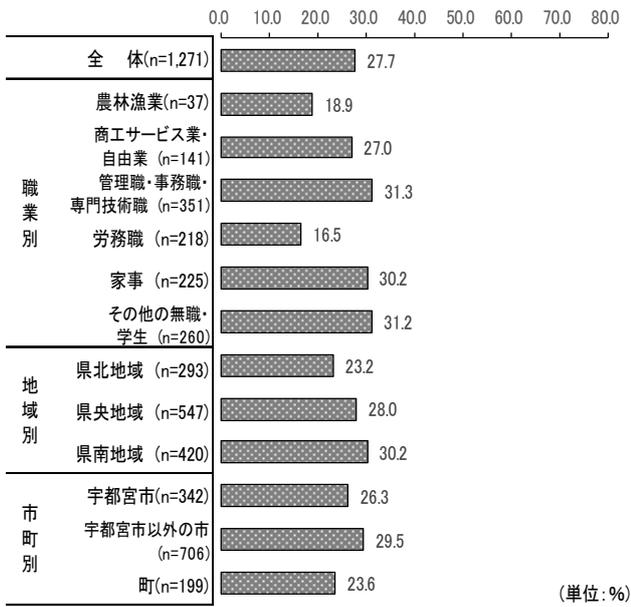


性別で見ると、「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）」では〈女性〉17.9%が、〈男性〉5.7%より12.2ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

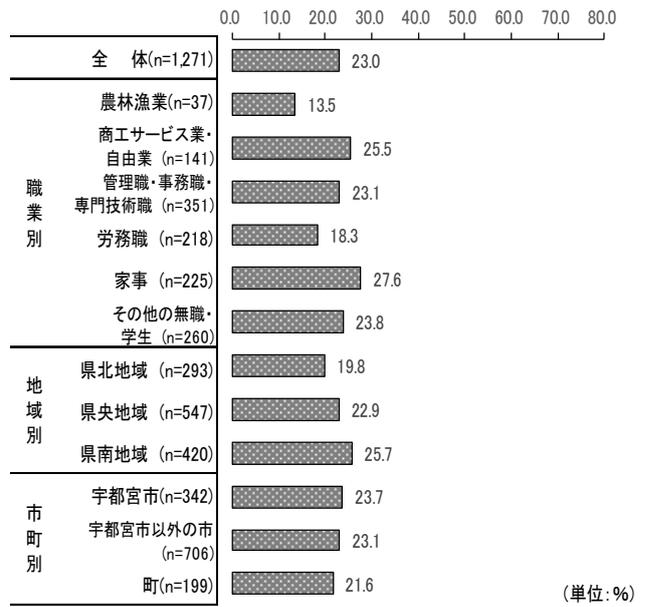
性/年齢別で見ると、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」では〈男性20歳代〉37.2%が高く、〈女性30歳代〉12.3%が最も低くなっている。「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）」では〈男性20歳代〉39.5%が高く、〈男性40歳代〉10.5%が最も低くなっている。

[職業別・地域別・市町別] (上位10項目)

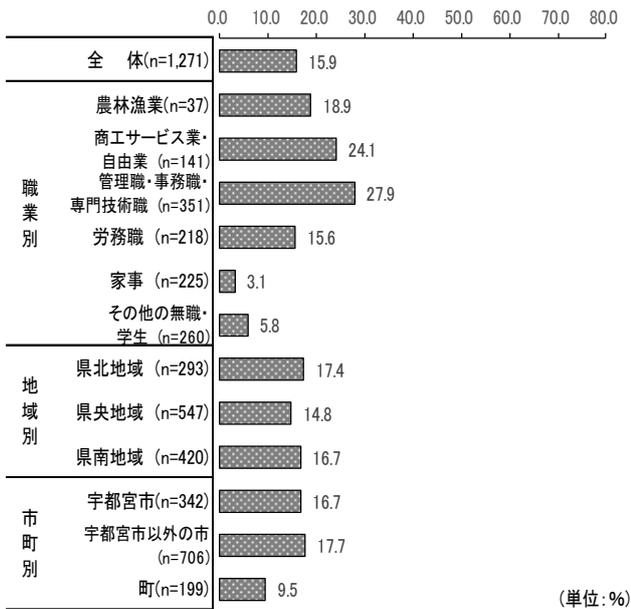
健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)



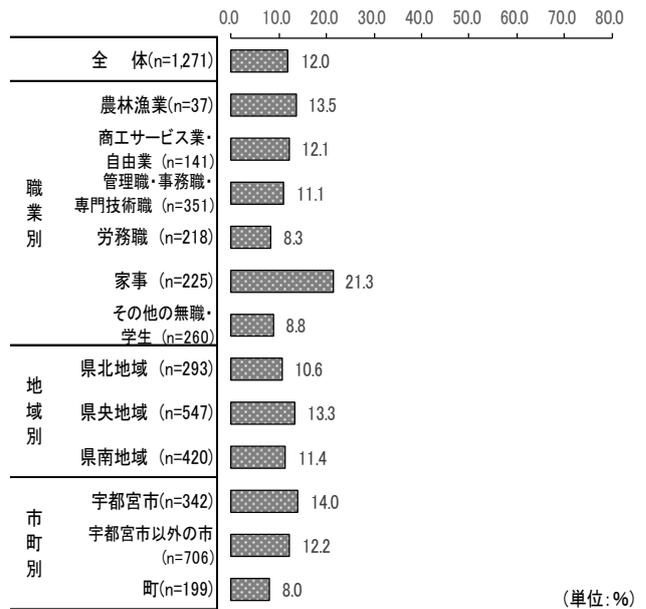
趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など)



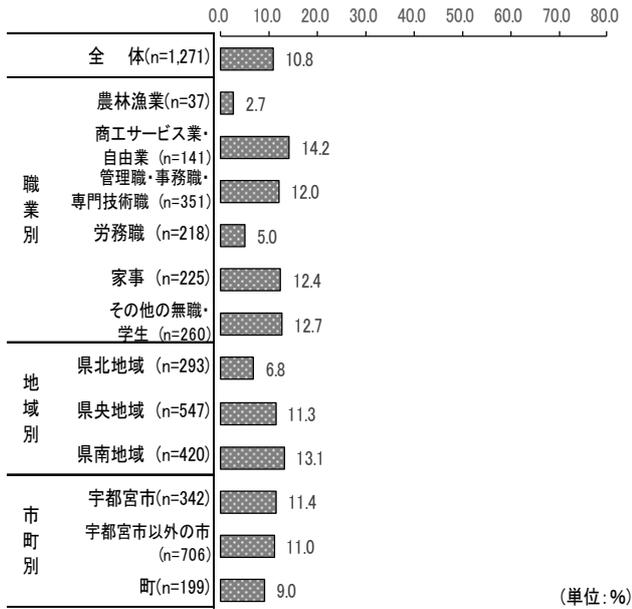
職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)



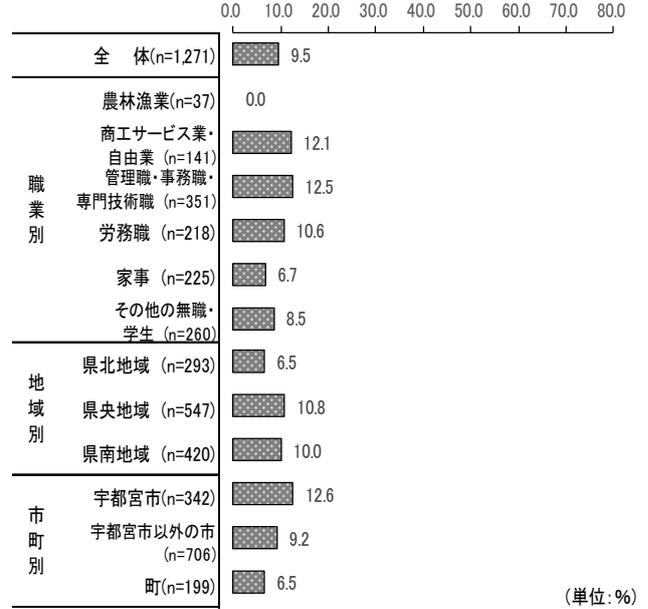
家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)



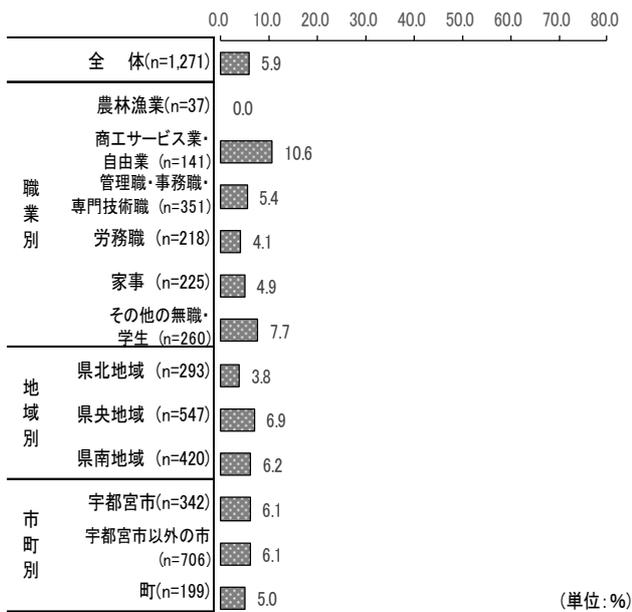
教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)



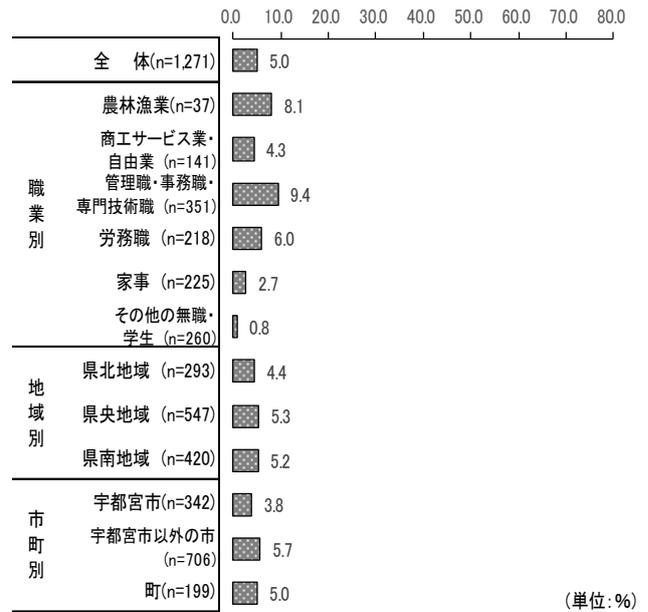
情報端末やインターネットに関すること



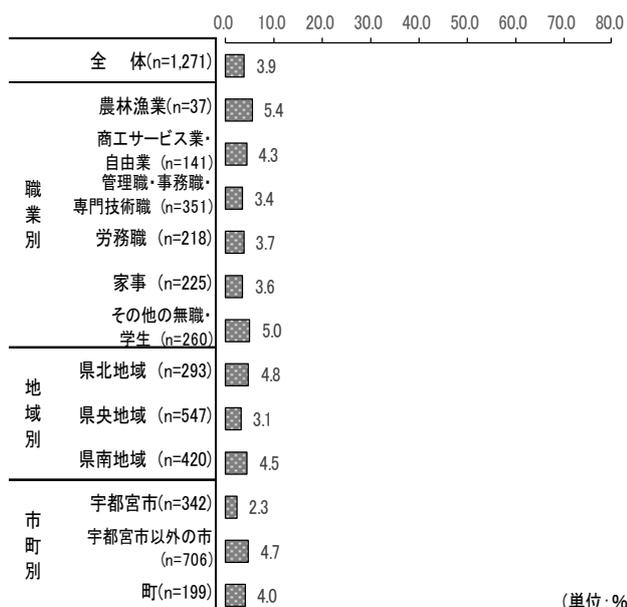
社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)



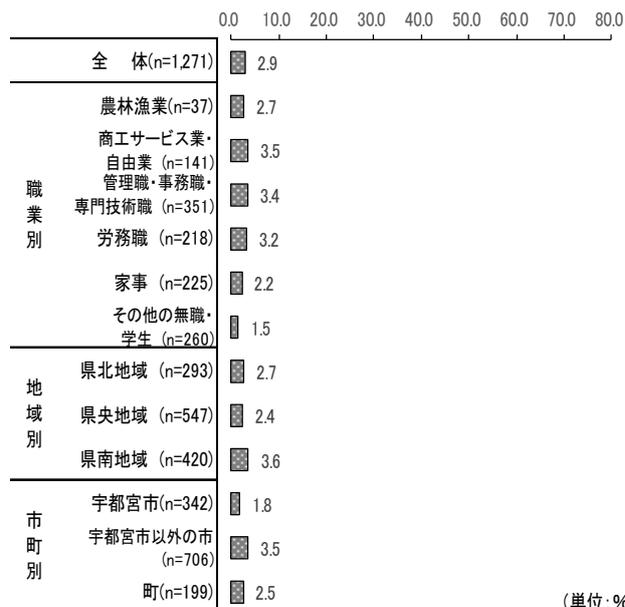
育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)



ボランティヤ活動のために必要な知識・技能



自然体験や生活体験などの体験活動



職業別で見ると、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」では〈管理職・事務職・専門技術職〉と〈その他の無職・学生〉がともに約31%で高く、〈労務職〉16.5%が最も低くなっている。「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）」では〈家事〉27.6%が最も高く、〈農林漁業〉13.5%が最も低くなっている。

地域別で見ると、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」では〈県南地域〉30.2%が最も高く、〈県北地域〉23.2%が最も低くなっている。「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）」では〈県南地域〉25.7%が最も高く、〈県北地域〉19.8%が最も低くなっている。

市町別で見ると、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）」では、ともにすべての分類で2割台となっている。

(2) 生涯学習を行った理由

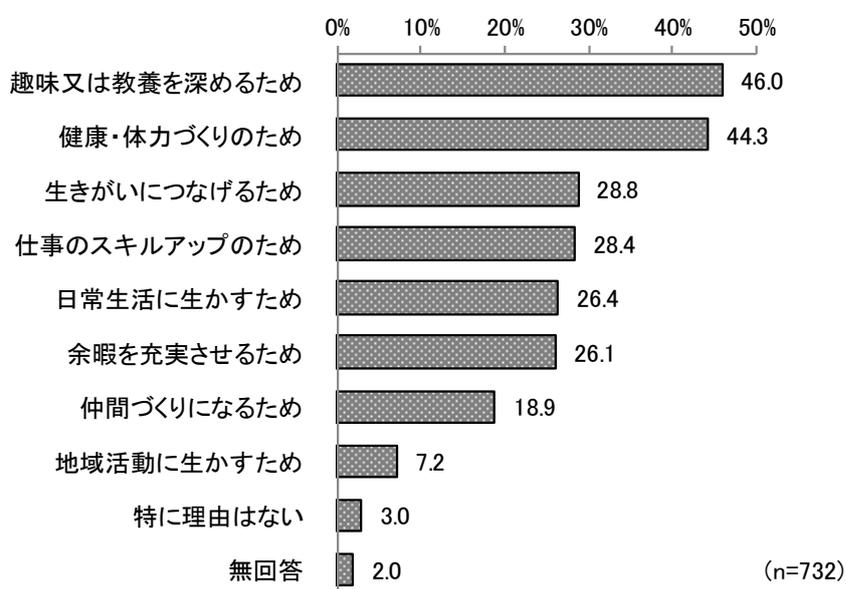
(問20で選択肢「1」～「11」を選んだ方のみお答えください)

問21 あなたが、生涯学習を行った理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=732]

1 趣味又は教養を深めるため	46.0%	6 地域活動に生かすため	7.2%
2 仲間づくりになるため	18.9	7 日常生活に生かすため	26.4
3 生きがいにつなげるため	28.8	8 余暇を充実させるため	26.1
4 健康・体力づくりのため	44.3	9 特に理由はない	3.0
5 仕事のスキルアップのため	28.4	(無回答)	2.0

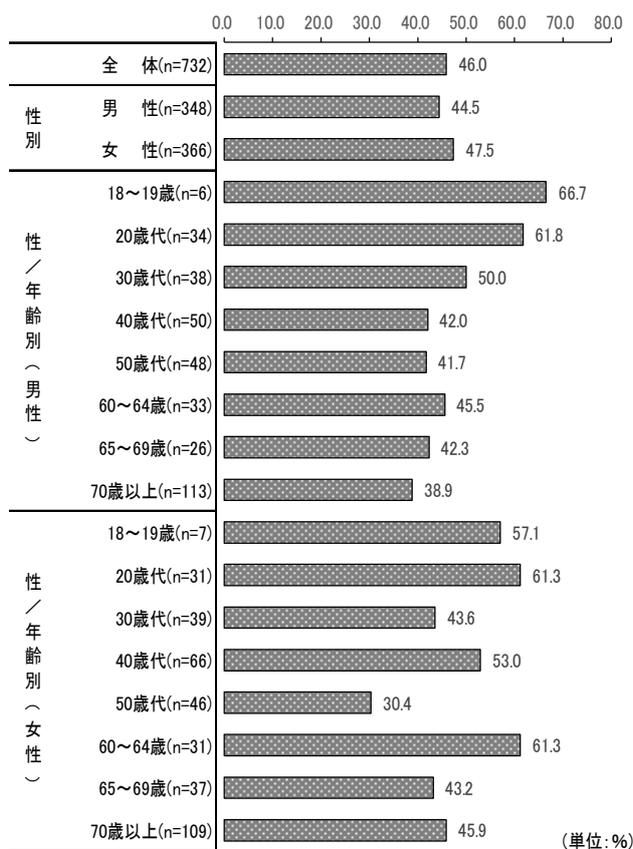
【令和6(2024)年】



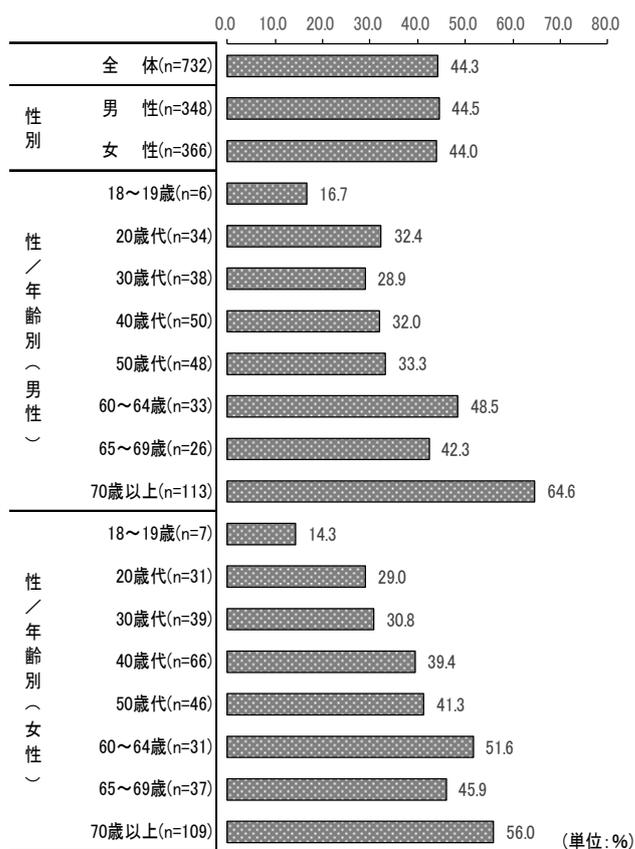
全体で見ると、「趣味又は教養を深めるため」(46.0%)が4割半ばで最も高く、次いで「健康・体力づくりのため」(44.3%)、「生きがいにつなげるため」(28.8%)、「仕事のスキルアップのため」(28.4%)の順となっている。

[性別・性／年齢別]

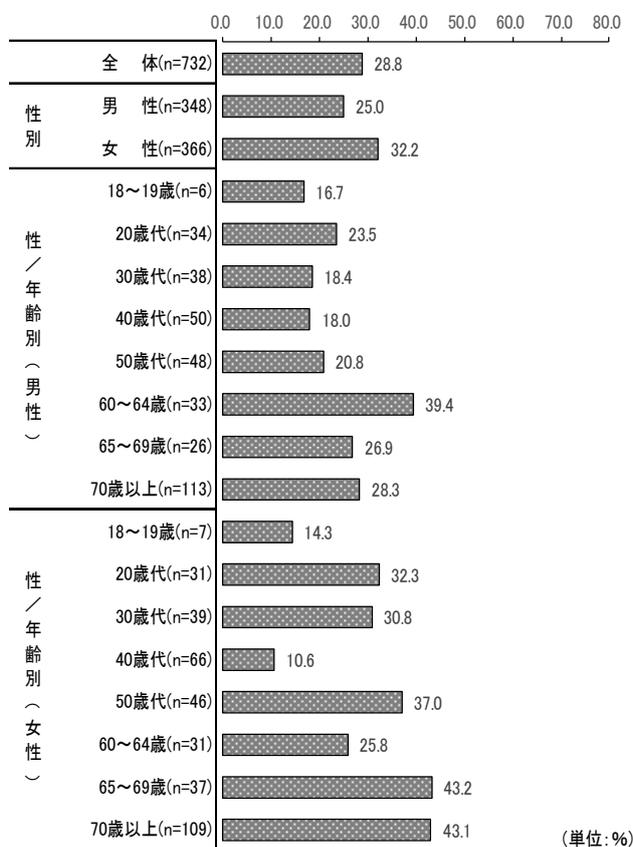
趣味又は教養を深めるため



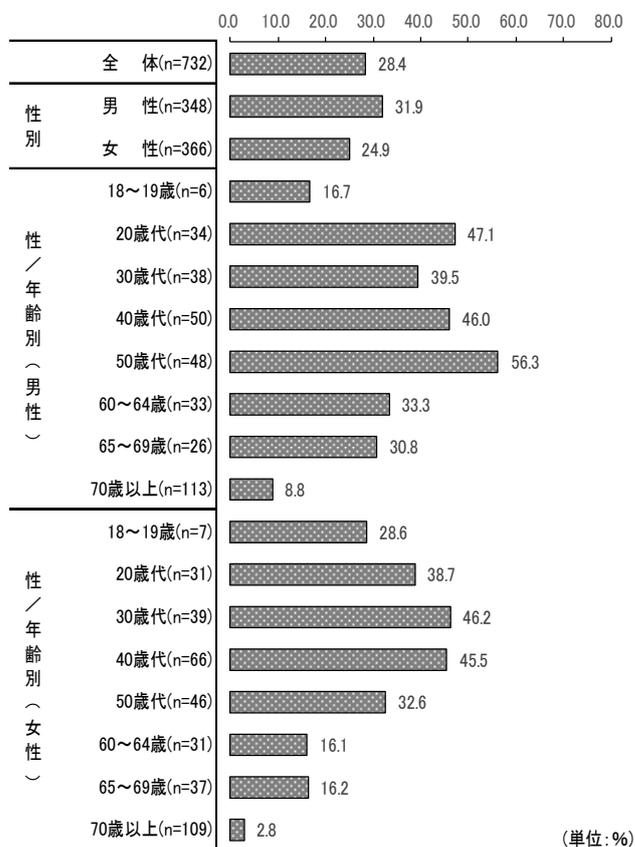
健康・体カづくりのため



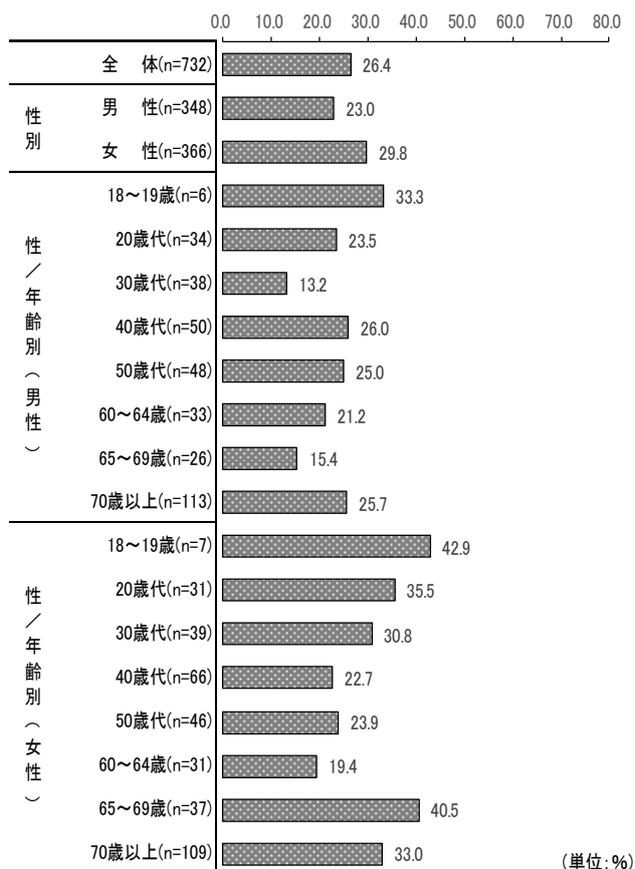
生きがいにつなげるため



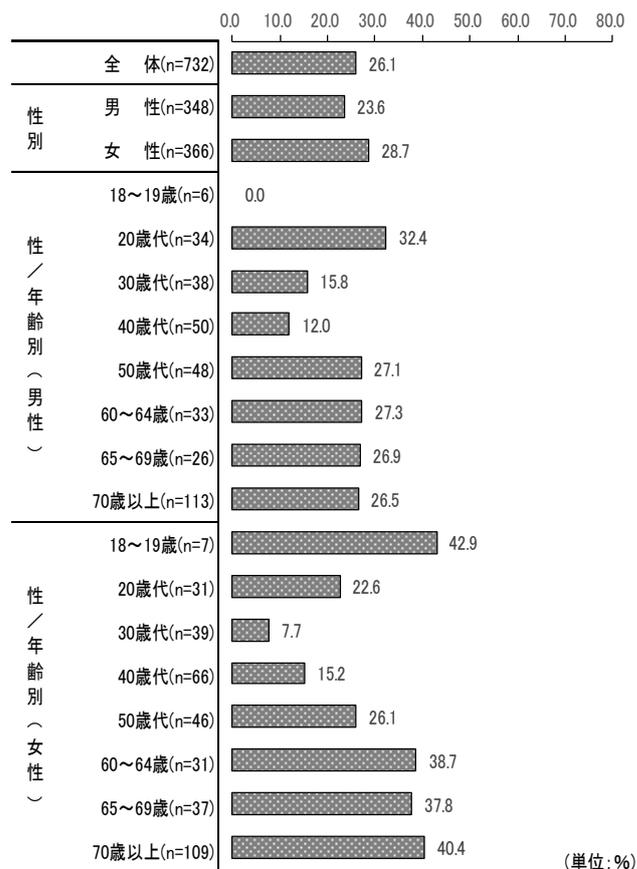
仕事のスキルアップのため



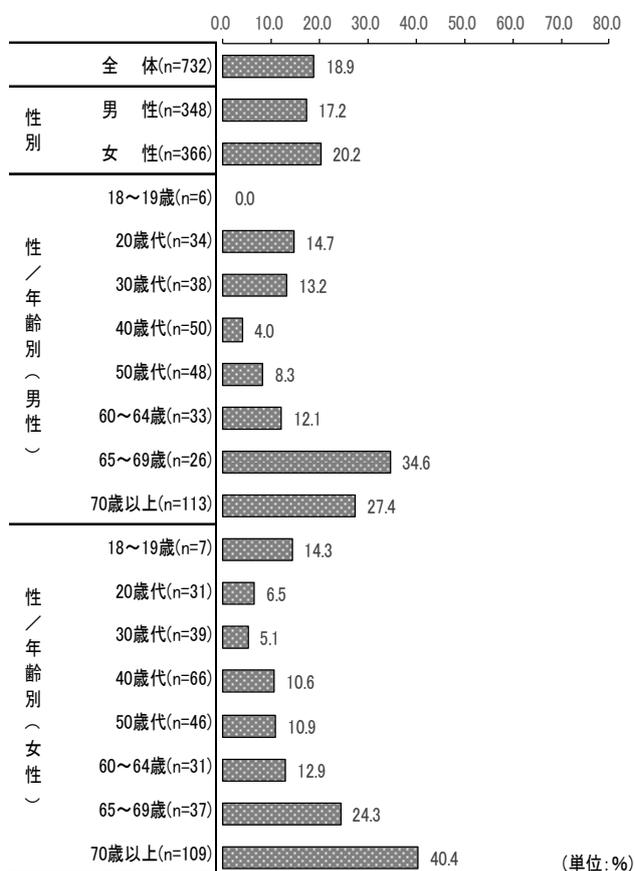
日常生活に生かすため



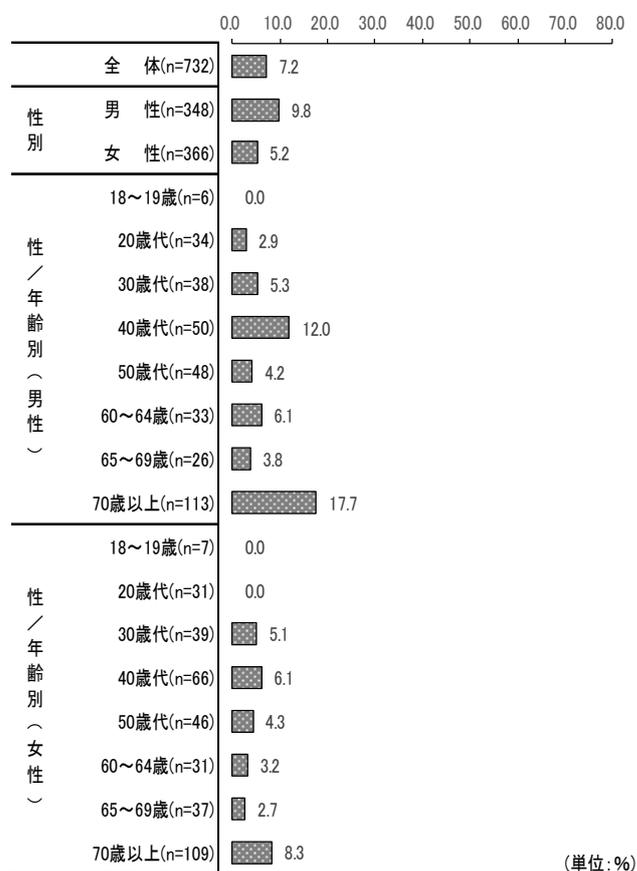
余暇を充実させるため

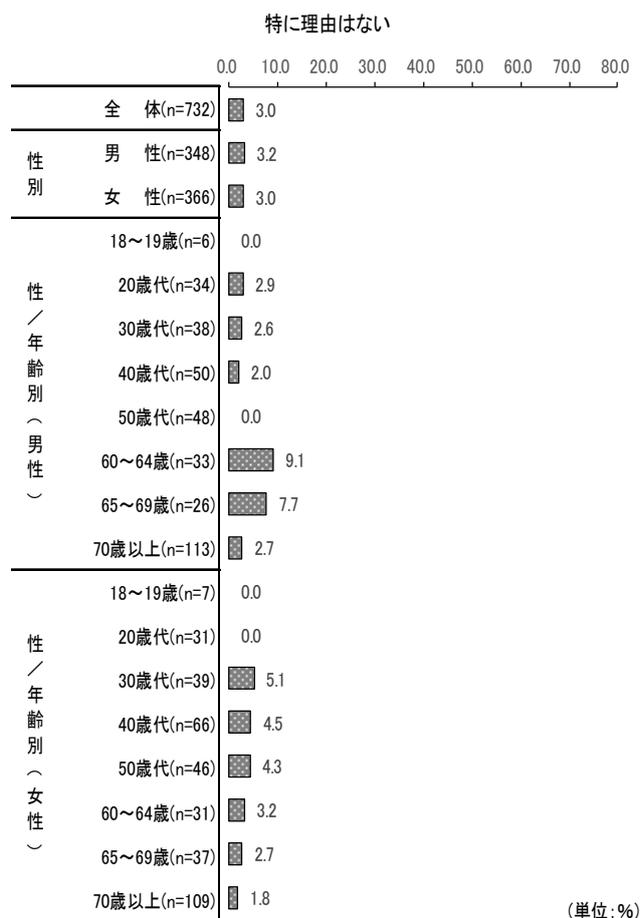


仲間づくりになるため



地域活動に生かすため



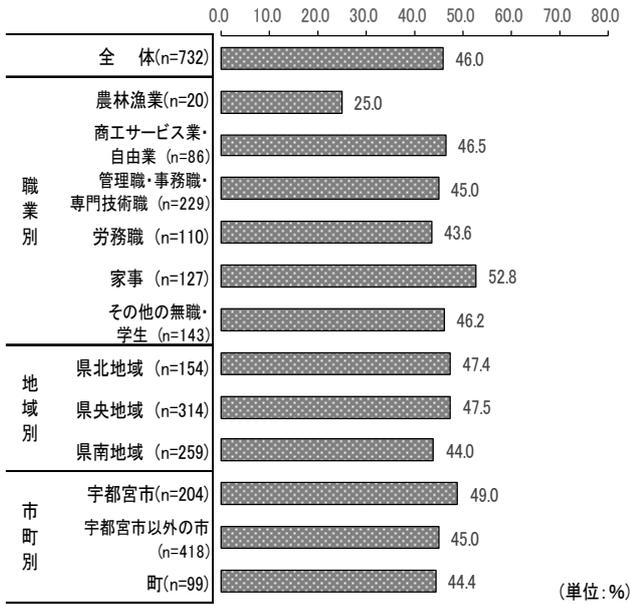


性別で見ると、「生きがいにつなげるため」では〈女性〉32.2%が、〈男性〉25.0%より7.2ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。「仕事のスキルアップのため」では〈男性〉31.9%が、〈女性〉24.9%より7.0ポイント高くなっている。

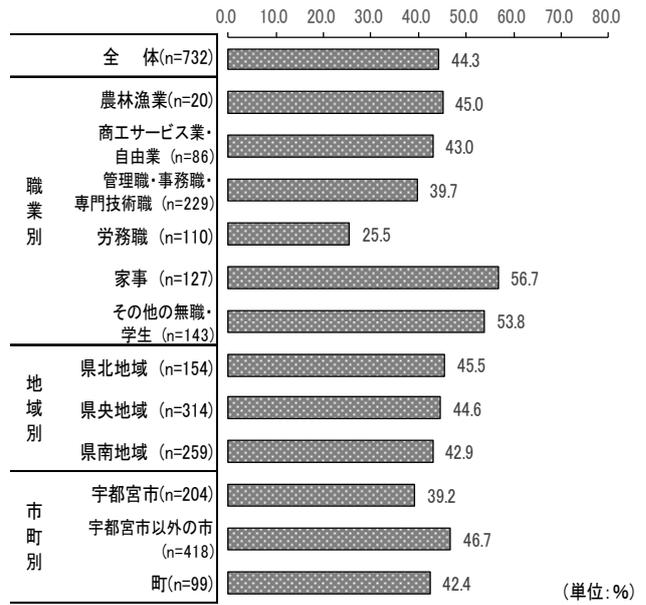
性別／年齢別で見ると、「趣味又は教養を深めるため」では〈男性20歳代〉〈女性20歳代〉〈女性60～64歳〉がいずれも約61%で高く、〈女性50歳代〉30.4%が最も低くなっている。「健康・体力づくりのため」では〈男性70歳以上〉64.6%が最も高く、〈男性30歳代〉28.9%が低くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

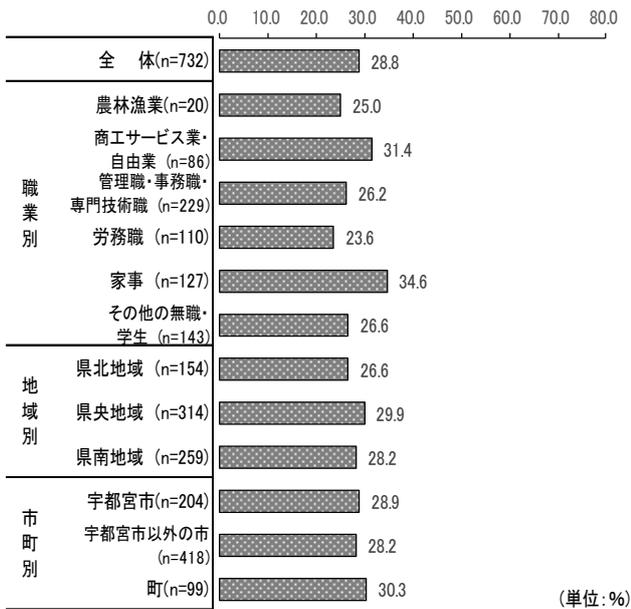
趣味又は教養を深めるため



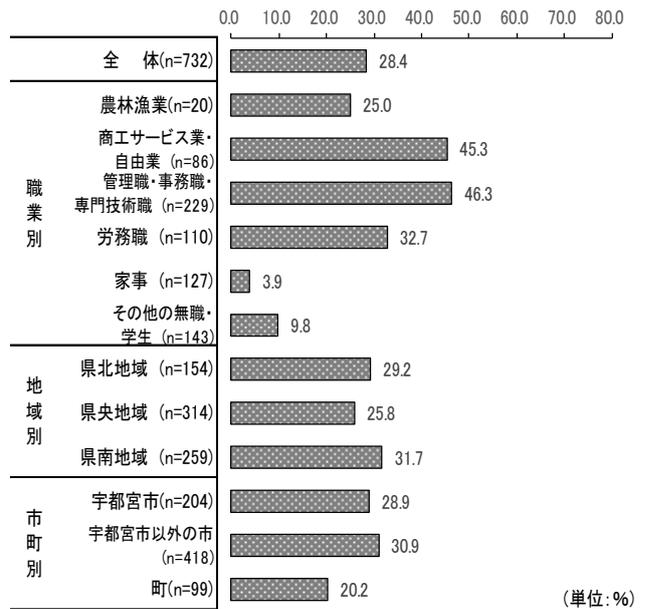
健康・体力づくりのため



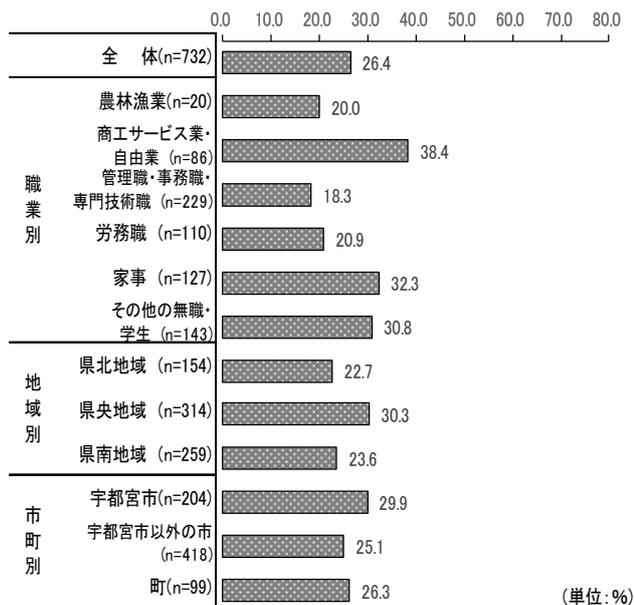
生きがいにつなげるため



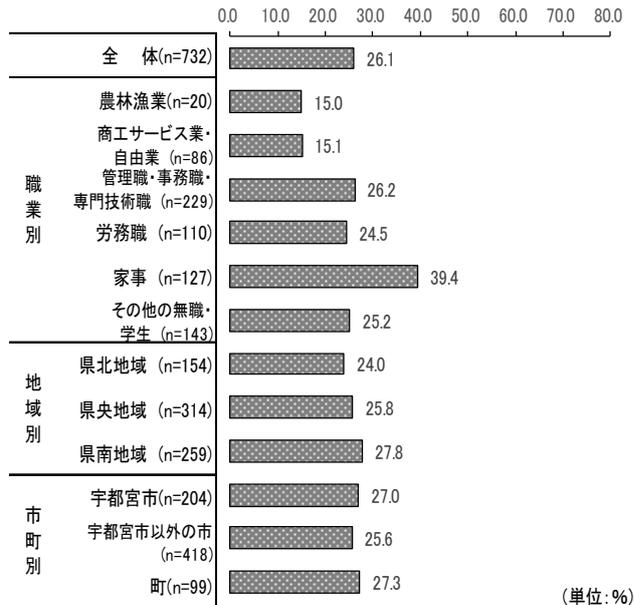
仕事のスキルアップのため



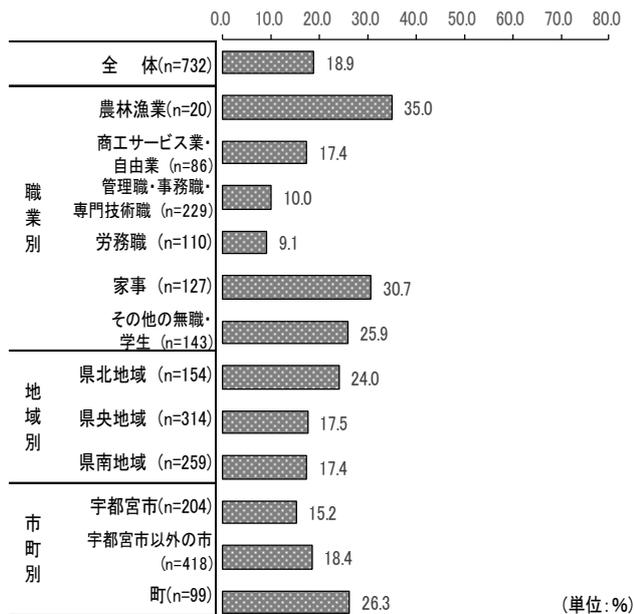
日常生活に生かすため



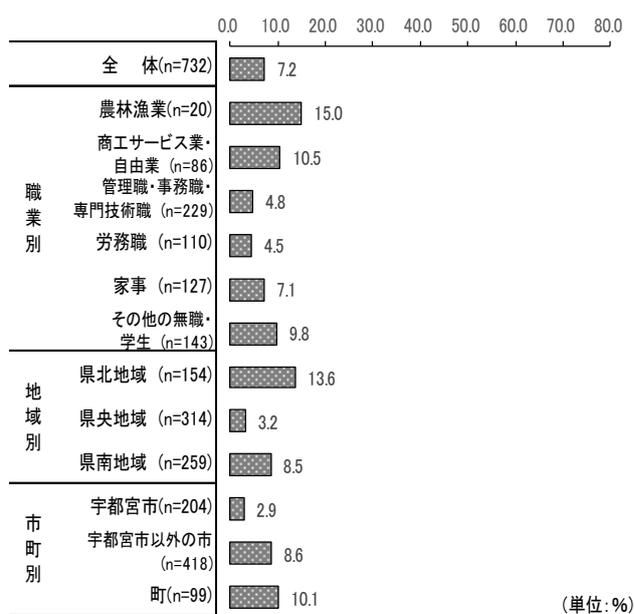
余暇を充実させるため



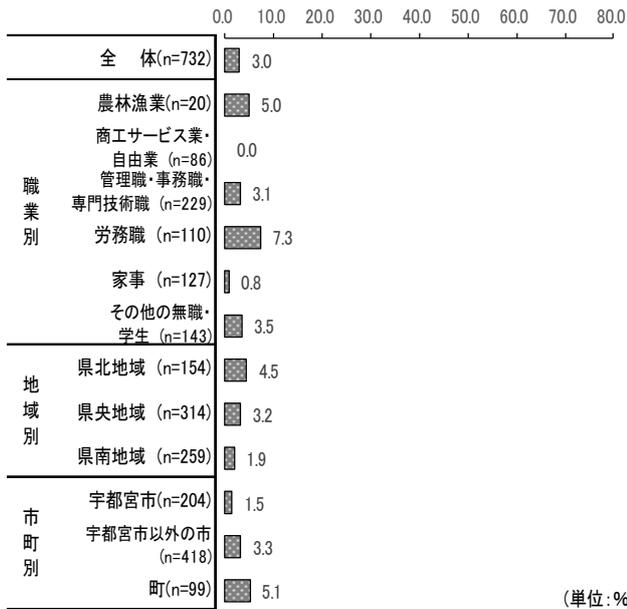
仲間づくりになるため



地域活動に生かすため



特に理由はない



職業別で見ると、「趣味又は教養を深めるため」では〈家事〉52.8%が最も高く、〈農林漁業〉25.0%が最も低くなっている。「健康・体力づくりのため」では〈家事〉56.7%が最も高く、〈労務職〉25.5%が最も低くなっている。

地域別で見ると、「趣味又は教養を深めるため」、「健康・体力づくりのため」では、ともにすべての分類で4割台となっている。

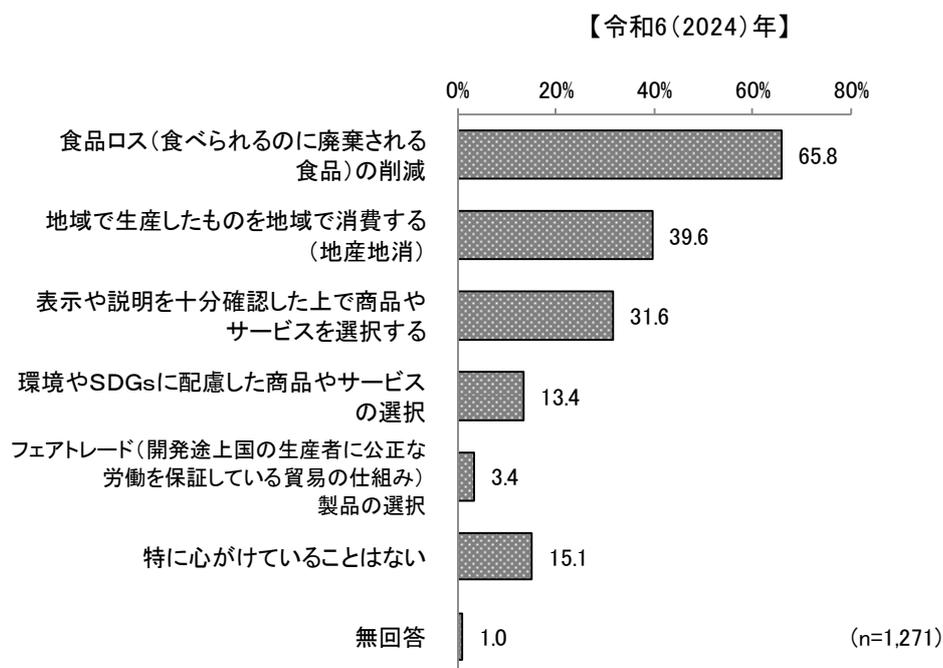
市町別で見ると、「趣味又は教養を深めるため」ではすべての分類で4割台となっている。「健康・体力づくりのため」では〈宇都宮市以外の市〉46.7%が最も高く、〈宇都宮市〉39.2%が最も低くなっている。

9 消費生活に関する意識について

(1) 消費行動を行う際に配慮していること

問22 近年、人や社会・地球環境・地域等に配慮した消費行動に関心が高まっていますが、あなたが買い物など、消費行動を行う際に配慮していることはありますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,271]

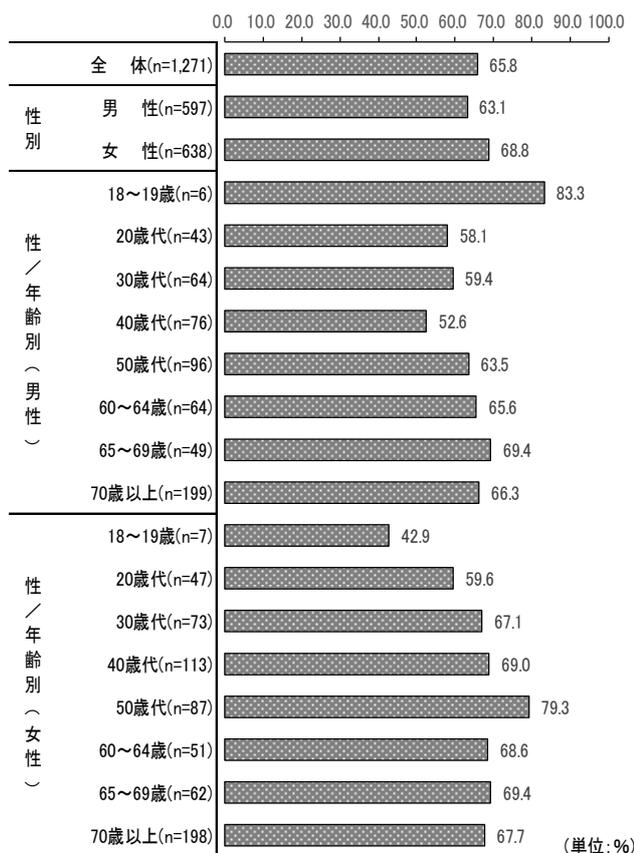
1	食品ロス（食べられるのに廃棄される食品）の削減	65.8%
2	表示や説明を十分確認した上で商品やサービスを選択する	31.6
3	地域で生産したものを地域で消費する（地産地消）	39.6
4	環境やSDGsに配慮した商品やサービスの選択	13.4
5	フェアトレード（開発途上国の生産者に公正な労働を保証している貿易の仕組み）製品の選択	3.4
6	特に心がけていることはない	15.1
	（無回答）	1.0



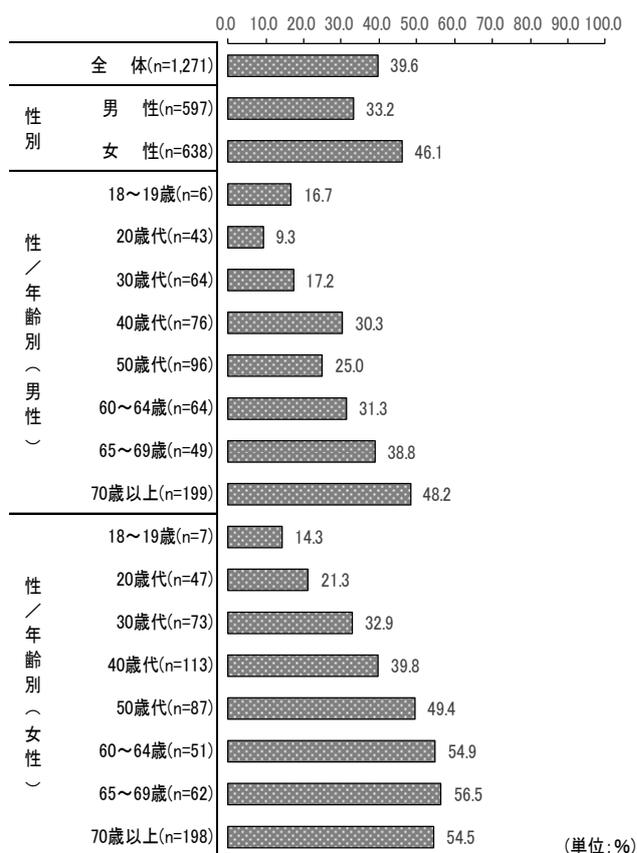
全体で見ると、「食品ロス（食べられるのに廃棄される食品）の削減」（65.8%）が6割半ばで最も高く、次いで「地域で生産したものを地域で消費する（地産地消）」（39.6%）、「表示や説明を十分確認した上で商品やサービスを選択する」（31.6%）の順となっている。また、「特に心がけていることはない」（15.1%）は1割半ばとなっている。

[性別・性／年齢別]

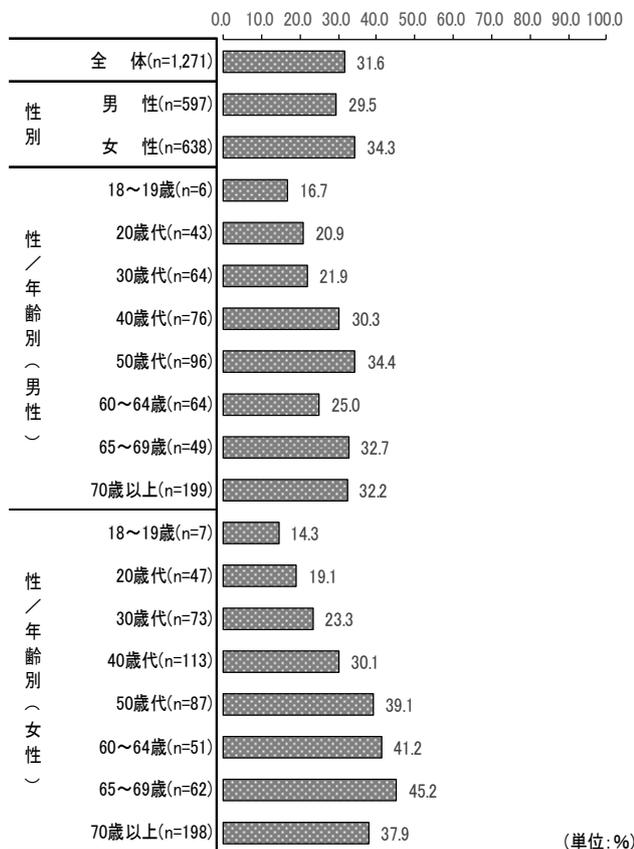
食品ロス(食べられるのに廃棄される食品)の削減



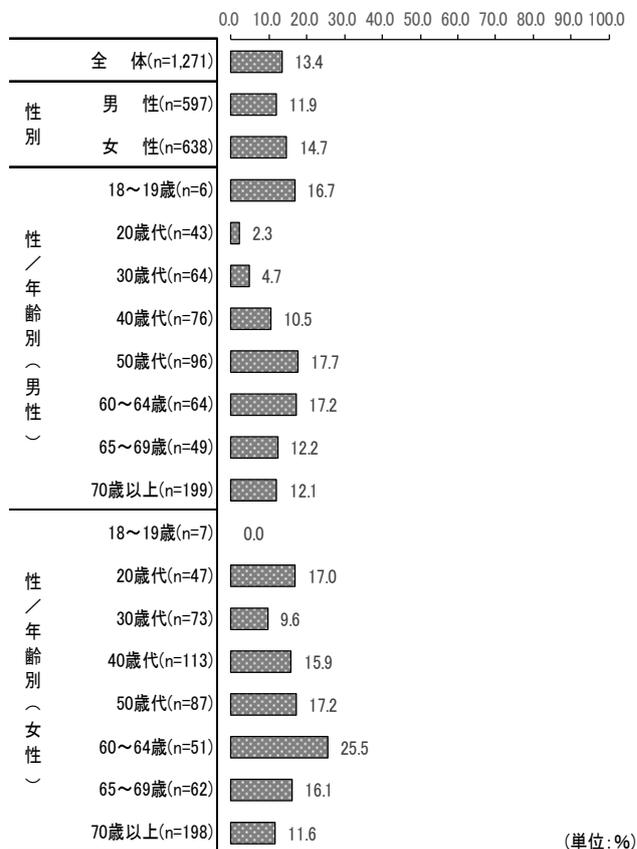
地域で生産したものを地域で消費する(地産地消)



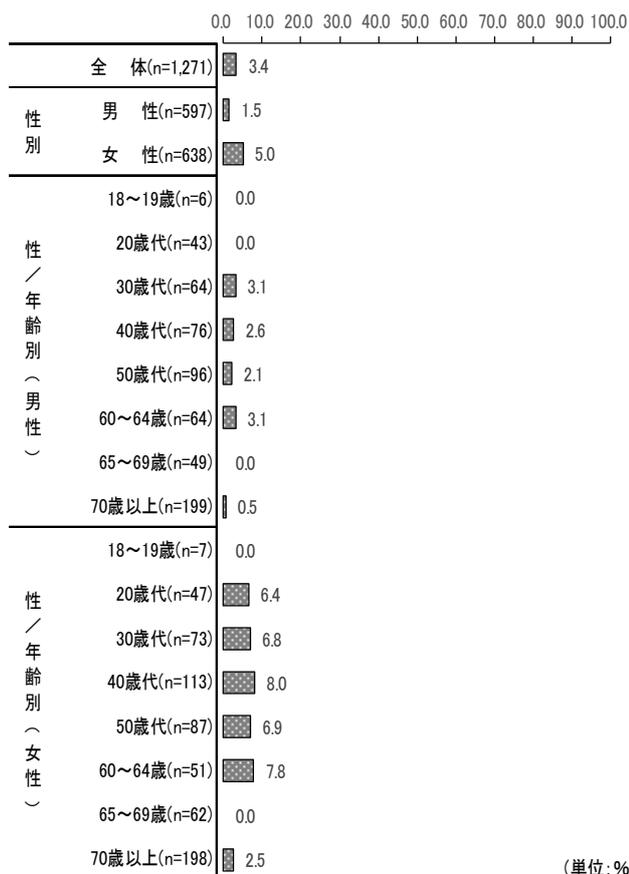
表示や説明を十分確認した上で商品やサービスを選択する



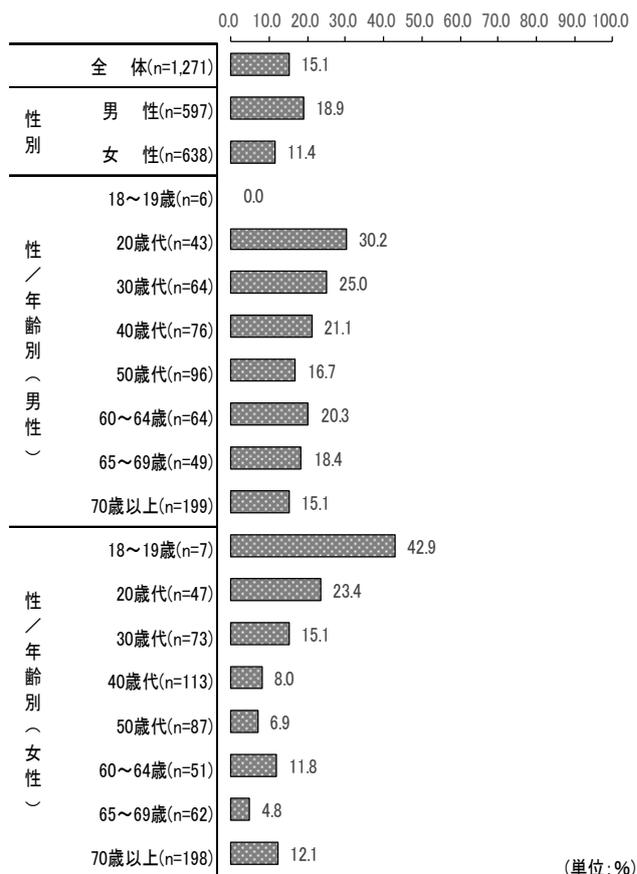
環境やSDGsに配慮した商品やサービスの選択



フェアトレード(開発途上国の生産者に公正な労働を保証している貿易の仕組み)製品の選択



特に心がけていることはない

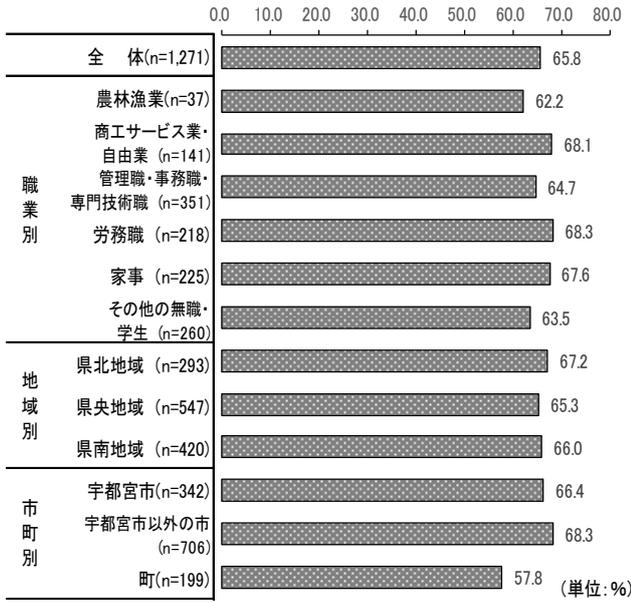


性別で見ると、「地域で生産したものを地域で消費する(地産地消)」では〈女性〉46.1%が、〈男性〉33.2%より12.9ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。一方、「特に心がけていることはない」では〈男性〉18.9%が、〈女性〉11.4%より7.5ポイント高くなっている。

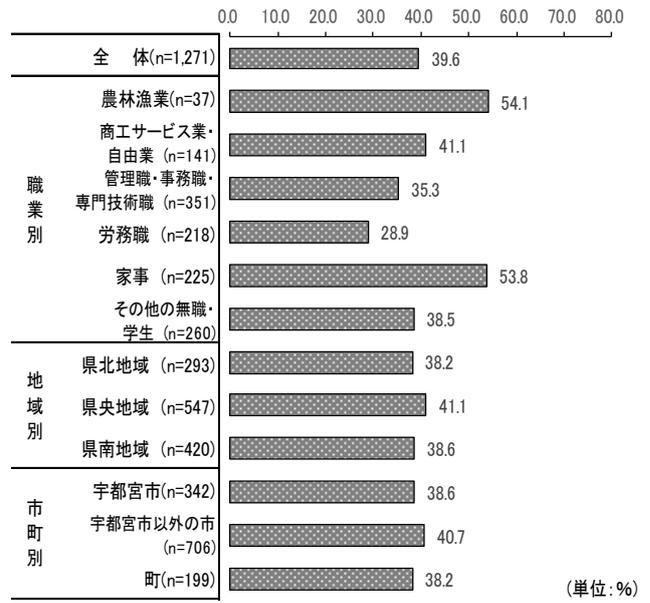
性/年齢別で見ると、「食品ロス(食べられるのに廃棄される食品)の削減」では〈女性50歳代〉79.3%が高く、〈男性40歳代〉52.6%が低くなっている。「地域で生産したものを地域で消費する(地産地消)」では〈女性65~69歳〉56.5%が最も高く、〈男性20歳代〉9.3%が最も低くなっている。一方、「特に心がけていることはない」では〈男性20歳代〉30.2%が高く、〈女性65~69歳〉4.8%が低くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

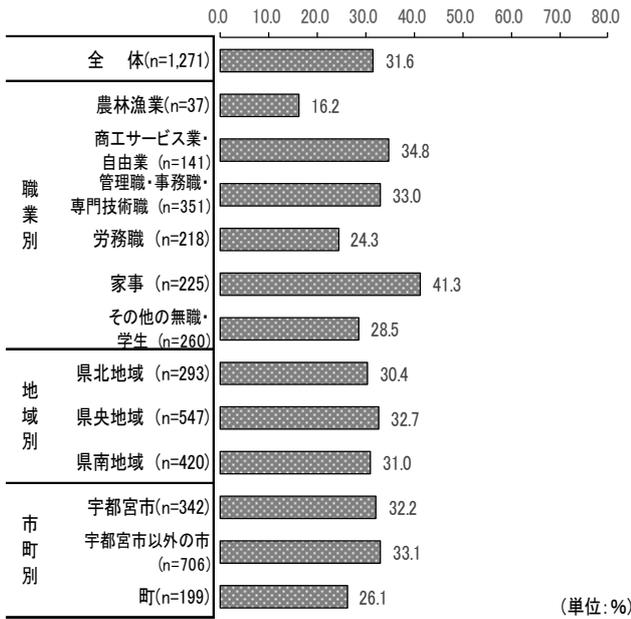
食品ロス(食べられるのに廃棄される食品)の削減



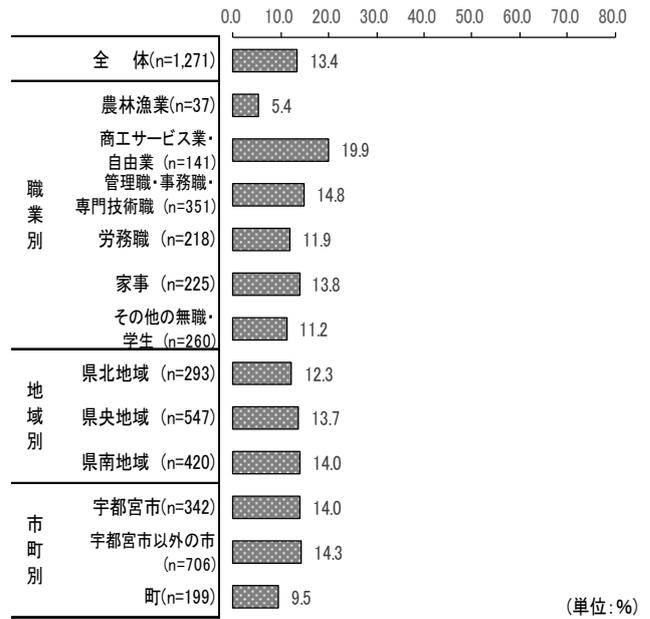
地域で生産したものを地域で消費する(地産地消)



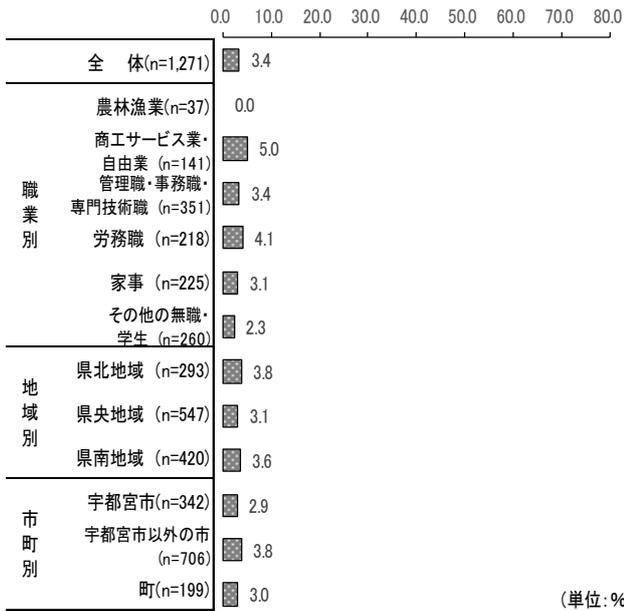
表示や説明を十分確認した上で商品やサービスを選択する



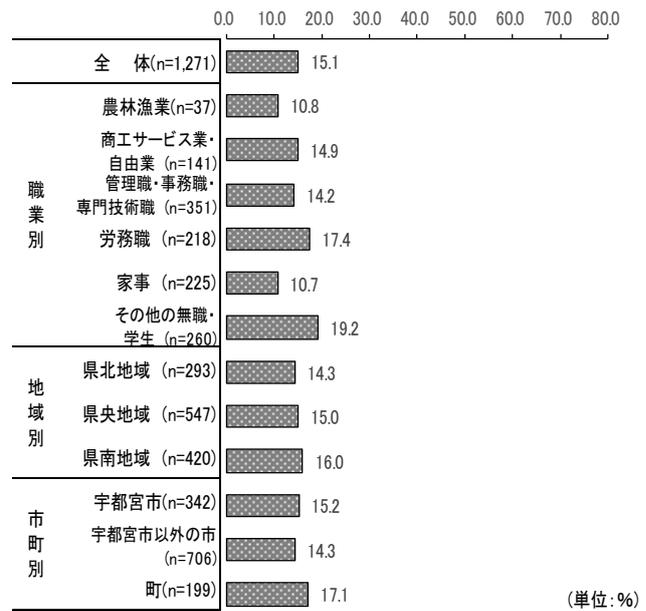
環境やSDGsに配慮した商品やサービスの選択



フェアトレード(開発途上国の生産者に公正な労働を保証している貿易の仕組み)製品の選択



特に心がけていることはない



職業別で見ると、「食品ロス(食べられるのに廃棄される食品)の削減」では、すべての分類で6割台となっている。「地域で生産したものを地域で消費する(地産地消)」では〈農林漁業〉と〈家事〉がともに5割台であり、〈労務職〉28.9%が最も低くなっている。一方、「特に心がけていることはない」ではすべての分類で1割台であり、特に〈その他の無職・学生〉19.2%が高くなっている。

地域別で見ると、「食品ロス(食べられるのに廃棄される食品)の削減」では、すべての分類で6割台となっている。「地域で生産したものを地域で消費する(地産地消)」では〈県央地域〉41.1%が最も高く、〈県北地域〉と〈県南地域〉がともに約38%となっている。一方、「特に心がけていることはない」では、すべての分類で1割半ばとなっている。

市町別で見ると、「食品ロス(食べられるのに廃棄される食品)の削減」では〈宇都宮市以外の市〉68.3%が最も高く、〈町〉57.8%が最も低くなっている。「地域で生産したものを地域で消費する(地産地消)」では〈宇都宮市以外の市〉40.7%が最も高く、〈宇都宮市〉と〈町〉がともに約38%となっている。一方、「特に心がけていることはない」では、すべての分類で1割台となっている。

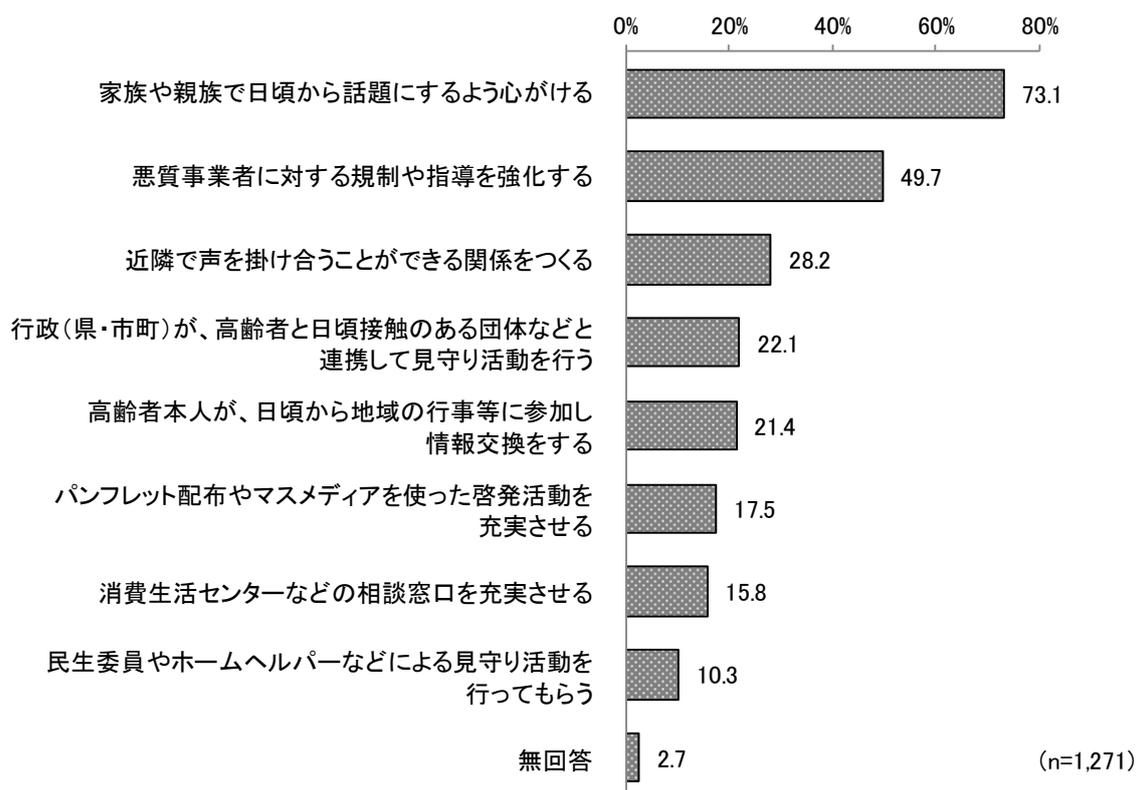
(2) 高齢者の悪質商法被害への有効な対策

問23 高齢者が悪質商法の被害に遭うことが増えています。あなたは、それを防ぐためにはどのような対策が有効だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,271]

1	家族や親族で日頃から話題にするよう心がける	73.1%
2	近隣で声を掛け合うことができる関係をつくる	28.2
3	民生委員やホームヘルパーなどによる見守り活動を行ってもらう	10.3
4	高齢者本人が、日頃から地域の行事等に参加し情報交換をする	21.4
5	パンフレット配布やマスメディアを使った啓発活動を充実させる	17.5
6	消費生活センターなどの相談窓口を充実させる	15.8
7	悪質事業者に対する規制や指導を強化する	49.7
8	行政（県・市町）が、高齢者と日頃接触のある団体などと連携して見守り活動を行う	22.1
	(無回答)	2.7

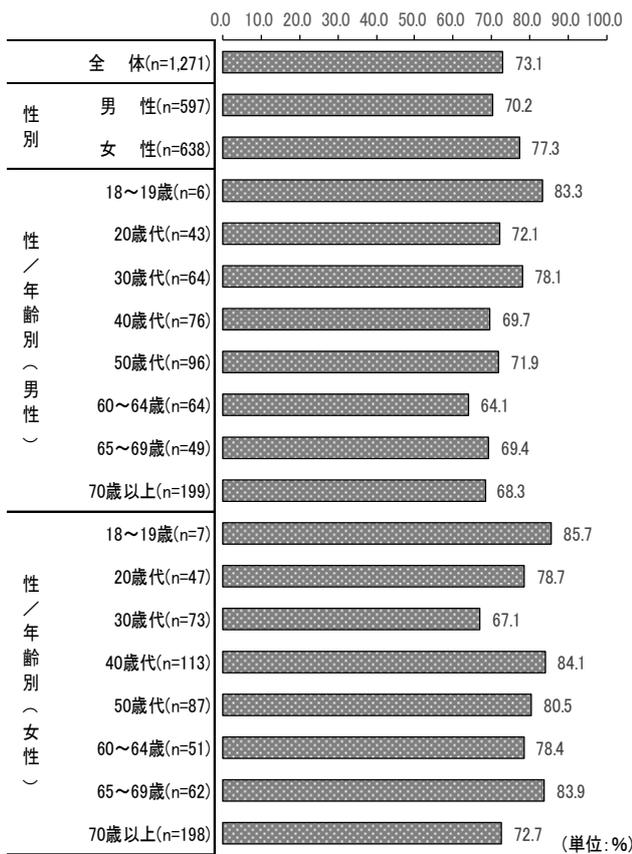
【令和6(2024)年】



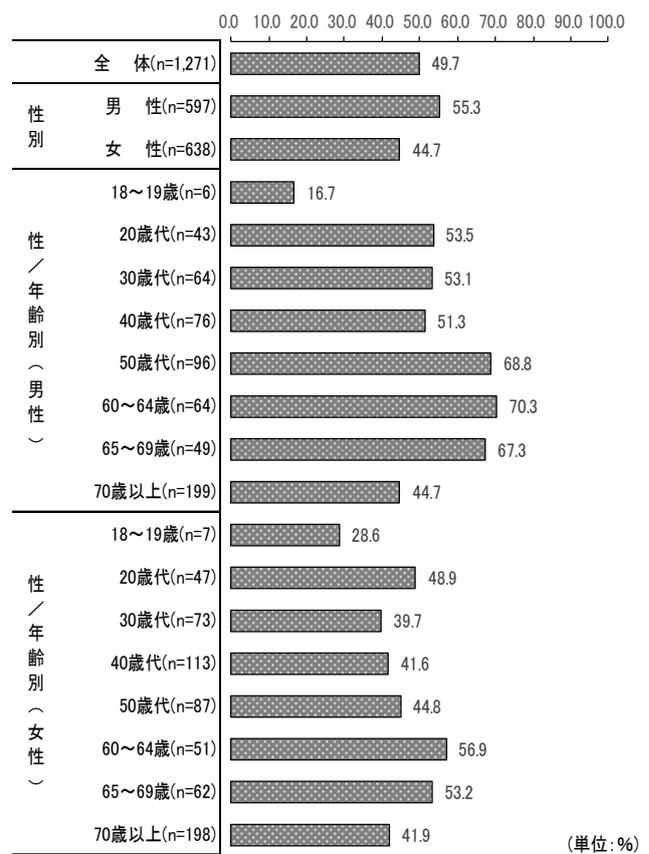
全体でみると、「家族や親族で日頃から話題にするよう心がける」（73.1%）が7割台前半で最も高く、次いで「悪質事業者に対する規制や指導を強化する」（49.7%）、「近隣で声を掛け合うことができる関係をつくる」（28.2%）、「行政（県・市町）が、高齢者と日頃接触のある団体などと連携して見守り活動を行う」（22.1%）の順となっている。

[性別・性／年齢別]

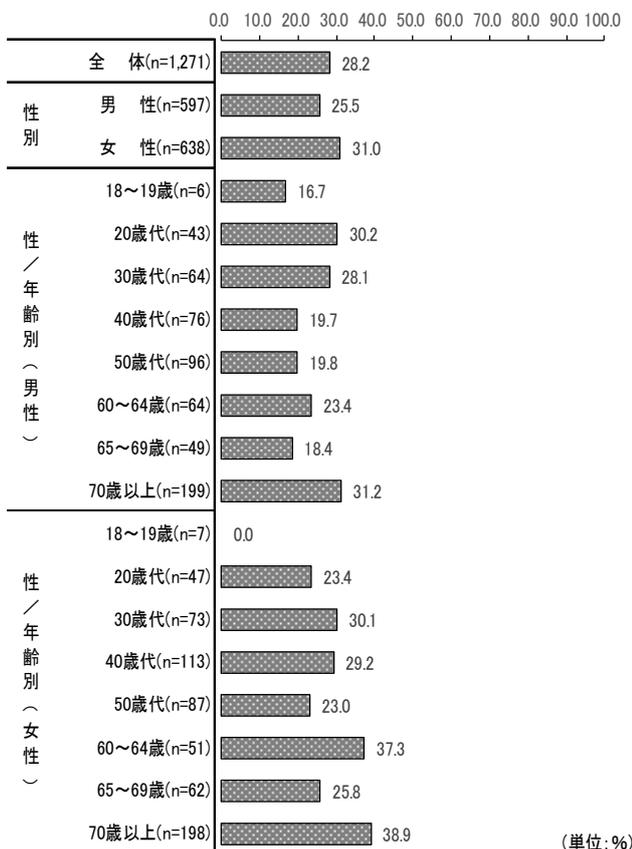
家族や親族で日頃から話題にするよう心がける



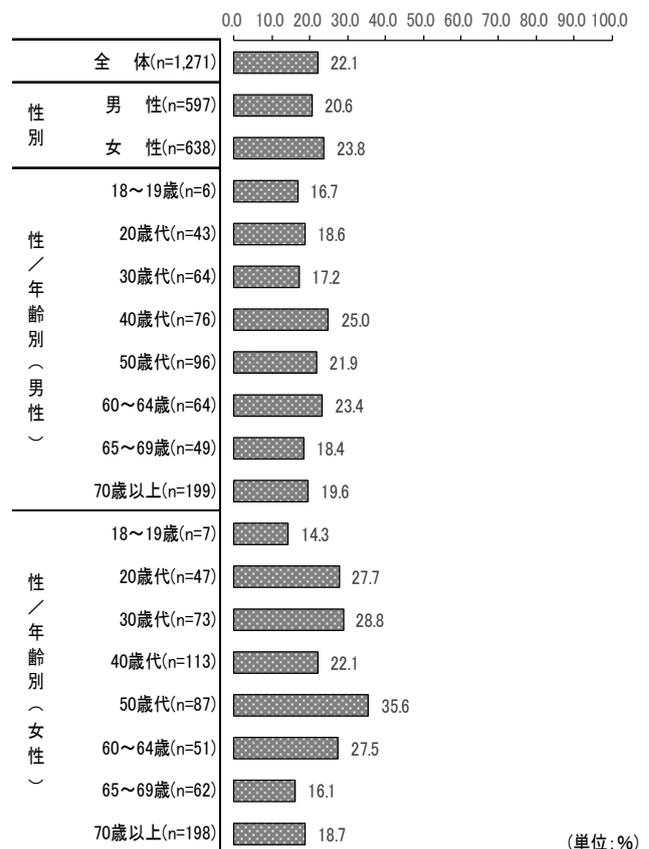
悪質事業者に対する規制や指導を強化する



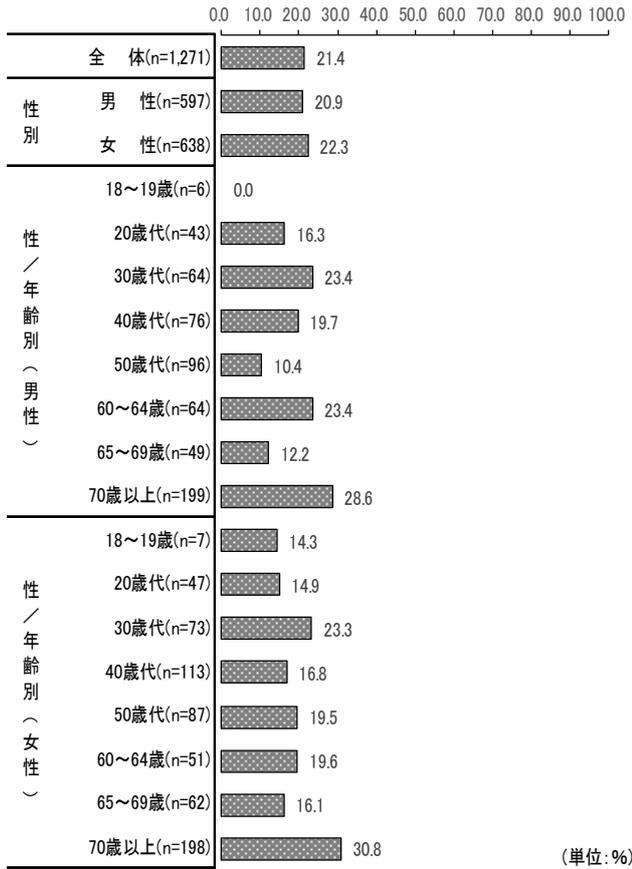
近隣で声を掛け合うことができる関係をつくる



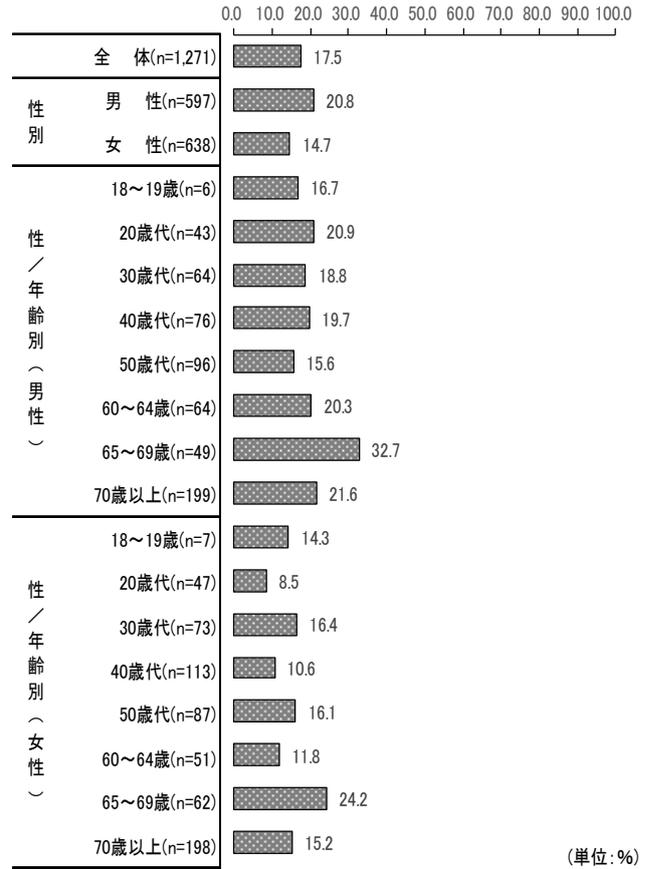
行政(県・市町)が、高齢者と日頃接触のある団体などと連携して見守り活動を行う



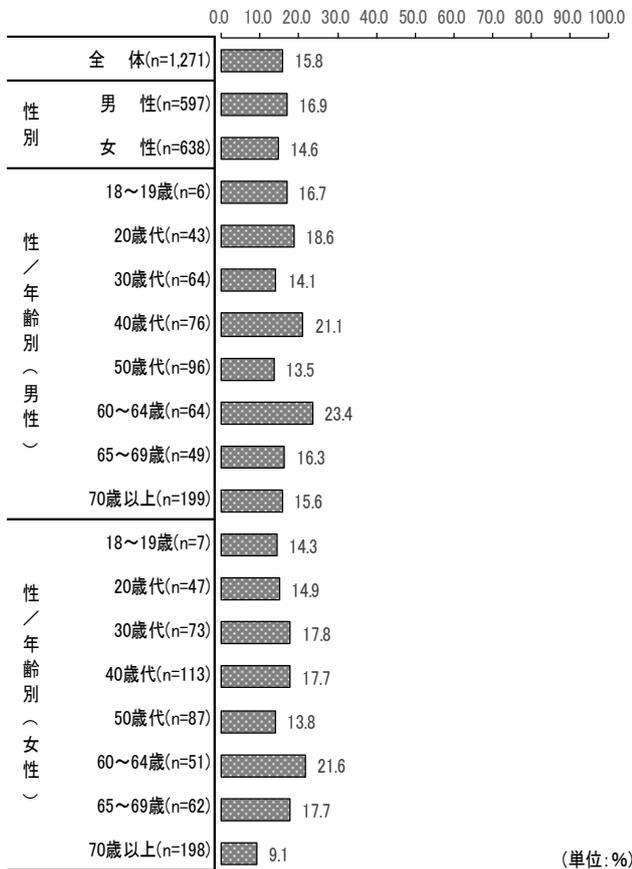
高齢者本人が、日頃から地域の行事等に参加し情報交換をする



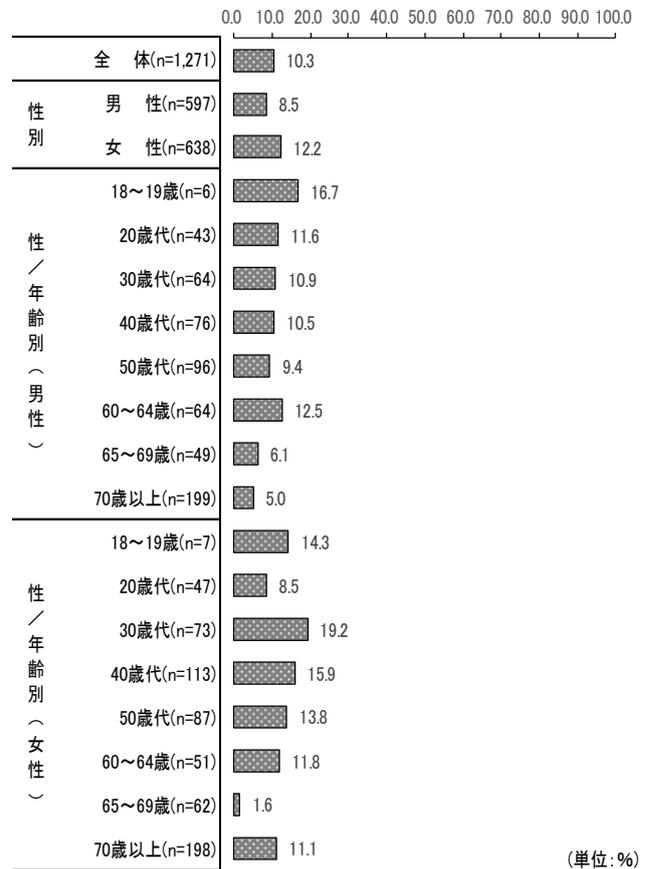
パンフレット配布やマスメディアを使った啓発活動を充実させる



消費生活センターなどの相談窓口を充実させる



民生委員やホームヘルパーなどによる見守り活動を行ってもら

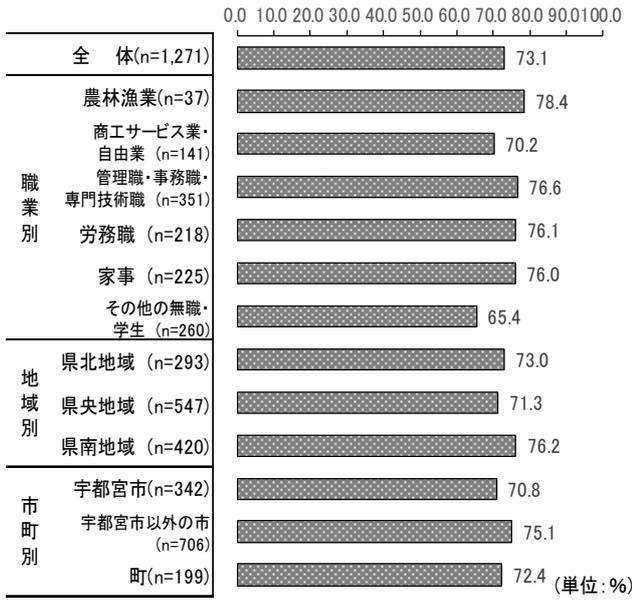


性別でみると、「悪質事業者に対する規制や指導を強化する」では〈男性〉55.3%が、〈女性〉44.7%より10.6ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。「家族や親族で日頃から話題にするよう心がける」では〈女性〉77.3%が、〈男性〉70.2%より7.1ポイント高くなっている。

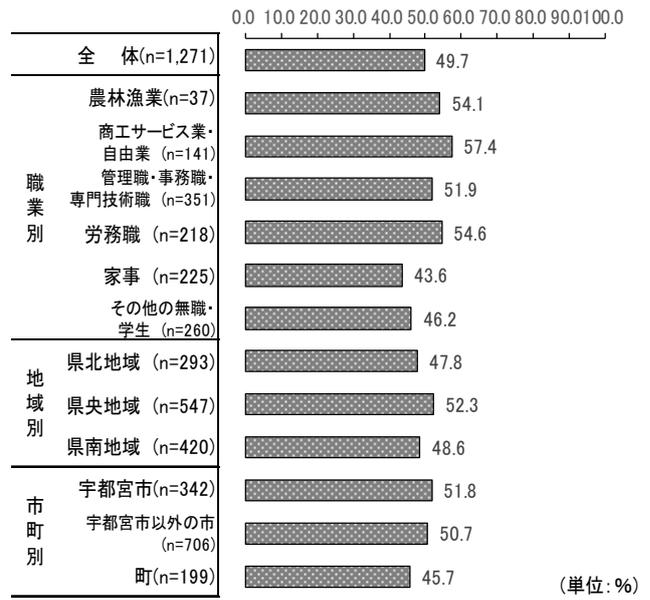
性／年齢別でみると、「家族や親族で日頃から話題にするよう心がける」では〈女性40歳代〉84.1%が高く、〈男性60～64歳〉64.1%が最も低くなっている。「悪質事業者に対する規制や指導を強化する」では〈男性60～64歳〉70.3%が最も高く、〈女性30歳代〉39.7%が低くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

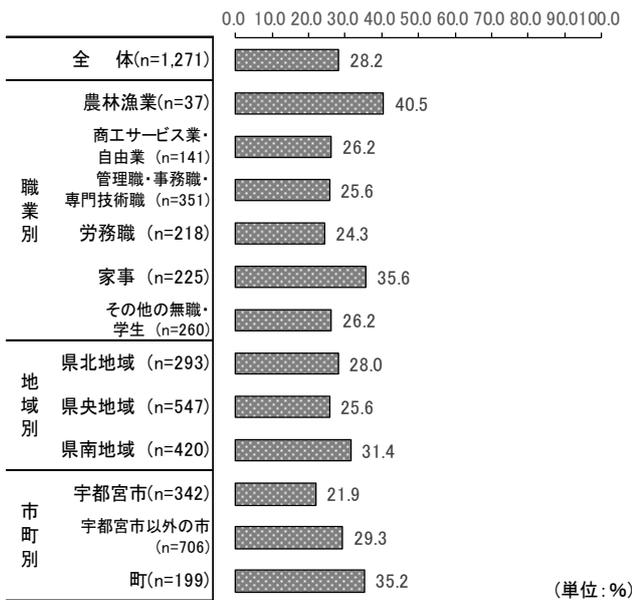
家族や親族で日頃から話題にするよう心がける



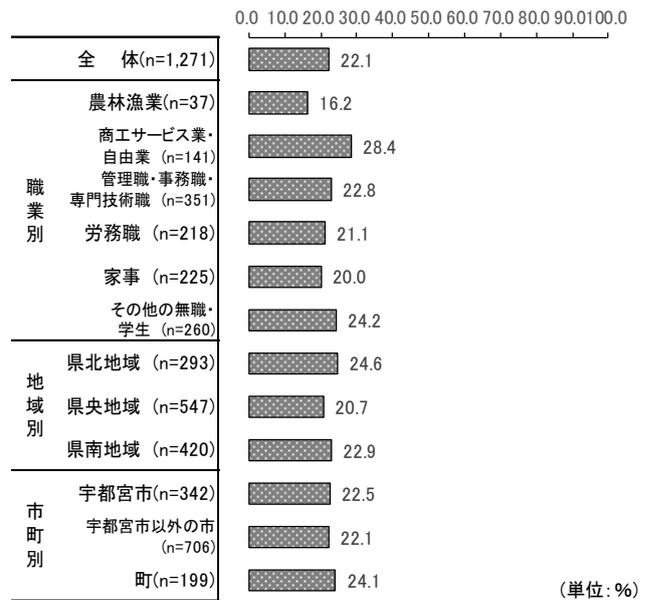
悪質事業者に対する規制や指導を強化する



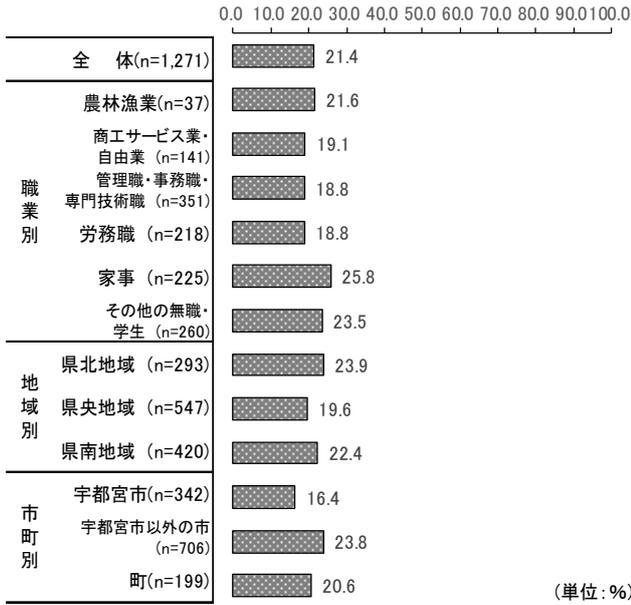
近隣で声を掛け合うことができる関係をつくる



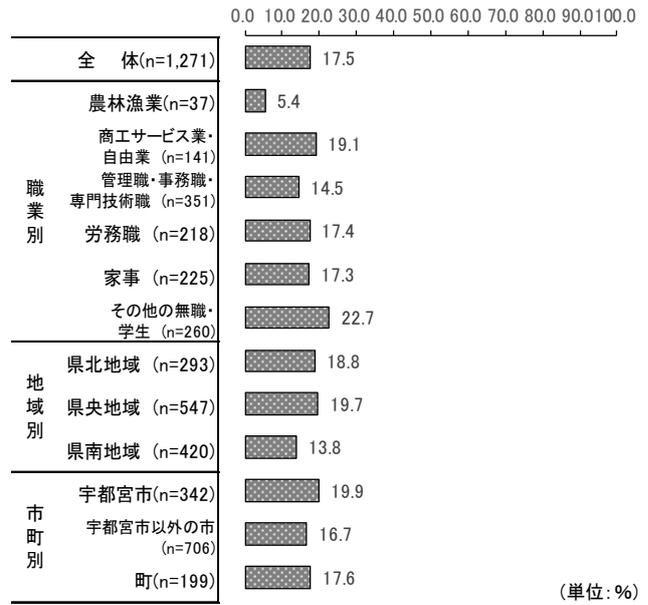
行政(県・市町)が、高齢者と日頃接触のある団体などと連携して見守り活動を行う



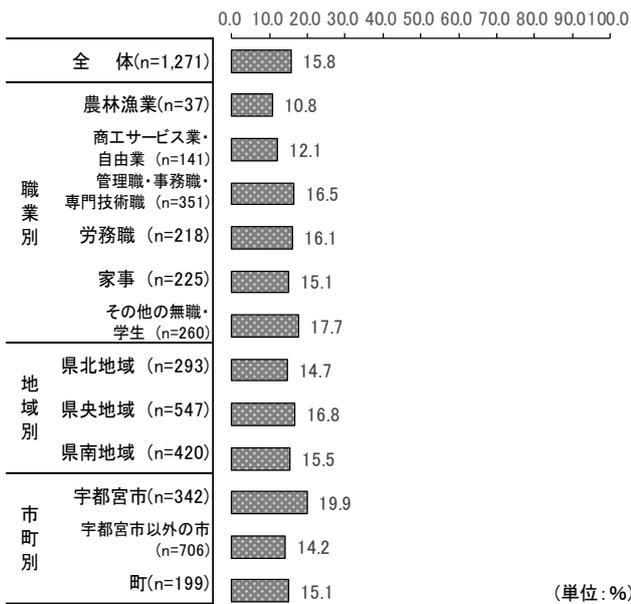
高齢者本人が、日頃から地域の行事等に参加し情報交換をする



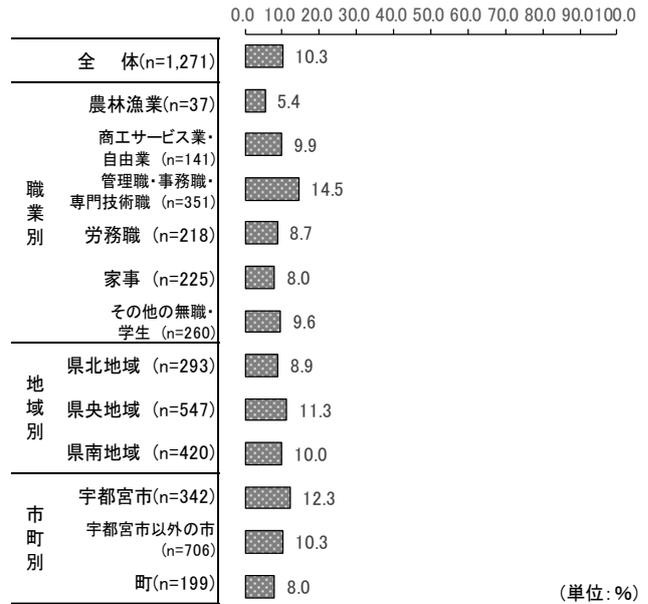
パンフレット配布やマスメディアを使った啓発活動を充実させる



消費生活センターなどの相談窓口を充実させる



民生委員やホームヘルパーなどによる見守り活動を行ってもらう



職業別で見ると、「家族や親族で日頃から話題にするよう心がける」では〈その他の無職・学生〉65.4%が最も低く、その他の分類では7割台となっている。「悪質事業者に対する規制や指導を強化する」では〈商工サービス業・自由業〉57.4%が最も高く、〈家事〉43.6%が最も低くなっている。

地域別で見ると、「家族や親族で日頃から話題にするよう心がける」では、すべての分類で7割台となっている。「悪質事業者に対する規制や指導を強化する」では〈県央地域〉52.3%が最も高く、〈県北地域〉47.8%が最も低くなっている。

市町別で見ると、「家族や親族で日頃から話題にするよう心がける」では、すべての分類で7割台となっている。「悪質事業者に対する規制や指導を強化する」では〈宇都宮市〉51.8%が最も高く、〈町〉45.7%が最も低くなっている。

10 県民の人権意識について

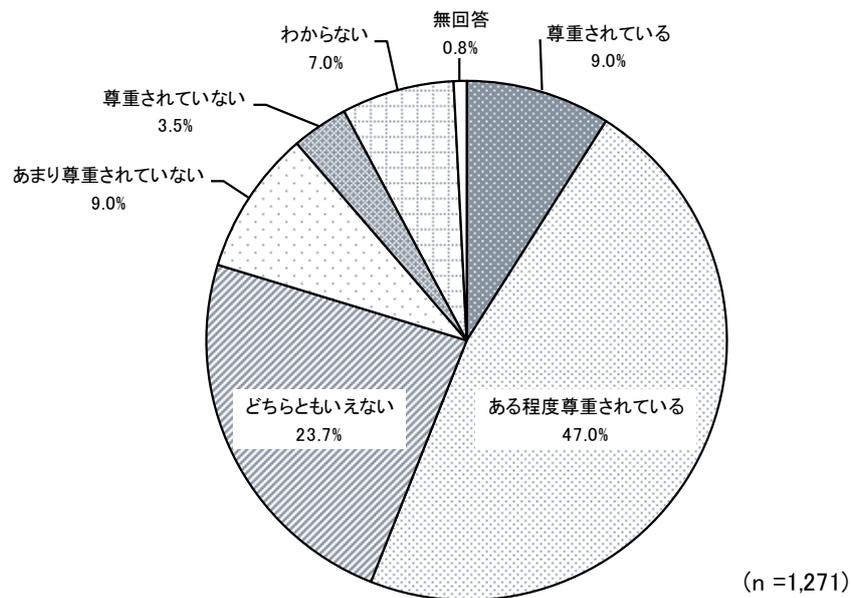
(1) 基本的な人権の尊重

問24 あなたは、「現在の日本は、基本的人権が尊重されている社会である」と思いますか。

次の中から1つ選んでください。

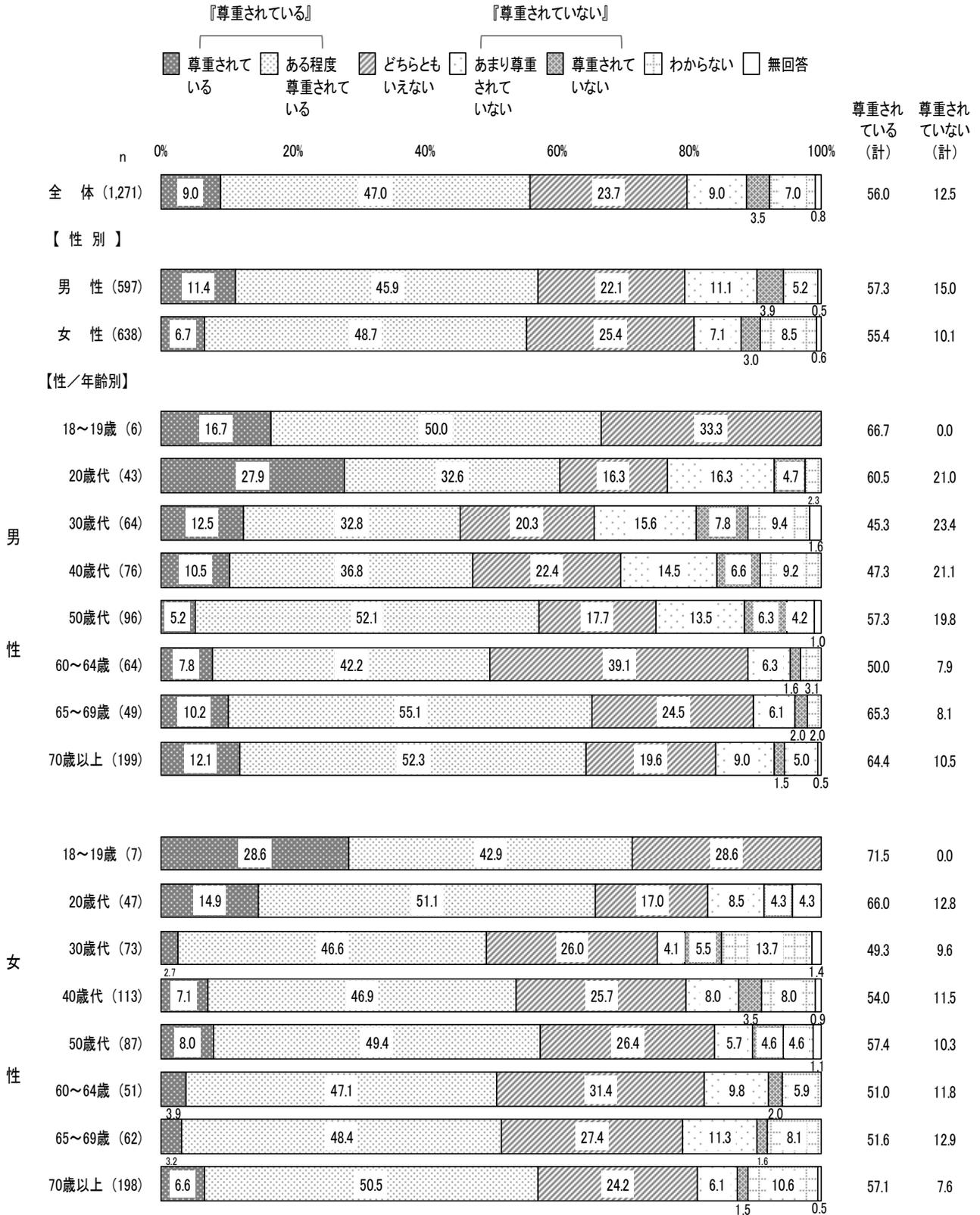
[n=1,271]

1	尊重されている	9.0%	4	あまり尊重されていない	9.0%
2	ある程度尊重されている	47.0	5	尊重されていない	3.5
3	どちらともいえない	23.7	6	わからない	7.0
				(無回答)	0.8



全体でみると、「尊重されている」(9.0%)と「ある程度尊重されている」(47.0%)の2つを合わせた『尊重されている』(56.0%)が5割半ばとなっている。一方、「あまり尊重されていない」(9.0%)と「尊重されていない」(3.5%)の2つを合わせた『尊重されていない』(12.5%)が1割台前半となっている。また、「どちらともいえない」(23.7%)が2割台前半となっている。

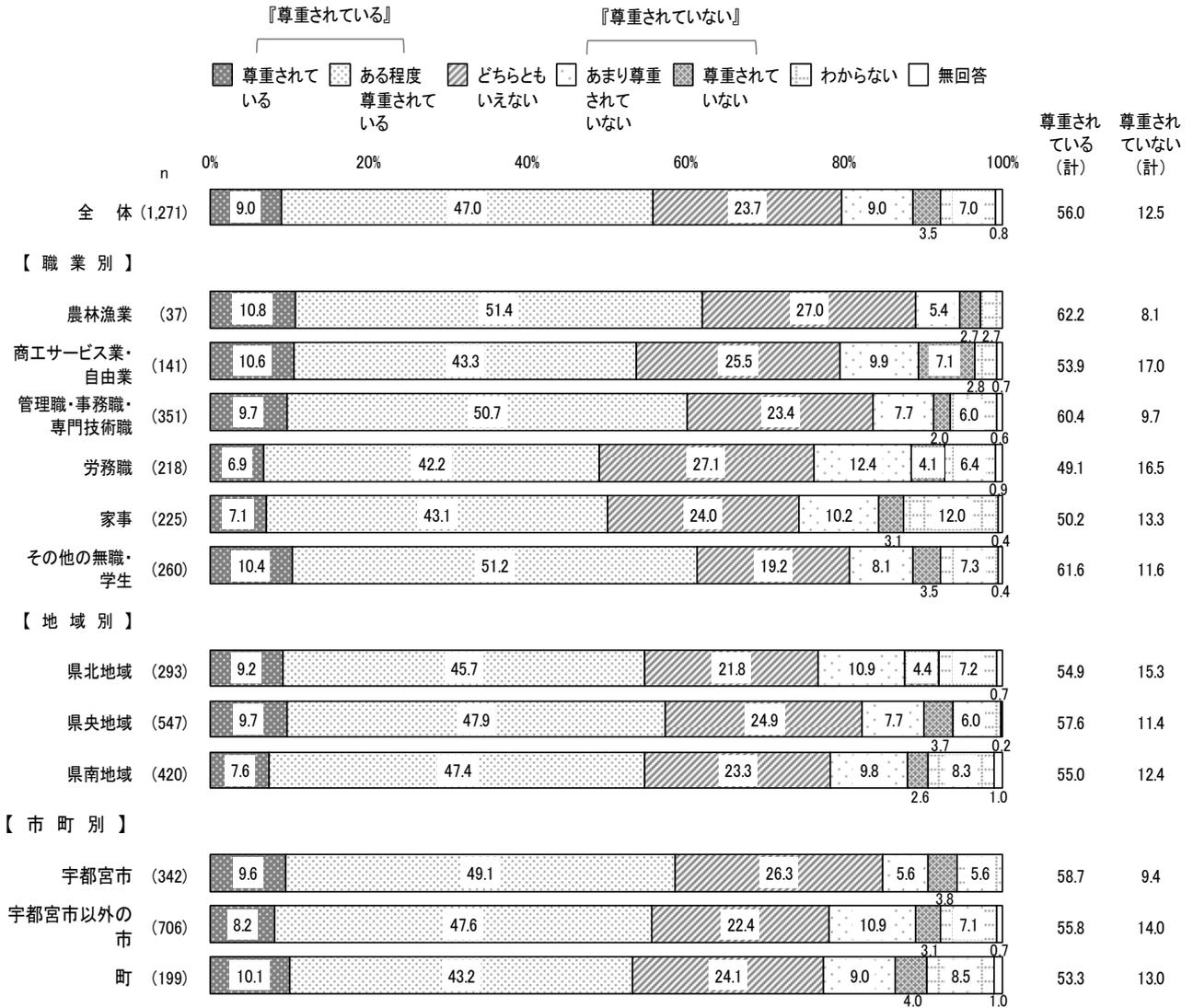
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『尊重されている』では〈男性〉57.3%が、〈女性〉55.4%より1.9ポイント高くなっている。一方、『尊重されていない』では〈男性〉15.0%が、〈女性〉10.1%より4.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『尊重されている』では〈女性20歳代〉66.0%が高く、〈男性30歳代〉45.3%が低くなっている。一方、『尊重されていない』では〈男性30歳代〉23.4%が最も高く、〈女性70歳以上〉7.6%が低くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『尊重されている』では〈農林漁業〉62.2%が最も高く、〈労務職〉49.1%が最も低くなっている。一方、『尊重されていない』では〈商工サービス業・自由業〉17.0%が最も高く、〈農林漁業〉8.1%が最も低くなっている。

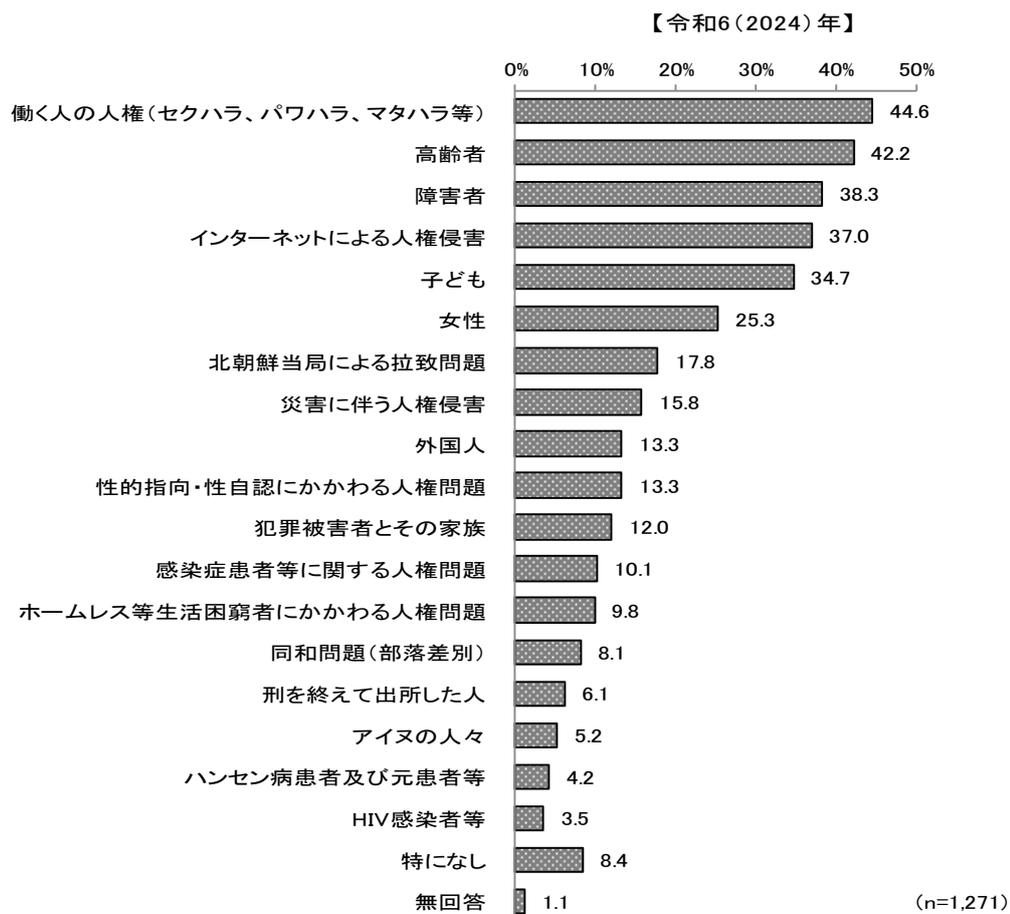
地域別でみると、『尊重されている』では、すべての分類で5割台、『尊重されていない』では、すべての分類で1割台となっている。

市町別でみると、『尊重されている』では、すべての分類で5割台となっている。『尊重されていない』では〈宇都宮市以外の市〉14.0%が最も高く、〈宇都宮市〉9.4%が最も低くなっている。

(2) 関心のある人権課題

問25 あなたは、次にあげた人権課題のうち、関心があるものはどれですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,271]

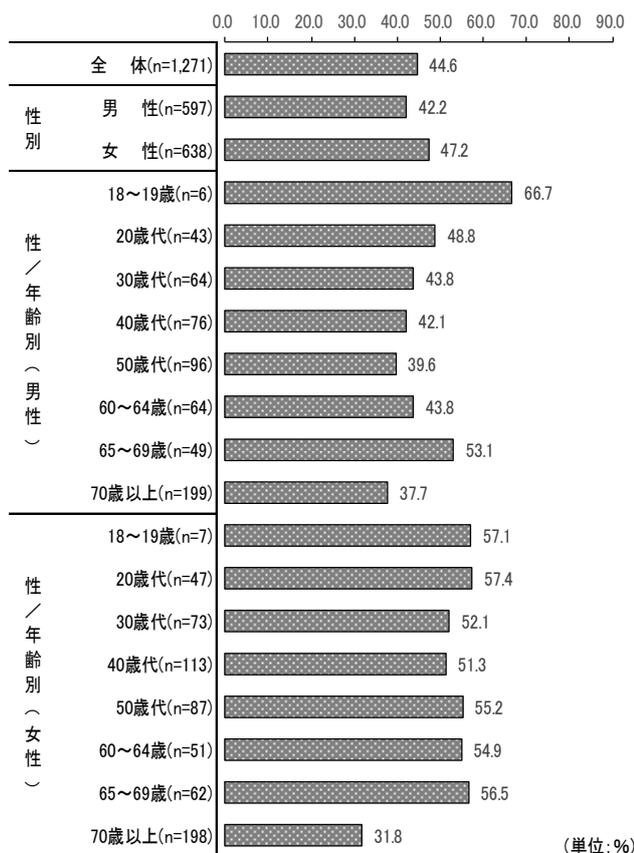
1	女性	25.3%	12	アイヌの人々	5.2%
2	子ども	34.7	13	刑を終えて出所した人	6.1
3	高齢者	42.2	14	性的指向・性自認にかかわる人権問題	13.3
4	障害者	38.3	15	ホームレス等生活困窮者にかかわる人権問題	9.8
5	同和問題(部落差別)	8.1	16	北朝鮮当局による拉致問題	17.8
6	外国人	13.3	17	働く人の人権(セクハラ、パワハラ、マタハラ等)	44.6
7	HIV感染者等	3.5	18	感染症患者等に関する人権問題	10.1
8	ハンセン病患者及び元患者等	4.2	19	特になし	8.4
9	犯罪被害者とその家族	12.0		(無回答)	1.1
10	インターネットによる人権侵害	37.0			
11	災害に伴う人権侵害	15.8			



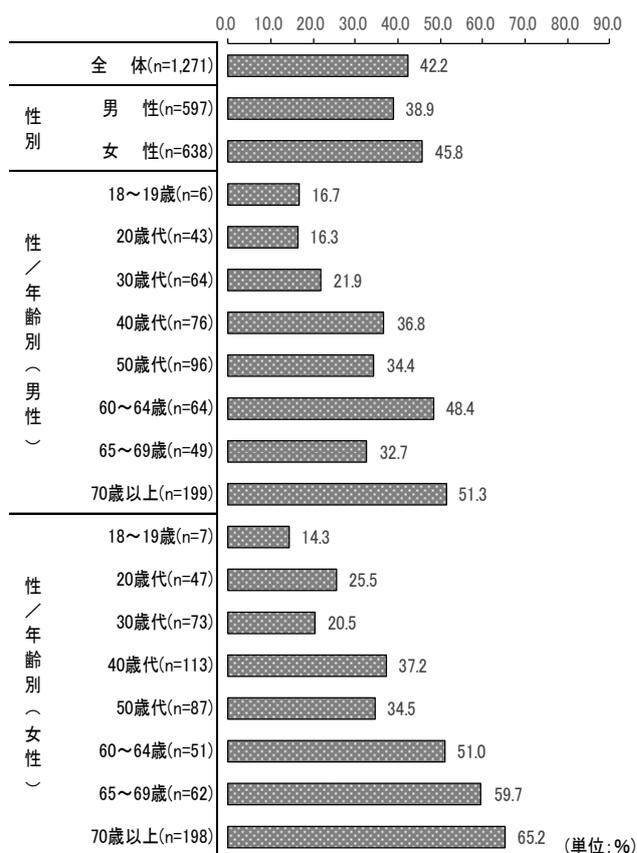
全体で見ると、「働く人の人権(セクハラ、パワハラ、マタハラ等)」(44.6%)が4割半ばで最も高く、次いで「高齢者」(42.2%)、「障害者」(38.3%)、「インターネットによる人権侵害」(37.0%)の順となっている。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

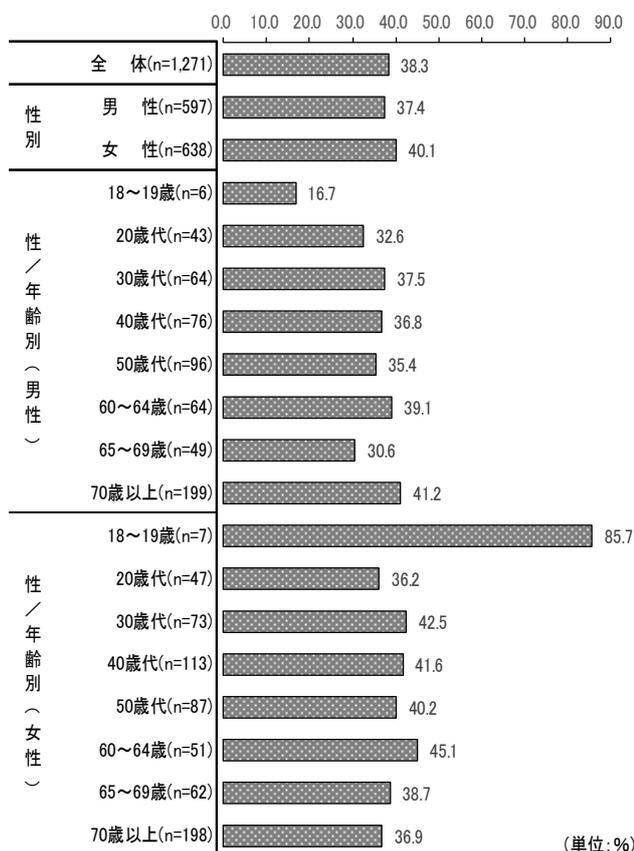
働く人の人権(セクハラ、パワハラ、マタハラ等)



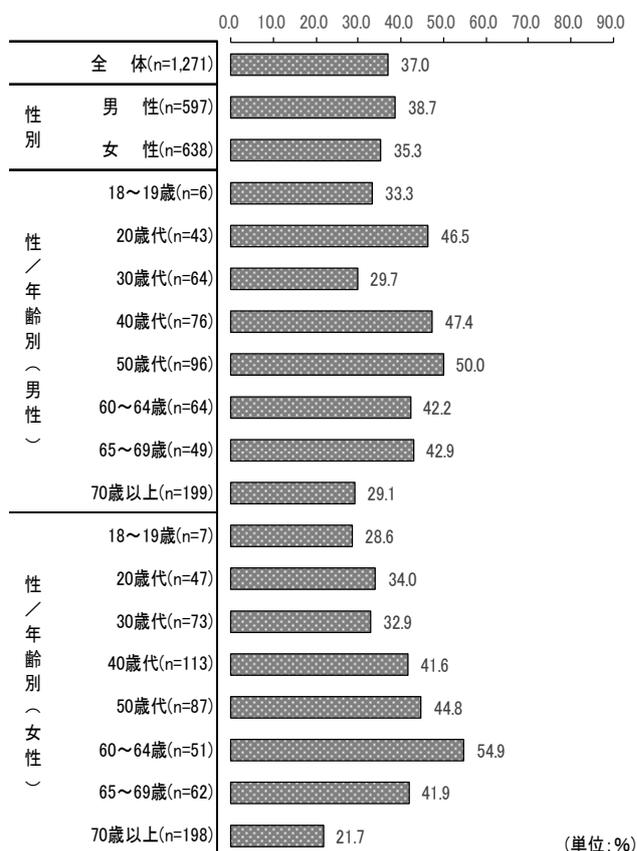
高齢者



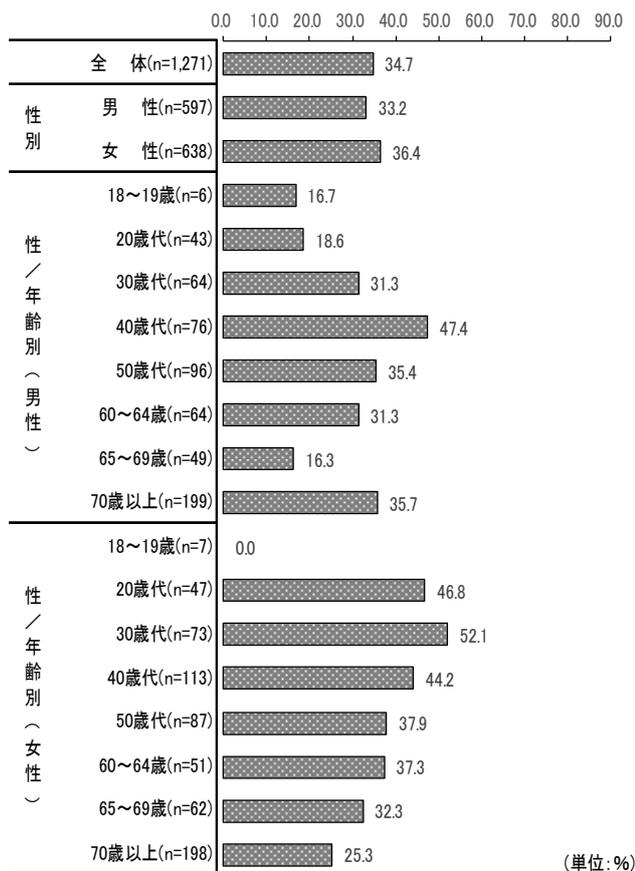
障害者



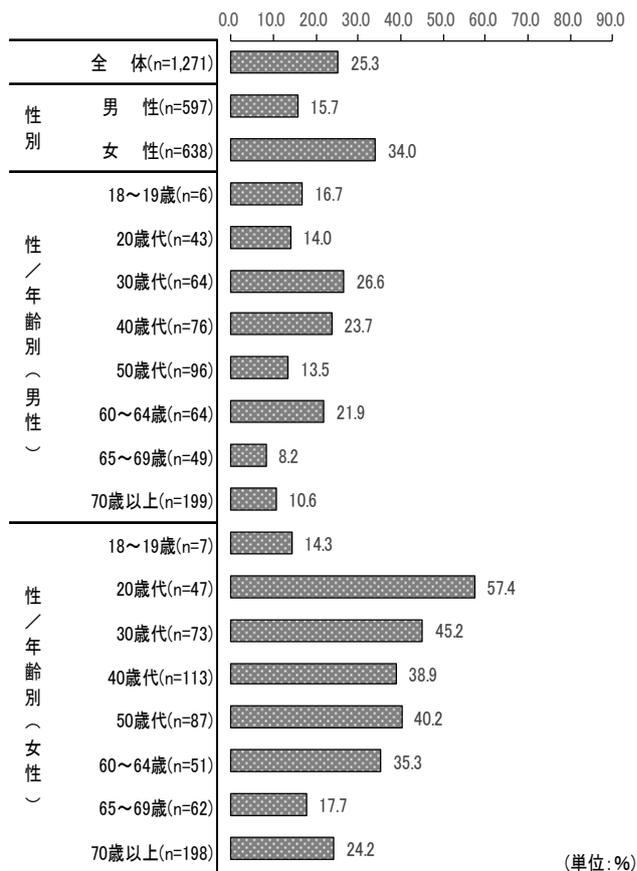
インターネットによる人権侵害



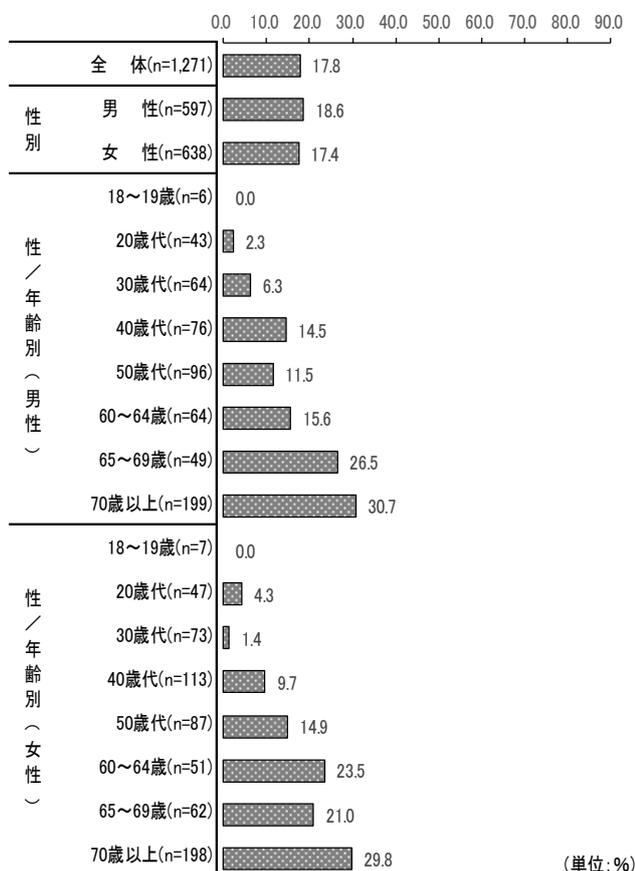
子ども



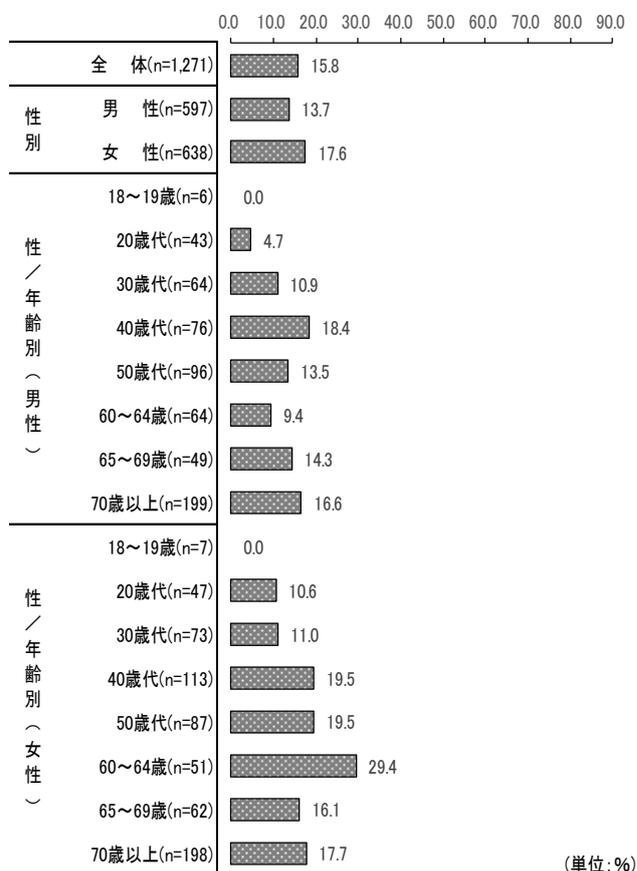
女性



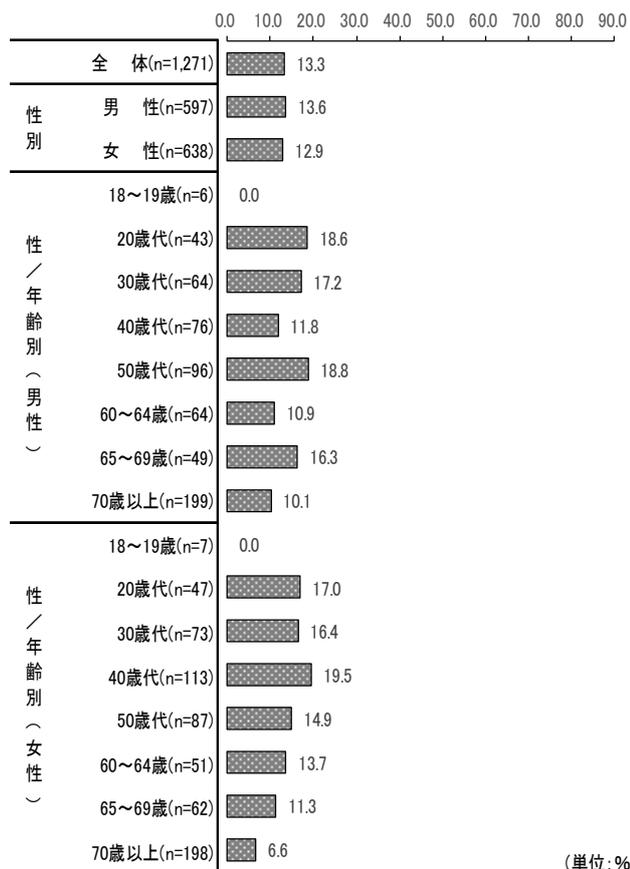
北朝鮮当局による拉致問題



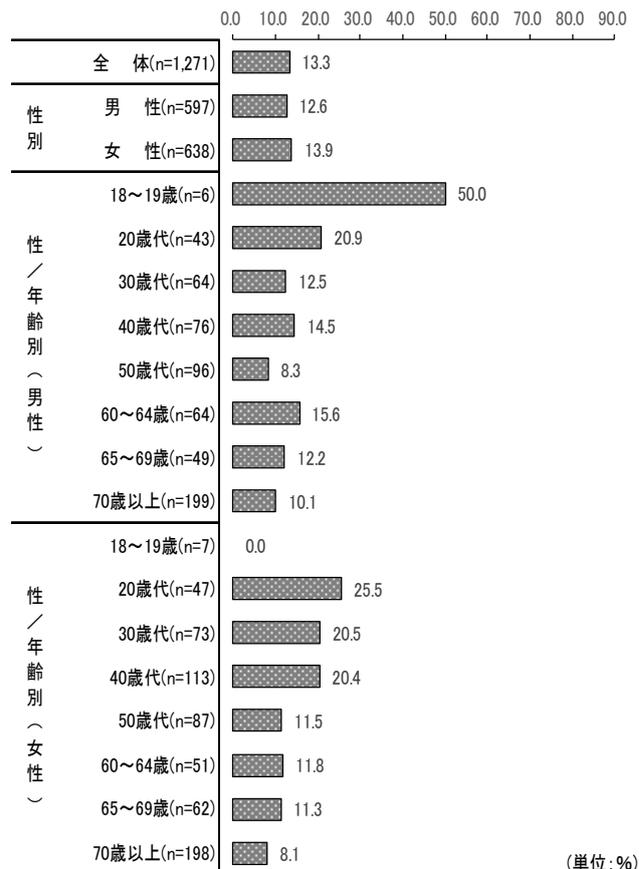
災害に伴う人権侵害



外国人



性的指向・性自認にかかわる人権問題

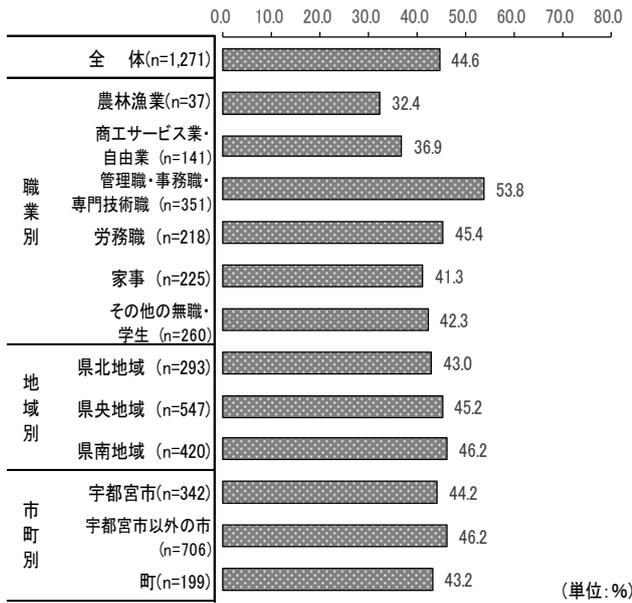


性別で見ると、「女性」では〈女性〉34.0%が、〈男性〉15.7%より18.3ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

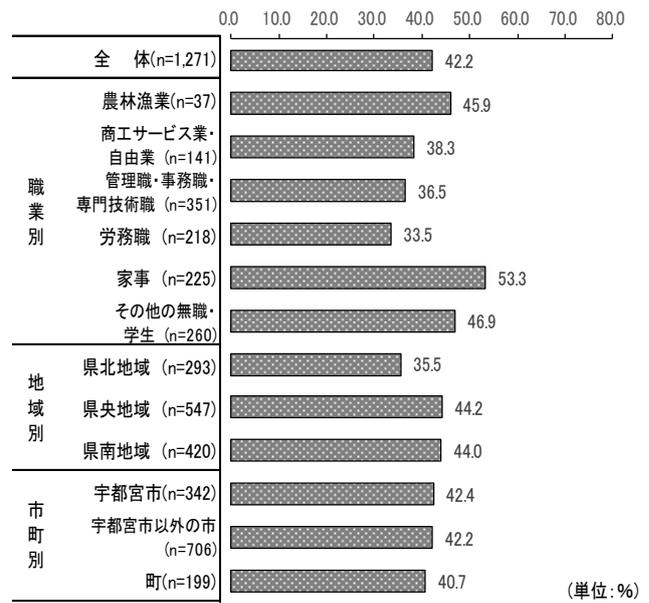
性/年齢別で見ると、「働く人の人権（セクハラ、パワハラ、マタハラ等）」では〈女性20歳代〉57.4%が高く、〈女性70歳以上〉31.8%が最も低くなっている。「高齢者」では〈女性70歳以上〉65.2%が最も高く、〈男性20歳代〉16.3%が低くなっている。「障害者」では〈女性60~64歳〉45.1%が高く、〈男性65~69歳〉30.6%が低くなっている。

[職業別・地域別・市町別] (上位10項目)

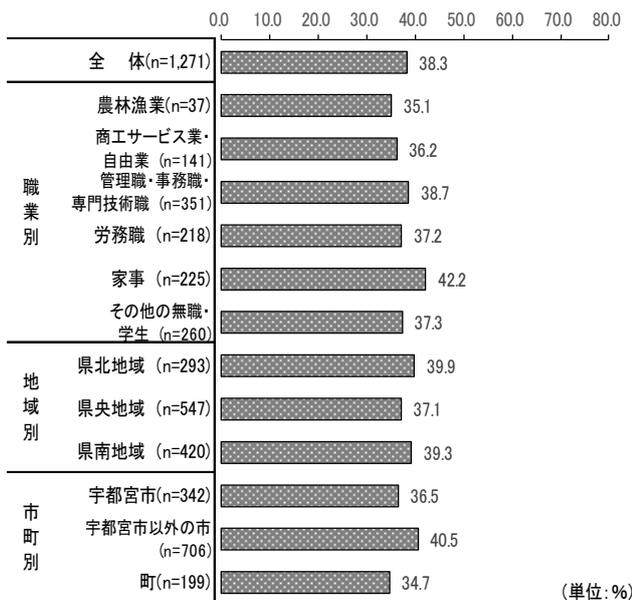
働く人の人権(セクハラ、パワハラ、マタハラ等)



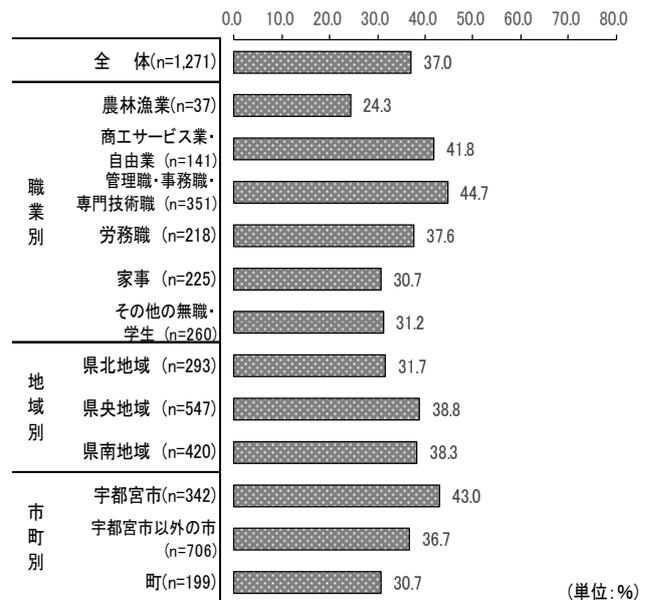
高齢者



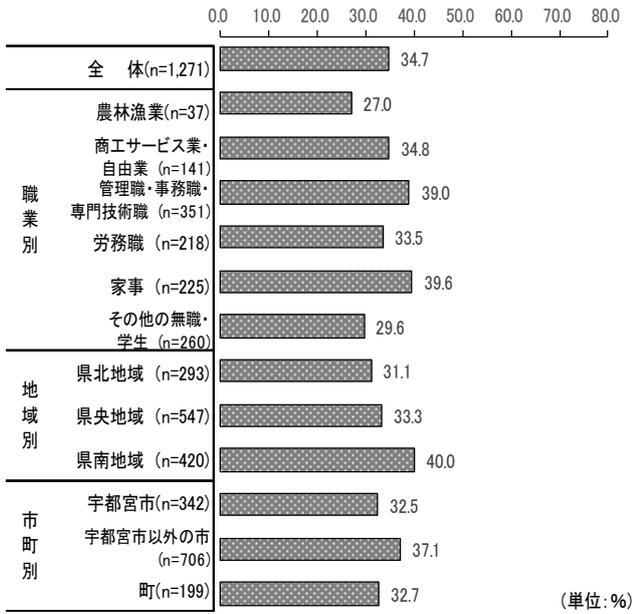
障害者



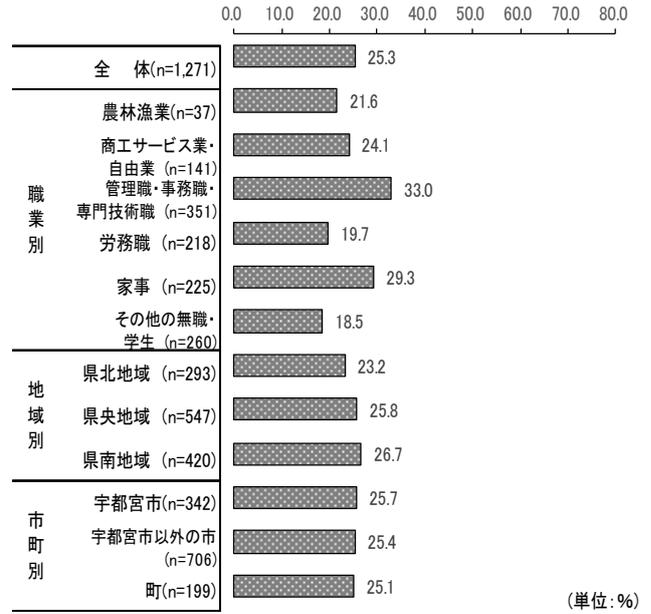
インターネットによる人権侵害



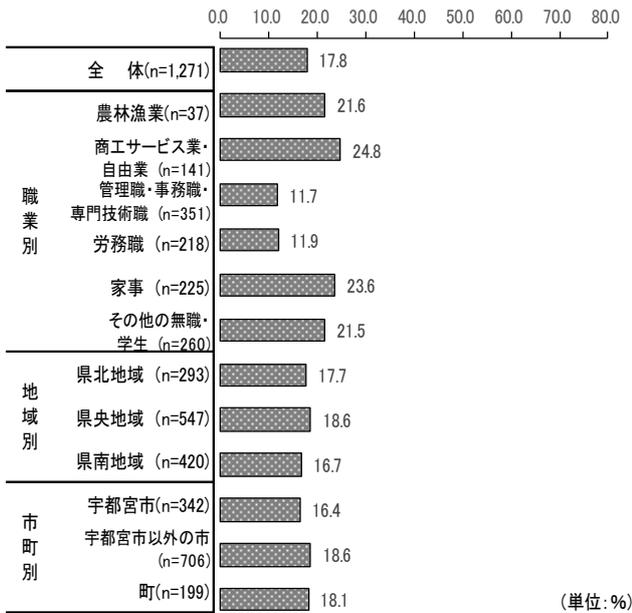
子ども



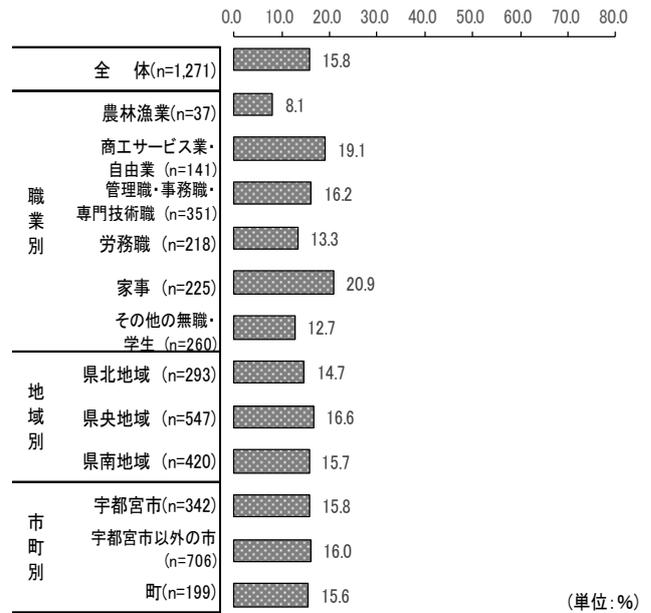
女性

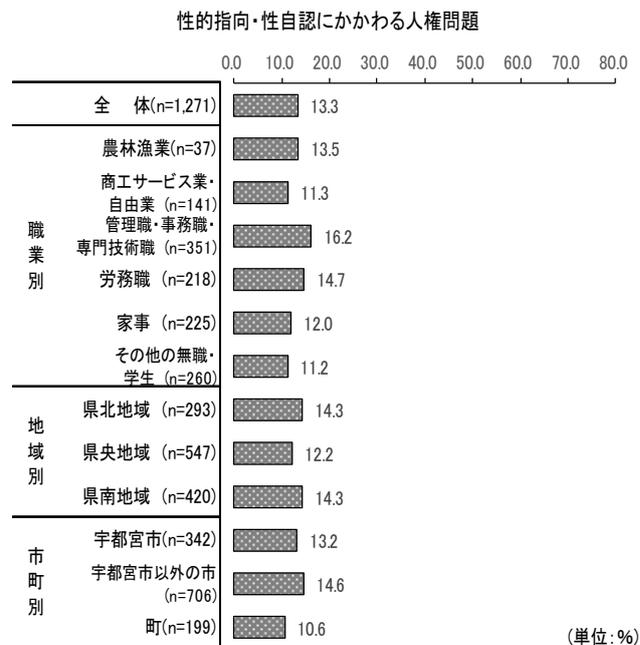
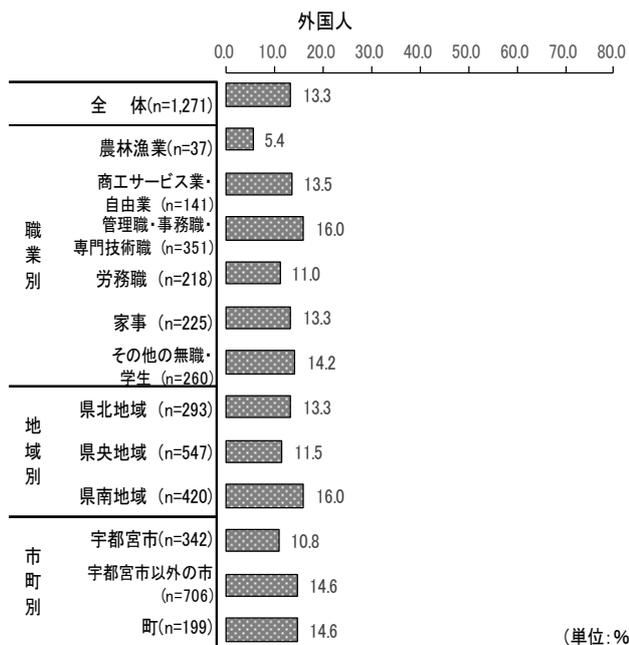


北朝鮮当局による拉致問題



災害に伴う人権侵害





職業別でみると、「働く人の人権（セクハラ、パワハラ、マタハラ等）」では〈管理職・事務職・専門技術職〉53.8%が最も高く、〈農林漁業〉32.4%が最も低くなっている。「高齢者」では〈家事〉53.3%が最も高く、〈労務職〉33.5%が最も低くなっている。

地域別でみると、「働く人の人権（セクハラ、パワハラ、マタハラ等）」では、すべての分類で4割台となっている。「高齢者」では〈県央地域〉と〈県南地域〉がともに約44%で高く、〈県北地域〉が35.5%となっている。

市町別でみると、「働く人の人権（セクハラ、パワハラ、マタハラ等）」、「高齢者」では、ともにすべての分類で4割台となっている。

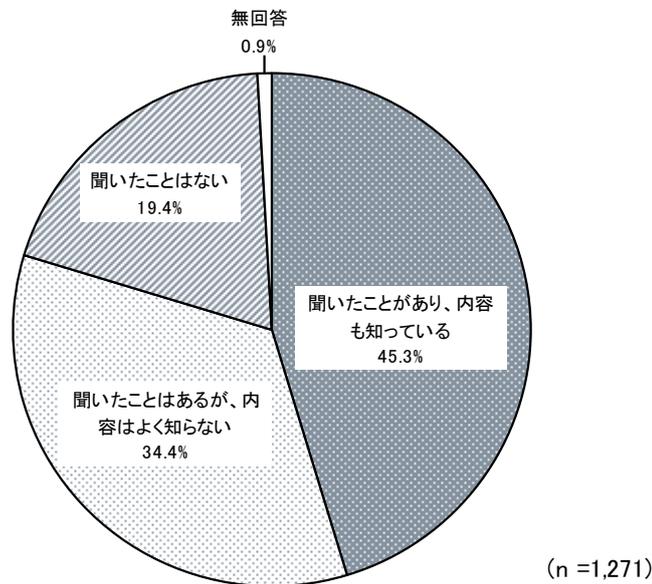
11 ケアラーについて

(1) ケアラーという言葉の認知度

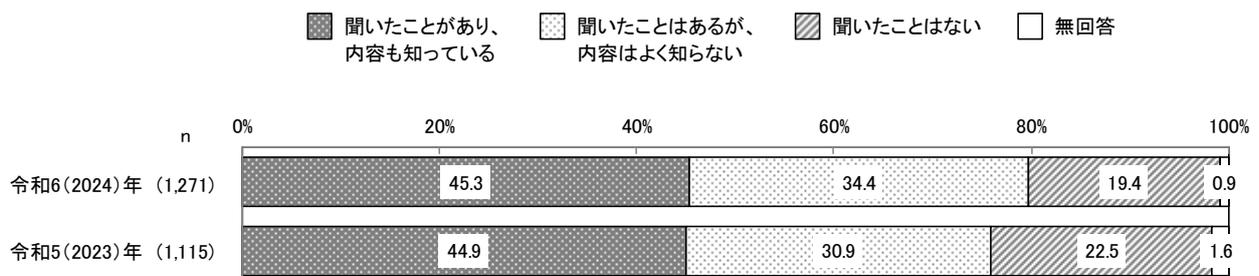
問26 あなたは、「ケアラー」（18歳未満のヤングケアラーを含む。）（※）という言葉を知っているかどうか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

※ 栃木県では、全てのケアラーが個人として尊重され、社会から孤立することなく、安心して生活することができる地域社会の実現に向けて、令和5年4月に栃木県ケアラー支援条例を施行しました。この条例において、「ケアラー」とは、「高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する」方と定義しており、「ヤングケアラー」とは、このうち18歳未満の方をいいます。

1 聞いたことがあります、内容も知っている	45.3%
2 聞いたことはあるが、内容はよく知らない	34.4%
3 聞いたことはない	19.4%
(無回答)	0.9%

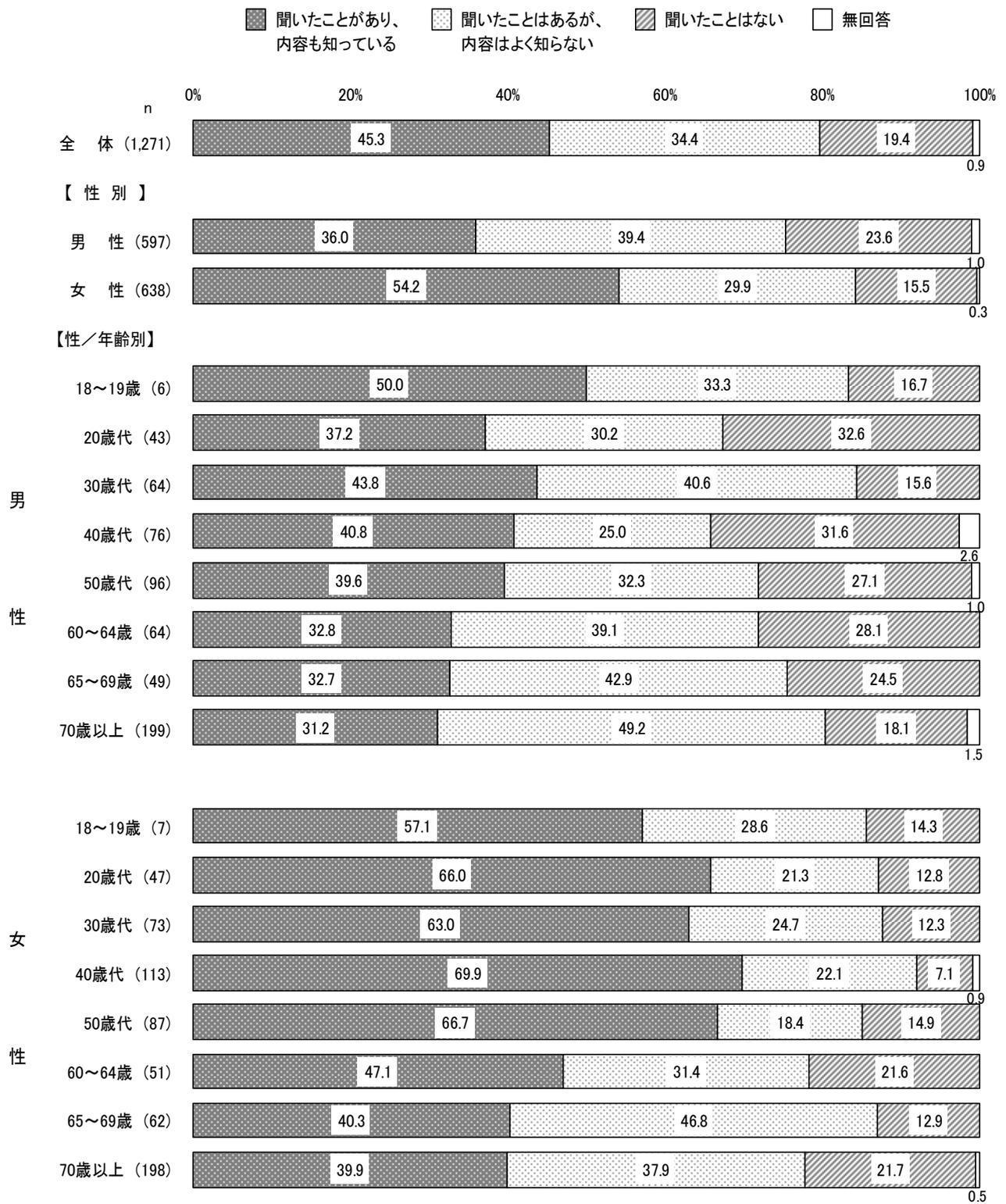


全体で見ると、「聞いたことがあります、内容も知っている」（45.3%）が4割半ば、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」（34.4%）が3割半ば、「聞いたことはない」（19.4%）が約2割となっている。



前回（令和5（2023）年）の調査結果と比較すると、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では3.5ポイント増加している。

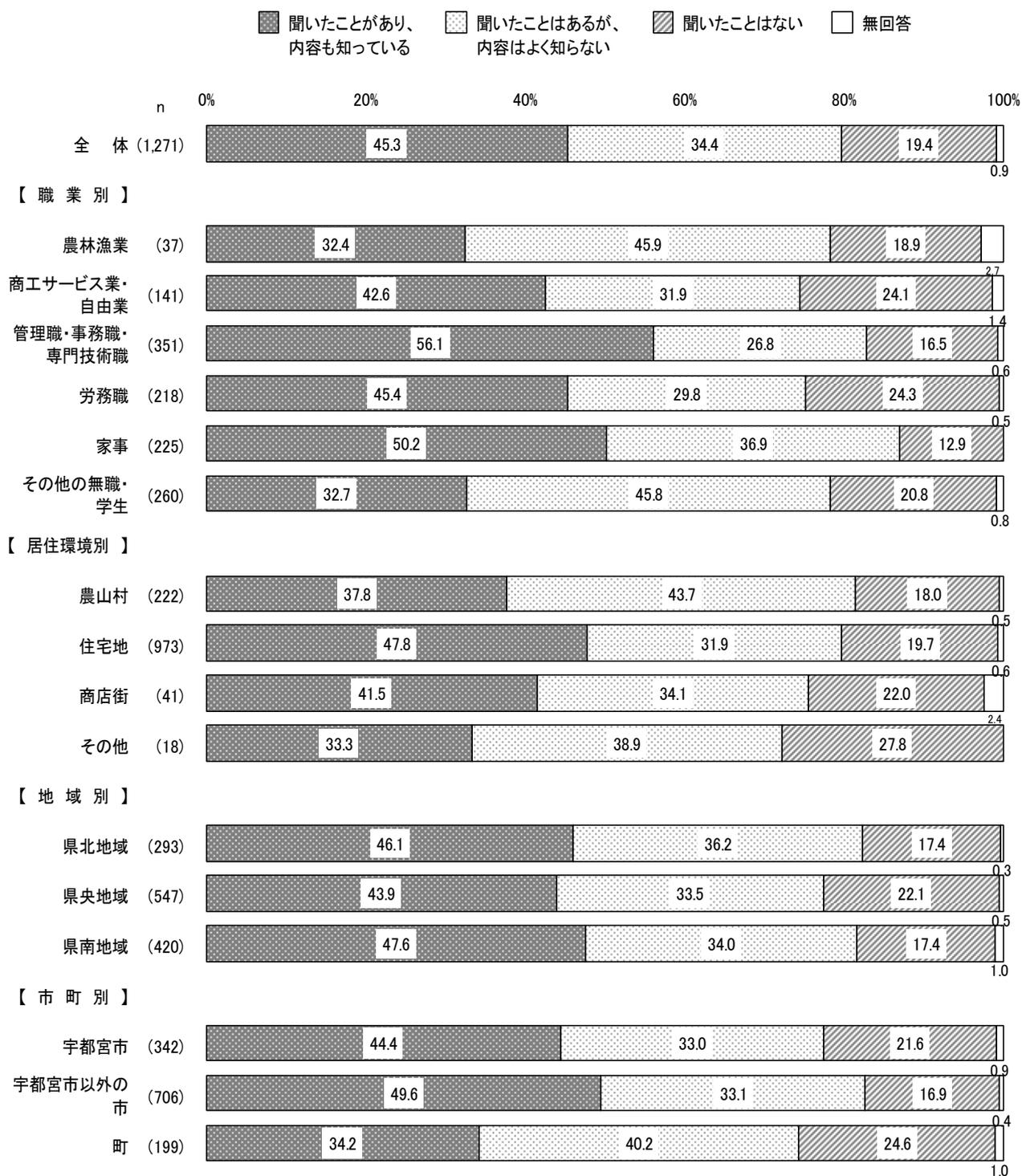
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈女性〉54.2%が、〈男性〉36.0%より18.2ポイント高くなっている。一方、「聞いたことはない」では〈男性〉23.6%が、〈女性〉15.5%より8.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈女性40歳代〉69.9%が最も高く、〈男性70歳以上〉31.2%が最も低くなっている。一方、「聞いたことはない」では〈男性20歳代〉32.6%が最も高く、〈女性40歳代〉7.1%が最も低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈管理職・事務職・専門技術職〉56.1%が最も高く、〈農林漁業〉と〈その他の無職・学生〉がともに約32%で低くなっている。

居住環境別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈住宅地〉47.8%が最も高く、〈その他〉33.3%が最も低くなっている。

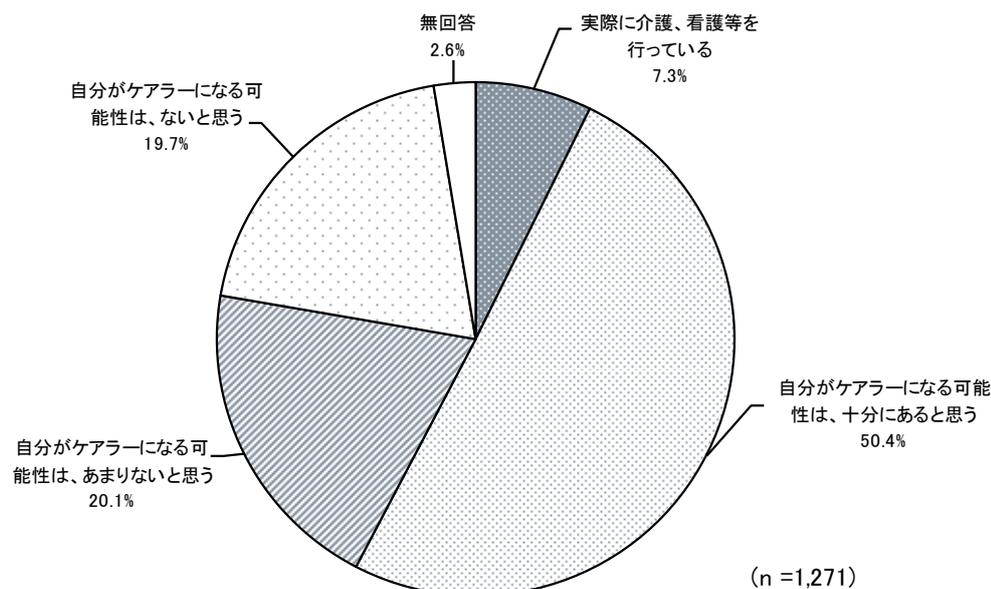
地域別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」ではすべての分類で4割台となっている。

市町別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈宇都宮市以外の市〉49.6%が最も高く、〈町〉34.2%が最も低くなっている。

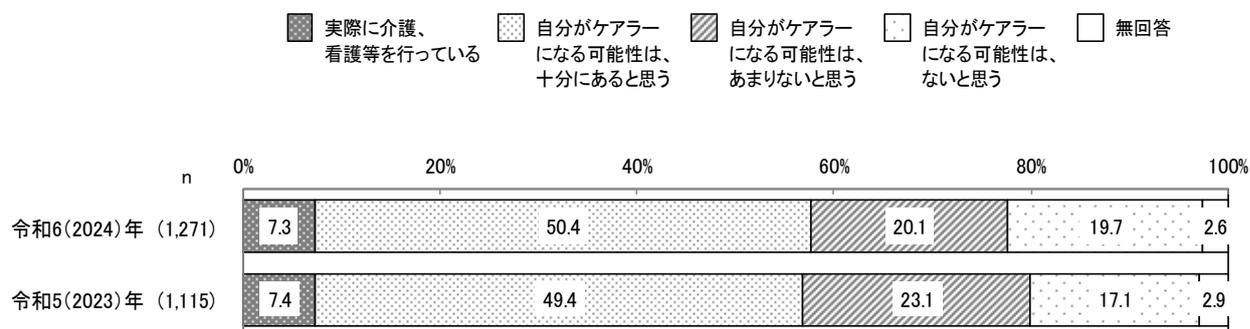
(2) ケアラー当事者になる可能性

問27 今後、あなたがケアラー当事者となる可能性について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを、次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 実際に介護、看護等を行っている	7.3%
2 自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う	50.4
3 自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う	20.1
4 自分がケアラーになる可能性は、ないと思う	19.7
(無回答)	2.6

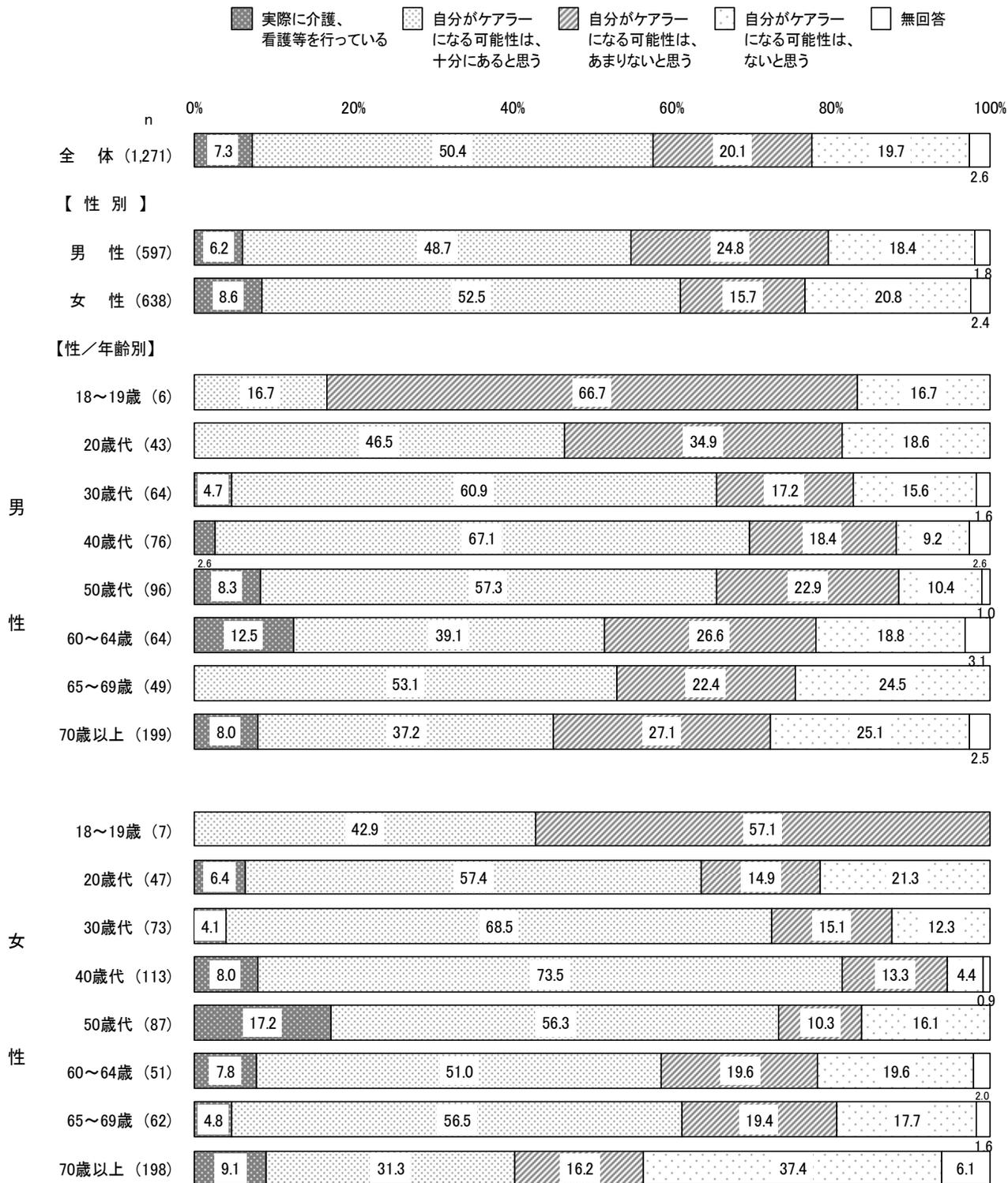


全体で見ると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」(50.4%)が約5割、「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」(20.1%)と「自分がケアラーになる可能性は、ないと思う」(19.7%)がともに約2割、「実際に介護、看護等を行っている」(7.3%)が1割未満となっている。



前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」では3.0ポイント減少している。

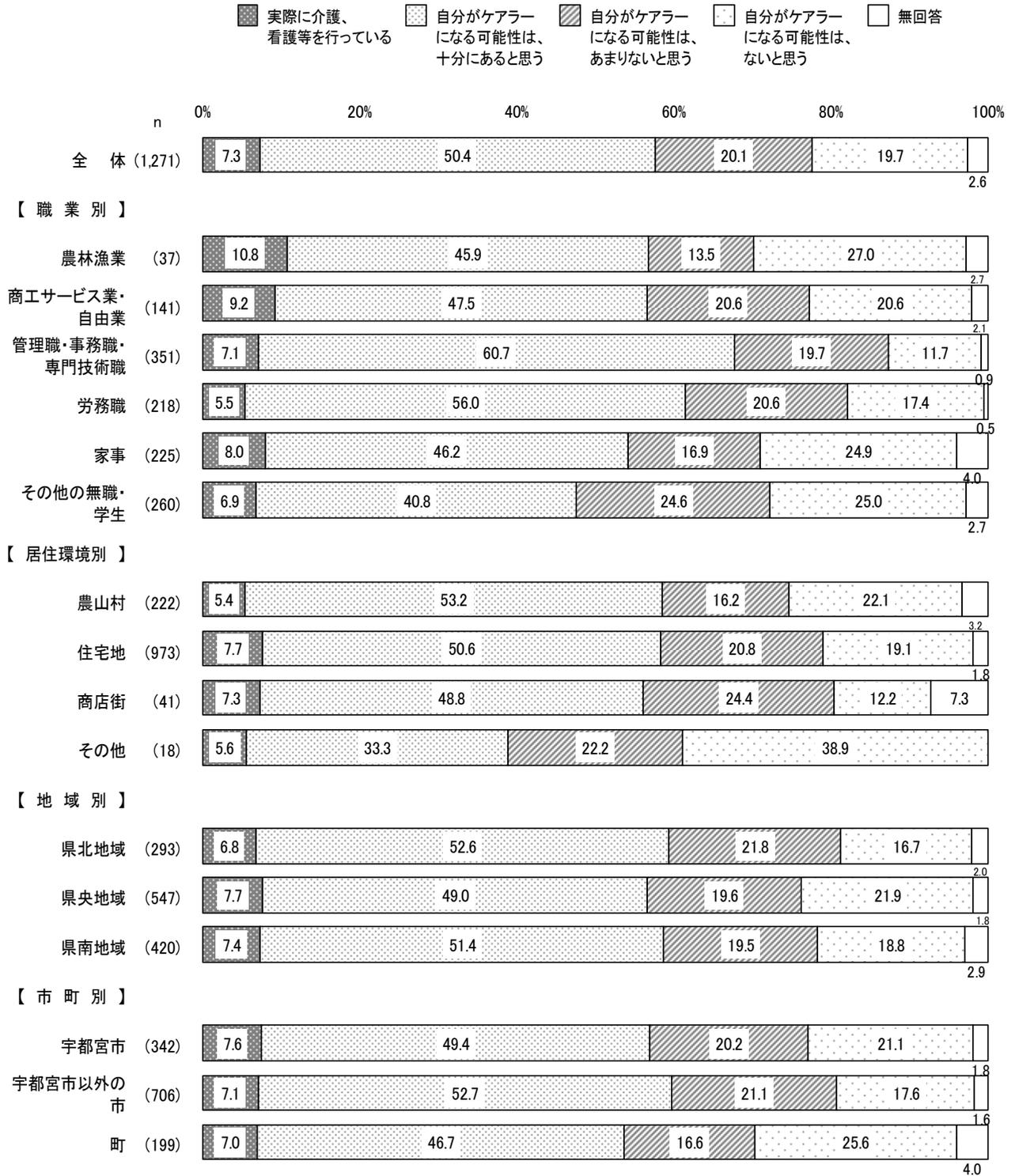
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」では〈男性〉24.8%が、〈女性〉15.7%より9.1ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

性／年齢別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈女性40歳代〉73.5%が唯一7割を超えて最も高く、〈女性70歳以上〉31.3%が低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈管理職・事務職・専門技術職〉60.7%が最も高く、〈その他の無職・学生〉40.8%が最も低くなっている。

居住環境別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈農山村〉53.2%が最も高く、〈その他〉33.3%が最も低くなっている。

地域別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈県北地域〉52.6%が最も高く、〈県央地域〉49.0%が最も低くなっている。

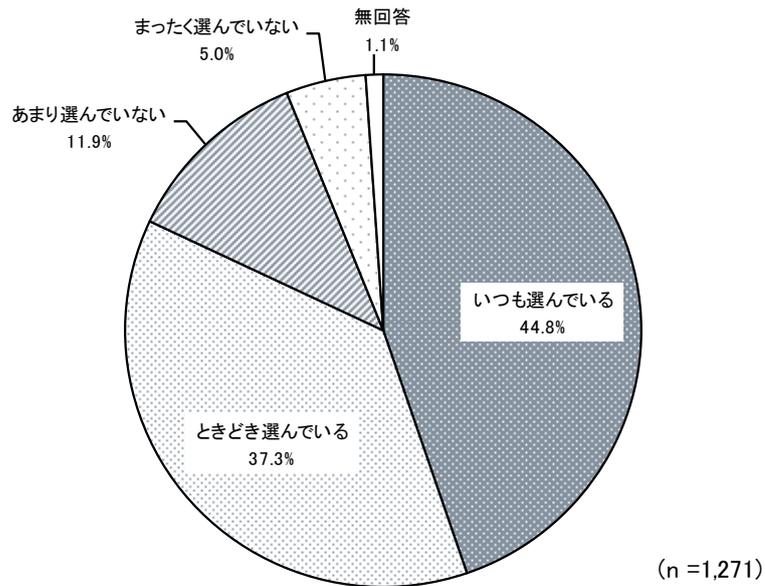
市町別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈宇都宮市以外の市〉52.7%が最も高く、〈町〉46.7%が最も低くなっている。

12 食に関する意識と実践について

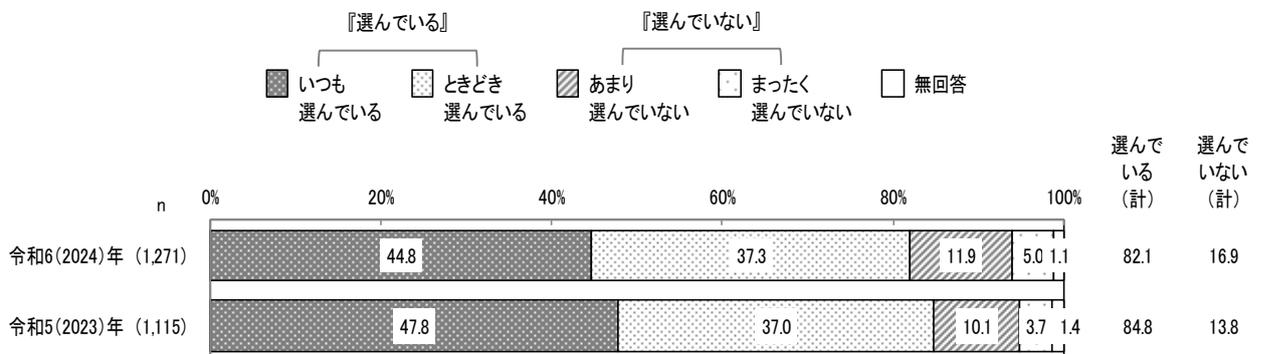
(1) 産地や生産者を意識して食品等を選ぶか

問28 あなたは、お米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を意識して選んでいますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1	いつも選んでいる	44.8%	3	あまり選んでいない	11.9%
2	ときどき選んでいる	37.3	4	まったく選んでいない	5.0
				(無回答)	1.1

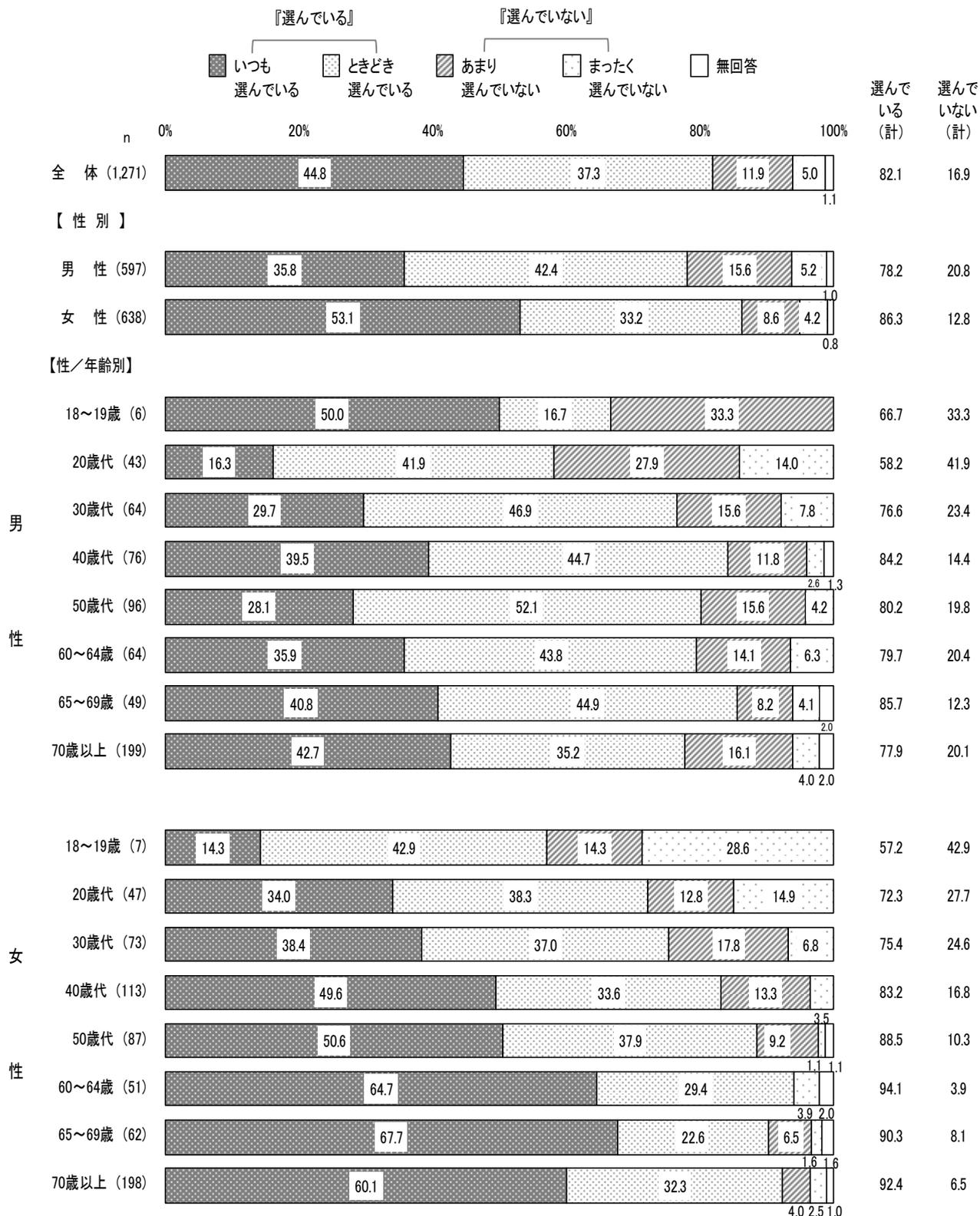


全体でみると、「いつも選んでいる」(44.8%)と「ときどき選んでいる」(37.3%)の2つを合わせた『選んでいる』(82.1%)が8割台前半となっている。一方、「あまり選んでいない」(11.9%)、「まったく選んでいない」(5.0%)の2つを合わせた『選んでいない』(16.9%)が1割台後半となっている。



前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、『選んでいる』が2.7ポイント減少している。一方、『選んでいない』が3.1ポイント増加している。

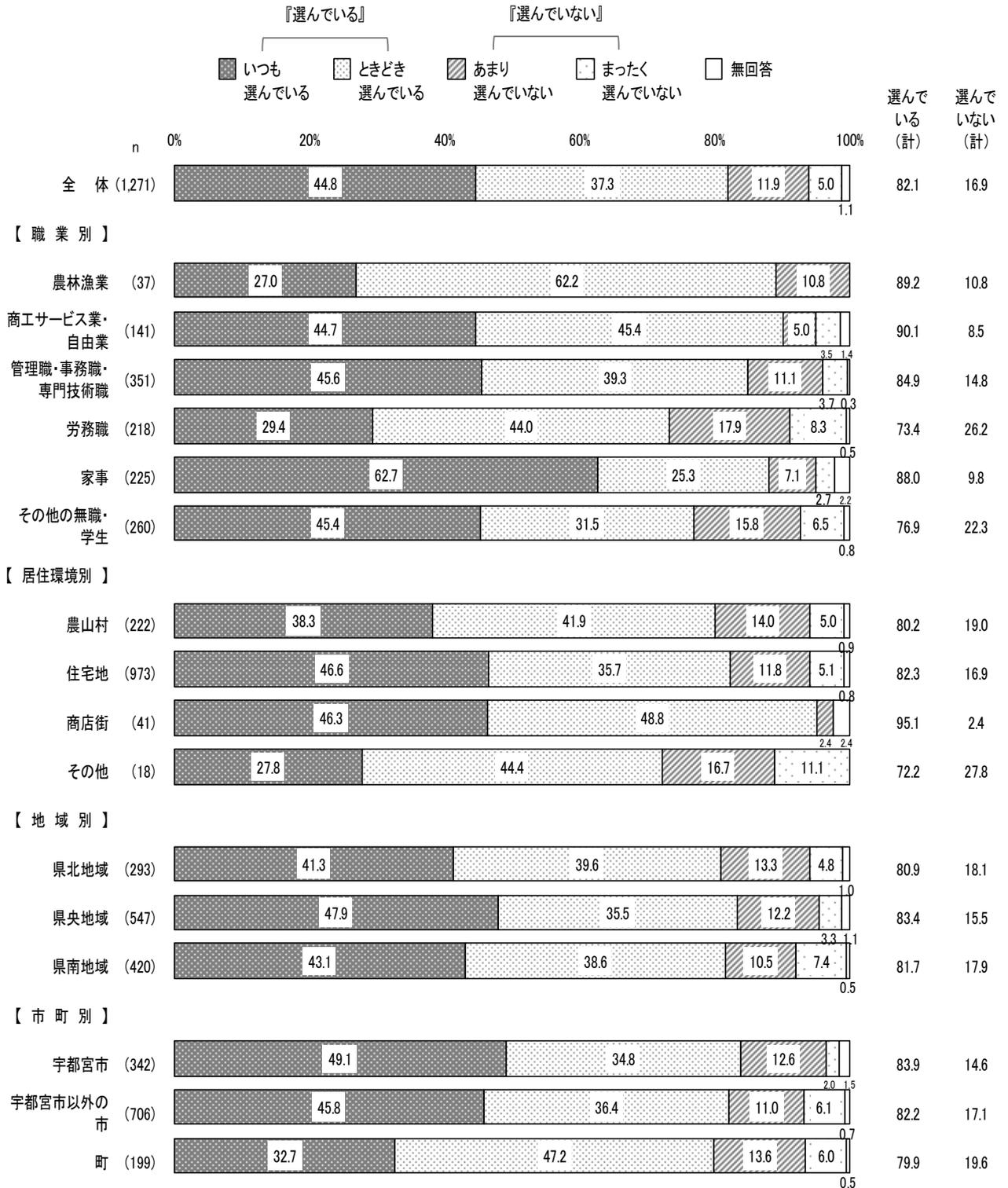
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『選んでいる』では〈女性〉86.3%が、〈男性〉78.2%より8.1ポイント高くなっている。一方、『選んでいない』では〈男性〉20.8%が、〈女性〉12.8%より8.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『選んでいる』では〈女性60歳以上〉が9割を超えて高く、特に〈女性60～64歳〉94.1%が最も高くなっている。一方、『選んでいない』では〈男性20歳代〉41.9%が高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『選んでいる』では〈商工サービス業・自由業〉90.1%が最も高くなっている。一方、『選んでいない』では〈労務職〉26.2%が最も高くなっている。

居住環境別でみると、『選んでいる』では〈商店街〉95.1%が最も高くなっている。一方、『選んでいない』では〈その他〉27.8%が最も高くなっている。

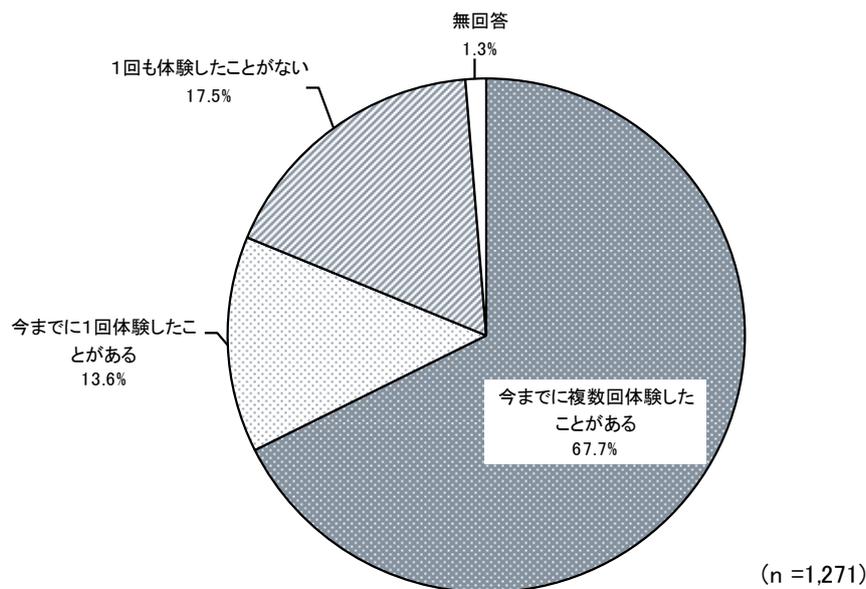
地域別でみると、『選んでいる』ではすべての分類で8割台となっている。

市町別でみると、『選んでいる』では〈宇都宮市〉83.9%が最も高くなっている。一方、『選んでいない』では〈町〉19.6%が高くなっている。

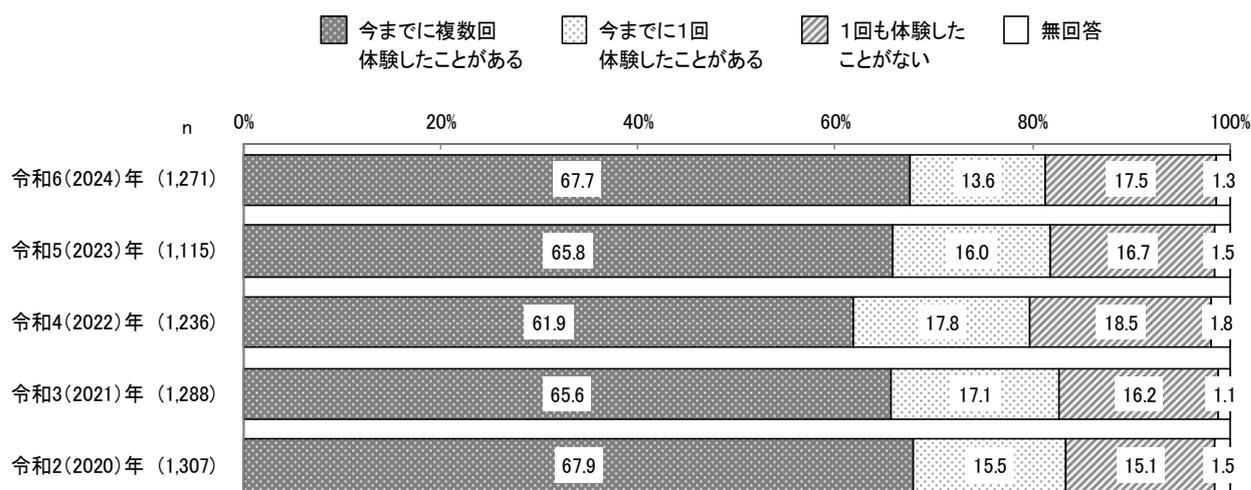
(2) 農業体験をした経験

問29 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなど、農業体験をしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。 [n = 1,271]

1	今までに複数回体験したことがある	67.7%
2	今までに1回体験したことがある	13.6%
3	1回も体験したことがない	17.5%
	(無回答)	1.3%

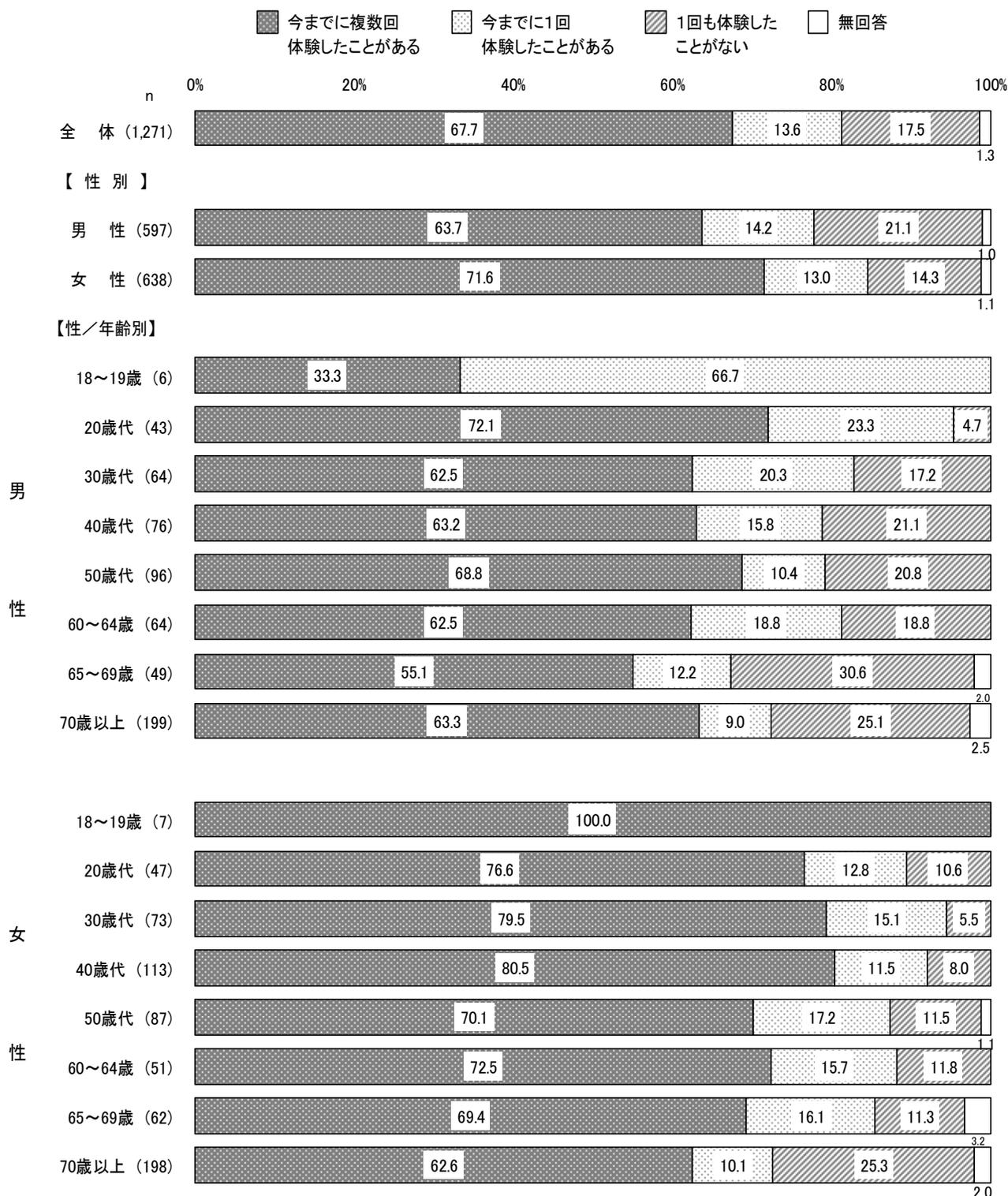


全体で見ると、「今までに複数回体験したことがある」(67.7%)が6割台後半、「1回も体験したことがない」(17.5%)が1割台後半、「今までに1回体験したことがある」(13.6%)が1割台前半となっている。



過去の調査結果と比較すると、「今までに複数回体験したことがある」が前回(令和5(2023)年)から1.9ポイント増加している。一方、「今までに1回体験したことがある」が前回(令和5(2023)年)から2.4ポイント減少している。

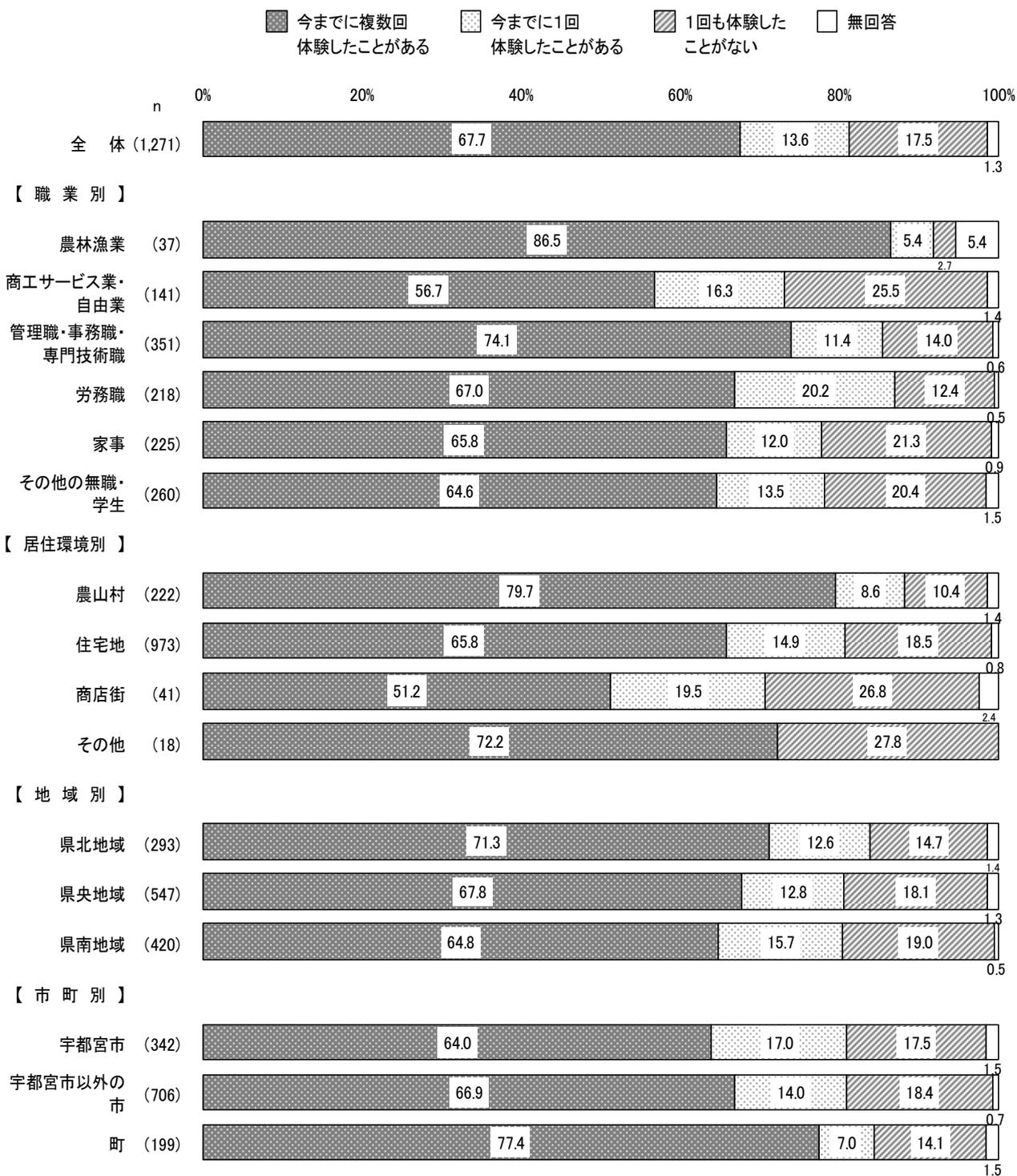
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性〉71.6%が、〈男性〉63.7%より7.9ポイント高くなっている。一方、「1回も体験したことはない」では〈男性〉21.1%が、〈女性〉14.3%より6.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性40歳代〉80.5%が高くなっている。一方、「1回も体験したことはない」では〈男性65~69歳〉30.6%が最も高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈農林漁業〉86.5%が最も高くなっている。一方、「1回も体験したことがない」では〈商工サービス業・自由業〉25.5%が最も高くなっている。

居住環境別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈農山村〉79.7%が最も高くなっている。一方、「1回も体験したことがない」では〈その他〉27.8%が最も高くなっている。

地域別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈県北地域〉71.3%が最も高くなっている。一方、「1回も体験したことがない」では〈県南地域〉19.0%が最も高くなっている。

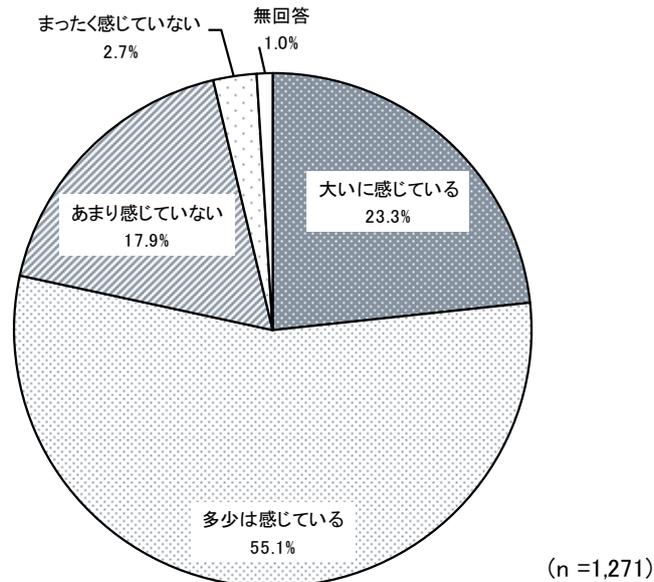
市町別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈町〉77.4%が最も高くなっている。一方、「1回も体験したことがない」では〈宇都宮市以外の市〉18.4%が最も高くなっている。

13 食の安全・安心について

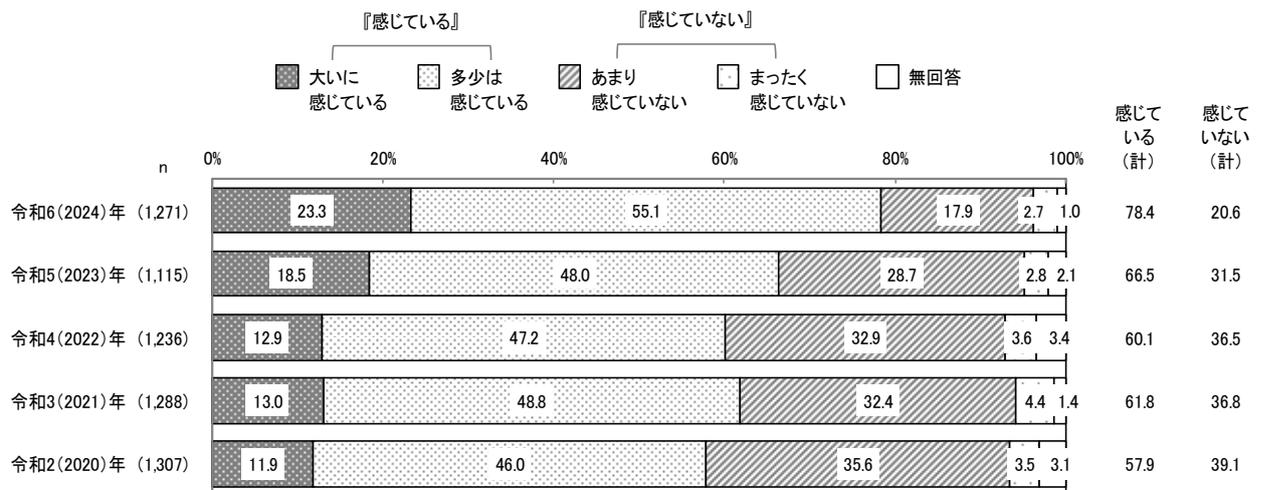
(1) 食品の安全性に対する不安

問30 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 大いに感じている	23.3%	3 あまり感じていない	17.9%
2 多少は感じている	55.1%	4 まったく感じていない	2.7%
		(無回答)	1.0%

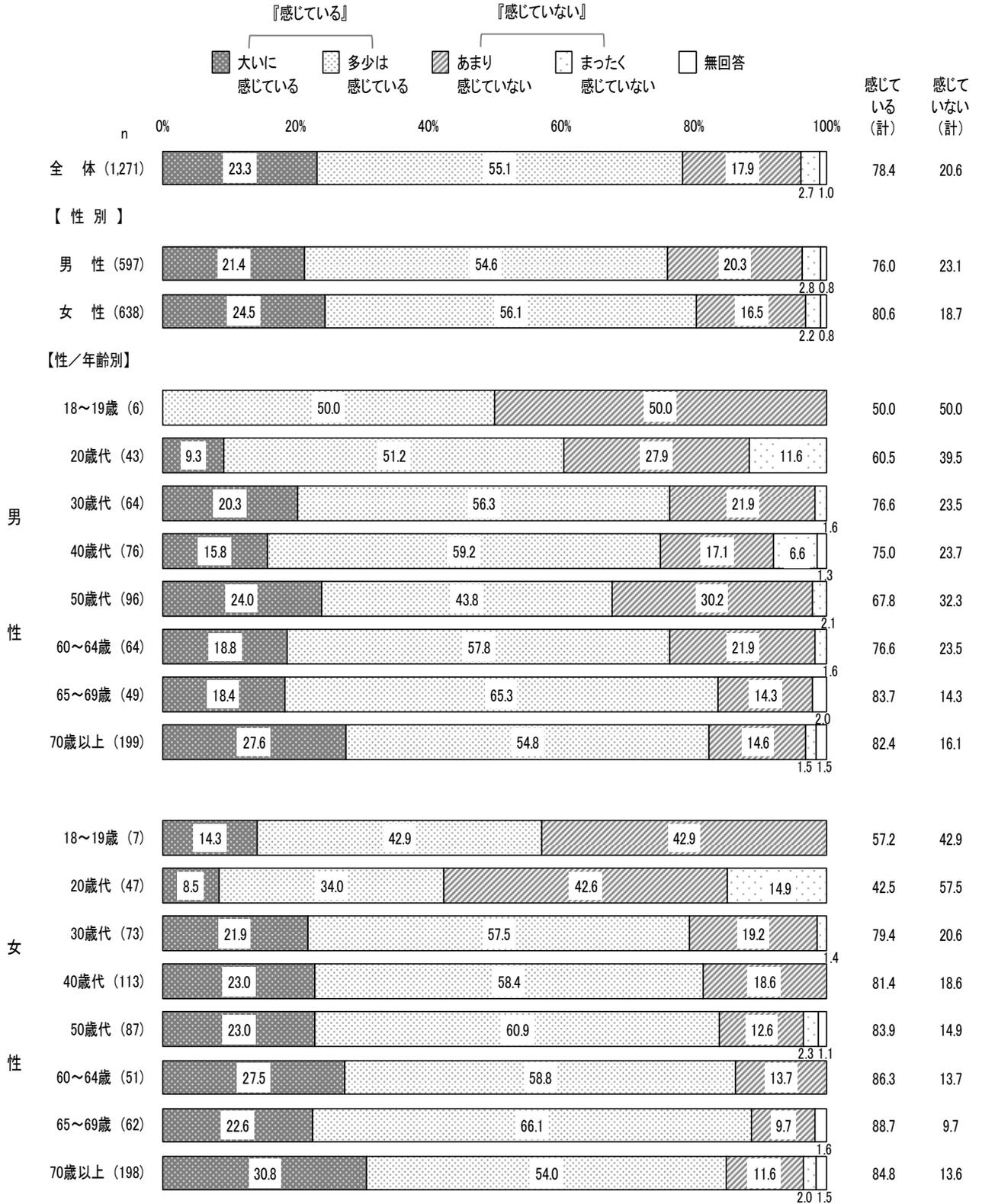


全体でみると、「大いに感じている」(23.3%)と「多少は感じている」(55.1%)の2つを合わせた『感じている』(78.4%)が8割弱となっている。一方、「あまり感じていない」(17.9%)と「まったく感じていない」(2.7%)の2つを合わせた『感じていない』(20.6%)が約2割となっている。



過去の調査結果と比較すると、『感じている』が前回(令和5(2023)年)から11.9ポイント増加している。一方、『感じていない』が前回(令和5(2023)年)から10.9ポイント減少している。

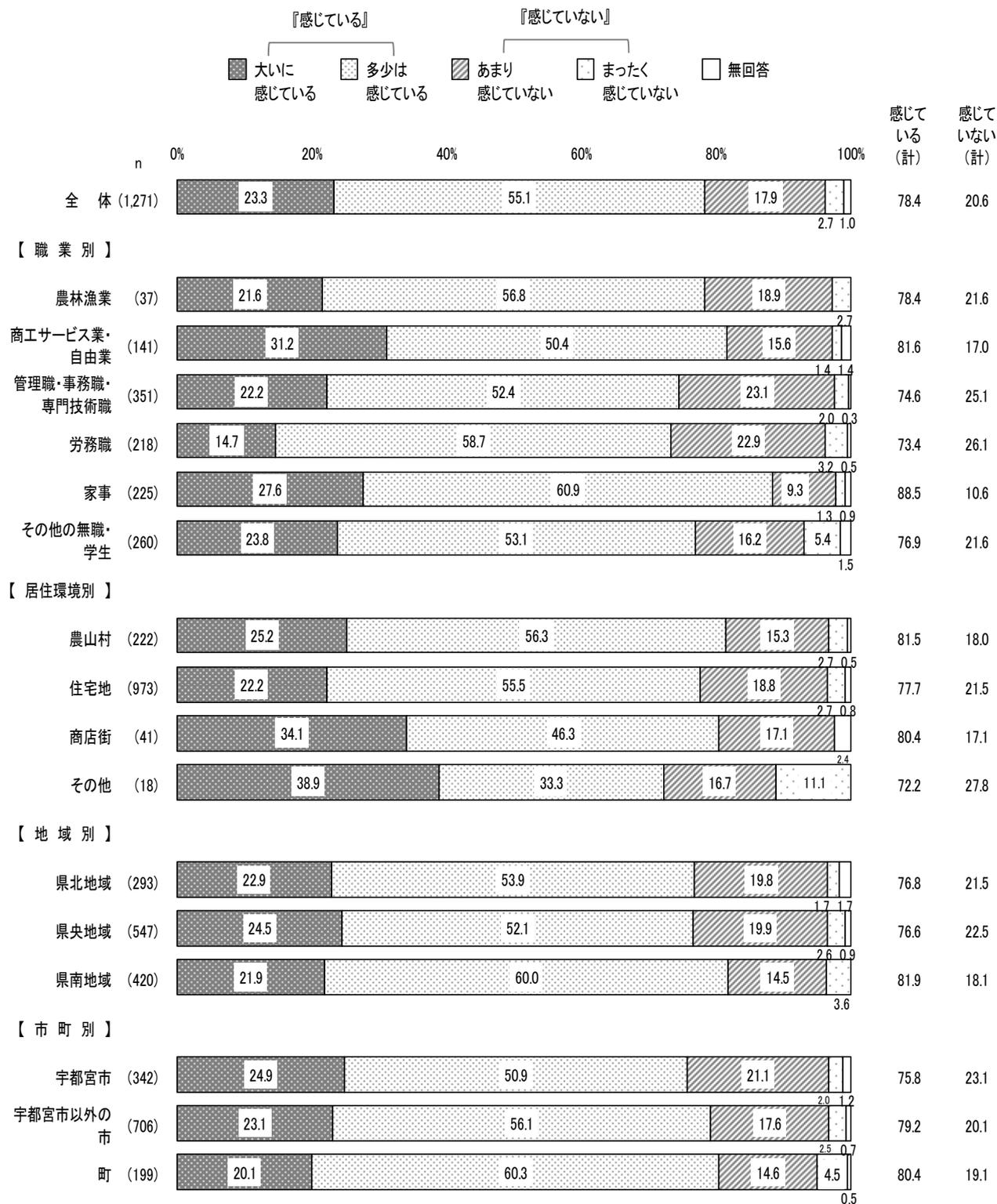
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『感じる』では〈女性〉80.6%が、〈男性〉76.0%より4.6ポイント高くなっている。一方、『感じない』では〈男性〉23.1%が、〈女性〉18.7%より4.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『感じる』では〈女性65~69歳〉88.7%が最も高くなっている。一方、『感じない』では〈女性20歳代〉57.5%が最も高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『感じている』では〈家事〉88.5%が最も高くなっている。一方、『感じていない』では〈労務職〉26.1%が最も高くなっている。

居住環境別でみると、『感じている』では〈農山村〉と〈商店街〉がともに8割台となっている。

地域別でみると、『感じている』では〈県南地域〉81.9%が最も高くなっている。

市町別でみると、『感じている』では〈宇都宮市以外の市〉と〈町〉がともに約8割となっている。

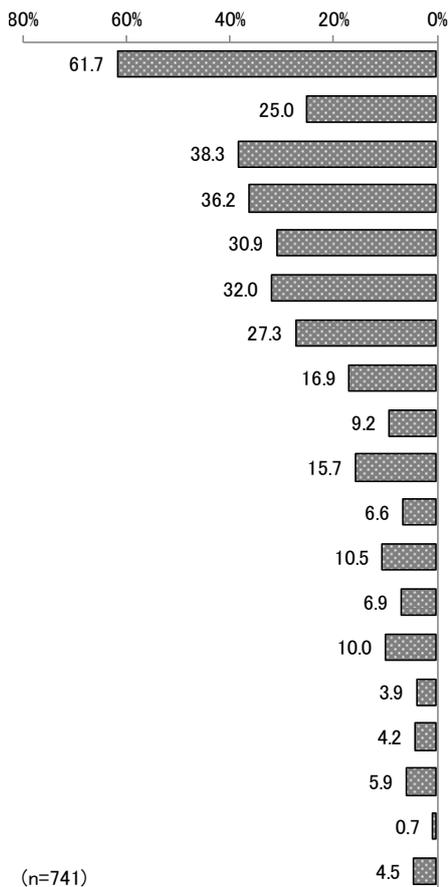
(2) 食品の安全性について不安に思うもの

(問30で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

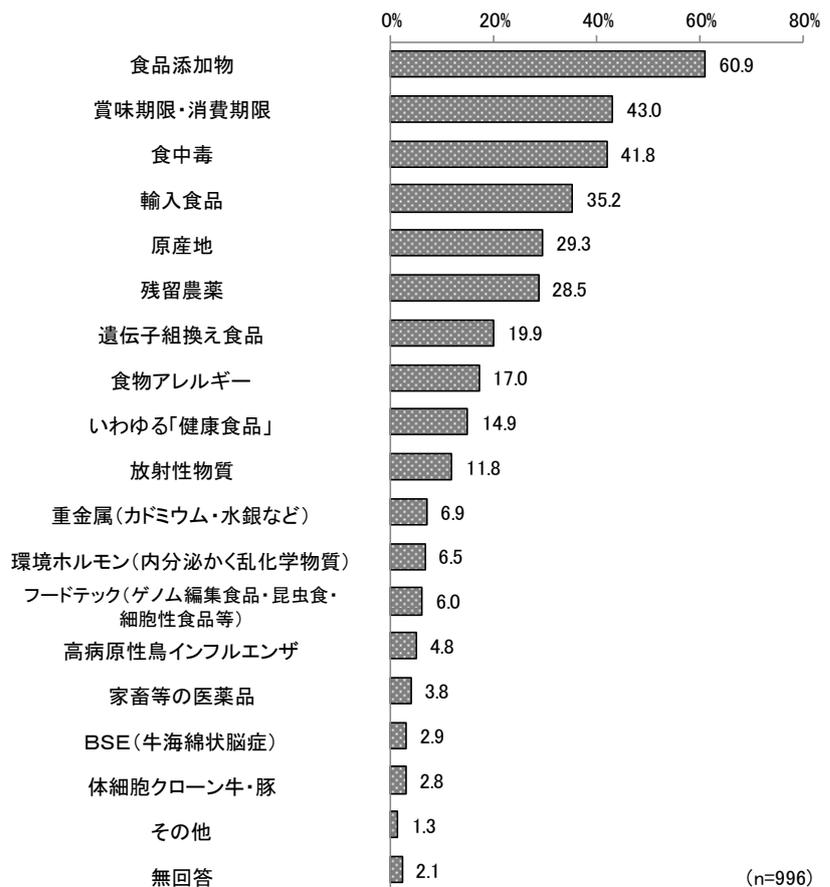
問31 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。 [n=996]

1 食中毒	41.8%	11 輸入食品	35.2%
2 食品添加物	60.9	12 BSE(牛海綿状脳症)	2.9
3 いわゆる「健康食品」	14.9	13 高病原性鳥インフルエンザ	4.8
4 放射性物質	11.8	14 体細胞クローン牛・豚	2.8
5 重金属(カドミウム・水銀など)	6.9	15 家畜等の医薬品	3.8
6 残留農薬	28.5	16 環境ホルモン(内分泌かく乱物質)	6.5
7 食物アレルギー	17.0	17 フードテック(ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等)	6.0
8 賞味期限・消費期限	43.0	18 その他	1.3
9 原産地	29.3	(無回答)	2.1
10 遺伝子組換え食品	19.9		

【令和5(2023)年】



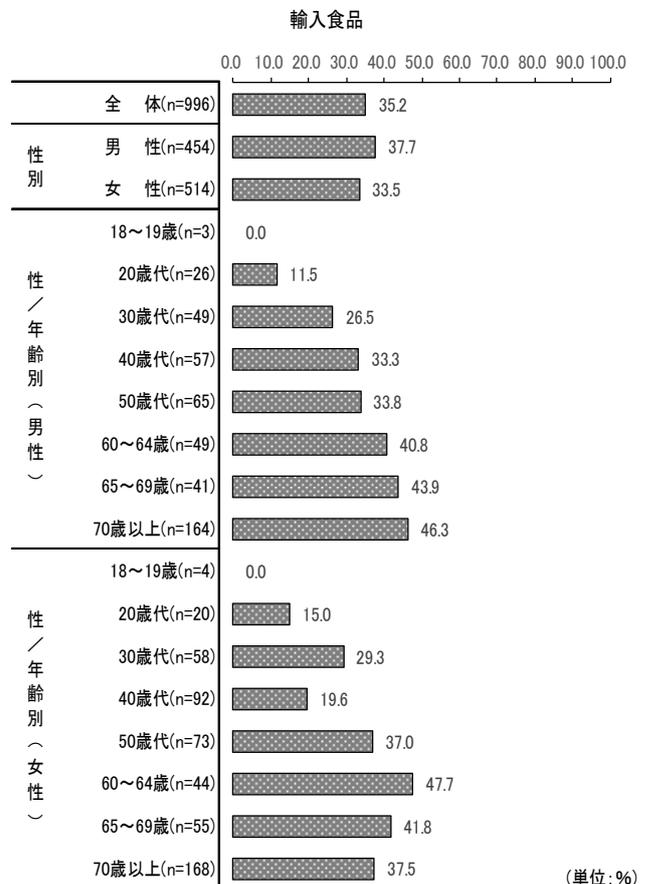
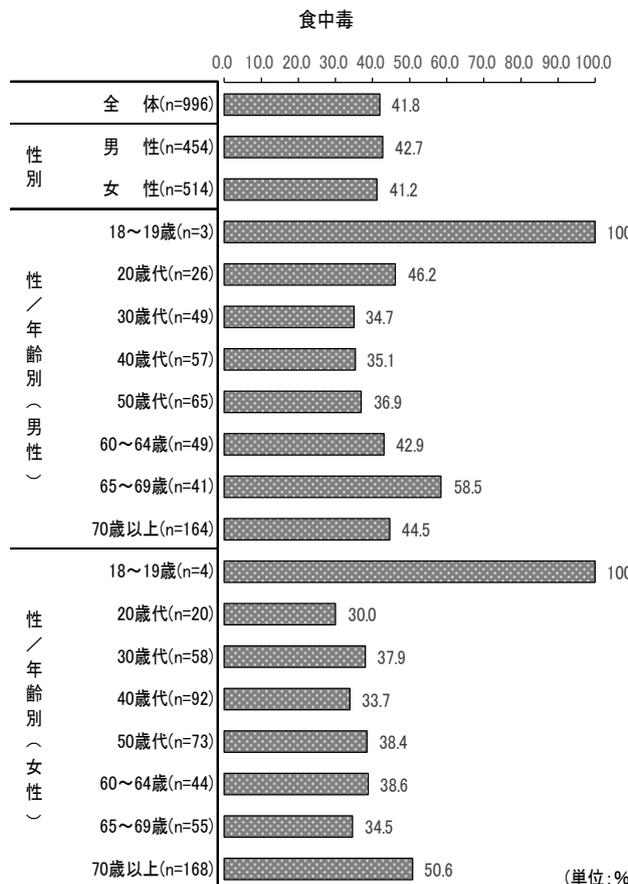
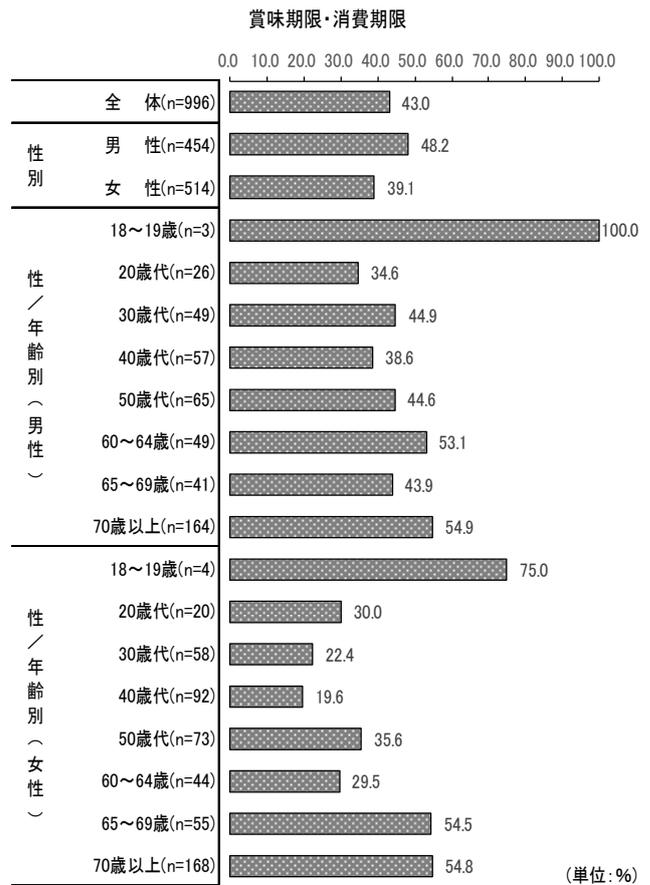
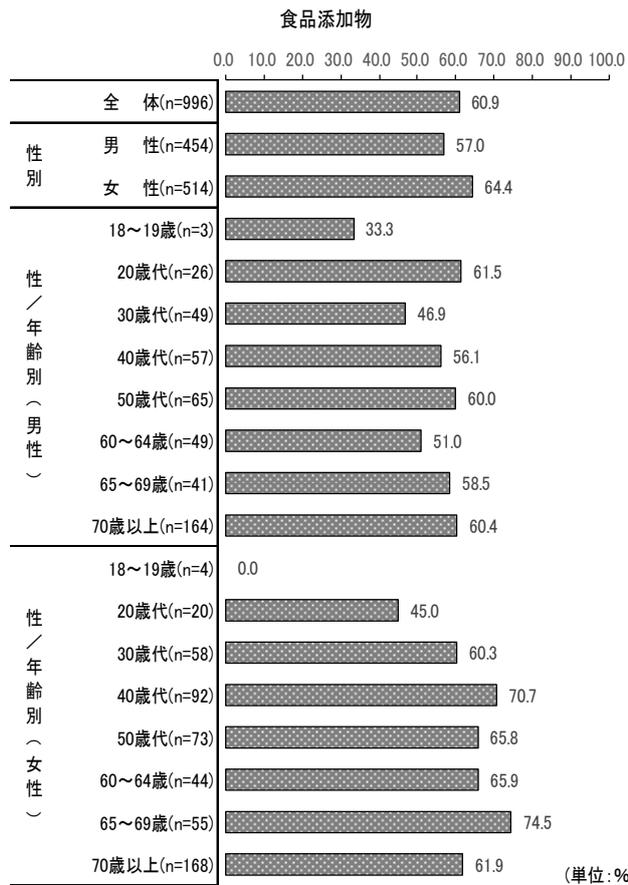
【令和6(2024)年】

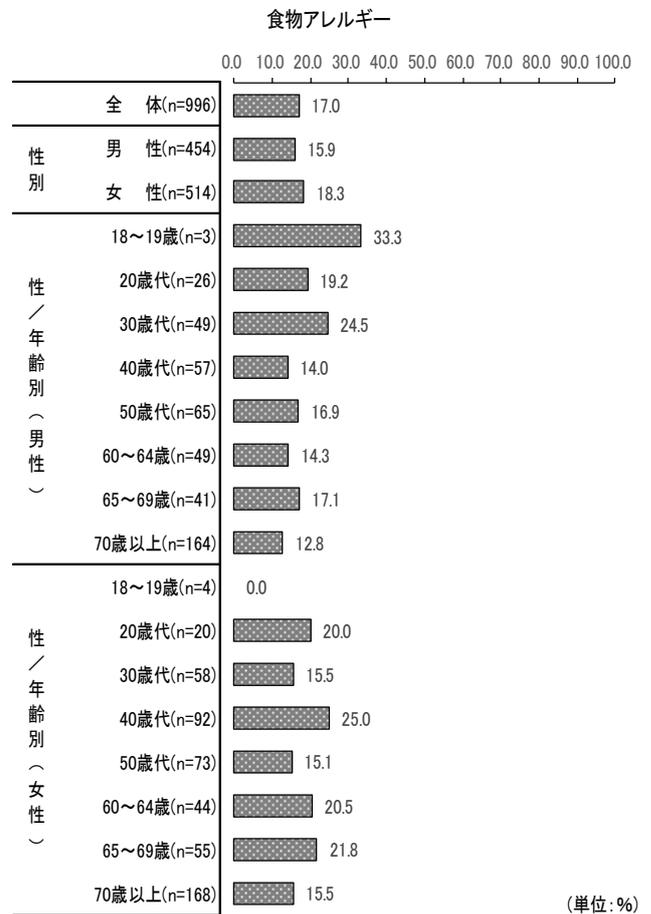
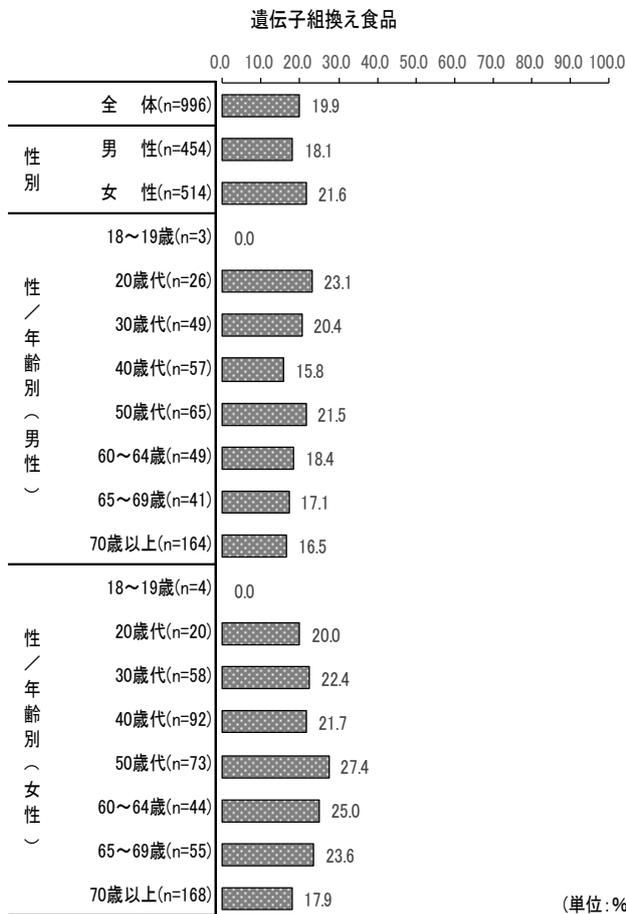
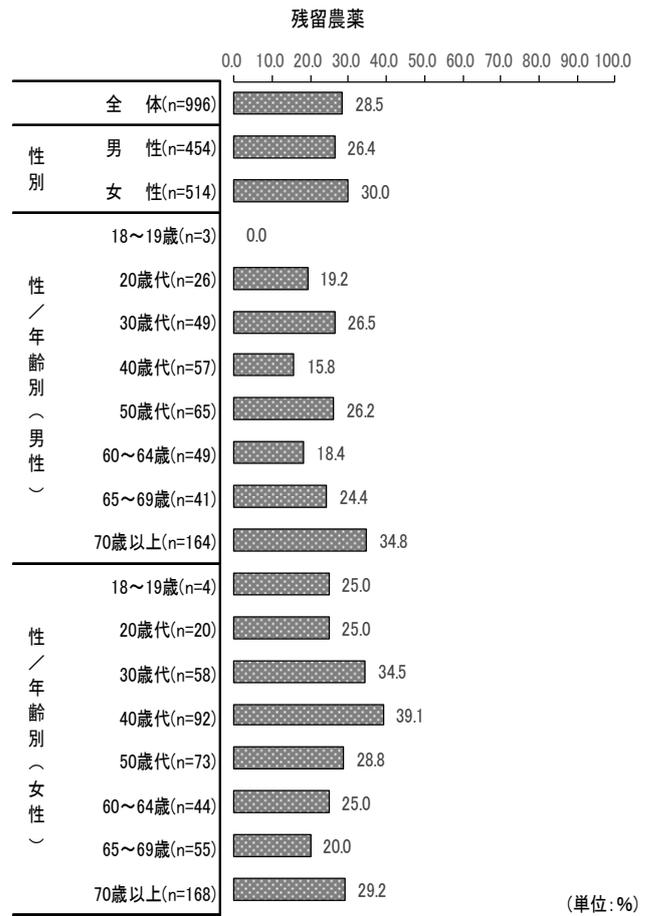
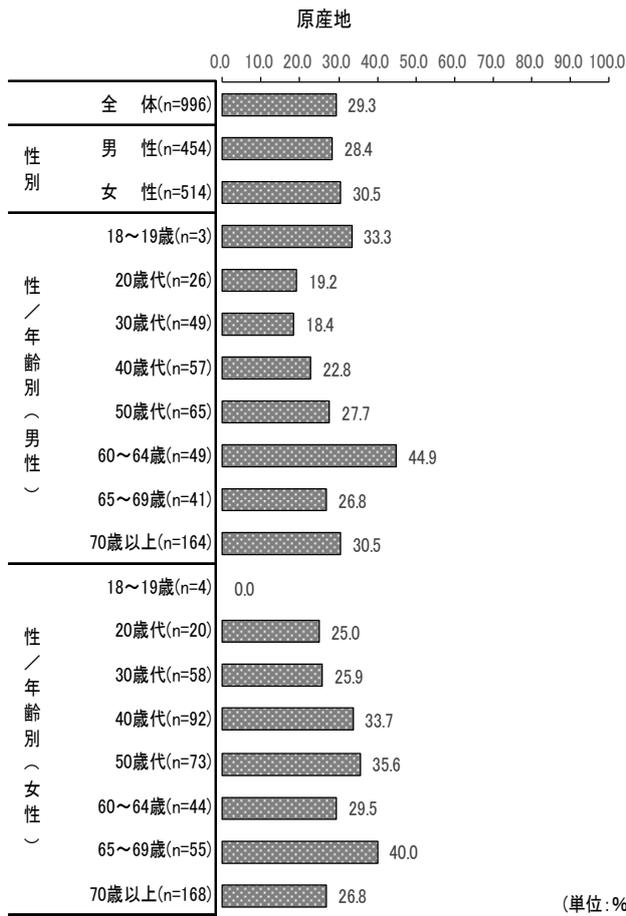


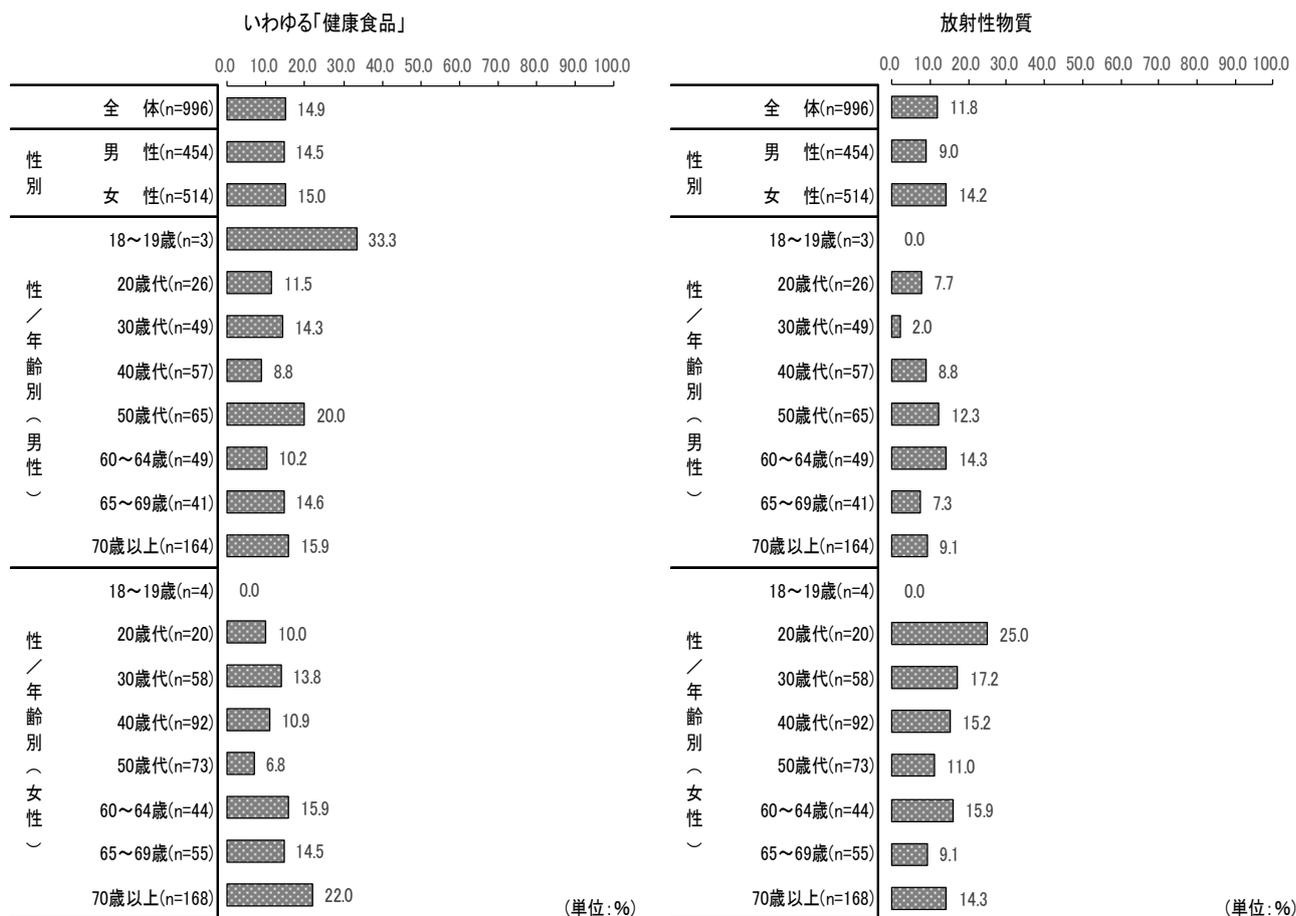
全体で見ると、「食品添加物」(60.9%)が約6割で最も高く、次いで「賞味期限・消費期限」(43.0%)、「食中毒」(41.8%)、「輸入食品」(35.2%)の順となっている。

前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「賞味期限・消費期限」では18.0ポイント増加している。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)



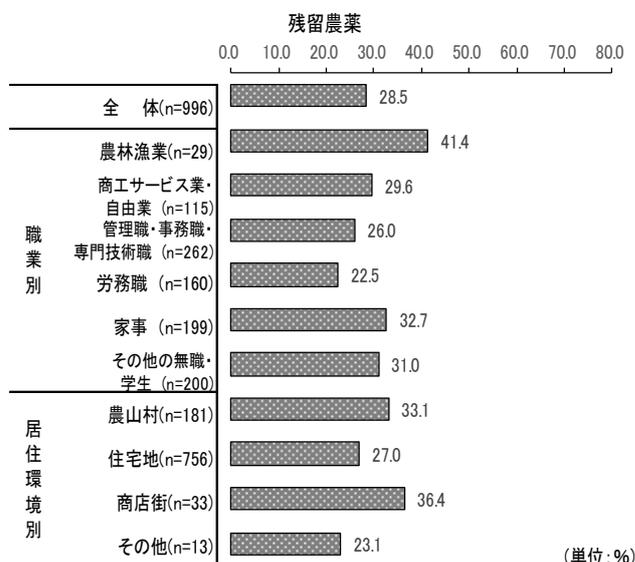
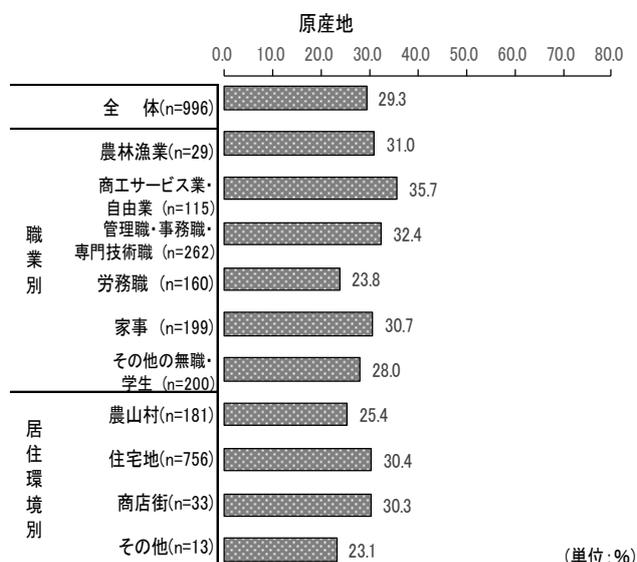
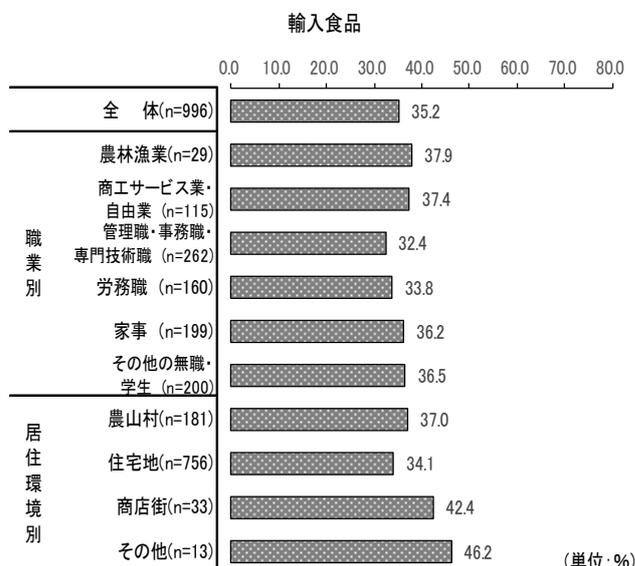
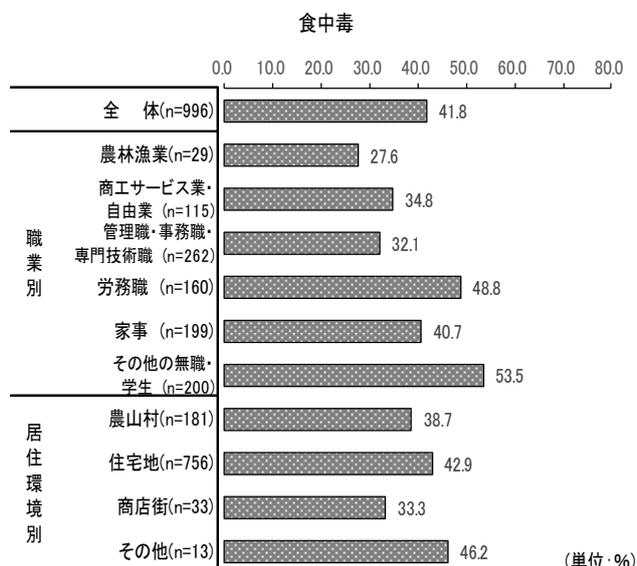
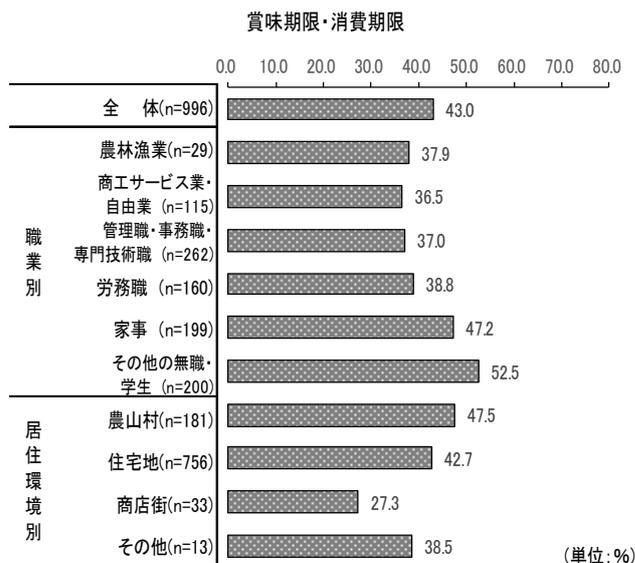
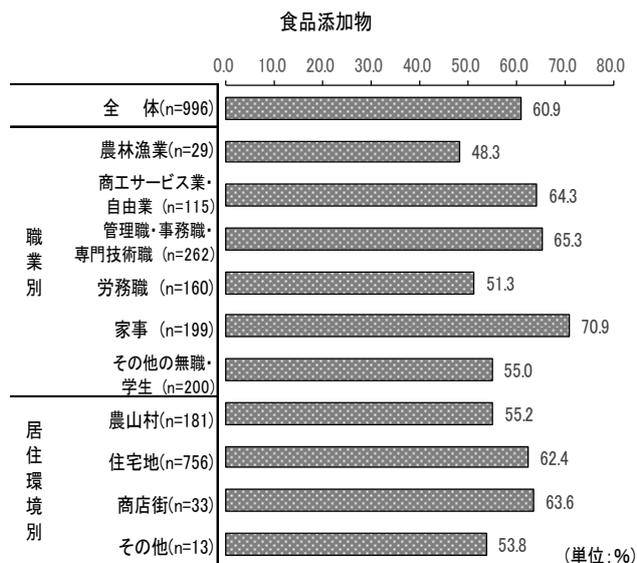


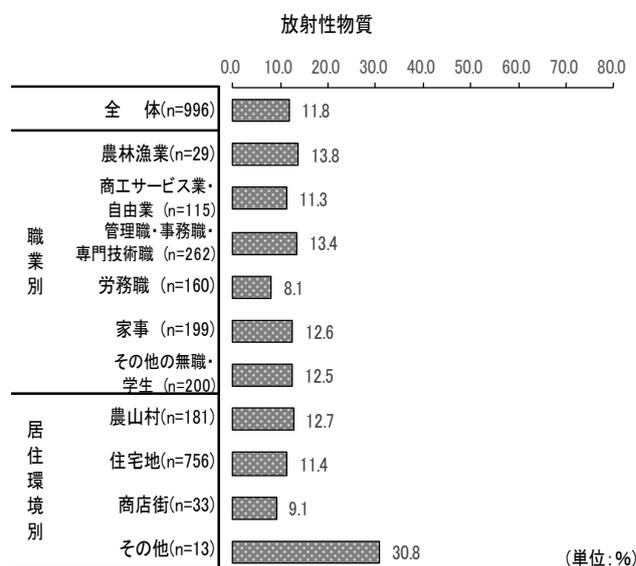
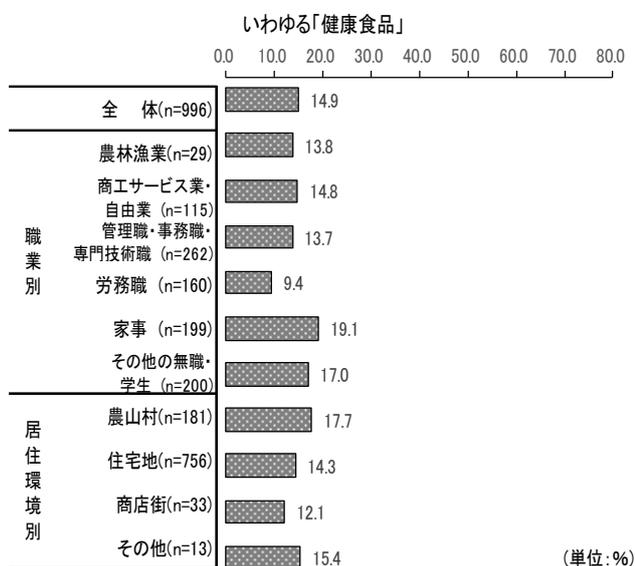
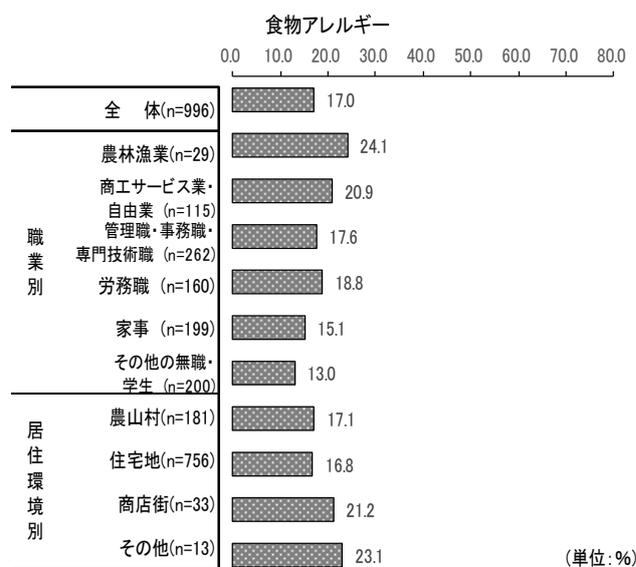
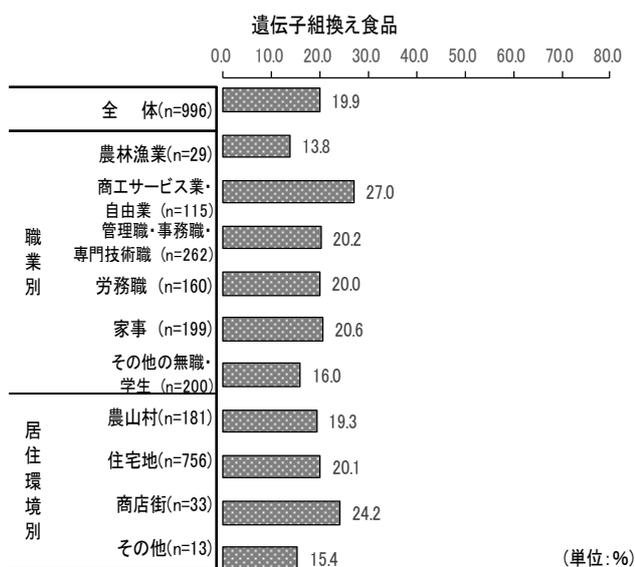


性別で見ると、「賞味期限・消費期限」では〈男性〉48.2%が、〈女性〉39.1%より9.1ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

性/年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉74.5%が最も高く、〈女性20歳代〉45.0%が低くなっている。「賞味期限・消費期限」では男女ともに70歳以上が約55%と高く、〈女性40歳代〉19.6%が最も低くなっている。「食中毒」では〈男性65~69歳〉58.5%が高く、〈女性20歳代〉30.0%が最も低くなっている。

[職業別・居住環境別] (上位10項目)





職業別でみると、「食品添加物」では〈家事〉70.9%が最も高く、〈農林漁業〉48.3%が最も低くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈その他の無職・学生〉52.5%が最も高く、〈商工サービス業・自由業〉36.5%が最も低くなっている。「食中毒」では〈その他の無職・学生〉53.5%が最も高く、〈農林漁業〉27.6%が最も低くなっている。

居住環境別でみると、「食品添加物」では〈商店街〉63.6%が最も高く、〈その他〉53.8%が最も低くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈農山村〉47.5%が最も高く、〈商店街〉27.3%が最も低くなっている。「食中毒」では〈その他〉46.2%が最も高く、〈商店街〉33.3%が最も低くなっている。

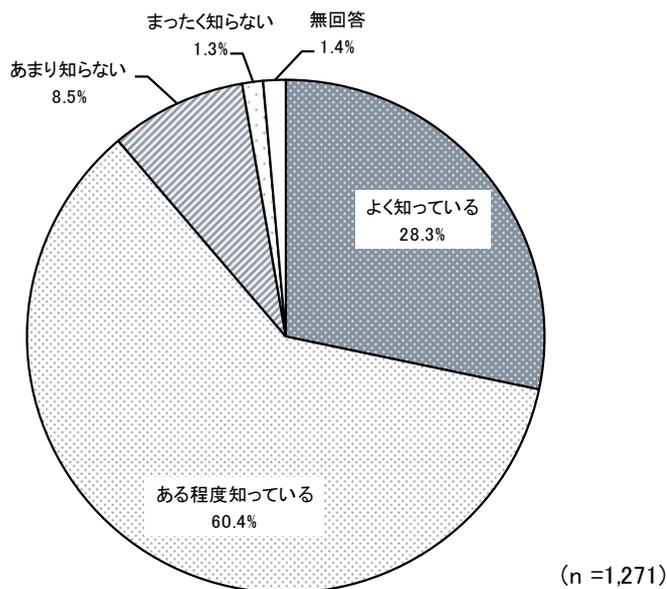
14 食品ロスの削減について

(1) 食品ロスの認知度

問32 あなたは、「食品ロス」の問題を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

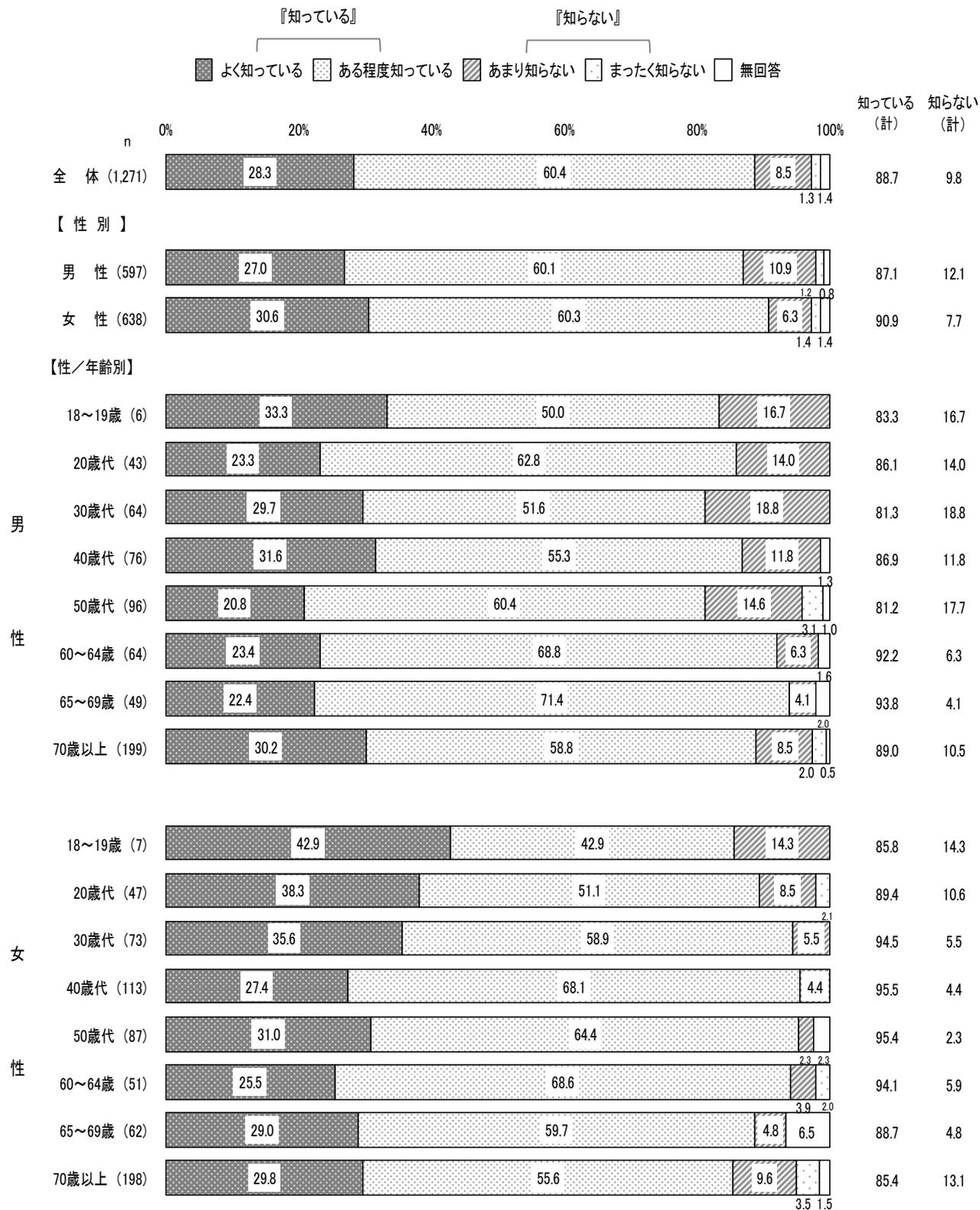
[n=1,271]

1 よく知っている	28.3%	3 あまり知らない	8.5%
2 ある程度知っている	60.4	4 まったく知らない (無回答)	1.3 1.4



全体で見ると、「よく知っている」(28.3%)と「ある程度知っている」(60.4%)の2つを合わせた『知っている』(88.7%)が9割弱となっている。一方、「あまり知らない」(8.5%)と「まったく知らない」(1.3%)の2つを合わせた『知らない』(9.8%)は約1割となっている。

[性別・性／年齢別]

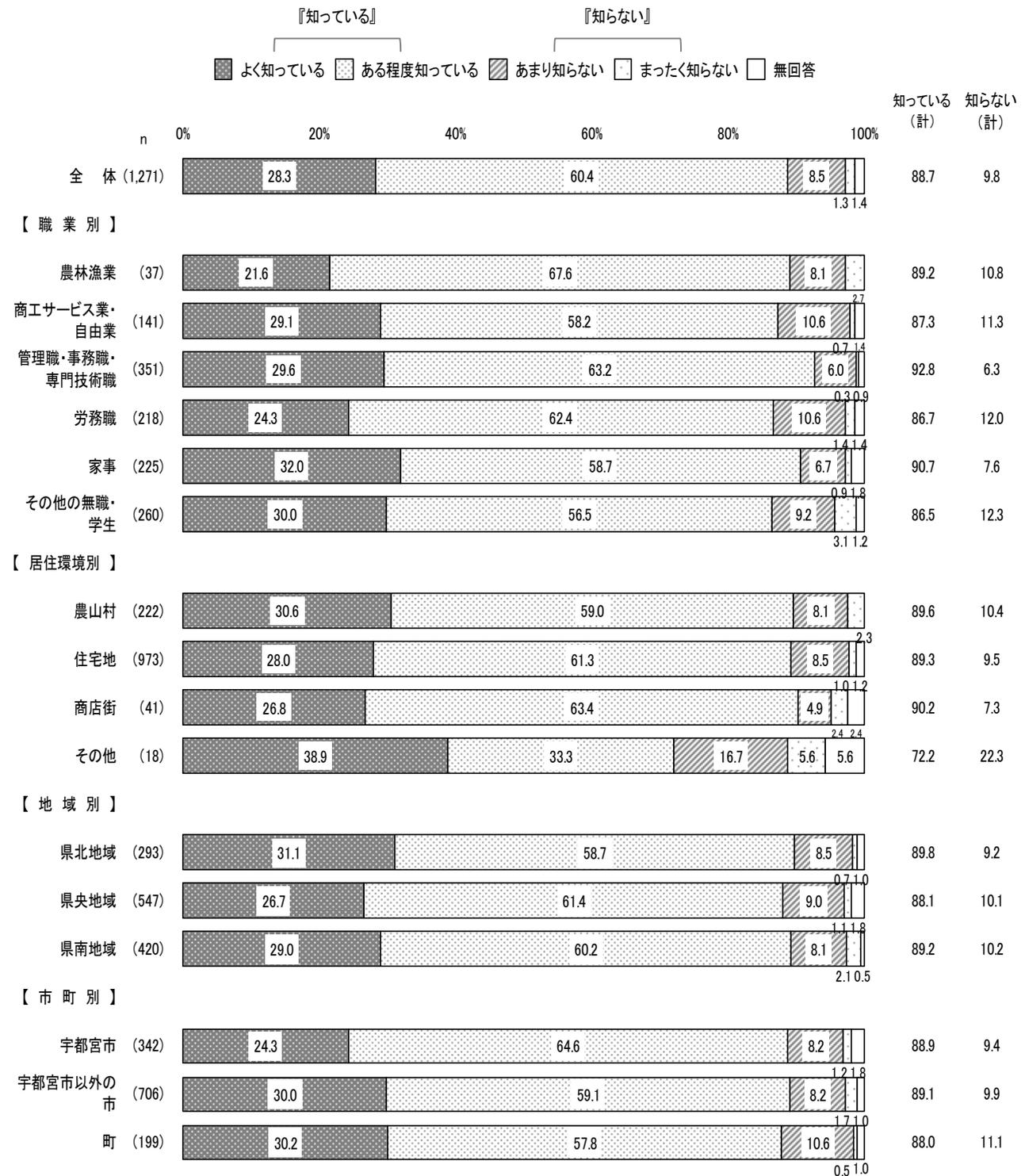


性別で見ると、『知っている』では〈女性〉90.9%が、〈男性〉87.1%より3.8ポイント高くなっている。

一方、『知らない』では〈男性〉12.1%が、〈女性〉7.7%より4.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『知っている』では〈女性40歳代〉と〈女性50歳代〉がともに約95%で高くなっている。一方、『知らない』では〈男性30歳代〉18.8%が最も高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別にみると、『知っている』では〈管理職・事務職・専門技術職〉92.8%が最も高くなっている。一方、『知らない』では〈その他の無職・学生〉と〈労務職〉がともに約12%と高くなっている。

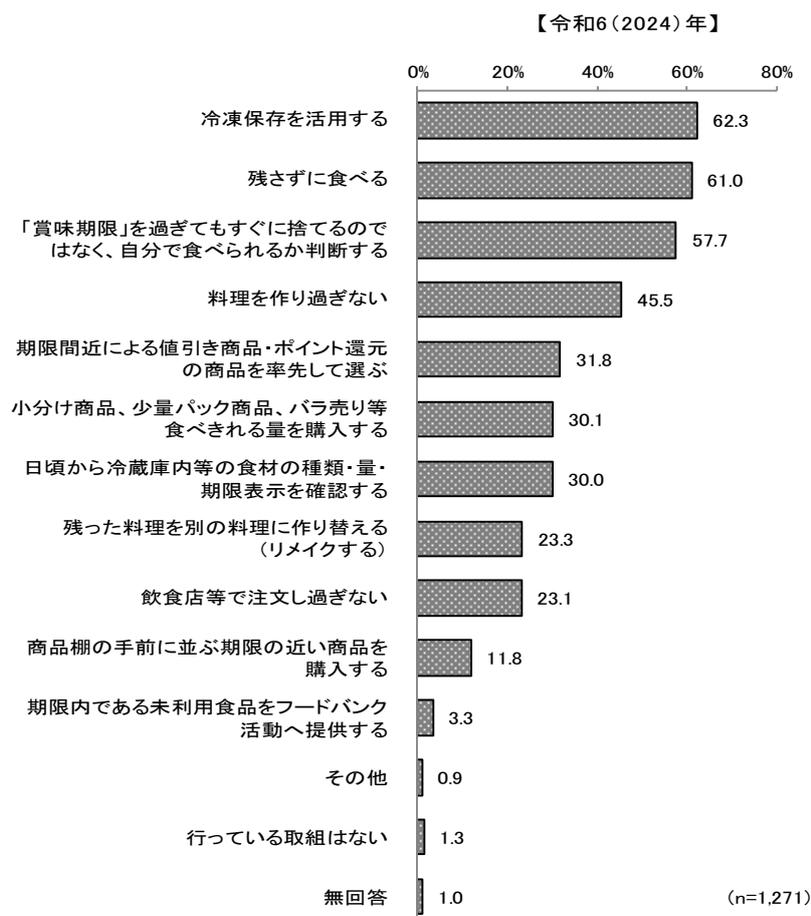
居住環境別でみると、『知っている』では〈商店街〉90.2%が最も高くなっている。一方、『知らない』では〈その他〉22.3%が最も高くなっている。

地域別、市町別ともに『知っている』では、すべての分類で9割弱と高くなっている。

(2) 取り組んでいる食品ロスが発生させない取組

問33 あなたが現在行っている、食品ロスが発生させない（食品を無駄にしない）ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,271]

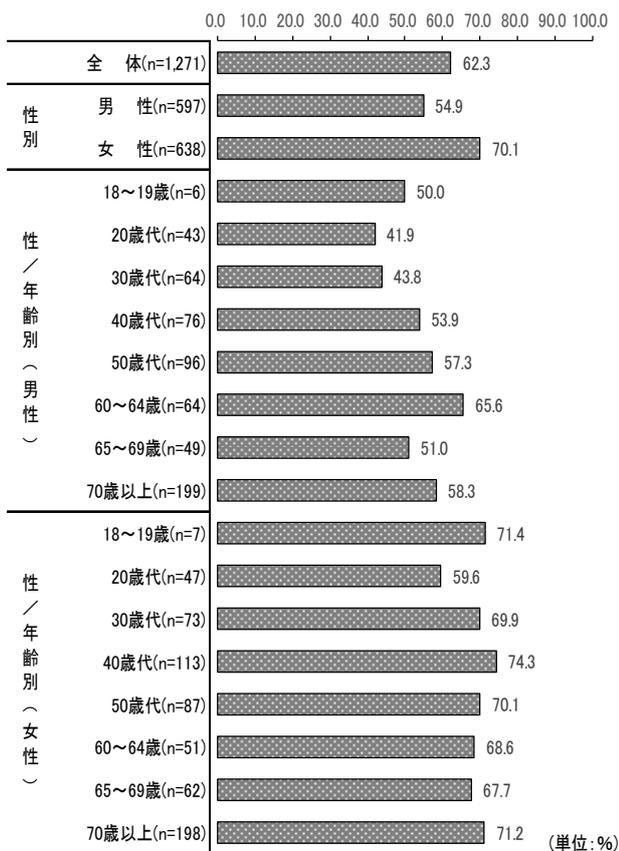
1	料理を作り過ぎない	45.5%
2	残さずに食べる	61.0
3	残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）	23.3
4	冷凍保存を活用する	62.3
5	日頃から冷蔵庫内等の食材の種類・量・期限表示を確認する	30.0
6	「賞味期限」を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	57.7
7	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する	30.1
8	商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する	11.8
9	期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ	31.8
10	飲食店等で注文し過ぎない	23.1
11	期限内である未利用食品をフードバンク活動へ提供する	3.3
12	その他	0.9
13	行っている取組はない (無回答)	1.3 1.0



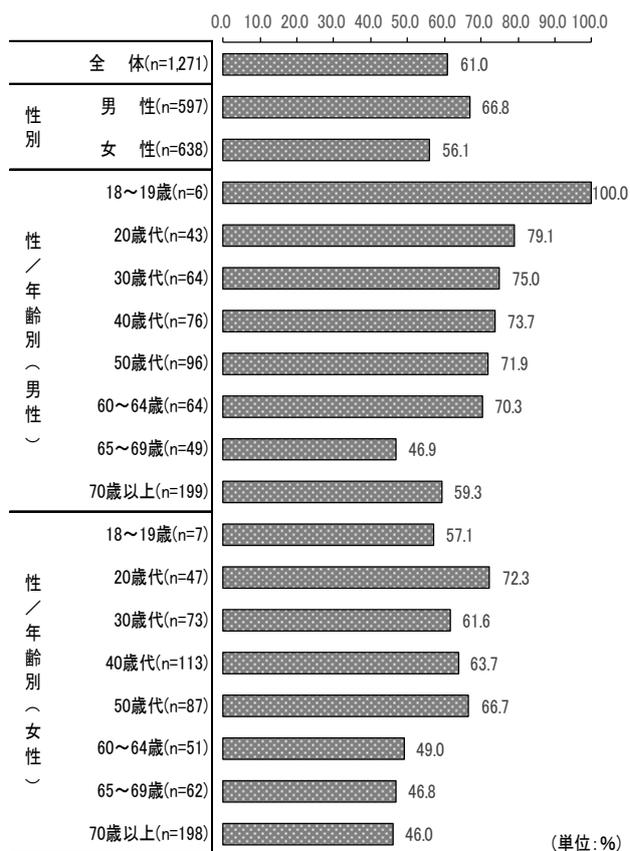
全体で見ると、「冷凍保存を活用する」（62.3%）が6割前半で最も高く、次いで「残さずに食べる」（61.0%）、「『賞味期限』を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」（57.7%）の順となっている。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

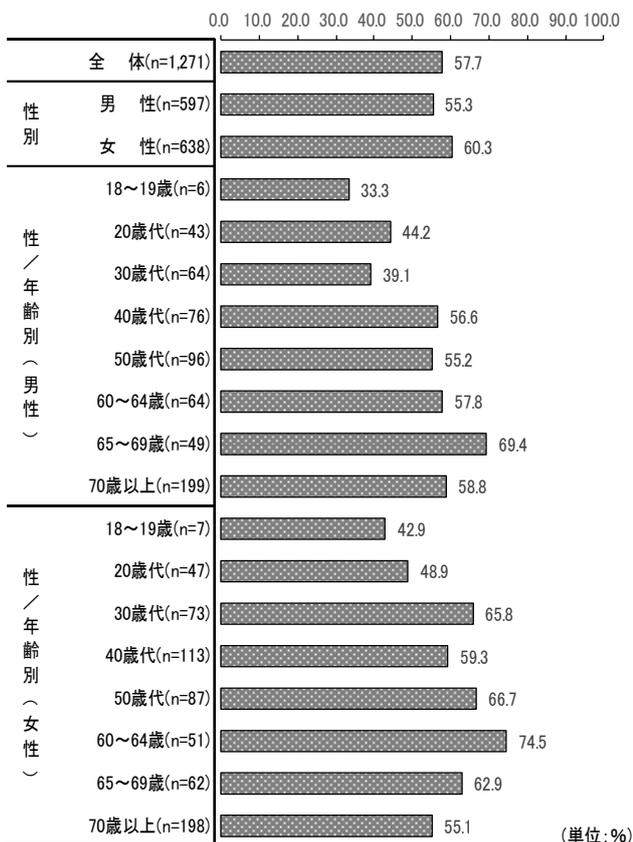
冷凍保存を活用する



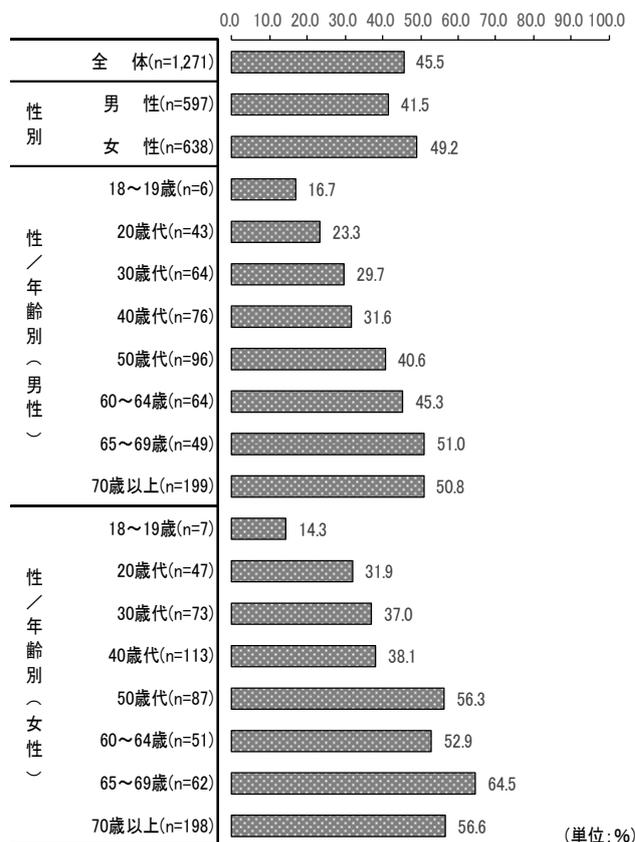
残さずに食べる



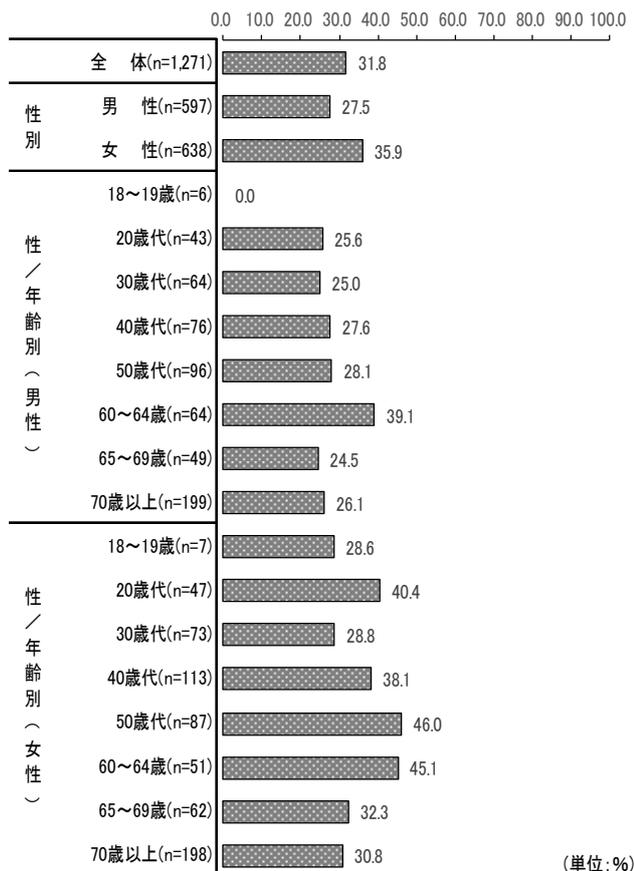
「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する



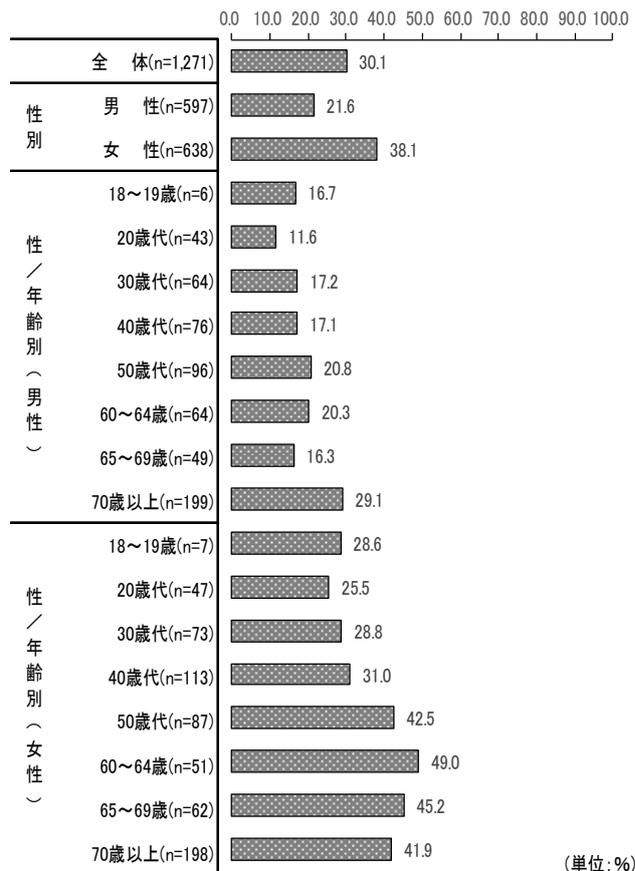
料理を作り過ぎない



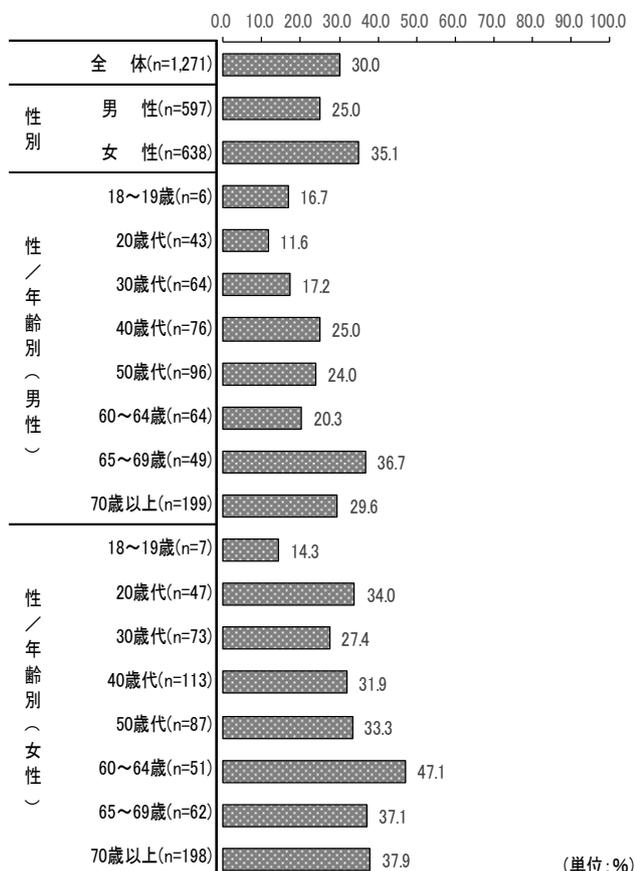
期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ



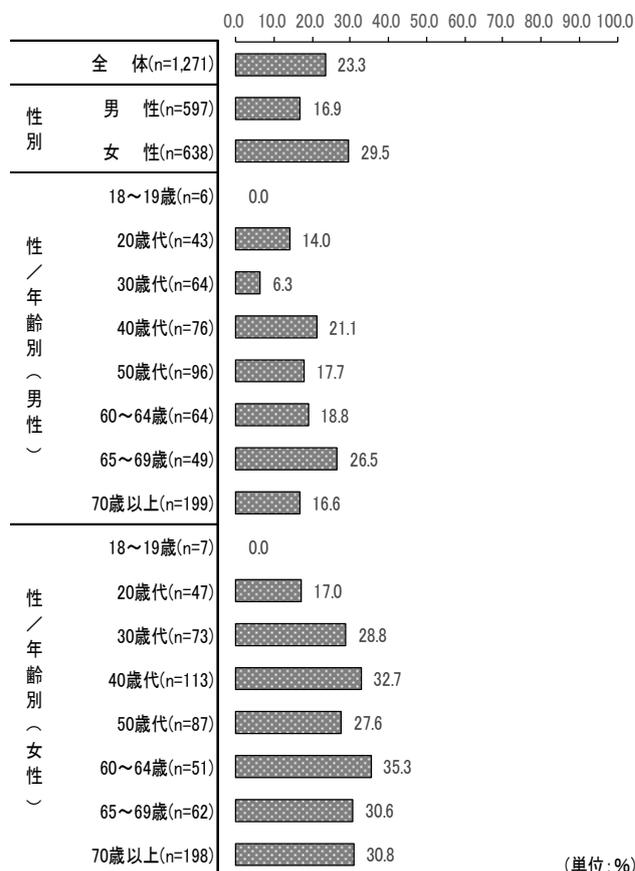
小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する



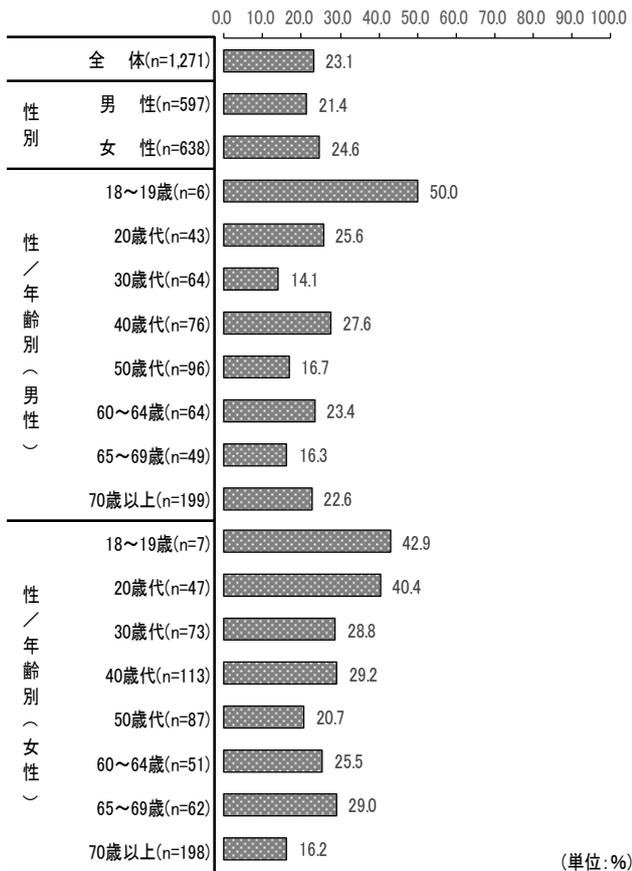
日頃から冷蔵庫内等の食材の種類・量・期限表示を確認する



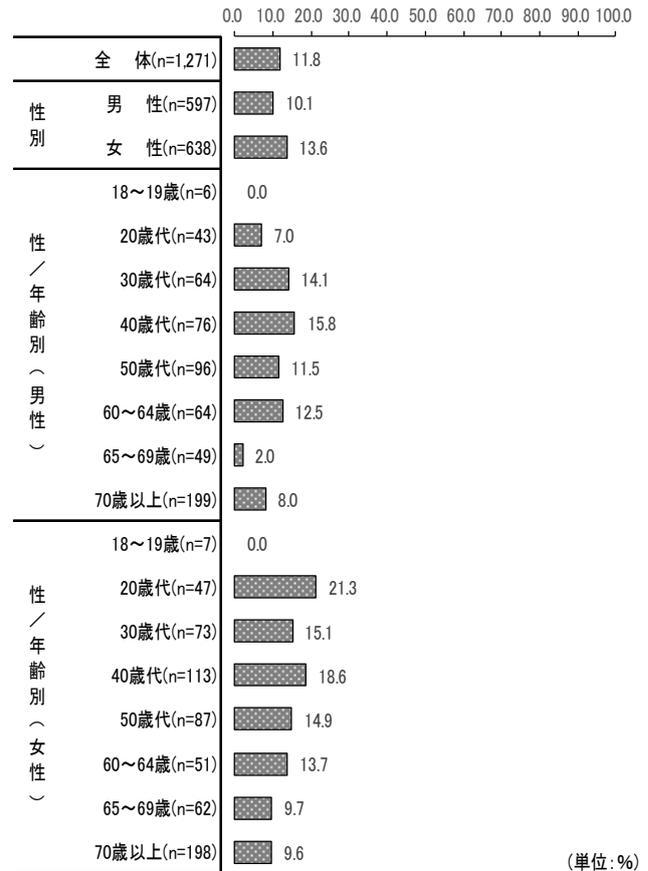
残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)



飲食店等で注文し過ぎない



商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する

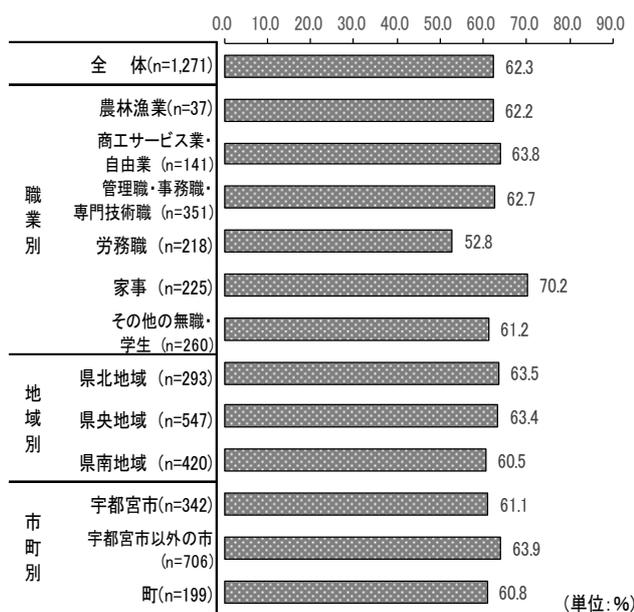


性別で見ると、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する」では〈女性〉38.1%が、〈男性〉21.6%より16.5ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

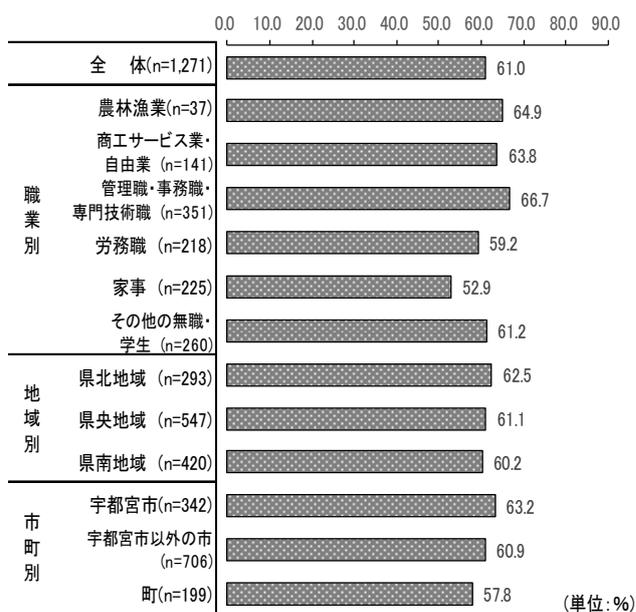
性/年齢別で見ると、「冷凍保存を活用する」では〈女性40歳代〉74.3%が最も高く、〈男性20歳代〉41.9%が最も低くなっている。「残さずに食べる」では〈男性20歳代〉79.1%が最も高く、〈女性70歳以上〉46.0%が最も低くなっている。「『賞味期限』を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」では〈女性60~64歳〉74.5%が最も高く、〈男性30歳代〉39.1%が低くなっている。

[職業別・地域別・市町別] (上位10項目)

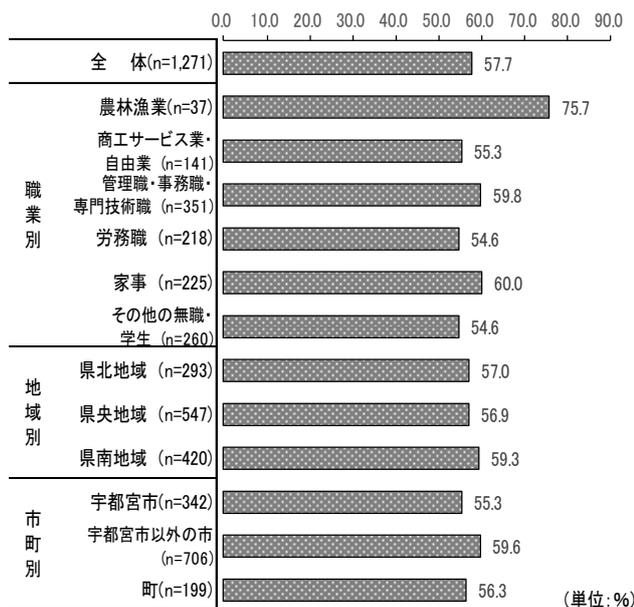
冷凍保存を活用する



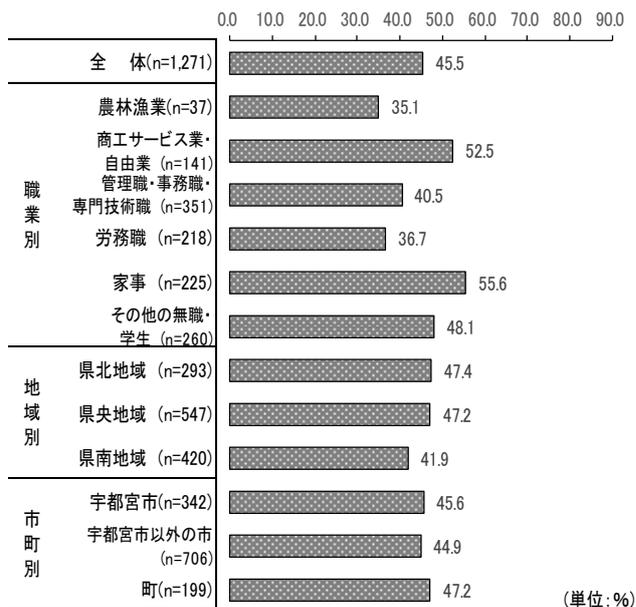
残さずに食べる



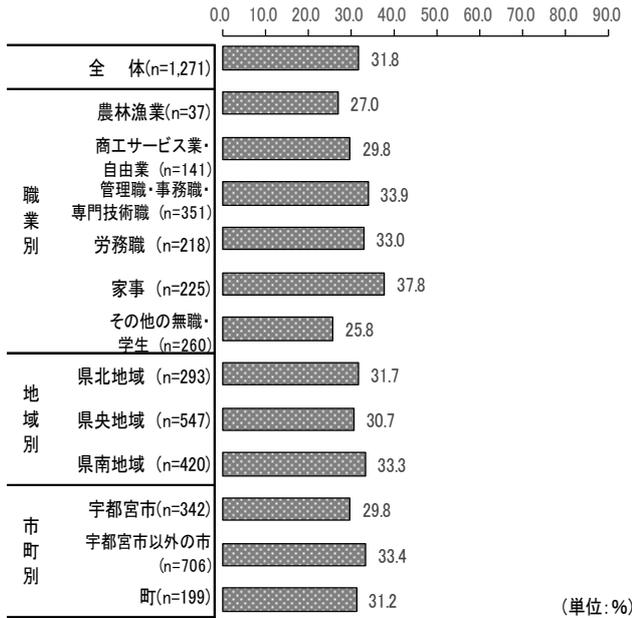
「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する



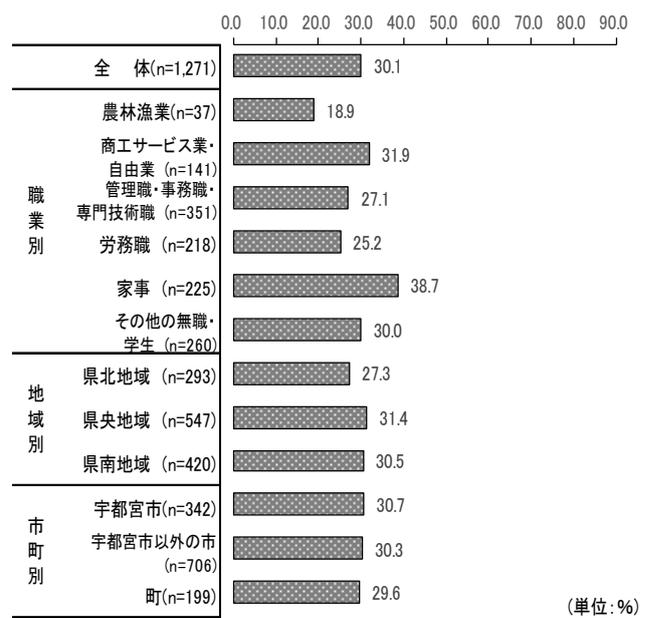
料理を作り過ぎない



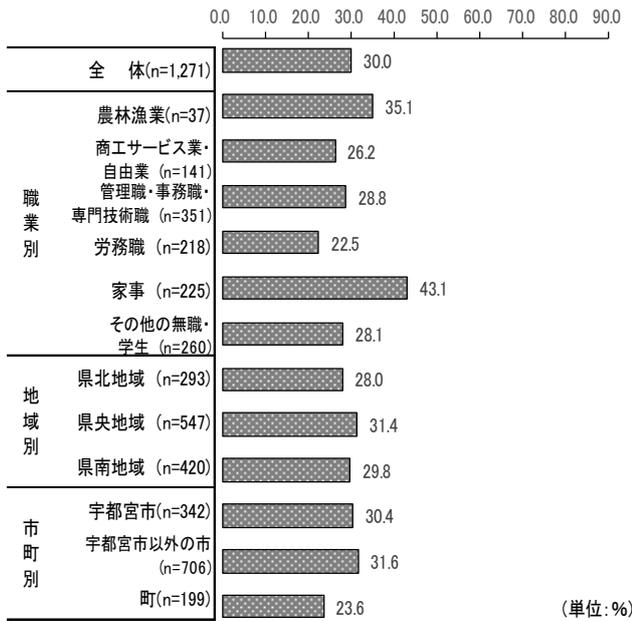
期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ



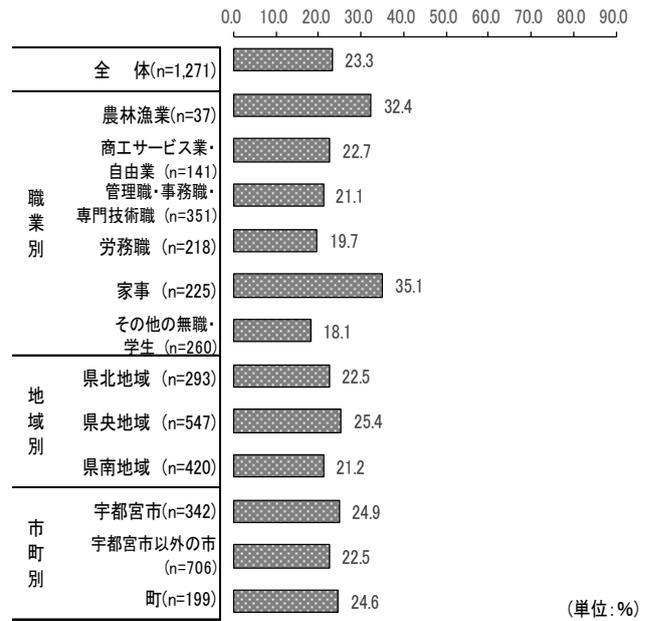
小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する



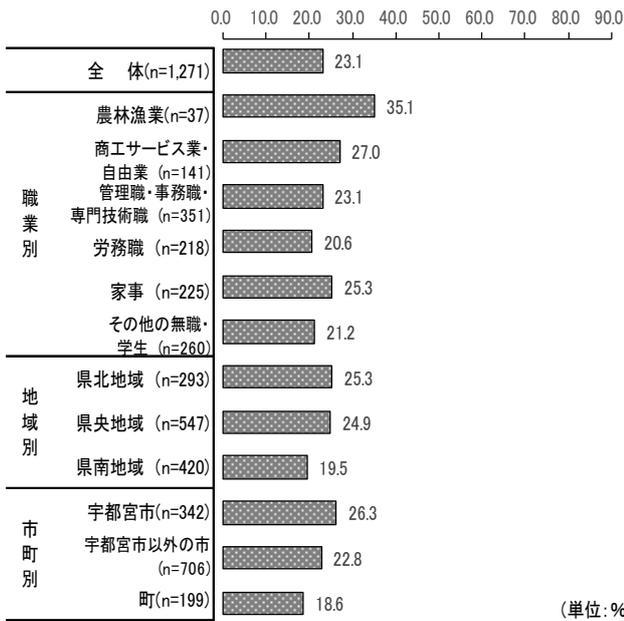
日頃から冷蔵庫内等の食材の種類・量・期限表示を確認する



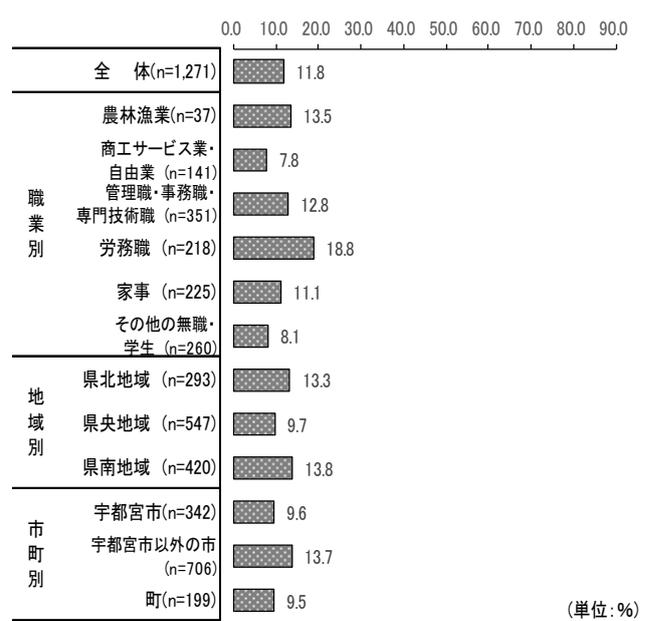
残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)



飲食店等で注文し過ぎない



商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する



職業別でみると、「冷凍保存を活用する」では〈家事〉70.2%が最も高く、〈労務職〉52.8%が最も低くなっている。「残さずに食べる」では〈管理職・事務職・専門技術職〉66.7%が最も高く、〈家事〉52.9%が最も低くなっている。「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」では〈農林漁業〉75.7%が最も高く、〈労務職〉と〈その他の無職・学生〉がともに54.6%で低くなっている。

地域別でみると、「冷凍保存を活用する」、「残さずに食べる」では、ともにすべての分類で6割台となっている。「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」ではすべての分類で5割台となっている。

市町別でみると、「冷凍保存を活用する」ではすべての分類で6割台となっている。「残さずに食べる」では〈宇都宮市〉63.2%が最も高く、〈町〉57.8%が最も低くなっている。「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」ではすべての分類で5割台となっている。

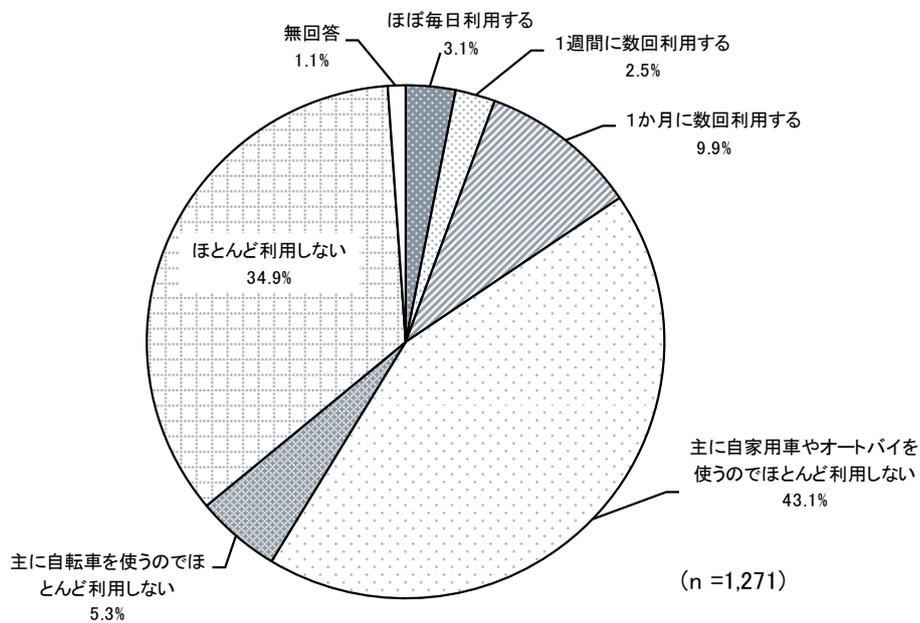
15 公共交通について

(1) 公共交通の利用状況

問34 あなたは、日常生活の中で鉄道・バス・タクシーなどの公共交通機関（※）をどれくらい利用していますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

※公共交通機関とは、民間の交通事業者が運行するものだけではなく、市町が運行するコミュニティバスやデマンド交通なども含みます。

1	ほぼ毎日利用する	3.1%	5	主に自転車を使うのでほとんど利用しない	5.3%
2	1週間に数回利用する	2.5%	6	ほとんど利用しない	34.9%
3	1か月に数回利用する	9.9%		(無回答)	1.1%
4	主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない	43.1%			



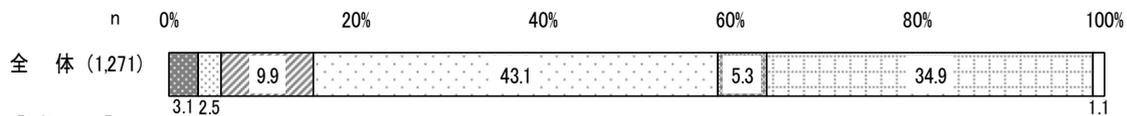
全体で見ると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」(43.1%)が4割台前半で最も高く、次いで「ほとんど利用しない」(34.9%)、「1か月に数回利用する」(9.9%)、「主に自転車を使うのでほとんど利用しない」(5.3%)の順となっている。

[性別・性／年齢別]

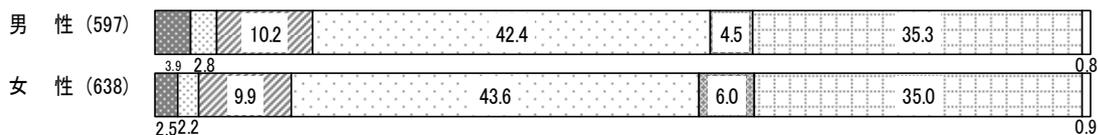
ほぼ毎日利用する
 1週間に数回利用する
 1か月に数回利用する

主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない
 主に自転車を使うのでほとんど利用しない
 ほとんど利用しない

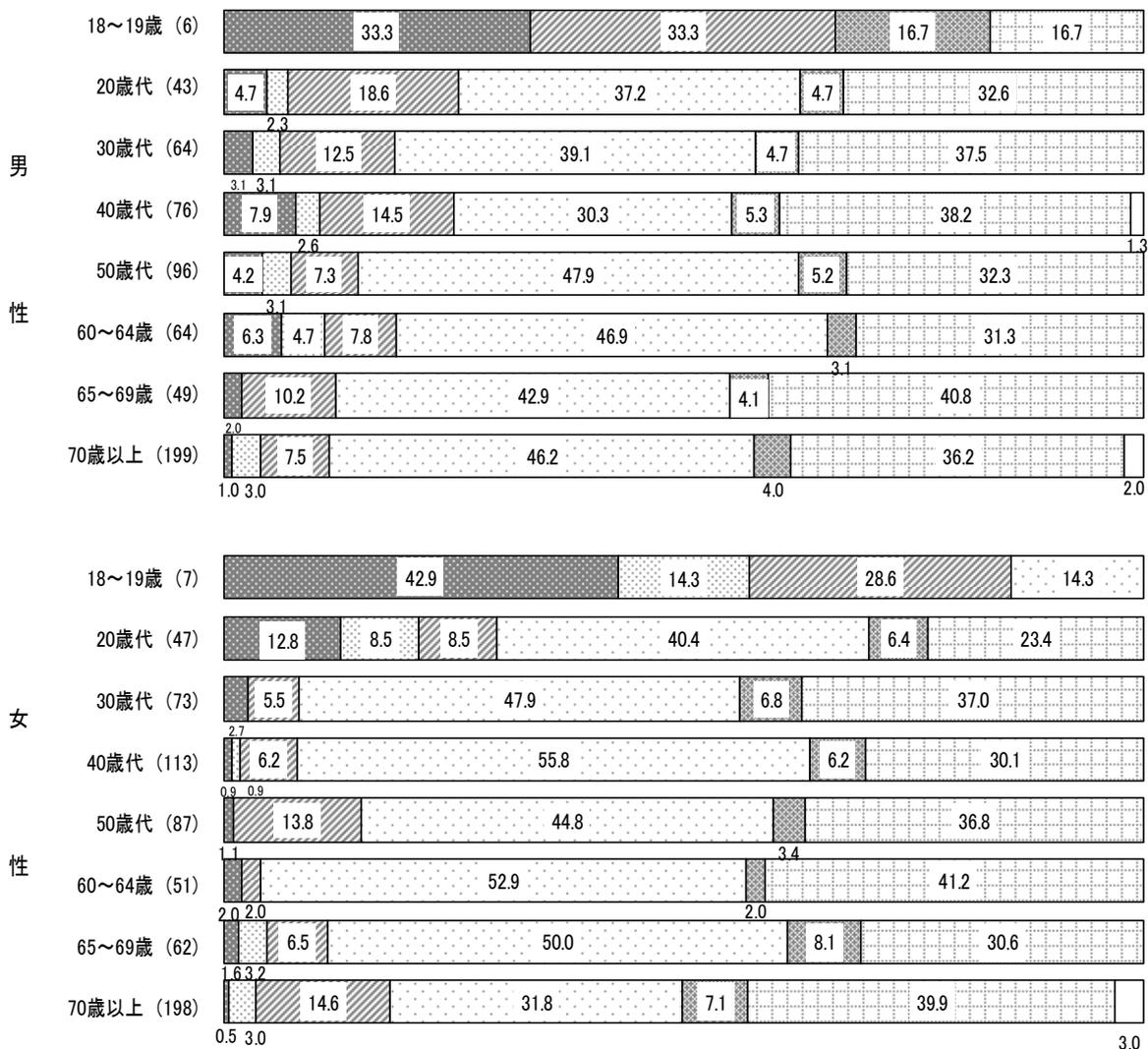
無回答



【性別】



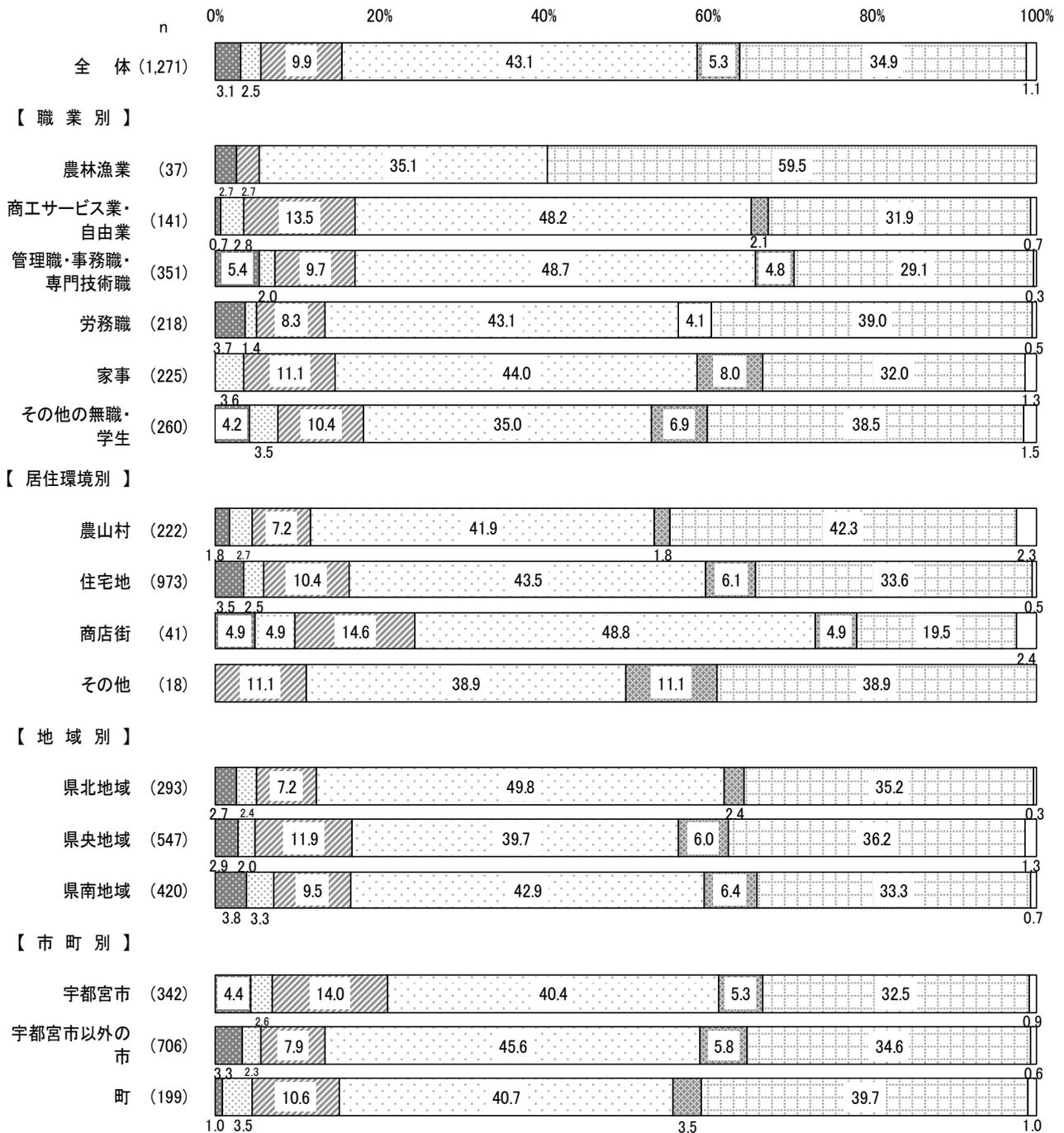
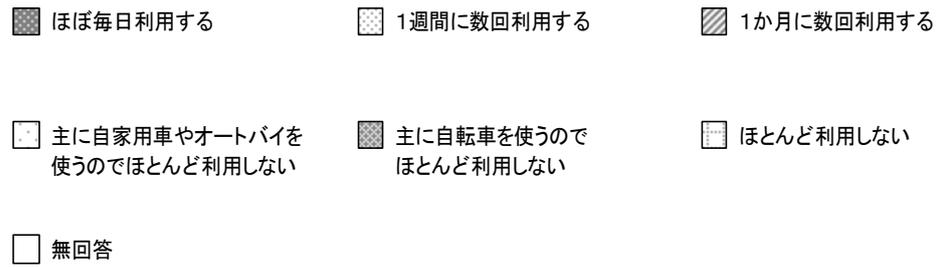
【性／年齢別】



性別でみると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」では〈男性〉42.4%、〈女性〉43.6%と大差はみられない。

性／年齢別でみると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」では〈女性40歳代〉55.8%が最も高くなっている。「ほとんど利用しない」では〈女性60～64歳〉41.2%が最も高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」では〈管理職・事務職・専門技術職〉48.7%が最も高く、〈農林漁業〉と〈その他の無職・学生〉がともに約35%で低くなっている。「ほとんど利用しない」では〈農林漁業〉59.5%が最も高く、〈管理職・事務職・専門技術職〉29.1%が最も低くなっている。

居住環境別でみると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」では〈商店街〉48.8%が最も高く、〈その他〉38.9%が最も低くなっている。「ほとんど利用しない」では〈農山村〉42.3%が最も高く、〈商店街〉19.5%が最も低くなっている。

地域別でみると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」では〈県北地域〉49.8%が最も高く、〈県央地域〉39.7%が最も低くなっている。「ほとんど利用しない」ではすべての分類で3割台となっている。

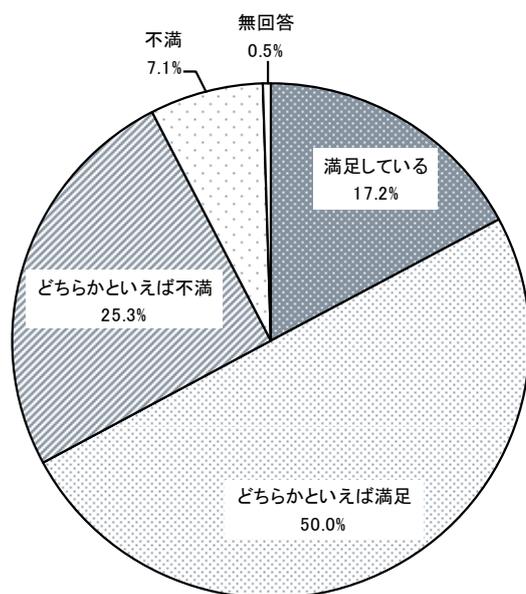
市町別でみると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」ではすべての分類で4割台となっている。「ほとんど利用しない」ではすべての分類で3割台となっている。

(2) 公共交通に関する満足度

(問34で選択肢「ほぼ毎日利用する」、「1週間に数回利用する」、「1か月に数回利用する」を選んだ方のみお答えください)

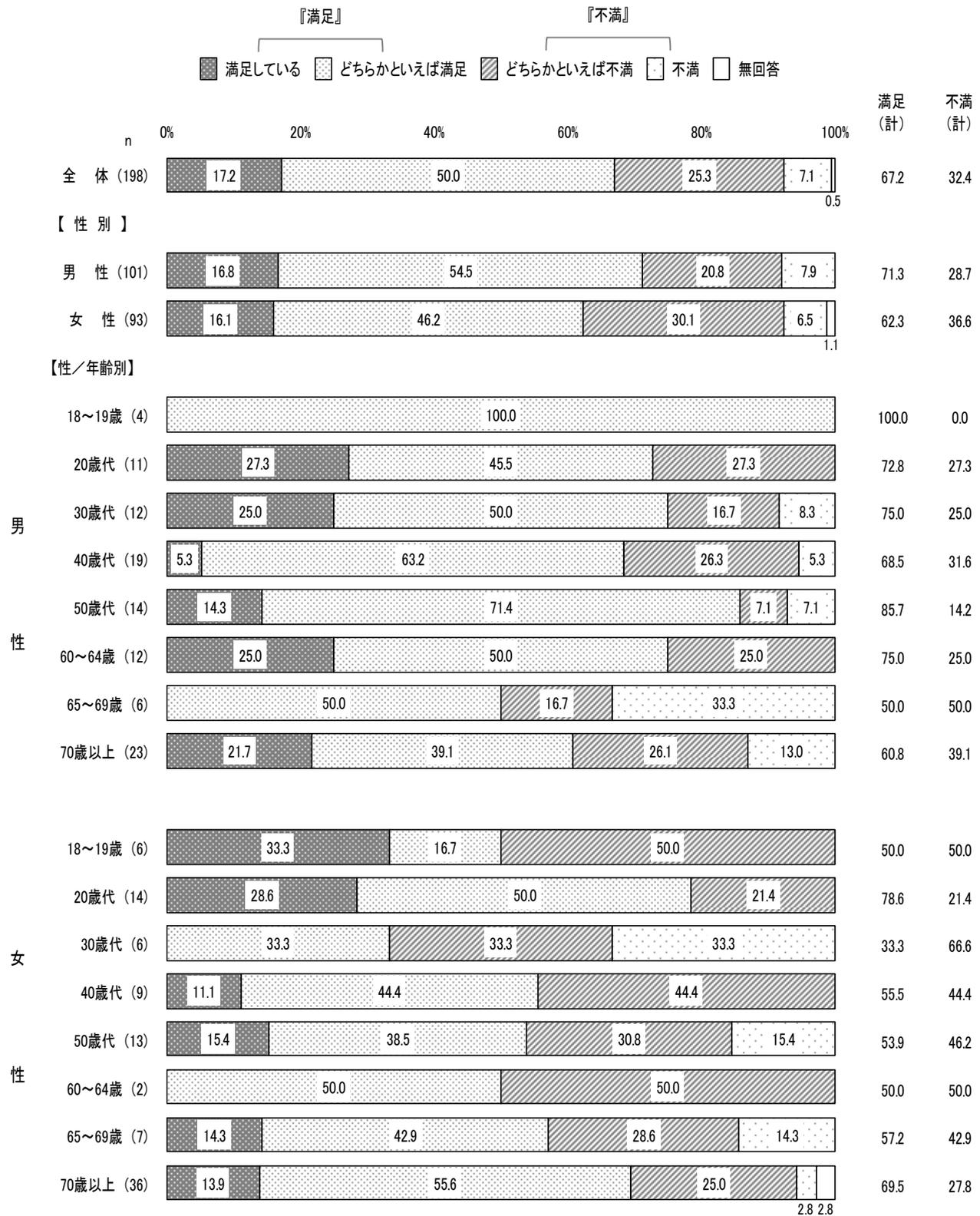
問35 あなたは、公共交通機関のサービスや運行状況について、満足していますか。次の中から1つ選んでください。 [n=198]

1	満足している	17.2%	3	どちらかといえば不満	25.3%
2	どちらかといえば満足	50.0	4	不満	7.1
				(無回答)	0.5



全体で見ると、「満足している」(17.2%)と「どちらかといえば満足」(50.0%)の2つを合わせた『満足』(67.2%)が6割台後半となっている。一方、「どちらかといえば不満」(25.3%)と「不満」(7.1%)の2つを合わせた『不満』(32.4%)が3割台前半となっている。

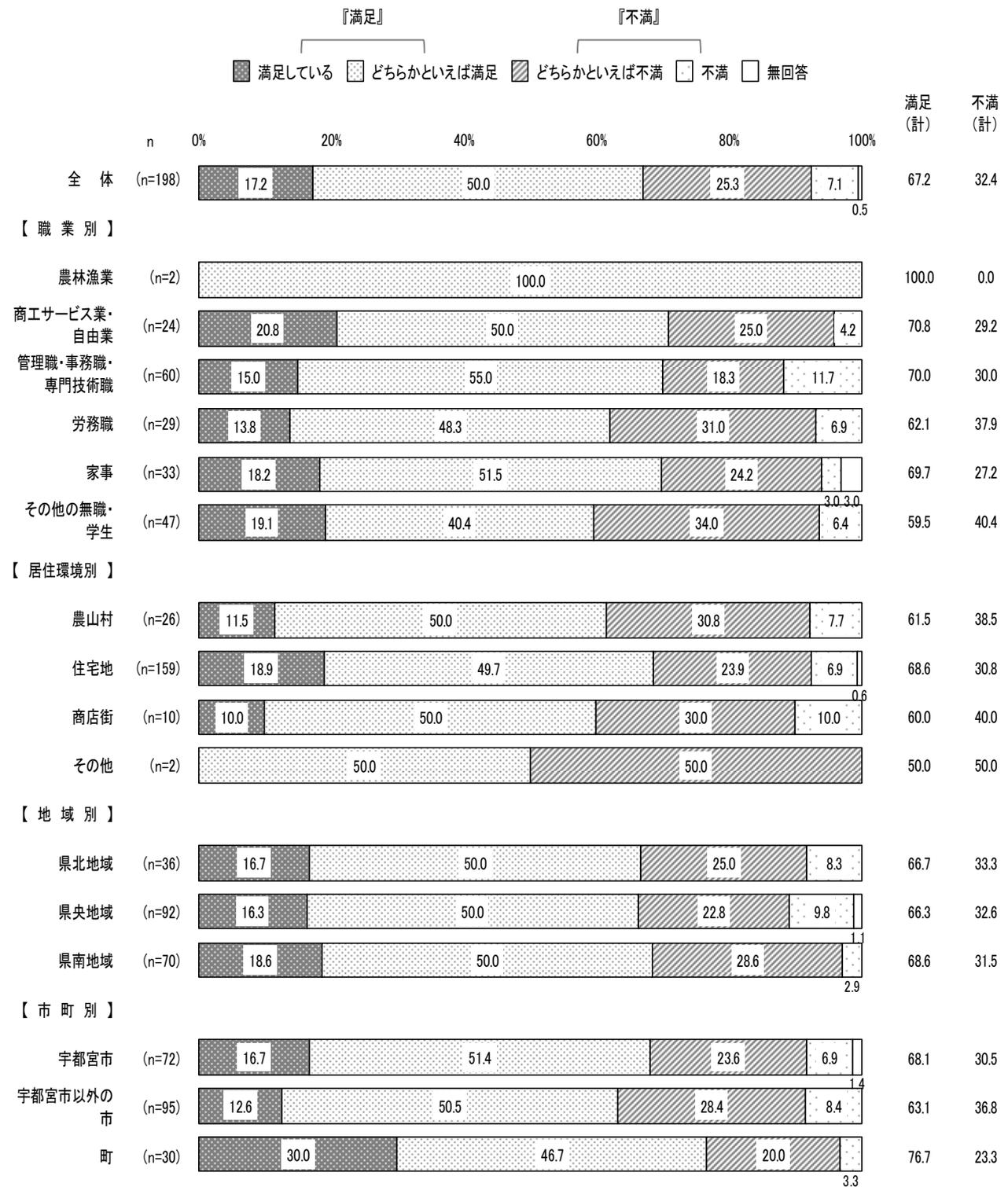
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『満足』では〈男性〉71.3%が、〈女性〉62.3%より9.0ポイント高くなっている。一方、『不満』では〈女性〉36.6%が、〈男性〉28.7%より7.9ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『満足』では〈男性50歳代〉85.7%が高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別で見ると、すべての分類で『満足』が『不満』を上回る結果となっている。

居住環境別で見ると、『満足』では〈住宅地〉68.6%が最も高くなっている。

地域別で見ると、『満足』では、すべての分類で6割台と『不満』を上回る結果となっている。

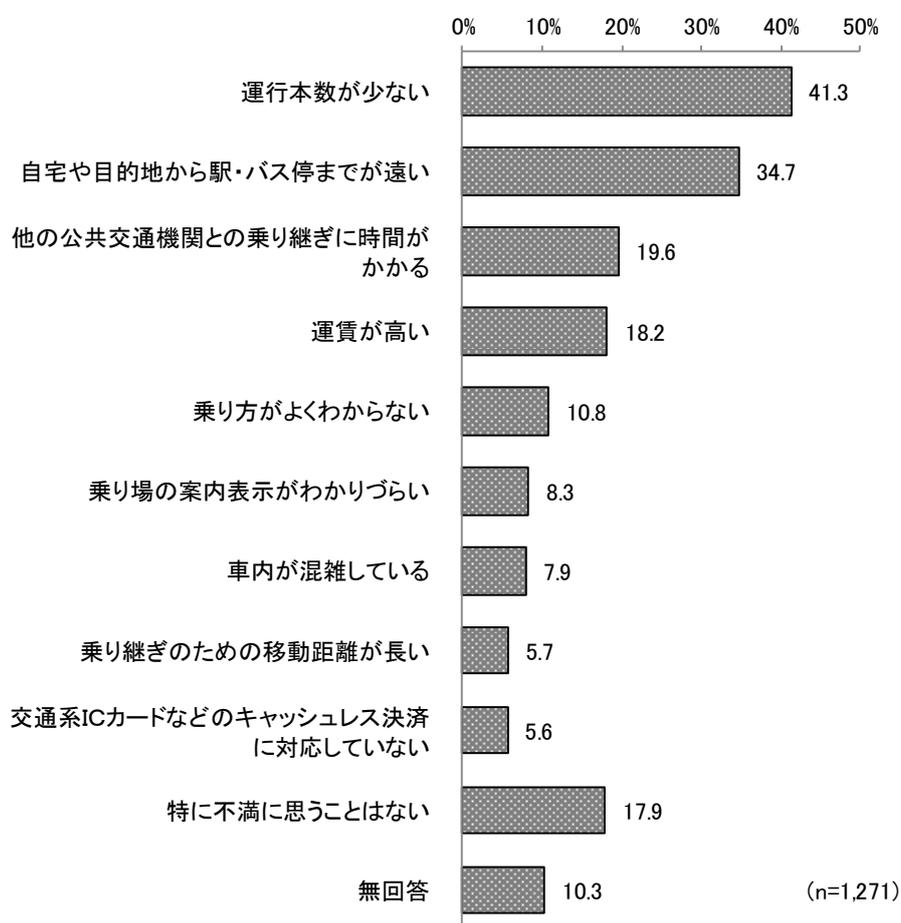
市町別で見ると、『満足』では〈町〉76.7%が最も高くなっている。『不満』では〈宇都宮市以外の市〉36.8%が最も高くなっている。

(3) 公共交通に不満を感じること

問36 あなたが公共交通機関に不満を感じることは何ですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,271]

1	運行本数が少ない	41.3%	6	交通系ICカードなどのキャッシュレス決済に対応していない	5.6%
2	自宅や目的地から駅・バス停までが遠い	34.7	7	乗り継ぎのための移動距離が長い	5.7
3	他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる	19.6	8	乗り方がよくわからない	10.8
4	運賃が高い	18.2	9	乗り場の案内表示がわかりづらい	8.3
5	車内が混雑している	7.9	10	特に不満に思うことはない	17.9
				(無回答)	10.3

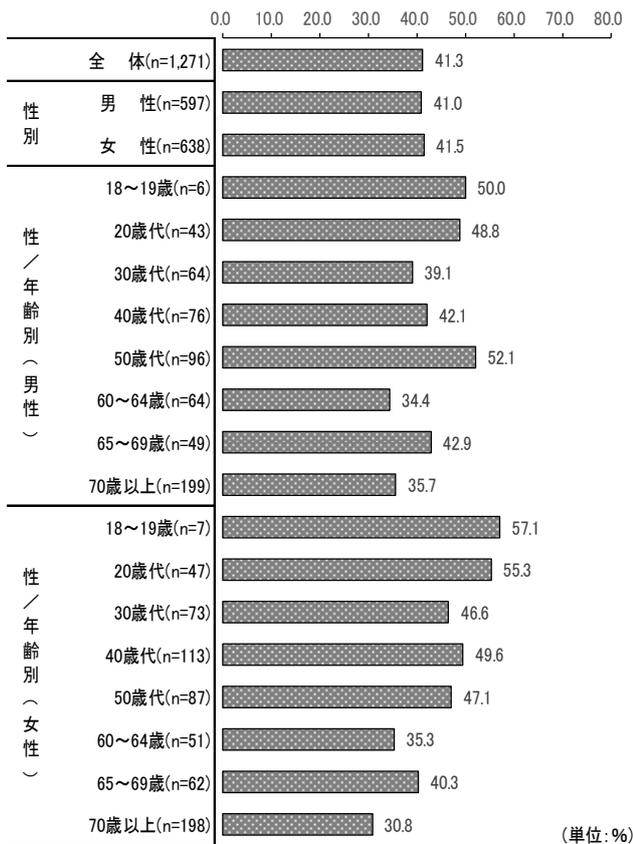
【令和6(2024)年】



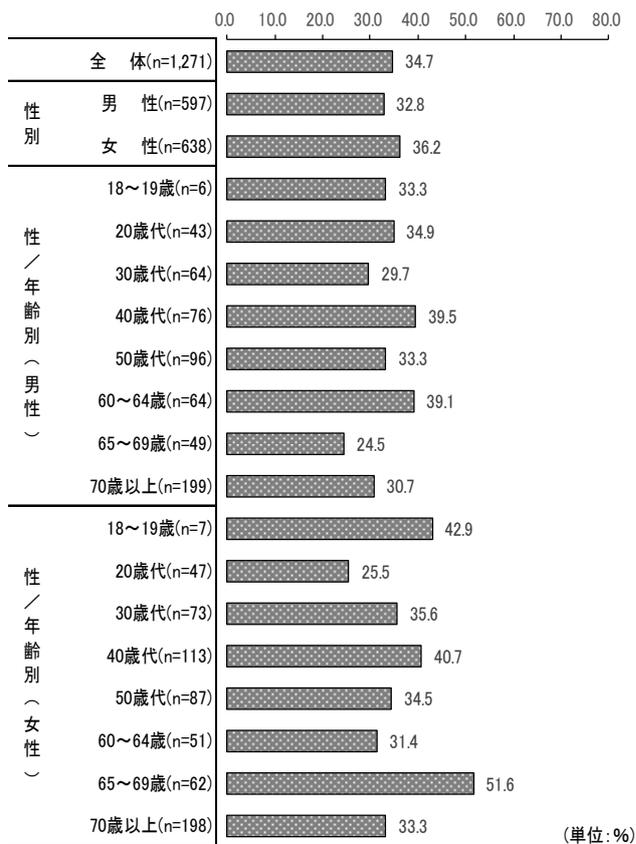
全体で見ると、「運行本数が少ない」(41.3%)が4割強と最も高く、次いで「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」(34.7%)、「他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる」(19.6%)、「運賃が高い」(18.2%)の順となっている。また、「特に不満に思うことはない」(17.9%)は1割台後半となっている。

[性別・性／年齢別]

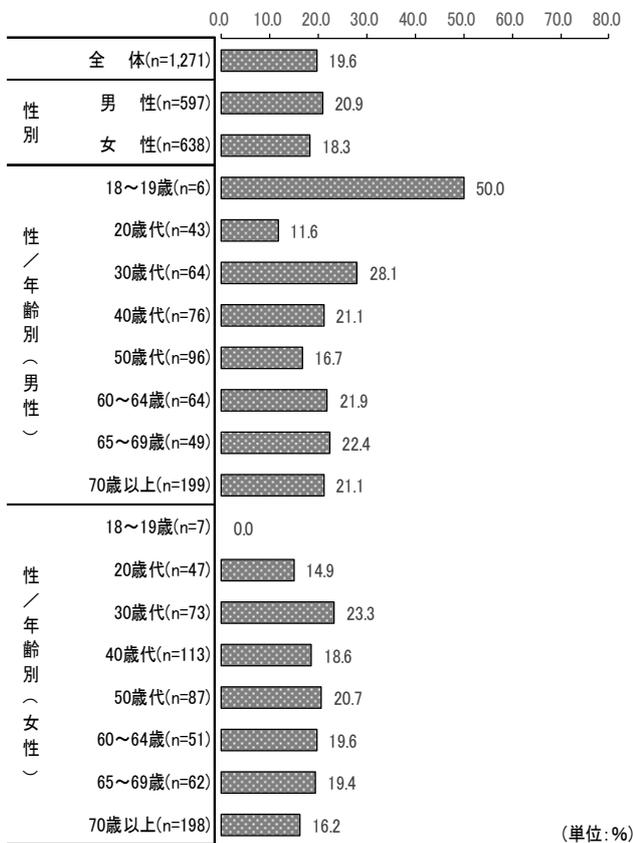
運行本数が少ない



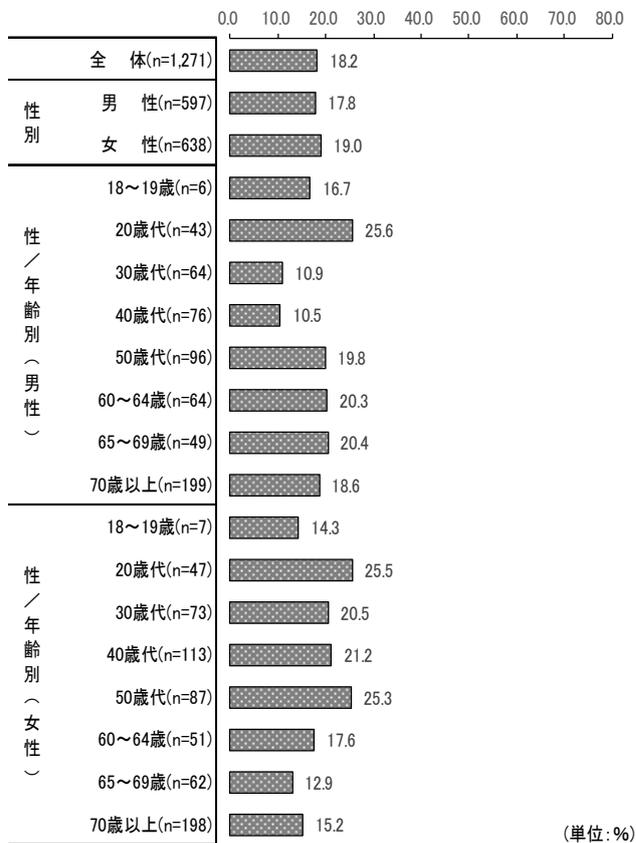
自宅や目的地から駅・バス停までが遠い



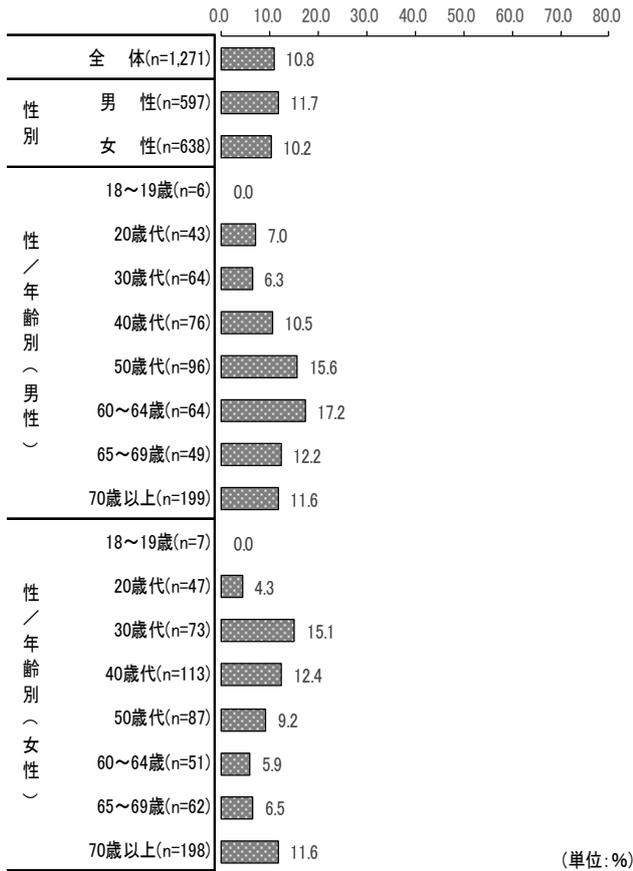
他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる



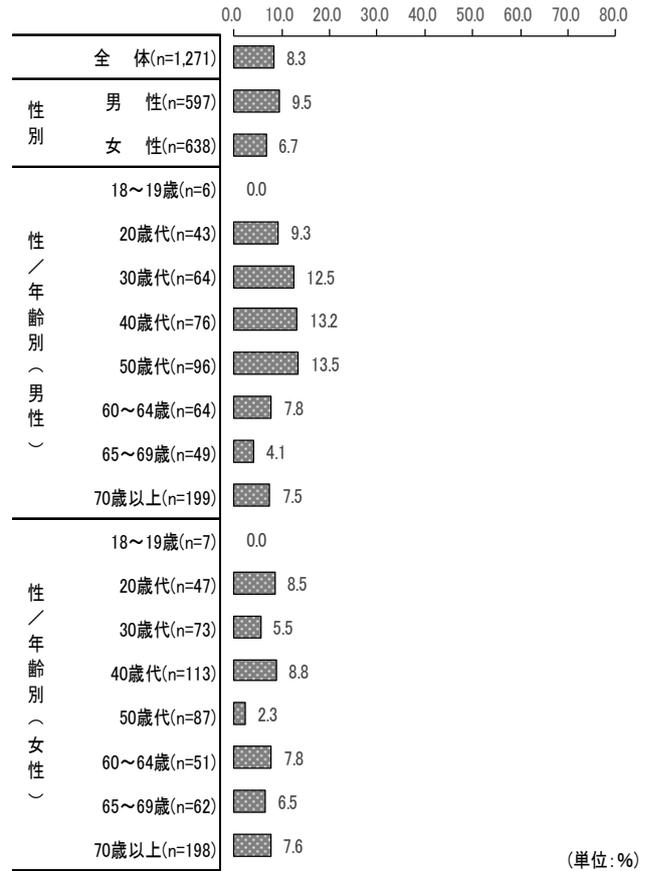
運賃が高い



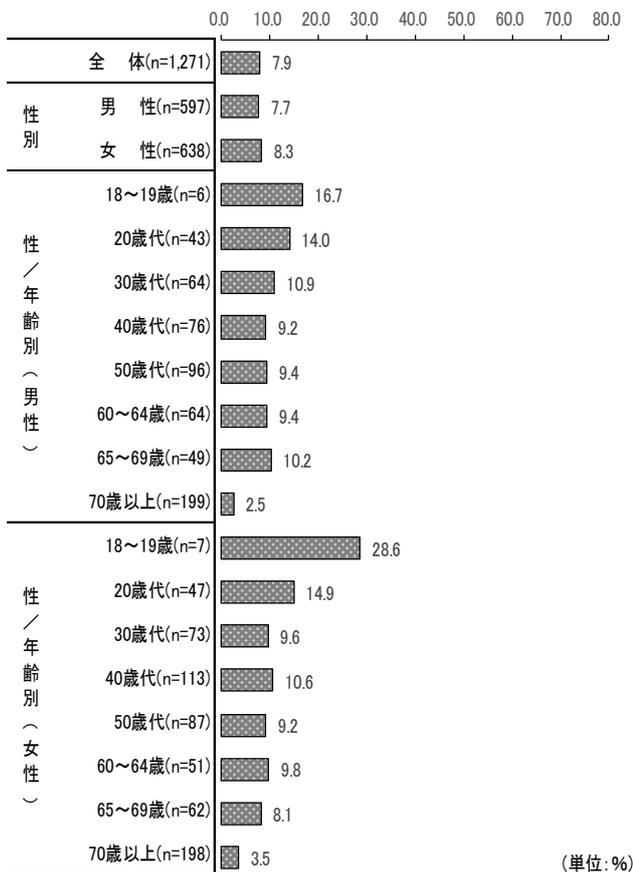
乗り方がよくわからない



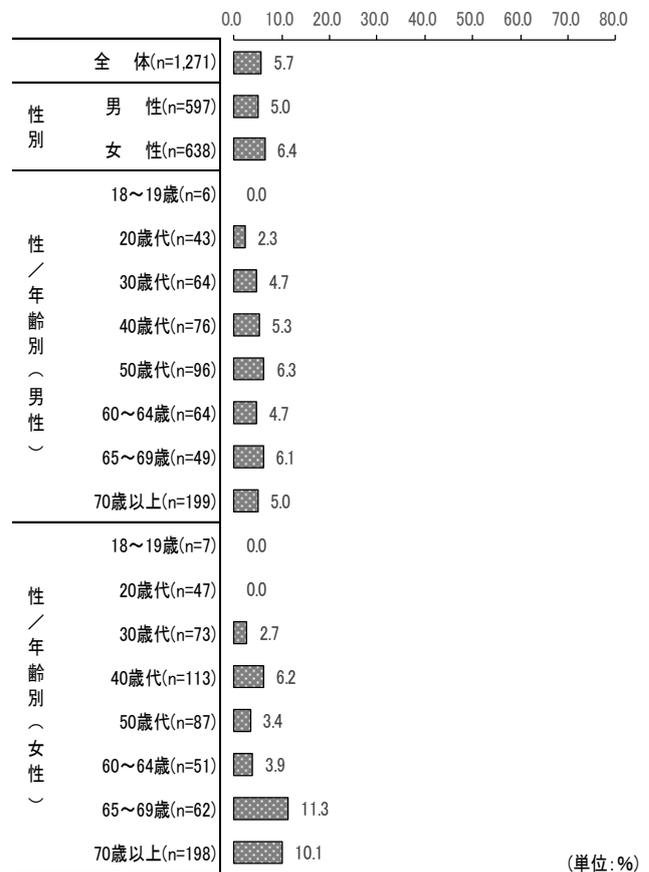
乗り場の案内表示がわかりづらい



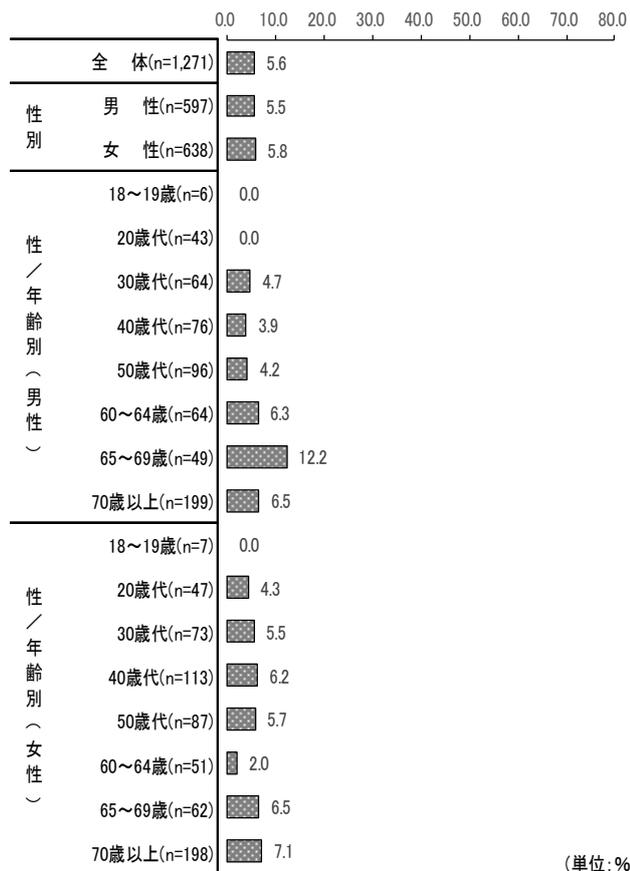
車内が混雑している



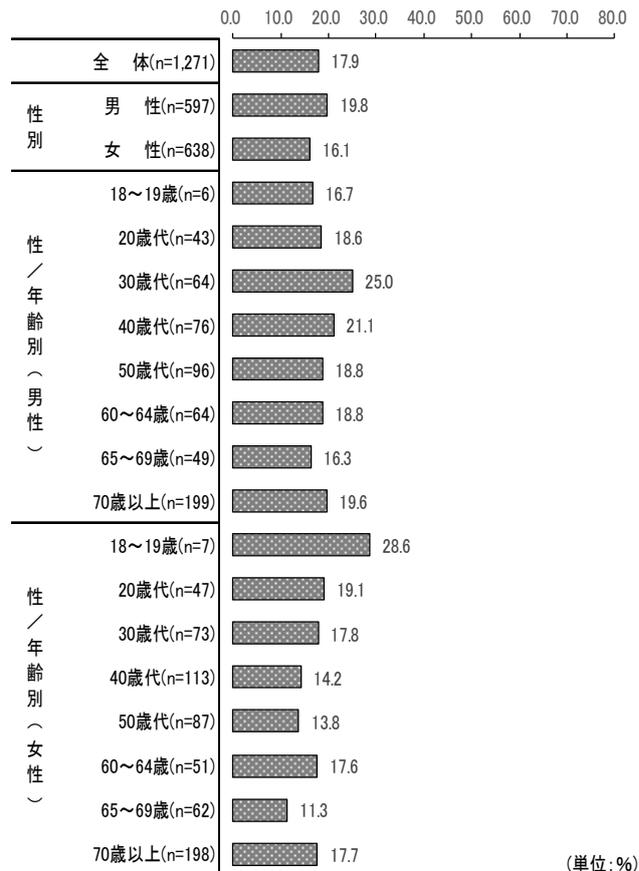
乗り継ぎのための移動距離が長い



交通系ICカードなどのキャッシュレス決済に対応していない



特に不満に思うことはない

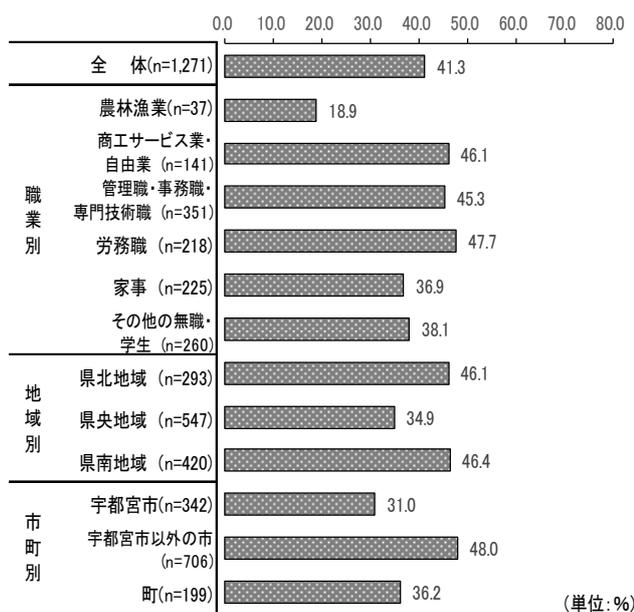


性別で見ると、「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」では〈女性〉36.2%が、〈男性〉32.8%より3.4ポイント高くなっている。一方、「特に不満に思うことはない」では〈男性〉19.8%が、〈女性〉16.1%より3.7ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

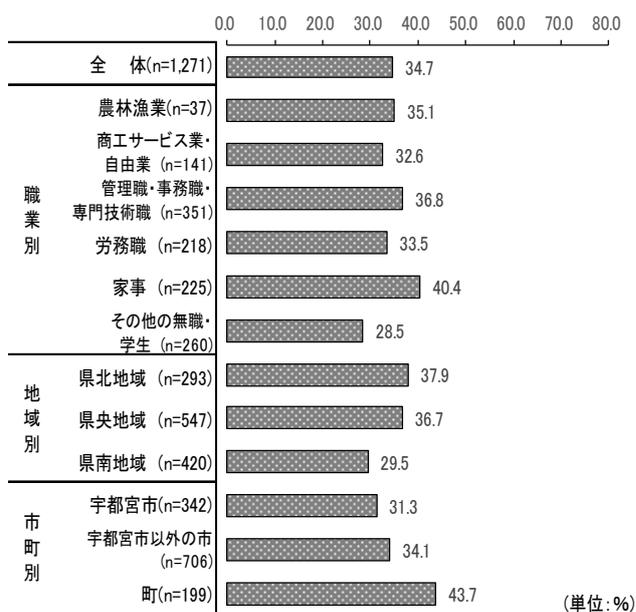
性／年齢別で見ると、「運行本数が少ない」では〈女性20歳代〉55.3%が高く、〈女性70歳以上〉30.8%が最も低くなっている。「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」では〈女性65～69歳〉51.6%が最も高く、〈男性65～69歳〉24.5%が最も低くなっている。「他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる」では〈男性30歳代〉28.1%が高く、〈男性20歳代〉11.6%が低くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

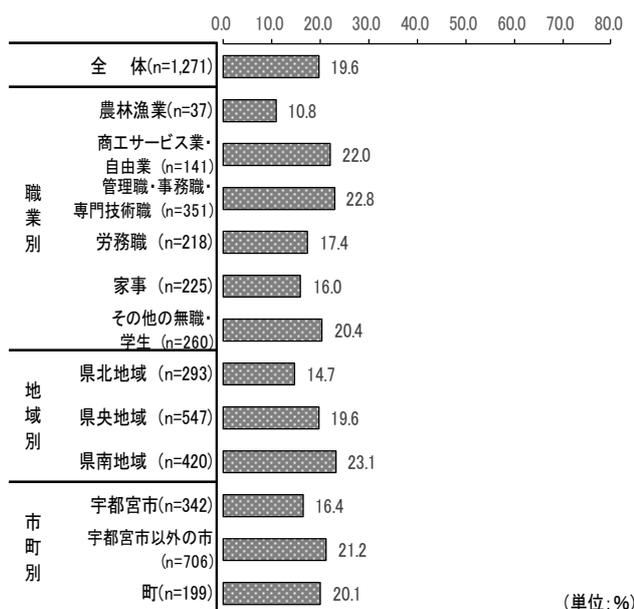
運行本数が少ない



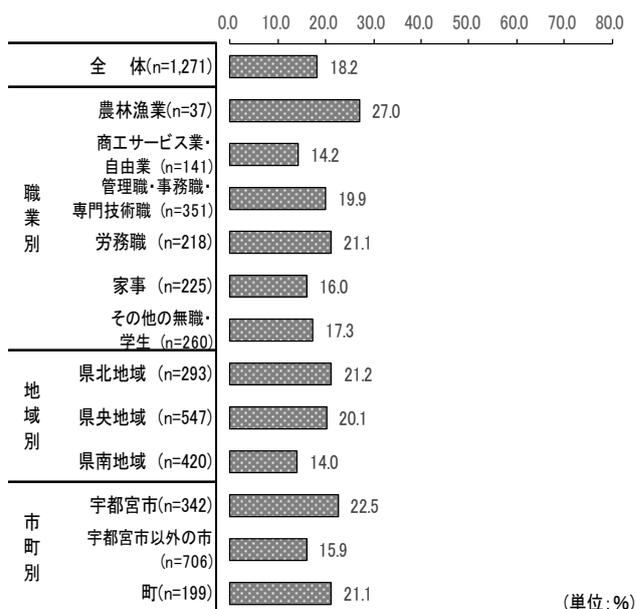
自宅や目的地から駅・バス停までが遠い



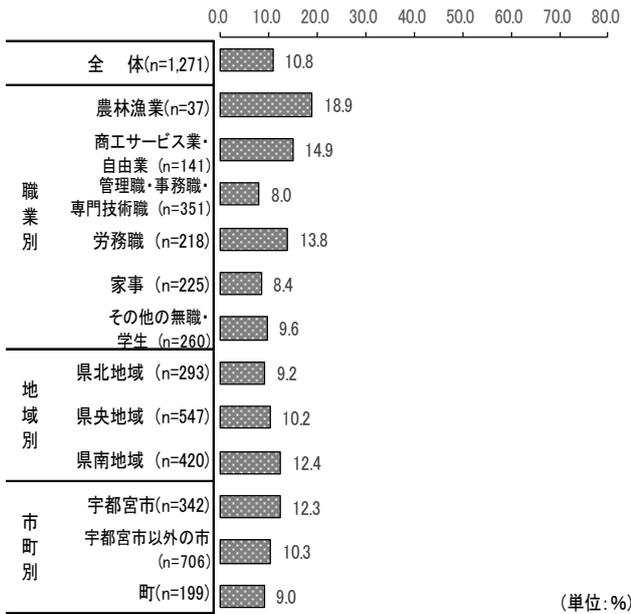
他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる



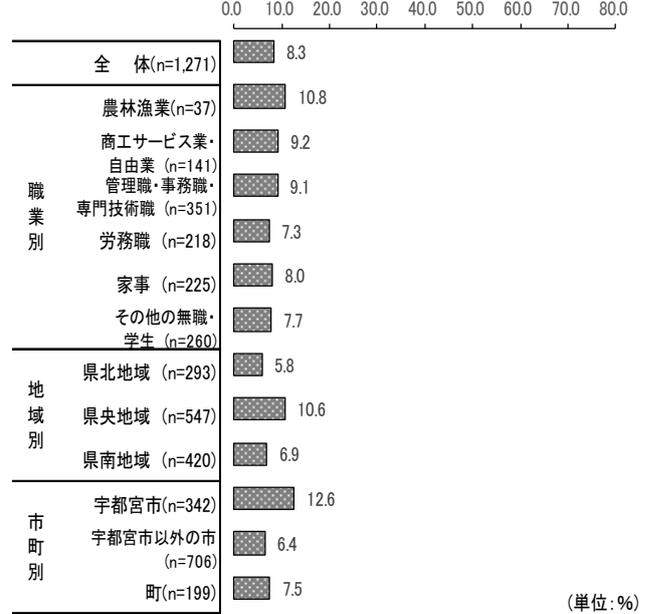
運賃が高い



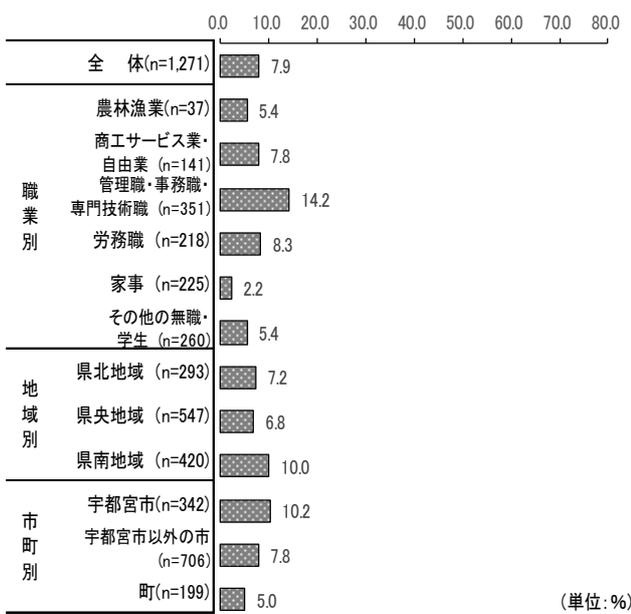
乗り方がよくわからない



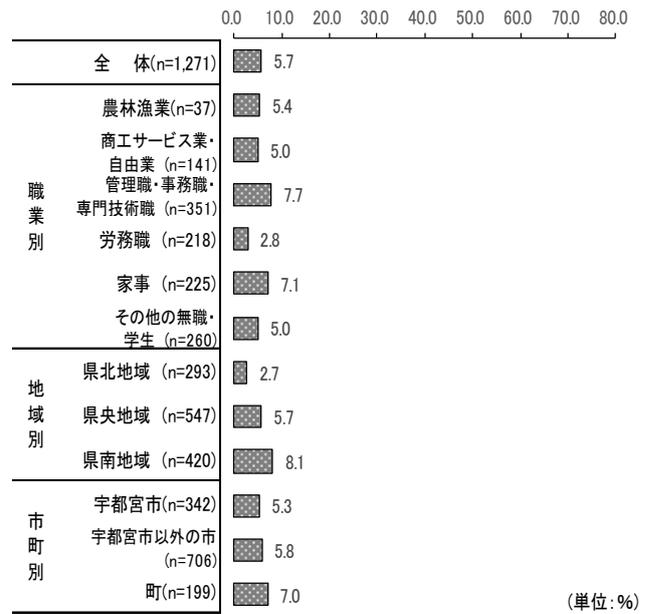
乗りの案内表示がわかりづらい

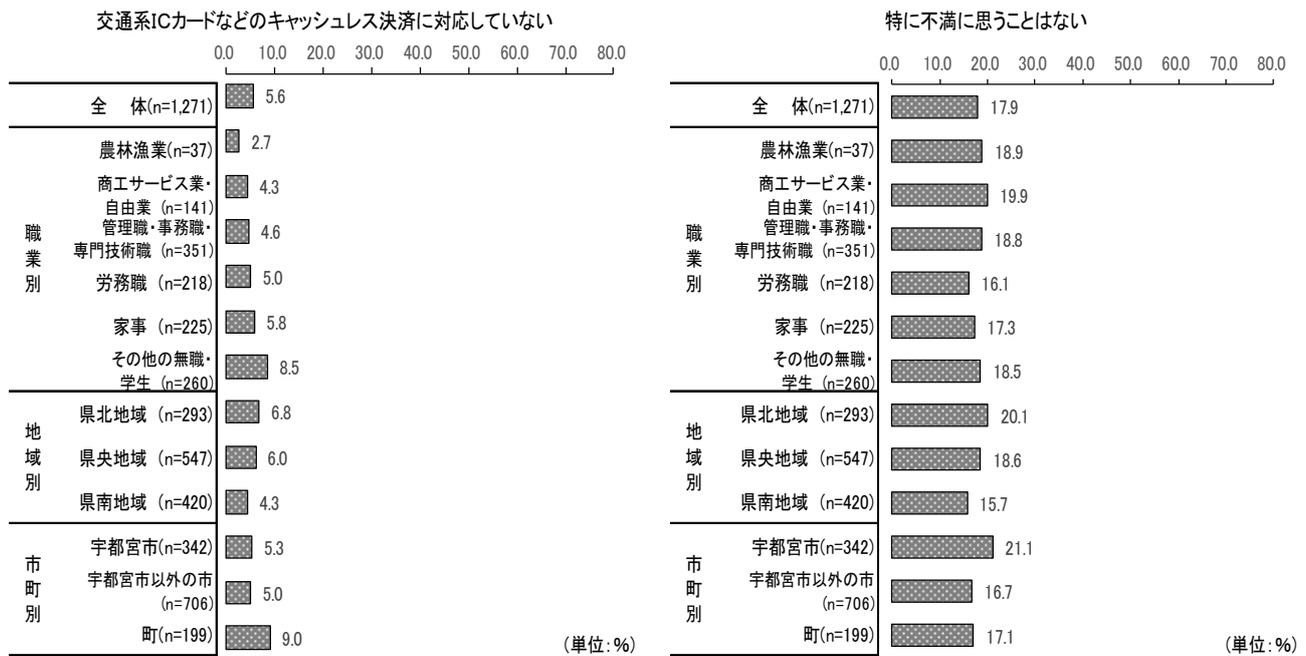


車内が混雑している



乗り継ぎのための移動距離が長い





職業別で見ると、「運行本数が少ない」では〈労務職〉47.7%が最も高く、〈農林漁業〉18.9%が最も低くなっている。「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」では〈家事〉40.4%が最も高く、〈その他の無職・学生〉28.5%が最も低くなっている。

地域別で見ると、「運行本数が少ない」では〈県南地域〉46.4%が最も高く、〈県央地域〉34.9%が最も低くなっている。「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」では〈県北地域〉37.9%が最も高く、〈県南地域〉29.5%が最も低くなっている。

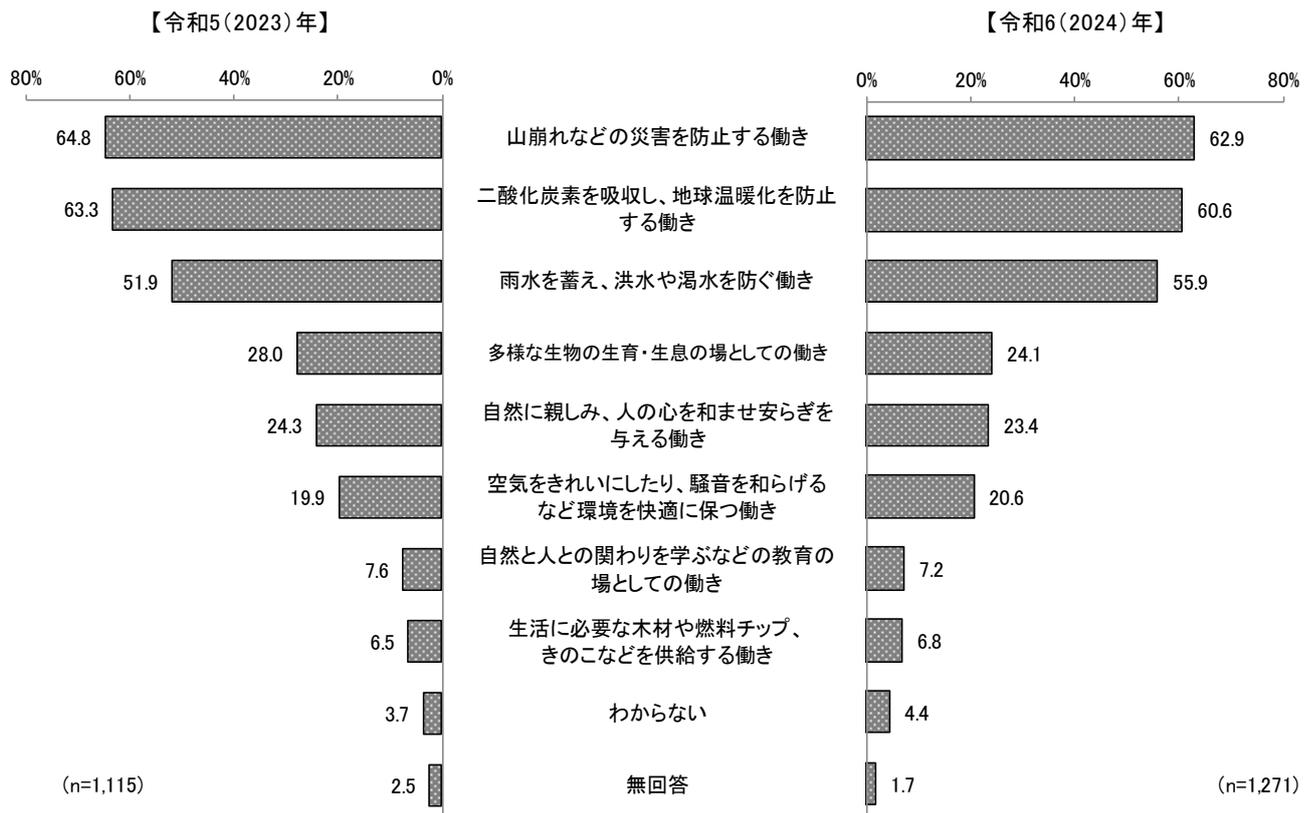
市町別で見ると、「運行本数が少ない」では〈宇都宮市以外の市〉48.0%が最も高く、〈宇都宮市〉31.0%が最も低くなっている。「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」では〈町〉43.7%が最も高く、〈宇都宮市〉31.3%が最も低くなっている。

16 とちぎの元気な森づくり県民税について

(1) 重要だと思う森林の持つ働き

問37 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,271]

1	山崩れなどの災害を防止する働き	62.9%
2	雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き	55.9
3	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	60.6
4	空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き	20.6
5	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き	6.8
6	多様な生物の生育・生息の場としての働き	24.1
7	自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き	23.4
8	自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き	7.2
9	わからない	4.4
	(無回答)	1.7

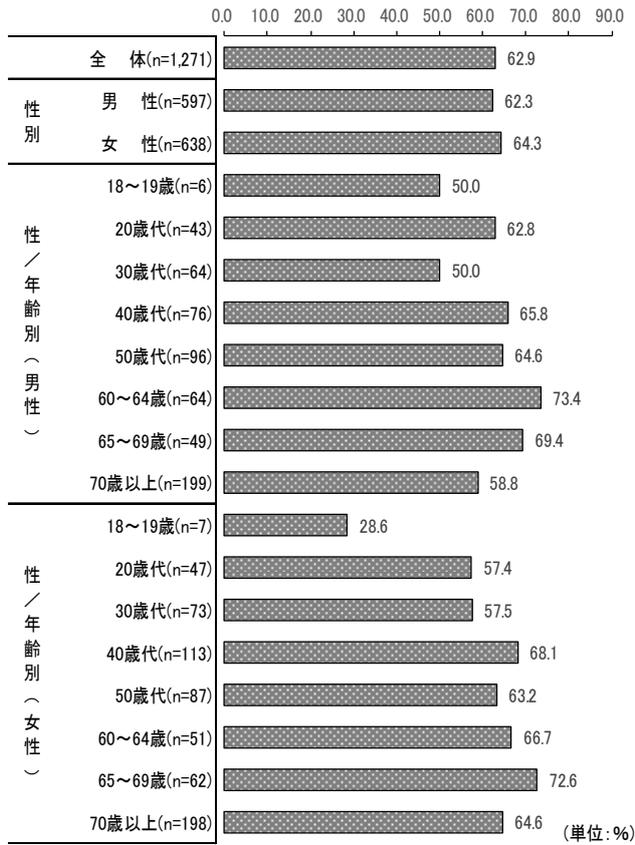


全体でみると、「山崩れなどの災害を防止する働き」(62.9%)が6割台前半で最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(60.6%)、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」(55.9%)の順となっている。

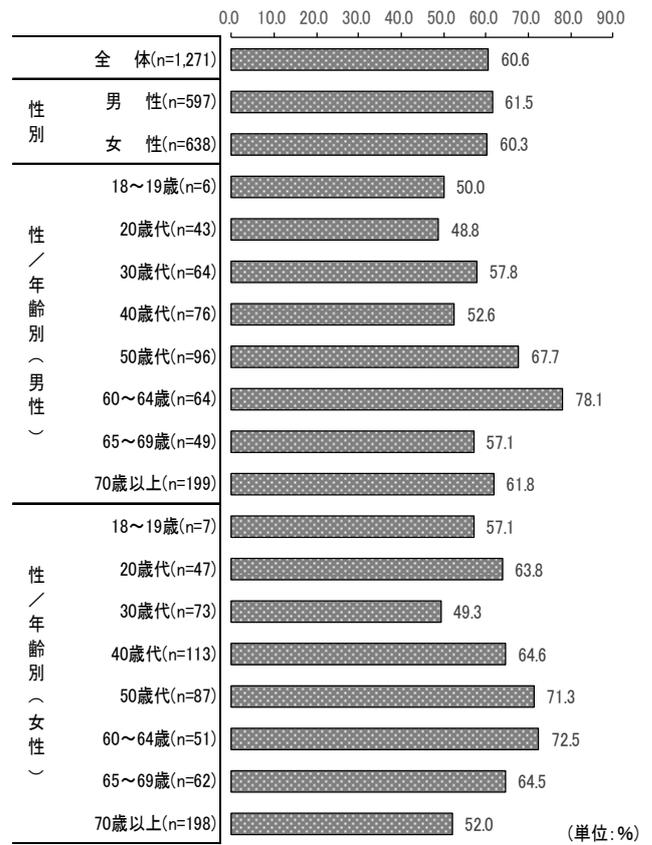
前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では4.0ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

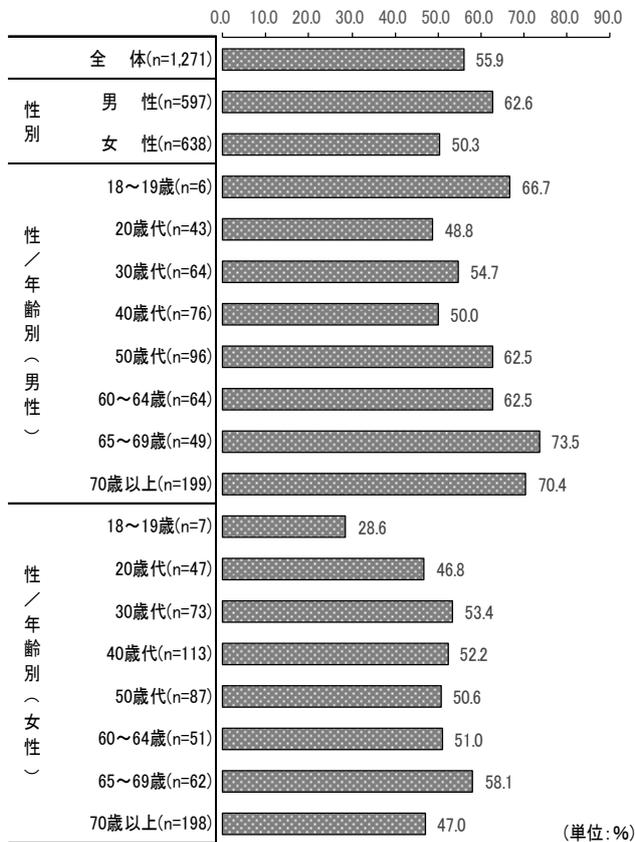
山崩れなどの災害を防止する働き



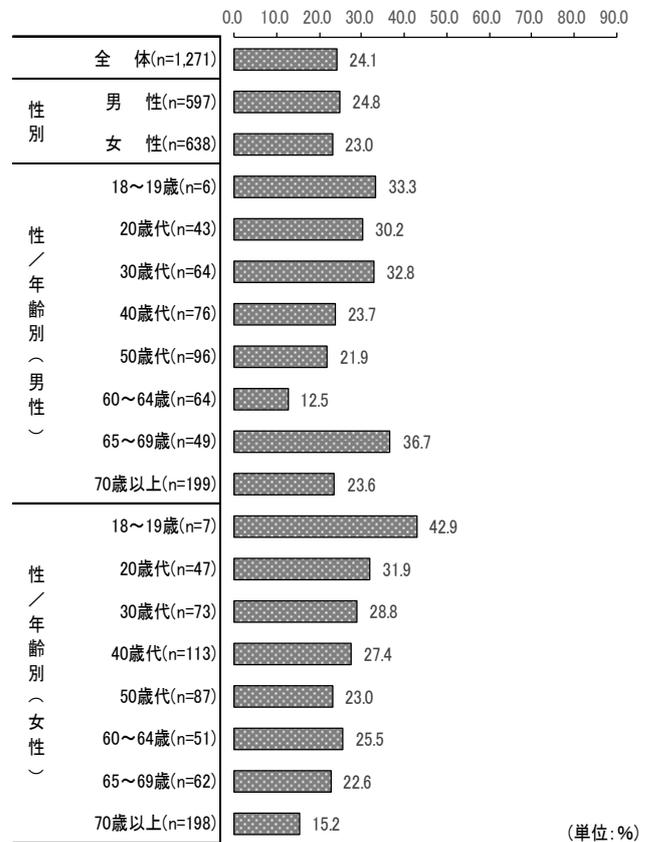
二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き



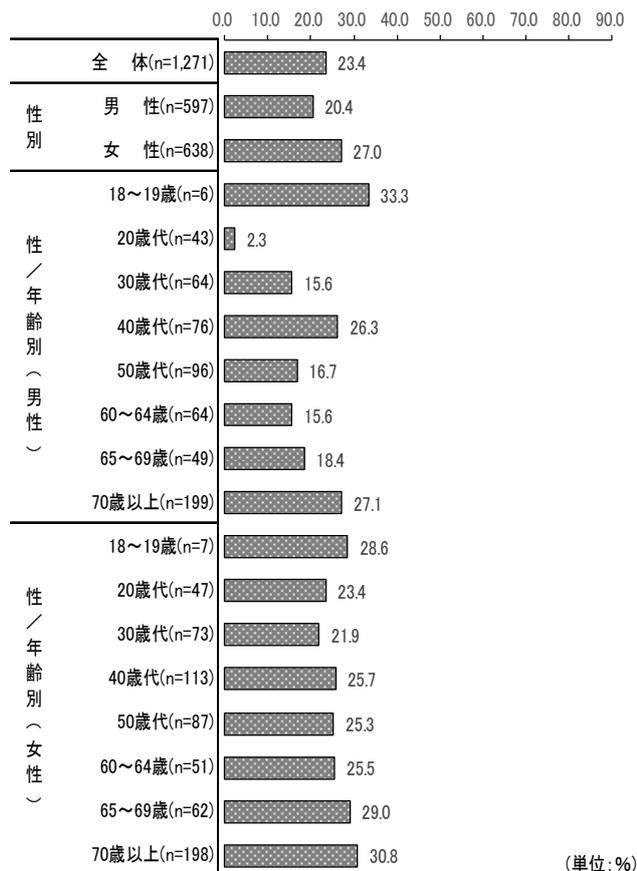
雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き



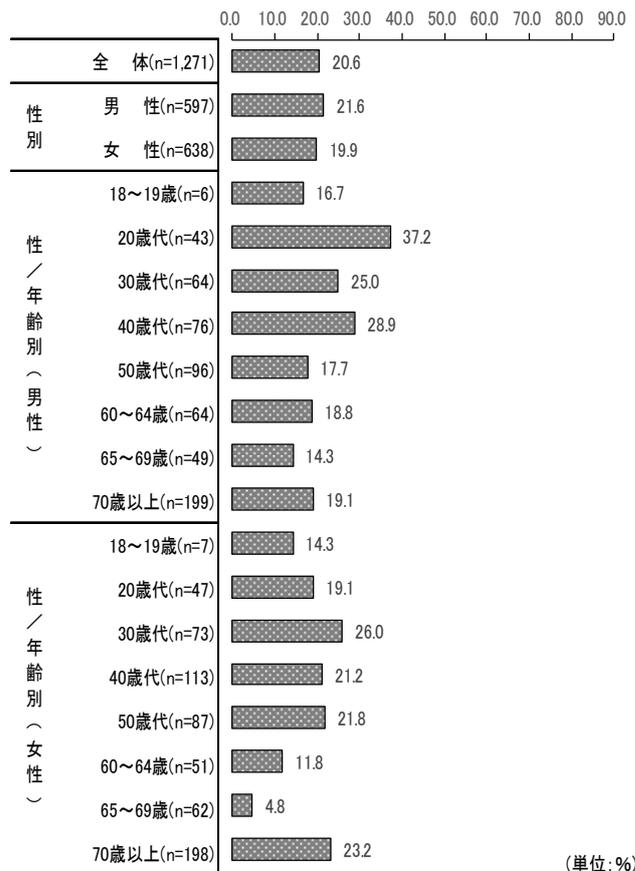
多様な生物の生育・生息の場としての働き



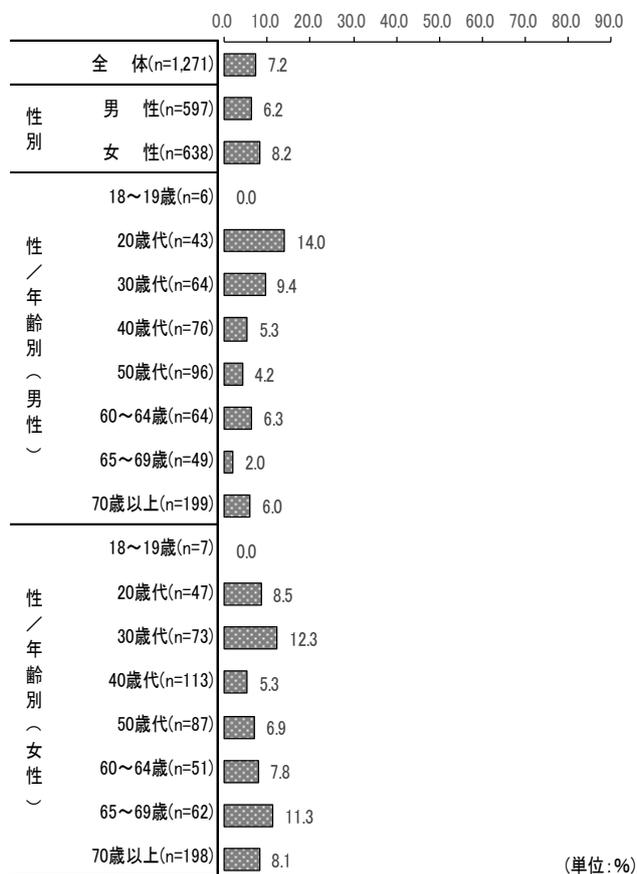
自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き



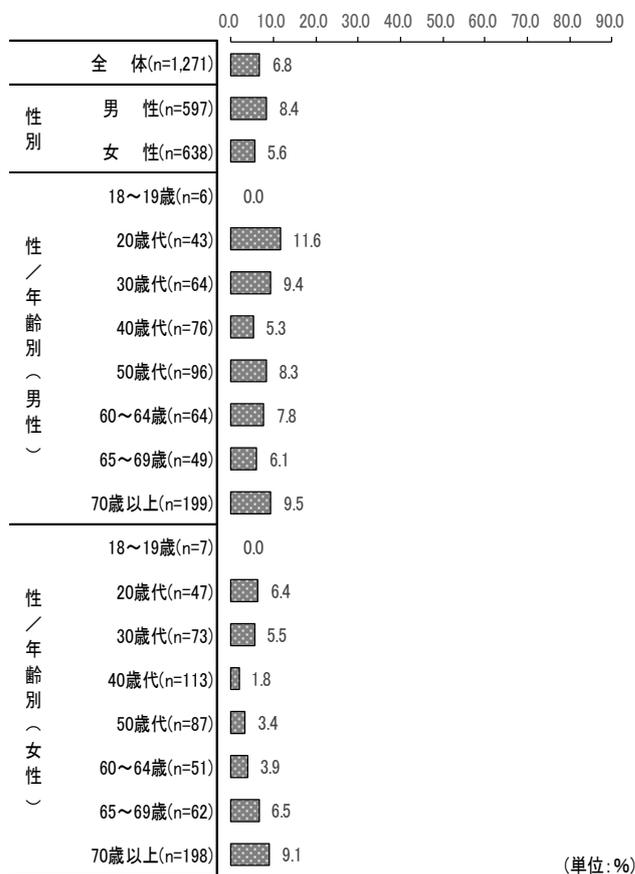
空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き

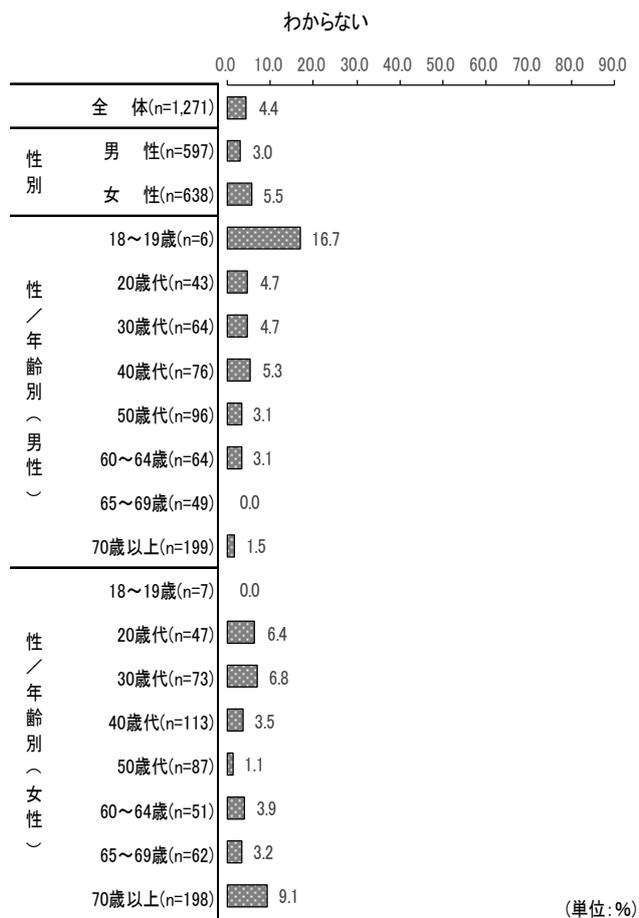


自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き



生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き



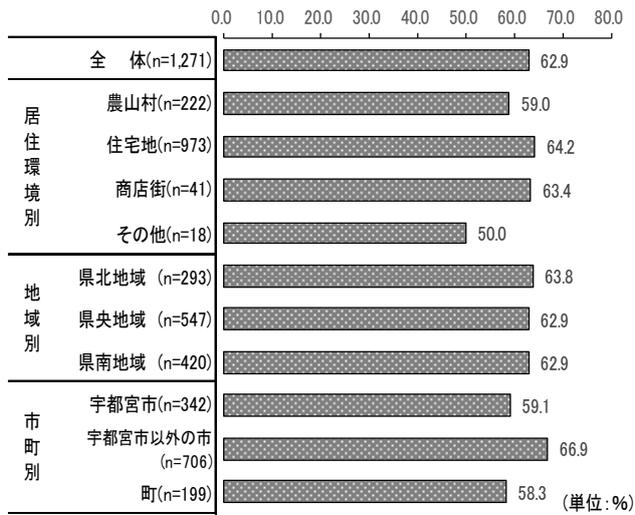


性別で見ると、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈男性〉62.6%が、〈女性〉50.3%より12.3ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

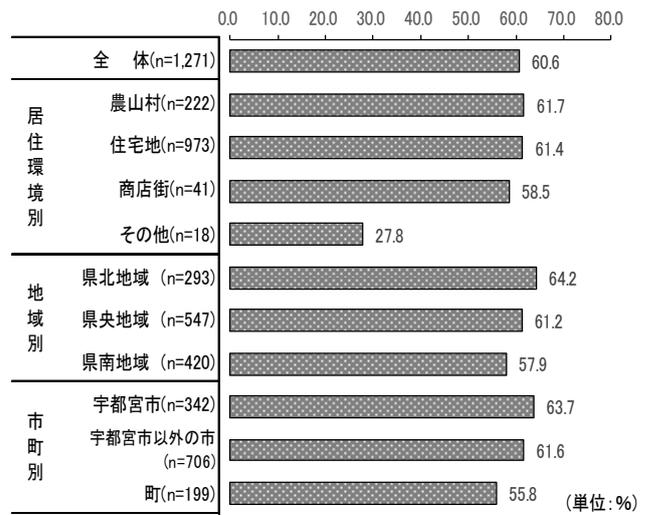
性別／年齢別で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈男性60～64歳〉73.4%が最も高く、〈男性30歳代〉50.0%が低くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈男性60～64歳〉78.1%が最も高く、〈男性20歳代〉48.8%が最も低くなっている。「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈男性65～69歳〉73.5%が最も高く、〈女性20歳代〉46.8%が低くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]

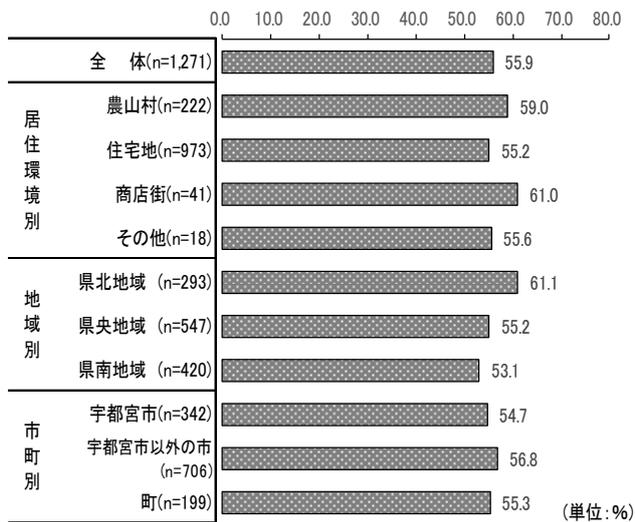
山崩れなどの災害を防止する働き



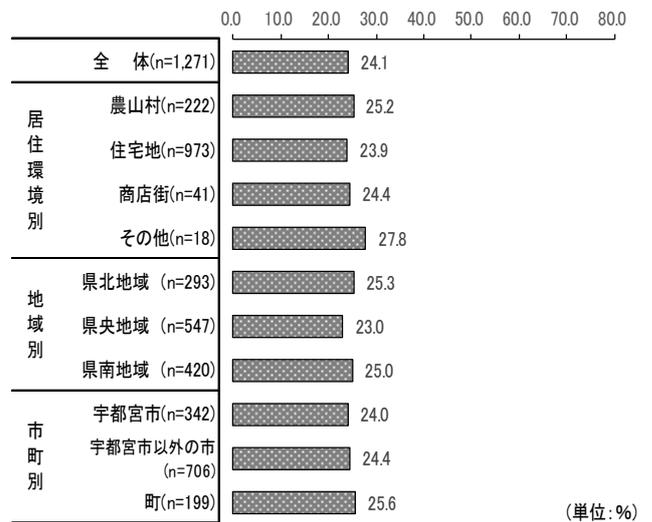
二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き



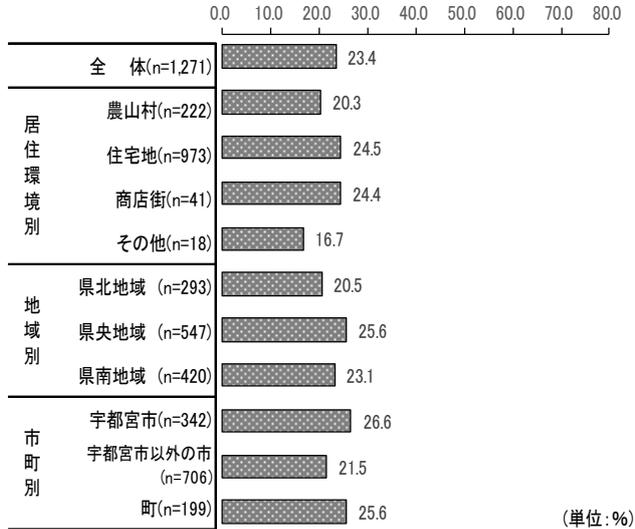
雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き



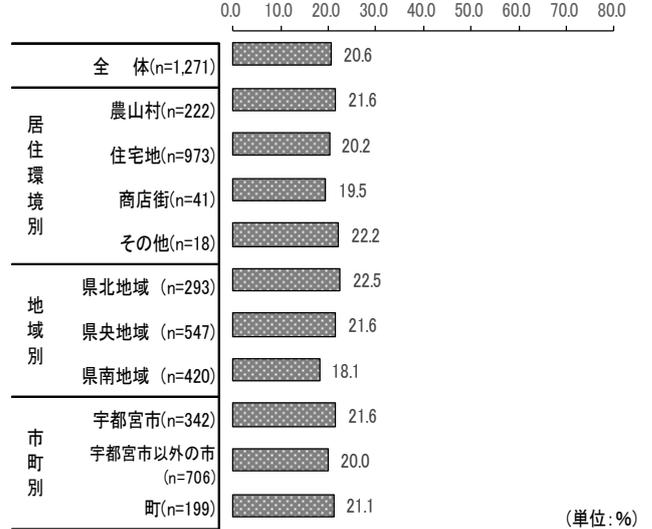
多様な生物の生育・生息の場としての働き



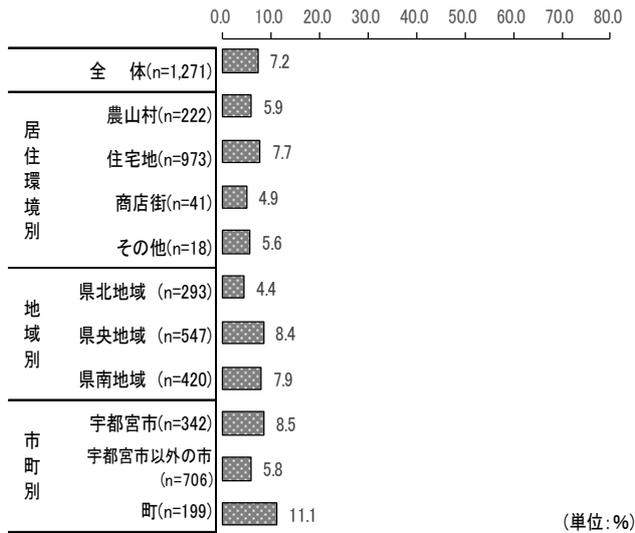
自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き



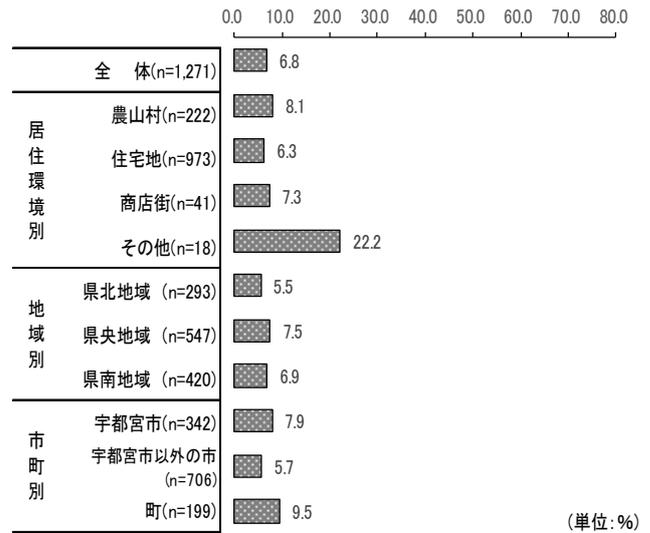
空気をきれいにとしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き



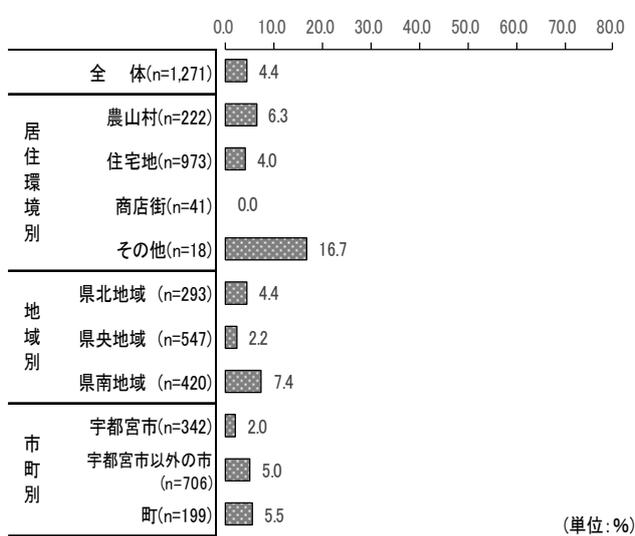
自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き



生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き



わからない



居住環境別で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈住宅地〉64.2%が最も高く、〈その他〉50.0%が最も低くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈農山村〉61.7%が最も高く、〈その他〉27.8%が最も低くなっている。「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈商店街〉61.0%が最も高く、〈住宅地〉55.2%が最も低くなっている。

地域別で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」ではすべての分類で6割台となっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈県北地域〉64.2%が最も高く、〈県南地域〉57.9%が最も低くなっている。「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈県北地域〉61.1%が最も高く、〈県南地域〉53.1%が最も低くなっている。

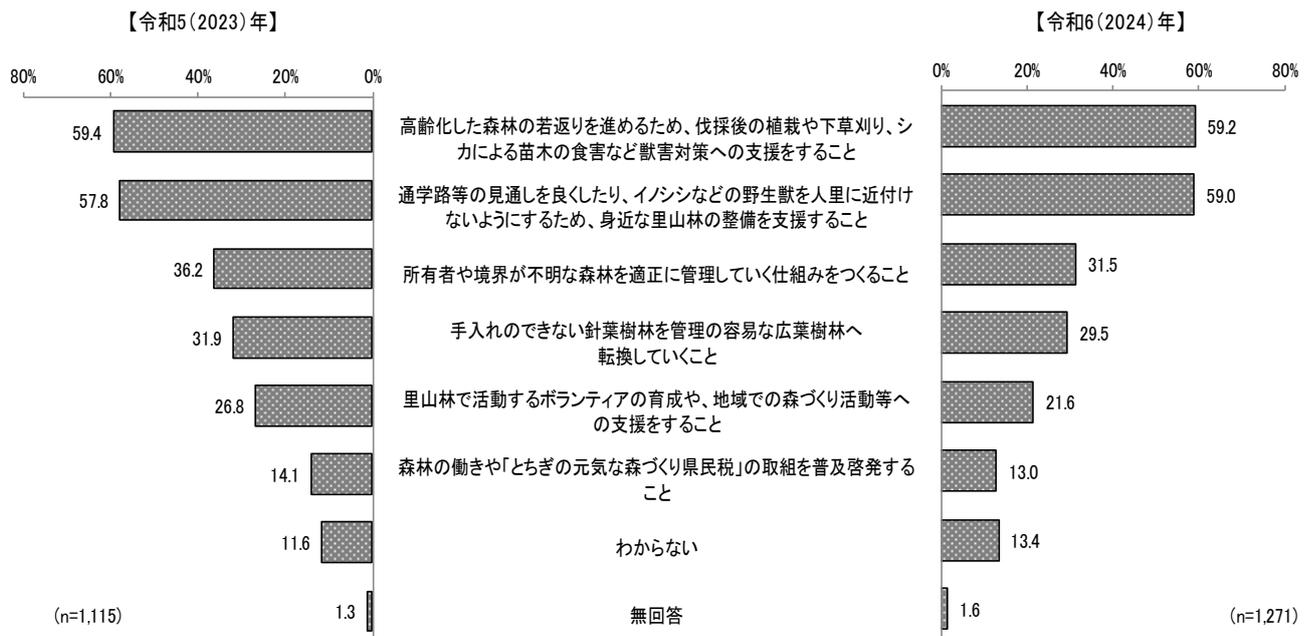
市町別で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈宇都宮市以外の市〉66.9%が最も高く、〈町〉58.3%が最も低くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈宇都宮市〉63.7%が最も高く、〈町〉55.8%が最も低くなっている。「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」ではすべての分類で5割台となっている。

(2) 県民税事業の取組の重要性

問38 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,271]

- | | | |
|---|--|-------|
| 1 | 高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること | 59.2% |
| 2 | 手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと | 29.5 |
| 3 | 通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること | 59.0 |
| 4 | 里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること | 21.6 |
| 5 | 所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること | 31.5 |
| 6 | 森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること | 13.0 |
| 7 | わからない | 13.4 |
| | (無回答) | 1.6 |

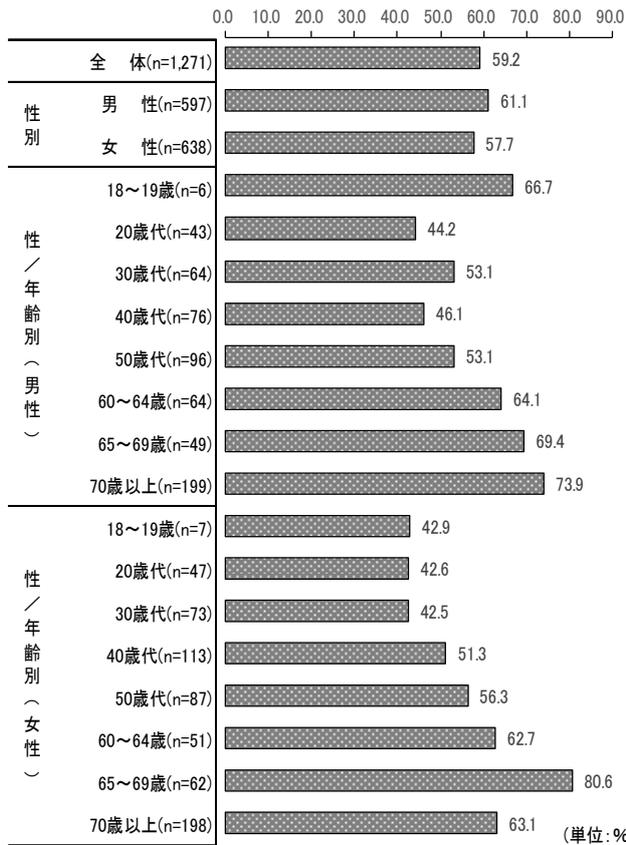


全体でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」(59.2%)が約6割で最も高く、次いで「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(59.0%)、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(31.5%)、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」(29.5%)の順となっている。

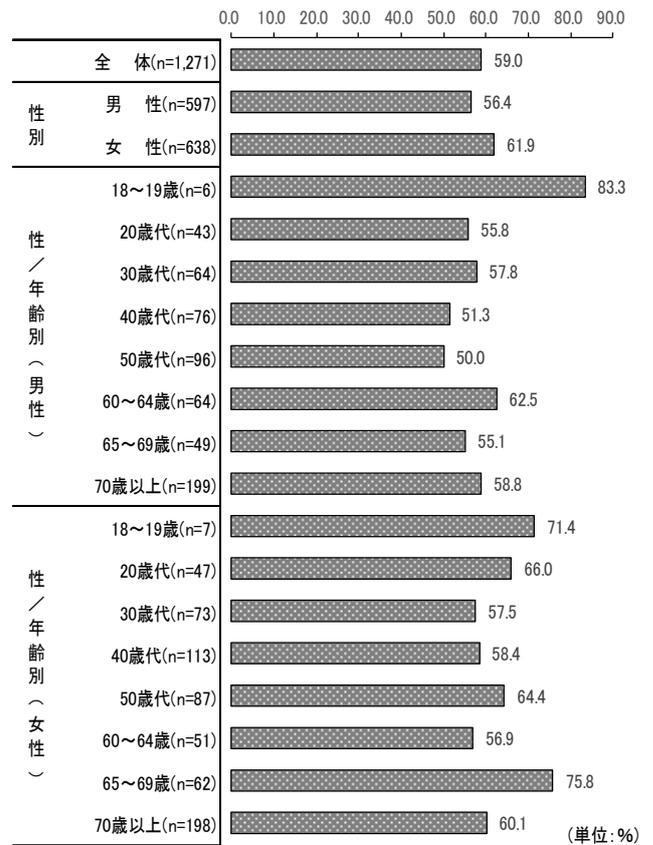
前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では4.7ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

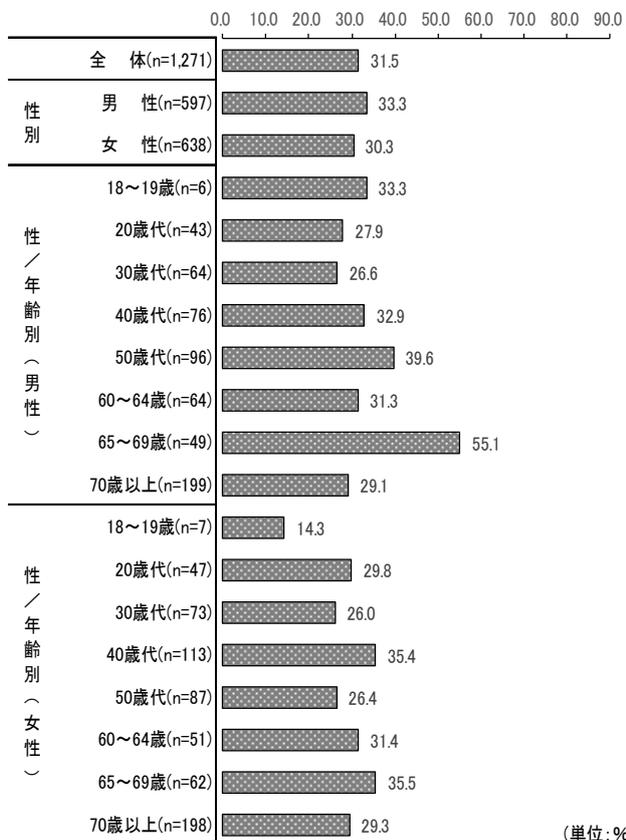
高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること



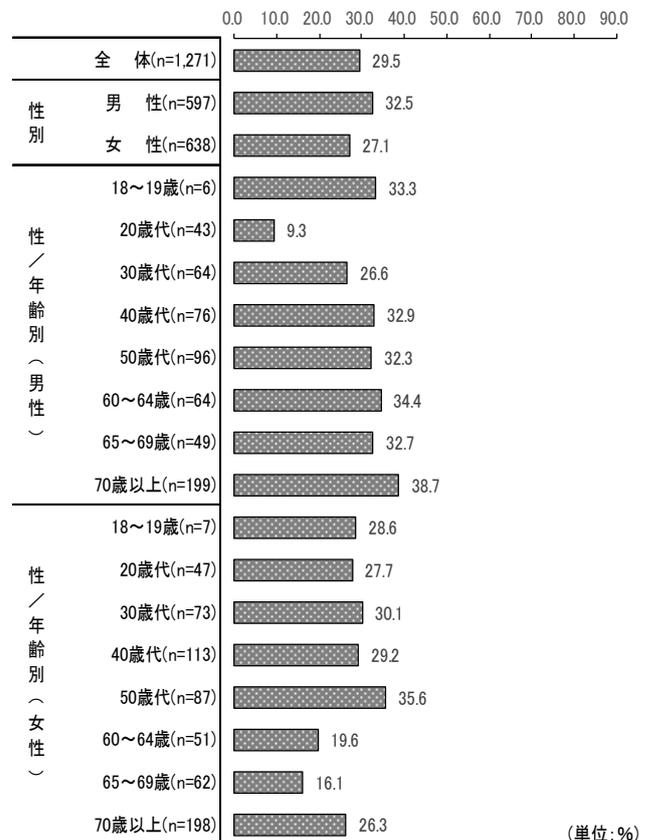
通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること



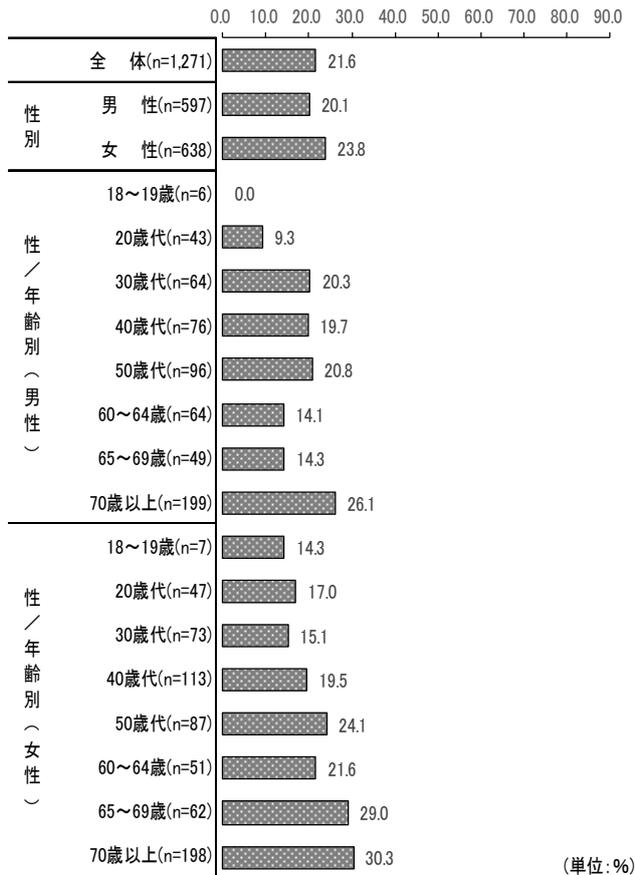
所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること



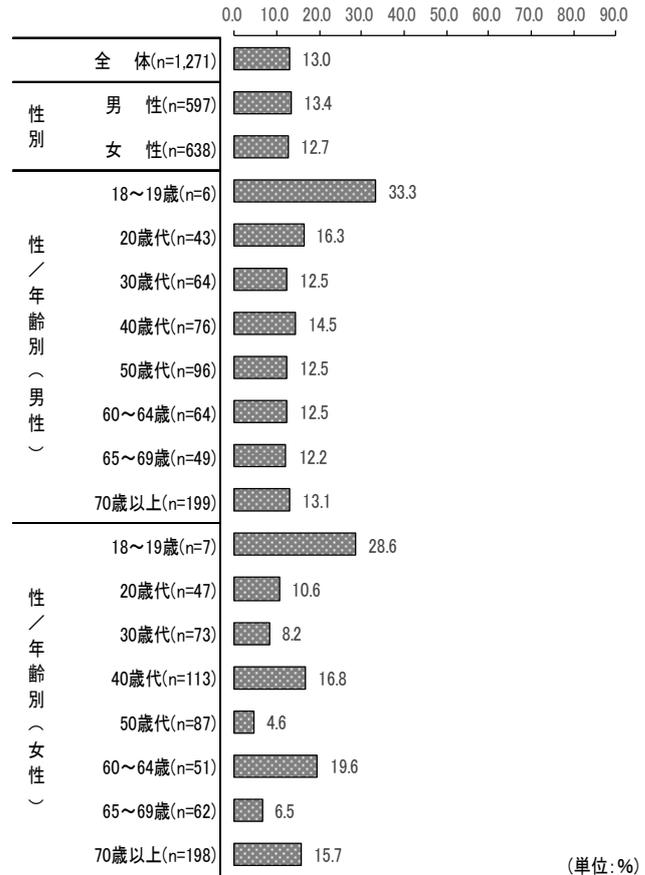
手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと



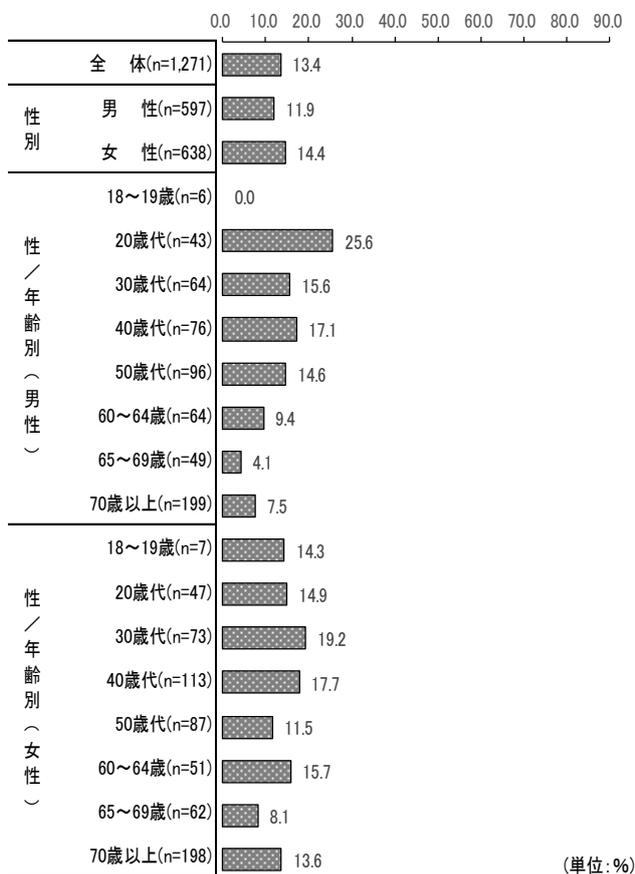
里山林で活動するボランティアの育成や、
地域での森づくり活動等への支援をすること



森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること



わからない

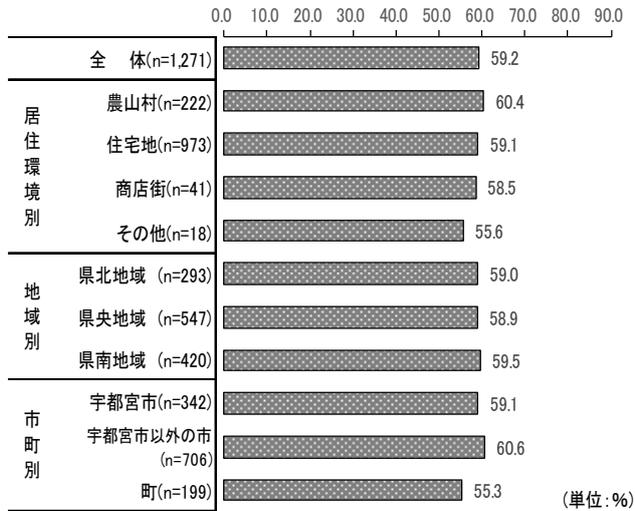


性別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性〉61.9%が、〈男性〉56.4%より5.5ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

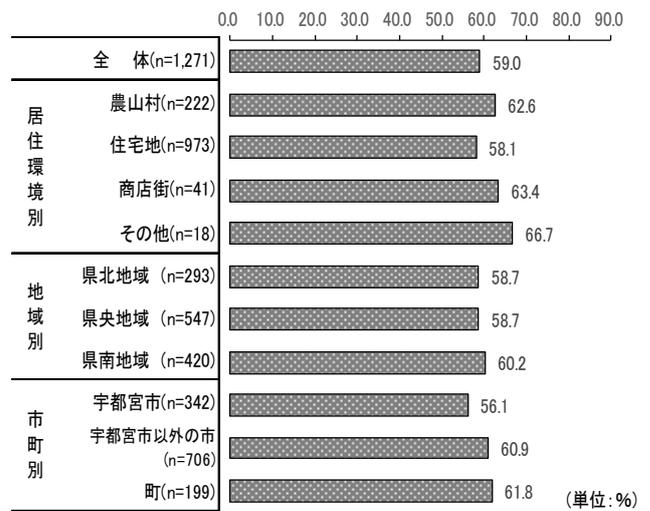
性／年齢別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈女性65～69歳〉80.6%が最も高く、〈女性20歳代〉と〈女性30歳代〉がともに約42%と低くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性65～69歳〉75.8%が高く、〈男性50歳代〉50.0%が最も低くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈男性65～69歳〉55.1%が最も高く、〈女性30歳代〉26.0%が低くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]

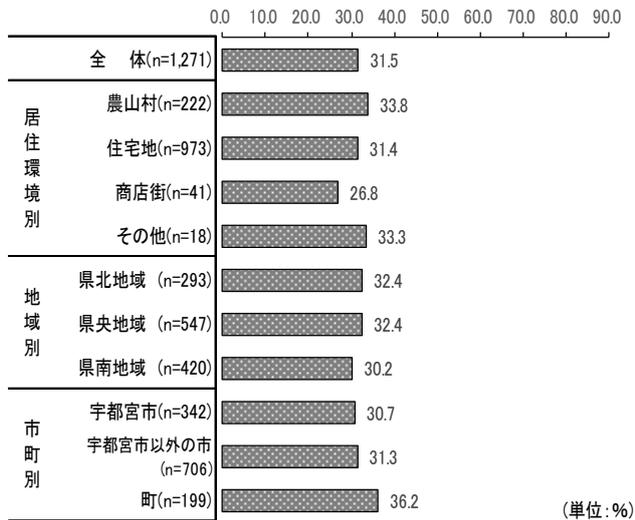
高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること



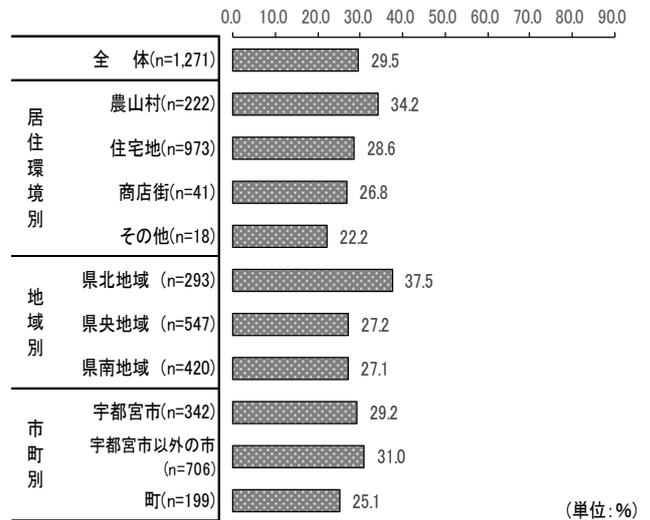
通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること



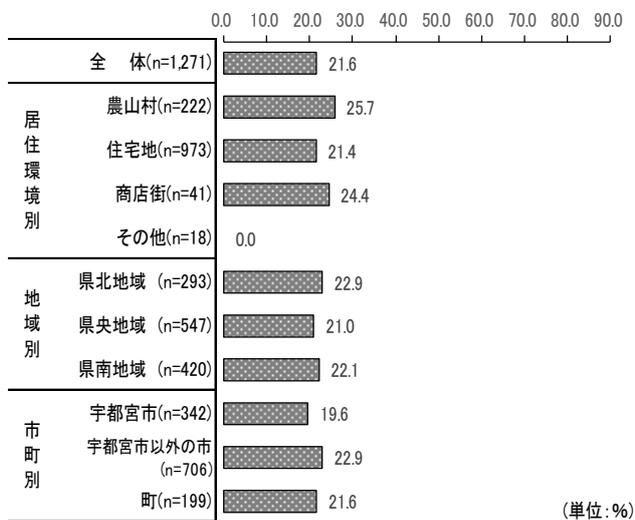
所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること



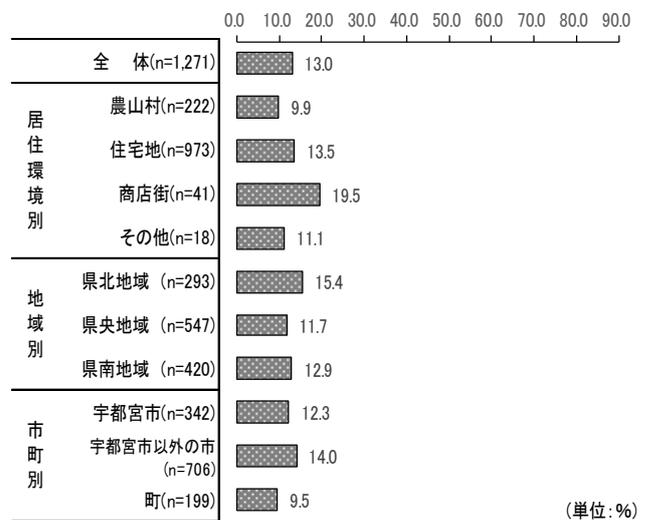
手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと

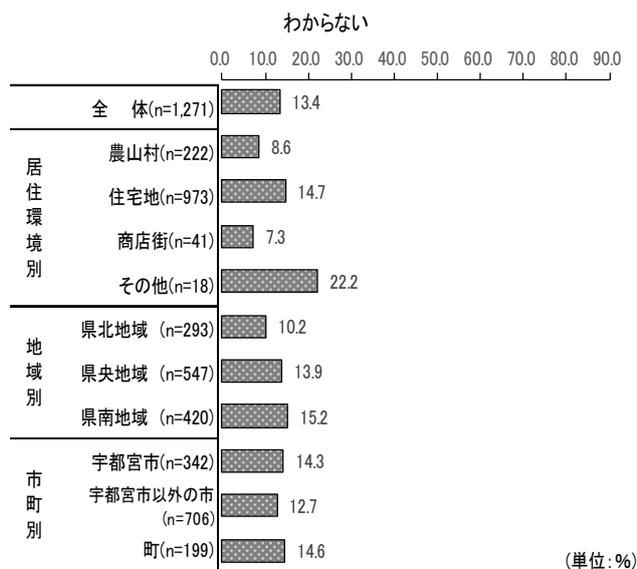


里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること



森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること





居住環境別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈農山村〉60.4%が最も高く、〈その他〉55.6%が最も低くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈その他〉66.7%が最も高く、〈住宅地〉58.1%が最も低くなっている。

地域別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では、すべての分類で約6割となっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈県南地域〉60.2%が最も高く、〈県北地域〉と〈県央地域〉がともに58.7%となっている。

市町別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈宇都宮市以外の市〉60.6%が最も高く、〈町〉55.3%が最も低くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈町〉61.8%が最も高く、〈宇都宮市〉56.1%が最も低くなっている。

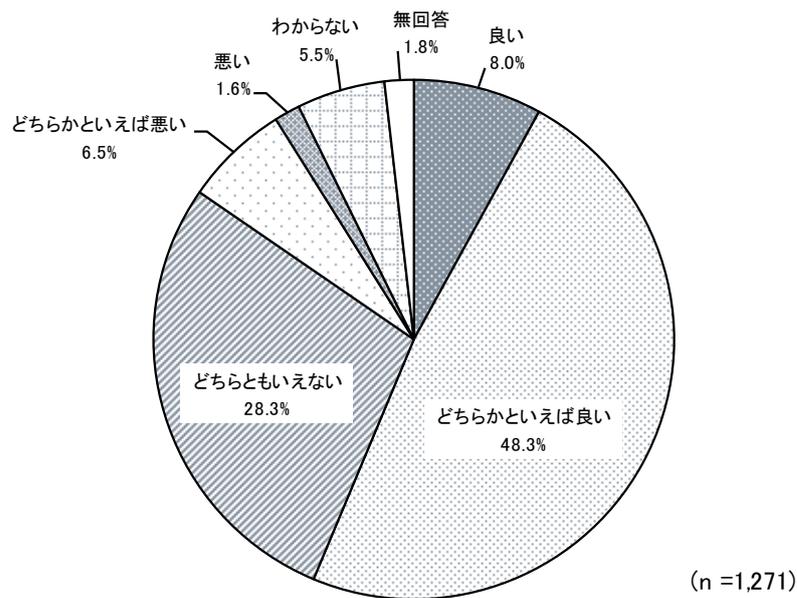
17 犯罪と治安対策について

(1) 県内の治安状況の変化

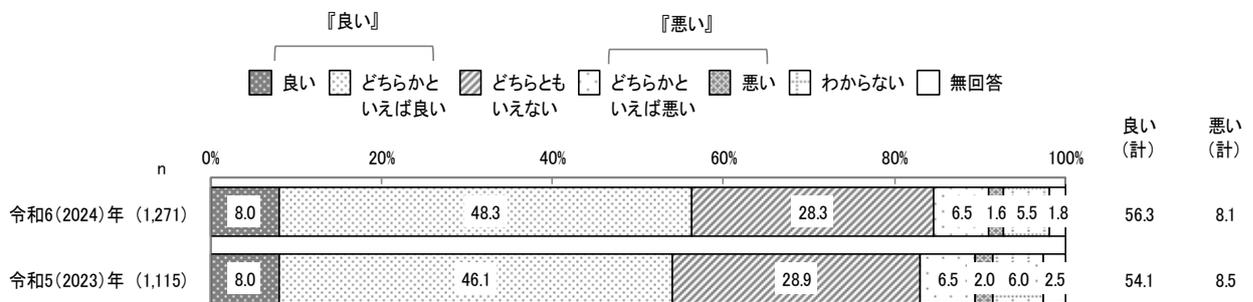
問39 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,271]

1 良い	8.0%	4	どちらかといえば悪い	6.5%
2 どちらかといえば良い	48.3	5	悪い	1.6
3 どちらともいえない	28.3	6	わからない	5.5
			(無回答)	1.8

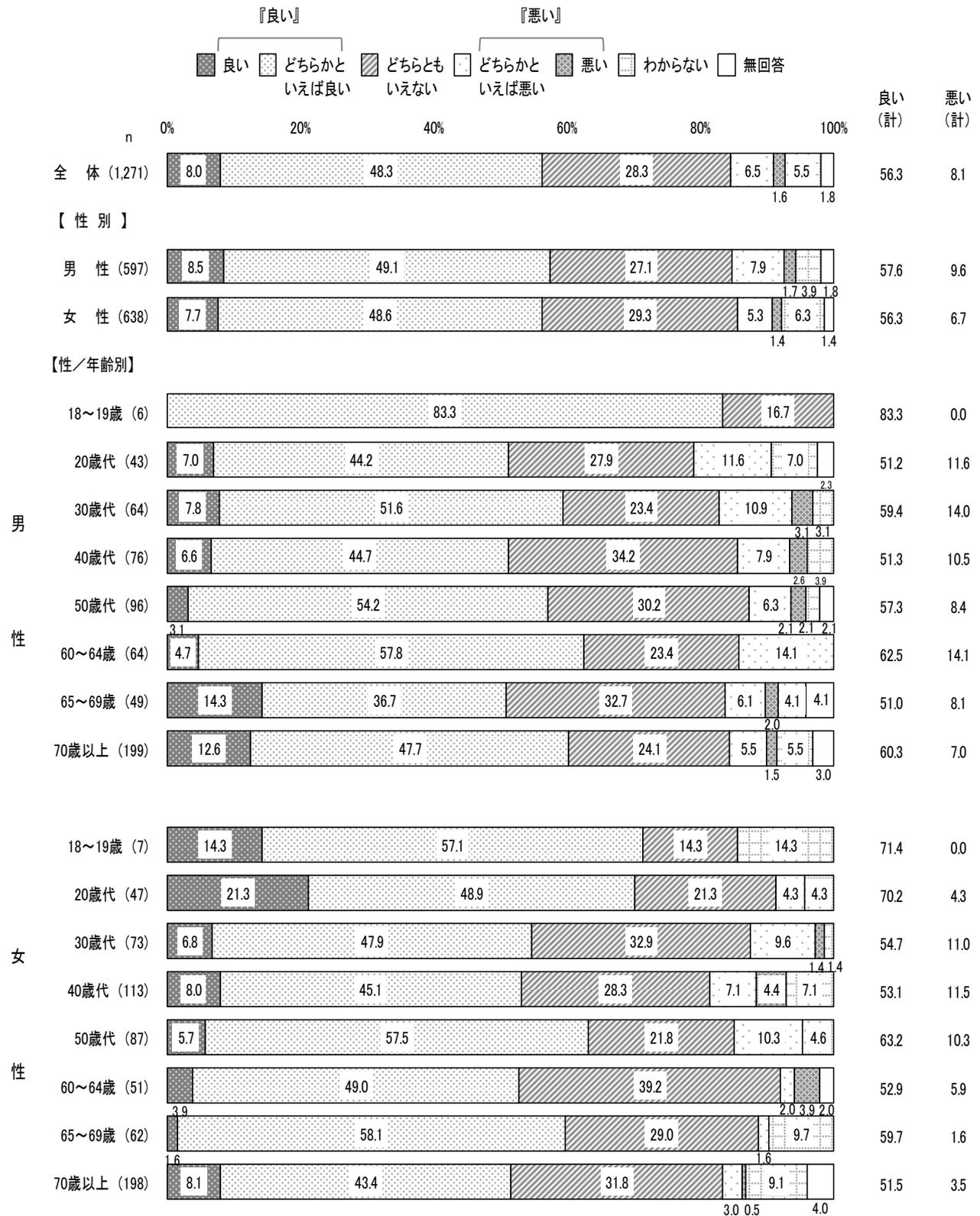


全体でみると、「良い」(8.0%)と「どちらかといえば良い」(48.3%)の2つを合わせた『良い』(56.3%)が5割台後半となっている。一方、「どちらかといえば悪い」(6.5%)と「悪い」(1.6%)の2つを合わせた『悪い』(8.1%)が1割弱となっている。また、「どちらともいえない」(28.3%)が3割弱となっている。



前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、『良い』では2.2ポイント高くなっている。

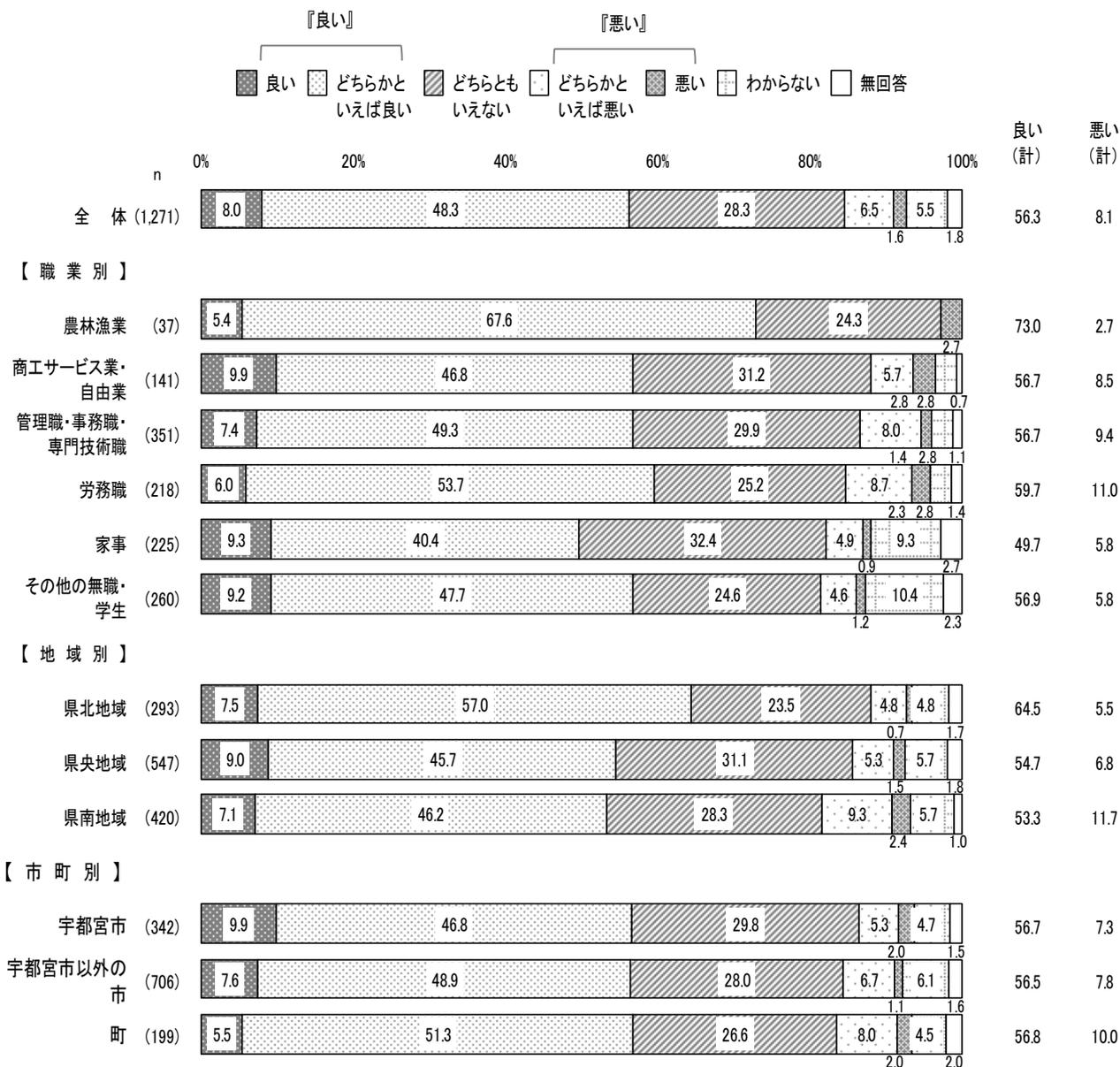
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『良い』では〈男性〉57.6%が、〈女性〉56.3%より1.3ポイント高くなっている。一方、『悪い』では〈男性〉9.6%が、〈女性〉6.7%より2.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『良い』では〈女性20歳代〉70.2%が高くなっている。一方、『悪い』では〈男性30歳代〉と〈男性60~64歳〉がともに約14%で高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『良い』では〈農林漁業〉73.0%が最も高くなっている。一方、『悪い』では〈労務職〉11.0%が最も高くなっている。

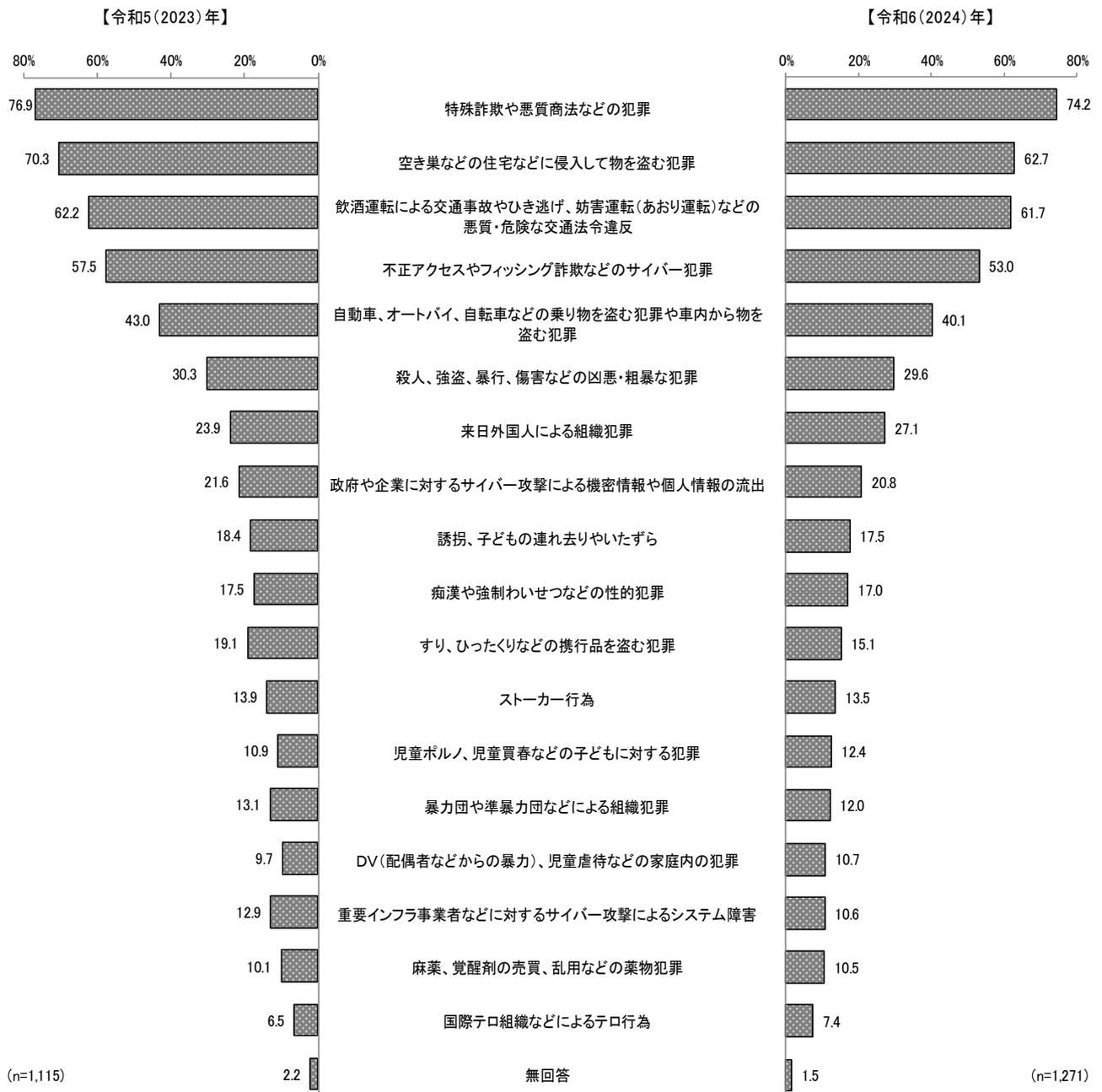
地域別でみると、『良い』では〈県北地域〉64.5%が最も高くなっている。一方、『悪い』では〈県南地域〉11.7%が最も高くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 不安に感じる犯罪

問40 社会が変化する中、あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安になる犯罪などは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,271]

1	特殊詐欺や悪質商法などの犯罪	74.2%
2	不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪	53.0
3	飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反	61.7
4	殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪	29.6
5	空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪	62.7
6	自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪	40.1
7	政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出	20.8
8	DV（配偶者などからの暴力）、児童虐待などの家庭内の犯罪	10.7
9	誘拐、子どもの連れ去りやいたずら	17.5
10	麻薬、覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪	10.5
11	来日外国人による組織犯罪	27.1
12	すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪	15.1
13	児童ポルノ、児童買春などの子どもに対する犯罪	12.4
14	痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪	17.0
15	重要インフラ事業者などに対するサイバー攻撃によるシステム障害	10.6
16	ストーカー行為	13.5
17	国際テロ組織などによるテロ行為	7.4
18	暴力団や準暴力団などによる組織犯罪	12.0
	(無回答)	1.5

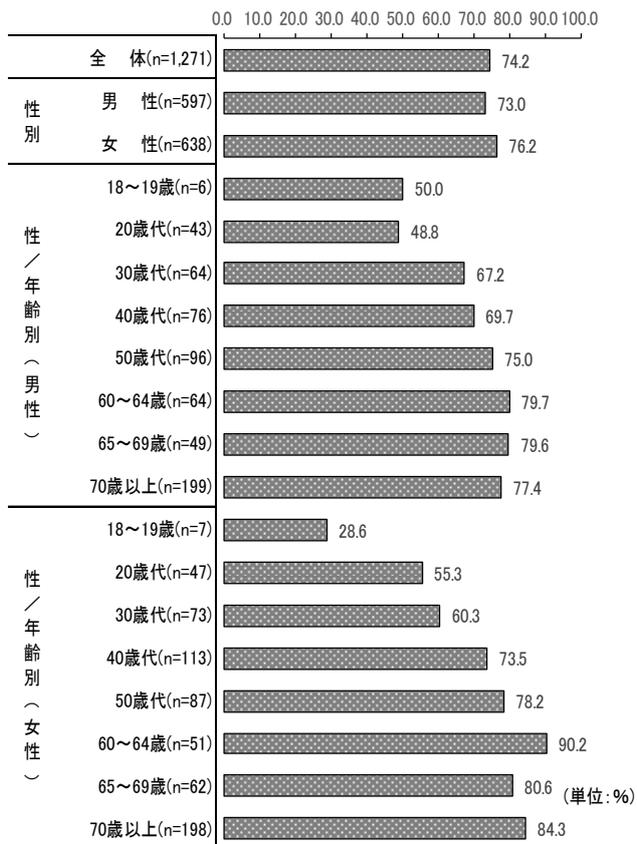


全体で見ると、「特殊詐欺や悪質商法などの犯罪」(74.2%)が7割半ばで最も高く、次いで「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」(62.7%)、「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転(あおり運転)などの悪質・危険な交通法令違反」(61.7%)、「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」(53.0%)、「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」(40.1%)の順となっている。

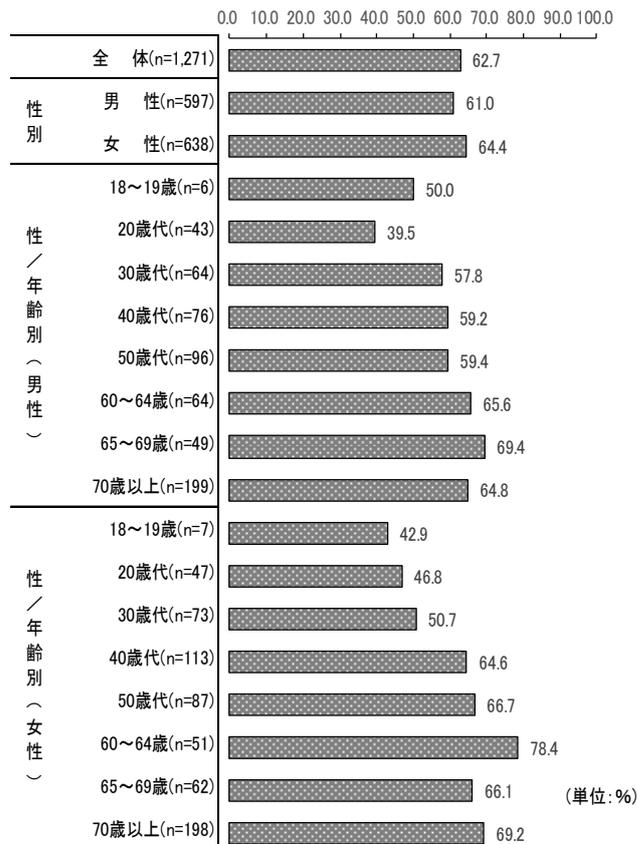
前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」では7.6ポイント減少している。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

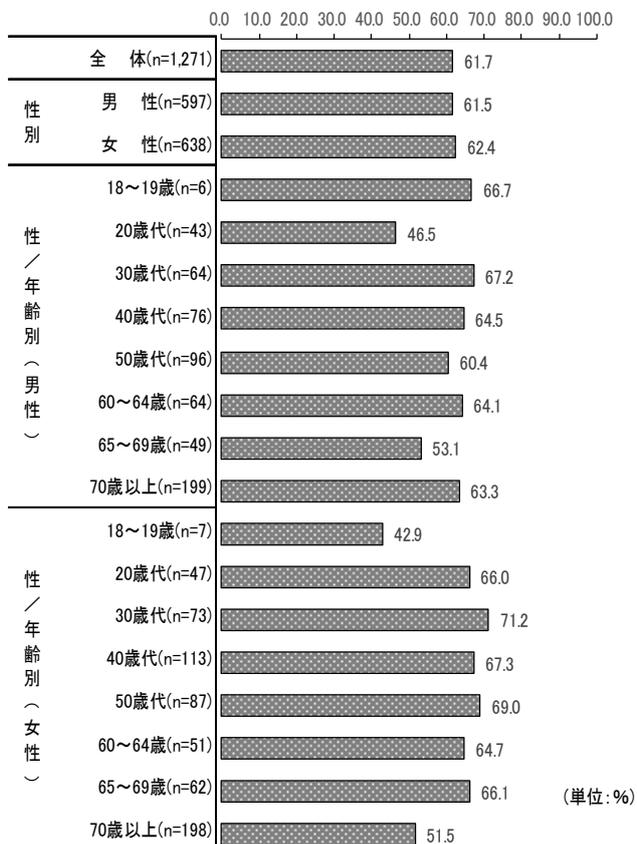
特殊詐欺や悪質商法などの犯罪



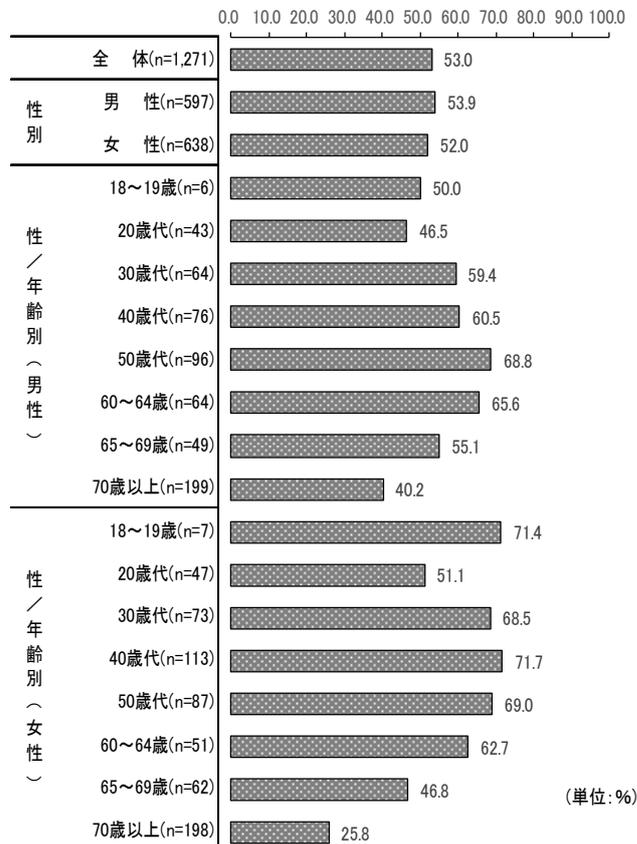
空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪



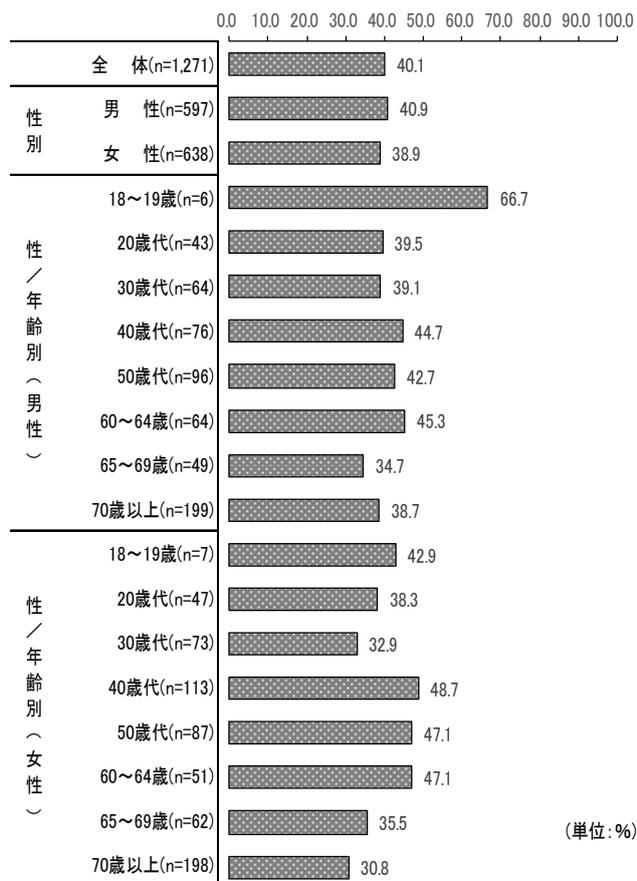
飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転(あおり運転)などの悪質・危険な交通法令違反



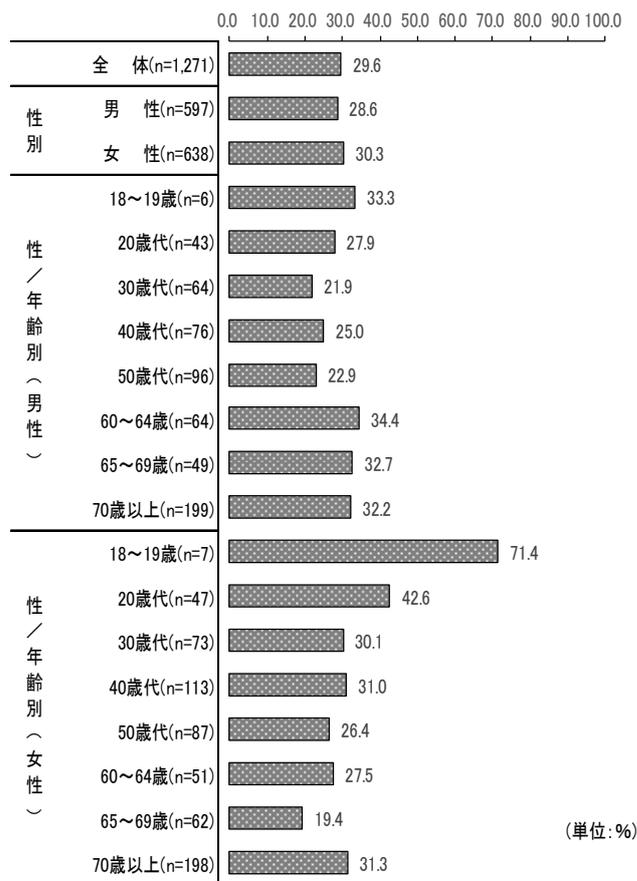
不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪



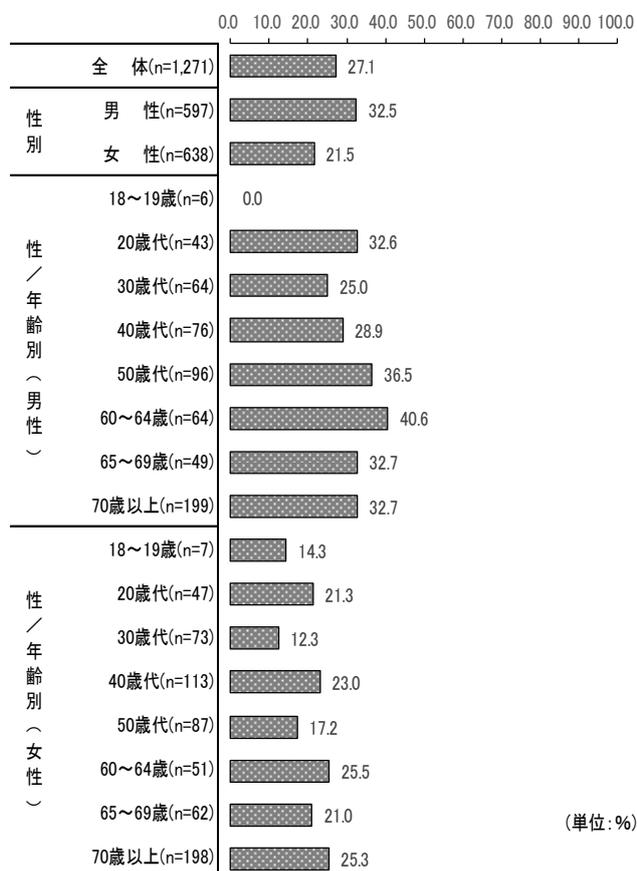
自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む
犯罪や車内から物を盗む犯罪



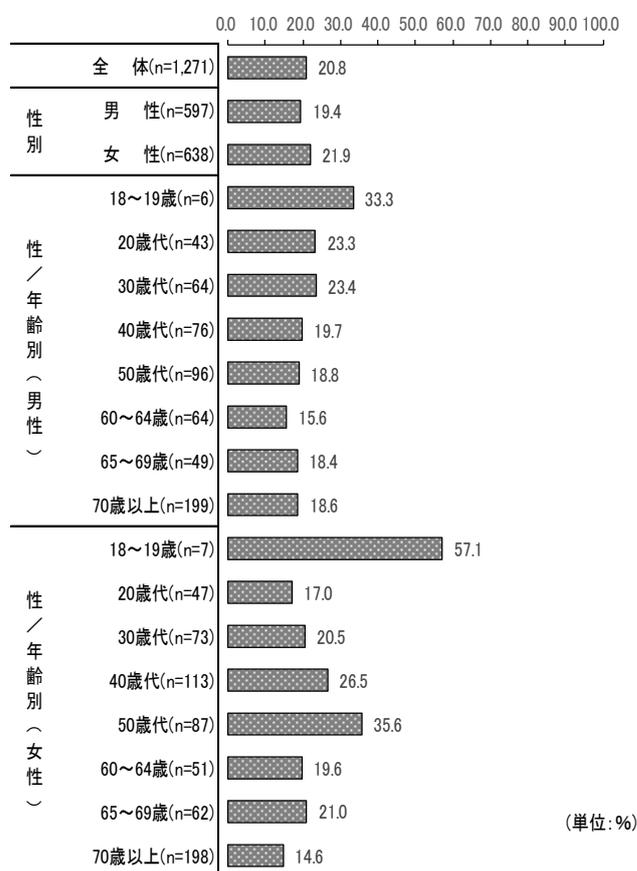
殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪



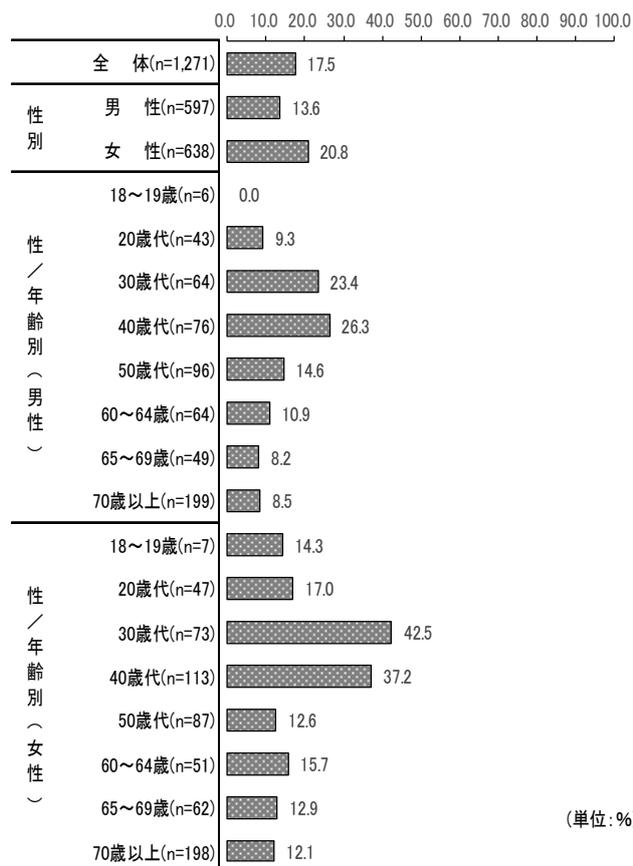
来日外国人による組織犯罪



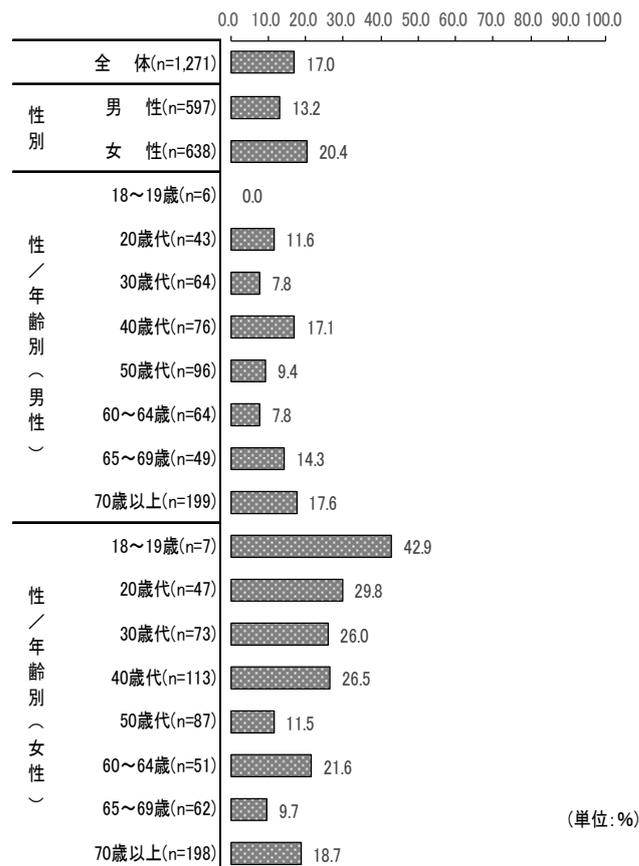
政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出



誘拐、子どもの連れ去りやいたずら



痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪

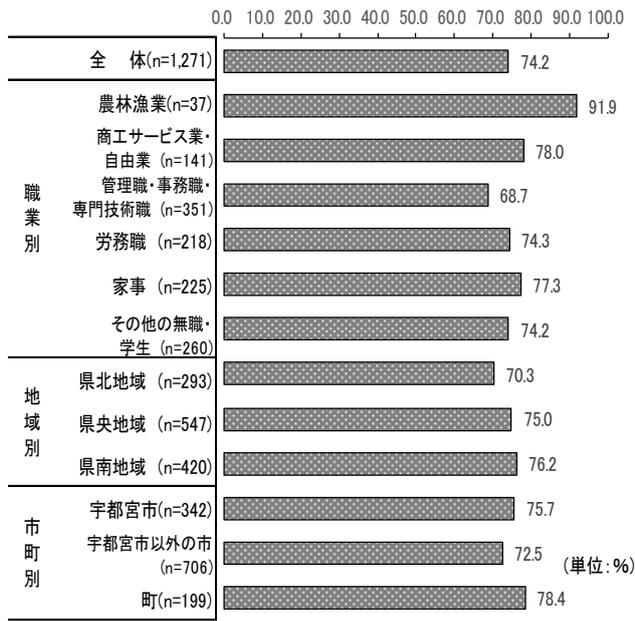


性別で見ると、「来日外国人による組織犯罪」では〈男性〉32.5%が、〈女性〉21.5%より11.0ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

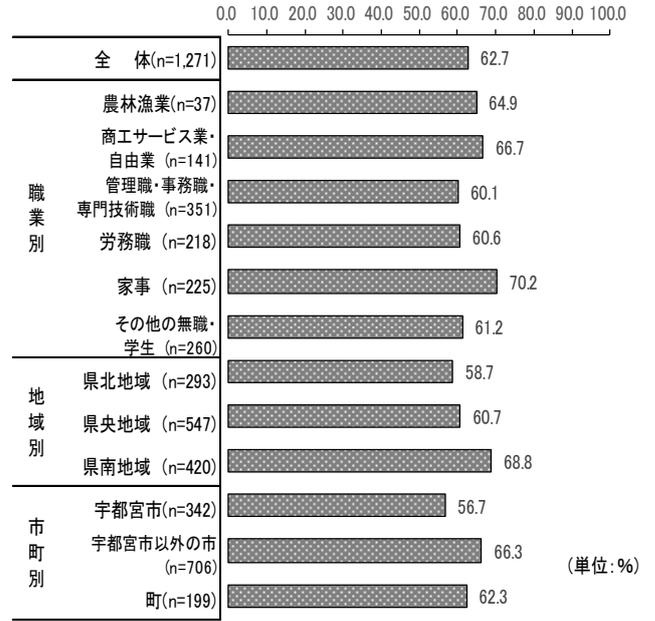
性/年齢別で見ると、「特殊詐欺や悪質商法などの犯罪」では〈女性60~64歳〉90.2%が最も高く、〈男性20歳代〉48.8%が低くなっている。「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」では〈女性60~64歳〉78.4%が最も高く、〈男性20歳代〉39.5%が最も低くなっている。「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」では〈女性30歳代〉71.2%が最も高く、〈男性20歳代〉46.5%が低くなっている。

[職業別・地域別・市町別] (上位10項目)

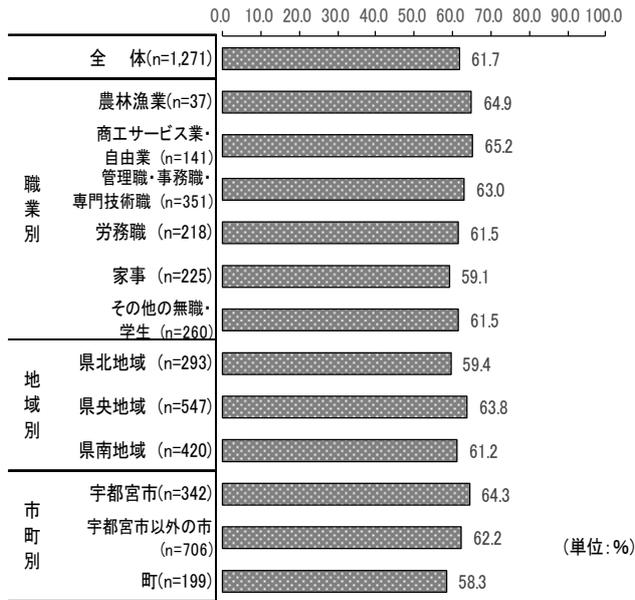
特殊詐欺や悪質商法などの犯罪



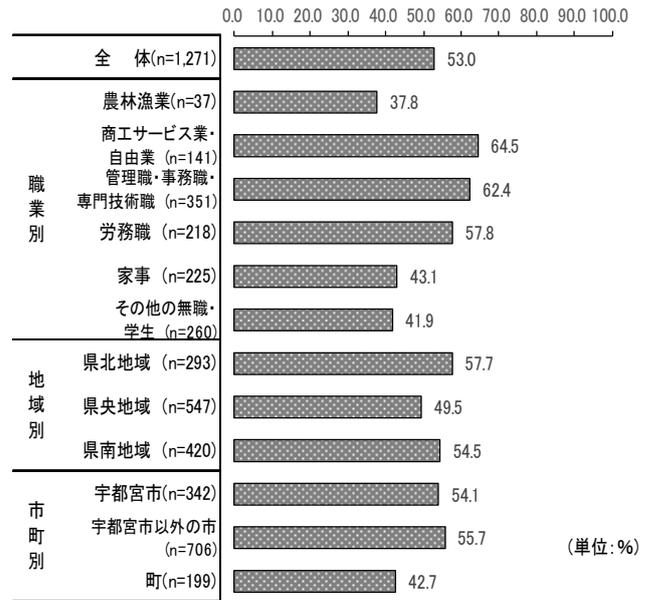
空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪



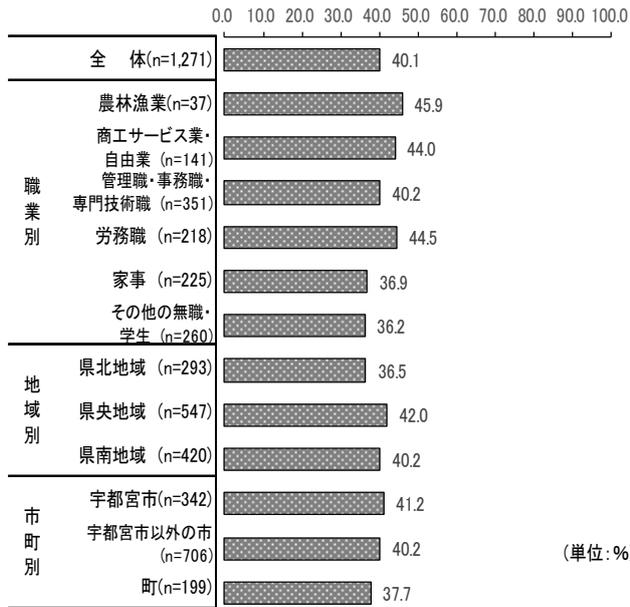
飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転(あおり運転)などの悪質・危険な交通法令違反



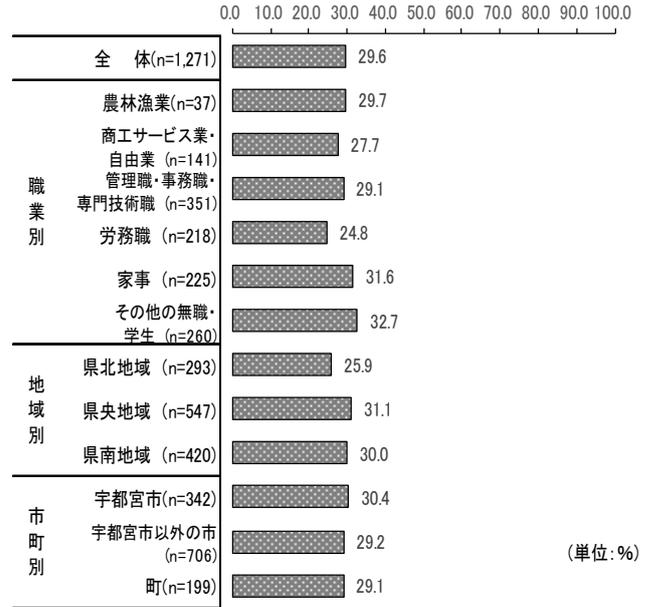
不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪



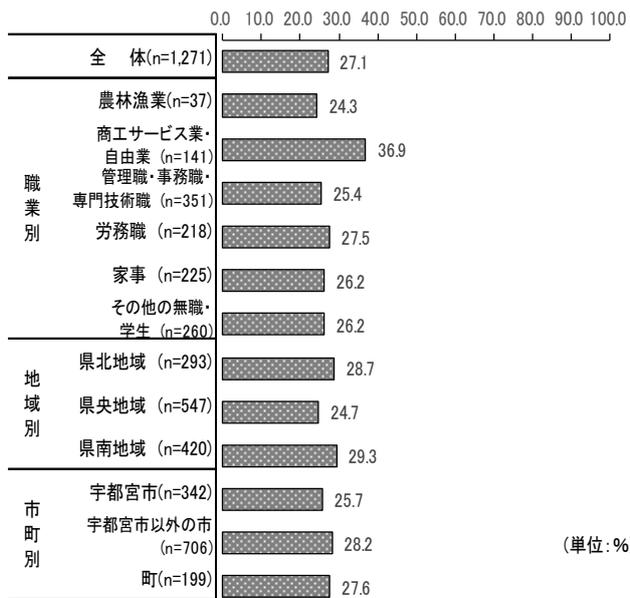
自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む
犯罪や車内から物を盗む犯罪



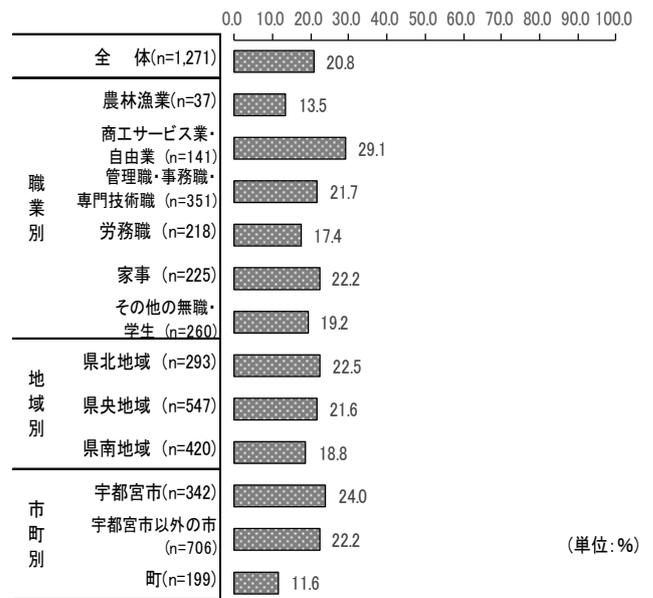
殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪



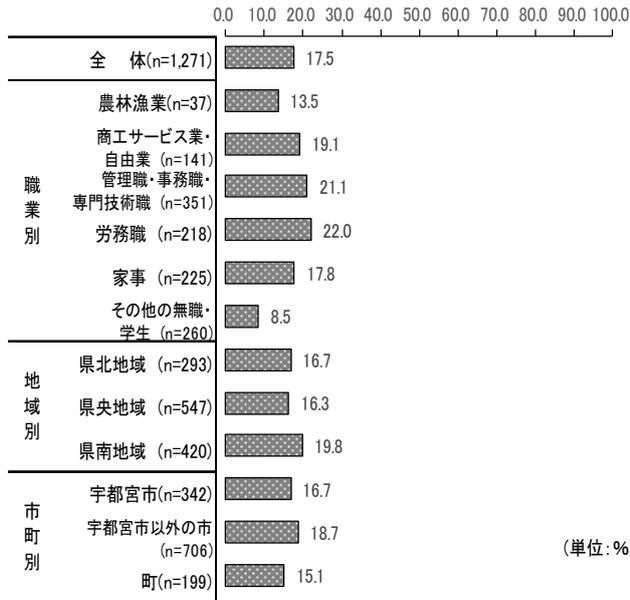
来日外国人による組織犯罪



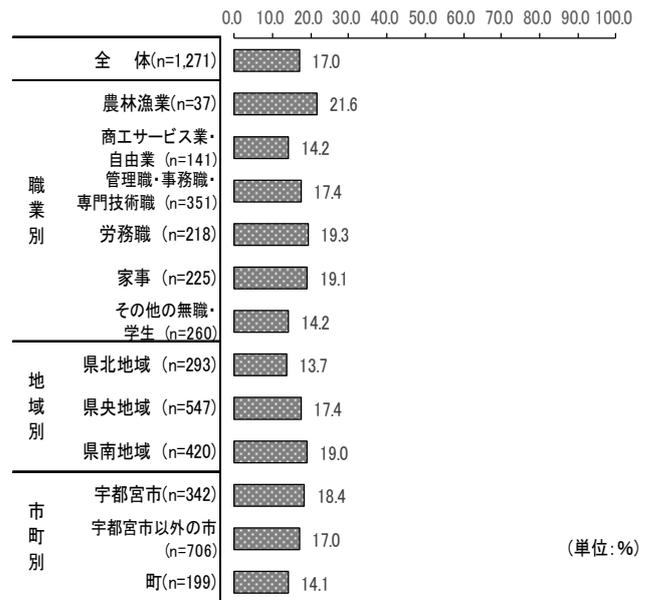
政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出



誘拐、子どもの連れ去りやいたずら



痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪



職業別でみると、「特殊詐欺や悪質商法などの犯罪」では〈農林漁業〉91.9%が最も高く、〈管理職・事務職・専門技術職〉68.7%が最も低くなっている。「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」では〈家事〉70.2%が最も高く、〈管理職・事務職・専門技術職〉60.1%が最も低くなっている。「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」では〈商工サービス業・自由業〉65.2%が最も高く、〈家事〉59.1%が最も低くなっている。

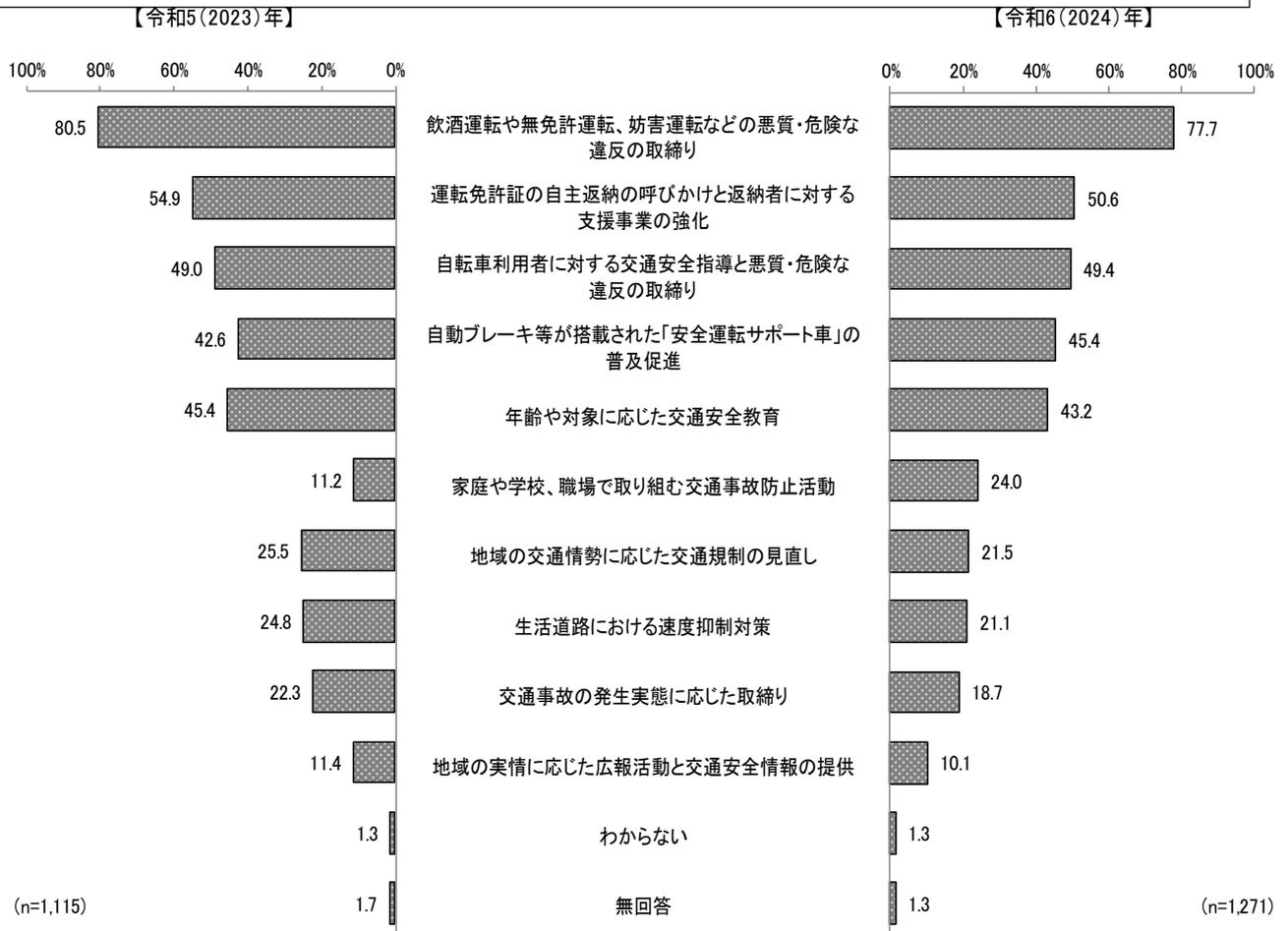
地域別でみると、「特殊詐欺や悪質商法などの犯罪」ではすべての分類で7割台となっている。「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」では〈県南地域〉68.8%が最も高く、〈県北地域〉58.7%が最も低くなっている。「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」では〈県央地域〉63.8%が最も高く、〈県北地域〉59.4%が最も低くなっている。

市町別でみると、「特殊詐欺や悪質商法などの犯罪」ではすべての分類で7割台となっている。「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」では〈宇都宮市以外の市〉66.3%が最も高く、〈宇都宮市〉56.7%が最も低くなっている。「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」では〈宇都宮市〉64.3%が最も高く、〈町〉58.3%が最も低くなっている。

(3) 交通事故抑止対策

問41 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。次の中からいくつか選んでください。 [n = 1, 271]

1	飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り	77.7%
2	年齢や対象に応じた交通安全教育	43.2
3	自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り	49.4
4	運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化	50.6
5	自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進	45.4
6	地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し	21.5
7	地域の实情に応じた広報活動と交通安全情報の提供	10.1
8	生活道路における速度抑制対策	21.1
9	交通事故の発生実態に応じた取締り	18.7
10	家庭や学校、職場で取り組む交通事故防止活動	24.0
11	わからない	1.3
	(無回答)	1.3

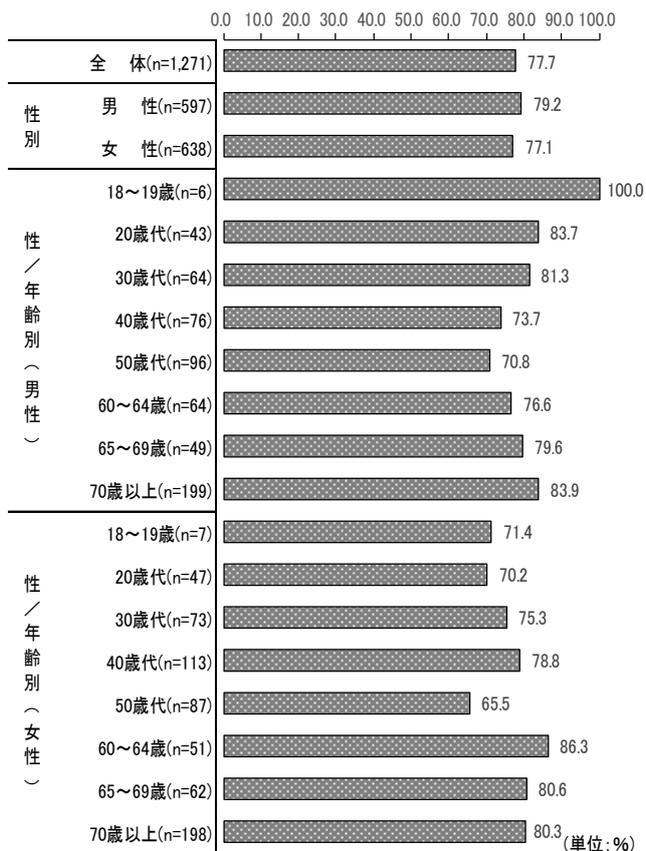


全体でみると、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」（77.7%）が7割台後半で最も高くなっている。次いで、「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」（50.6%）、「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」（49.4%）、「自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進」（45.4%）、「年齢や対象に応じた交通安全教育」（43.2%）の順となっている。

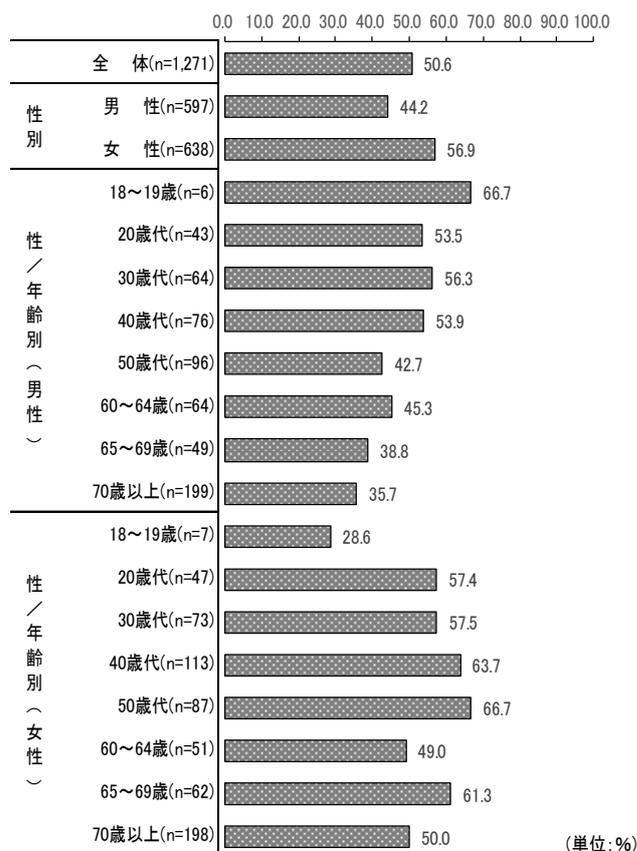
前回（令和5（2023）年）の調査結果と比較すると、「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では4.3ポイント減少している。一方、「家庭や学校、職場で取り組む交通事故防止活動」では12.8ポイント増加している。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

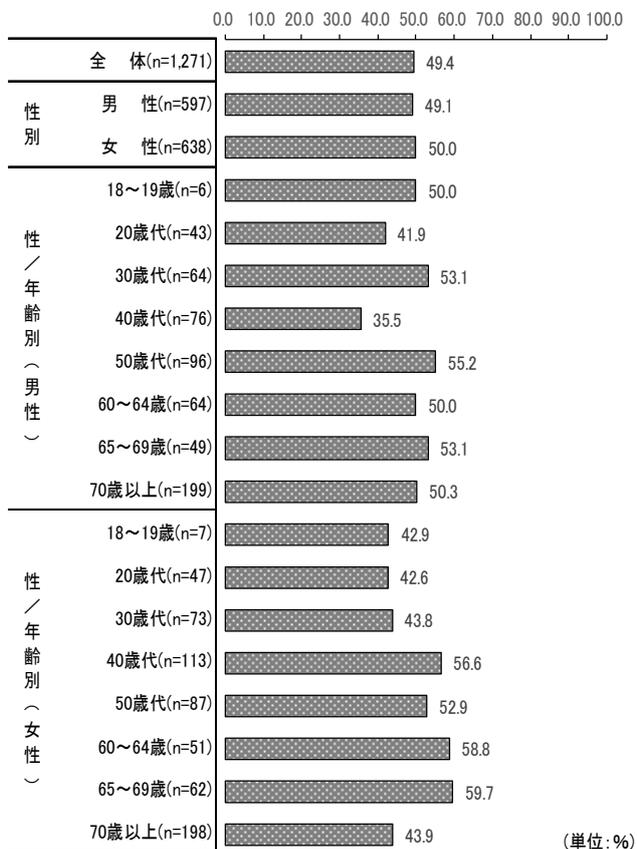
飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り



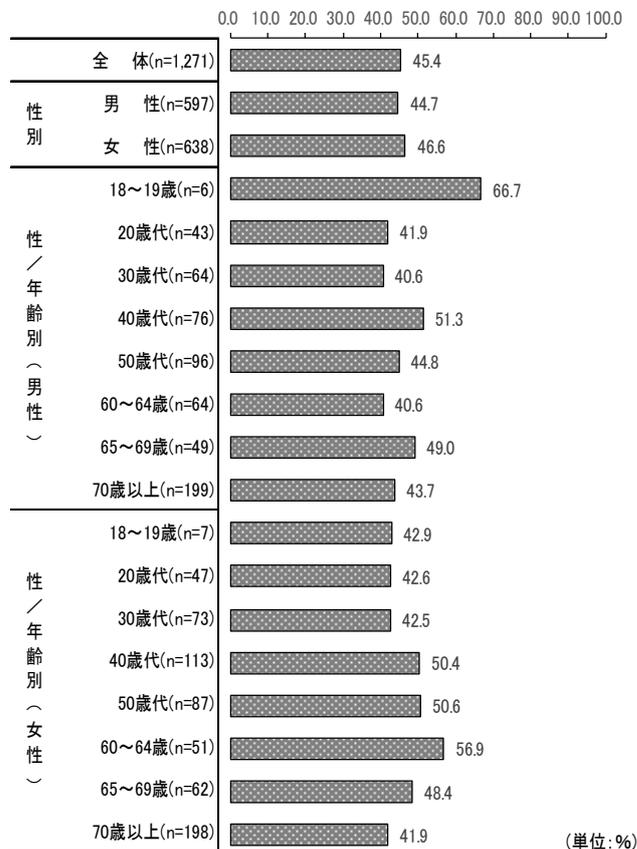
運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化



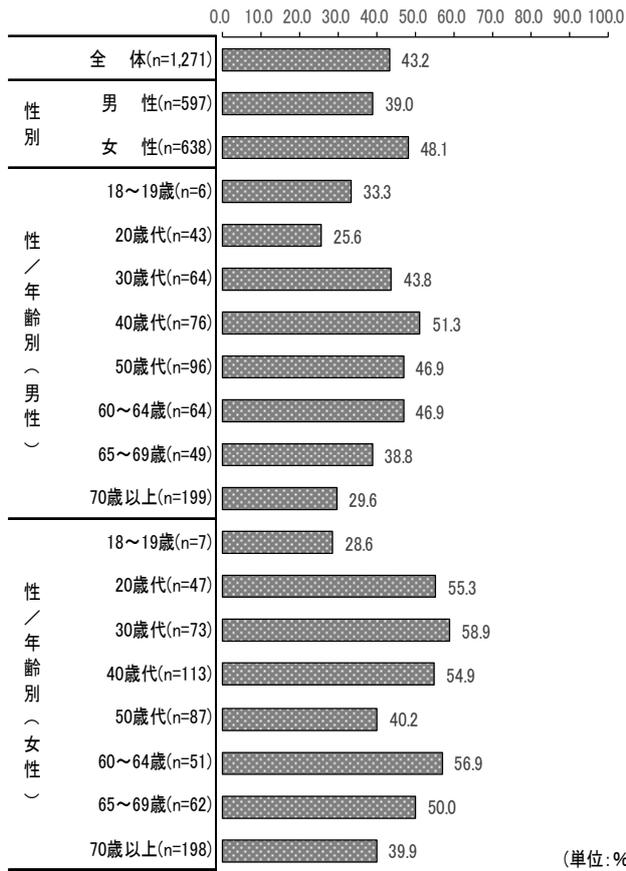
自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り



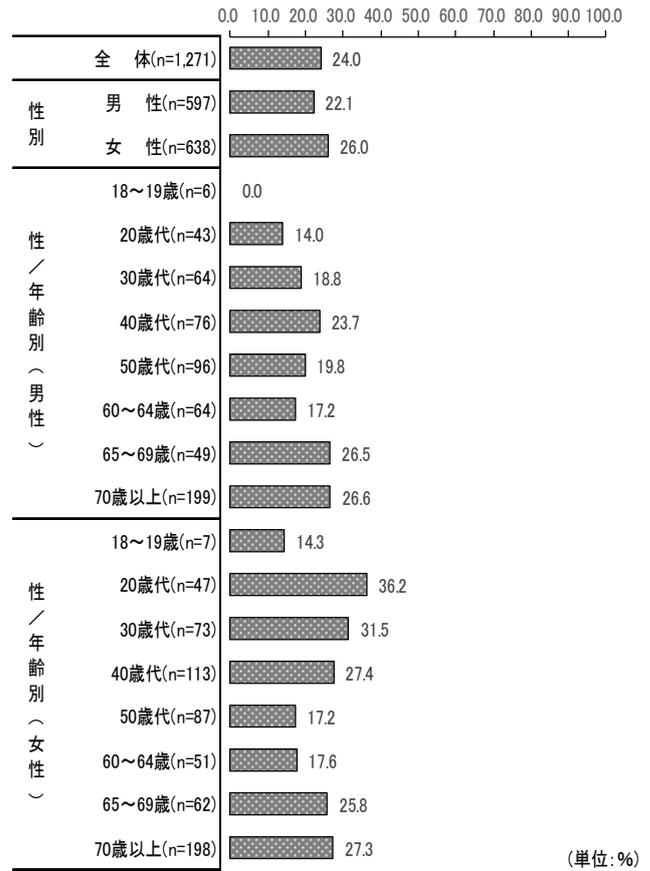
自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進



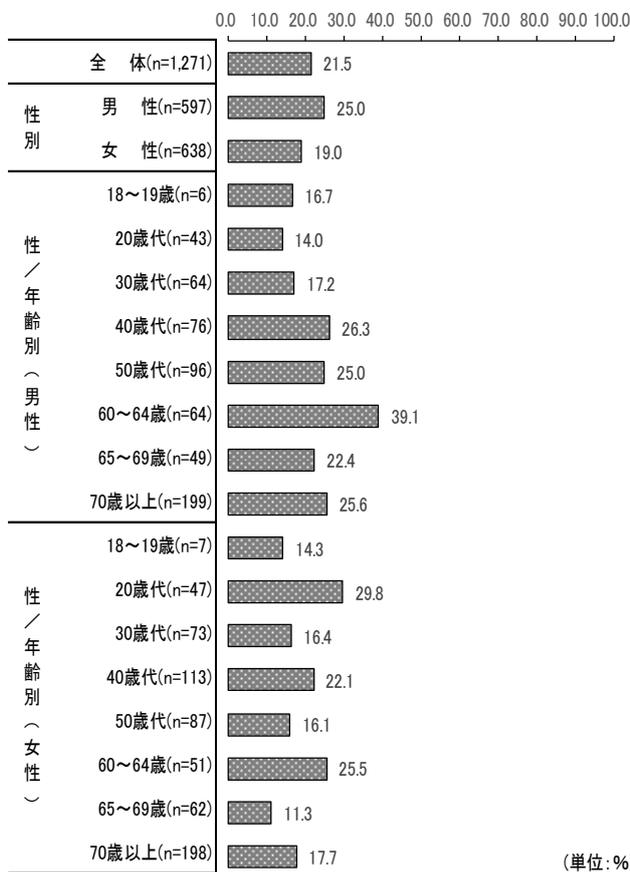
年齢や対象に応じた交通安全教育



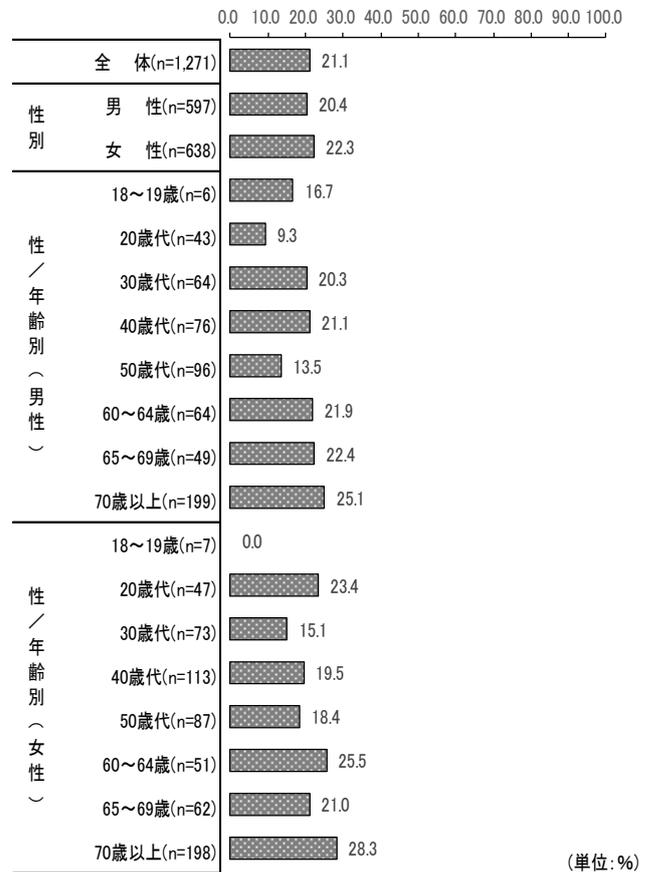
家庭や学校、職場で取り組む交通事故防止活動



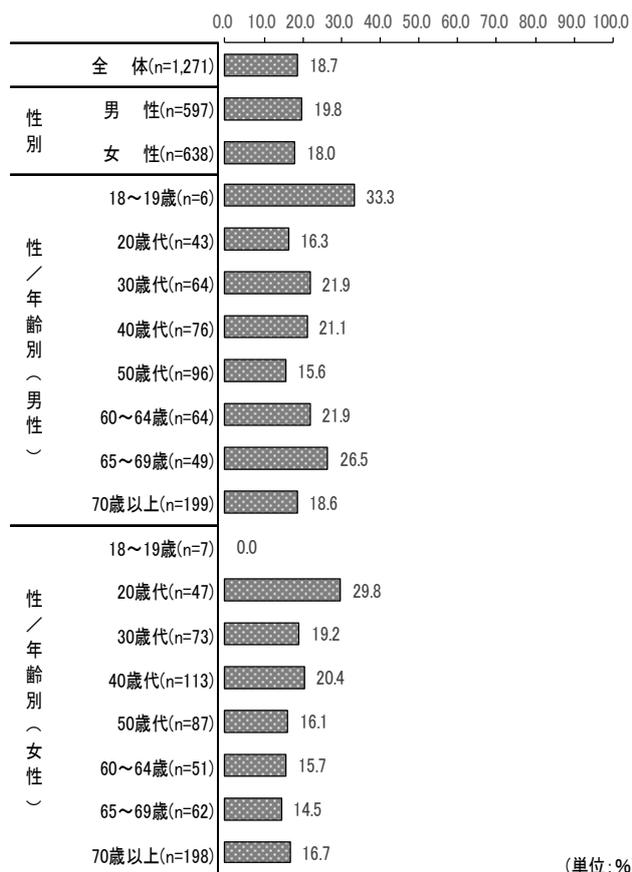
地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し



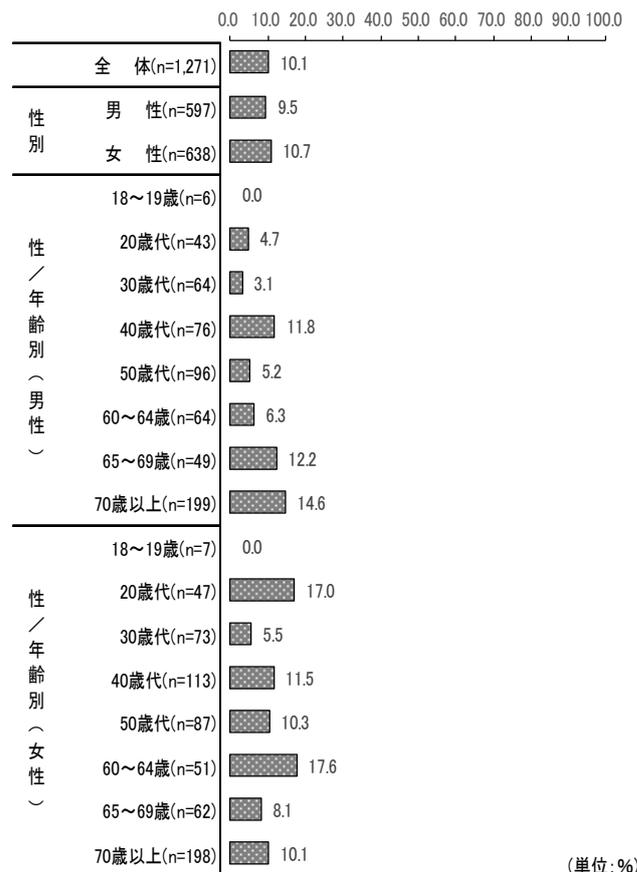
生活道路における速度抑制対策



交通事故の発生実態に応じた取締り



地域の実情に応じた広報活動と交通安全情報の提供

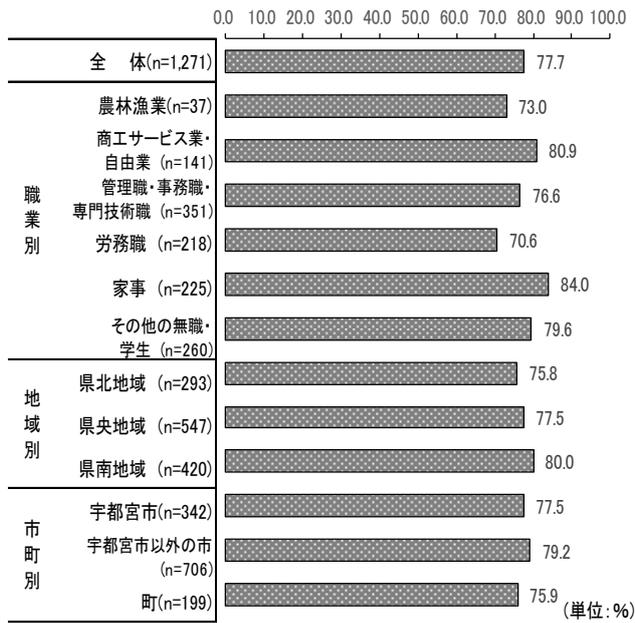


性別で見ると、「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では〈女性〉56.9%が、〈男性〉44.2%より12.7ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

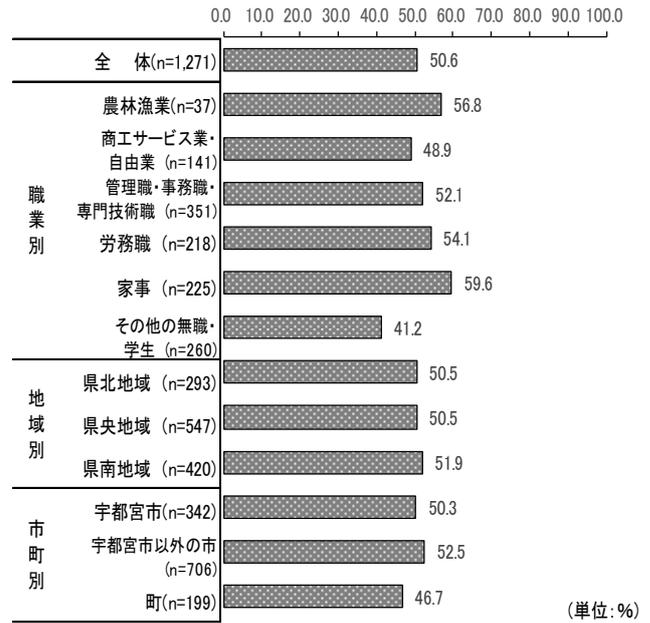
性/年齢別で見ると、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」では〈女性60~64歳〉86.3%が高く、〈女性50歳代〉65.5%が最も低くなっている。「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では〈女性50歳代〉66.7%が最も高く、〈男性70歳以上〉35.7%が低くなっている。「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」〈女性65~69歳〉59.7%が最も高く、〈男性40歳代〉35.5%が最も低くなっている。

[職業別・地域別・市町別] (上位10項目)

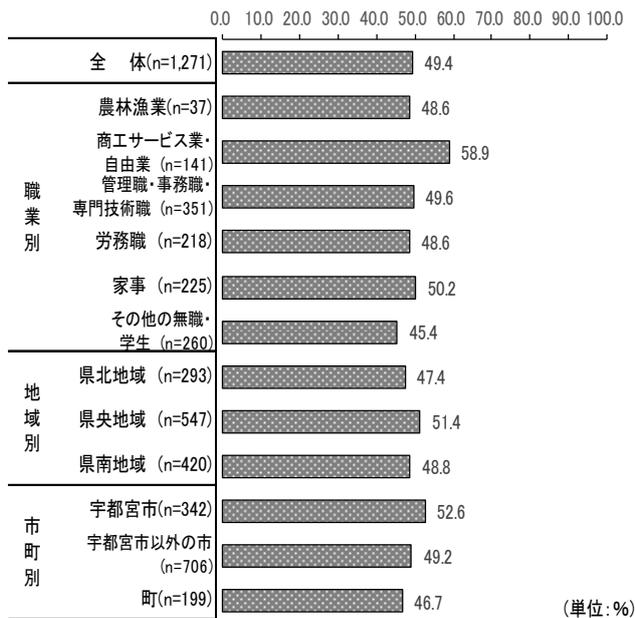
飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り



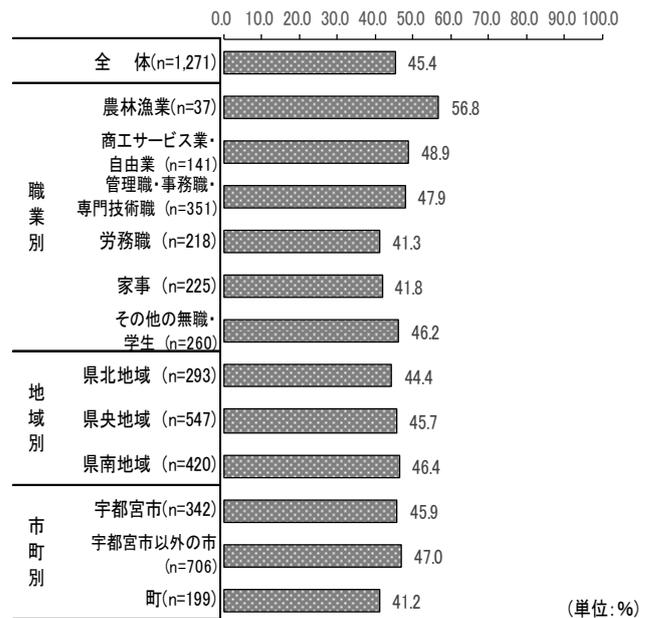
運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化



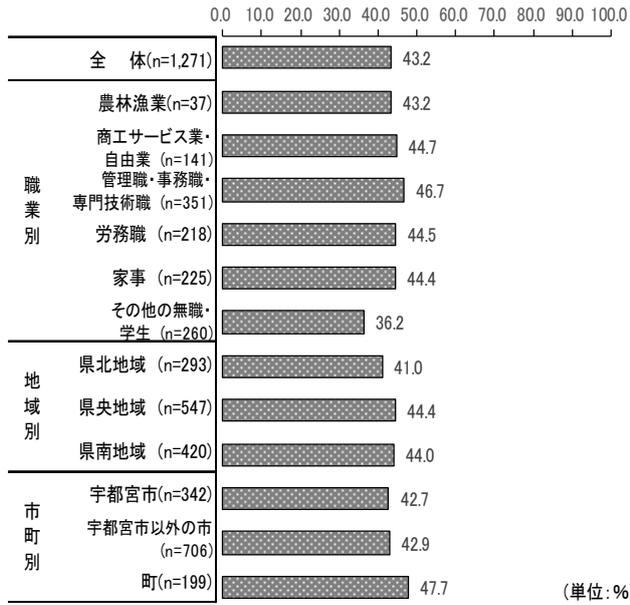
自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り



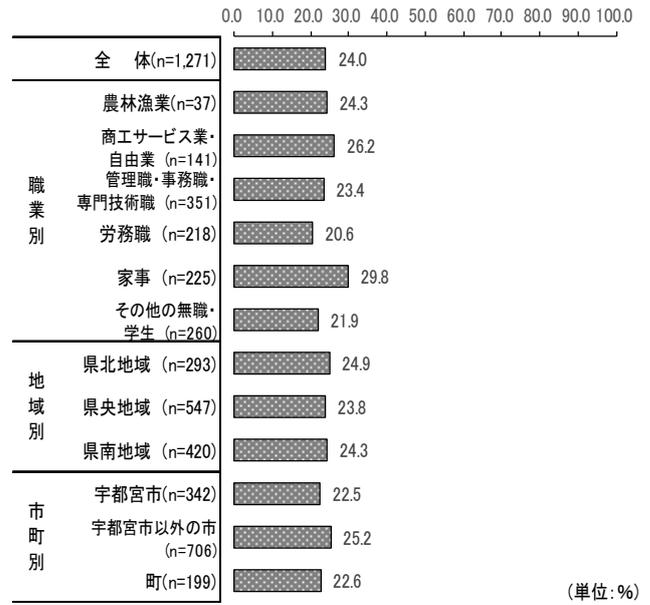
自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進



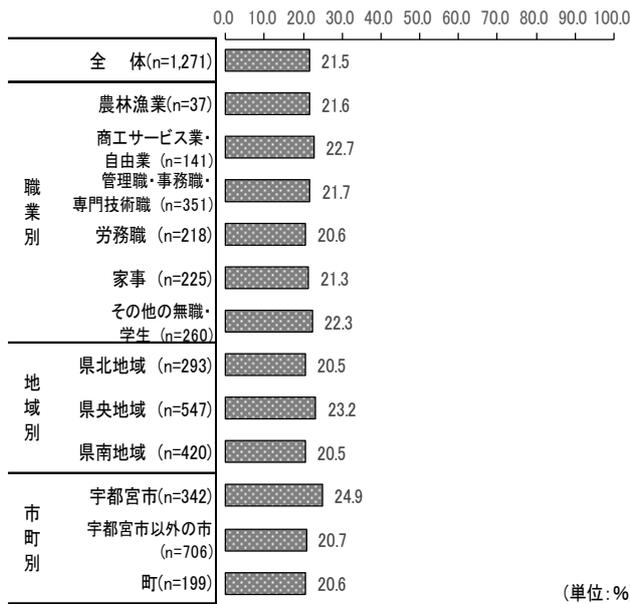
年齢や対象に応じた交通安全教育



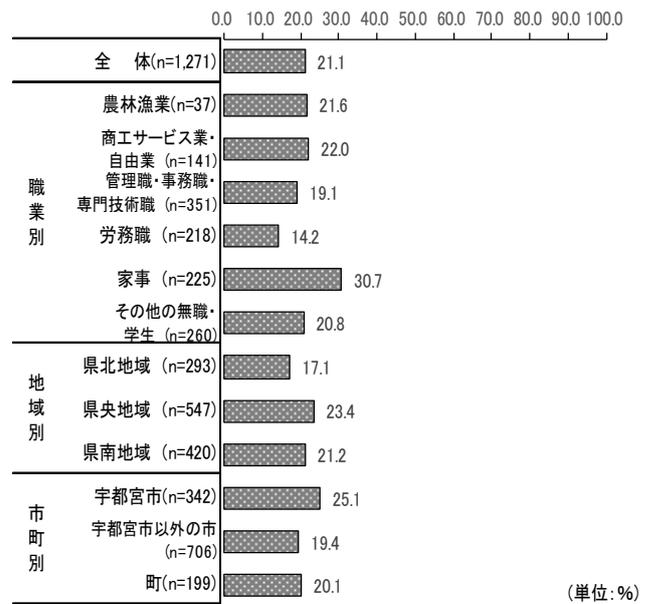
家庭や学校、職場で取り組む交通事故防止活動



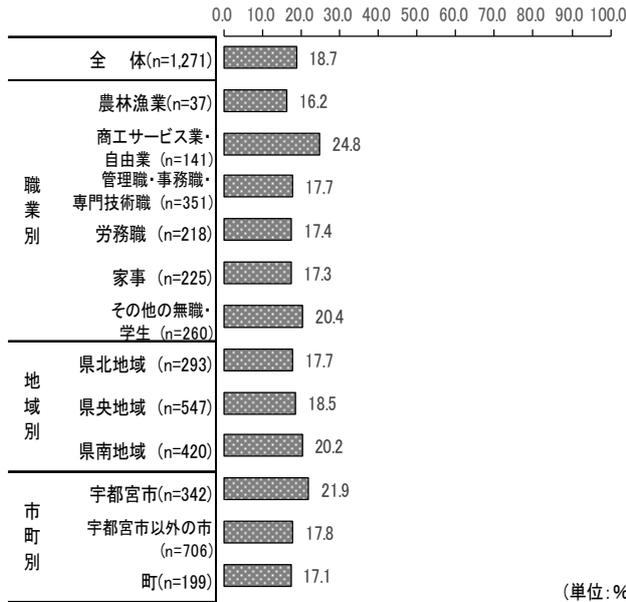
地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し



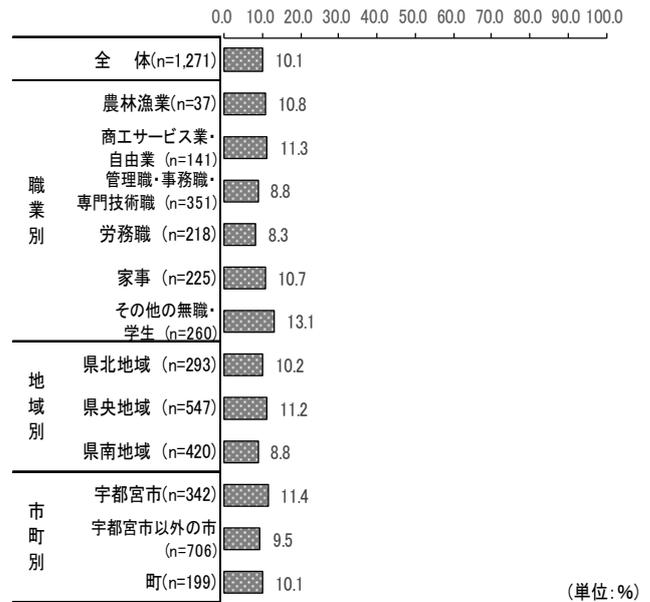
生活道路における速度抑制対策



交通事故の発生実態に応じた取締り



地域の実情に応じた広報活動と交通安全情報の提供



職業別でみると、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」では〈家事〉84.0%が最も高く、〈労務職〉70.6%が最も低くなっている。「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では〈家事〉59.6%が最も高く、〈その他の無職・学生〉41.2%が最も低くなっている。「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」では〈商工サービス業・自由業〉58.9%が最も高く、〈その他の無職・学生〉45.4%が最も低くなっている。

地域別でみると、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」では〈県南地域〉80.0%が最も高く、〈県北地域〉75.8%が最も低くなっている。「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では、すべての分類で5割台となっている。「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」では〈県央地域〉51.4%が最も高く、〈県北地域〉47.4%が最も低くなっている。

市町別でみると、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」ではすべての分類で7割台となっている。「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では〈宇都宮市以外の市〉52.5%が最も高く、〈町〉46.7%が最も低くなっている。「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」では〈宇都宮市〉52.6%が最も高く、〈町〉46.7%が最も低くなっている。

V 調査票



令和6（2024）年度栃木県政世論調査

〈ご回答にあたってのお願い〉

- 宛名のご本人様がお答えください。（代筆もできます。）
- 回答方法は、「郵送」または「インターネット」いずれかをお選びいただけます。
- 令和6（2024）年7月1日（月）までにご回答をお願いします。
※郵送・インターネット共通

郵送でご回答いただく場合

- この調査票に直接、黒か青のボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、三つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。返信用封筒へのお名前やご住所のご記入、切手の貼付は不要です。

インターネットでご回答いただく場合

- ご回答には、右下にある「回答用ID」「パスワード」が必要になります。
- 「回答用ID」「パスワード」はランダムに割り振っており、個人は特定されません。
- インターネットでお答えいただいた方は、この調査票を返送する必要はありません。
- 詳細な手順は、別紙「インターネットでの回答方法」をご覧ください。
- パソコンやスマートフォンで、右下の2次元コードを読み取ると回答フォームに移動します。

【調査の趣旨・内容に関する問合せ】
栃木県 総合政策部広報課 広聴担当
電話：028（623）2158
（平日9：00～17：00）

担当者：穂坂・薄井
【調査票の記入方法・締め切りに関する問合せ】
調査業務委託先（株）東京商エリサーチ宇都宮支店
電話：028-635-6022
（平日10：00～17：00）
担当者：飯村、手塚、鈴木（絵）

回答フォーム

2次元コード

回答用ID

パスワード

パソコンやスマートフォンから回答できる簡単便利なインターネット回答を導入しました。
ぜひご利用ください。

[暮らしの変化について]

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|------------|------------|
| 1 かなり良くなった | 4 少し悪くなった |
| 2 少し良くなった | 5 かなり悪くなった |
| 3 変わらない | 6 わからない |

(問1で選択肢「4」、「5」を選んだ方のみお答えください)

問2 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。

もっとも大きな要因を1つ選んでください。

- | |
|--|
| 1 物価が上昇したため |
| 2 不景気（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など）のため |
| 3 家族構成の変化により出費が増えたため |
| 4 教育費の出費が増えたため |
| 5 住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため |
| 6 医療費・介護費の出費が増えたため |
| 7 事故・災害による出費が増えたため |
| 8 その他 |
| 9 わからない |

問3 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 満足している | 4 やや不満がある |
| 2 まあ満足している | 5 不満がある |
| 3 どちらともいえない | 6 わからない |

問4 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

- | |
|-----------|
| 1 良くなっていく |
| 2 変わらない |
| 3 悪くなっていく |
| 4 わからない |

問5 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 仕事（家事、学業） | 9 家族との団らん |
| 2 知識や教養 | 10 近所との付き合い |
| 3 貯蓄 | 11 友人や知人との付き合い |
| 4 趣味やスポーツ | 12 子育てや子どもの教育 |
| 5 ボランティア活動 | 13 健康づくり |
| 6 衣・食生活の充実 | 14 その他 |
| 7 住生活の改善、充実 | 15 わからない |
| 8 環境にやさしいライフスタイル | |

【県政への要望について】

問6 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人が育ち、地域が活きる。未来に誇れる元気な“とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 学校教育の充実 | 20 雇用の安定と勤労者の福祉 |
| 2 青少年の健全育成 | 21 住宅・宅地対策 |
| 3 家庭教育の充実 | 22 資源エネルギー対策 |
| 4 社会教育の充実 | 23 下水道の整備 |
| 5 文化の振興 | 24 公園・緑地・河川の整備 |
| 6 スポーツ・レクリエーション施策の充実 | 25 公共交通ネットワークの整備 |
| 7 NPO・ボランティア活動の促進 | 26 道路の整備 |
| 8 広聴・広報の充実 | 27 地域情報化の推進 |
| 9 国際化の推進 | 28 防災対策 |
| 10 子育て・少子化対策 | 29 防犯対策 |
| 11 高齢者福祉対策 | 30 交通安全対策 |
| 12 心身障害者対策 | 31 消費生活対策 |
| 13 医療対策 | 32 自然保護・環境保全対策 |
| 14 保健対策 | 33 循環型社会の推進(リサイクル・廃棄物対策) |
| 15 男女共同参画の推進 | 34 行財政改革 |
| 16 農林業の振興 | 35 “とちぎ”ブランド力の強化 |
| 17 食料の安定供給の確保・食の安全確保 | 36 その他 |
| 18 商工業の振興 | 37 わからない |
| 19 観光の振興 | |

[文化・芸術活動について]

問7 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。

次の中からいくつでも選んでください。

- 1 文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動
- 2 映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動
- 3 雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動
- 4 講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動
- 5 茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動
- 6 年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動
- 7 文化遺産の保護・活用に関する活動
- 8 何も行っていない

[スポーツ活動について]

問8 あなたは、この1年間にどの程度身体活動やスポーツ（※）を行いましたか。

次の中から1つ選んでください。

※ ここでは「身体活動やスポーツ」を、「散歩や階段昇降など、健康・体力や美容の保持増進のための活動」や「家事・育児・通勤・通学など日常生活の中で意識的に身体を動かすこと」まで幅広く捉えることとします。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 週に3日以上（年151日以上） | 4 3か月に1～2日（年4～11日） |
| 2 週に1～2日（年51～150日） | 5 年に1～3日 |
| 3 月に1～3日（年12～50日） | 6 身体活動やスポーツを行わなかった |

[住んでいる地域について]

問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。

次の中から1つ選んでください。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 どちらともいえない

[社会貢献活動について]

問10 あなたは、この1年間に社会貢献活動(※)に参加しましたか。また、今後参加したいと思えますか。次の中から1つ選んでください。

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO(非営利活動団体)活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。

- 1 参加した。また今後も参加したい
- 2 参加したが、今後参加するかどうかわからない
- 3 参加したが、今後参加するつもりはない
- 4 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい
- 5 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない
- 6 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない
- 7 今まで参加したことはないが、今後参加したい
- 8 今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない
- 9 今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない

[地域のつながりについて]

問11 あなたは現在、ご近所(両隣など)の方とどのような関係ですか。次の中から1つ選んでください。

- 1 家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている
- 2 顔と名前が分かり挨拶をする程度である
- 3 ほとんど、もしくはまったく付き合っていない

問12 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ(相手)はどこ(誰)ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 知人・友人
- 2 隣近所の人
- 3 民生委員・児童委員
- 4 班長・自治会長
- 5 社会福祉協議会
- 6 市役所・町役場(子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む)
- 7 福祉サービス事業者(社会福祉法人、NPO法人等)
- 8 学校の先生・スクールカウンセラー(卒業後を含む)
- 9 職場の上司・同僚
- 10 その他(SNSを含む)
- 11 相談できるところ(相手)はない

[防災対策について]

問13 あなたは、水害や土砂災害において避難するタイミングの目安となる「5段階の警戒レベル（高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保など）」を知っていますか。

次の中から1つ選んでください。

- 1 よく知っている(それぞれのレベルの意味までわかる)
- 2 知っている(レベルにより取るべき行動が異なることを知っている)
- 3 ある程度知っている(言葉を聞いたことがある)
- 4 知らない

問14 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 家具の転倒防止対策や配置の工夫 | 7 県や市町などの防災メールへの登録 |
| 2 ハザードマップの確認 | 8 地震などの自然災害対応の保険への加入 |
| 3 非常用持ち出し袋の準備 | 9 家族との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル等)の確認 |
| 4 食料や飲料水の備蓄 | 10 特に何もしていない |
| 5 消火器の設置 | |
| 6 感震ブレーカー(※)の設置・点検 | |

※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。

〔栃木県への愛着と誇りについて〕

問15 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1 とても愛着がある | 4 あまり愛着がない |
| 2 やや愛着がある | 5 まったく愛着がない |
| 3 どちらでもない | |

問16 あなたが「栃木県」の魅力あるものとして自慢できるもの、オススメするものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- | |
|--|
| 1 日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景 |
| 2 鬼怒川や塩原など源泉総数全国10位の温泉や宿泊施設 |
| 3 「あしかがフラワーパーク」や「モビリティリゾートもてぎ」などのレジャー施設 |
| 4 栃木県総合運動公園の「カンセキスタジアム」や「日環アリーナ」などのスポーツ施設 |
| 5 佐野・那須のアウトレットやインターパークなどの大規模商業施設 |
| 6 博物館や美術館などの文化施設 |
| 7 無形文化遺産の「烏山の山あげ行事」や「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」などの伝統芸能 |
| 8 「蔵の街とちぎ」などに代表される歴史的景観や街並み |
| 9 世界遺産「日光の社寺」や日本最古の大学である「足利学校」などの歴史文化遺産 |
| 10 「益子焼」や「結城紬」などの伝統工芸品 |
| 11 半世紀以上にわたり生産量全国1位のいちごなどの農産物 |
| 12 生産量全国2位の生乳や世界的コンテストで複数回入賞したナチュラルチーズなどの牛乳乳製品 |
| 13 「宇都宮餃子®」や「佐野ラーメン」などのご当地グルメ |
| 14 世界的コンテストで最高賞を受賞する日本酒 |
| 15 人のやさしさ・おもてなし |
| 16 親しみのある方言・なまり |
| 17 一人当たりの県民所得全国4位の豊かさや自然災害が少ないなどの住みやすさ |
| 18 全国でも数県しかない18歳までのこども医療費の全額助成を含む子育て支援 |
| 19 全国初の全線新設の「芳賀・宇都宮LRT」 |
| 20 都心へのアクセスの良さ |
| 21 「とちまるくん」や「さのまる」などのご当地キャラクター |
| 22 リーグ優勝複数回を誇る「宇都宮ブルックス」などのプロスポーツチームやスポーツ選手 |
| 23 「U字工事さん」や「井上咲楽さん」などの栃木県出身の有名人・著名人 |
| 24 特になし |

[男女平等意識について]

問17 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。
次の中から1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば、男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば、女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問18 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように思いますか。
次の中から1つ選んでください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対
- 5 わからない

問19 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。
次の中から1つ選んでください。（現在働いていない方も、イメージでお答えください。）

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば、男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば、女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

残り半分まる♪♪



[生涯学習について]

問20 あなたは、この1年くらいの間に、生涯学習（※）をしたことがありますか。次の中からいくつでも選んでください。

※ 生涯学習とは、人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校での学習や公民館などにおける講座等の学習はもとより、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などの様々な学習活動のことをいいます。

- 1 趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）
- 2 教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）
- 3 社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）
- 4 健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）
- 5 家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）
- 6 育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）
- 7 職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）
- 8 情報端末やインターネットに関すること（パソコンやタブレット、スマートフォンなどの端末に関することやホームページの作り方、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の使い方に関する事など）
- 9 ボランティア活動のために必要な知識・技能
- 10 自然体験や生活体験などの体験活動
- 11 学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習
- 12 生涯学習をこの1年くらいしていない
- 13 わからない

（問20で選択肢「1」～「11」を選んだ方のみお答えください）

問21 あなたが、生涯学習を行った理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 趣味又は教養を深めるため | 6 地域活動に生かすため |
| 2 仲間づくりになるため | 7 日常生活に生かすため |
| 3 生きがいにつなげるため | 8 余暇を充実させるため |
| 4 健康・体力づくりのため | 9 特に理由はない |
| 5 仕事のスキルアップのため | |

[消費生活に関する意識について]

問22 近年、人や社会・地球環境・地域等に配慮した消費行動に関心が高まっていますが、あなたが買い物など、消費行動を行う際に配慮していることはありますか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 食品ロス（食べられるのに廃棄される食品）の削減
- 2 表示や説明を十分確認した上で商品やサービスを選択する
- 3 地域で生産したものを地域で消費する（地産地消）
- 4 環境やSDGsに配慮した商品やサービスの選択
- 5 フェアトレード（開発途上国の生産者に公正な労働を保証している貿易の仕組み）
製品の選択
- 6 特に心がけていることはない

問23 高齢者が悪質商法の被害に遭うことが増えています。あなたは、それを防ぐためにはどのような対策が有効だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

- 1 家族や親族で日頃から話題にするよう心がける
- 2 近隣で声を掛け合うことができる関係をつくる
- 3 民生委員やホームヘルパーなどによる見守り活動を行ってもらう
- 4 高齢者本人が、日頃から地域の行事等に参加し情報交換をする
- 5 パンフレット配布やマスメディアを使った啓発活動を充実させる
- 6 消費生活センターなどの相談窓口を充実させる
- 7 悪質事業者に対する規制や指導を強化する
- 8 行政（県・市町）が、高齢者と日頃接触のある団体などと連携して見守り活動を行う

[県民の人権意識について]

問24 あなたは、「現在の日本は、基本的人権が尊重されている社会である」と思いますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 尊重されている
- 2 ある程度尊重されている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり尊重されていない
- 5 尊重されていない
- 6 わからない

問25 あなたは、次にあげた人権課題のうち、関心があるものはどれですか。次の中からいくつでも選んでください。

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1 女性 | 11 災害に伴う人権侵害 |
| 2 子ども | 12 アイヌの人々 |
| 3 高齢者 | 13 刑を終えて出所した人 |
| 4 障害者 | 14 性的指向・性自認にかかわる人権問題 |
| 5 同和問題（部落差別） | 15 ホームレス等生活困窮者にかかわる人権問題 |
| 6 外国人 | 16 北朝鮮当局による拉致問題 |
| 7 HIV感染者等 | 17 働く人の人権（セクハラ、パワハラ、マタハラ等） |
| 8 ハンセン病患者及び元患者等 | 18 感染症患者等に関する人権問題 |
| 9 犯罪被害者とその家族 | 19 特になし |
| 10 インターネットによる人権侵害 | |

【ケアラーについて】

問26 あなたは、「ケアラー」（18歳未満のヤングケアラーを含む。）（※）という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

※ 栃木県では、全てのケアラーが個人として尊重され、社会から孤立することなく、安心して生活することができる地域社会の実現に向けて、令和5年4月に栃木県ケアラー支援条例を施行しました。この条例において、「ケアラー」とは、「高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する」方と定義しており、「ヤングケアラー」とは、このうち18歳未満の方をいいます。

- | |
|-----------------------|
| 1 聞いたことがあります、内容も知っている |
| 2 聞いたことはあるが、内容はよく知らない |
| 3 聞いたことはない |

問27 今後、あなたがケアラー当事者となる可能性について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを、次の中から1つ選んでください。

- | |
|---------------------------|
| 1 実際に介護、看護等を行っている |
| 2 自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う |
| 3 自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う |
| 4 自分がケアラーになる可能性は、ないと思う |

〔食に関する意識と実践について〕

問 28 あなたは、お米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を意識して選んでいますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 いつも選んでいる | 3 あまり選んでいない |
| 2 ときどき選んでいる | 4 まったく選んでいない |

問 29 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなど、農業体験をしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。

- | |
|--------------------|
| 1 今までに複数回体験したことがある |
| 2 今までに1回体験したことがある |
| 3 1回も体験したことがない |

〔食の安全・安心について〕

問 30 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|------------|--------------|
| 1 大いに感じている | 3 あまり感じていない |
| 2 多少は感じている | 4 まったく感じていない |

(問 30 で選択肢「1」、「2」を選んだ方のみお答えください)

問 31 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| 1 食中毒 | 10 遺伝子組換え食品 |
| 2 食品添加物 | 11 輸入食品 |
| 3 いわゆる「健康食品」 | 12 B S E (牛海綿状脳症) |
| 4 放射性物質 | 13 高病原性鳥インフルエンザ |
| 5 重金属 (カドミウム・水銀など) | 14 体細胞クローン牛・豚 |
| 6 残留農薬 | 15 家畜等の医薬品 |
| 7 食物アレルギー | 16 環境ホルモン (内分泌かく乱化学物質) |
| 8 賞味期限・消費期限 | 17 フードテック (ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等) |
| 9 原産地 | 18 その他 |

[食品ロスの削減について]

問32 あなたは、「食品ロス」の問題を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 よく知っている
- 2 ある程度知っている
- 3 あまり知らない
- 4 まったく知らない

問33 あなたが現在行っている、食品ロスを発生させない（食品を無駄にしない）ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 料理を作り過ぎない
- 2 残さずに食べる
- 3 残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）
- 4 冷凍保存を活用する
- 5 日頃から冷蔵庫内等の食材の種類・量・期限表示を確認する
- 6 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する
- 7 小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する
- 8 商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する
- 9 期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ
- 10 飲食店等で注文し過ぎない
- 11 期限内である未利用食品をフードバンク活動へ提供する
- 12 その他
- 13 行っている取組はない

【公共交通について】

問34 あなたは、日常生活の中で鉄道・バス・タクシーなどの公共交通機関（※）をどれくらい利用していますか。次の中から1つ選んでください。

※公共交通機関とは、民間の交通事業者が運行するものだけではなく、市町が運行するコミュニティバスやデマンド交通なども含みます。

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 1 ほぼ毎日利用する | 4 主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない |
| 2 1週間に数回利用する | 5 主に自転車を使うのでほとんど利用しない |
| 3 1か月に数回利用する | 6 ほとんど利用しない |

(問34で選択肢「1」、「2」、「3」を選んだ方のみお答えください)

問35 あなたは、公共交通機関のサービスや運行状況について、満足していますか。

次の中から1つ選んでください。

- | |
|--------------|
| 1 満足している |
| 2 どちらかといえば満足 |
| 3 どちらかといえば不満 |
| 4 不満 |

問36 あなたが公共交通機関に不満を感じることは何ですか。

次の中から3つまで選んでください。

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 運行本数が少ない | 6 交通系ICカードなどのキャッシュレス決済に対応していない |
| 2 自宅や目的地から駅・バス停までが遠い | 7 乗り継ぎのための移動距離が長い |
| 3 他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる | 8 乗り方がよくわからない |
| 4 運賃が高い | 9 乗り場の案内表示がわかりづらい |
| 5 車内が混雑している | 10 特に不満に思うことはない |

【とちぎの元気な森づくり県民税について】

問37 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

- 1 山崩れなどの災害を防止する働き
- 2 雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き
- 3 二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き
- 4 空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き
- 5 生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き
- 6 多様な生物の生育・生息の場としての働き
- 7 自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き
- 8 自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き
- 9 わからない

問38 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

- 1 高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること
- 2 手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと
- 3 通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること
- 4 里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること
- 5 所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること
- 6 森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること
- 7 わからない



[犯罪と治安対策について]

問39 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 良い | 4 どちらかといえば悪い |
| 2 どちらかといえば良い | 5 悪い |
| 3 どちらともいえない | 6 わからない |

問40 社会が変化する中、あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安になる犯罪などは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- | |
|---|
| 1 特殊詐欺や悪質商法などの犯罪 |
| 2 不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪 |
| 3 飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反 |
| 4 殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪 |
| 5 空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪 |
| 6 自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪 |
| 7 政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出 |
| 8 DV（配偶者などからの暴力）、児童虐待などの家庭内の犯罪 |
| 9 誘拐、子どもの連れ去りやいたずら |
| 10 麻薬、覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪 |
| 11 来日外国人による組織犯罪 |
| 12 すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪 |
| 13 児童ポルノ、児童買春などの子どもに対する犯罪 |
| 14 痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪 |
| 15 重要インフラ事業者などに対するサイバー攻撃によるシステム障害 |
| 16 ストーカー行為 |
| 17 国際テロ組織などによるテロ行為 |
| 18 暴力団や準暴力団などによる組織犯罪 |

問 41 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。
次の中からいくつでも選んでください。

- 1 飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り
- 2 年齢や対象に応じた交通安全教育
- 3 自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り
- 4 運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化
- 5 自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進
- 6 地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し
- 7 地域の実情に応じた広報活動と交通安全情報の提供
- 8 生活道路における速度抑制対策
- 9 交通事故の発生実態に応じた取締り
- 10 家庭や学校、職場で取り組む交通事故防止活動
- 11 わからない

残りもう少しまる！
よろしくおねがいするまる☆☆



[あなたご自身やご家族について]

最後に、お答えいただいたことを統計的に分析するため、あなたご自身やご家族についてお答えください。

F 1 あなたの性別は。

1 男性
2 女性
3 回答しない

F 2 あなたの年齢は、次の中のどれに当てはまりますか。

1 18歳～19歳	3 30歳～39歳	5 50歳～59歳	7 65歳～69歳
2 20歳～29歳	4 40歳～49歳	6 60歳～64歳	8 70歳以上

F 3 あなたの職業は、次の中のどれに当てはまりますか。

(自営・家族従業)		(勤めている)		(無 職)	
1	2	3	4	5	6
農林漁業	商工サービス業・自由業	管理職・事務職 ・専門技術職	労務職	家事	その他の無職 ・学生

F 4 あなたは、栃木県でお生まれになりましたか。

1 はい	2 いいえ
------	-------

F 5 あなたは、栃木県に通算して何年お住まいですか。

1 1年未満	4 5年～9年
2 1年～2年	5 10年～19年
3 3年～4年	6 20年以上

F 6 現在、あなたのご住居は、次の中のどれに当たりますか。

1 持家の一戸建	5 民間の賃貸アパート・マンション
2 持家の集合住宅（分譲マンションなど）	6 社宅・官舎
3 借家の一戸建	7 その他
4 公社・公営の賃貸住宅	()

F 7 あなたがお住まいの周囲の環境は、次の中のどれに当たりますか。

- | | |
|-------|-----------|
| 1 農山村 | 3 商店街 |
| 2 住宅地 | 4 その他 () |

F 8 あなたがお住まいの地域は、次の中のどれに当たりますか。

- | |
|--|
| 1 県北地域 (日光市、大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那須町、那珂川町) |
| 2 県央地域 (宇都宮市、鹿沼市、真岡市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、壬生町) |
| 3 県南地域 (足利市、栃木市、佐野市、小山市、下野市、野木町) |

F 9 あなたのご住所は、次の中のどれに当たりますか。

- | | | |
|--------|------------|-----|
| 1 宇都宮市 | 2 宇都宮市以外の市 | 3 町 |
|--------|------------|-----|

◎長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。お手数ですが、同封の返信用封筒 (切手不要) に入れて、7月16日 (火) までにご投函ください。

VERY 
GOOD
LOCAL

とちぎ

栃 木 県 政 世 論 調 査

令和6（2024）年11月

栃木県総合政策部広報課

宇都宮市塙田1-1-20

電話（028）623-2158